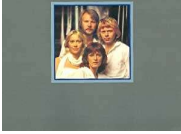
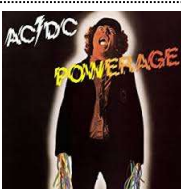
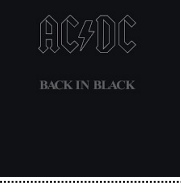
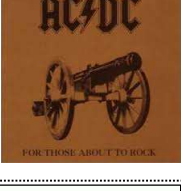
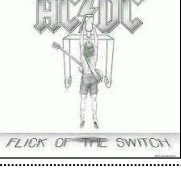
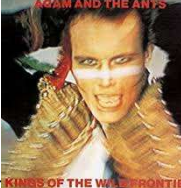
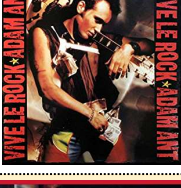
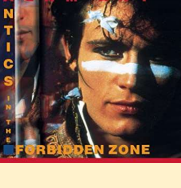
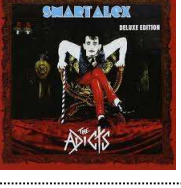
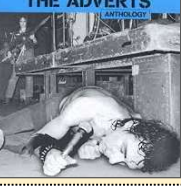
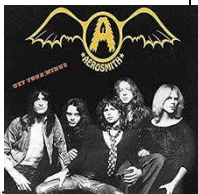
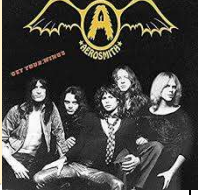
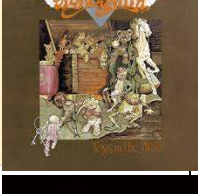
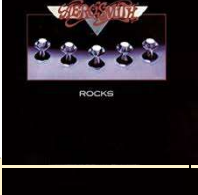
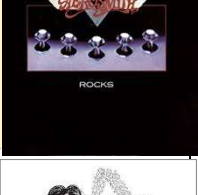
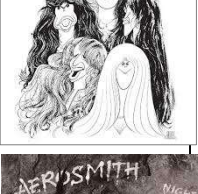
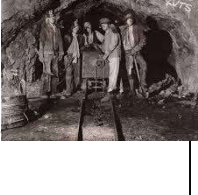
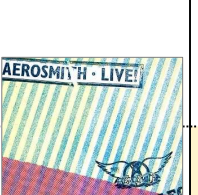
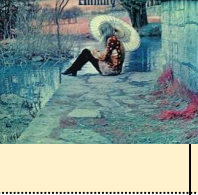
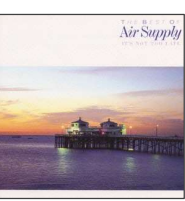
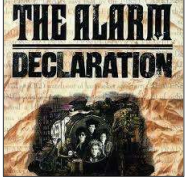
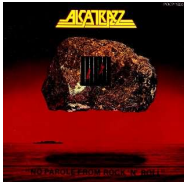
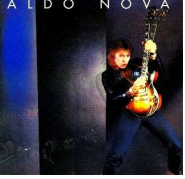
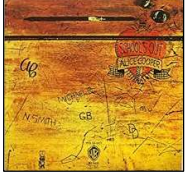
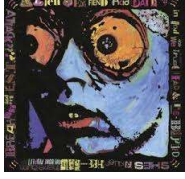
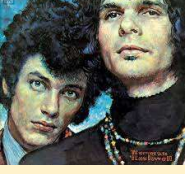
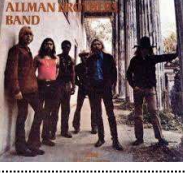


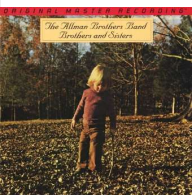
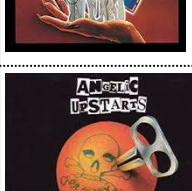
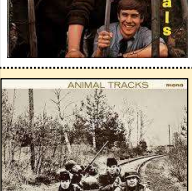
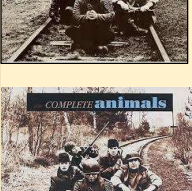
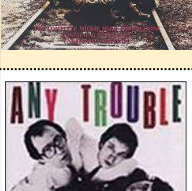
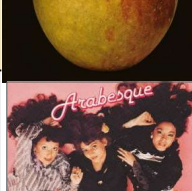
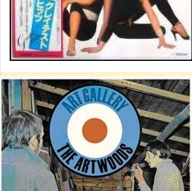
レコード LP 一覧(洋楽) A~I 順リスト

アーティスト名		日本タイトル	ジャケット	発売日	ジャンル	レコードor	内容	収録曲	
A	ABBA	ヴーレ・ヴー		1979年	ポップス	レコード	1979年リリースの6枚目のアルバム。全英1位、全米19位、日本でも1位を記録。アバのアルバムのみならず、ポップスの全アルバムの中でも屈指の傑作アルバムになっている。シングルカットされた「ヴーレ・ヴー」や「チキチータ」ももちろん名曲ですが、「エンジェルアイズ」や「キッシズ・オブ・ファイア」といった目立たない位置にある曲も手を抜かずにつくられており、バラエティ溢れる名曲を揃えたアルバム。	Side A 1. アズ・グッド・アズ・ニュー 2. ヴーレ・ヴー 3. アイ・ハヴ・アドリーム 4. エンジェルアイズ 5. ザ・キング・ハズ・ロスト・ヒズ・クラウン	Side B 1. ダズ・ユア・マザー・ノウ 2. イフ・イット・ワズント・フォー・ザ・ナイト 3. チキチータ 4. ラヴァーズ 5. キッシズ・オブ・ファイア
	ABBA	グレイテスト・ヒッツVol.2		1979	ポップス	レコード	アバの代表曲14曲を収録したベスト盤。	Side A 1. Gimme! Gimme! Gimme! 2. Knowing Me, Knowing You 3. Take A Chance On Me 4. Money, Money, Money 5. Rock Me 6. Eagle 7. Angeleyes	Side B 1. Dancing Queen 2. Does Your Mother Know 3. Chiquitita 4. Summer Night City 5. I Wonder (Departure) 6. The Name Of The Game 7. Thank You For The Music
	ABBA	S.O.S.~ベスト・オブ・アバ		2001	ポップス	CD	ビョルン・ウルヴァース(ギター)、ベニー・アンダーソン(ピアノ)、アグネタ・フォルトソグ(ヴォーカル)、フリーダ(アンニ・フリード)・リングスタッド(ヴォーカル)によるスウェーデンが生んだ人気グループのベスト・アルバム。	1. S.O.S 2. チキチータ 3. ダンシング・クイーン 4. ザッツ・ミー 5. テイク・ア・チャンス 6. イーグル 7. サマー・ナイト・シティー 8. ヴーレ・ヴー 9. ギミー! ギミー! ギミー!	10. ザ・ウィナー 11. オン・アンド・オン・アンド・オン 12. スーパー・トゥルーパー 13. ママ・ミア 14. マネー、マネー、マネー 15. ノウイング・ミー、ノウイング・ユー 16. きらめきの序曲 17. 悲しきフェルナンド 18. レイ・オール・ユア・ラヴ・オン・
	ABC	ルック・オブ・ラブ		1982	ニューウェーブ	レコード	1980年代に一世を風靡したイギリスのニューロマンティック・バンドで、音楽ジャーナリストのマーティン・フライ(ボーカル)と、ヴァイス・ヴァーサというバンドが合体し結成。フライとマーク・ホワイト(ギター、キーボード)以外のメンバーは流動的。ABCのファーストアルバムで全英1位獲得。このアルバムから「涙まだまだ」(Tears Are Not Enough)「(全英19位)」「Poison Arrow」(全英6位)「ルック・オブ・ラブ」(全英4位)「我が心のすべてを」(All Of My Heart)「(全英5位)」と4曲のビッグヒットを含む傑作アルバム。	Side A 1. ショウ・ミー 04:02 2. ボイズン・アロウ 03:25 3. メニー・ハッピー・リターンズ 03:57 4. 涙まだまだ 03:31 5. バレンタイン・デイ 03:42	Side B 1. ルック・オブ・ラブ (パート1) 03:27 2. デイト・スタンプ 03:52 3. 我が心のすべてを 05:12 4. 4エバー2ギャザー 05:30 5. ルック・オブ・ラブ (パート4) 00:59
	ABC	ルック・オブ・ラブ		1982	ニューウェーブ	CD			
	AC/DC	ロック魂		1977	ハードロック&ヘビヴィーメタル	レコード	1977年に発表したアルバム。オーストラリア盤オリジナルLPは「クラブソフィー・イン・ブルー」を含む8曲入りの内容で、ジャケットはギター・ネックの写真だが、インターナショナル盤では「クラブソフィー・イン・ブルー」の代わりに「素敵な問題児」が収録されて、ジャケットも変更された。本作から外された「クラブソフィー・ブルー」は、2009年発売のボックス・セット『Backtracks』に収録された。本作でイギリスやアメリカでもチャート・インを果たし、全英17位[1]・全米154位に達した。収録曲「ホール・ロッタ・ロジー」は、「AC/DCのレパトリー」の中でも特に愛されている楽曲の一つ」と評されており、1980年代初期、『ケラング』誌の読者投票による「オールタイム・フェイヴァリット・ヘヴィ・メタル・ソング」でトップに達した。本作は、マーク・エヴァンス在籍時としては最後のアルバム	Side A 1. コー・ダウン 2. 仲間喧嘩はやめようぜ 3. ロック魂 4. バッド・ボーイ・ブギ	Side B 1. 素敵な問題児 2. オーバードウス 3. 地獄は楽しい所だぜ 4. ホール・ロッタ・ロジー
	AC/DC	パワーエイジ		1978	ハードロック&ヘビヴィーメタル	レコード	オリジナルは78年作、AC/DCの通産5作目となったアルバムで、いよいよ彼等の横ノリの強靱なグルーヴが完成したー。前作のパンキッシュな乗りも初期の魅力ではありましたが、今迄になくキャッチーなオーブニング、「Rock'n'Roll Damnation (地獄のロックン・ロール)」を始め、「地獄のハイウェイ」に続く大衆性がブンブン漂っています。もちろん時代への迎合や、媚などはありません。あくまでもAC/DCが金太郎飴的な味わいと、続ける事の美学を貫いたそのアルバムで、バンク旋風が吹き荒れる中でも一定の評価を得られていたのだと思います。	Side A 1. 地獄のロックン・ロール 2. ダウン・ペイメント・ブルース 3. 必殺の弾丸 4. リフ・ラフ 5. 悪徳の街	Side B 1. ホワット・ネクスト・トゥ・ザ・ムーン 2. 狙いを外すな 3. アップ・トゥ・マイ・ネック・イン・ユー 4. キックド・イン・ザ・ティース
	AC/DC	ギター殺人事件		1978	ハードロック&ヘビヴィーメタル	レコード	AC/DCの真骨頂はライブにあり!初期のBEST OF AC/DCといっても過言ではない初のオフィシャル・ライブアルバム。当時リリースされていたオリジナル・アルバムから満遍なく選曲され、『パワーエイジ』発売後に行われたワールド・ツアーの模様を余すところなく収録した本作品では、いまや伝説となったボン・スコットの鬼気迫る壮絶なライブ・パフォーマンスが炸裂!	Side A 1. リフ・ラフ 2. 地獄は楽しい所だぜ 3. バッド・ボーイ・ブギ 4. ジャック 5. 素敵な問題児	Side B 1. ホール・ロッタ・ロジー 2. 地獄のロックンロール 3. ハイ・ヴォルテージ 4. ロック魂 5. 俺らはロッカー
	AC/DC	地獄のハイウェイ		1979	ハードロック&ヘビヴィーメタル	レコード	1979年に発表したアルバム。メジャーデビューから5作目にあたり、アメリカではビルボード最高位17位につけプラチナ・ディスクを、イギリスでもゴールド・ディスクを獲得した。タイトル曲がヒット、そして発売の翌年2月に(メジャー・デビュー後の)初代ヴォーカリストであったボン・スコットが急死し遺作となったことから、バンドとしては重要な位置を占めるアルバムであり最高傑作。『ローリング・ストーン誌が選ぶオールタイム・ベストアルバム500』に於いて、200位にランクイン	Side A 1. 地獄のハイウェイ 2. 女たちのリズム 3. 地獄の絆 4. タッチ・トゥー・マッチ 5. 闇から追い出せ	Side B 1. ショット・ダウン 2. 熱くやろうぜ 3. 流血の叫び 4. ハングリー・マン 5. 夜のブローラー
	AC/DC	バック・イン・ブラック		1980	ハードロック&ヘビヴィーメタル	レコード	1980年の発売。メジャー6作目。ボーカルのボン・スコットが泥酔中の事故で亡くなり、後任にブライアン・ジョンソンが加入して最初に制作されたアルバム。このアルバムの総売り上げは5,000万枚を超えており、アメリカでの総売上は2019年の時点で2,500万枚で(RIAAによる)、イーグルス『グレイテスト・ヒッツ 1971-1975』、マイケル・ジャクソン『スリラー』、イーグルス『ホテルカリフォルニア』に次ぐ世界で4番目に売れたアルバムとなった。ビルボードでは最高4位だが、131週チャートインのロングセラーとなった。タイトル・ナンバーのリフは、映画『スクール・オブ・ロック』など様々な所で断片的に用いられている。『ローリング・ストーン誌が選ぶオールタイム・ベストアルバム500』に於いて、77位にランクインした。	Side A 1. 地獄の鐘の音 - Hells Bells - 5:12 2. スリルにー撃 - Shoot to Thrill - 5:17 3. 危険なハニー - 3:35 4. ロックン・ロール・ハリケーン- 3:31 5. 欲望の天使 - 4:15	Side B 1. バック・イン・ブラック- 4:15 2. 狂った夜 - 3:30 3. 死ぬまで飲もうぜ - Have a Drink on Me - 3:58 4. シェイク・ア・レグ - 4:05 5. ノイズ・ボル・ション- 4:16
	AC/DC	悪魔の招待状		1981	ハードロック&ヘビヴィーメタル	レコード	1981年に発表したアルバム。プロデューサーは、3作連続となるロバート・ジョン・マット・ラング。AC/DCのアルバムとしては初めて、全米チャートで1位を獲得。前作『バック・イン・ブラック』ほどのロングセラーとはならなかったが、アメリカだけで400万枚以上を売り上げた。第1弾シングル(3曲目)の「ゲット・イット・アップ」は全英13位・全米44位、第2弾シングル(1曲目)「悪魔の招待状」は全英15位に達した。「悪魔の招待状」は、曲の後半で大砲の音をフィーチャーしており、ライブでも本物の大砲を使用。2曲目「フィンガー・オン・ユー(Put the Finger on You)」は、全米メインストリームのロック・チャート38位となり、この曲は、アルバムの中でも一番キャッチーな曲調。前作では、まだじっくり来てなかったブライアン・のボーカルが、ゆったりとした曲調が多いこのアルバムでは、楽曲に上手に溶け込んでいる。アルバムの出来は賛否両論に分かれるアルバム。	Side A 1. 悪魔の招待状 - 5:44 2. フィンガー・オン・ユー - 3:25 3. ゲット・イット・アップ - 3:54 4. 悪魔の一滴 - 3:30 5. スノウボール - 3:23	Side B 1. エヴィル・ウォークス- 4:23 2. C.O.D. - 3:19 3. 無法地帯 - 4:23 4. 長いナイフの夜- 3:25 5. 殺しの呪文 - "Spellbound" - 4:39
	AC/DC	征服者		1983	ハードロック&ヘビヴィーメタル	レコード	83年作、ロバート・ジョン・マット・ラングとの強力タッグで3部作とも言えるバンドのピークを代表する作品が続きましたが、本作では初のセルフ・プロデュース、ジャケットも今までになく地球なものとなっています。それでもこれまでのAC/DC節をキュッと凝縮した傑作となっています。モーターヘッドばりのスピード・ナンバー、「ランドスライド」が新機軸とも言え、ブライアン・ジョンソンの力量の幅の広さが証明されました。また「ナーヴァス・シェイクダウン」や「ディープ・イン・ザ・ホール」では、王道とも言えるAC/DC節が炸裂、キャッチーなサビも健在です。モンスター・アルバムが2枚続いただけに、どうしても目立たないアルバムだが傑作。	Side A 1. ライジング・パワー 2. 炎の館(やかた) 3. 征服者 4. ナーヴァス・シェイクダウン 5. ランドスライド	Side B 1. 殺しの報酬 2. ディープ・イン・ザ・ホール 3. ベッドラム・イン・ベルジャン 4. 悪魔の大陸 5. プレイン・シェイク
	ACCEPT	殺戮のチェインソー		1979	ハードロック&ヘビヴィーメタル	レコード	79年作、アクセプトのデビューアルバム。印象的なジャケットと共に、彼等の存在は当時のシーンにおいてはかなり衝撃的だった。ジャーマン・メタルと言えばスコーピオンズというメタル・ファンの常識に、このアクセプトは、N.W.O.B.H.M.ブームの流れにリンクするには十分のインパクトを持っている。ウド・ダークシュナイダーはまだ長髪で若く、その特徴的な声もすでに独特の存在感を放っていますが、ユーライア・ヒープの様なコーラス・ハーモニーも手伝いどこかヘタウマ的な魅力が新鮮に聴こえます。シングルとなった「Lady Lou」のリフは完全なる黄金のN.W.O.B.H.M.節となっており、シンプルかつキャッチー、同時代のサクソンの様な男臭さと哀愁感が目立つ。漂った欧州的涙腺前線バード、「Seawinds」は先輩格のスコーピオンズ譲りと思わせたり、スピード・ナンバーの「That's Rock 'n Roll」ではロブ・ハルフォードを彷彿させる等、全体的にはかなり粗削り、ドタバタしたドラムもご愛敬といったところだが、恐るべき才能をそこかしこに感じさせる。以降のパワー・メタル路線と言える個性はすでにこのファーストが確立されて、79年という時代を考えるとまだまだ早いと言える硬質メタル・サウンドを完成させていたと思えてならない。	Side A 1. レディー・ルー 2. 限りなき戦い 3. シーウインズ 4. 侵略 5. 銃をとれ	Side B 1. 自由への逃避 2. 最後の叙情詩 3. ロックンロール 4. ヘルドライブアー 5. ストリート・ファイター
	ACCEPT	メタル・ハート		1985	ハードロック&ヘビヴィーメタル	レコード	79年作のアクセプトのデビューアルバム。印象的なジャケットと共に、彼等の存在は当時のシーンにおいてはかなり衝撃的だった。ジャーマン・メタルと言えばスコーピオンズというメタル・ファンの常識に、このアクセプトは、N.W.O.B.H.M.ブームの流れにリンクするには十分のインパクトを持っている。ウド・ダークシュナイダーはまだ長髪で若く、その特徴的な声もすでに独特の存在感を放っていますが、ユーライア・ヒープの様なコーラス・ハーモニーも手伝いどこかヘタウマ的な魅力が新鮮に聴こえます。シングルとなった「Lady Lou」のリフは完全なる黄金のN.W.O.B.H.M.節となっており、シンプルかつキャッチー、同時代のサクソンの様な男臭さと哀愁感が目立つ。漂った欧州的涙腺前線バード、「Seawinds」は先輩格のスコーピオンズ譲りと思わせたり、スピード・ナンバーの「That's Rock 'n Roll」ではロブ・ハルフォードを彷彿させる等、全体的にはかなり粗削り、ドタバタしたドラムもご愛敬といったところだが、恐るべき才能をそこかしこに感じさせる。以降のパワー・メタル路線と言える個性はすでにこのファーストが確立されて、79年という時代を考えるとまだまだ早いと言える硬質メタル・サウンドを完成させていたと思えてならない。	Side A 2. メタル・ハート 2. ミッドナイト・ムーヴァー 3. アップ・トゥ・ザ・リミット 4. 正邪の選択 5. スクリーミング・フォー・ア・ラヴ・バイ	Side B 1. 飢えた奴ら 2. ドッグス・オン・リーズ 3. 生存闘争 4. リヴィング・フォー・トゥナイト 5. バウンド・トゥ・フェイル

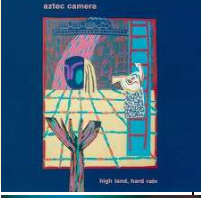
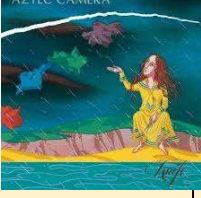
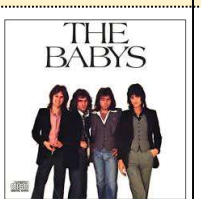
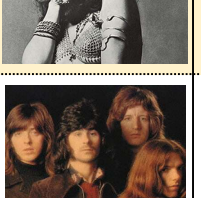
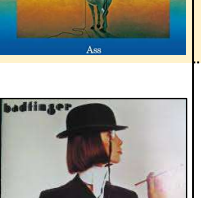
ACCEPT	ライブ・イン・ジャパン		1986	ハード ロック& ヘビ ヴィーメ タル	レコー ド	1986年発表。初のジャパンツアーとなった1985年9月19日の名古屋公演をライブ録音したものの、荒々しい鋼のような演奏とライブならではの異常な熱狂ぶりが楽しめる貴重なドキュメンタリー。全6曲とフル・ライブアルバムではないもののたたみ掛ける構成は圧巻の一言。オーヴァーダブなしのほぼ一発録りの本作は臨場感に溢れ、スタジオテイクを上回る迫力ある音が心地よい。間奏で「エリーゼのために」を取り入れたHMアンセンム的な曲“メタル・ハート”に始まり、バンド史上最もポップな曲“スクリーミング・フォー・ア・ラブ・バイト”など、このバンドの魅力をうまくあらわしておりバランスの良い選曲。演奏も全盛期時なので、非の打ち所がありません。	Side A 1. メタル・ハート 2. スクリーミング・フォー・ア・ラブ・バイト 3. アップ・トゥ・ザ・リミット	Side B 1. ヘッド・オーバー・ザ・ヒールズ 2. ラブ・チャイルド 3. リビング・フォー・トゥナイト
ADAM AND THE ANTZ			1979	パンク	レコー ド	1979年にリリース。全英16位とまずまずのヒットとなり、ゴールドディスクを獲得。1980年代にニューロマンティックムーブメントを作り出したイギリスのニュー・ウェイヴ/ポストパンクバンド。アダム・アントをリーダーとして1977年に結成し1978年にデビュー。シンプルで曲によっては性急なポストパンクのロックにグラマラスなビジュアルを織り交ぜた1STアルバム。マルコムと組む以前のインディー時代のダークな傑作。「Cartrouble (Part 1&2)」を含む全11曲収録。本格的にデビューする前のマネージャーはマルコム・マクラレンだったが裏切られ、バンドメンバーをすべて引き抜かれ、そのバンドメンバーは、後にバウ・ワウ・ワウを結成する。	Side A 1. Cartrouble (Parts 1 & 2) 2. Digital Tenderness 3. Nine Plan Failed 4. Day I Met God 5. Tabletalk 6. Cleopatra	Side B 7. Catholic Day 8. Never Trust A Man (With Egg On His Face) 9. Animals And Men 10. Family Of Noise 11. The Idea
ADAM AND THE ANTZ	アダム王国		1980	ニュー ウェイブ	レコー ド	1980年10月に先行シングル「ドッグ・イート・ドッグ」が(全英4位、全米15位)。アルバムは全英10週連続1位となり(プラチナディスク)、1981年に最も売れたアルバムとしてブリット・アワードで最優秀ブリティッシュ・アルバムを獲得。このアルバムで一気に人気が爆発し、ファーストアルバムから一気に路線変更しその原住民族的(ジャングルビート)なサウンドや西部劇風と曲が病みつきになる。また、メンバー全員が海賊ルックに着飾った独特のビジュアルが全ロック・ファンを打ちのめし一世を風靡した。間違いない アダムアントの最高傑作！	Side A 1. ドッグ・イート・ドッグ 2. アント・ミュージック 3. ライオンの餌食 Feed Me To The Lions 4. ロス・ランチェーロス 5. 蟻の侵略 Ants Invasion 6. ザ・キラー Killer In The Home	Side B 1. 略奪の凱歌 Kings Of The Wild Frontier 2. 五人の英雄 The Magnificent Five 3. マジになるな Don't Be Square 4. ジョリー・ロジャー 5. 歴史を刻む Making History 6. 人間 The Human Beings
ADAM AND THE ANTZ	アダム王国		1980	ニュー ウェイブ	レコー ド			
ADAM AND THE ANTZ	アダム王国		1980	ニュー ウェイブ	レコー ド			
ADAM AND THE ANTZ	プリンス・チャーミング		1981	ニュー ウェイブ	レコー ド	通算3枚目のアルバム。アダム・アントの経歴の中で最もヒットしたシングル「スタンド・アンド・デリバー」を含む1981年発売の「プリンス・チャーミング」。前作に続き本作も大ヒット。白人ラップの先駆けのAnt Rapなど、よりポップになったアルバムで、アルバム自体売れたが1982年にあっけなくアダム&ジ・アンツは解散。バンド形態としては最後のアルバム。	Side A 1. スコーピオ 2. 巨匠ピカソ 3. プリンス・チャーミング 4. ファイヴ・ガンズ・ウェスト 5. ヴードゥーの呪い	Side B 1. スタンド・アンド・デリバー 2. マイル・ハイ・クラブ 3. アント・ラップ 4. モウホーク 5. S.E.X.
ADAM ANT	フレンド・オア・フオウ (敵か! 味方か!)		1982	ニュー ウェイブ	レコー ド	解散後ギターのマルコ・ピローニと共に活動をして行く。1982年にソロ第1弾としたアルバム。ロカビリーやファンクといった要素を取り入れて、音楽性の幅は広がっているが、アクの強いキャラはさすがにスポイルされる事なく、彼の妖しきタツプリの個性が生かされている。アンツ時代よりもバラエティに富んだ曲調が並ぶ事により、80's NEW WAVEの引き立て役としてかなりの貢献をしたアルバムだ。元々彼が持っていたパンキッシュな資質も透けて見える様になり、それがまたどうもいかがわしいロックとして本作を演出している。今聴いてもウキウキしてしまうビートは、時代の徒花として終わらせるにはもったいない魅力を持っている。アルバムは全英5位、全米16位と売れ。シングル「Goody Two Shoes」も(当初のクレジットはADAM AND THE ANT'S名義)全英1位、全米12位とソロとして最高のセールスを記録。その他「riend or Foe」も全英9位、「Desperate but not Serious」は全英で33位、全米66位のヒット曲が含まれるアルバム。	Side A 1. Friend Or Foe3:21 2. Something Girls3:50 3. Place In The Country 2:48 4. Desperate But Not Serious 4:12 5. Here Comes The Grump 3:33 6. Hello, I Love You2:37	Side B 1. Goody Two Shoes 3:28 2. Crackpot History And The Right To Lie 2:44 3. ade Of Money3:28 4. Cajun Twisters2:57 5. Try This For Sighs 3:03 6. A Man Called Marco 3:26
ADAM ANT	ストリップ		1983	ニュー ウェイブ	レコー ド	アダムアンツのソロでの2枚目のアルバム。ソロ1作目の『Friend or Foe』はほぼアダム&ジ・アンツの路線を踏襲しながらよりポップに寄せた作りで、「Goody Two Shoes」は比較的良好に知られたヒット曲となったが、ここに来てようやくワンパターンから脱却した。出て来たのは意外にもイギリス人らしい品のいいポップソングに仕上がっておりヒットとはならないが非常に良い出来になっている。	Side A 1. Strip 3:49 2. Baby, Let Me Scream at You 4:07 3. Libertine 4:20 4. Spanish Games 3:00 5. Vanity 4:07	Side B 1. Puss 'n Boots 3:52 2. Playboy 3:51 3. Montreal 4:23 4. Navel To Neck 3:41 5. Amazon 3:51
ADAM ANT	ヴィヴ・ル・ロック		1985	ニュー ウェイブ	レコー ド	1985年の大きくイメージチェンジしたアダムアントのソロ3作目。プロデュースはトニー・ビスコンティ。ギターロック満載。すべての楽曲が捨て曲無して、メロディが特に素晴らしい。ポップでキャッチーなメロディに彩られた作品でアメリカでは人気があったらしい。チープな感じとグラマラスな感じが最終的にゴージャスな雰囲気を感じ出しています。ジグジグスバトニックに似ていて、品があり。彼の前向きな姿勢が出ている意欲作。	Side A 1. ヴィヴル・ロック 2. ミス・シンキング 3. レイザー・キーン 4. リップ・ダウン 5. スコーピオン・ライジング	Side B 1. アポロ9 2. ヘルズ・エイト・エイカーズ 3. ビンナップ・ボーイズ 4. ノー・ザップ 5. P.O.E.
ADAM ANT			1990	ニュー ウェイブ	レコー ド	80年代初期に、一時はイギリスの国中にセンセーションを巻き起こしたアントミュージック。アダム・アント率いるジ・アンツとアダム・アントのソロ活動でのヒット曲満載のベストアルバム。本当に病みつきになったこの音楽をもう一度聴いて欲しい！	1. Zerox 2. Whip In My Valise 3. Car Trouble 4. Kick! 5. Kings Of The Wild Frontier 6. Antmusic 7. Dog Eat Dog 8. Los Rancheros 9. Killer In The Home 10. Stand And Deliver	11. Beat My Guest 12. Prince Charming 13. Ant Rap 14. Desperate But Not Serious 15. lace In The Country 16. Friend Or Foe 17. Goody Two Shoes 18. Strip 19. Puss 'n Boots 20. Apollo 9 21. Vive Le Rock
ADICTS	ソング・オブ・ブレイス		1981	パンク	レコー ド	UKが生んだピエロ姿マンキーが率いるThe Adicts(ジ・アディクツ)の1981年発売のデビューアルバム「Songs of Praise」。パンクと言ってもポップな感じのパンクで分かり易い曲調が多い。アディクツといえはこのアルバムが最高傑作。	Side A 1. England 2. Hurt 3. Just Like Me 4. Tango 5. Telepathic People 6. Mary Whitehouse 7. Distortion 8. Get Addicted	Side B 1. Viva la Revolution 2. Calling Calling 3. In the Background 4. Dynasty 5. Peculiar Music 6. Numbers 7. Sensitive 9. Songs of Praise
ADICTS	スマート・アレックス		1985	パンク	レコー ド	1985年RAZORからリリースされた3rdアルバム。ヒットシングル“BAD BOY”の他、白塗りジョーカーメイクのボーカリストMonkey 率いるパンク史上最高のエンターテインメントバンド。全般的にキャッチーでアップテンポで音もクリーンで聴きやすいポップパンク。Toy Dollsと並び称されるキャッチーな80'sポップパンクサウンド。名曲「Bad Boy」「Tokyo」「Ode To Joy」等収録。	Side A 1. Ode to Joy 2. Smart Alex 3. Troubador 4. Tokyo 5. California 6. Crazy	Side B 1. Bad Boy 2. Jelly Baby 3. Maybe or Maybe Not 4. Rockin Wrecker 5. Runaway 6. You're All Fools
ADVERTS	クロッシング・ザ・レッド・シー		1978	パンク	レコー ド	TV Smith (Vo.+G)が修道女学院から追放されて来たガールフレンド、女性ベーシスト「ゲイ・アドバート」と結成した4人組バンド「アドバーツ」の大作のファーストアルバム。「ワン・コード・ワンダーズ」「ゲイリー・ギルモアの瞳」のシングル2曲を含む名曲揃いの初期ロンドン・パンク。ブライト・レコードよりリリースしたファースト・アルバム。プロデュースはジョン・レッキー。	Side A 1. One Chord Wonders 2. Bored Teenagers 3. New Church 4. On The Roof 5. New Boys 6. Bombsite Boy	Side B 1. No Time To Be 21 2. Safety In Numbers 3. Drowning Men 4. On Wheels 5. Great British Mistake 6. Gary Gilmores Eyes
ADVERTS	アドヴァーツ アンソロジー		2003	パンク	CD	UK/ロンドン出身の70's PUNKバンドADVERTSのベスト盤。奇才TV smithと紅一点のGaye Advertが中心になって結成され見た目のインパクトも加えてオンリーワンの存在は正にCOOL。暗く陰鬱なサウンドとひっくり返るようなヴォーカルがクセになるNEW WAVEとはまた違うテクスチャー。2枚のアルバム、シングル曲、JOHN PEEL SESSIONから選曲された本編。1978年のライブ『NOT LIVE AT THE ROXY』もセットとなった2枚組。鬱々しながらもエネルギー溢る名演。未発表の写真もイカすヒストリー集。	DISC 1 1.One Chord Wonders 2.Quickstep 3.Gary Gilmore's Eyes 4.Bored Teenagers 5.Safety in Numbers 6.We Who Wait 7.No Time to Be 21 8.New Day Dawning 9.Drowning Men 10.No Time to Be 21	DISC 2 1.Safety in Numbers 2.New Boys 3.One Chord Wonders 4.On the Roof 5.New Day Dawning 6.Great British Mistake 7.Bombsite Boy 8.No Time to Be 21 9.Quickstep 10.No Time to Be 21
AEROSMITH	野獣生誕		1973	ハード ロック& ヘヴィ メタル	レコー ド	1973年1月発売したエアロスミスのファーストアルバム。発売当初は商業的に苦戦を強いられたものの、シングル・カットされた「ドリーム・オン」が3年の月日をかけて全米6位とヒットする。徐々にその実力が認められ、最終的には最高位21位を記録。ダブル・プラチナムにも輝いた不屈のロング・セラー。若き日の荒々しいメンバーの衝動を捉えたまさに原点たる作品。	Side A 1. メイク・イット (3:39) 2. サムバディ (3:45) 3. ドリーム・オン (4:26) 4. ワン・ウェイ・ストリート (7:01)	Side B 1. ママ・キン (4:25) 2. ライト・ミー (4:10) 3. ムーヴィン・アウト (5:02) 4. ウォーキン・ザ・ドッグ (3:12)

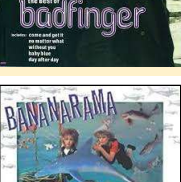
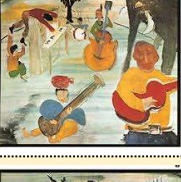
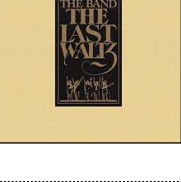
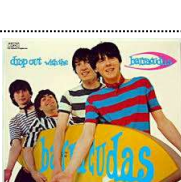
	AEROSMITH	野獣生誕		1973	ハード ロック& ヘヴィー メタル	CD			
	AEROSMITH	飛べ!エアロスミ ス		1974	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコー ド	74年作のセカンド・アルバム。のちに「6人目のメンバー」とまで言われたジャック・ダグラスを初めてプロデューサーに迎えて制作。日本では本作がデビュー・アルバムで、翌年に「闇夜のヘビィ・ロック」、そして「野獣生誕」の順でリリースされ、エアロスミスのイメージもこのアルバムによって決定付けられた感がある。6人目のエアロスミスと呼ばれる、ジャック・ダグラスと手を組んだ事により、彼等のバンド・サウンドのダイナミズムを効率よくパッケージ化する事に成功した。ゴツゴツした金属的な響きと、ジョーとブラッドの絡み合うツイン・リードの個性が強調され、70年代エアロスミスの骨格をここで完成させている。ライブでも重要なレパートリーが並んでいる。粗悪なストーンズのコピーから、アメリカのツェッペリンへとイメージを変えたのは、こうした硬派なハード・ロック・ナンバーが充実していたからです。またスティーヴンが在籍したThe Strangers時代に書いたナンバーで、メロディ・メイカーとしてのセンスがすでに開花している「黒いコートを着た女」や、情緒過多にならないミステリアスなバラード、「折れた翼」等、隠れた名曲も聴き逃せない。シングル・カットされた「セイム・オールド・ソング・アンド・ダンス」他を収録。商業的には苦戦となり全米74位と売れず。バンドのブレイク前夜を感じさせる重要作。	Side A 1. セイム・オールド・ソング・アンド・ダンス (3:43) 2. 支配者の女 (4:15) 3. 四次元飛行船 (4:22) 4. 黒いコートを着た女 (5:47)	Side B 1. S.O.S (2:52) 2. トレイン・ケプト・ア・ローリン (5:34) 3. 折れた翼 (5:33) 4. バンドラの箱 (5:37)
	AEROSMITH	飛べ!エアロスミ ス		1974	ハード ロック& ヘヴィー メタル	CD			
	AEROSMITH	闇夜のヘヴィ・ ロック		1975	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコー ド	エアロスミスが1975年に発表した通算3枚目にして、世界的な成功を収めることとなった初期の代表作であり、彼等の確固たる地位を築き上げた重要作。アメリカン・ハード史の中では、次作の「ロックス」の方が評価が高い感もありますが、本作を未だ最高傑作として挙げる人は少なくないと思われます。彼等のライブ・バンドとしての荒々さと、ソング・ライティング・センスがいよいよ的確にパッケージされ、ドラッグ、アルコールの匂いをプンプンと振り撒きながら、説明のしようのない高揚感が各曲に詰め込まれています。ロックが妖しく危険なものである事を、本作は正確に少年少女に教えてくれたのでした。超スタンダード曲として今も愛されるナンバーの他に、隠れ名曲としても名高いラスト3曲の完成度は、今聴いても震えが走る程です。ドロドロしたファンクから、異色のカヴァー、そしてせつなすぎるバラードまで、構成も完璧です。ロックとラップを初めて融合させたと言われるファンキーな「ウォーク・ディス・ウェイ」他、ライブでの曲も多く。名曲揃い! ジャック・ダグラスのプロデュース・ワークも光り、「エアロ・サウンド」を確立した名作中の名作!	Side A 1. 闇夜のヘヴィ・ロック (3:06) 2. ソルティおじさん (4:10) 3. アダムのリンゴ (4:34) 4. (ウォーク・ディス・ウェイ (3:40) 5. ビッグ10インチ・レコード (2:14)	Side B 1. スウィート・エモーション (4:34) 2. 戻れない (4:34) 3. 虚空に切り離されて (5:05) 4. 僕を泣かせないで (5:12)
	AEROSMITH	闇夜のヘヴィ・ ロック		1975	ハード ロック& ヘヴィー メタル	CD			
	AEROSMITH	ロックス		1976	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコー ド	エアロスミスが1976年に発表した、1970年代を代表するモンスター・アルバムでもある通算4枚目。まさにアメリカン・ハード・ロックの頂点に上り詰めた瞬間を切り取った作品であり、異様なまでに張り詰めたテンションのなか縦横無尽に暴れまくるバンドが作りあげた完全無比の最高傑作! 今や世界的ロック・バンドとしてストーンズと肩を並べる存在なわけですが、本作におけるエアロスミスは毒気と獣の様な荒々しさとしなやかさがだけが目立っていると思います。ライブ・バンドとしての強靱なバネはここで完璧に再現され、オープニングから怒涛の勢いで新たなアメリカン・ハードの歴史の開幕を宣言しているかの様です。 「Back In The Saddle」、「Rats In The Cellars」のヘヴィさと疾走感を、このバンドの最高の魅力と信じる人は本当に多いのではないのでしょうか。 生き急ぐかの様な緊迫感の後に訪れる、「Home Tonight」での優しくせつない包容力によって、一気に解放されるカタルシスも本作ならではです。 前作を更にメタリックにファンキーにしたソング・ライティングも見事です。	Side A 1. バック・イン・ザ・サドル (4:40) 2. ラスト・チャイルド (3:26) 3. 地下室のドブねずみ (3:39) 4. コンビネーション (3:40)	Side B 1. シック・アズ・ア・ドッグ (4:12) 2. ノーバディズ・フォールト (4:25) 3. ゲット・ザ・リード・アウト (3:43) 4. リック・アンド・ア・プロミス (3:05) 5. ホーム・トゥナイト (3:18)
	AEROSMITH	ロックス		1976	ハード ロック& ヘヴィー メタル	CD			
	AEROSMITH	ドロー・ザ・ライ ン		1977	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコー ド	本作は77年度作品。5thアルバム。全米最高位11位/200万枚突破。前作で『ロックス』という金字塔の先品を生み出すも、メンバーはドラッグやアルコールに溺れるという最悪の状況の中、半年以上もの長い制作期間と巨額の制作費を投じてようやく完成。シングル・カットされた表題曲の「Draw The Line」(最高位42位)はジョーのスライダが喰る、今もなおライブ定番曲としてジョーの見せ場になっているエアロの代表曲の一つ。一方でこちらもファンには人気の哀愁漂う「Kings And Queens」(最高位70位)はジョー抜きで録音。バンド内部が崩壊へと向かっていく中で録音された。危機感と緊張感が全編に漂う作品。エアロ最初の黄金期の立役者、ジャック・ダグラスによるプロデュース作品は一旦終わる。	Side A 1. ドロー・ザ・ライン 3:22 2. アイ・ワナ・ノウ・ホワイ 3:08 3. クリティカル・マス 4:50 4. ゲット・イット・アップ 4:01 5. フライト・ライト・フライト 2:19	Side B 1. キングズ・アンド・クイーンズ 4:53 2. ザ・バンド・ザット・フィーズ 4:21 3. サイト・フォー・ソア・アイズ 3:51 4. ミルク・カウ・ブルース 4:12
	AEROSMITH	ナイト・イン・ザ・ ラッツ		1979	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコー ド	79年度作品。オリジナルとしては通算6作目。全米最高位14位/100万枚突破。プロデューサーは長年共に名盤を作ってきたジャック・ダグラスから、ゲイリー・レイオンズに交代。スティーヴンとジョーの確執が決定的となり、ジョーが7月末に脱退。残った4人でレコーディング。シャングリラスの「Remember」(最高位67位)、ヤードバーズの「Think About It」など全9曲中3曲がエアロのルーティンな楽曲のカヴァー。「Mia」は当時生まれたスティーヴンの娘ミアに捧げられた美しいバラード。	Side A 1. ノー・サブライズ 4:25 2. チキータ 4:24 3. リメンバー (ウォーキング・イン・ザ・サンド) 4:04 4. チーズ・ケーキ 4:15	Side B 1. スリー・マイル・スマイル 3:41 2. リーフアー・ヘッド・ウーマン 4:01 3. ボーン・トゥ・ボーン - 2:59 4. シンク・アバウト・イット- 3:34 5. ミア- 4:15
	AEROSMITH	ライブ・ブート レッグ		1979	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコー ド	78年リリース作。エアロスミスの初のライブ・アルバム。大胆なタイトルと粗雑なジャケットながら、その内容は実に興味深いものとなっています。収録は一部を除き77年から78年に掛けてのツアーからとなり、70年代の全盛期の最後をパッケージしたものとなっています。彼等の荒れたライフスタイルが反映されたのか、演奏も荒く、音質も決して良くないのですが、それが逆に当時のエアロスミスの毒気とキラツキぶりをうかがわせる事に成功しています。 6人目のエアロスミス、ジャック・ダグラスの手腕もあるのですが、妙にこもった音質も妖しさ、いかがわしさを演出している様にも思えます。自身も出演した映画への提供曲、「Come Together」のライブ・ヴァージョン、そしてアルバム未収録曲ながら彼等のクラシックと化した「Chip Away The Stone」が初披露となり、スタジオ・アルバムにはなかった音楽性の幅が広がっているのもユニークです。 ジミー・リード、ヤードバーズで知られる「I Ain't Got You」、ジェイムズ・ブラウンの「Mother Popcorn」のみ73年の音源で、当初からエアロスミスがこんなにもファンキーであった事に驚かされます。 尚、不思議な事に「Draw The Line」がクレジットされていないのですが、この「マザー・ポップコーン」の後にシークレット・トラックの様に続いて収録されています。ラスト・ナンバーのお馴染み、「Train Kept A Rollin'」のスリリングなバンド・サウンドがとにかくカッコ良く、ツイン・リードの醍醐味、先天性のロック・センスに震えがきます。 この曲の後半ではフランク・シナトラのヒット曲、「夜のストレンジャー Strangers In The Night」がギター・ソロで引用され、爆竹、爆破音でフィナーレを迎えるという他では聴けないヴァージョンとして更に楽しめます。	DISK 1 Side A 1. バック・イン・ザ・サドル 2. スイート・エモーション 3. 支配者の女 4. 闇夜のヘビィ・ロック Side B 1. ラスト・チャイルド 2. カム・トゥゲザー 3. ウォーク・ジス・ウェイ 4. シック・アズ・ア・ドッグ	DISK 2 Side A 1. ドリーム・オン 2. チップ・アウェイ・ザ・ストーン 3. サイト・フォー・ソア・アイズ 4. ママ・キン 5. エアロスミスS.O.S. Side B 1. アイ・エイント・ガット・ユー 2. マザー・ポップコーン 3. ドロー・ザ・ライン 4. トレイン・ケプト・ア・ローリン
	AEROSMITH	ライブ・ブート レッグ		1979	ハード ロック& ヘヴィー メタル	CD			
	AEROSMITH	ダン・ウィズ・ミ ラーズ		1985年	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコー ド	1985年リリースの8枚目のアルバム。脱退していた「ジョー・ベリーとブラッド・ウィットフォード」が1984年にエアロスミスに復帰してからの第一弾のアルバム。ジョー・ベリー・プロジェクトの「熱く語れ」で始まる全9曲は、ジャック・ダグラス時代のヘヴィさも、ブルース・フェアバーン時代のポップさもなく、ストレートでごきげんなハードロックを聞かせてくれて『「ロックス」』以来の傑作!「後のアルバムと違い、エアロスミスの名曲の核を作りだしていた要素が作品にパワーを与えている」と評している。ストレートなハードロックがぎっしり詰まっているので、初期のAerosmithが好きな人にはお勧めのアルバム。本作からの第1弾シングル「熱く語れ」は、ジョー・ベリー・プロジェクトのアルバム『「熱く語れ」』(1980年)収録曲を改作したもの	Side A 1. 熱く語れ (Let the Music Do the Talking) 3:46 2. マイ・ファスト、ユア・フェイス 4:21 3. シェイム・オン・ユー 3:20 4. リーズン・ア・ドッグ 4:12	Side B 1. シーラ 4:24 2. ジブシー・ブーツ 4:15 3. シーズ・オン・ファイア 3:45 4. ザ・ホップ 3:41 5. ダークネス 3:45
	AFFINITY	アフィニティ		1970	プログレ	CD	ルース、プログレッシヴロックを融合させたスリリングなサウンドで70年初頭のシーンに衝撃を与えた英国ロックバンド。キープの手による幻想的なジャケットが非常に印象的だが、たった一枚しかアルバムを発表していないのにも関わらず、非常に人気の高いグループ。プロデュースはジョン・アンソニーでプログレ・ファンには馴染み深い人物。 1. は豪快なブラスを導入したブルース／ジャズ・ロック。2. はフォーク／ブルース風のバラードとこの2曲だけでも彼らの実力／人気は難無く計り知れる。楽曲／演奏が優れているのはもちろんだが、演奏そのもののコクとか味とかいうか、にじみ出る魅力が強く感じられる。リンダのヴォーカルはもちろんのこと虞になるほど素晴らしいナイフのオルガン、強い主張はないが張りのある優れたトーン／演奏を聞かせるギター、手堅いだけではなくドッシリと主張するリズム隊、そして時に加わるブラス／ストリングスと全てが味わい深い。楽曲はブルース・ロック／フォークの延長線上の曲が多いが、そこに微妙に加味されたジャズ／ジャズ・ロック的な雰囲気、気が妙味。ジュディ・ドリスコールを擁していた頃のブライアン・オーガー＆トリニティにも近い雰囲気曲もある。ブルージーでかなり渋いがそれだけに味わい深い作品である。グループは本作発表後解散しリンダ・ホイルが翌年に『ピーセス・オブ・ミー』を発表している。ナイフは Toe Tae、サーベルはセイラー、フォスターはファンシーへ散っていった。	1. I Am and So Are 2. Night Flight 3. I Wonder If I'll Care As Much 4. Mr. Joy 5. Three Sisters 6. Coconut Groove 7. All Along the Watchtower 8. Eli's Coming 9. United States of Mind	
	A~HA	ハンティング・ハ イ&ロウ		1985	ニュー ウェーブ	レコー ド	ノルウェー出身の3人組ユニットのデビューアルバム。キャッチーなイントロのくいを引っさげて登場。アニメーションを駆使した画期的な手法のビデオクリップは、斬新でエンタティメント性にとみ、MTVなどでは連日オンエアされ、大きな話題を集めた。それが視聴者の購買意欲を刺激し、結果、チャート1位を獲得する大ヒットとなった。一躍アイドルに祭りあげられたものの、彼らのソングライターとしての正当な評価は陰に隠れてしまった。まずはかつての虚飾を排除して聴くと、優れたアーティスト集団であることがよくわかる1枚だ。	Side A 1. テイク・オン・ミー 2. ストレンジャー・トレイン 3. ハンティング・ハイ・アンド・ロウ 4. ザ・ブルー・スカイ 5. ボーイズ・アドベンチャー	Side B 1. シャイン・オン・TV 2. アンド・ユー・テル・ミー 3. ラヴ・イズ・リーズン 4. ドリーム・マイセルフ・アライヴ 5. フェイス・ザ・レイン

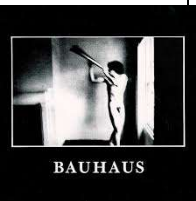
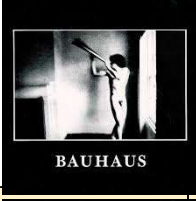
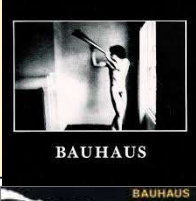
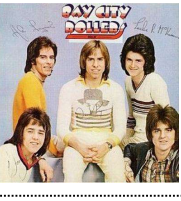
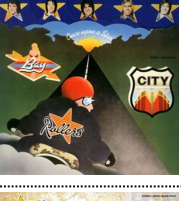
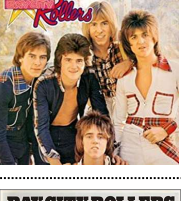
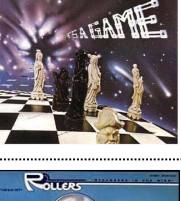
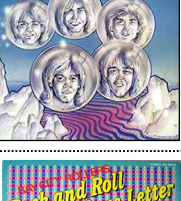
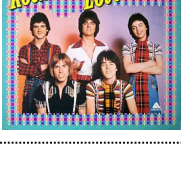
A〜HA	スカウンドレル・デイズ		1986年	ニューウェーブ	レコード	1986年に発表したセカンド・アルバム。1枚目からサウンドがガラッと変わり、流麗なシンセ音と壮大なメロディー構成で、クオリティーの高さを見せ付け、アダルトで硬派な新たなイメージを植えた。全10曲収録。 彼らのアルバムが10作以上出しているにも関わらずライブでこの2作目のアルバムからチョイスされる曲が4曲「1)scoundrel days、2)the swing of things、3)I've been losing you、5)manhattan skyline、6)cry wolf」もあると言うこともあ曲の充実度が高い。現に過去のアルバムの中でもトップ3に入る傑作だ。もし、a-haを初めて聴く人にはこのアルバムから聴いてもいいのではというほどー押し。やはりレコーディング当時のモータンの20代後半ののびやかなボーカルは力強さ、滑らかさ、表現豊かで素晴らしい。	Side A 1. スカウンドレル・デイズ 2. スイング・オブ・シングス 3. ルージング・ユー 4. オクトーバー 5. マンハッタン・スカイライン	Side B 1. クライ・ウルフ 2. ルッキング・フォー・ザ・ホエールズ 3. ウェイト・オブ・ザ・ウインド 4. メイビー・メイビー 5. 四月にソフト・レイン
AIR SUPPLY	イツツ・ノット・トゥ・レイト〜ベスト・オブ・エア・サプライ		1992/12/16	フュージョン	CD	エア・サプライのベストアルバム。オーストラリアのポップ・バンド。1980年代に多くの全米ヒットを放った。1980年に「ロスト・イン・ラブ」が大ヒット。その後も「シー・サイド・ラブ」(原題:The One That You Love)、「さよならロンリー・ラブ」(原題:Even the Nights Are Better)、「渚の誓い」(原題:Making Love Out of Nothing at All)といったヒット曲を連発し、日本でも夏のイメージで大ヒットを放った。 サウンドは、甘く、切なく、そしてアメリカのバンドとは一味ちがったさわやかさ。エアサプライの音楽はどれもそんな表現がびったり。タイプの異なる2人の優秀なシンガーが生み出す美しいメロディとハーモニーは世界中のカップルの素敵なワンションを演出してくれるマストアイテムである事請け合い。青い海、青い空、さわやかな潮風を想起させる彼らの音世界は普遍。③⑤を聞けば、ありふれた日常が、ドラマの1シーンのように見えてくるでしょう。リスナーのイメージを変えてしまうほどの素晴らしい名曲です。	1. イッツ・ノット・トゥー・レイト 2. ロスト・イン・ラブ 3. さよならロンリー・ラブ 4. シー・サイド・ラブ 5. 渚の誓い 6. スウィート・ドリームス	7. あなたのいない朝 8. オール・アウト・オブ・ラブ 9. とくめきの愛を 10. ヒア・アイ・アム 11. チャンセズ 12. レイト・アゲイン(ライブ・ヴァージョン)
ALARM	アラーム宣言		1984	ニューウェーブ	レコード	1983年リリースのセカンドアルバム。このアルバムが出た時は久しぶりに不屈のロッカーが現れたといった感じで、クラッシュの後継者として話題となった。クラッシュほど強い政治色のあるバンドではないものの、揺さ鳴らすフークギターとストリートな熱い叫びはクラッシュの情熱を思わせる。アルバムのタイトル『Declaration』(宣誓)の通り、42秒の宣誓からこのアルバムは始まり「Marching On」に流れ込んでいく。全12曲がフーク・パンク・ロックで突っ走るこのアルバムは、リリースから数十年経った今でも熱い思いが伝わってくる。残念ながら90年前半に解散した。	Side A 1. 宣誓 2. マーチング・オン 3. 嵐の中で 4. 闇に棲む光 5. 68ガンズ 6. 太陽の地	Side B 1. シャウト・トゥ・デビル 2. プレイズ・オブ・グローリー 3. テル・ミー 4. 偽りの世界 5. スタンド 6. 荒野をわたる風
ALCATRAZZ	アルカトラス		1984	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	83年作。アルカトラスの衝撃的なデビュー作となった1枚。リード・シングルの「ISLAND IN THE SUN」は、確かに新たなヒーローとしてのインパクトがありました。 RAINBOW、MSGでそれぞれ1枚ずつ大名盤を残してスーパー・ヴォーカリスト、グラハム・ボネットがいよいよリーダーとして立ち上げたバンドとして当時かなり話題になり、ジャケットに書かれた「NO PAROLE FROM ROCK 'N' ROLL」の文字が、当初アルバム・タイトルとも誤解されていました。ただ日本盤は、タイトル名が変更されています。伝説的アメリカン・プログレ・ハード・バンド、ニュー・イングランドのメンバーとグラハムの合体、そしてなんと言ってもイングヴェイ・マルムスティーンが加入した事でもハード・ロック史の事件であったと思います。 超絶テクのギターと、レインボーを勝る様式美、そしてグラハムの熱いヴォーカルの融合が見事に結実した大傑作です。	Side A 1. アイランド・イン・ザ・サン 2. ジェネラル・ホスピタル 3. ジェット・トゥ・ジェット 4. ヒロシマ・モナムール 5. クリー・ナクリー	Side B 1. インキューバス 2. トゥー・ヤング・トゥ・ダイ、トゥー・ドラunk・トゥ・リヴ 3. ビッグ・フット 4. スターカー・レーン 5. サファア・ミー
ALCATRAZZ	ディスタービン・ザ・ピース		1985	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	85年作、グラハム・ボネット率いた伝説的バンド、アルカトラスのセカンド・アルバムです。ファーストアルバムでは、イングヴェイを世に知らしめ、本作ではフランク・ザッパの門下生、スティーヴ・ヴァイの衝撃的な登場を手助けした1枚となっています。グラハムの圧倒的な声量と、ハード・ロックに留まらない個性的なギターとメロディが、以前のアルカトラスとは全く違うサウンドが衝撃的でした。ホワイトスニークでの自己主張ぶりも凄かったです。やはりここのスティーヴ・ヴァイが一番インパクトがあったと思います。80年代メタル史上においても、もっと再評価がされている1枚	Side A 1. ゴッド・プレスト・ヴィデオ 2. マーシー 3. ウィル・ユー・ビー・ホーム・トゥナイト 4. ワイアー・アンド・ウッド 5. デザート・ダイヤモンド	Side B 1. ストリッパー 2. ベインテッド・ラヴァー 3. ライター・シェード・オブ・グリーン 4. サンズ。アンド・ラヴァーズ 5. スカイファイア 6. プレイキング・ザ・ハート・オブ・シティ
ALDO NOVA	ナイト・ファンタジー		1982	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	82年作。アルド・ノヴァのデビュー盤。カナダのマルチ・プレイヤーとして知られ、数々のセッション、ソング・ライティングで他アーティストと共演してきた名人的裏方として有名な人ですが、ハード・ポップ、メロディアス・ハードの隔れ大名盤として今も語り継がれるアルバム。ジョン・ボン・ジョヴィとも親交が深く、後に彼の助力によってアルバムもリリースしています。とにかく80年代的なキラキラしたメロディ、ウキウキする様なハード・ポップ感覚に優れた人で、本作もうヴァーボーイや、トライアンプと共にカナディアン・ハードの名声を高めた。シングル・ヒットした「ファンタジー」のスペイン〜なイントロも最高。	Side A 1. ファンタジー 5:04 2. ホット・ラブ 3:55 3. イッツ・トゥー・レイト 3:20 4. ボール・アンド・チェイン 4:01 5. ハート・トゥ・ハート 3:42	Side B 1. フーリン・ユアセルフ 3:35 2. アンダー・ザ・ガン 3:48 3. ユア・マイ・ラブ 3:33 4. チャント・ストップ・ラヴィン・ユー 3:57 5. シーザ・ライト 3:56
ALICE COOPER	キラー		1971	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	1971年に発表した4作目のアルバム。前作『エイティーン』の正常進化的作品で、よりスケール感がアップした大傑作。奇抜なコスチュームで視覚的に訴えるパフォーマンストと、それに呼応するような唯一無二の「ショックロック」の世界観が凝縮された一枚。アルバムの聴きどころは、児童虐待(又はネグレクト)を扱った「デッド・ベイビーズ」、絞首刑にされる男を歌った「キラー」だ。マジジンのハワード・ディヴォートはデビュー当時に「これまで見た中ではアリスの『キラーツアー』がベストライブだ」と語っていた。ツアーが世界各地で大反響を起した結果だった。このアルバムそしてツアーの反響の大きさは、次作以降の作品を、世界規模の大ヒットに持ちあげていく。	Side A 1. 俺の回転花火 “Under My Wheels” 2:51 2. ビー・マイ・ラヴァー 3:21 3. ヘイロー・オブ・フライ 8:22 4. 無法者 “Desperado” 3:30	Side B 1. 勇気づけて “You Drive Me Nervous” 2:28 2. イエー・イエー・イエー 3:39 3. デッド・ベイビーズ 5:44 4. キラー 6:57
ALICE COOPER	スクールズ・アウト		1972年6月	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	1972年に発表した5作目のアルバム。全米2位、全英では20週チャート・インし最高4位。『エイティーン』、『キラー』とたてつづけにロック史に残る傑作をリリースしてきたアリス・クーパー。それら傑作を上回る最高傑作が『スクールズ・アウト』。当時のロック・アンセムとなったタイトル曲を中心に、エキセントリックな「ショックロック・ワールド」が炸裂。このLPは学校の机を模して開閉できる変形ジャケットとなっており、レコード盤は紙のバンデリに包まれ、発売されたことも大きな話題となった。サウンドにもアートワークにも、アリス・クーパーのクリエイティビティが凝縮された歴史的名盤。	Side A 1. スクールズ・アウト 3:30 2. ルニー・チューン 3:43 3. ガター・キャット対ジェッツ 4:40 4. ストリート・ファイト 0:53 5. ブルー・ターク 5:33	Side B 1. マイ・スターズ 5:49 2. バブリック・アニマル#93:54 3. アルマ・メイトー 4:27 4. グランド・ファイナル4:26
ALICE COOPER	ライブ!!アリス・クーパー・ショー		1977	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	7年リリース作。アリス・クーパーの初のライブ盤。シアトリカル・ロックの帝王たる姿がジャケットでもいくつか紹介されていますが、本来はその場で、もしくは映像で楽しむべきショーだと思えます。それでもアメリカン・ハード、メタルの元祖と自負するアリスらしい、実に聴き応えのあるロック・ライブとなっています。当時の彼はバンドとしてのアリス・クーパーを解散、ソロ名義のアリスをキアラクターとして浸透させ、意外な程ロマンチックなバラード、「I Never Cry」や「You And Me」といったシングル・ヒットを飛ばし、新たな魅力を振りまいていた時期でした。英国バンク・シーン勃発、更には本国ではKISSへの影響も与えた初期の代表曲も含め、70年代の彼の絶頂期をまとめたセトリストも魅力的です。ヴォーカリストとしての器用な表現力もライブならではの醍醐味があり、曲の良さが生かされています。	Side A 1. 俺の回転花火 2:35 2. エイティーン 4:58 3. 血を流す女 5:55 4. シック・シング 0:59 5. ボディ 2:35 6. 俺は泣かない 2:48	Side B 1. ビリオン・ダラー・ベイビーズ 3:17 2. 悪魔の供物 / ブラック・ウィダー 5:50 3. ユー・アンド・ミー 2:25 4. アイ・ラブ・ザ・デッド / 地獄へ行く / お前がここに居てくれたら 6:36 5. スクールズ・アウト 2:39
ALIEN SEX FIEND	アシッド・バス		1984	パンク	レコード	ポジティブパンクの旗手として華々しくデビューした、80' S UKゴシック/ポジティブパンクの代表バンド、エリヤン・セックス・フィエンドが84年にリリースした名盤セカンドアルバム！攻撃的なビートと絶妙なポップさのバランスが病みつきの代表作。	Side A 1. In God We Trust (In Cars We Rost?) 2. Dead and Re-Buried 3. She's a Killer 4. Hee-Haw (Here Come the Bone People)	Side B 1. Smoke My Bones 2. Breakdown and Cry (Lay Down and Die - Goodbye) 3. E. S. T. (Trip to the Moon) 4. Attack !!!!! #2
AL KOOPER	アイ・スタンド・アローン		1969	ロック	レコード	1969年リリース。ブルース・プロシエントで65年にデビュー、68年のワラッド・スワズド&デアーズ、マイク・ブルームフィールドらとのスーパー・セッションを経て発表された初のソロ作。当時「ニューロック」とは、革新的なロックというほどの意味で(レコード会社サイドが販路目的で勝手に付けたジャンル名)、そのニューロックの旗手と呼ばれ、当時、もてはやされたのが、Al Kooperだ。そのロック変革期にさまざまなアプローチでその可能性を切り拓いてきた彼が満を持して発表した記念すべきファースト。初作にしてすでにシンガー・ソングライター然としたスタイルを見せるなかで、ハリー・ニルソン、トラフィック、ビル・モローらのカヴァーも収録し、そのマルチな音楽的嗜好の趣くまを表現したバラエティに富んだ内容。自由の女神に自分の顔をアレンジした印象的なジャケットで、彼のユーモアセンス、音楽センスがジャケットやライナー・ノーツなどのアルバム全体から感じられる名盤。	Side A 1. 序曲 - Overture 4:39 2. アイ・スタンド・アローン 3:37 3. カミール 2:54 4. ワン 2:53 5. カラド・レイン 3:01 6. 月面軟着陸 (Soft Landing on the Moon) 4:01	Side B 1. アイ・キャン・ラブ・ア・ウーマン 3:28 2. ケンタッキーの青い月 (Blue Moon of Kentucky) 2:14 3. トゥ・ホールド 3:53 4. ライト・ナウ・フォー・ユー 2:33 5. ヘイ、ウエスタン・ユニオン・マン 3:43 6. アンボーン・チャイルドに捧げる
AL KOOPER	赤心の歌		1973	ロック	レコード	アル・クーパーの最高傑作と呼び声も高い、73年発表のソロ6作目。タイトルどおり虚飾のない、彼の内面を吐露したような、生々しくも魅力的な作品だ。サウンドも自身による弾き語りメインのシンプルなものだが、地味というより余計なものが削ぎ落とされたという印象だ。深夜に1人繰り返し聴くたびに味が出るようなアルバムである。ゴスペル風味の1曲や、グルーヴィなオルガンが魅力的な曲など、名曲・名演ぞろいだ。だが、やはり彼の代表曲である世紀の名曲<3>が、なんといってもすばらしいすぎる。	Side A 1. 自分自身でありなさい 2. 時の流れるごとく 3. ジョリー 4. ブラインド・ベイビー 5. ピン・アンド・ゴーン	Side B 1. サム・ストーン氏の場合には 2. ビーコック・レディ 3. 聖衣に触れて 4. 君はどこへ… 5. 人生は不公平
AL KOOPER MIKE BLOOMFIELD	フィルモアの奇跡		1968	ロック	CD	1968年作品。アル・クーパーの残したセッション・アルバムの中でも最高傑作と言われる。サンフランシスコにあったフィルモア・ウェストで3日間に行われたライブを収録。当時最も進歩的なブルース/ロック・ギタリストのひとりとして高く評価されていたマイク・ブルームフィールドと、ポップ・ビルランとの共演で独創的なオルガンが脚光を浴びたマルチな才人アル・クーパー。2人がステージでぶつかり合った本作は、ブルース、リズム&ブルース、ロック、そしてジャズが飛び交い、即興演奏がほとばしる偉大な記録だ。エルヴィン・ビショップ、カルロス・サンタナの両ギタリストのゲスト出演にも注目。	Disc: 1 1. マイク・ブルームフィールドのオープニング・スピーチ 2. フィーリン・グルーヴィー 3. アイ・ワンダー・フー 4. 神聖にして犯すべからず 5. ウェイト 6. メリー・アン 7. 愛の終る日まで 8. ザッツ・オール・ライト	Disc: 2 1. アル・クーパーのオープニング・スピーチ 2. サニー・ボーイ・ウィリアムスン 3. 寂しい夜はいらない 4. ディア・ミスター・ファンタジー 5. 激しい恋はもうたくさん 6. 終曲 (フィナーレ)/逃亡者
ALLMAN BROTHERS BAND	オールマン・ブラザーズ・バンド		1969年11月	アメリカンロック	レコード	1969年発表のファースト・アルバム。1曲目はスペンサー・テイウイズ・グループのカヴァー。いきなり鋭いギターで幕を開ける。 このファースト・アルバムでは当時のブリティッシュ・ロックの影響も感じる。以後のアルバムに比べると演奏やアレンジはかなり荒削りであり、グレッグの歌いっぷりも、やや力みすぎだが、すでに単なるブルース・ロック・バンドではないスケールが感じられる。名曲「ドリームス」、「ウィッピング・ポスト」がすでにここにある。ツイン・ギター、ツイン・ドラムをフィーチャーした骨太なブルース・ロックで注目を集めた。若い情熱の込められた骨太・硬派のロック。オールマンズの栄光の歴史がここから始まったのですがそれを予感させるに十分な作品でロックファンなら必聴のアルバム。すべての楽曲が後期オールマンズのライブの定番曲になりましたが1曲目からラストまで本当に興奮の一語で特にラストのウィッピング・ポストは何回聴いても鳥肌もの凄いい曲。素晴らしい演奏。	Side A 1. ドント・ウォント・ユー・ノー・モア - 2:25 2. ノット・マイ・クロス - 5:00 3. 腹黒い女 “Black Hearted Woman” - 5:07 4. トラブル・ノー・モア - 3:44	Side B 1. ハングリー・ウーマン - 4:12 2. 夢 “Dreams” - 7:16 3. ウィッピング・ポスト - 5:16
ALLMAN BROTHERS BAND	フィルモア・イースト・ライブ		1971	アメリカンロック	レコード	1971年に発表したライブ・アルバム。1971年3月12日から13日にかけてニューヨークのフィルモア・イーストで1日に2回ずつ公演を行い、それらの4公演から抜粋されたライブ音源を本作に収録した。7曲中4曲は前2作のスタジオ・アルバムに収録されておらず、3月13日の2回目の公演で演奏された「ドラクエン・ハーテッド・ボーイ」にはエルヴィン・ビショップ(ギター、ボーカル)、スティーヴ・ミラー(ピアノ)、ボビー・ゴールドウェル(パーカッション)がゲスト参加しているが[2]、この曲はオリジナル・バージョンには収録されず。プロデューサーは前作に続きトム・ダウドが担当した。本作はアメリカビルボードで3位に達し、1971年10月にゴールドディスク、1992年8月にプラチナ・ディスクに認定された。	Side A 1. ステイツ・ボロ・ブルース - 4:17 2. 誰かが悪かったのさ “Done Somebody Wrong” - 4:33 3. ストリー・マンディ - 8:44 Side B 1. ユー・ドント・ラブ・ミー - 19:15	Side C 1. アトランタの暑い日 - “Hot Lanta” - 5:17 2. エリザベス・リードの追憶 “In Memory of Elizabeth Reed” - 13:04 Side D 1. ウィッピング・ポスト - 23:03

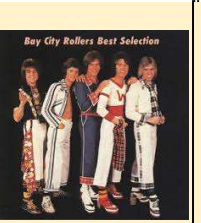
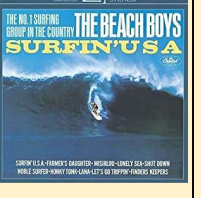
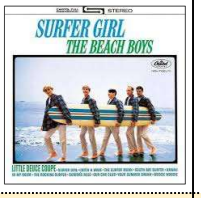
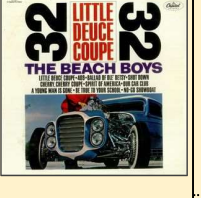
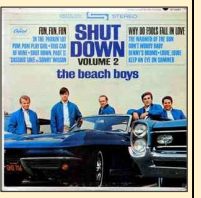
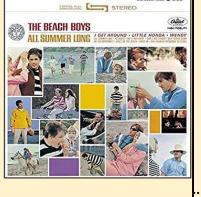
ALLMAN BROTHERS BAND	ブラザーズ & スターズ		1973	アメリカンロック	レコード	1973年発表。メンバーを相次いで事故で失うという悲劇を乗り越えて放った、オールマンズのスタジオ録音代表作。バンド最大のヒットとなったカントリー・タッチの「ランプリン・マン」や名インスト「ジェシカ」など、ディッキー・ベッツが自身のハイライトとなる楽曲を数々提供。グレッグ・オールマンも持ち前のブルージーでファンキーな妙味を如何なく発揮。初のアルバム全米1位を達成する。さらに本作からのシングル「ランプリン・マン」が全米2位、「ジェシカ」が全米65位。ディッキーベッツはデュアン、オークリーの悲劇の中でコソコソ作業を続けていた。それだけ、オールマンブラザーズの金銭事情が恵まれてなかったのだろう。実際、フィルモア以外は、そんなにセールの的にもくない。その結果、ブルースバリバリの泥臭いサザンロックというより、キャッチーでポップなジェシカなどカントリーロック路線のアルバムが完成したのだろう。	Side A 1. むなしい言葉 2. ランプリン・マン 3. カム・アンド・ゴー・ブルース 4. ジェリー・ジェリー	Side B 1. サウスバウンド 2. ジェシカ 3. ボニー・ボーイ
Altered Images	ハッピー・パースデー		1981年	ニューウェーブ	レコード	1981年にリリースされたALTERED IMAGESのデビュー・アルバムで全英1位となった。紅一点、クリア・グローガンことクリアちゃんは1980年代初頭のイギリスでも大人気で、ファッション・リーダー的な存在でもあった。そのコケティッシュなヴォーカルと、一度聴いたら忘れられない超ポップなメロディは、エレ・ポップの印象もありましたが、UKニュー・ウェイヴを先導するネオ・サイケの名盤となっています。プロデュースはスージー・&ザ・パンシーズのスティーヴ・セヴェリン。暗めの曲でもクリアのヴォーカルによって、一気にカラフルになってしまうのがユニーク。バンド・サウンドも実にクールで、当時の英国ロックが好きな方にはたまらない1枚だと。Steve Severinの「Dead Pop Stars」「Sentimental」を収録した。1981年10月の英国でNo2に3週間チャートインし、その年にNME「Best New Group」とSmash Hits「Best Newcomer Award」を獲得した。アルバムのタイトル曲が大ヒット。	Side A 1. イントロ〜ハッピーバースデー 2. ラブ・アンド・キッシーズ 3. リアル・トイズ 4. アイドルズ 5. リジオネール 6. フェイスレス 7. ベックニング・ストリングス	Side B 1. ハッピーバースデー 2. ミッドナイト 3. ア・デイズ・ウェイト 4. リーブ・ミー・アローン 5. インセクト 6. アウトロー〜ハッピーバースデー
AL STEWART	オレンジ		1972年	ロック	レコード	1945年に英国王家の名門に生まれたイギリスを代表するシンガー・ソングライター。哀愁をおびた歌声は多くの人をひきつけている。この『オレンジ』は、'72年の作品で4枚目のアルバム、代表作の一枚である。れまでの3枚は、どちらかという弾き語りっぽくフォーク色が強いものでした。この「オレンジ」になるとプリンスリー・シュワルツやリック・ウェイクマン、ティム・レンウィックの参加でロック色がやや強まっています。その後、アルは『Modern Times』『Year Of The Cat』『Time Passenger』などの傑作を生みだし不動の人気を獲得します。	Side A 1. 知りもしないで (You Don't Even Know Me) 2. アムステルダム 3. 土から生まれた曲 (Songs Out Of Clay) 4. スペインからの便り (The News From Spain)	Side B 1. アイ・ドント・ビリーヴ・ユー (Once An Orange, Always An Orange) 2. オレンジ 3. アイム・フォーリング 4. 5月4日の夜 (Night Of The 4th Of May)
ANGEL	天使の美学		1975	ハードロック & ヘヴィメタル	レコード	スト・アルバム。純白の衣装とグラマラスなルックスは、当時クイーンとも比較され、特に日本の女の子に指示されアイドルの人氣が先行した。後にGiuffriaやHouse Of Loadsで才能を開花させるグレッグ・ジェフリアの幻想的なキーボードを中心に、全員が見栄えのするヴィジュアルながら、サウンドは意外にもプリティッシュの影響を隠さない新しいプログレ・ハードを展開。後期はハード・ポップ的展開したが、ここではかなりキーボードを主体にしながら、バンド・サウンドはあくまでもメタリックな質感を伴っていた。B級感覚が溢れるチープなヴォーカルも逆に個性となって、ドラマチックなメロディも重たく感じさせない親しみやすさを生んでいるのもユニーク。当時のカンサス、スティクス等にも劣らない緻密な構成力も見事で、見かけばかりが目立っていたせいか、正当評価がされなかったのは残念。以降徐々にポップなサウンドがバンドの人氣を盛り上げていきますが、彼等の本当にやりたかったのはここで提示されたプリティッシュ・ハード、プログレを、より華麗に見せる新たなハード・ロックだったのではないかと？70年代ロックに潜んでいた妖しさ、甘さ、そして毒気が凝縮された様な、愛すべき1枚。壮大なインストとなった「エンジェル・のテーマ」は、オジー・オズボーンの「Mr. Crowley」のオープニングにソックリ、というのとは有名な話。	Side A 1. タワー 2. ロング・タイム 3. ロックン・ローラーズ	Side B 4. ブロークン・ドリームズ 5. マリーナー 6. サンディ・モーニング 7. オン&オン 8. エンジェル・のテーマ
ANGEL	華麗なる貴公子		1976	ハードロック & ヘヴィメタル	レコード	76年作。エンジェル・のセカンド・アルバム。メンバー全員が後のLAメタルを彷彿させるロング・ヘア、純白のコスチュームにより、まさに天使のイメージそのものを押し出しただけに、アイドルの人氣が先行した感もありますが、壮大なキーボード主導によるドラマティックなメロディ、初期はプリティッシュ・ハード、プログレからの影響も隠さなかったサウンドはB級バンドとして終わらせるには、あまりにももったいない気がします。アメリカン・プログレ・ハードの初期型とも言える重厚さと同時に、後に開花するパワー・ポップ的センスに溢れた「ANYWAY YOU WANT IT」の様なナンバーが聴きものとなっています。	Side A 1. フィーリン・ライト 2. ザ・フォーチュン 3. エニウェイ・ユー・ウォント・イット 4. ドクター・アイズ	Side B 1. ミラーズ 2. フィーリングス 3. プレッシュヤー・ポイント 4. チキン・スूप 5. エンジェル・のテーマ
ANGELIC UP STARTS	ティーンエイジ・ワーニング			パンク	レコード	エンジェリック・アップスターズの1stアルバム。1977年の夏、グラスゴウの「ボブ・ド・ライオット・ツアー」にインスパイアされ結成。イングランドは北東部のサウス・シールズで1977年に結成されたストリート・オルバンクバンド。元々は本物の労働者（炭坑夫からバンクに成り上がる）であったメンバーによる、労働者階級から熱い支持を得た、真のワーキング・クラス・パンク・ロック。オリジナル・メンバーはトーマス・メンジ、メンズフォース(Vo)、レイモンド・モンド、カウイー(Gu)、スティーヴ・フォーステン(Ba)、デッカ・ウェイド(Ds)。同年、制作/流通共にDIYなやり方でシングル「The Murder Of Little Towers」をリリース。1000枚のみのプレスで、ライブ会場と小さなレコードショップのみで販売した。その後、ドラムがキース・スティクス、ワーリントンにチェンジし、シャム69のジミー・バーシーをプロデューサーに迎え、79年にワーナーからシングル「I'm an Upstart」、夏には本アルバムとシングル「Teenage Warning」をリリース。本物のアングリー・パンク・バンドのバグが炸裂する本名作。特にタイトル曲は必聴!!	Side A 1. TEENAGE WARNING 2. STUDENT POWER 3. THE YOUNG ONES 4. NEVER AGAIN 5. WE ARE THE PEOPLE 6. LIDDLE TOWERS	Side B 1. I' M AN UPSTART 2. SMALL TOWN SMALL MIND 3. YOUTH LEADER 4. DO ANYTHING 5. LET 'S SPEED 6. LEAVE ME ALONE
ANGELIC UP STARTS	朝日のない街 (ゲット・アウト・オブ・デイズ・ブレイス)			パンク	レコード	イングランドは北東部のサウス・シールズで結成された、アンジェリック・アップスターズの2ndアルバム。ジャケットは炭鉱で働いていたメンの脳裏に焼き付いている炭鉱現場の光景だと推測される。前作よりシંગカロングになった楽曲と、変わることなくワーキング・クラスを歌ったストリート・パンクロック!!	Side A 1. ネヴァー・アンド・ナッシング 2. ポリスの暴 POLICE OPPRESSION 3. ロンリー・マン・オブ・シュパンダウ 4. 何が何でも生き残れ THEIR DESTINY IS COMING 5. ショットガン・ソリューション 6. キング・コール	Side B 1. 指図は無用 OUT OF CONTROL 2. イカしたロニー RONNIE IS A ROCKER 3. リッスン・トゥ・ザ・ステップ 4. 蘇る伝説 CAN'T KILL A LEGEND 5. キャピタル・シティ 6. 朝日のない街WE
ANIMALS	アニマルズ		1964	ブリティッシュビート	レコード	アニマルズの1964年10月に発売されたデビューアルバム。アメリカのブルースに根ざした作風が特徴的で、ロックシーンにも多大な影響をもたらした。比類なきホワイ・ブルース・シンガー、エリック・バードンと英国を代表するバフオーマー兼コンポーザーのアラン・プライスを擁したアニマルズが1964年に発表したファースト・アルバム。全体的にはエリック・バードンのブルージーなボーカルは迫力満点。彼らの特徴である、オルガンの音を全面的に出しておし、このアラン・プライスのキーボード奏者としての音楽的才能の高さとアレンジは素晴らしい。	Side A 1. ストリー・オブ・ボ・ディドリー 2. ベリー・マイ・ボディ 3. ディンブルズ 4. アイヴ・ビーン・アラウンド 5. アィム・イン・ラヴ・アゲイン 6. ザ・ガール・キャント・ヘルプ・イット	Side B 1. アィム・マッド・アゲイン 2. シー・セッド・イエ 3. ザ・ラスト・タイム 4. メンフィス 5. ブーン・ブーン 6. アラウンド・アンド・アラウンド
ANIMALS	アニマル・トラックス (ペーパー・スリープ仕様)		1965	ブリティッシュビート	CD	65年発表のセカンド。プリティッシュ・ブルース/R&Bの真髄! 2作目にして円熟の域に達したオリジナル・ラインナップによる事実上のラスト・アルバム。⑩以外はすべてR&Bブルースの名曲のカヴァーで、気合いの入ったプレイ&シャウトが満載だ。これらのレパートリーは、黒人音楽のカヴァーが圧倒的に多く、その筋の愛好家にはお馴染みの曲が多い。	1. メス・アラウンド 2. ハウ・ユー・ヴ・チェンジド 3. ハレルヤ・アイ・ラヴ・ハー・ソー 4. アイ・ビリーヴ・トゥ・マイ・ソウル 5. ワーリッド・ライフ・ブルース 6. ロバータ 7. アイ・エイント・ガット・ユー 8. ブライト・ライツ・ビッグ・シティ 9. レット・ザ・グット・タイムズ・ロール	以下、ボーナス・トラック 12. 悲しき願い 13. クラブ・ア・ゴー・ゴー 14. 悲しき叫び 15. 朝日のない街 16. アイ・キャント・ビリーヴ・イット 17. イッツ・マイ・ライフ 18. アィム・ゴナ・チェンジ・ザ・ワールド 19. ドント・ウォント・マッチ
ANIMALS	コンプリート アニマルズ			ブリティッシュビート	CD	プリティッシュ白人R&Bバンド、アニマルズ、最初期EMI時代(1964-1965)の音源を「ほぼ」網羅した編集盤。内容的には、エリック・バードン(ヴォーカル)のcockが有って、なおかつ荒々しい歌唱がバッチリ楽しめる物になっています。もちろん、演奏面でのバックアップもバッチリ。彼らの代表的である「朝日のあたる家」は、ティランが1stで採り上げていた伝承曲。アニマルズはそれを聴いていたのか? また、「悲しき叫び」は、「悲しきシリーズ」の第二弾ですが、もちろん原曲とは無関係な邦題。ソウル・シンガー、サム・クックの1962年のシングル・ヒットがオリジナル。「シー・セッド・イエ」もストーンズが採り上げていた曲。アニマルズはこの後、デッカに移籍して一枚アルバムを出すのですが、その後、解散してしまいます。結局、バードン以外のメンバーを入れ替えて、エリック・バードン & アニマルズとして活動を再開、1968年まで活動を続けることとなります。	ディスク:1 1. ブーン・ブーン 3:20 2. トーキン・アバウト・ユー 7:06 3. ブルーな気持 2:32 4. ディンブルズ 2:53 5. ベイビー・レット・ミー・ティク・ユー・ホーム 2:22 6. ゴナ・センド・ユー・バック・トゥ・ウォーカー 2:29 7. ベイビー・ホワッツ・ロング 2:50	ディスク:2 1. メンフィス 3:08 2. 悲しき願い 2:25 3. クラブ・ア・ゴー・ゴー 2:19 4. ロードランナー 2:49 5. ハレルヤ・アイ・ラヴ・ハー・ソー 2:49 6. ドント・ウォント・マッチ 3:22 7. アイ・ビリーヴ・トゥ・マイ・ソウル 3:28
ANY TROUBLE	いかしたあの娘		1980	ニューウェーブ	レコード	マンクニアのシンガー・ソングライター、クライブ・グレッグソンが前面に立つ80年代のバブロック/ニューウェーブバンドのデビュー・アルバム。パンクブームの余波を感じさせるシンプルでスピーディなR&Rでクライヴのペンによる楽曲はどれも親しみやすく、すんなり耳に入ってくる。初期のエルビスコストロを彷彿とさせる傑作盤。ギターやアコギがジャングリーにマイナーキーを多様した疾走8ビートが気持ちよく、哀愁メロディーも満載で好アルバム。	Side A 1. Second Choice 2. Playing Bogart 3. Foolish Pride 4. Nice Girls 5. Turning Up The Heat	Side B 1. Romance 2. The Hurt 3. Girls Are Always Right 4. Honolulu 5. (Get You Off) The Hook
APPLE	アップルの一日		1969	ロック	CD	英国'60年代カルト・サイケ・ポップ・グループ「アップル」の1969年唯一作にして、隠れた全11曲入り傑作アルバム。現在では、60年代のサイケポップスの名盤として再評価され、現在ではオリジナルLPが高値で取引されメガトン級のレア・アイテムになっている。サイケデリックな雰囲気がちらほらで、甘酸っぱい泣きメロの表現力は群を抜いています。特にギターとピアノが響き渡る(3)、ドライブウ感がたまらない(2)と深さは無いですが感情に直接訴えてくる音は素晴らしい。また、後半のカバー曲3曲が、ジェフベックグループのカバーRock Me Baby、ヤードバーズのカバーPsycho Daisies、ラヴィンスプーンフルもカバーしているSporting Lifeの3曲がそれぞれ手くカバーされているのに感動します。	1. ライン川を下って旅をしよう 2:59 2. ドクター・ロック 3:08 3. ジ・アザー・サイド 3:18 4. ミスター・ジョーンズ 2:51 5. メイビルライン 2:55 6. クイーン・オブ・ハーツ・ブルース 2:30 7. ロック・ミー・ベイビー 3:30 8. パッファロー・ビリーカン 3:05	9. フोटোগラフ 4:11 10. サイコデイズ 2:24 11. スポーツライフ 5:52 12. プリティガール私はあなたを愛して 2:43 13. Let's Take A Trip Down The Rhine 3:05 14. パッファロー・ビリーカン ((Single Ver) 3:08 15. ドクター・ロック ((Single Ver)
ARABEQUE	アラベスク・ファースト		1978	ディスコ	レコード	1978年発表ファースト・アルバム。西ドイツ(当時、現ドイツ)出身の女性3人組グループ。「ハロ-Mrモンキー」の大ヒットをきっかけにヒット曲を出し続けたアラベスク。彼女たちは発売するシングルすべてを日本で大ヒットさせ単にダンス・フロアだけの人気アーティストでなく、日本国内の音楽市場最大のポップ・アーティストに成長した。そして世界の音楽シーンで彼女たちは多くのフロワー(彼女たちを真似て登場したアーティストたち)を生み後にいわゆる「キャンディ・ポップ」という名称で括られるようになり文字通り一世を風靡する。	Side A 1. ハロー・ミスター・モンキー 2. フライ・ハイ 3. 貴方待って 4. マン・ウイズ・ザ・ガン 5. シックス・タイムズ・ア・デイ	Side B 1. バギー・ボーイ 2. フライ・デ・ナイト 3. キャッチ・ミー・タイガー 4. ギブ・イット・アップ 5. 愛のゲーム
ARABEQUE	グレイテストヒッツ		1981年	ディスコ	レコード	アラベスク初のベストアルバム。	Side A 1 In For A Penny, In For A Pound 2 Make Love Whenever You Can 3 Roller Star 4 Friday Night 5 Jingle Jangle Joe 6 High Life 7 Hello Mr. Monkey	Side B 1 Midnight Dancer 2 Peppermint Jack 3 Fly High Little Butterfly 4 Parties In A Penthouse 5 Rock Me After Midnight 6 Buggy Boy 7 Marigot Bay
ART GALLERY	アートウッズ		1966	ロック	CD	英国MODS名作! 60年代のロンドンきってのヒップR&Bバンドの唯一作。ディーブ・パープルのジョン・ロード、ブルースプレーカーズのキープ・ハートリー、ロン・ウッド(ローリングストーンズ)の実兄であるアーサー・ウッド等によるR&Bグループ、アートウッズがデッカから1966年にリリースした唯一のアルバム。全曲カヴァーによる熱い演奏はオリジナル・モッズの名作として人氣が高い1枚。アート・ウッドの荒くも痺れるヴォーカルがイカサモッズ・バンド。スローナードである「Stop And Think It Over」も見事に歌い、歌唱力の高さを見せてくれる。ジョン・ロード、キープ・ハートレイなど実力派揃いのバンド。やはりジョン・ロードの抜群にうまいオルガンプレイは際立っていて、後々全開するクラシカルな要素もちらほらと聞き取ることができます。『Routine』はピアノプレイが素晴らしい、コールドプレイ等のUK叙情ピアノメロを超えます。	1. Can You Hear Me 2. Down In The Valley 3. Things Get Better 4. Walk On The Wild Side 5. Keep Forgettin 6. Keep Lookin 7. One More Heartache 8. Work Work Work 9. Be My Lady 10. If You Gotta Make A Fool Of	以下、CDボーナス・トラック 13. Sweet Mary 14. If I Ever Get My Hands On You 15. Goodbye Sisters 16. She Knows What To Do 17. Take What I Want 18. I Feel Good 19. What Shall I Do 20. In The Deep End 21. These Boots Are Made For

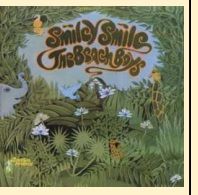
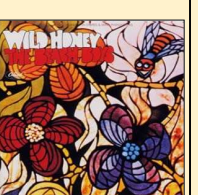
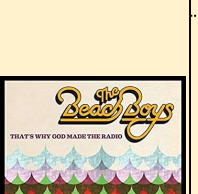
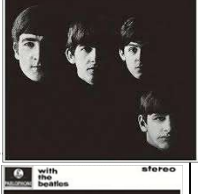
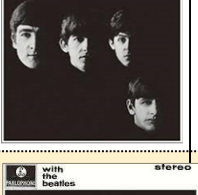
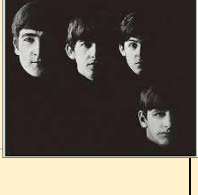
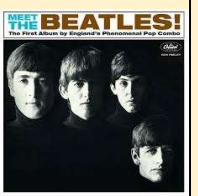
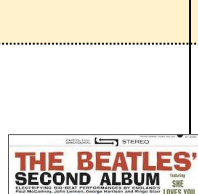
ART OF NOISE!	「誰がアート・オブ・ノイズを…」		1984	エレクトロニクス	レコード	「アート・オブ・ノイズ」の1stフルアルバム。前年に発売されたミニLP "Into Battle With The Art Of Noise" から「ビート・ボックス」「モーメント・イン・ラブ」2曲を残し、英国チャート8位を記録した「クローズ（トゥ・ザ・エッジ）」を始めとする新曲と差し替わっている。またこのアルバムリリース時に初めてメンバーの正体が発表となっている。 レーコーディングは実質アン・ダドリー、J.J.ジェクザリク、ゲーリー・ランガンの3人を中心に行われた。にもかかわらず、トレヴァー・ホーンにばかり脚光が当たったことを不服とした3人は1985年にZTTからチャイナ・レコードに移籍。後にミスター・マリクスのテーマで有名となった「レッグス」（1985）、バーチャルDJ、マックスヘッドルームをヒューチャーした「パラノミア」（1986）、グラミー賞受賞曲「ピーターガン」（1987）、トム・ジョーンズの復活作でプリンスのカーバー「キス」（1988）など次々にヒットを飛ばすこととなる。途中1987年にゲーリー・ランガンが多忙を理由に脱退、1990年にJ.J.は解散する。 82年作。まさに時代を変えた1枚と言える大ヒット作にして名盤、エイジアのデビュー・アルバム。 プログレのポップ化、コンパクトなコマーシャル性は、全てここから始まった。YES、KING CRIMSON、EL&P、そして更にUK、BUGGLESといった名バンドの集合体が、ここまでのサウンドを完成させると、一体どれ程の人が予想できたのか。彼等の残した大きな影響は、70年代プログレの生き残り方法を提示しただけではなく、他の多くのビッグ・バンドを刺激したとも言えるかもしれません。「ヒート・オブ・ザ・モーメント」や「時へのロマン」のシングル・ヒットは、ジャーニーやフォリナー、スティクスといったアメリカン・プログレ・ハードの隆盛にも貢献したと思います。本作で見られたポップ性ももちろん革新的でしたが、ロジャー・ディーンのアートワーク、SF的なコンセプトを持った歌詞世界、そして随所に見られるプログレサウンドの片鱗は、まさに彼等でしたし成し得なかった芸術性をも確立しています。 ジョン・ウェットン、スティーヴ・ハウ、カール・パーマーという超大物勢の中で、一人新鮮なメロディ・ス・ロック感覚を持ち込んでいたジェフリー・ダウンスの貢献も忘れる事はできない。	Side A - タイム・トゥ・ファイア - ビート・ボックス - スナッフショット - クローズ - フーズ・アフレイド	Side B - モーメント・イン・ラブ - モーメント - ハウ・トゥ・キル - リアライゼーション - クローズ・アップ
ASIA	詠時感〜時へのロマン〜		1982	プログレ	レコード	プログレのポップ化、コンパクトなコマーシャル性は、全てここから始まった。YES、KING CRIMSON、EL&P、そして更にUK、BUGGLESといった名バンドの集合体が、ここまでのサウンドを完成させると、一体どれ程の人が予想できたのか。彼等の残した大きな影響は、70年代プログレの生き残り方法を提示しただけではなく、他の多くのビッグ・バンドを刺激したとも言えるかもしれません。「ヒート・オブ・ザ・モーメント」や「時へのロマン」のシングル・ヒットは、ジャーニーやフォリナー、スティクスといったアメリカン・プログレ・ハードの隆盛にも貢献したと思います。本作で見られたポップ性ももちろん革新的でしたが、ロジャー・ディーンのアートワーク、SF的なコンセプトを持った歌詞世界、そして随所に見られるプログレサウンドの片鱗は、まさに彼等でしたし成し得なかった芸術性をも確立しています。 ジョン・ウェットン、スティーヴ・ハウ、カール・パーマーという超大物勢の中で、一人新鮮なメロディ・ス・ロック感覚を持ち込んでいたジェフリー・ダウンスの貢献も忘れる事はできない。	Side A - ヒート・オブ・ザ・モーメント - 時へのロマン "Only Time Will Tell" - 孤独のサヴァイヴァー "Sole Survivor" - ワン・ステップ・クロウサー - タイム・アゲイン	Side B - この夢の果てまで "Wildest Dreams" - ウィズアウト・ユー - 流れのままに "Cutting It Fine" - ときめきの面影 "Here Comes The Feeling"
ASIA	アルファ		1983年7月26日	プログレ	レコード	大ヒットしたファースト・アルバムから更にソング・オリエンテッドな方向性を志向した、1983年発表のセカンド・アルバム。本作もヒットを記録したが、前作ほどの巨大なセールスをあげることはできなかった。メンバーはデビュー時と変わらず、音楽性も前作の成功を踏襲している。よりポップでキャッチーな作風が展開され、ほとんどプログレッシブ・ロックの面影はない。シングルでは「ドント・クライ」と「偽りの微笑み」がヒットした。スティーブ・ハウの曲が採用されず、ギターの音が前作に比べて控えめになっている。しかし、エイジアにとっては本作が最後のヒットになり、その後はメンバー・チェンジなどが激しくなり、バンドは不安定な状態に入る。	Side A - ドント・クライ - 嘘りの微笑み - ネヴァー・イン・ア・ミリオン・イヤーズ - マイ・オウン・タイム - ザ・ヒート・ゴーズ・オン	Side B - 悲しみの瞳 - 時の旅人 - トゥルー・カラーズ - ミッドナイト・サン - 永遠の輝き
ASSOCIATES	碧い幻		1981	ニューウェイブ	レコード	1981年作のアソシエイツ。シングル集となる2ndアルバム『フォース・ドウロワー・ダウン』。スコットランド出身のシンガー、ビリー・マッケンジーとマルチ・インスト奏者アラン・ランキンによって1976年に結成されたポストパンク〜ニュー・ロマンティック系カルト・バンド。一般的には次のきらびやかなエレポップ名盤のSulkが有名だが、こちらも間違いない名盤で、実際には当時のシングルをまとめたアルバムだったが、とにかく邦題のとおり暗黒で美しいエレポップで、不思議にリビートしたくなる麻薬のようなアルバムである。国内盤レコードが出た当時は、パワハウスやエコパニなど、イギリスの今でいうゴシックロックがちよっとしたブームとなっていた。	Side A - White Car In Germany - A Girl Named Property - Kitchen Person - Q Quarters	Side B - Tell Me Easter's On Friday - The Associate - Message Oblique Speech - An Even Whiter Car
ASSOCIATES	サルク		1982	ニューウェイブ	レコード	アソシエイツの1982年作の3rdアルバム『サルク』はアソシエイツらしさが最もよくでたラスト・アルバム。ヒット曲「Party Fears Two」「Club Country」「18 Carat Love Affair」を含む彼らの最も成功したアルバム。アソシエイツは、1980年代初頭のチャートを揺るがしたニュー・ポップ革命の中心部において、ポスト・パンク勢の味気ないモトーンの音楽に対しスタイリッシュに反抗した。ニューロマンティックなシンセ・ポップ・サウンドにダークでシュールなキャバレー風要素が融合した彼らのサウンドの最高到達点的作品とも呼べそうなこのアルバムは、全英アルバム・チャートのTOP10に輝き、メロディ・メイカー誌の"アルバム・オブ・ジ・イヤー"を獲得した。その後、マッケンジーは1997年に自殺しようが、生前彼は『SULK』は真の解放だった。ありのままの自分の本質がここに反映されている。自分で自分の太陽を作り出すことができると気づいた作品なんだ」と言っていた。	Side A - It's Better This Way - Party Fears Two - Club Country - Love Hangover 18 Carat Love Affair	Side B - Arrogance Gave Him Up - No - Skiping - White Car In Germany - Gloomy Sunday - The Associate
ATHLETICO SPIZZ 80			1980	ニューウェイブ	レコード	1970年代後半のイギリス、ヴォーカル＆ギターのスピッツ（本名ケネス・スピアーズ）を中心に結成（SPIZZ → SPIZZ OIL → SPIZZENERGI と次々に名前を変えいった）されたのが、ラフト・レードからシングルを5枚リリースするが、本作は1980年に彼らが「ATHLETICO SPIZZ 80」名義で大手A&Mから出したデビュー・アルバム『DO A RUNNER』。ねじれた演奏がギクシャクと暴れる「European Heroes」、ダンサンブルなニューウェーブ・ファンク・グルーヴが交錯する「New Species」など、DEVOにも通じる屈折サウンドは、今聴いても新鮮だ。原始的なテクノ・ポップ風鍵盤もありのポスト・パンクで、歌メロがまるでジェットコースターのように上下するのが特徴。強いて言えば、バリー・アンドリューズが在籍した初期XTCIに近いニュアンス。	Side A - Touched 2:40 - New Species 2:21 - Intimate 2:00 - Effortless 3:00 - European Heroes 2:10 - Energy Crisis 4:38	Side B - Red And Black 3:48 - The Rhythm Inside2:30 - Personimpersonator 2:40 - Clocks Are Big 0:32 - Airships 8:41
ATLANTICS	青春の叫び		1979	ニューウェイブ	レコード	76年にボストンで結成した5人組アトランティックスのファーストアルバムで唯一のアルバム。エネルギーギッシュでストレートなロックンロールは、まさにまるで現代の世界を反抗するように、自分たちの青春のエネルギーとして、体中で発散させるようなサウンドで、ちょっぴりメジャー寄りな感じなメロディでパワーポップの隠れた名盤だ。とにかく全曲が素晴らしい。かなりハードでドライブのかかったロックンロールこそ、アトランティスの真の魅力と考える。特に1曲目「ワン・ラスト・ナイト」からエンジン全開で飛ばしていく。続く「青春の叫び」や最後の「ビッグ・シティ・ロック」をはじめ佳曲揃いで最後まで突っ走っていくメロディは素晴らしいが、オーソドックスすぎたのか売れなかったが、とにかく惜しまれるバンドだ。その後、一部で評価されライブアルバムも発売したらしい。もしじかした80年以降に出ていたらもっと売れたんでは？	Side A - ワン・ラスト・ナイト2:59 - 青春の叫び When You're Young 2:32 - テレビジョン・ガール 2:53 - 恋にショック I Can't Help It 3:14 - モダン・タイム 5:53	Side B - ノー・ホエア・トゥ・ラン 3:29 - あの娘に夢中 Waiting For My Baby 2:34 - ソー・ロング 3:32 - 悩める十代 Teenage Flu 2:32 - ビッグ・シティ・ロック 3:27
ATLANTICS	青春の叫び		1979	ニューウェイブ	レコード			
ATOMIC ROOSTER	アトミック・ルースター・ファースト・アルバム		1970	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	ヴィンセント・クレイン率いるアトミック・ルースターの1970年発表のデビュー・アルバム。カール・パーマー、ニック・グラムとの3人編成にて、ハード・ロックとプログレッシブ・ロックをブレンドさせた記念すべき作品。基本、ナイス、EL&P、やクォーターマス同様のキーボードのトリオですが、グラハムはかなりの曲でギターも披露しており、ブルーズ・ベースのハード・ロック的感覚が強いです。グラハムがギターを操るときは、ヴィンセントがベース・ペダルを踏んでいるので、しょう。硬質なオルガンと錆錆のギター、あの感じです。音楽的中心はヴィンセントで、クレイジー・ワールド・オヴ・アーサー・ブラウン時代から直結するメロディが出てきたりします。ジョン・メイオールのアンノイな歌 BROKEN WINGSがおもいきりダイナミックにかヴァーされています。「いざ出陣のとき！ 今城門は開かれる！」な巨編スペクタクルなプラス群に導かれ、グラハムは野獣のようにブルーズをがなり立てます。ゆっくりと高揚する展開が圧巻。	Side A - Friday The Thirteenth - And So To Bed - Broken Wings - Before Tomorrow	Side B - Banstead - S.L.Y. - Winter - Decline & Fall
ATOMIC ROOSTER	(パーパースリーブ仕様)アトミック・ルースター・ファースト・アルバム		1970	ハードロック&ヘヴィメタル	CD			
ANDY GIBB	シャドー・ダンシング		1978	ポップス	レコード	全米アルバム・チャート7位。(1978年)全米シングル・チャート1位「シャドー・ダンシング」、同5位「永遠の愛」、同9位「愛をすてないで」収録のセカンド・アルバム!1978年4月に2NDアルバム『シャドウ・ダンシング』を発表。このアルバムのタイトル・トラックギブ4兄弟によって書かれた曲)はシングルとして発売されると、アメリカで7週連続1位となり、プラチナレコードを記録した。ビルボード・ホット100で3曲連続でナンバー1ヒットを記録する。アンディは初めてのソロ・シンガーとなった。このアルバムには他にトップ10ヒットが2曲(「永遠の愛」(最高5位)、「愛を捨てないで」(最高9位))が収録され、このアルバムもミリオン・セラーとなった。	Side A - シャドー・ダンシング - ホワイ - フル・フォー・ア・ナイト - 永遠の愛 - 愛をすてないで	Side B - 夢のほほえみ - 愛のメロディ - アイ・ゴ・フォー・ユー - グッド・フィーリング - 愛するキミを待って
ANTI NOWHERE LEAGUE	ウィ・アー・ザ・リーグ			パンク	レコード	「ホーガルのAnimal(「アニマル」)ことNick Culmer(元、葉足旗)の野太い唄声とヴォイド&ダーティーな噓せ返る程に男臭いサウンドが詰まった'82年リリースの歴史的な名盤ファーストアルバム。シンプルなコード進行の曲にメロディは結構ポップで、そこへアニマルの野生的な野太い声ハードで曲にマッチし、これぞパンクといった感じで高連な曲が行きつく暇も無く連続で炸裂する。ピストルズからの影響が強く感じ、ピストルズが好きな人にとっては是非お勧めで聴いていただきたいアルバムだ。特に曲が素晴らしい捨て曲なしで、パンクアルバムの中でも5本の指に入ってもいい傑作アルバムだ。 その中でも、拳もハートも熱くなる「Street Of London」やメタリカがカバーした「So What」、メオスがカバーした「I Hate...People」がお勧めで全12曲収録。また、初回プレスで問題となった、A-2(Animal)の歌詞が「私は児童性的虐待者です」をセカンドプレスで「私はあなたの隣人で	Side A - We're The League - Animal - Woman - Can't Stand Rock 'N' Roll (We Will Not) Remember You - Snowman	Side B - Streets Of London - I Hate... People (remix) - Reck-A-Nowhere - World War III - Nowhere Man - Lets Break The Law
ANTI NOWHERE LEAGUE	ウィ・アー・ザ・リーグ			パンク	レコード	初代草創メンバーの一人、Nick Culmer(元、葉足旗)の野太い唄声とヴォイド&ダーティーな噓せ返る程に男臭いサウンドが詰まった'82年リリースの歴史的な名盤ファーストアルバム。シンプルなコード進行の曲にメロディは結構ポップで、そこへアニマルの野生的な野太い声ハードで曲にマッチし、これぞパンクといった感じで高連な曲が行きつく暇も無く連続で炸裂する。ピストルズからの影響が強く感じ、ピストルズが好きな人にとっては是非お勧めで聴いていただきたいアルバムだ。特に曲が素晴らしい捨て曲なしで、パンクアルバムの中でも5本の指に入ってもいい傑作アルバムだ。 その後、デビューアルバムWe Are...The Leagueをリリース。しかし、アニマルが3FTもの斧を持ち歩いてた為、危険とされ、レコードストアからアルバムは全て回収、ラジオ局からも撤去される。1983年に「ギリ」(本名: マーク・ギリハム)が追加のギタリストとしてバンドに加わる。理由は、Magoo(マギー)が度々、飲み過ぎによりギターを弾けなくなった為とのこと。同年ライブアルバムを制作「ライブ・イン・ユーゴスラビア」をリリース。1984年にPJ(ピー・ジェー)が首になり、理由はバンドのメンバーのアルコールとドラッグのライフスタイルに馴染めなかった為。1985年に「マイケル・ベッテル」がドラマーとして加わる。1986年にJB(ジョナサン・ビリック)が次いで入る。同年に「GWRLコード」と契約が決まり「パーフェクト・クライム」を制作。しかし、またもや問題発生で、バンドはついに1978年に解散。その後、マイケル・ベッテルが脳腫瘍により41歳にて死去。1992年に再結成する。	以下、ボーナスシングル Side A ROCKER	Side B SO WHAT
ANTI NOWHERE LEAGUE	ザ・ベスト・オブ・アンティ・ノー・ウェアリーグ			パンク	レコード	1996年にリリースされたコンピレーションアルバムでありベスト盤。METALLICAがカバーした A ① 1981年のデビューシングル "Streets Of London" ロンドン橋落ちた』で始まる曲はポップでダーティ。A② "So What" はMETALLICAがカバーした曲などロンドンパンクが炸裂。B面に入ると若干フロン・カールスタイルが変わり B⑥ "On The Waterfront" なんかポストパンクというかニューウェーブっぽい良い曲等、全14曲にボーナスのシングルディスクはライブテイク2曲収録。	Side A - Streets Of London - So What - I Hate People - We Are The League - Let's Break The Law - Animal - Woman - Rocker	Side B - For You - Ballad Of JJ Decay - Out On The Wasteland - We Will Survive - Queen And Country - On The Waterfront 以下、ボーナスシングル Side C:Let The Country Feed You (Live)

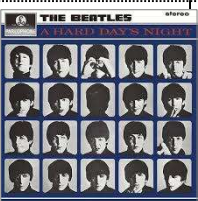
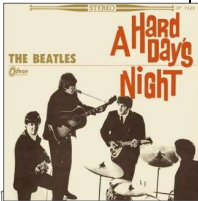
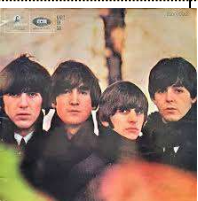
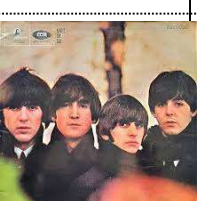
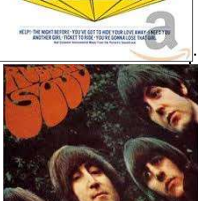
	AZTEC CAMERA	君に捧げる青春風景		1983	ネオアコ	レコード	アズテック・カメラはシンガー・ソングライター/ギターのロディ・フレームが中心となって1980年に結成された。翌年にはスコットランドのインディ・ポストカード”からシングル2枚をリリース。そして83年には「ラフトレード」からデビュー・アルバムにして歴史に残る名作である『ハイ・ランド、ハード・レイン』を発表。アズテック・カメラはネオアコ・ギターポップの重要バンドで、ジャズ、ラテン・ソウルなど生誕まジャンルを融合させたサウンドで衝撃のデビューアルバムでありネオアコの大名盤。 1曲目の「思い出のサニー・ビート (原題: Oblivious)」はラフトレードからの第二弾シングルで、彼らの代表曲のひとつ。青春映画のタイトルトラックとしても使えそうな、トロピカルムードあふれる軽快なナンバーで、後の渋谷系ミュージシャンたちにも大きな影響を与えた。3曲目の「ウオーク・アウト・トゥ・ウインター」は、ネオアコ全体を代表する名曲中の名曲。他にも「ピラー・トゥ・ポスト」や「バック・オン・ボード」など、アズテック・カメラの代表曲というだけでなく、ネオアコの代表曲がいっぱい詰まっている。彼らのエレガントで躍動感あふれる透明な瑞々しいサウンドとポップセンスと哀愁が漂う感じがたまりません。	Side A 1. 思い出のサニー・ビート Oblivious 2. ザ・ボーイ・ワンダーズ 3. ウォーク・アウト・トゥ・ウインター 4. ザ・ビュグル・サウンズ・アゲイン 5. ウィ・クッド・センド・レターズ	Side B 1. ピラー・トゥ・ポスト 2. リリース 3. ロスト・アウトサイド・ザ・トンネル 4. バック・オン・ボード 5. ダウン・ザ・ディップ
	AZTEC CAMERA	君に捧げる青春風景		1983	ネオアコ	レコード			
	AZTEC CAMERA	君に捧げる青春風景		1983	ネオアコ	CD		以下、CD 11. ヘイワイアー 12. オーキッド・ガール 13. クイーンズ・タトゥーズ	
	AZTEC CAMERA	ナイフ		1984	ネオアコ	レコード	アズテック・カメラの2作目。Roddy Frameのこれからの可能性を示唆する本能的なすばらしさが見られた最初の作品である。『High Land, Hard Rain』で当代で最もヒッピー的なスターとして鮮烈なデビューを飾った彼は、このアルバムではMark Knopflerをプロデューサーに迎え、これまで以上にファッションブルに仕上がりになった。このアルバムを聴くと、Frameはまだ若く、進歩的であること、今後も期待できることが分かる。『Knife』は、巨匠たちがアコースティックでやっていったことをエレキでやってのけたものであり、『High Land, Hard Rain』のときのような不安定さを克服した良いアルバムではあるが、評価は高くない。第1曲目の『Still On Fire』は、Jackson Fiveの『I Want You Back』のようなリズム感があり、Frameのベストシングルになろうとしている。他にもバラードの『Just Like the USA』や、『Head Is Happy (Heart's Insane)』を聴くと、Roddy Frameの音楽は大胆で、いずれにしても過小評価されるということが分かるだろう。	Side A 1. Still On Fire 2. Just Like The USA 3. Head Is Happy 4. Backdoor To Heaven	Side B 1. All I Need Is Everything 2. Backwards And Forwards 3. Birth Of The True 4. Knife
	AZTEC CAMERA	ラヴ		1987	ネオアコ	CD	“ネオ・アコースティック・ムーヴメント”の牽引者、アズテック・カメラが初めて行ったアメリカ・レコーディング。「イン・マイ・ハート」、「ハウ・メン・アー」に代表される珠玉のヒットを収録したソウルフルな傑作3rdアルバム。スコティッシュ風味で、全英3位を獲得した(5)や、“Oblivious” in LA Styleといったかんじの(1)、ロディー・節としか言いようのない伸びやかなメロディの中にHi Sound 好きが顔を出す(4)などがやはり聴き所です。そして、ラストは名曲「Killermont Street”です。フォーク・ロックとソウル・ミュージックが融合された感じの傑作アルバム。初期のいかにもネオアコ然とした瑞々しさ愛するファンからは、売れ線に走った作品とも捉えられがちですが、本作や次作『Stray』での試行錯誤があったからこそ、『Dreamland』以降、本当の意味でのオリジナリティーを確立できたのだと思います。	1. ディープ・アンド・ワイド 2. ハウ・メン・アー 3. エヴリバディ 4. モア・ザン・ア・ロー 5. イン・マイ・ハート 6. ワーキング・イン・ゴールドマイン 7. ワン&ワン 8. パラダイス 9. キーラモント・ストリート	
	BABYS	ベイビーズ		1976	ハードロック	レコード	1976年発表の1stアルバム。ストライダーのドラム、トニー・ブロックが1976年にボーカルのジョン・ウェイトがベースも兼任、ギター、キーボード、ドラムの4人編成。ジョン・ウェイトはハンブル・バイのスティーブ・マリOTTやフリーのポール・ロジャースに傾倒しているらしく、「ダイニング・マン」によくに全般的にソウルフルな歌い方だ。イギリス特有の影があり、明るい曲は少ない。結成したバンド。全員イギリス人なのでブリティッシュ・ロック。後にソロやバンド・イングリッシュで活躍したJ・ウェイトも在籍した「ベイビーズ」の記念すべきデビュー作。“If You've Got The Time”がアメリカ・チャート入り。J・ウェイトというスーパー・ボーカリストがいるのみならず、ギターとドラムはその後R・ステュアートのバンドメンバーともなるなど実は辣腕揃い。ギターを中心としたパワーポップの走りとしても、もっと再評価されてしかるべき作品。	Side A 1. Looking for Love - 4:43 2. If You've Got the Time - 2:38 3. I Believe in Love - 4:17 4. Wild Man - 3:29 5. Laura - 5:02	Side B 1. I Love How You Love Me - 2:21 2. Rodeo (John Waite) - 2:58 3. Over and Over - 4:47 4. Read My Stars - 2:43 5. Dying Man - 6:30
	BAD COMPANY	バッド・カンパニー		1974	ハードロック & ヘヴィメタル	レコード	元プリニーのボーカリスト、ポール・ロジャースを中心に、同じプリニーから、ドラムのサイモン・カークを引き連れ、モット・ザ・フープルのギタリスト、ミック・ラルフス、そして、キング・クリムゾンに首になったベーシスト、ボズ・バレルという強力な布陣で臨んだバッド・カンパニーは、メンバーの豪華さからスーパー・バンドと騒がれ、記念すべきファースト・アルバムにして歴史的大名盤。FREEの様にブルースを直接的に取り入れるのではなく、あくまでもブルージーでありながらメロディはキャッチー、聴きようによってはかなりポップであったのが新鮮だったのだと思います。 本国イギリスよりアメリカで大きな支持を受けたのは、このロザめる大衆性があったからでしょう。 バンドの基本もしっかりとしたリズム隊に色気のあるギターが絡み、巧いヴォーカルが乗っかるという極めてオーソドックスなものが、この味こそがロックの不変の黄金比であった気がします。 ソウルフルでありながら、けっして感情過多にならない、良く言われる煮えきらないヴォーカルも、何度聴いても飽きないものになっています。小粒ながら収録曲全てが、シングル・カット可能だった完成度の高さも見逃せません。そのシンプルなジャケットのデザインと同様、無駄な飾りは一切無い、純度100%のブリティッシュ・ハードとなっています。	Side A 1. キヤント・ゲット・イナフ 2. ロック・ステディ 3. レディ・フォー・ラヴ 4. ドント・レット・ミー・ダウン	Side B 1. バッド・カンパニー 2. ザ・ウェイ・アイ・チューズ 3. ムーヴィン・オン 4. シーガル
	BAD COMPANY	バーニング・スカイ		1976	ハードロック & ヘヴィメタル	レコード	76年作、バッド・カンパニーの通産4枚目となったアルバムで、日本人にとってははっぴとハチマキをしたポール・ロジャースの姿が親しみ深い1枚です。バンクの嵐が吹き荒れる中、彼等の人気も下降をたどりましたが、内容はけっして悪くありません。これをバッドカン節と言うべきアルバム・タイトル曲から始まり、緩急のバランスが見事な構成となっています。合間に挟まれるスロー・ナンバーと、今までになくポップな曲調が目立つナンバー等、バラエティ豊かな傑作です。	Side A 1.バーニン・スカイ 2.モーニング・サン 3.リーヴィング・ユー 4.ライク・ウォーター 5.燃えるヤング・ラヴ	Side B 1. ハートビート 2. ビース・オブ・マインド 3. バッシング・タイム 4. トゥー・バッド 5. マン・ニーズ・ウーマン 6. マスター・オブ・セレモニー
	BADFINGER	マジック・クリスチャン・ミュージック		1970年1月9日	ロック	レコード	70年作、ブリティッシュ・ポップの永遠の二番手、バッドフィンガーの記念すべきファースト・アルバムです。 彼等の名前はパワー・ポップという甘美な響きのする言葉がロックの世界に存在し続ける限り、ずっと語られ続けると思います。アイヴィーズからバンド名を変更し、アップル・レコードからビートルズの弟分として再デビューとなった本作はジャケットも変更して発売。そのメロディ（は甘さ）とせつなさが詰まった大名盤となっています。プロデュースも手掛けたポール・マッカートニー提供作の「Come and get it」すらも色褪せて見えるポップ・センスがまばゆいばかり、と言ってしまうのは大袈裟でしょうか。後のグラム・ロックへと繋がるトニー・ウィズコンティのキラキラした仕事も見逃せません。悲劇的な運命を辿るバンドですが、改めて聴くとその影がちらついているかの様に響く哀愁感が何とも言えません。	Side A 1. マジック・クリスチャンのテーマ Come and Get It (Paul McCartney) 2:21 2. クリムゾン・シップ 3:42 3. いとしのアンジー - Dear Angie 2:39 4. フィッシュマン 2:24 5. ミッドナイト・サン 2:46 6. 美しく青く - Beautiful and Blue 3:46	Side B 1. ロック・オブ・オール・エイジス 3:16 2. 明日の風 - Carry on Till Tomorrow 4:47 3. 愛のとりこに - I'm in Love 2:26 4. 雨の散歩道 - Walk Out in the Rain 3:27 5. アンジェリーク 2:28 6. ノックン・ダウン・アワ・ホーム 3:46
	BADFINGER	(ペーパーズ・リーブ仕様) マジック・クリスチャン・ミュージック		1970年1月9日	ロック	CD			
	BADFINGER	(ペーパーズ・リーブ仕様) ノー・ダイス		1970年11月	ロック	CD	バッドフィンガーの1970年にリリースしたサードアルバム。バンド名を“アイヴィーズ”から変更してからは、2作目のアルバム。ジョーイ・モラランドが新ギタリストとして加入して、トム・エヴァンズは本作から主にベースを担当するようになった。大部分の曲では、ビートルズとの仕事で知られるジェフ・エメリックがプロデューサーを務めたが、「嵐の恋」と「ピリーヴ・ミー」は、ビートルズのロード・マネージャーであったマル・エヴァンズがプロデュースし。本作からシングル・カットされた「嵐の恋」は、全英5位・全米8位に達した。また、収録曲「ウィズアウト・ユー」は、後にハリ・ニルソンやマライア・キャリーによるカヴァー・ヴァージョンが大ヒットして、スタンダード・ナンバーとなった。	1. アイ・キャント・テイク・イット 2:54 2. アイ・ドント・マインド 3:13 3. ラヴ・ミー・ドゥ 2:57 4. ミッドナイト・コーラー 2:48 5. 嵐の恋 No Matter What 2:59 6. ウィズアウト・ユー 4:42	7. ブラッドウィン 3:24 8. ベター・デイズ 3:59 9. イット・ハット・トゥ・ビー 2:57 10. ワット・フォード・ジョン 3:21 11. ピリーヴ・ミー 2:58 12. ウィアー・フォー・ザ・ダーク 3:51
	BADFINGER	ストレート・アップ		1971年12月	ロック	レコード	71年リリースの4枚目のアルバム。ブリティッシュ・ポップ・ファンにとっては、現在でもせつなく甘いバンドであるバッドフィンガーの3作目にして、最高傑作と呼ばれる1枚です。ビートルズの恩恵を受け、そしてその直系のサウンドを引き継いできたバンドとして有名であり、彼等の名は永遠のパワー・ポップ・バンドとして語られています。色んなバンドがパワー・ポップ・サウンドから受けてきた影響は説明するまでも無く明らかに大きいはずで、歴史を紐解く時、このバンドの存在を無視するわけにはいきません。本作のプロデュースはジョージ・ハリスとトッド・ラングレンという、今では叶わぬ黄金タッグです。ビートルズ譲りのメロディから、現在にまで繋がる胸キュン系パワー・ポップ・ナンバーが堪能できます。 哀愁感も漂う美しいメロディは、このバンドの悲劇的な運命を予期しているかの様にも響きますが、とにかく曲の良さは奇跡的だと思います	1. テイク・イット・オール 4:26 2. ベイビー・ブルー 3:36 3. マネー - Money 3:29 4. フライイング - Flying 2:35 5. アイド・ダイ・ベイベ 2:33 6. ネイム・オブ・ザ・ゲーム 5:19	1. スーツケース 2:52 2. スウィート・チューズデイ・モーニング 2:29 3. デイ・アフター・デイ 3:10 4. サムタイムズ 2:51 5. パーフェクション 5:07 6. イッツ・オーヴァー 3:24
	BADFINGER	(ペーパーズ・リーブ仕様) アス		1973	ロック	CD	1973年リリースの5枚目のアルバム。残念なことこのアルバムでバッドフィンガーはアップルを離れてしまう。ご存じのようにアップル内部のごたごたのせいでメリー・ホプキンや彼らのような有能なアーティストは居場所がなくなってしまった。 そんなアップルに別れを告げるM-11は唯一前作までのピートらしさが感じられる。レーベル移籍に悩んだリーダーのピート・ハムに精彩がなく、代わりにジョーイ・モラランドが大活躍している。これは英国人がアメリカンロックをやったらどうなるかという一つの解答みたいなアルバムだ。 M-2〜4、6、9とジョーイの曲が半数を占め、前作に比べキーボードよりギター主導のハードなプレイが目立つ。そんな中トム・エヴァンズのM-7がとてもチャミングでメロディが美しい。	1. アップル・オブ・マイ・アイ 2. ゲッタウェイ 3. アイシクルズ 4. ザ・ウィナー 5. ブラインド・アウル	6. コンシディチュエション 7. ホエン・アイ・セイ 8. カウボーイ 9. アイ・キャン・ラヴ・ユー 10・タイムレス - 以下、CDボーナス・トラック 11. ドゥ・ユー・マインド
	BADFINGER	涙の旅路		1974年	ロック	レコード	1974年リリースのバッドフィンガーの6枚目のアルバム。名曲揃いの中期の大傑作。感傷的な1. でしっかりと心を掴みながら、開放的な2. で思いつきリフのめしてくる。名曲揃いのワーナー・移籍第一弾。個人的にはバッドフィンガーで一番の愛聴盤です。73年末にはアップル最後になる「ASS」を発表し、翌74年はワーナーへ移籍して本作と「WISH YOU WERE HERE」と2枚のアルバム発表と、最も精力的な活動を行っていた時期の作品で、おまけにタイトルはグループ名そのものの「BADFINGER」(国内盤は「涙の旅路」)。自信が強く際立ちます。実際にベスト・オブ・バッド・フィンガーというオフィシャル編集盤には1、2、4、10、11. の5曲が収録されるほどの作品です。エレビがいい味を出している一押し8. はメロウでありながらちょっぴり寂し気なバッドフィンガーらしい佳曲。捨て曲無しの名盤です。シングルヒット曲が含まれていないせいかセールスは良くなかったらしいですが、曲の随所にバッド・フィンガーらしさというか、バラエティに富んだ中にもメロディメーカーとしてのピート・ハムの良さとプロデュースしたクリスト・トーマスのセンスが魅力的なアルバムとなっています。全米131位	Side A 1. 涙の旅路 2. シャイン・オン 3. ラヴ・イズ・イージー 4. 夢はいずこへ 5. ホワイ・ドント・ウィ・トーク 6. アイランド	Side B 1. マッテッド・スパム 2. さすらいの道 3. マイ・ハート・ゴーズ・アウト 4. ロンリー・ユー 5. ギヴ・イット・アップ 6. アンディ・ノリス

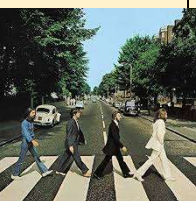
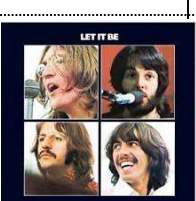
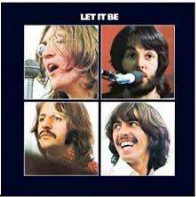
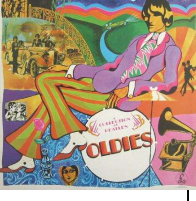
BADFINGER			1974	ロック	レコード	ワーナー時代に発表した『BADFINGER』と『WISH YOU WERE HERE』の2枚から曲を1枚分だけ抜粋したアルバム。1曲目のP.HAMが作った「I Miss You」は「WITHOUT YOU」に匹敵する名曲だと思えます。シンプルなアレンジだからこそ美しさがわかるバラード。さらに続くP.HAMとT.EVANSが作ったタイトル曲「SHINE ON」はカントリーフレーバーが漂う名曲。このアルバムの中でも1位2位を争うくらい曲。アレンジも素晴らしいですし、何よりものびのびとした雰囲気、彼等らしくて、聴いていて嬉しくなる曲なんです。 やはりこのバンドはP.HAMとT.EVANSが作り出すサウンドが全てのような気がします。そういう意味ではJ.MOLLANDが作った「Love Is Easy」は悪くないのですが、ヴォーカルの弱さやツメの甘さが出てしまっています。同じ事が「Andy Norris」「Island」でも言えます。やたらギターの音が前に出てしまっでヴォーカルが見えてきません。「Island」は曲としてはバッド・カンパニー風で、いい雰囲気ではあるのであと一歩前にでていたら良かったの!と思います。「Song for a Lost Friend」などP.HAMの特長がよく出た佳曲なんですけど、プロデューサーがクリス・トーマスじゃなく、ジョージ・マーティンだったらもっと曲が生きていたのではないのでしょうか。このアルバムにはそういう曲が幾つかあって、もう一度取り直してほしかったです。T.EVANSの「Why Don't We Talk」はバックでエレキギターがジャカジャカになっていて、曲の素晴らしさが打ち消されてしまっています。エレキがアコギに変わっただけで印象は良くなると勝手に思っているのですが・・・このアルバムにはP.HAMが作った曲(共作)が7曲入っているのですが、タイトル曲や「I Miss You」と共に素晴らしいのが「Lonely You」です。こうやって素晴らしい曲を聴くと、彼等の才能の凄さをあらためて認識させられます。「Know One Knows」なんですけど曲の途中で日本人の女性が「誰も知らない、誰も知らない・・・」と言っているが、この女性はサディステック・ミカ・バンドのミカ	Side A 1. I Miss You 2:32 2. Shine On 2:47 3. Love Is Easy 3:06 4. Song For A Lost Friend 2:53 5. Why Don't We Talk? 3:41 6. Island 3:38	Side B 1. Lonely You 3:43 2. Andy Norris 2:59 3. In The Meantime, Some Other Time 6:44 4. Just A Chance 2:56 5. Know One Knows 3:13 6. Dennis 5:17
BADFINGER	ガラスの恋人		1979	ロック	レコード	ジョーイ・モランドとトム・エヴァンスに加えアンディ・ニューマーク(ds.)らセッション・マンの協力を得た完成を見た再結成アルバム。	Side A 1. エアーウェイヴズ 2. ルック・アウト・カリフォルニア 3. 美しき愛のゆくえ /Lost InSide Your Love 4. ガラスの恋人 /Love Is Gonna Come At Last 5. シンパシー	Side B 1. ザ・ウィナー 2. ザ・ドリーマー 3. カム・ダウン・ハード 4. セイル・ワウェイ
BADFINGER	ザ・ベスト・オブ・バッドフィンガー		1995	ロック	CD	ザ・ビートルズが設立したアップルに残した4枚のアルバム(70~74年)から選曲されたベスト。中心メンバーの2人が75年と83年に自殺するという悲劇を思うと特に美しいコーラスの曲など涙だ。各アルバムから年代順にバランスよく収録されている。特に、10曲目の「ウィズ・アウト・ユー」はニルソンがカバーしてヒットして有名だが、その後マリア・キャリーもカバーして全米1位を記録した名曲。「嵐の恋」「デイ・アフター・デイ」「ベイビー・ブルー」など名曲を収録。	1. マジック・クリスチャンのテーマ 2. メイビー・トゥモロウ 3. ロック・オブ・オール・エイジス 4. いとしのアンジー 5. 明日の風 6. 嵐の恋 7. ビリーヴ・ミー 8. ミッドナイト・コーラー 9. ベター・デイズ 10. ウィズアウト・ユー	11. テイク・イット・オール 12. マネー 13. フライング 14. ネイム・オブ・ザ・ゲーム 15. スーツケース 16. デイ・アフター・デイ 17. ベイビー・ブルー 18. ホエン・アイ・セイ 19. アイシクルズ 20. アイ・キャン・ラヴ・ユー
BANANARAM A	キューティー・ハート		1983年3月7日	ニューウェーブ	レコード	英国3人組ガールバンドのデビューから実に一年半程経過し1983年にリリースされたバナナラムのファーストアルバム。イギリスのバンク〜New Waveシーンから飛び出たアイドル・グループの彼女達のデビュー・アルバム。投げやりなユニゾンで歌う歌い方は新鮮で、次々とシングル・ヒットを重ねていった。日本だけでリリースした「ハート・ワクワク」など、ユーロビート路線以前の彼女達の姿が堪能出来る。キャッチーなポップナンバー茶目っ気と甘酸っぱさが同居したポップアルバムの名盤。全英アルバムチャートでは8位を記録。	Side A 1. シャイ・ボーイ 3:16 2. ドクター・ラブ 3:42 3. ホワット・ア・シャンブルズ 3:34 4. ハート・ワクワク(He's Got Tact) (日本盤ボーナストラック) 2:57 5. リアリー・セイイング・サムシング 2:45 6. パナナドリーム 3:31	Side B 1. アイ・ア・ムアナ 3:36 2. ヤング・アット・ハート 3:13 3. ナナ・ヘイ・ヘイ・キス・ヒム・グッバイ 3:30 4. ヘイ・ヤング・ロンドン 3:55 5. ボーイ・トラブル 3:14 6. ハイダーリン 3:41 ※オリジナル盤はB面1の「アイ・ア・ムアナ」がA面の6曲目で、B面2の「ハート・ワクワク」がB面の7曲目
BAND	ミュージック・フロム・ビッグ・ピンク		1968	アメリカンロック	レコード	1968年に発表したデビュー・アルバム。サイケデリックブーム真っ盛りの1968年初めにレコーディングされた。しかしその流れとは正反対に、ザ・バンドのメンバーは従来のR&Bやゴスペルなどの黒人音楽と、カントリーやトラディショナルソングなどの白人音楽とが融合したサウンドを作り上げた。「ビッグ・ピンク」とは、ザ・バンドとボブ・ディランが一時借りていた住居の通称である。住居の側壁がピンク色に塗装されている事に由来している。アルバム・タイトルは、本作の音楽がビッグ・ピンクで録音されたものという印象を与えるが、実際にはニューヨークのA&Rスタジオロサンゼルス・ゴールド・スター・スタジオで録音が行われている。ビッグ・ピンクは所有者を変え、現在も住時の外観を留め現存している。	Side A 1. 怒りの涙 Tears of Rage 5:23 2. トゥ・キングダム・カム 3:22 3. イン・ア・ステイション 3:34 4. カレドニア・ミッション 2:59 5. ザ・ウェイト 4:38	Side B 1. ウィ・キャン・トーク 3:06 2. ロング・ブラック・ベール 3:06 3. チェスト・フィーバー 5:18 4. 悲しきスージー “Lonesome Suzie” 4:04 5. 火の車 “This Wheel’s on Fire” 3:14 6. アイ・シャル・ビー・リリスト 3:19
BAND	ミュージック・フロム・ビッグ・ピンク		1968	アメリカンロック	CD	ザ・バンドは、4名のカナダ人と1名のアーカンソー州出身者から成る5人組。	1. 怒りの涙 2. トゥ・キングダム・カム 3. イン・ア・ステイション 4. カレドニア・ミッション 5. ザ・ウェイト 6. ウィ・キャン・トーク	7. ロング・ブラック・ベール 8. チェスト・フィーバー 9. 悲しきスージー 10. 火の車 11. アイ・シャル・ビー・リリスト
BAND	ザ・バンド		1969年	アメリカンロック	レコード	俗に“ブラウン・アルバム”として知られている本作は、ザ・バンドという偉大なグループを語る際には、真っ先に名前が挙がるアルバムだ。このセカンド・アルバムは、彼らの他のどんなスタジオ・レコーディングよりも親しみやすい内容を持っている。全12曲のすべていいが、後にジョン・バエズがヒットさせた「The Night They Drove Old Dixie Down」や、「Across the Great Divide」、「Up on Cripple Creek」などは特に際立ったものと言える。知名度の低いオリジナル曲、痛ましい美しさを感じさせる「Whispering Pines」や、ぶっくらぼうな「Unfaithful Servant」も重要なナンバーで、この1969年の名盤にユニークな味わいをもたらしている。本作、そしてさらに見事な内容を誇る1968年の前作「Music from Big Pink」での高水準ぶりを見れば、ザ・バンドがレコーディング・グループとして早い時期からピークに達したことは驚くにあたらない。	Side A 1. ロッキー越えて 2. ラグ・ママ・ラグ 3. オールド・ディキシー・ダウン 4. ホエン・ユー・アウェイク 5. クリブル・クリーク 6. ウィスハリング・バインズ	Side B 1. ジェミマ・サレンダー 2. ロッキン・チェアー 3. ルック・アウト・クリーブランド 4. ジョー・ボーン 5. アンフェイスフル・サーヴァント 6. キング・ハーヴェスト
BAND	ラスト・ワルツ		1978	アメリカンロック	レコード	1976年11月25日にザ・バンドがサンフランシスコのウインターランドで解散コンサートを行った時のライヴアルバム。ザ・バンドの解散コンサートの模様を収めたライブ盤。このために作ったワルツ風のテーマソングの物悲しい響きが郷愁を誘う。このイベントは、ザ・バンドのリーダーでありギタリストであったロビー・ロバートソンと、ザ・バンドのマネージャー・チームが独断で物事を進めていた。事の発端は、ロバートソンがツアー生活に疲れたため、豪華なゲストを招いたライブを行い、そのライブでライブ活動を終了し、以後はレコーディング活動のみ行って行きたいと決断したのが始まりであった。しかし、ロバートソン以外のメンバーはその考えに賛同できなかった。特に、ドラム、ボーカルのリヴオン・ヘルムは、「そんなものを全くやりたくなかったし、まだツアーを続けたかった」と後で話している。結果、ゲストにメンバーの憧れの存在であったマディ・ウォーターズを呼ぶことで事なきを得たが、この事によってロバートソンと他のメンバーの間に確執が生まれてしまい、後の再結成の際には、ロバートソンは参加しなかった。豪華なゲスト・ミュージシャンは、ボブ・ディラン、ニール・ヤング、エリック・クラプトン、マディ・ウォーターズ、ヴァン・モリソン、ドクター・ジョン、ジョニー・ミッチェル等、錚々たるメンバーだった。	Side A 1. ラスト・ワルツのテーマ 2. クリブル・クリーク 3. フードゥー・ユー・ラヴ 4. ヘルプレス 5. ステージフライト Side B 1. コヨーテ 2. 涙をふきとばせ! 3. 同じことさ! 4. サッチ・ア・ナイト 5. オールド・ディキシー・ダウン 6. ミステリー・トレイン 7. マニッシュ・ボーイ	Side E 1. ザ・シェイプ・ア・イム・イン 2. ダウン・サウス・イン・ニュー・オーリンズ 3. オフエリア 4. アイルランドの子守歌 5. キャラバン 6. カーニバル Side F 連れてってよ 1. アイ・ドント・ビリーヴ・ユー 2. いつまでも若く 3. 連れてってよ(リプライズ) 4. アイ・ビギン・ア・ニュー・リリス
Barbra Streisand	ギルティ		1980年	ポップス	レコード	80年にリリースされた作品です。「サタデー・ナイト・フィーバー」の大ヒットで当時飛び鳥を落とす勢いだったビー・ジョーズのバーニー・ギブが全面バック・アップをして作り上げた、バーブラにとつて異色ともいうべき「ポップ・アルバム」です。ターンテーブルにCDを乗せプレイ・ボタンを押して流れてくるのはどこまでも心地の良いメロディ、バーブラとバーリーの軽やかなデュエットが絶品なタイトル曲「ギルティ」で幕を開けた後は、まさに極上のポップ・ワールドが展開していきます。最高位3位を記録したそのタイトル曲、1位となったミディアムなグループ・ナンバー「ウーマン・イン・ラブ」、10位となった「ギルティ」とは一転しとりと大きなメロディが美しい「ラン・ワイルド」やバーブラには珍しいロックのりの「ネバー・ギブ・アップ」、ラストの大曲「想いでのように」等好曲揃いです。この成功を機にバーリーはスーパー・プロデューサーとして大活躍を始めることになりました。バーブラ主導でないという点でも、彼女の全キャリアの中でも得意な位置を占めるアルバムといえます。	Side A 1. ギルティ 2. ウーマン・イン・ラブ 3. ラン・ワイルド 4. Promises / 恋のプロミス 5. ラヴ・イン・サイド	Side B 1. What Kind of Fool / 別離 2. ライフ・ストーリー 3. ネバー・ギブ・アップ 4. Make It Like a Memory / 想い出のように
Barclay James Harvest	神話の中の亡霊		1975	ロック	レコード	バークレイ・ジェームス・ハーヴェストの1975年に発表した9thアルバム。「イン・マイ・ライフ」「スウィート・ジーザス」タイトルズ」収録、前作以上にポップな方向へ洗練され、ポリドール移籍後のこのバンドのスタイルが完全に固まった良盤。物柔らかで牧歌的、フォークの、キーボード類によるシンフォニックなアレンジも無駄な大仰さがなく、品があって素晴らしい。そして何より、いつも通りに優しく甘美なメロディが素晴らしく、心地良い。高品質のブリティッシュロック。いかにも「ああ…ブリティッシュだなあ」と感じるサウンドなのだが、それでいて妙にアメリカンな部分もある。牧歌的であっても緩くないのがこの時期の彼ら。ポリドール移籍後の彼らはアレンジ的にも洗練され、演奏／ヴォーカル共に張りが出た印象がある。楽曲的にも洗練されてきていることは間違いないが、それらの技術的部分が楽曲そのものをより魅力的に聞かせていることは間違いないと思う。	Side A 1. イン・マイ・ライフ 4:30 2. スウィート・ジーザス 3:24 3. タイトルズ 3:41 4. ジョナサン 4:34 5. 墓の彼方 Beyond The Grave 3:57	Side B 1. ソング・フォー・ユー 5:10 2. 子供達の賛歌 Hymn For The Children 3:32 3. ムーンガール 4:39 4. ワン・ナイト 5:08
BARRACUDAS	バラクーダスとドロップアウト!		1981	パンク	レコード	Jeremy Gluck (Vo), Robin Wills (Gu), David Buckley (Ba),Nick Turner (Dr), によりロンドンで結成。シンプルな楽曲とコーラス・ワークが最高!81年の1stアルバム。60年代の憧れと愛情、ロックへの純粋な衝動が見事なまでマッシュした、陽気であっぴり切ないメロディの青春ポップ・パンク!!!1980年には「J・バババババ・・・」のコーラスに参加希望者多数続出間違いナシの～Summer Fun～ がU.K.チャートのトップ10ヒットに!ドラマのNickは後にStiv Bators(元DEAD BOYS), Brian James(元DAMNED), Dave Tregunna(元SHAM 69)と共にLORDS OF THE NEW CHURCHを結成。	Side A 1. フリテンド 2. 暴力青春 3. ドント・レット・ゴー 4. コデイン 5. 俺の出番じゃない 6. 昨夜も今夜も眠れない 7. いっすアウトサイド	Side B 1. サマー・ファン 2. 最後の夏 3. サーフーズ・バック 4. 誰か 5. キャンパス・トラップ 6. オン・ザ・ストリップ 7. 悲劇のカリフォルニア 8. 65年よもう一度
BARRY MANILOW	ヒア・カムズ・ザ・ナイト		1982	ポップス	レコード	いままでの内省的な曲が多い構成ではなく、全体に楽しく仕上がったロック色が強いアルバム。1曲目の「I Wanna Do It With You」はモータウン系、“Some Girls”、“Oh Julie”、「手紙でも書こう」などはオールディーズを思わせるポップで、ちょっと冒険的でもあります。アルバムからシングルカットした曲が6曲あり、「1恋はドウ・イット!!」(全英8位)、3メモリー(全米39位)、6君は恋フレンド(全米26位、全英48位、カナダ13位)、7手紙でも書こう(全英36位)、9OH!ジュリー(全米38位)、11夜明けまで愛して(全英23位)とヒット曲が多く含まれベスト盤の様な出来。アルバム・チャートでも全英1位、全米32位をマーク。6曲目がCMソングに使用されました。聴きやすい軽快なナンバーからバラードまで、気持ちがよい楽曲が満載。	Side A 1. 恋はドウ・イット!! 2. ヒア・カムズ・ザ・ナイト 3. メモリー 4. レッツ・ゲット・オン 5. 素敵なサム・ガール	Side B 1. 君は恋フレンド 2. 手紙でも書こう 3. 想い出はてしなく 4. OH!ジュリー 5. ハート・オブ・スティール 6. 夜明けまで愛して
BARRY MANILOW	バリー・マニロウ・ストーリー		1983	ポップス	レコード		SIDE A 1. 悲しみのマンディ 2. ニューヨーク・シティ・リズム 3. 思い出の中に(Looks Like We Made It) 4. コパカバーナ 5. 愛に生きる二人 (Ready To Take A Chance Again) 6. フィーリング	SIDE B 1. 恋はマジック (Could It Be Magic) 2. 涙色の微笑 (Can't Smile Without You) 3. ニューヨーク・イングランドの週末 (Weekend In New England) 4. 愛は奇跡のように (It's A Miracle) 5. オール・ザ・タイム 6. バミューダ・トライアングル

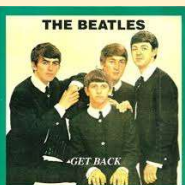
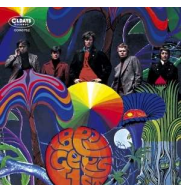
BARRY MANILOW	君はルッキン・ホット(グレイテスト・ヒッツⅡ)		1983	ポップス	レコード	バリー・マニロウのベスト盤第二弾。ヒット曲「君はLookin HOT」のニューヴァージョンをはじめ「君は恋フレンド」や話題のミュージカル「キャッツ」のテーマ曲「メモリー」等、バリーマニロウのビッグヒットの全てと、最新シングル曲「涙のレター」を含めたベストアルバム。	Side A 1. 人生の航海(シブス) 2. 君は恋フレンド(Some Kind Of Friend) 3. 悲しみをこえて(I Made It Through The Rain) 4. 涙のラストレター(Read'em And Weep) 5. 二人のジュークボックス(Put A Quarter In The Jukebox) 6. 涙のラストレター(Read'em And Weep)	Side B 1. ワン・ヴォイス 2. 二人のオールドソング(The Old Songs) 3. レッツ・ハング・オン 4. メモリー 5. 君はLookin HOT (You're Lookin' Hot Tonight)
BAUHAUS	暗闇の天使(イン・ザ・フラット・フィールド)		1980	ニューウェイブ	レコード	80年に発表されたこのファースト・アルバムは、パンクの熱が冷めはじめた時期に、その影響を受けて新しい音楽を作ろうとしたピーター・マーフィーら4人の実験の記録。演奏技術が高いとはお世辞にも言えないが、それまでのロック/ポップのルール・ブックを「ちゃら」にするところから組み立てた音楽は、いままもなく斬新に響く。ダニエル・アッシュのギターはU2のエッジに影響を与えていることをあらためて確認した。グラム・ロックをベースにしながらも、他のどのバンドとも似ていない独特のダークなセンスで80年代前半を一気に駆け抜けたパウハウスのデビュー作。25年前のアルバムだが、今聴いても古びていない尖った音だ。	Side A 1. ダブル・デアー 2. イン・ザ・フラット・フィールド 3. ゴッド・イン・アン・アルコーブ 4. ダイブ 5. スパイ・イン・ザ・キャブ	Side B 1. スモール・トーク・スティンクス 2. セイント・バイタス・ダンス 3. スティグマタ・マター 4. ナーブス
BAUHAUS	暗闇の天使(イン・ザ・フラット・フィールド)		1980	ニューウェイブ	レコード		Side A 1. ダブル・デアー 2. イン・ザ・フラット・フィールド 3. ゴッド・イン・アン・アルコーブ 4. ダイブ 5. スパイ・イン・ザ・キャブ	Side B 1. スモール・トーク・スティンクス 2. セイント・バイタス・ダンス 3. スティグマタ・マター 4. ナーブス
BAUHAUS	暗闇の天使(イン・ザ・フラット・フィールド)		1980	ニューウェイブ	CD		以下、CDボーナストラック 10. ダーク・エントリーズ 11. テレグラム・サム 12. ローズガーデン・フューネラル・オブ・ソーズ 13. テラー・カップル・キル・コロネル	14. スコープス 15. アンタイトルド 16. ゴッド・イン・アン・アルコーブ(フレキシディスク・バージョン) 17. クラウズ
BAUHAUS	マスク		1981	ニューウェイブ	レコード	ヨーロッパの憂鬱と当時流行のテクノビート・センスがほどよい地点で折り合いをつけ、彼らの人気を徐々に高めた代表作。エフェクターを使用し、前作以上に躍動感あふれるサウンドと、ピーター・マーフィーの咆哮が聴きもの。パウハウスの人気を決定的にした作品。ある意味でピーク。メンバーの創作意欲の高まり、それに伴う4人の個性のぶつかり合いから、生まれた曲の数々。peter,daniel,david,kevinの4人が激しく化学反応を起こし、衝突しても、4人が同じ方向へ進む一体感がここにあります。比較的他の作品よりポップですが、ここでも彼らの美学はつらぬかれています。ポップに聴こえるのはダンサンプルな楽曲が多いためでしょうか…。ダニエルのギターはさらに音響的なサウンドになりピーターのVoもさらに力強く、シアトリカルに変化しています。全8曲、捨て曲がないです。ジャケットのイラストはギターのダニエル・アッシュによるもの。	Side A 1. ヘア・オブ・ザ・ドッグ 2. パッション・オブ・ラバーズ 3. オブ・リリーズ・アンド・リメイNZ 4. ダンシング 5. ホロウ・ヒルズ	Side B 1. キック・イン・ジ・アイ 2. イン・フィアー・オブ・フィアー 3. マッスル・イン・プラスチック 4. マン・ウィズ・ジ・エックスレイ・アイズ 5. マスク
BAUHAUS	スカイズ・ゴーン・アウト		1982	ニューウェイブ	レコード	本作は82年に名門レーベル<Beggars Banquet>から発表した3rdアルバム『ザ・スガイズ・ゴーン・アウト』! 通算3枚目。このころになると、シングルで発売されたボウイのカバー、「ジギー・スターダスト」のヒットで、メディアにも露出し、認知度も上がり、小さいながらも商業的成功を手にすることが出来ます。しかし、このアルバムに、前作「マスク」に漂っていた“一体感”は、もうありません……。個々の曲としてとらえると、クオリティは高いのですが、実験的要素の強い曲が増え、全体的にまとまりの無さを感じる。解散後のピーター・マーフィーのインタビューで「このころは、各メンバーがアルバムに、自分の作った曲を入れたがっていた、それぞれが曲に対して所有欲を強く持ち出していた……。成功と引き替えに手に入れたものは、自分たちが思っていたものとは違っていった、そのこととほとんど影響されていった……。と、話していた。全英チャートで4位、シングル「Spirit」が全英42位を獲得し、商業的にも成功を収めた作品となった。	Side A 1. アンクル 2. サイレント・ヘッジズ 3. イン・ザ・ナイト 4. スウィング・ザ・ハートエイク 5. スピリット	Side B 1. スリー・シャドウズ・パート1 2. スリー・シャドウズ・パート2 3. スリー・シャドウズ・パート3 4. オール・ウィ・エバー・ウォンテッド・ワズ・エブリシング 5. エクスキジット・コープス
BAUHAUS	スカイズ・ゴーン・アウト		1982	ニューウェイブ	CD	(1)のイーノのカバーはほんとうに原曲以上に素晴らしい。(もちろん原曲もいいのですが) (2)は再結成時にも演奏されたサイケデリックなアコースティックチューンでこのアルバムで比較的高いハードな(3)へとながれていきます。(4)はヘヴィーなサウンドでピーターの歌声とダニエルのギターがひかる曲です。当時、マクセルのCMIにピーターが出演していた(13)のプロモでみられるスーツ姿のいたちを見たとき、随分とバンドは変化しはじめたのだと思いました。(6)~(8)は組曲形式になっており興味深いです。そしてボーナストラック(11)でヒットチャートをかけのぼっていきます。こちらのカバーも良いです。	以下、CDボーナストラック 11. ジギー・スターダスト 12. パーティ・オブ・ザ・ファースト・パート 13. スピリット 14. ウォッチ・ザット・グランダッド・ゴー	
BAUHAUS	バーニング・フロム・ジ・インサイド		1983	ニューウェイブ	レコード	パウハウスの4枚目のアルバムで最後の作品。名曲、She's in partysではじまるラストアルバム。前作より表面化した、曲作りにおいてメンバー間の対立、不和等がより表面化してきた時期です。ここで聴かれるのは過去3枚のどのアルバムよりも多彩な音楽。製作途中でピーターが参加できないということもあったためか、のちのLove&Rockets!につづるサウンドやTones on taileで聴かれたサウンドがアルバムを占め、ダニエルの美しい歌声とギター、デビッドの歌も聴かれます。意外と評価されていないアルバムですが、後の彼らの歩みを見るとパウハウスというバンドの柔軟性が垣間見られる名曲揃いの作品です。このアルバムは、それでポピュラリティを獲得した後、深く解散に向かった最後の瞬間。音のダイナミズムが半端ないです。暗闇の底から響く重厚なベースに、ビシバシと鞭でひびくようなドラマ、ナイフで切り裂くような紙やすりで引っ掻くようなギター、叫び声のようなボーカル。4から5の流れはいつ聴いてもトリハダもの。絶望的に体を切り刻むようなタイトル曲9の後、最後の10では未来への希望を感じさせるHope。演劇的、良くできてます名盤。	Side A 1. シーズ・イン・パーティーズ 2. アントニン・アルタウド 3. フスプ 4. キング・ホルケイノ 5. フー・キルド・ミスター・ムーンライト	Side B 1. スライス・オブ・ライフ 2. ハネムーン・クルーレン 3. キングダムズ・カミング 4. バーニング・フロム・ジ・インサイド 15. ホープ
Bay City Rollers	エジンバラの騎士		1974	ロック	レコード	1974年にスコットランドのバンド、ベイ・シティ・ローラーズがリリースした最初のアルバム。このアルバムには、全英シングル・チャートでヒットした3曲、「想い出にロづけ(Remember)」、「ベイ・シティ・ローラーズのテーマ(Shang-a-Lang)」、「太陽の中の恋(Summerlove Sensation)」が収められており、また、イギリスではヒットしなかったものの後にアメリカ合衆国でチャートの首位に立つスマッシュ・ヒットとなる「サタデー・ナイト(Saturday Night)」が収録されていた。	Side A 1. ベイ・シティ・ローラーズのテーマ Shang-a-Lang” 3:07 2. 青春のささやき “Give It to Me Now” 3:48 3. エンジェル・エンジェル 2:27 4. ビー・マイ・ベイビー 3:27 5. ジャスト・ア・リトル・ラブ 2:57 6. 想い出にロづけ “Remember 2:33	Side B 1. サタデー・ナイト 2:57 2. 不思議な気持 “Ain't It Strange” 2:10 3. ひとりにしないで “Please Stay” 3:54 4. 踊ろよ ジェニー “Jenny Gotta Dance” 3:06 5. さよならベイビー “There Goes My Baby” 3:18 6. 太陽の中の恋 3:18
Bay City Rollers	噂のベイ・シティ・ローラーズ		1975	ロック	レコード	ベイ・シティ・ローラーズの2枚目のスタジオ・アルバム。1975年5月にリリースされたこのアルバムは、全英シングルチャート首位に立ったシングル「バイ・バイ・ベイビー」を収録し、セッション・ミュージシャンに頼らず、メンバー自身が自分たちの音楽を演奏した初めてのアルバムであった[2]。 もともとノビー・クラークがボーカルだった1971年に、アルバム未収録のシングルとして発売されていた「朝まで踊ろう」も、レスリー・マッコーンエンのボーカルで改めて録音され、このLPに収録された。	Side A 1. バイ・バイ・ベイビー 2:50 2. ディスコ・キッド “The Disco Kid” 3:16 3. いとしのジュネ “La Belle Jeane” 4:01 4. 青春の誓い “When Will You Be Mine” 2:32 5. エンジェル・ベイビー “Angel Baby” 3:29 6. 朝まで踊ろう 3:06	Side B 1. 想い出のスター “Once Upon a Star” 3:00 2. 恋のレッツ・ゴー “Let's Go 3:28 3. マリーナの微笑み “Marlina” 3:01 4. ひとりぼっちの十代 “My Teenage Heart” 2:31 5. ロックン・ロール・ハネムーン 2:45 6. 朝まで踊ろう 3:06
Bay City Rollers	青春のアイドル		1975	ロック	レコード	3枚目のスタジオ・アルバム。イギリスでは1975年の遅い時期にLPが発売されたこのアルバムは、グループの音楽的方向が変化したことを示すもので、1曲を除いてすべての楽曲がバンド自身によって作曲されていた。唯一、グループ外から提供された曲である「恋をちょっぴり(Give a Little Love)」は、イギリスでスマッシュ・ヒットとなった。このアルバムには、大きな手紙という形で個々のメンバーのカラー写真冊子が封入されており、バンド全員の写真がアルバム・ジャケットを飾った。このアルバムの楽曲のうち7曲は、アリス・レコードがアメリカ合衆国だけでリリースしたアルバム『ロックン・ロール・ラブレター』にも収録されたが、アルバム・ジャケットの写真やデザインなども、そのまま流用された。	Side A 1. ダンスはゴキゲン I Only Wanna Dance With You 2:59 2. レッツ・ゴー・ミュージック 2:49 3. 恋のシャンハイ Shanghai'd in Love 3:29 4. 恋はすてき Love Is... 2:38 5. アイム・ア・フール 3:55 6. 若さでロックン・ロール	Side B 11. 恋をちょっぴり Give a Little Love 3:28 2. 二人でいつまでも Wouldn't You Like It? 3:14 3. 恋のフィーリング Here Comes That Feeling Again 3:41 4. 君に会いたくて Lovely to See You 3:57 5. 朝まで踊ろう 3:06
Bay City Rollers	青春に捧げるメロディー		1976	ロック	レコード	1976年9月に発表されたベイ・シティ・ローラーズのアルバム。彼らにとって4枚目のオリジナル・スタジオ・アルバムであり、1976年はじめにバンドが世界的な人気の絶頂に達して以降、最初に出された新しいアルバムであった。 結成時のメンバーだったアラン・ロングミュアーは、このアルバムのレコーディング・セッションの前にイアン・ミッチェルと交代していた。このメンバー交代に伴い、ミッチェルがリズムギターとなり、スチュアート・ウッドワードがリズムギターからベースに回った。ミッチェルは、アルバムのタイトル曲「青春に捧げるメロディー (Dedication)」のボーカルも担当した。しかし、ミッチェルは同年のうちにバンドを脱退したため、それ以降にプレスされたアルバムではレスリー・マッコーンエンがボーカルをとったバージョンに音源が差し替えられ、また、その後にリリースされたシングルもそちらのバージョンがリリースされた。	Side A 1. レッツ・プリテンド 2. すてきな君 “You're a Woman” 3. ロックン・ローラー 4. ドント・ウォーリー・ベイビー 5. イエスタデイズ・ヒーロー	Side B 1. マイ・リサ 2. マネー・ハニー 3. ロックン・ロール・ラブレター 4. 愛をこめたレター “Write A Letter” 5. 青春に捧げるメロディー “Dedication”
Bay City Rollers	恋のゲーム		1977	ロック	レコード	5枚目のスタジオ・アルバムで、デヴィッド・ボウイを手掛けて成功していたハリー・マスリン(英語版)がプロデュースした。このアルバムはアメリカ合衆国でゴールド・ディスクを獲得。「夢の中の恋 (You Made Me Believe in Magic)」がアメリカで10位。アメリカ以外の国では「恋のゲーム (It's a Game)」をシングルで発売し各国でトップテン以上を獲得したが本国イギリスでは初めて10位以内に入らなかったシングルとなった。パット・マッグリンに交代した。マッグリンはバンドとともにツアーし、『恋のゲーム』の録音セッションにも当初から参加していたが、程なくしてバンドから追われた。完成したアルバムは、4人編成のバンドとしてのローラーズの作品とされており、完成したアルバムにはマッグリンが参加した痕跡は見出せない	Side A 1. 恋のゲーム “It's a Game” 2. 夢の中の恋 You Made Me Believe in Magic” 3. ハートで歌おう “Don't Let the Music Die” 4. ラヴ・パワー 5. 愛をささやきとき “The Way I Feel Tonight”	Side B 1. ラヴ・フィーバー 2. スイート・バーズニア 3. 孤独の涙 “InSide a Broken Dream” 4. ダンス・ダンス・ダンス 5. 炎の反逆 “Rebel Rebel”
Bay City Rollers	風のストレンジャー		1978	ロック	レコード	1978年発表の6枚目の。結成当初のメンバーのアラン・ロングミュアーが復帰し、再び5人編成となった。プロデューサーのハリー・マスリンの起用は、デヴィッド・ボウイのファンであるエリックのたっての希望でエリックの趣味と主張が色濃く反映された作品で、Faulkner/Woodの作品が収録10曲中6曲を占めている。「哀しみの涙」と「冷たいあの娘」は英国フォークロックのサザランド・ブラザーズのカバー曲で、エリックの好きだったグループで、ヒット・アルバム「DOWN TO EARTH」からの影響が大きい作品。BCRの弾けた明るさやポップさが薄れているが、じっくり聴き込むとじんわりと良さが伝わってくるアルバム。綺麗なストリングスで始まる「雨のニューヨーク」と「愛はいつまでも」が日本では大ヒットする。	Side A 1. 雨のニューヨーク 2. 世界は恋してる 3. 愛はいつまでも 4. バック・オン・ザ・ストリート 5. 風のストレンジャー	Side B 1. 恋はマジカル・シング 2. 恋人になりたい 3. 哀しみの涙 4. ハリウッド黄金時代 15. 冷たいあの娘
Bay City Rollers	ニュー・ベスト		1976	ロック	レコード	『ニュー・ベスト』は、1976年に日本独自編集で発表されたベイ・シティ・ローラーズのコンピレーション・アルバム。1976年8月20日に、アリス・レコードのレーベルで、東芝EMIから日本だけにリリースされた。取り上げられた楽曲は、『エジンバラの騎士 (Rollin')』(1974年)から4曲(A3、A6、B1、B5)、『噂のベイ・シティ・ローラーズ (Once Upon a Star)』(1975年)から3曲(A5、B2、B4、B7)、『青春のアイドル (Wouldn't You Like It?)』(1975年)から2曲(A2、A4)、『青春に捧げるメロディー (Dedication)』(1976年)から2曲(A1、A7)、アルバム未収録シングル2曲(B2、B6)という構成であった。ジャケット写真は、イアン・ミッチェル在籍時のものとなっている。	Side A 1. ロックン・ロール・ラブレター 2. 恋をちょっぴり Give a Little Love 3. ベイ・シティ・ローラーズのテーマ Shang-a-Lang 4. ダンスはゴキゲン I Only Wanna Dance With You 5. エンジェル・ベイビー 6. 太陽の中の恋 Summerlove	Side B 1. サタデー・ナイト 2. ラブ・ミー・ライク・アイ・ラブ・ユー 3. ひとりぼっちの十代 My Teenage Heart 4. 朝まで踊ろう Keep On Dancing 5. 想い出にロづけ Remember 6. 明日に恋しよう All Of Me Loves All Of You 7. バイ・バイ・ベイビー

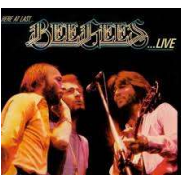
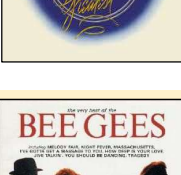
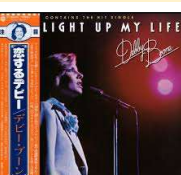
	Bay City Rollers	ベスト・セレクト ション		1994	ロック	CD	イギリス・スコットランドのエディンバラ出身のポップ・ロック・バンド。1970年代半ばから若い女性を中心に人気になったアイドル・グループ。1974年にレスリー・マッコエン(リード・ボーカル)、エリック・フォークナー(リード・ギター)、スチュアート・ウッド(サイド・ギター後にベース)、アラン・ロングミュー(ベース)、デレク・ロングミュー(ドラム)による5人編成になってから、「バイ・バイ・ベイビー」(1975年)、「サタデー・ナイト」(1976年)などのヒット曲を生み出し、本国イギリスを皮切りに、その後アメリカや日本など、世界中で人気を博し一世を風靡した。世界中に“タータンチェック旋風”を巻き起こした。特に、ここ日本でも異常な人気が過熱した。ヒット曲を連発しアルバムもヒットした。 『Keep On Dancing』全英9位)、「Saturday Night」が全米1位、⑤「イェスタデイズ・ヒーロー」(米54位)、⑦「マネー・ハニー」(米9位／英3位)、⑧「ロックン・ロール・ラヴ・レター」(米28位)、⑩「青春に捧げるメロディー(アルバム・ヴァージョン)」(米60位)、⑪「二人だけのデート」(米12位／英4位)、⑫「ラヴ・ミー・ライク・アイ・ラヴ・ユー」(英4位)を収録。 1962年にリリースされたザ・ビーチ・ボーイズのデビューアルバム、本作発表当時はザ・ビーチ・ボーイズが後にアメリカを代表するバンドに成長することを示唆するものはほとんど見られなかった。 1961年の秋にブライアン・ウィルソンとそのいとこのマイク・ラブは「サーフィン」を作曲した。ブライアンは弟のデニスとカール、高校の友人アル・ジャーディンを引き入れバンドを結成した。ブライアンはドラムを担当し、カールがリードギター、アルがベース、マイクはフロント・ヴォーカルを担当した。後にアルは学業に専念するため一時脱退、本作のレコーディングでは代役のデヴィッド・マークスがサイドギターで全面的に参加している。デヴィッドはベースが弾けなかったため、ブライアンがベースに転向し、デニスがドラムスを演奏することとなった。アナログ盤はモノ・ミックス及び、これを擬似ステレオ化したデュオ・フォニック・ミックスで発売された。
	BEACE BOYS	サーフィン・サファリ		1962年10月29日	アメリカンロック	レコード	1962年にリリースされたザ・ビーチ・ボーイズのデビューアルバム、本作発表当時はザ・ビーチ・ボーイズが後にアメリカを代表するバンドに成長することを示唆するものはほとんど見られなかった。 1961年の秋にブライアン・ウィルソンとそのいとこのマイク・ラブは「サーフィン」を作曲した。ブライアンは弟のデニスとカール、高校の友人アル・ジャーディンを引き入れバンドを結成した。ブライアンはドラムを担当し、カールがリードギター、アルがベース、マイクはフロント・ヴォーカルを担当した。後にアルは学業に専念するため一時脱退、本作のレコーディングでは代役のデヴィッド・マークスがサイドギターで全面的に参加している。デヴィッドはベースが弾けなかったため、ブライアンがベースに転向し、デニスがドラムスを演奏することとなった。アナログ盤はモノ・ミックス及び、これを擬似ステレオ化したデュオ・フォニック・ミックスで発売された。
	BEACE BOYS	サーフィン・サファリ		1962年10月29日	アメリカンロック	CD	1. Surfin' Safari 2. County Fair 3. Ten Little Indians 4. Chug-A-Lug 5. Little Girl (You're My Miss America) 6. 409
	BEACE BOYS	(ペーパースリーブ仕様) サーフィン・U.S.A.		1963年3月25日	アメリカンロック	CD	1963年にリリースされたザ・ビーチ・ボーイズのセカンドアルバム。チャック・ペリーの「スウィート・リトル・シックスティーン」を改作したタイトル・トラックの「サーフィン・U.S.A.」や「シャット・ダウン」といったロック・ナンバーの他、出色のパラード「ロンリー・シー」など、ビーチ・ボーイズのキャリアにおける最初のブレークとなり、同時にブライアン・ウィルソンの優れた作曲能力を広く知らしめることとなった。公式にはニック・ヴェネットがプロデューサーとしてクレジットされたが、実質的にアルバムはブライアンによって作り出された。サーフィン、本作の特色としては12トラックの内5曲がサーフ・インストゥルメンタルであることが挙げられる。「ストウクト」はこの後ブライアンが数多く創り上げることとなるインスト曲の最初の一曲であった。「サーフ・ジャム」は当時まだ16歳であったカールの最初の曲であった。 「サーフィン・U.S.A.」はアメリカにおけるビーチ・ボーイズの最初の大ヒット曲となった。同曲はアルバムをトップ10入り、ゴールド・アルバムを獲得させ、チャートでの最高位は2位であった。1965年のイギリスにおける再発では17位に到達した。ミュージックの王者としての彼らの人気を1963年にリリースされたザ・ビーチ・ボーイズのアルバム。ブライアン・ウィルソンがプロデューサーとしてクレジットされた最初のアルバム。本作からブライアンは外部のセッション・ミュージシャンを多用することになっていく。ジャケット写真はサーフボードを抱えるメンバー(左からデニス・ウィルソン、デヴィッド・マークス、カール・ウィルソン、マイク・ラヴ、ブライアン・ウィルソン)。デビュー・アルバム『サーフィン・サファリ』にも使用された1962年のフォト・セッションでの写真。 「サウス・ベイ・サーファー」にはアル・ジャーディンがクレジットされるが、彼は1963年に公演旅行に疲労したブライアンの代わりに再加入した。したがってデヴィッド・マークスとアル・ジャーディンの両名が共に短期間グループに在籍することとなった。
	BEACE BOYS	サファーガール		1963年9月23日	アメリカンロック	レコード	1. サーフ・ガール 2'26 2. キャッチ・ア・ウェイヴ 2'07 3. サーフ・ムーン 2'1 4. サウス・ベイ・サーファー 1'45 5. ロッキング・サーファー 2'00 6. リトル・デュース・クープ 1'38
	BEACE BOYS	(ペーパースリーブ仕様) サファーガール		1963年9月23日	アメリカンロック	CD	1. サーフ・ガール 2'26 2. キャッチ・ア・ウェイヴ 2'07 3. サーフ・ムーン 2'11 4. サウス・ベイ・サーファー 1'45 5. ロッキング・サーファー 2'00 6. リトル・デュース・クープ 1'38 7. イン・マイ・ルーム 2'11
	BEACE BOYS	(ペーパースリーブ仕様) リトル・デュース・クープ		1963年10月21日	アメリカンロック	CD	1963年にリリースされたザ・ビーチ・ボーイズの4枚目アルバム。ホット・ロッドをテーマとしたコンピレーション・アルバムで、新曲8曲はわずか一日で録音された。1963年夏、キャピトル・レコードは「ホット・ロッドコンピレーション・アルバム『シャット・ダウン』」を編集した。同アルバムにはビーチ・ボーイズの「シャット・ダウン」409」が、メンバーの同意無しに収録された。ブライアンは彼が録音中の教曲を速やかに準備し、バンドは『リトル・デュース・クープ』をレコード店のラックに並べるために大急ぎで録音を行った。『サーファー・ガール』リリース後わずか一ヶ月のことであった。8曲は新曲であったが、「リトル・デュース・クープ」「僕等のカークラブ」「シャット・ダウン」409」は発表済みの曲であった。 本作はデヴィッド・マークスが参加した最後のアルバムとなった。オリジナル・メンバーであったアル・ジャーディンは本作のセッションに先立って復帰し、マークスはそのすぐ後にバンドを離れた。
	BEACE BOYS	(ペーパースリーブ仕様) シャット・ダウン・ヴォリューム2		1964年3月23日	アメリカンロック	CD	1964年にリリースされたザ・ビーチ・ボーイズの5枚目アルバム。本作が『ヴォリューム2』とされるのは、キャピトルが1963年にリリースしたコンピレーション・アルバム『シャット・ダウン』の続編と位置づけられたためである。『シャット・ダウン』には「シャット・ダウン」409」の二曲が収録されたが、ビーチ・ボーイズのアルバムではなかった。なお、「シャット・ダウン」は1997年に日本のみでCD化されたが現在では廃盤である。 当時はちょうど「フリテン・イン・ヴェイジョン」がアメリカに到達し始めていた頃であった。ビーチ・ボーイズは本作によってアメリカにおける地位を固めるつもりであったが、ビートルズ旋風の勢いは非常に強く、本作はそれほど注目を集めることなくチャートでは13位に到達しただけであった(結局後にゴールド・アルバムを獲得した)。 伝えられるところによればブライアンは、ビートルズの出演した『エド・サリヴァン・ショー』を見た後、本作を廃棄しようとした。しかしながらイギリスのスターに打ち負かされるよりも、ビーチ・ボーイズをより高い位置へ押し上げようとして決心することとなった
	BEACE BOYS	(ペーパースリーブ仕様) オール・サマー・ロング		1964年7月13日	アメリカンロック	CD	1964年にリリースされたザ・ビーチ・ボーイズの6枚目アルバム。ビートルズを始めとする「フリテン・イン・ヴェイジョン」の後に発表された本作は、ビーチ・ボーイズの大きな転機となった。初の全米1位をとった「アイ・ゲット・アラウンド」が収録されている。 本作の製作途中にビーチ・ボーイズの内部構造に大きな変化があった。マネージャーを務めたウィルソン兄弟の父親、マレー・ウィルソンの解雇であった。マレーは2年以上もバンドを支配下に置いていたが、彼らは限界点に達していた。4月の「アイ・ゲット・アラウンド」のヴォーカル・セッション時にブライアンは父親を解雇した。マレーは悲嘆に暮れ何週間も病床に付いた。
	BEACE BOYS	(ペーパースリーブ仕様) ザ・ビーチ・ボーイズ・トゥディ		1965年3月8日	アメリカンロック	CD	1965年にリリースされたザ・ビーチ・ボーイズの8枚目アルバム。当時本アルバムの重要性を感じた者はほとんどいなかったが、バンドの経歴とブライアン・ウィルソンの個人的生活に於いて本作は重要な転機となった。 1964年はストレスの大きかった年で、年末までにビーチ・ボーイズは4つのアルバムを発表した。ブライアンは肉体的、精神的に疲れ果てた状態であったが、増大するビートルズの人気とその影響からたゆまず歩き続けなければならなかった。その年の12月23日、ブライアンはイロセから公演旅行に出ることをあきらめなければならぬと自覚した。 『ザ・ビーチ・ボーイズ・トゥディ』は1965年1月に録音されたが、ブライアンはツアーへの参加を断り、スタジオに一人留まって録音を行った。ビーチ・ボーイズはブライアンの代わりのベーストとしてグレン・キャンベルを起用したが、彼はバンドになじみず間もなくブルース・ジョンストンが参加することとなった。
	BEACE BOYS	サマーデイズ		1965年7月5日	アメリカンロック	レコード	1965年にリリースされたザ・ビーチ・ボーイズの9枚目アルバム。本作は『ザ・ビーチ・ボーイズ・トゥディ』に続く作品として進歩的な一面が見られたが、反面ビーチ・ボーイズの持つ「太陽」「夏」「サーフィン」といったイメージへの執着も見られる作品であった。『ザ・ビーチ・ボーイズ・トゥディ』のB面で、高度に洗練された劇的な変化が見られた後、ブライアン・ウィルソンはマイク・ラヴとキャピトル・レコードからその音楽的意図に対する質問がなされ、もっとビーチ・ボーイズ的」な音楽を作るように励まされた。バンドの次回作として紋切型作品のリリースを要求されていることは明白だった。彼の音楽的欲求とバンドの方向性は乖離し、ブライアンは衝突が不可避であると感じていたが、結局本作が製作された。当時加入したばかりのブルース・ジョンストンもフォト・セッションに参加していたが、ブルースはコロムビア・レコードとの契約が残っていたため、彼の写った写真は採用されなかった。『ザ・ビーチ・ボーイズ・トゥディ』より『ワイルド・ハニー』までは、ブライアンの右耳の聴力の悪化により、発売当時アルバムはモノ・ミックスのみで制作され、ステレオ盤は擬似ステレオだった。
	BEACE BOYS	(ペーパースリーブ仕様) サマーデイズ		1965年7月5日	アメリカンロック	CD	1. ニューヨークの娘 The Girl From New York City 1:54 2. アミューズメント・パークス・U.S.A. 2:29 3. あの娘にキッス Then I Kissed Her 2:15 4. ソルト・レイク・シティ 2:00 5. ガール・ドント・テル・ミー 2:19 6. ヘルプ・ミー・ロンダ 2:46
	BEACE BOYS	ベットのサウンドズ		1966年5月16日	アメリカンロック	レコード	1966年にリリース。ビーチ・ボーイズの10枚目のアルバム。本質的にはブライアンのソロ作品で、多くの音楽評論家が最良のポップ・アルバムやロックの名盤と評価。彼はツアーを取りやめ、腕利きのスタジオ・ミュージシャンたちと共に一人、スタジオでの録音に集中した。ブライアンは、ビーチ・ボーイズによる美しいハーモニーに、バズ・オルガンやハーブ・シコド、フルートに加え自転車ベルやテルミン、大笛と言った変わった道具での音響効果を多重録音により付け加え、作品を創り上げた。またプロの作詞家、トニー・アッシャーを作詞に起用し、曲のイメージを伝え、詞に起こす作業を任せた。従って、本作のレコーディングにおいてブライアン以外のメンバーはほぼボーカルとコーラスのみでの参加となっている。本作のレコーディングでは「グッド・ヴァイブレーション」の初期ヴァージョンも作られたが、ブライアン自身の意向により『ベットのサウンドズ』への収録は見送られ、アルバム発表後に手を加えられて11月にシングルとして発表された。なお本作は、ビートルズの『ラバー・ソウル』から影響を受けて作ったとブライアンは明言。『ベットのサウンドズ』は現在でこそロック史上に残る名盤として扱われているものの、他のメンバーからは賛否両論で、アル・ジャーディンとマイク・ラヴからは「(特に)歌詞の内容が理解出来ない」とレコーディングの段階から批判され、デニス・ウィルソンとカール・ウィルソン、ブルース・ジョンストンは反対に当時からその内容に好意的だった。それまでのビーチ・ボーイズにあったサーフィンやホット・ロッドといった言葉が全く登場せず、ブライアンの心情を吐露したような複雑な内容から、アメリカではあまり受け入れられなかった。一方、イギリスでは全英アルバムチャートで26週連続トップ10入りする大ヒットを記録した。
	BEACE BOYS	ベットのサウンドズ		1966年5月16日	アメリカンロック	CD	1. 素敵じゃないか Wouldn't It Be Nice 2:22 2. 僕を信じて You Still Believe in Me 2:30 3. ザッツ・ノット・ミー 2:27 4. ドント・トーク 2:51 5. 待ったこの日 I'm Waiting for the Day 3:03 6. 少しの間

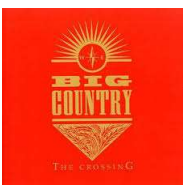
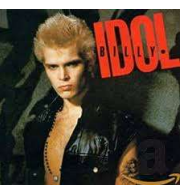
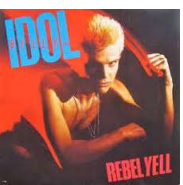
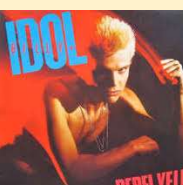
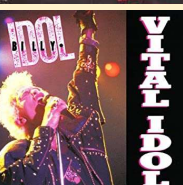
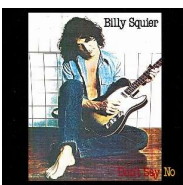
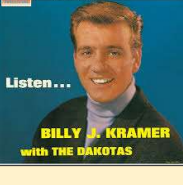
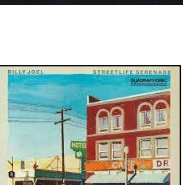
	BEACE BOYS	(ペーパース リーブ仕様) スマイリー・スマ イル		1967年9 月11日	アメリカ ンロック	レコ ド	1967年にリリースされたザ・ビーチ・ボーイズの11枚目のオリジナルアルバム。1966年の秋から1967年の春にかけて、音楽界ではビーチ・ボーイズの『ペット・サウンズ』に続く作品『スマイル』が待望視されていた。1966年後半の世界的なヒットとなった「グッド・ヴァイブレーション」も新しいアルバムへの期待を増加させた。しかし、『スマイル』のリリースは1967年5月に急遽キャンセルとなり、モンタレー・ポップ・フェスティバルへの出演も断ることとなった。そんな中、制作が滞っている『スマイル』の代替品として本作がリリースされた。これは発売済みのシングルと、『スマイル』制作途中の断片を再利用して急拵えて仕立て上げたものだったが、『スマイル』の残滓的な内容にもかかわらず、カルト的な人気を博すようになった。後に、ブライアン・ウィルソンが、アルバムに対する過度の期待が重圧となり、ストレスによる薬物使用とノイロゼにより『スマイル』の制作を放棄したことが明らかになった。その後、ブライアン の音楽活動は徐々に低迷していくこととなる。	Side A 1. 英雄と悪漢 - Heroes and Villains 3:37 2. ヴェジタブル 2:07 3. フォール・ブレイクス・アンド・バック・トゥ・ウィンター 2:15 4. シーズ・ゴーイン・ボード 2:13 5. リトル・パッド 2:30	Side B 1. グッド・ヴァイブレーション 3:36 2. ウイズ・ミー・トゥナイト 2:17 3. ウインド・チャイズ 2:36 4. ゲッティン・ハングリー 2:27 5. ワンダブル 2:21 6. ホイッスル・イン 1:04
	BEACE BOYS	(ペーパース リーブ仕様) スマイリー・スマ イル		1967年9 月11日	アメリカ ンロック	CD		1. 英雄と悪漢 - Heroes and Villains 3:37 2. ヴェジタブル 2:07 3. フォール・ブレイクス・アンド・バック・トゥ・ウィンター 2:15 4. シーズ・ゴーイン・ボード 2:13 5. リトル・パッド 2:30	6. グッド・ヴァイブレーション 3:36 7. ウイズ・ミー・トゥナイト 2:17 8. ウインド・チャイズ 2:36 9. ゲッティン・ハングリー 2:27 10. ワンダブル 2:21 11. ホイッスル・イン 1:04
	BEACE BOYS	(ペーパース リーブ仕様) ワイルド・ハ ニー		1967年12 月11日	アメリカ ンロック	CD	1967年にリリースされたザ・ビーチ・ボーイズの12枚目のアルバム。前作『スマイリー・スマイル』から3ヶ月後に発表されたが、本作はカル・ウィルソンが主導権を握り完成させた。ノイロゼ状態にあったブライアン・ウィルソンはグループのリーダーシップにもはや興味を持っていなかったが、アルバムの大半の曲はマイク・ラヴと共に作り出された。彼らが緊密に作曲を行ったのは『サマー・デイズ』以来のことであった。スタジオではブライアンに曲への見解が求められたが、他のメンバー達が録音に大きな役割を担い始めていたのが大きな変化であった。「すてきなブルーガル」は、ブライアンが作曲に関わらなかった初のヴォーカル入りオリジナル曲である。本作ではカル・ウィルソンが大半の曲のリード・ヴォーカルを担当した。興味深い曲は「ママ・セズ」である。これは『スマイル』用に録音された「ヴェジタブル」の一部であった。これが後に出版となった『スマイル』セッションの最初であった。ジャケット写真は、実際にステンドグラスを特注して撮影されたものである。	1. ワイルド・ハニー 2:37 2. うれしくないかい Aren't You Glad 2:16 3. 愛するあの娘に I Was Made to Love Her 2:05 4. カントリー・エア 2:20 5. ア・シング・オア・トゥー 2:40 6. ダーリン 2:12 7. アイド・ラヴ・ジャスト・ワンス・トゥー シー・ユー 1:48	8. ヒア・カムズ・ザ・ナイト 2:41 9. 風を吹かせろ Let the Wind Blow 2:19 10. すてきなブルーガル How She Boogalooed It 1:56 11. ママ・セズ 1:05 ボナ・ス・トラック 12. 心には春がいっぱい Their Hearts Were Full of Spring
	BEACE BOYS	ゴッド・メイド・ ザ・ラジオ〜神 の創りしラジオ		2012年6 月5日	アメリカ ンロック	CD	ザ・ビーチ・ボーイズが2012年に発表し、スタジオ・アルバムでは、新曲により構成されたアルバムとしては20年ぶりの作品に当たる。89年の『Still Cruisin』以来23年振りにブライアンが参加した作品。実はその『Still Cruisin』は新曲と過去のヒット曲を組み合わせた半編集盤で、その中の新曲のブライアン参加曲はブライアンのソロ用に録音されていた音源にメンバーが手を加えたものであり、厳密には“ブライアン参加”とは言い難いものであった。したがって本格的にブライアンが参加した作品ということになると85年の『The Beach Boys』ということになり、実際には27年振りということになる。更にブライアン参加の影に隠れてしまっているが、デビュー・アルバム『サーフィン・サファリ』から『リトル・デューズ・クーベ』あたりまで参加していたデヴィッド・マークスの参加もファンには涙ものの事件だろう。ラインナップは、ブライアン・ウィルソン、マイク・ラヴ、アル・ジャーディン、ブルース・ジョンストン、デヴィッド・マークスのメンバーで再結成によりメジャー・デビュー50周年を記念してリリース。アルバムの内容は、物悲しいコーラス・ハーモニーを聞かせる1. から始まりちょっぴり不安になるものの、必殺のロック・バラードの2. が始まる一気に幸福感に満たされる。メロディ・ラインとアレンジを含めた全てがブライアンが参加していた80年代のビーチ・ボーイズそのまま、明らかにブライアンのソロとは違った雰囲気を感じさせている。これをマジックを言わずに何と言えいいのか！大半の楽曲はブライアンとJ. トーマスの共作となっているが、マイク・ラヴも7. を単独で提供する他、8. では久々にブライアンとの共作まで果たしている。突き抜けるかのような爽やかさを感じさせる近年の鬱憤を晴らすための名作である。	1. あの頃に…Think About the Days 1:27 2. ゴッド・メイド・ザ・ラジオ ~神の創りしラジオ~ 3:18 3. 今がその時 Isn't It Time 3:45 4. スプリング・ヴァケーション 3:06 5. ビルとスーの私生活 The Private Life of Bill and Sue 4:17 6. シェルター 3:02	7. 海に輝く夜明け Daybreak Over the Ocean 4:20 8. 心のビーチ Beaches in Mind 2:38 9. ストレンジ・ワールド 3:03 10. バック・アゲイン 3:23 11. パシフィック・コースト・ハイウェイ 1:47 12. 過ぎゆく夏 Summer's Gone 4:42
	BEATLES	プリーズ・プリー ズ・ミー		1963	ブリ ティッ シュビ ト60'S	レコ ド	1963年3月22日にモラル・盤、4月26日にステレオ盤が、それぞれ発売された。シングルとして発売された4曲を除く全10曲を、1963年2月11日にレコーディングするという短期間で制作された。2作目のシングル『プリーズ・プリーズ・ミー』(1963年1月11日発売)のヒットを受けて急遽制作された。当初はキャヴァーン・クラブでライブ録音を計画、キャヴァーン・クラブが録音する環境としては良くなかった為、アビー・ロード・スタジオでスタジオ・ライブ形式でレコーディングが行なう。時間と予算が限られ1日でアルバムを完成させた。ほとんどの曲は原則1発録りで制作された。また、収録曲14曲中6曲は、ビートルズがライブで演奏していたアメリカのR&Bなどのカバーで占められている。「ホル・ド・ミー・タイト」もこのセッションで録音されたが、次のアルバム『ウィズ・ザ・ビートルズ』に回された。録音当日、ジョンは風邪をひいており、その影響でヴォーカルがやや鼻声になっている。ジョージ・マーティンはジョンの喉への負担を考慮し、「ツイスト・アンド・シャウト」の録音はセッションの最後に行い2テイク録音し第1テイクを採用。発売から6週目の全英アルバムチャートで最高位1位を獲得。	Side A 1. アイ・ソー・ハー・スタンディング・ゼア Paul 2:55 2. ミズリー John,&Paul 1:49 3. アナナ John 2:55 4. チェインズ George 2:23 5. ボーイズ Ringo 2:24 6. アスク・ミー・ホワイ John 2:24 7. プリーズ・プリーズ・ミー John,&Paul 1:59	Side B 1. ラヴ・ミー・ドウ John,&Paul 2:21 2. P.S.アイ・ラヴ・ユー Paul 2:04 3. ペイビー・イツ・ユー John 2:40 4. ドゥ・ユー・ウオント・トゥ・ノウ・ア・シー・クレット George 1:56 5. 蜜の味(A Taste Of Honey) Paul 2:03 6. ゼアズ・ア・ブレイス John,&Paul 1:51
	BEATLES	プリーズ・プリー ズ・ミー		1963年3 月22日	ブリ ティッ シュビ ト60'S	レコ ド			
	BEATLES	ウィズ・ザ・ビー トルズ		1963年11 月22日	ブリ ティッ シュビ ト60'S	レコ ド	1963年11月22日に発売されたビートルズの2作目。ジョージ・ハリスン初の作詞作曲「ドント・バザー・ミー」を含む8曲の自作曲とカバー6曲が収録され、収録曲のほとんどがモータウンもしくはR&Bナンバーとなっている。先行シングル曲を収録せず、すべてアルバム用に曲を用意している。日本では来日記念盤として『ステレオ!』これがビートルズ Vol.2』と題して曲順替えされたものがリリースされ、アメリカでは本作の収録曲は『ミート・ザ・ビートルズ』『ザ・ビートルズ・セカンド・アルバム』に分解してリリースされ、含まれる曲も異なり、1987年のCD発売までリリースされなかった。1963年7月18日から10月23日までの3ヶ月間に行なわれた7回のセッションに渡って録音された。ジャケットは、白黒写真で、彼らの顔に片側からライトを当てて、光の当たらない側半分を影にして撮影するという当時としては画期的な手法(通称:ハーフ・シャドウ)が用いられた。メンバーはハンブルク巡業時代に知り合った友人のアストリッド・キルヒャーが撮影していた写真をロバート・フリーマンに見せて、同様のものにしてほしいと要請。このアルバムジャケット以降、レコード・ジャケットがアート作品として注目されるきっかけになる。30週連続で第1位を獲得していた前作『プリーズ・プリーズ・ミー』を抜いて第1位を獲得。	Side A 1. イット・ウオント・ビー・ロング John 2:13 2. オール・アイヴ・ゴット・トゥ・ドウ John 2:02 3. オール・マイ・ラヴィング Paul 2:07 4. ドント・バザー・ミー George 2:28 5. リトル・チャイルド John,&Paul 2:46	Side B 1. ロール・オーバー・ベートーヴェン George 2:45 2. ホールド・ミー・タイト Paul 2:32 3. ユー・リアリー・ゴッタ・ホールド・オン・ミー John,&George 3:01 4. アイ・ウオナ・ビー・ユア・マン Ringo 1:59 5. デヴィル・イン・ハー・ハート George 2:00
	BEATLES	ウィズ・ザ・ビー トルズ		1963年11 月22日	ブリ ティッ シュビ ト60'S	レコ ド			
	BEATLES	ウィズ・ザ・ビー トルズ		1963	ブリ ティッ シュビ ト60'S	CD			
	BEATLES	ミート・ザ・ビー トルズ		1964年1 月20日	ブリ ティッ シュビ ト60'S	CD	1964年1月にアメリカ合衆国で発売されたビートルズの2作目のアルバム。キャピトル・レコードにおけるファースト・アルバムである。ファースト・アルバム『プリーズ・プリーズ・ミー』のアメリカにおける発売権はウィー・ジェイ・レコードが持っていたため、本作は『ウィズ・ザ・ビートルズ』収録曲を中心に編集された。ジャケット写真も同作のものに青みを持たせたものとなっている。大ヒットした「抱きしめたい」をオープニングに据え、イギリスとは違った編集で発表初期の12曲が収録されている。アメリカでは「アルバムの販売枚数を伸ばすために、ヒットしたシングル曲は直後のアルバムに収録する」、「アルバムの収録曲は12曲程度である」[注釈 1]といったアメリカ独自の音楽産業の通例、また「アルバム数を水増させ、その分さらなるセールスを獲得する」という販促方針から、ビートルズのオリジナル・アルバムを独自に編集しリリース続けた。こうした措置は1966年リリースの『リボルバー』まで続けられた。『ウィズ・ザ・ビートルズ』収録の全14曲中、本作未収録の5曲は、1964年4月発売の『ザ・ビートルズ・セカンド・アルバム』に収録された。ビートルズの本格的なアメリカ・デビュー・アルバムとあって、ビートルズ本人たちの意向とは別の意味でアメリカの聴衆にとっては非常に思い入れ深いアルバムであった。『ビルボード』誌アルバム・チャートでは11週連続第1位を獲得し、1964年度年間ランキングでは第8位、そして、1965年度年間ランキング1位を記録している。また、『キャッシュボックス』誌でも11週連続第1位。1964年4月10日、キャピトルは『The Beatles' Second Album』というあまり詩心のない題名のレコードを発売。これは『Meet The Beatles!』の発売から3カ月も経たないうちに発売されている。しかし、この『The Beatles' Second Album』は「セカンド・アルバム」とタイトルで謳っているが、実のところザ・ビートルズの米国盤アルバムとしては3枚目にあたるものだった。アメリカでの人気が爆発したこの年の初め、そこに乗じたアルバム『Introducing...The Beatles』がヴァージエイ・レーベルから出ていたのである(これは曲目が異なる2種類のヴァージョンが存在する)。しかも、イギリスで先行していたザ・ビートルズ・フォーに追いつくため、『The Beatles' Second Album』もまた『Meet The Beatles!』と同じく寄せ集めの内容になっていた。『The Beatles' Second Album』が全米チャートに初登場したとき、『Meet The Beatles!』はまだ悠々と首位に留まっていた(最終的な記録は11週連続首位)。『The Beatles' Second Album』が出るまでは、『With The Beatles』(イギリスで出た2枚目のアルバム)の収録曲のうち5曲は米国盤未収録だった。その5曲が、この『The Beatles' Second Album』でついに入手可能になったのである。『The Beatles' Second Album』の他の収録曲は、「Thank You Girl」や「You Can't Do That」といった英国盤シングルのB面曲、さらにはヒット曲「She Loves You」、そのB面の「I'll Get You」といった選曲になっていた。さらに目を引いたのが、「Long Tall Sally」と「I Call Your Name」である。この2曲はまもなく英国盤EP『Long Tall Sally』に収録されたが、この時点ではイギリスでもまだ未発表だった。「Long Tall Sally」はリトル・リチャードの作品。また「I Call Your Name」はのちにママス・アンド・パパスがカバーしている。ちなみにこの『The Beatles' Second Album』では、キャピトルが全曲をリ	1. 抱きしめたい (I Want to Hold Your Hand) 2:24 2. アイ・ソー・ハー・スタンディング・ゼア (I Saw Her Standing There) 2:50 3. ジス・ボーイ 2:11 4. イット・ウオント・ビー・ロング 2:11 5. オール・アイヴ・ゴット・トゥ・ドウ 2:02 6. オール・マイ・ラヴィング 2:07	アナログはここからB面 7. ドント・バザー・ミー 2:28 8. リトル・チャイルド 1:46 9. ティル・ゼア・ウオズ・ユー 2:14 10. ホールド・ミー・タイト 2:32 11. アイ・ウオナ・ビー・ユア・マン 1:59 12. ナット・ア・セカンド・タイム 2:07
	BEATLES	セカンドアルバ ム		1964年4 月10日	ブリ ティッ シュビ ト60'S	レコ ド	1964年4月にアメリカ合衆国で発売されたビートルズの3作目のアルバム『ザ・ビートルズ・セカンド・アルバム』は『ミート・ザ・ビートルズ』に続く、米キャピトル・レコードの編集アルバムである。本作からキャピトルは1アルバムにつき11曲収録することに統一している。『ミート・ザ・ビートルズ』から3カ月も経たない期間で発売された。本作には、『ウィズ・ザ・ビートルズ』収録曲中、「ミート・ザ・ビートルズ」に未収録となったカバー5曲に加え、スワン・レコード(英語版)がリリース権を持っていた「シー・ラヴズ・ユー」、「アイル・ゲット・ユー」、ヴァーゲイ・レコードがリリース権を持っていた「サンキュー・ガール」[注釈 1]、当時英国では未発表となっていた「ロング・トール・サリー」「アイ・コール・ユア・ネーム」が収録されている。なお、いずれの収録曲もアメリカ市場向けに、エコーとリバーブがかかけられている。『ビルボード』誌アルバム・チャートでは「ミート・ザ・ビートルズ」に代わって5週連続第1位を獲得した[3][4]、最終的に55週にわたってチャートインした[2]。『キャッシュボックス』誌では4週連続第1位を獲得[5]。アメリカだけで205万枚以上のセールスを記録している[6]。	Side A 1. ロール・オーバー・ベートーヴェン 2:44 2. サンキュー・ガール 2:01 3. ユー・リアリー・ゴッタ・ホールド・オン・ミー 2:58 4. デヴィル・イン・ハー・ハート 2:28 5. マネー 2:47 6. ユー・キャン・ドウ・ザット 2:39	Side B 1. ロング・トール・サリー 2:00 2. アイ・コール・ユア・ネーム 2:09 3. プリーズ・ミスター・ポストマン 2:35 4. アイル・ゲット・ユー 2:05 5. シー・ラヴズ・ユー 2:20
	BEATLES	ザ・ビートルズ・ セカンド・アルバ ム		1964年4 月10日	ブリ ティッ シュビ ト61'S	CD	1964年4月にアメリカ合衆国で発売されたビートルズの3作目のアルバム『ザ・ビートルズ・セカンド・アルバム』は『ミート・ザ・ビートルズ』に続く、米キャピトル・レコードの編集アルバムである。本作からキャピトルは1アルバムにつき11曲収録することに統一している。『ミート・ザ・ビートルズ』から3カ月も経たない期間で発売された。本作には、『ウィズ・ザ・ビートルズ』収録曲中、「ミート・ザ・ビートルズ」に未収録となったカバー5曲に加え、スワン・レコード(英語版)がリリース権を持っていた「シー・ラヴズ・ユー」、「アイル・ゲット・ユー」、ヴァーゲイ・レコードがリリース権を持っていた「サンキュー・ガール」[注釈 1]、当時英国では未発表となっていた「ロング・トール・サリー」「アイ・コール・ユア・ネーム」が収録されている。なお、いずれの収録曲もアメリカ市場向けに、エコーとリバーブがかかけられている。『ビルボード』誌アルバム・チャートでは「ミート・ザ・ビートルズ」に代わって5週連続第1位を獲得した[3][4]、最終的に55週にわたってチャートインした[2]。『キャッシュボックス』誌では4週連続第1位を獲得[5]。アメリカだけで205万枚以上のセールスを記録している[6]。	1. ロール・オーバー・ベートーヴェン 2:44 2. サンキュー・ガール 2:01 3. ユー・リアリー・ゴッタ・ホールド・オン・ミー 2:58 4. デヴィル・イン・ハー・ハート 2:28 5. マネー 2:47 6. ユー・キャン・ドウ・ザット 2:39	アナログはここからB面 7. ロング・トール・サリー 2:00 8. アイ・コール・ユア・ネーム 2:09 9. プリーズ・ミスター・ポストマン 2:35 10. アイル・ゲット・ユー 2:05 11. シー・ラヴズ・ユー 2:20

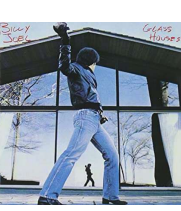
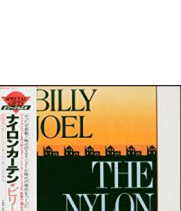
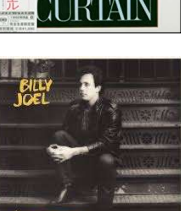
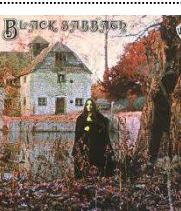
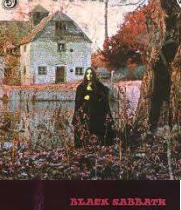
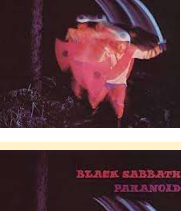
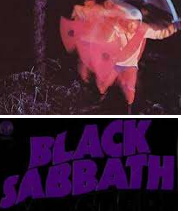
BEATLES	ハード・デイズ・ナイト		1964年7月10日	ブリティッシュビートル60'S	レコード	イギリスで1964年7月10日に発売されたビートルズの3作目。彼らにとっては初主演作となる映画『ハード・デイズ・ナイト』のサウンドトラックでもある。邦題は映画と同じく「ビートルズがやって来るヤァ!ヤァ!ヤァ!」。A面は初主演映画『ビートルズがやって来るヤァ!ヤァ!ヤァ!』の収録曲7曲、B面には新しくレコーディングされたナンバー6曲が収録されている。ビートルズのオリジナル・アルバムとして初の全曲オリジナルで唯一の「全曲レノン=マッカートニーによるオリジナル曲で構成されたアルバム」。発売当時からアナログLP時代を通じて、ステレオ盤とモノラル盤の両方がリリースされていた。日本ではこのアルバムからイギリスと同内容での発売が行われるようになったが、アルバムジャケットは日本独自のデザインが使われ、イギリス盤と同じデザインでリリースされたのは1976年の再発時だった。	Side A 1.ア・ハード・デイズ・ナイト 2:34 2.恋する二人 (I Should Have Known Better)2:43 3.恋におちたら (If I Fell) 2:19 4.すてきなダンス (I'm Happy Just To Dance With You) 1:56 5.アンド・アイ・ラヴ・ハー 2:30 6.テル・ミー・ホワイ 2:09	Side B 1.エニイ・タイム・アット・オール 2:11 2.ぼくが泣く (I'll Cry Instead) 1:45 3.今日の誓い (Things We Said Today) 2:35 4.家に帰れば(When I Get Home)2:17 5.ユー・キャン・ドウ・ザット 2:35 6.アイル・ビー・バック (I'll Be Back) 2:24
BEATLES	ビートルズがやって来る ヤァ!ヤァ!ヤァ!		1964	ブリティッシュビートル60'S	レコード	64年9月5日は、映画「ビートルズがやって来るヤァ! ヤァ! ヤァ!」のサウンド・トラック盤。本国UKで3枚目、国内でも同じく3枚目のLPで、国内では初のステレオ、初のオリジナルと同一内容のLPの発売となりました。但し、カバー写真は日本独自の写真を使用しています。76年の国旗帯より、UKかノジナル・カバーと同じデザインのカバーに変更されましたが、日本語LPタイトルや収録曲は全く同じですので、同一LPとして取り上げます。最初期の日本盤は、オデオンのレーベルだったが、その後の再プレスで、アップルレーベルとなる。この『A HARD DAY'S NIGHT』はデザインも少し変わり、ジャケット上部の【stereo】の文字が無くなった。	Side A 1.ア・ハード・デイズ・ナイト 2:34 2.恋する二人 (I Should Have Known Better)2:43 3.恋におちたら (If I Fell) 2:19 4.すてきなダンス (I'm Happy Just To Dance With You) 1:56 5.アンド・アイ・ラヴ・ 2:30 6.テル・ミー・ホワイ 2:09	Side B 1.エニイ・タイム・アット・オール 2:11 2.ぼくが泣く (I'll Cry Instead) 1:45 3.今日の誓い (Things We Said Today) 2:35 4.家に帰れば (When I Get Home) 2:17 5.ユー・キャン・ドウ・ザット 2:35 6.アイル・ビー・バック 2:24
BEATLES	サムシング・ニュー		1964年7月20日	ブリティッシュビートル60'S	レコード	1964年7月20日アメリカ発売／1970年9月25日日本発売 「ビルボード」誌全米アルバム・チャート最高位2位(9週)／トップ100在位38週 マルチ・プラチナディスク×2(=200万枚／1997年1月10日認定) 映画のサウンド盤がユナイテッド・アーティスツから出たため、キャピトルはこのアルバムを独自に編集しました。 イギリス盤「ハード・デイズ・ナイト」からタイトル曲などを省いた8曲と、ロックンロールのカバー「スロウ・ダウン」「マッチボックス」、そして「抱きしめたい」のドイツ語バージョンが収められています。 「エド・サリヴァン・ショー」出演時のショットが使われたジャケットは、4人の使用楽器やステージでの立ち位置が一目瞭然。	Side A 1.ぼくが泣く(I'll Cry Instead) 1:49 2.今日の誓い(Things We Said Today) 2:39 3.エニイ・タイム・アット・オール 2:13 4.家に帰れば(When I Get Home) 2:18 5.スロウ・ダウン 2:55 6.マッチボックス 1:58	Side B 1.テル・ミー・ホワイ 2:10 2.アンド・アイ・ラヴ・ハー 2:32 3.すてきなダンス (I'm Happy Just To Dance With You) 1:58 4.恋におちたら (If I Fell) 2:22 5.抱きしめたい(ドイツ語) (Komm, Gib Mir Deine Hand) 2:19
BEATLES	サムシング・ニュー		1964年7月20日	ブリティッシュビートル61'S	CD	1964年7月にアメリカ音楽圏で発売されたビートルズの5作目のアルバム。『サムシング・ニュー』は米キャピトル・レコードの編集アルバムである。ジャケットにはエド・サリヴァン・ショーでのステージ写真が用いられた。映画『ビートルズがやって来る ヤァ!ヤァ!ヤァ!』のサウンドトラック『A Hard Day's Night』は映画会社ユナイテッド・アーティスツから発売され、キャピトルは“A Hard Day's Night”をタイトルにしたアルバムを発売できない契約だったため『サムシング・ニュー』として編集し、発売した。 イギリス盤『ハード・デイズ・ナイト』収録曲からの8曲と、EP『ロング・トール・サリー』に収録されている「スロウ・ダウン」「マッチボックス」、「抱きしめたい(ドイツ語)」の計11曲が収録された。しかしその一方、「ア・ハード・デイズ・ナイト」、「恋する二人」、「キャン・バイ・ミー・ラヴ」の3曲は未収録となった[注釈 1]。 『ビルボード』誌のアルバム・チャートでは9週連続最高位2位だった[2]。アメリカだけで200万枚以上のセールスを記録している	1. ぼくが泣く (I'll Cry Instead) 1:49 2. 今日の誓い (Things We Said Today) 2:39 3. エニイ・タイム・アット・オール 2:13 4. 家に帰れば(When I Get Home) 2:18 5. スロウ・ダウン (Slow Down) 2:55 6. マッチボックス 1:58	1. テル・ミー・ホワイ 2:10 2. アンド・アイ・ラヴ・ハー 2:32 3. すてきなダンス (I'm Happy Just To Dance With You) 1:58 4. 恋におちたら (If I Fell) 2:22 5. 抱きしめたい(ドイツ語) (Komm, Gib Mir Deine Hand) 2:19
BEATLES	ビートルズ '65		1964年12月15日	ブリティッシュビートル61'S	CD	本作はキャピトル・レコードが「ビートルズ・フォー・セール」を改竄した作品で、一部収録曲をカットし、アメリカで発売された『ハード・デイズ・ナイト』で未収録となっていた「アイル・ビー・バック」と、シングル曲「アイ・フィール・ファイン」と「シーズ・ア・ウーマン」を追加収録した作品となっている。『ビートルズ・フォー・セール』収録曲のうち、本作への未収録曲は「ビートルズ VI」に収録された。 アルバム・タイトル、ジャケットなどが英国オリジナル盤と同様のキャピトル編集盤『Rubber Soul (Capitol)」、キャピトル編集盤『Revolver (Capitol)』の2種類を除けば、国内でリリースされなかった唯一のキャピトル編集盤であったが、2004年リリースのボックス・セット『ザ・ビートルズ '64 BOX』(『THE CAPITOL ALBUMS VOL. 1』)に収録され、40年ぶりに日本で陽の目を見ることがとなった。 『ビルボード』誌のTop LPsチャートでは、9週連続第1位を獲得[2]。アメリカだけで300万枚以上のセールスを記録している	1.「ノー・リプライ」(No Reply) ジョン・レノン2:15 2.「アイム・ア・ルーザー」(I'm A Loser) ジョン・レノン2:31 3.「ベイビーズ・イン・ブラック」(Baby's In Black) ジョン・レノンポール・マッカートニー2:04 4.「ロック・アンド・ロール・ミュージック」(Rock And Roll Music)チャック・ベリージョン・レノン2:31	1.「ハニー・ドント」(Honey Don't)カール・パーキンズリンゴ・スター2:57 2.「アイル・ビー・バック[注釈 1]」(I'll Be Back) ジョン・レノン2:24 3.「シーズ・ア・ウーマン[注釈 2]」(She's A Woman) ポール・マッカートニー3:03 4.「アイ・フィール・ファイン[注釈 3]」(I Feel Fine) ジョン・レノン2:20 5.「みんないい娘」(Everybody's Trying To Be My Baby) 2:26
BEATLES	ビートルズ・フォー・セ		1964年12月4日	ブリティッシュビートル60'S	レコード	イギリスにおいて1964年12月4日に発売されたビートルズの4作目。パーロフォンが発売。アルバムは作詞者としてのレノン=マッカートニーにとってターニングポイントとなり、特にジョン・レノンは自叙的な曲を作ることに興味を示した。「アイム・ア・ルーザー」は、レノンがボブ・ディラン[6]の影響下にあることを初めて示した曲である。アルバム・タイトルは訳すと「ビートルズ売り出し中」で、クリスマスセールに引っ掛けたもの。アメリカにおいては、『ビートルズ '65(Capitol)』と『ビートルズ VI』として初めて発売した。日本では1965年に『ビートルズ '65』という日本語題で発売した。このアルバムはクリスマス用ということで、自分たちの新曲だけでアルバムを作ることができず、アルバム用の数曲をカバー曲で補うこととなった。そのカバー曲にはメンバーが敬愛するチャック・ベリーの「ロック・アンド・ロール・ミュージック」とパディ・ホリーの「ワーズ・オブ・ラヴ」、そしてカール・パーキンスの2つの曲、ジョージ・ハリスンが歌った「みんないい娘」とリンゴ・スターが歌った「ハニー・ドント」。	A面 1.ノー・リプライ 2:15 2.アイム・ア・ルーザー 2:30 3.ベイビーズ・イン・ブラック 2:04 4.ロック・アンド・ロール・ミュージック 2:31 5.アイル・フォロー・ザ・サン 1:49 6.ミスター・ムーンライト 2:38 7.カンサス・シティ/ヘイ・ヘイ・ヘイ・ヘイ 2:38	B面 1.エイト・デイズ・オブ・ウィーク 2:43 2.ワーズ・オブ・ラヴ 2:04 3.ハニー・ドント 2:57 4.エヴリー・リトル・シンガー 2:04 5.パーティーはそのままだに 2:33 6.ホワット・ユー・アー・ドゥーイング 2:30 7.みんないい娘(Everybody's Trying To Be My Baby) 2:26
BEATLES	ビートルズ・フォー・セ		1964年12月4日	ブリティッシュビートル60'S	レコード			
BEATLES	アーリー・ビートルズ		1965年3月22日	ブリティッシュビートル60'S	レコード	米国キャピトル・レコード企画で制作された1965年のアルバム。R&B色の強い初期作品を集めた編集盤。1965年3月22日アメリカ発売／1970年9月25日日本発売。イギリスでのデビュー・アルバム「プリーズ・プリーズ・ミ」収録曲は、アメリカでは当初ヴィー・ジェイ・レコードが販売権を得て、アルバム「イントロデュクション・ザ・ビートルズ」として発売されていました。その後、キャピトルが権利を獲得したことで、このアルバムが出されることになったが、前年のビートルズ・ファイバー時にヴィー・ジェイ盤が9週連続全米2位と売れに売っていたため、このアルバムはヒットしませんでした。 アルバム「プリーズ・プリーズ・ミ」から「アイ・ソー・ハー・スタンディング・ゼア」「ミズリー」「ゼアズ・ア・プレイズ」を除いた11曲で構成されています。「アイ・ソー・ハー・スタンディング・ゼア」は、キャピトル第一弾のアルバム「ミッドザ・ビートルズ」に収録されていたのでわかるが、「ミズリー」「ゼアズ・ア・プレイズ」を省いた事により、アメリカのファンはこの二曲を、1980年の「レアリティーズ Vol.2」の発売まで幻のビートルズ曲となります。アルバムのジャケットはイギリス本国のアルバム「ビートルズ・フォー・セール」の裏写真が使用された。 「ビルボード」誌全米アルバム・チャート最高位43位(1週)／トップ100在位14週 プラチナディスク(=100万枚／1997年1月10日認定)	A面 1.ラヴ・ミー・ドウ 2:19 2.ツイスト・アンド・シャウト2:33 3.アンナ(Anna) 3:00 4.チェインズ 2:55 5.ボーイズ 2:28 6.アスク・ミー・ホワイ 2:24	B面 1.プリーズ・プリーズ・ミー1:59 2.P.S.アイ・ラヴ・ユー 2:04 3.ペーパー・ウィッツ・ユー 2:41 4. 蜜の味(A Taste Of Honey) 2:05 5.ドウ・ユー・ウオント・トゥ・ノウ・ア・シークレッツ 1:59
BEATLES	ビートルズ NO.5		1965年5月5日	ブリティッシュビートル60'S	レコード	ビートルズの日本における5作目のアルバムである。1965年5月5日に東芝音楽工業より発売された。当時英国盤・米国盤共にアルバム未収の「シー・ラヴズ・ユー(ドイツ語)」を含んだ『ビートルズ No.2』に続く日本独自に企画構成されたアルバムである(最後の日本編集盤)。ジャケットは米国盤『Beatles '65』のデザインを転用し、一部を変更している。曲順も日本独自のもの。初リリース以来、モノラル盤のみの発売であり、本アルバムはステレオ盤はない。これは「アイ・フィール・ファイン」と「シーズ・ア・ウーマン」など一部の曲のリアル・ステレオ・ミックスがまだ公式に発表されていなかったため、アルバム全体をモノラル・ミックスで統一する必要があったからである。	A面 タイトル 作詞・作曲 リード・ボーカル時間 1.のっぽなサリー(Long Tall Sally) エノリス・ジョンソン(英語版)ロバート・ブラックウェル(英語版)リチャード・ベニーマン ポール・マッカートニー2:03 2.シー・ラヴズ・ユー(ドイツ語) (Sie Liebt Dich) レノン=マッカートニー 2:00	B面 1.アイ・フィール・ファイン(I Feel Fine) ジョン・レノン 2:20 2.抱きしめたい(ドイツ語) (Komm, Gib Mir Deine Hand) レノン=マッカートニー 2:27 3.チェインズ(Chains) ジェリー・ゴフィンキャロル・キング ジョージ・ハリスン 2:23 4.スロウ・ダウン(Slow Down) ラ
BEATLES	ヘルプ!		1965年8月6日	ブリティッシュビートル60'S	レコード	ビートルズの5作目。映画『ヘルプ!4人はアイドル』のサウンドトラック盤でもある。イギリスにおいて1965年8月6日に発売された。旧邦題は「4人はアイドル」。A面にはビートルズ主演の映画『ヘルプ!4人はアイドル』で使用された楽曲、B面には「イェスタデイ」やカバー曲を含む新曲が収録されている。タイトル曲「ヘルプ!」は、映画のタイトルに合わせてジョンが作った曲である。デビュー録音(「ラヴ・ミー・ドウ」、「P.S.アイ・ラヴ・ユー」)で外部ミュージシャンのアンディ・ホワイトをドラムス、パーカッション役に起用したが、以降はマーティンが手を貸すことはあってもビートルズのレコーディングに際し外部ミュージシャンが参加することはなかったが、本作の「悲しみはぶっとばせ」及び「イェスタデイ」のレコーディングにおいてデビュー録音以来、外部ミュージシャンを起用したことは注目される。本作には、ジョン・レノン作の「悲しみはぶっとばせ」などボブ・ディランの影響が見られる楽曲のほか、ポール・マッカートニー作の「夢の人」に見られるカントリー風味の楽曲が収録されている。	A面 1.ヘルプ! 2:39 2.ザ・ナイト・ビフォア 2:36 3.フロム・ミー・トゥ・ユー・ファンタジー 2:08 4.悲しみはぶっとばせ(You've Got To Hide Your Love Away) 2:12 5.アイ・ニード・ユー 2:31 6.イン・ザ・チロル 2:26	B面 1.アナザー・ガール 2:08 2.アナザー・ハード・デイズ・ナイト 2:31 3.涙の乗車券(Ticket To Ride) 3:07 4.ザ・ビター・エンド / ユー・キャン・ドウ・ザット 2:26 5.恋のアドバイス(You're Going To Lose That Girl) 2:19 6.ザ・チェイス 2:31
BEATLES	ヘルプ!		1965年8月6日	ブリティッシュビートル60'S	レコード			
BEATLES	ヘルプ!		1965年8月6日	ブリティッシュビートル60'S	レコード			
BEATLES	ヘルプ!		1965年8月6日	ブリティッシュビートル60'S	レコード	アメリカでの9作目のアルバムである。米キャピトル・レコードによる編集盤である。純粋なサウンドトラック盤様に仕上げられた本作は、実際に映画で使用された楽曲のみが収録され、その他に映画で使用されたケン・ゾーンの音楽が収められている。これにより、『4人はアイドル』のB面に収録された7曲が本作から外された。これらの楽曲のうち、「ユー・ライク・ミー・トゥ・マッチ」「テル・ミー・ホワット・ユー・シー」「リバー・ミス・リジー」の3曲は『ビートルズ VI』、「イッツ・オンリー・ラヴ」「夢の人」の2曲は『Rubber Soul (Capitol)』、「アクト・ナチュラリー」「イェスタデイ」の2曲は「イェスタデイ・アンド・トゥデイ」に収録されている。(ケン・ゾーンの映画音楽は、ケン・ゾンと彼のオーケストラによる演奏)アメリカでは9週連続第1位を獲得。	A面 1.ヘルプ! 2:39 2.ザ・ナイト・ビフォア 2:36 3.フロム・ミー・トゥ・ユー・ファンタジー 2:08 4.悲しみはぶっとばせ(You've Got To Hide Your Love Away) 2:12 5.アイ・ニード・ユー 2:31 6.イン・ザ・チロル 2:26	B面 1.アナザー・ガール 2:08 2.アナザー・ハード・デイズ・ナイト 2:31 3.涙の乗車券(Ticket To Ride) 3:07 4.ザ・ビター・エンド / ユー・キャン・ドウ・ザット 2:26 5.恋のアドバイス(You're Going To Lose That Girl) 2:19 6.ザ・チェイス(The Chase) 2:31
BEATLES	ラバー・ソウル		1965年12月3日	ブリティッシュビートル60'S	レコード	1965年12月3日に発売された、ビートルズの6作目。このアルバムで初めてジョージが持ち込んだインドの楽器シタールが、「ノルウェーの森」で演奏されている。ジョンとポール双方の作品も質・数ともにバランスが取れはじめ、ジョージも佳作を出し始めてきた時期の作品。10月12日から11月15日の約1ヶ月にわたってレコーディング・セッションが行われ、ビートルズとジョージ・マーティンは、「ノルウェーの森」ではシタールを、「ミッシェル」「ガール」ではシャンソン風のギター・ラインを、「嘘つき女」でフーズを利かせたベースを、そして「イン・マイ・ライフ」ではバロック音楽風のピアノ・ソロを使用するなどして、従来のリハプール・サウンドから脱却したアルバムを制作した。ジョン・レノンは「ラバー・ソウルは大傑作アルバムで、リハプールはLSDアルバムだ」と1972年に説明している。当時フォークロックの旗手であったパーズとボブ・ディランからの影響が大きい。本作では通常のバンド編成で使われる楽器から使う楽器の幅を広げている。特に代表的な「ノルウェーの森」では、ヤード・パーズやキンクスがすでに自身の音楽でインドの楽器を使っていたのだが、本格的な導入としてはこの曲がポップ・ミュージックにおける最初の例とされる。以降、1960年代中盤に新しい楽器を使う流行を生み出し、今では一般的な「ワールド・ミュージック」と呼ばれる分野の先駆けの1曲として認識されていて、西洋の音楽の中に西洋ではない音楽の影響を入れるトレンドの歴史的なきっかけとなった。ハリスンは、パーズのデヴァッド・クロスビーにインドの歴史的音楽とシタールを紹介され、すぐにのめり込み、シタールのレッスンをラヴィ・シャンカルから受ける。打楽器では、リンゴ・スターのバック・ビートやマラカス、タンバリンの使用頻度が増えた。	A面 #タイトル作詞・作曲リード・ボーカル時間 1.ドライブ・マイ・カー(Drive My Car) ポール・マッカートニージョン・レノン 2:25 2.ノルウェーの森(ノーウェgian・ウッド)(Norwegian Wood (This Bird Has Flown)) ジョン・レノン 2:01 3.ユー・ウオント・シー・ミー(You Won't See Me) ポール・マッカートニー 3:18 4.ひとりぼっちのあいつ(Nowhere Man) ジョン・レノン 2:40 5.嘘つき女(Think For Yourself) ジョージ・ハリスン 2:16 6.愛のことば(The Word) ジョン・レノン 2:41 7.ミッシェル(Michelle) ポール・マッカートニー 2:40	B面 #タイトル作詞・作曲リード・ボーカル時間 1.消えた恋(What Goes on) レノン=マッカートニー=スターキー リンゴ・スター 2:47 2.ガール(Girl) ジョン・レノン 2:30 3.君はいずこへ (I'm Looking Through You) ポール・マッカートニー 2:23 4.イン・マイ・ライフ(In My Life) ジョン・レノン 2:24 5.ウェイット(Wait) ジョン・レノンポール・マッカートニー 2:12 6.恋をするなら(If I Needed Someone) ジョージ・ハリスン2:20 7.浮気娘(Run For Your Life) ジョン・レノン 2:18
BEATLES	ラバー・ソウル		1965年12月3日	ブリティッシュビートル60'S	レコード			

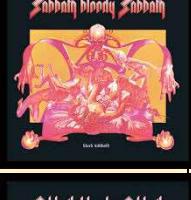
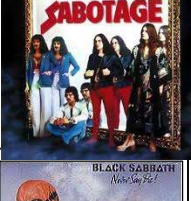
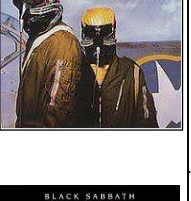
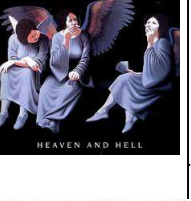
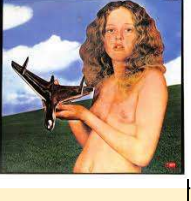
BEATLES	アビイロード		1969年9月26日	ブリ ティッ シュビ ト60'S	CD			
BEATLES	ヘイ・ジュード		1970年2月26日	ブリ ティッ シュビ ト60'S	レコ ド	1970年2月26日アメリカ発売／1970年4月21日日本発売 『ビルボード』誌全米アルバム・チャート最高位2位(4週)／トップ100在位25週 マルチ・プラチナディスク×3(＝300万枚／1991年12月26日認定) 『アビイ・ロード』と『レット・イット・ビー』の狭間の70年2月、キャピトルの編集アルバムに未収録だったシングル曲を集めて発売された、準ベスト盤的作品集。全10曲ながら、曲の選択範囲は64年の「キャント・バイ・ミー・ラヴ」から69年の「ジョンとヨーコのバラード」までと非常に広い。この時期にはすでにモノ盤は市場から姿を消しており、ステレオ盤のみがリリースされた。解散が既成事実となりつつあった時期にリリースされたこともあり、初期プレスのレーベルに記されたアルバム・タイトルは企画時の仮題のまま『THE BEATLES AGAIN』と記されている。 日本では70年4月に発売。79年5月にはイギリス・プレス盤も出回った。アメリカ編集アルバムがイギリスのカタログ入りしたのは76年の『マジカル・ミステリー・ツアー』以来2枚目で、「準オリジナル・アルバム」と呼んでもいいほどの人気ぶりだったことがうかがえる。	A面 1.キャント・バイ・ミー・ラヴ 2:12 2.恋する二人 2:43 3.ベイバーバック・ライター 2:19 4.レイン 3:02 5.レディ・マドンナ 2:18 6.レボリューション 3:25	B面 7.ヘイ・ジュード 7:08 8.オールド・ブラウン・シュール 18 9.ドント・レット・ミー・ダウン 3:35 10.ジョンとヨーコのバラード 3:00
BEATLES	レット・イット・ビー		1970年5月8日	ブリ ティッ シュビ ト60'S	レコ ド	ビートルズが事実上解散してから約1か月後の1970年5月8日に発売された13作目。同名のドキュメンタリー映画のサウンドトラックとなっており、ビートルズが事実上解散してから約1か月後の1970年5月8日に発売された。全英アルバムチャートやBillboard 200をはじめとした多くのアルバムチャートで第1位を獲得。アルバム『アビイ・ロード』制作前の1969年1月に行われたレコーディング・セッションを基に制作が行なわれ、アルバム『ゲット・バック』(Get Back)として発売するにあたり、エンジニアのグリーン・ジョンスによって1969年5月と1970年1月にミキシング作業が行なわれたが、メンバーはいずれも却下。その後セッションのテープを委託されたフィル・スペクターによって編集が行なわれ、『レット・イット・ビー』として仕上げられた。 1969年1月2日、いわゆる「ゲット・バック・セッション」が始まった。セッション開始当初はメンバーも多少なりとも手ごたえを感じていた様子だったが、セッションが進むにつれて慣れない映画スタジオでの作業、公開コンサートまで時間が短いこと、メンバー以外の人間がいる中で常に撮影されていることなど、緊張と不満が原因となり軋轢が生まれ、覇気がなくなっていって。7日にはマッカートニーとジョージ・ハリスンが対立し、10日にはジョン・レノンとの衝突が原因でハリスンがセッションを放棄するという事件が起こった	A面 1.トゥ・オブ・アス 3:36 2.ディグ・ア・ボニー 3:54 3.アクロス・ザ・ユニバース 3:48 4.アイ・ミー・マイン 2:26 5.ディグ・イット 0:50 6.レット・イット・ビー 4:03 7.マギー・メイ 0:40	B面 1.アイヴ・ガッタ・フィーリング 3:37 2.ワン・アフター・909 2:54 3.ザ・ロング・アンド・ワインディング・ロード 3:38 4.フォー・ユー・ブルー 2:32 5.ゲット・バック 3:09
BEATLES	レット・イット・ビー		1970年5月8日	ブリ ティッ シュビ ト60'S	CD			
BEATLES	レット・イット・ビー… ネイキッド		1970年5月8日	ブリ ティッ シュビ ト60'S	CD	アルバム『レット・イット・ビー』のオリジナル・ヴァージョンが30年以上の時を越え、ついに登場。フィル・スペクターの手によるオーケストラ、コーラスや、サウンド・エフェクトなどをそぎ落とし、ビートルズの演奏の部分だけを残しリミックスされている。これによって、ザ・ビートルズがいかに素晴らしい演奏をしていたかが再確認できる。 メンバーの会話、「ディグ・イット」「マギー・メイ」をカットし、「ドント・レット・ミー・ダウン」を新たに収録。1970年にリリースされた『レット・イット・ビー』とは異なる内容の全11曲を収録。CDに封入されるブックレットには、レコーディング・セッションの歴史的な写真、そして1970年のアルバム・リリース当時のオリジナル・ブックレットに掲載されていたバンドの会話が挿入される。	1.ゲット・バック 2:34 2.ディグ・ア・ボニー 3:38 3.フォー・ユー・ブルー 2:27 4.ザ・ロング・アンド・ワインディング・ロード 3:34 5.トゥ・オブ・アス 3:20 6.アイヴ・ガッタ・フィーリング 3:30 7.ワン・アフター・909 2:44	8.ドント・レット・ミー・ダウン 3:18 9.アイ・ミー・マイン 2:20 10.アクロス・ザ・ユニバース 3:38 11.レット・イット・ビー 3:53 別CD 1. フライ・オン・ザ・ウォール 21:56
BEATLES	オールディーズ		1966年12月10日	ブリ ティッ シュビ ト60'S	レコ ド			
BEATLES	ザ・ビートルズ・スーパー・ライブ!		1977年5月6日	ブリ ティッ シュビ ト60'S	レコ ド	1964年8月と1965年8月にロサンゼルスでのライブパフォーマンスが行われ、2つの演奏が収録された。本作はビートルズの初の公式ライブ・アルバムとなっている。当初は録音状態が悪く、発売されず蔵入りになった。その後1971年に、当時ジョン・レノンやジョージ・ハリスンのアルバムをプロデュースしていたフィル・スペクターへ、アルバム完成をさせるべく検証のためにマスターテープが渡されたが、この時スペクターが作業結果に満足しなかったか、そもそもテープすら試聴されなかったのか真相は不明のまま、発売するまでには至らず、更に6年もの間放置された。その後、デビュー直後のビートルズが出演したハンブルクのスタークラブに於いて一般家庭用のテープレコーダーで録音された音質の悪いライブ盤『デビュー! ビートルズ・ライブ'62』が発売される事を知ったキャピトル・レコードの社長バスカー・メノン は、再びキャピトルの倉庫からマスターテープを取り寄せ、ジョージ・マーティンにリプロデュースを依頼した。マーティンはエンジニアのジェフ・エメリックとともに、3トラックテープをマルチトラックに移し、両日のベスト・トラックを選び出してリミックス、フィルタリングを施してサウンドを整えた。作業はロンドンのエア・スタジオ(ジョージ・マーティンが所有)において、1977年1月に行われた。LPのライナーノートには、マーティン自身のコメントとして「ヴォーカル、楽器のオーバーダビングは一切していない」との説明がされている。「涙の乗車券」と「ヘルプ」は1965年8月29日、「ディジー・ミス・リジー」は1965年8月29日と30日に録音された音源を繋ぎ合わせたものが収録。2016年に発売されたリマスター盤『ライブ・アット・ハリウッド・ボウル』には、ボーナス・トラックとして1964年の公演の「ユー・キャント・ドゥ・ザット」と「抱きしめたい」、1965年の公演の「みんないい娘」と「ベイビー・ズ・アイム・ゴナ・ビー・ザ・シンガー」が追加収録される。	アナログA面 1.ツイスト・アンド・シャウ 1:33 2.シーズ・ア・ウーマン 2:53 3.ディジー・ミス・リジー 3:39 4.涙の乗車券 2:51 5.キャント・バイ・ミー・ラヴ 2:14 6.今日の誓い(Things We Said Today) 2:18 7.ロール・オーバー・ベーターヴェン 2:53	アナログB面 1.ボイズ 2:08 2.ア・ハード・デイズ・ナイト 3:13 3.ヘルプ! 2:46 4.オール・マイ・ラヴィング 2:15 5.ユー・ラヴズ・ユー 2:31 6.ロング・トール・サリー 2:18
BEATLES	ザ・ビートルズ 1962年～1966年 (赤盤)		1973年4月19日	ブリ ティッ シュビ ト60'S	レコ ド	1973年4月19日にアナログLP2枚組で発売されたビートルズのベスト・アルバム。本来『AΩ(ビートルズ・アルファ・オメガ)』という4枚組120曲入りの海賊盤コンピレーション・アルバムが出回ったことへの対抗措置として企画されたもの。その外見から「赤盤」の愛称で親しまれている。1967年から1970年までの代表曲を集めた『ザ・ビートルズ1967年～1970年』(通称『青盤』)と同時にリリースされた。デビュー・シングルのA面「ラヴ・ミー・ドウ」(1962年)からアルバム『リボルバー』(1966年)までの楽曲で構成されている。発売当初、ジョージ・ハリスンが選曲を行ったとされたが、実際は当時のビートルズのマネージャーであるアラン・クレインが手掛けた。イギリスでは最高位第3位を獲得。アメリカでも最高位第3位。アメリカだけで700万セット以上のセールスを記録し、全世界では2,000万セット以上をセールス。	A面 1.ラヴ・ミー・ドウ 2:19 2.プリーズ・プリーズ・ミー 2:01 3.フロム・ミー・トゥ・ユー 1:57 4.シー・ラヴズ・ユー 2:22 5.抱きしめたい 2:26 6.オール・マイ・ラヴィング 2:09 7.キャント・バイ・ミー・ラヴ 2:13 B面 1.ハード・デイズ・ナイト 2:34 2.アンド・アイ・ラヴ・ハー 2:31 3.エイト・デイズ・ア・ウィーク 2:44 4.アイ・フィール・ファイン 2:20 5.涙の乗車券 3:11 6.イエスタデイ 2:05	C面 1.ヘルプ 2:20 2.悲しみはぶっとばせ 2:11 3.恋を抱きしめよう 2:16 4.デイトリッパー 2:49 5.ドライブ・マイ・カー 2:28 6.ルルウェーの森 2:05 D面 1.ひとりぼっちのあいつ 2:44 2.ミッシェル 2:42 3.イン・マイ・ライフ 2:27 4.ガール 2:31 5.ベイバーバック・ライター 2:19 6.エリナー・リグビー 2:08 7.イエロー・サブマリン 2:39
BEATLES	ザ・ビートルズ 1967年～1970年 (青盤)		1973年4月19日	ブリ ティッ シュビ ト60'S	レコ ド	1973年4月19日にアナログLP2枚組で発売されたビートルズのベスト・アルバム。その外見から「青盤」の愛称で親しまれている。アルバムでは『サージェント・ペパーズ・ロンリー・ハーツ・クラブ・バンド』(1967年)からラスト・アルバムの『レット・イット・ビー』(1970年)までの楽曲で構成されている。イギリスの全英アルバムチャートでは最高位第2位を獲得[3]。アメリカのBillboard 200では最高位第1位を獲得。アメリカだけで800万セット以上のセールスを記録し、全世界では2,100万セット以上のセールスを記録している。メンバーの成長と共に音楽性も変化し、ストリングスやブラスバンドを大胆に取り入れるなど、実験的な曲も目立つ。サイケデリック志向の作品も多く、ジョン・レノンの作品は複雑で文学的なものやメッセージ性の強いものが増えている。ポール・マッカートニーも実験をもとにした歌や作家的な曲作りに磨きがかかっている。また、ジョージ・ハリスンの作品も4曲収録されており、第3のソングライターとしての実力を見せている。コンサート・ツアーを休止してレコーディングに専念して制作しただけあって、初期とは異なる作風・完成度を見せる楽曲が並んでいる。	A面 1.ストロベリー・フィールズ・フォーエバー 4:08 2.ペニー・レイン 3:01 3.サージェント・ペパーズ・ロンリー・ハーツ・クラブ・バンド 2:02 4.ウィズ・ア・リトル・ヘルプ・フロム・マイ・フレンズ 2:44 5.ルンシー・イン・ザ・スカイ・ウィズ・ダイヤモンド 3:29 6.ア・デイ・イン・ザ・ライフ 5:07 7.愛こそはすべて 3:48 B面 1.アイ・アム・ザ・ウォルラス 4:35 2.ハロー・グッドバイ 3:29 3.フル・オン・ザ・セル 3:00 4.マジカル・ミステリー・ツアー 2:49	C面 1.バック・イン・ザ・U.S.S.R. 2:46 2.ホワイル・マイ・ギター・ジェントリー・ウィープス 4:46 3.オプ・ラ・ディ、オプ・ラ・ダ 3:11 4.ゲット・バック 3:12 5.ドント・レット・ミー・ダウン 3:35 6.ジョンとヨーコのバラード 3:01 7.オールド・ブラウン・シュール 3:21 D面 1.ヒア・カムズ・ザ・サン 3:05 2.カム・トゥゲザー 4:19 3.サムシング 3:03 4.オクトパス・ガーデン 2:52 5.レット・イット・ビー 3:52 6.アクロス・ザ・ユニバース 3:49 7.ザ・ロング・アンド・ワインディング・ロード 3:09
BEATLES	ロックンロール・ミュージック		1976年6月11日	ブリ ティッ シュビ ト60'S	レコ ド	ビートルズのコンピレーション・アルバム(アナログLP2枚組)である。アメリカでは1976年6月4日にキャピトル・レコード(規格品番：SKBO-11537)から、イギリスでは4日後の6月11日に・パロフォン(規格品番：PCSP-719)から発売された[2]。ビートルズの楽曲からロックンロール・ナンバーを集めた作品となっている。ビートルズのロックンロールのルーツおよびそのジャンルへの貢献を捉えることを目的に発売された[3]。本作には「ドライブ・マイ・カー」、「レボリューション」、「ゲット・バック」のほか、他アーティストのカバー曲も含まれている。シングル『ヘルプ!』のB面曲「アイム・ダウン」が、本作のアルバム初収録となる。また、発売から4年後の1980年10月には、『ロックン・ロール・ミュージック Vol.1』、『ロックン・ロール・ミュージック Vol.2』の2作に分けて発売された。これらのジャケットは1964年にビートルズがアメリカ初上陸した際の情景をモチーフにしたイラストに変更されている 全英アルバムチャートでは最高位11位、Billboard 200では最高位4位を獲得した。現在はビートルズのカタログから存在が抹消されている。	A面 1.ツイスト・アンド・シャウ 2:31 2.アイ・ソー・ハー・スタンディング・ゼア 2:56 3.ユー・キャント・ドゥ・ザット 2:38 4.アイ・ウオナ・ビー・ユア・マン 1:59 5.アイ・コール・ユア・ネーム 2:09 6.ボイズ 2:28 7.ロング・トール・サリー 2:00 B面 1.ロック・アンド・ロール・ミュージック 2:30 2.スロウ・ダウン 2:54 3.カンサス・シティ / ヘイ・ヘイ・ヘイ・ヘイ 2:35 4.ミッドナイト・スイマー 2:43	C面 1.ディジー・ミス・リジー 2:53 2.エニイ・タイム・アット・オール 2:13 3.ドライブ・マイ・カー 2:29 4.みんないい娘 2:26 5.ザ・ナイト・ビフォア 2:37 6.アイム・ダウン 2:32 7.レボリューション 3:25 D面 1.バック・イン・ザ・U.S.S.R. 2:44 2.ヘルター・スケルター 4:30 3.タックスマン 2:39 4.ゴット・トゥ・ゲット・ユー・イントウ・マイ・ライフ 2:31 5.ヘイ・ブルドッグ 3:11 6.パースディ 2:43 7.ア・ハード・デイズ・ナイト 2:00
BEATLES	パストマスター1		1988	ブリ ティッ シュビ ト60'S	CD	オリジナル・アルバム未収録のシングル曲やEP曲等を全て収録した二枚組編集盤。 オリジナル・アルバムに収録されなかったシングル曲やEP曲等を集めた2枚組編集盤。ドイツ語ヴァージョン他レア音源も収録。	1.ラヴ・ミー・ドウ 2.フロム・ミー・トゥ・ユー 3.サンキュー・ガール 4.シー・ラヴズ・ユー 5.アイル・ゲット・ユー 6.抱きしめたい 7.ジス・ボーイ 8.抱きしめたい(ドイツ語版) 9.シー・ラヴズ・ユー(ドイツ語版)	10. ロング・トール・サリー 11. アイ・コール・ユア・ネーム 12. スロウ・ダウン 13. マッチボックス 14. アイ・フィール・ファイン 15. シーズ・ア・ウーマン 16. バッド・ボーイ 17. イエス・イット・イズ 18. アイム・ダウン
BEATLES	パストマスター2		1988	ブリ ティッ シュビ ト60'S	CD	1965年12月発売の両A面シングル「恋を抱きしめよう」(「デイトリッパー」)から、1970年のイギリス・ラスト・シングル「レイト・イット・ビー (シングル・ヴァージョン)」(「ユー・ノウ・マイ・ネーム」)まで全15曲収録!	1.デイトリッパー 2.恋を抱きしめよう 3.ベイバーバック・ライター 4.レイン 5.レディ・マドンナ 6.ジ・インナー・ライト 7.ヘイ・ジュード	8.レボリューション 9.ゲット・バック 10.ドント・レット・ミー・ダウン 11.ジョンとヨーコのバラード 12.オールド・ブラウン・シュール 13.アクロス・ザ・ユニバース 14.レット・イット・ビー 15.ユー・ノウ・マイ・ネーム

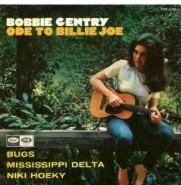
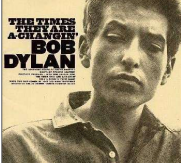
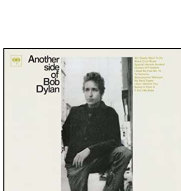
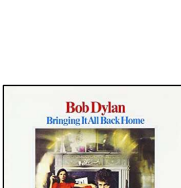
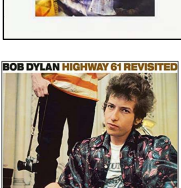
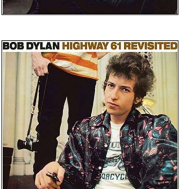
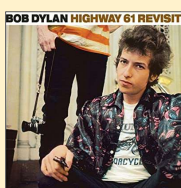
BEATLES	ビートルズ 1		2000	ブリ ティッ シュビ ト60'S	CD	ビートルズのシングル中、アメリカのビルボード誌、もしくはイギリスのレコードリテイラー誌のヒットチャートで1位を獲得した曲は全部で27曲！その27曲を1枚のCDで聴けるようにまとめたのがこのアルバムだ。 当然、定番中の定番曲が次々と飛び出してくるので、聴いていて楽しくないわけがない。24ビットデジタルリマスターされた音も聴きどころで、音質にやや難ありだった初期のヒット曲も実にクリアな音で楽しめる。	1ラヴ・ミー・ドゥ 2フロム・ミー・トゥ・ユー 3シー・ラヴズ・ユー 4抱きしめたい 5キャン・バイ・ミー・ラヴ 6ビートルズがやって来るヤァ！ヤァ！ヤァ！ 7アイ・フィール・ファイン 8エイト・デイズ・ア・ウィーク 9ティケット・トゥ・ライド(涙の乗車券) 10ヘルプ 11イエスタデイ 12デイ・トリッパー 13恋を抱きしめよう 14ペイパー・バック・ライター 15イースタデイ・ア・ワイルド 1フリー・アズ・ア・バード 2スビーチ・ジョン・レノン 3ザットル・ビー・ザ・デイ (モノーラル録音) 4イン・スパイト・オブ・オール・ザ・デインジャー (モノーラル録音) 5スビーチ・ポール・マッカートニー 6ハレルヤ、アイ・ラヴ・ハー・ソー (モノーラル録音) 7ユール・ビー・マイン (モノーラル録音)	16エリナー・リグビー 17ベニー・レイン 18オール・ユー・ニード・イズ・ラヴ (愛こそはすべて) 19ハロー・グッドバイ 20レディ・マドンナ 21ヘイ・ジュード 22ゲット・バック 23ジョンとヨーコのバラード 24サムシング
BEATLES	アンソロジー(1)		1995/11/22	ブリ ティッ シュビ ト60'S	CD	ビートルズの偉大な歴史を振り返る一大プロジェクトの一環として、95年にリリースされた2枚組3セットの第1弾。ジョン・レノンが遺したデモテープに、ほかの3人が手を加える形で実現した25年ぶりの新曲DISC1<1>が、発売当初話題を呼んだ。 しかし、本当の目玉は、CDのキャバいっばいに詰め込まれたその他のレアトラックだ。58年にビートルズの前身クオリーメンが自主制作したレコードに始まり、人気絶頂期の64年までの彼らの足どりを音でたどれる伝記的1枚。	1アイ・エス・ア・バード 2スビーチ・ジョン・レノン 3ザットル・ビー・ザ・デイ (モノーラル録音) 4イン・スパイト・オブ・オール・ザ・デインジャー (モノーラル録音) 5スビーチ・ポール・マッカートニー 6ハレルヤ、アイ・ラヴ・ハー・ソー (モノーラル録音) 7ユール・ビー・マイン (モノーラル録音)	
BEATLES	アンソロジー 2		2013/11/6	ブリ ティッ シュビ ト60'S	CD	『ヘルプ！』から『マジカル・ミステリー・ツアー』までの時代のセッションで録音された未発表曲や別テイク、ライブを中心に収録したアルバム。	1リアル・ラヴ 2イエス・イット・イズ 3アイム・ダウン 4悲しみはぶっとばせ (MONO) 5イフ・ユーヴ・ガット・トラブル 6ザット・ミンズ・ア・ロット 7イエスタデイ 8イツ・オンリー・ラヴ (MONO) 9アイ・フィール・ファイン (MONO) 10涙の乗車券 (MONO) 11アイ・エス・ア・バード 12スビーチ・ジョン・レノン 13ザットル・ビー・ザ・デイ (モノーラル録音) 14ペイパー・バック・ライター 15イースタデイ・ア・ワイルド 16フリー・アズ・ア・バード 17スビーチ・ジョン・レノン 18ザットル・ビー・ザ・デイ (モノーラル録音) 19アイ・フィール・ファイン (MONO) 20涙の乗車券 (MONO) 21ヘイ・ジュード 22ゲット・バック 23ジョンとヨーコのバラード 24サムシング	
BEATLES	アンソロジー 3		2013/11/6	ブリ ティッ シュビ ト60'S	CD	俗に“ホワイト・アルバム”と呼ばれる『The Beatles』から解散に至るまでの末期ビートルズはギクシャクしていたが、そんな中でも彼らは驚くべき曲をいくつか生み出し、ますますその非凡さを際立たせていった。 ビートルズの業績を振り返るアンソロジー・シリーズ第3弾。1968年～1970年の解散まで、。『ホワイト・アルバム』から『アビイ・ロード』『レット・イット・ビー』に至る音源を年代順に収録。「ビコース」の歌唱部分のみのテイクなど、楽曲の成立過程が推測できる未発表音源を含む。	1リアル・ラヴ 2イエス・イット・イズ 3アイム・ダウン 4悲しみはぶっとばせ (MONO) 5イフ・ユーヴ・ガット・トラブル 6ザット・ミンズ・ア・ロット 7イエスタデイ 8イツ・オンリー・ラヴ (MONO) 9アイ・フィール・ファイン (MONO) 10涙の乗車券 (MONO) 11アイ・エス・ア・バード 12スビーチ・ジョン・レノン 13ザットル・ビー・ザ・デイ (モノーラル録音) 14ペイパー・バック・ライター 15イースタデイ・ア・ワイルド 16フリー・アズ・ア・バード 17スビーチ・ジョン・レノン 18ザットル・ビー・ザ・デイ (モノーラル録音) 19アイ・フィール・ファイン (MONO) 20涙の乗車券 (MONO) 21ヘイ・ジュード 22ゲット・バック 23ジョンとヨーコのバラード 24サムシング	
BEATLES	ライブ!! アット・ザ・BBC		1994年12月	ブリ ティッ シュビ ト60'S	CD	「ア・ハード・デイズ・ナイト」「涙の乗車券」「オール・マイ・ラヴィング」と言ったおなじみの楽曲から、レノンマッカートニーのオリジナル曲「アイル・ビー・オン・マイウェイ」の珍しいパフォーマンスまで、60年代にはレコード化さえなかったお宝音源が30曲収録されている。●1962年～1965年、英国BBC放送したスタジオ・ライブ音源からベスト選曲56曲(収録音源69曲)を収録!! エグゼクティヴ・プロデューサーにジョージ・マーティン、“ソニック・ソリューション”システムによるデジタル・リマスター音源。BBCのDJとメンバーとのトークも13ヶ所に収録。	1ビートルズ・グリーディングス (Speech) 2フロム・アス・トゥ・ユー 3ライディング・オン・ア・バス (Speech) 4アイ・ゴット・ア・ウーマン 5トゥ・マッチ・モンキー・ビジネス 6キープ・ユア・ハンズ・オフ・マイ・ベイベー 7アイル・ビー・オン・マイ・ウェイ / II	
BEATLES	オン・エア・ライヴ・アット・ザ・BBC Vol.2			ブリ ティッ シュビ ト60'S	CD	公式未発表曲 & 音源を含むBBCライブの第2集。ビートルズがライブ・バンドとしてもっとも輝いていた60年代前半に英国BBCラジオで演奏した貴重な音源をCD化！ロック史上屈指のエネルギッシュでパワーみなぎるパフォーマンスはビートルズのライブ・バンドとしての類まれなる実力を証明してくれます。また、番組司会者とのユニークで時にいたずらっぽいやりとりは、彼等が旧来の型にとらわれない自由な発想で音楽、さらには社会までも変えてしまう存在となったことを再認識させてくれます。若いエネルギーが放つまぶしいほどの輝きに満ちたまるで宝石のような瑞々しい音源が、半世紀の時を経てさらに輝きを増し登場します。1音1音の動きがリアルに感じられるライブ・レコーディングは、自立的な響きの中に、どんなアイディアも消化してしまう音楽の激しい細胞分裂の瞬間を留めている。そのぶん、どんなに聴き慣れていても音楽は瑞々しい清新さを纏って耳に飛び込んでくる。	1アンド・ヒア・ウィ・アー・アゲイン (メンバー会話) (モノラル録音) 2ワーズ・オブ・ラヴ (モノラル録音) 3ハウ・アバウト・イット、ゴージャス? (メンバー会話) (モノラル録音) 4ドゥ・ユー・ウォント・トゥ・ノウ・ア・シークレット (モノラル録音) 5ルシール (モノラル録音) 6ヘイ、ポール... (メンバー会話) (モノラル録音)	
BEATLES	ライブ・アット・スタークラブ・イン・ハンブルグ		2000	ブリ ティッ シュビ ト60'S	CD	1962年のデビューシングルLove me do発表の2ヶ月後の12月下旬、ドイツ、ハンブルグのスタークラブでの実況録音。家庭用のレコーダーの無指向性マイク1本で録られているので、音は遠くあまり良くありません。しかしバンドとしての荒々しく迫力のある演奏はしっかりと記録され、ビートルズのアイドルとしては無く、ロッカーとしての本質が収録されている貴重な録音。いまだに権利関係がはつきりせず、各社からゲリラ的に発売されている本盤ですが、正しい曲順完全ノーカット盤の発表がまたれる歴史的録音です。ただ本盤制作のリマスター時に40分ほどのテープを駄目にしてしまったとの話もあり、もしそれが本当なら悲しいことです。本盤に収録されている正式レコーディング前のビートルズナンバーはI saw her standing there/Roll over beethoven/Twist and shout/Mr moonlight/Taste of honey/Kansas city/Ask me why/Everybody's trying to be my baby/Match box/Longtall sallyです。欠点としては全体的に少しピッチが早いのと12曲目のHully gullyはホーンセクションが入っているのでビートルズでは無さそうです。結論、、、CDのアンソロジーには収録されず映像版でのみ断片が紹介された貴重な録音、マニアは避けて通れません。	1. Intro 2. I Saw Her Standing There 3. Roll Over Beethoven 4. Hippy, Hippy Shake 5. Sweet Little 16 6. Lend Me Your Comb 7. Your Feets Too Big 8. Twist & Shout 9. Mr. Moonlight 10. A Taste of Honey 11. Kansas City Hey Hey Hey 12. Hully Gully	13. Ask Me Why 14. Red Sails in the Sunset 15. Everybody's Trying To Be My Baby 16. Matchbox 17. I'm Talking About You 18. Shimmy Shake 19. Long Tall Sally 20. I Remember You 21. Nothin Shaking 22. Falling In Love Again 23. Little Sheila 24. To Know Her is To Love Her
BEATLES				ブリ ティッ シュビ ト61'S	CD	アメリカで独自編集されたアルバム「イエスタデイ・アンド・トゥデイ」の初期ジャケッ。このアルバムには「4人はアイドル」「ラバー・ソウル」「リボルバー」という3枚のアルバムと、シングル「恋を抱きしめよう/デイ・トリッパー」の収録曲が混在していた。このジャケットのデザインが白衣を着たメンバー4人が笑いながら手にしているのは、バラバラになった赤ちゃんの人形と動物の肉片でグロテスクなデザインで回収された。(別名ブッチャー(精肉店)カバー)といひ。ここから取られた。) 1966年に75万枚がプレスされたが、事前配布された試聴盤を見たDJや販売店からクレームが殺到。発売予定日の5日前に当たる6月10日、販売元のキャピトル・レコードが自主回収を通知した。現在残っているのはフライング販売されたり、回収要請に応じなかった店で売られたりした物のみ...実際に何枚が流通したのかは不明だ。までに絶大な人気を誇っていたロックバンドが、こんな		
BEATLES	ノット・ギルティ			ブリ ティッ シュビ ト62'S	CD	SESSIONS』がらみの流出音源をもとに制作されたものだろう。同時期にリリースされた『NOT FOR SALE』とともに大きな反響を呼んだ1枚だった。ジョージの未発表曲であったタイトル曲は存在は知られていて、以前紹介した『INDIAN ROPE TRICK』ではソング・リストに加えられてはいたものの無関係の音源が収録されていた。ここで初めてしっかりとしたビートルズ・バージョンがリリースされたわけだ。でも内容はけっこうお粗末で、今さらという感じのフェイク・レア音源が入っていたりする。タイトル曲とB面の 'AROUND THE BEATLES' の歓声無しのライブ・マスターの衝撃度を考えれば、赦してもいいかな。		
BEATLES	ゲット・バック (ブートレグ)		1993	ブリ ティッ シュビ ト61'S	CD	ブートレグ。	this CD is a DIGITAL CLONE of Ultra Rare Trax Vol.4 CD by the label The Swingin' Pig. Apple Studios, London, United Kingdom. 27th January 1969: 1. One After 909 3:17 EMI Studios, London, United Kingdom. 11th February 1963: 2. A Taste Of Honey (take 7) 2:17 EMI Studios, London, United Kingdom. 11th February 1963: 3. Let It Be 3:53	
BEAT	ミート・ザ・ビート		1979	ニュー ウェイブ	レコード		Side A 1. Rock N Roll Girl 2:16 2. I Don't Fit In 2:46 3. Different Kind Of Girl 3:23 4. Don't Wait Up For Me 3:02 5. You Won't Be Happy 2:20 6. Walking Out On Love 1:44	Side B 1. Work-A-Day World 2:54 2. U.S.A. 2:12 3. Let Me Into Your Life 2:35 4. Working Too Hard 1:57 5. You And I 2:47 6. Look But Don't Touch 3:09
BE BOP DELUXE	モダン・ミュージック			ニュー ウェイブ	レコード	76年発表の4作目。前作でギター・バンドとしてのビ・バップ・デラックスは終わり、本作からはトータルなバンド・サウンドを目指す...という発言からも分かるように本作はアルバムとしての完成度を更に意識したものになっており、時に凄まじいギター・ソロで引っばっていた部分をストリングス・マシンやアコギ、他の楽器のバランスで置き換えているようだ。よってややギターのソロは減ったが、後半7～12. のモダン・ミュージック・メドレーなどを含めて流れを意識したアルバム作りがされているようだ。ネルソンのヴォーカルも非常に穏やかでマイルドな印象。まとまりが良い分、前作ほどのインパクトはないが、楽曲のクオリティはいつも通り極上であり、滑らかな曲展開を考えると本作が彼らの代表作というのは妥当だろう。 1. は彼らにしては珍しいアコギを導入したフォーク・ロックっぽい佳曲。シンプルだが、それだけにメロディの良さが伝わりやすい。3. はカリブソの風味も加えたポップな曲。1. でも聞かれたジェット・サウンドが懐かしい。5. もメロディアスなフォーク・ロック調の曲。美しいコーラス・ハーモニーが聞き物。10ccやパイロットとは一味違ったモダン・ポップの名盤の一つ。	Side A 1. バビロンの幽閉者 2. 月光に寄せる想い 3. 妖しき月の女神 4. 魅せられし者の運命 5. 黄金の虹の彼方に 6. 情念の残り火 7. モダン・ミュージック	Side B 1. 月影の舞踏会 2. ハネムーンは火星で 3. 虚飾世界への訣別 4. ヒューマノイド・サム 5. モダン・ミュージック 6. 恋人たちの密会 7. ターミナル街の出来事 8. ミュージックは魔法の調べ
BEE GEES	ビー・ジーズ・ファースト		1967	ポップス	レコード	ビー・ジーズの記念すべきファーストにして、永遠に色あせることがない名作!バリー、ロビン、モーリスのギブ三兄弟によるポップ・グループ、ビー・ジーズが、オーストラリアでの活動を経てイギリスに帰国し、ポリドール・レコードと契約して67年に発表したファースト・アルバム。初期の彼らでしか味わえない、瑞々しくて怒いのあるメロディ・ラインと、兄弟ならではの美しいハーモニー・ワールドを存分に味わうことができる名作であり、この世界観が色あせることは永遠にないだろう。ラジオから聞こえてくるビー・ジーズの「ニューヨーク炭坑の悲劇」を「ビートルズだと思っ」た人がたくさんいたそうです。しかし、アルバム全体を聞けば、誰でもビー・ジーズの個性に気づくでしょう。スクールの大きいロック・ターン・オフ・ザ・センチュリー・マイナーな佳曲「ワン・ミニット・ウーマン」バリーがオーテス・レディングのために作り、世界中の歌手から歌われている「ラヴ・サムバディ」ニーナ・シモンも歌った「プリーズ・リード・ミー」もろにビートルズの影響を受けた「ライオン・ハーテッド・マン」「想い出の赤い椅子」「イン・マイ・オウ・タイム」と、一度は聞いてほしいポップスの金字塔的なアルバムです。独特の美しいメロディとハーモニー...ビー・ジーズの伝説はここからスタートしました。全米7位、全英8位)	Side A 1. Turn Of The Century 2. Holiday (全米16位) 3. Red Chair, Fade Away／想い出の赤い椅子 4. One Minute Woman 5. In My Own Time 6. ライオン・ハーテッド・マン 7. ロイヤル・アカデミー・アーツのクレイヴ・フイントン	Side B 1. ニューヨーク炭坑の悲劇 (全米14位、全英12位) 2. Cucumber Castle 3. ラブ・サムバディ (全米17位、全英41位) 4. I Close My Eyes／瞳を閉じて 5. I Can't See Nobody／誰も見えない 6. Please Read Me 7. Close Another Door

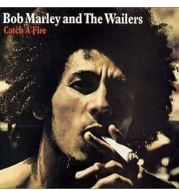
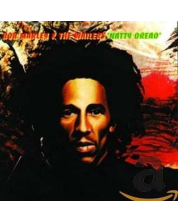
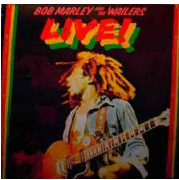
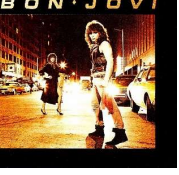
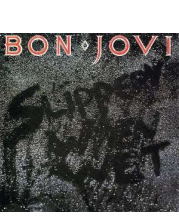
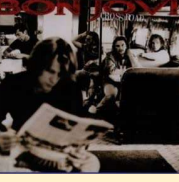
BEE GEES	チルドレン・オブ・ザ・ワールド		1976年	ポップス	レコード	1976年リリース。『ホリゾンタル』から『ライフ・イン・ア・ティン・キャン』までアリフマーディンのプロデュースだったが、起用が叶わず、カール・リチャードソンとアルビー・ガルトンとの共同プロデュースで本作を作り上げた。いっきにソウルミュージックへ脱皮した記念すべきアルバムでかえてプロデュースがアリフマーディンで無かったのが好結果か？前作はまだ旧来のイメージも感じられたが、本作は振り切ってブラック・ミュージックに正面から取り組んだ感じだ。数あるアルバムの中で、最も黒いのが本作だ。バリーのファルセットは益々磨きがかかって文句を言わせない。当然、リード・ヴォーカルも彼の独壇場となっていく。ダンス・ビートを多彩に取り入れ新しいビー・ジーズ・サウンドを確立した作品。全米No. 1シングル「ユー・シュッド・ビー・ダンシング」、同3位「偽りの愛」収録。全米8位。	Side A 1. ユー・シュッド・ビー・ダンシング 2. 愛の侵入者 3. 偽りの愛 4. 恋人同士 5. 悲しませることなんてできないよ	Side B 1. ブーギ・チャイルド 2. ラヴ・ミー 3. サブウェイ 4. 返りこぬ日々 5. チルドレン・オブ・ザ・ワールド
BEE GEES	失われた愛の世界		1979	ポップス	レコード	Bee Geesが1979年にリリースした15枚目（1965年のマイナー・デビュー時から通算して）のスタジオ・アルバム。全英・全米アルバムチャートの第1位を獲得しシングルカットされた3曲も全米第1位を獲得し前作アルバム『Saturday Night Fever』から続く連続第1位の記録を『6曲』に伸ばしました。全米第1位を獲得した3曲『Too Much Heaven: 失われた愛の世界』『Tragedy: 哀愁のトラジディ』『Love You Inside Out』以外にも秀逸な曲があります。アルバムタイトル曲になっている楽曲『Spirits (Having Flown)』、美しいバラードの楽曲『Until』等です。アルバム全体としてもまとまりがあり最高傑作。意外にもビー・ジーズのアルバムの中で唯一、英米両国で第1位を獲得したレコードと言うのも以外。アップテンポな曲、優しい曲ありと70年代のビー・ジーズを楽しめる。	Side A 1. 哀愁のトラジディ 2. 失われた愛の世界 3. ラヴ・ユー・インサイド・アウト 4. リーディング・アウト 5. 愛のパラダイス	Side B 1. 愛の折り 2. ストップ 3. リビング・トゥゲザー 4. アイム・サティスファイド 5. アンティル
BEE GEES	ベスト・コレクション / my world		1972	ポップス	レコード		Disc 1 Side A 1.MASSACHUSETTS (マサチューセッツ) 2.NEW YORK MINING DISASTER (ニューヨーク炭鉱の悲劇) 3.TURN OF THE CENTURY 4.WORLD 5.WORDS 6.TO LOVE SOMEBODY Side 2 1.MELODY FAIR 2.I.O.I.O. 3.I STARTED A JOKE 4.DONT FORGET TO REMEMBER (想い出を胸に) 5.HOLIDAY 6.FIRST OF MAY (若葉の頃)	Disc 2 Side A 1.IN THE MORNING 2.LONELY DAYS 3.COUNTRY WOMAN 4.TWO YEARS ON 5.MAN FOR ALL SEASONS (恋のシーズン) 6.DONT WANNA LIVE INSIDE MYSELF (過ぎ去りし愛の夢) Side B 1.MY WOELD 2.ISRAEL 3.TRAFALGAR 4.LION IN WINTER 5.ーテルローに戻ろう 6.傷心の日々
BEE GEES	サタデー・ナイト・フィーバー		1977	ポップス	レコード	1977年に公開され、ディスコ・ムーブメントの象徴的な作品となった映画『サタデー・ナイト・フィーバー』。映画とともに大ヒットしたサウンド・トラック。すでに、ディスコ・プレイバーのナンバーでヒットを飛ばし始めていたビー・ジーズの音楽が大フィーチャーされた映画『サタデー・ナイト・フィーバー』。そしてそのサウンド・トラックは、ビー・ジーズの6曲のナンバーを収録した彼らの準オリジナル・アルバムともいえる作品であり、このアルバムに収録された「愛はきらめきの中に」(1stシングル)を皮切りにビー・ジーズはシングル6枚連続で全米No.1という偉業を達成する。そして2ndシングル「ステイン・アライヴ」そして3rdシングルの「恋のナイト・フィーバー」という全米No.1を獲得した3枚に加えて、すでに全米No.1に輝いていた、「ジャイブ・トーキン」「ユー・シュッド・ビー・ダンシング」の2曲も含む文字通りビー・ジーズのディスコ黄金時代の到来を象徴した超強力なアルバムがこのサウンドトラックである。 1979年グラミー賞アルバム・オブ・ザ・イヤー受賞!	Disc 1 Side A 1. ステイン・アライヴ (ビー・ジーズ) - 4:45 2. 愛はきらめきの中に (ビー・ジーズ) - 4:05 3. 恋のナイト・フィーヴァー (ビー・ジーズ) - 3:33 4. モア・ザン・ア・ウーマン (ビー・ジーズ) - 3:17 5. アイ・キャン・ト・ハヴ・ユー (イヴォンヌ・エリマン) - 2:57 Side B 1. 運命'76 (ウォルター・マーフィー) - 3:03 ● Side A 1. 獄中の手紙 2. 偽りの愛 3. 宇宙の片隅 4. カム・オン・オーヴァー 5. 悲しませることなんてできないよ ● Side B 1. ニューヨーク炭鉱の悲劇 2. ラン・トゥー・ミー 3. ホリディ 4. 傷心の日々 5. ラヴ・サムバディ	Disc 1 Side C 1. 禿山の一夜 (デヴィッド・シャイアー) - 5:12 2. Open Sesame (クール・アンド・ザ・ギャング) - 4:01 3. ジャイブ・トーキン (ビー・ジーズ) - 3:43 4. ユー・シュッド・ビー・ダンシング (ビー・ジーズ) - 4:14 5. ブギー・シューズ (KC&ザ・サンシャイン・バンド) - 2:17 Side D 1. サルセーション (デヴィッド・シャイアー) - 3:50 ● Side A 1. ユー・シュッド・ビー・ダンシング 2. ブーギ・チャイルド 3. ダウン・ザ・ロード 4. ワーズ ● Side B 1. ウィンド・オブ・チェンジ 2. ブロードウェイの夜 3. ジャイブ・トーキン 4. ロンリー・ディ
BEE GEES	グレイテスト・ライブ		1977年	ポップス	レコード	76年12月20日、LAフォーラムでのライブ。「メイン・コース」でカムバックし「チルドレン・オブ・ザ・ワールド」を発売してのツアーからです。つまりSNF発売以前ですが、アメリカでは大人気の頃で歓声もすごいです。よりまだ20代で若かった彼ら、特にバリーの力強いヴォーカル、3人のハーモニーが素晴らしいです。もちろん後でバリーのヴォーカルを一部差し替えたり（ファルセットのやつ）ペースを入れ直す等の修正は加えられていますが、ビー・ジーズが当時日本では依然としてラブ・サウンドのイメージ（事実前記の2枚のアルバムも日本ではヒットせず）が抜け切れていない中で、ソウルフルなパワー溢れるステージの模様を聴いて内心ビックリした音楽評論家が多かったのでは？また、60年代の大ヒット曲「獄中の手紙」「ワーズ」「ラブ・サムバディ」等もアレンジを変えて歌われており、現在も価値のあるライブアルバムと考えます。最後に今でもよく聴くのはオリビア・ニュートン・ジョンにもカバーされた「カム・オン・オーバー」です。彼らのハーモニーは本当にグレートです。	● Side A 1. 獄中の手紙 2. 偽りの愛 3. 宇宙の片隅 4. カム・オン・オーヴァー 5. 悲しませることなんてできないよ ● Side B 1. ニューヨーク炭鉱の悲劇 2. ラン・トゥー・ミー 3. ホリディ 4. 傷心の日々 5. ラヴ・サムバディ	
BEE GEES	グレイテストヒッツ		1979	ポップス	レコード	1978年の公開と同時にディスコ・ブームの盛り上がりとなった映画『サタデー・ナイト・フィーバー』でも大きなブレイクを果たしたビー・ジーズ。 今回登場するグレイテスト・ヒッツは、まさに、ビー・ジーズがディスコ、R&Bで大旋風を巻き起こし、ムーヴメントのシンボルとしてシーンを真ん中から牽引した1975年から1979年の凝縮されたナンバーを一挙に収録した2枚組の大ヒット・アルバム。楽曲収録 4作品『1975年・メイン・コース、1976年・チルドレン・オブ・ザ・ワールド、1979年・失われた愛の世界、1977年・オリジナルサウンド・トラック『サタデー・ナイト・フィーバー』から選ばれた極上のナンバーばかり。 そして、このグレイテスト・ヒッツには、「愛はきらめきのように」「ステイン・アライヴ」「恋のナイト・フィーバー」「失われた愛の世界」「哀愁のトラジディ」「ラヴ・ユー・インサイド・アウト」とまさに偉業というべき、6枚連続で達成したNo.1シングルと「ユー・シュッド・ビー・ダンシング」「ジャイブ・トーキン」といったNo.1も含め合計8曲の全米No.1シングルが含まれた時代を凝縮した超強力アルバムで、全米でもっとも売れたビー・ジーズのアルバム。	Disc 1 Side A 1. ジャイブ・トーキン 2. 恋のナイト・フィーバー 3. 哀愁のトラジディ 4. ユー・シュッド・ビー・ダンシング 5. ステイン・アライヴ Side B 1. 愛はきらめきの中に 2. 偽りの愛 3. 失われた愛の世界 4. 愛をすてないで 5. ファニー	Disc 2 Side A 1. アイ・キャン・ト・ハヴ・ユー 2. 愛の侵入者 3. ラヴ・ミー 4. モア・ザン・ア・ウーマン 5. レスト・ユア・ラヴ・オン・ミー Side B 1. ブロードウェイの夜 2. 愛のパラダイス 3. ラヴ・ユー・インサイド・アウト 4. ウィンド・オブ・チェンジ 5. チルドレン・オブ・ザ・ワールド
BEE GEES	ベリー・ベスト・オブ・ビー・ジーズ		1995	ポップス	CD	美しいメロディとゴージャス・ウーミングを生かしたポップ・ロック・サウンドで人気を集め、「マサチューセッツ」(' 67年/全米11位、全英1位)、「獄中の手紙」(原題: I've Gotta Get A Message To You/ '68年/全米8位・全英1位)、「ジョーク」(原題: I Started A Joke/ '68年/全米6位)、「若葉のころ」(原題: First Of May/ '69年/全英6位)、「傷心の日々」(原題: How Can You Mend A Broken Heart/ '71年/全米1位)をはじめとする世界的ヒットを数々飛ばした後、1975年以降はディスコ路線を突き進み、1975年アルバム『メイン・コース』(全米14位)から「ジャイブ・トーキン」(' 75年/全米1位)、「ブロードウェイの夜」(原題: Nights On Broadway/ ' 75年/全米7位)、「ファニー」(' 76/全米12位)が大ヒット。続く1976年アルバム『チルドレン・オブ・ザ・ワールド』(全米8位)からは「ユー・シュッド・ビー・ダンシング」(' 76/全米1位)、「偽りの愛」(原題: Love So Right/ ' 76/全米3位)、「ブーギ・チャイルド」(' 77/全米12位)が次々とヒット。そして極め付けに1977年の『「サタデー・ナイト・フィーバー」サウンドトラック』(全米1位)からは、「愛はきらめ		11ニュー・ヨーク炭鉱の悲劇 2ラヴ・サムバディ 3マサチュー・セッツ 4ワールド 5ワーズ 6獄中の手紙 7メロディ・フェア 8若葉のころ 9想い出を胸に 10救いの鐘
BELLE STARS	ベル・スターズ		1983	ニューウェイブ	レコード	ベル・スターズのファーストアルバム。		
BERTIE HIGGINS	カサブランカ		1982年	AOR	レコード	ボズ スキャッグス が カリフォルニアの ポップ シンガー代表なら、 このパーティー ヒギンス は フロリダの ポップ シンガー 代表です。 パーティーは ちょっとかリビアン サウンド があった 楽しいロビカル ナンバーを 聴かせてくれます。 "キーラーゴ" は 80年代に全米で大ヒットしました。これを機会に フロリダ州の キーラーゴ と言うアメリカの 最南端の町が すっかり 観光地として有名になったと 言っても 良い程です。	Side A 1. ふたりだけの恋の島 2. カサブランカ 3. キャンドルダンサー 4. キー・ラーゴ 遙かなる青い海 5. 愛してのよ、サヴァンナにて	Side B 1. ホワイト・ライン・フィーヴァー 2. 愛すれど心さびしく 3. きみ去りし今 4. ブルース・ムーンに届けたくれ 5. トロピカル・ハリケーン
BEN FOLDS FIVE	ベン・フォールズ・ファイヴ		1995年8月8日	ロック	CD	95年発表のファーストアルバム。ベン・フォールズ (vo、p)、ロバート・スレッジ(b)、ダーレン・ジェシー(dr)というギター・レス、ピアノ・トリオのデビュー・アルバム。この時代はグランジなるつまらない音楽が猛威を振るっており、次世代のグループはもとより、前世代のグループまでがギターのノイズで曲の悪さをこまかしたかのような音楽を生み出していた。ベン・フォールズ・ファイヴはトリオ編成を活かしたシンプル・イズ・ベスト、そして楽曲重視という本来なら主流を行くべき音楽性を打ち出しており、特にこの時代のギターのノイズにうんざりしていた音楽ファンの救世主のような存在にもなっていたと思う。彼らのスタイルは古くはエルトン・ジョンなどたくさんのアーティストがやってきたことではあるが、この時代においては特に新鮮だった。強力なタッチのピアノに爆音ベース、音数こそは多いものの熱くならず土台をしっかりと支えるドラムスにフレッシュな歌声を伴った瑞々しい楽曲群は今聞いたとしても強いインパクトと感動を与えてくれるはずである。ギター・レスというのが信じられないほど硬質なサウンドを生み出しており、トリオ故の型にはまらない奇想天外で自由な演奏は前のめりに疾走していくような感覚すら感じさせる。このスピード感はザックリとした音像によるものも大きいのかも知れないが、ポジティブで若さ溢れる彼らの資質をそのまま真空パックしたもののなのだろう。ジャズ的な要素も随所に感じられるが、それを全面に出さないセンスの良さも特筆もの。本作は暑苦しいバラードが含まれていないのも良い。90年代を象徴する小細工、人工添加物なしのまさに本命の名盤の	1. ジャクソン・カナリー 3:23 2. フィロソフィー 4:36 3. ジュリアンヌ 2:30 4. ホエアーズ・サマーB? 4:07 5. アリス・チャイルドレス 4:34 6. アンダーグラウンド 4:11 7. スポーツ&ワイン 2:58 8. アンクル・ウォルター 3:51 9. ベスト・イミテーション・オブ・マイセルフ 2:38 10. ヴィデオ 4:07 11. ザ・ラスト・ボルカ 4:34 12. ボクシング 4:45	
DEBBY BOONE	恋するデビー		1977年	ポップス	レコード	父バートブーンの名であるデビー・ブーンとのデビューアルバム。「恋するデビー」全米で10週連続No.1獲得。シングル曲が大ヒットしたため急遽アルバムを発売することとなり間に合わせたために大半が他人のカバー・バージョンだが、選曲がよく良質のアルバムに仕上がっていることと、シングル盤の大ヒットの影響もあり、アルバム自体も全米6位と大ヒットした。デビーのボーカルもなかなかのもので、容姿に合わないやや低めの声質が魅力となっています。B面3曲目の「恋のキラキラ星」はデビー・ブーンズの4姉妹で結成した「ザ・ブーンズ」が以前にシングルで出した曲の別テイクがこのアルバムに収録している。(因みに、この時の別テイクを収録したのか新しく再録音したかは不明。また、ザ・ブーンズとして日本でもシングル盤を発売していた)	Side A 1. 恋するデビー (You Light Up My Life) 2. わたしのロックン・ロール (A Rock And Roll Song) 3. ミコールのテーマ (Micol's Theme) 4. いつか幸福が (It's Just A Matter Of Time) 5. ヘイ・エヴリボディ 6. 愛を見つけた (When I Look At...) 1愛はどこに行ったの 2ベイベー・ラヴ 3恋はあせらず 4リフレクション 5リーチ・アウト・アンド・タッチ 6エイント・ノー・マウンテン・ハイ・イナフ 7タッチ・ミー・イン・ザ・モーニング 8ラヴ・ハンガー・オーバー 9アイム・スティル・ウエイティング 10アップサイド・ダウン	Side B 1. フロム・ミー・トゥ・ユー 2. ベイベー・アイム・ユアーズ 3. 恋のキラキラ星 (When The Love Light Starts Shining Through His Eyes) 4. この世の果てまでも (End Of The World) 5. 愛がさめたあと (Your Love Broke Through) 6. 落お葉のハルカ (Hasta...) 11マホガニーのテーマ 12エンドレス・ラヴ 13恋はくせもの 14チェイン・リアクション 15恋のプレリュード 16ワシ・ジャイニング・モーメント 17アイ・ウィ・ホールド・オン・トゥゲザー 18ザ・ベスト・イヤーズ・オブ・マイ・ライフ 19ユア・ラヴ
DIANA ROSS	ワン・ウーマン・ダイアナ・ロス・コレクション		1993	ポップス	CD	シュプリームス時代からソロ以降まで、満遍なく収録されたベスト。『恋はあせらず』や『Theme from Mahogany』(Endless love)安室ちゃんがサンプリング使用した『Baby Love』やドラマで使用された『If We Hold On Together』まで耳にしたことがある名曲の数々。ダイアナロスの歌声は、言葉の壁を越えて心に突き刺さる。滑らかで澄んでいるのに、泣きたくなるような感情を齎される。まさに天才。長い歴史のある彼女のヒット曲を、コンパクトに一枚で聴ける。		
DIZZY	オン・ザ・フレンチ・リビエラ		1962年	ジャズ	レコード	1962年録音の名盤。ディジー・ガレスピーのクインテットにElek Bacsk(♯)とpepito Riestria(pero)を加えて楽しいボサノヴァのリズムを展開。フランスのピエラにて、ボサノバやラテンを取り入れたライブを録音したアルバム。ラロ・シフリン、レオ・ライトのソロも聴きどころ。 ルディ・コリンズ(DS) ディジー・ガレスピー(tp) ベビート・リーストリア(perc) ラロ・シフリン(p) チャーリー・ヴェンチュラ(bs, ts) クリス・ホワイト(b) レオ・ライト(fl, as) ツイガネ・エレク・パチック(g)	Side A 1. No More Blues 10:18 2. Long, Long Summer 5:17 3. I Waited For You 2:46	Side B 1. Desafinado 3:28 2. Here It Is 8:39 3. Pau De Arara 3:42 4. For The Gypsies 4:40

BIG STAR			1972	ロック	レコード	1971年にメンフィスの腕利きの若者だった「Alex Chilton」と「Chris Bell」の2人が中心となりBig Starを結成した。これがBig Starのデビュー・アルバム。彼らはブリティッシュ・インヴェイジョンのポップの技巧を様々なアメリカン・ハードロックと混ぜ合わせ、勢いある“Feel”からアコースティックで心をつつ“Thirteen”までを収録した。当時はレコードがヒットまでいかなかったが、後にR.E.M.やThe Replacements、Elliott Smithなどが影響を受けたとし、 隠れ名盤 となっている。		
BIG AUDIO DYNAMITE	ビッグ・オーディオ・ダイナマイト		1985	ニューウェーブ	レコード			
BIG COUNTRY	インナ・ビッグ・カントリー		1983	ニューウェーブ	レコード			
BIG COUNTRY	インナ・ビッグ・カントリー		1983	ニューウェーブ	レコード			
BILLY IDOL	ビリー・アイドル		1982	ニューウェーブ	レコード	70年代パンクバンドで活躍後、アメリカに渡りセックスシンボルとして持ち上げられ80年代に大ブレイク。	Side A 1. Come On, Come On 4:00 2. White Wedding - Part 1 4:12 3. Hot In The City 3:34 4. Dead On Arrival 3:54 5. Nobody's Business 4:06 Side B 1. Love Calling4:58 2. Hole In The Wall4:14 3. Shooting Stars4:30 4. ...	
BILLY IDOL	反逆のアイドル		1983	ニューウェーブ	レコード	ビリー・アイドルが1983年に発表した2作目。このアルバムで全米6位となり大ブレイクする。本作からのシングル「反逆のアイドル」が46位、「フレッシュ・フォー・ファンタジー」が29位、「アイズ」が4位、「キャッチ・マイ・フォール」が50位に達した。前作『ビリー・アイドル』(1982年)でも一部の楽曲の作曲に関与したスティーヴ・スティーヴンスが、本作では「キャッチ・マイ・フォール」を除く全曲をアイドルと共作した。レコーディングが開始された当初はドラマーが不在だったが、スティーヴ・スティーヴンスとキース・フォーシーの提案により、スキャンダルのメンバーであったトミー・プライスが新ドラマーとして参加した。スティーヴ・ヒューイはオールミュージックにおいて本作を「ビリー・アイドルの最もキャッチーで、最もシンセサイザー主導のニュー・ウェイヴ・ポップとハードロック・ギターの爆発(スティーヴ・スティーヴンスのお蔭である)の融合が首尾一貫した作品」と評している。	Side-A 1 Rebel Yell 反逆のアイドル 2 Daytime Drama 3 Eyes Without A Face 4 Blue Highway Side-B 1 Flesh For Fantasy 2 Catch My Fall 3 Crank Call 4 (Do Not) Stand In The Shadows 5 ...	
BILLY IDOL	反逆のアイドル		1983	ニューウェーブ	CD	1曲目の“REBEL YELL”はストリートで疾走感がある彼の代表曲の一つで、特にイントロのリフもすごく印象的で最高。現在も活躍する“ロック”ギタリストのスティーヴ・スティーヴンスを発掘したことが極めて大きな意味を持つ作品。		
BILLY IDOL	バイタル・アイドル		1985	ニューウェーブ	CD	『ビリー・アイドル: 12インチ・ヒット・コレクション』ビリー・アイドルのリミックス集。全米アルバムチャート10位、100万枚以上売り上げプラチナ・アルバムに	01 White Wedding (Part I & II) (Shotgun Mix) 02 Mony Mony (Hung Like A Pony Mix) 03 Hot In The City (Exterminator Mix) 04 Dancing With Myself (Uptown Mix) 05 Flesh For Fantasy (Below The Belt Mix) 06 ...	
BILLY SQUIER	ハード・ライダーの美学		1981	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	80年代初頭、まだナイト・レンジャーもボン・ジョヴィも現れていなかった頃、この人の活躍によってハード・ロックのダイナミズムがポップにシーンに行き渡ったと思います。元々はチープ・トリックとほぼ同期にデビューしたパイパーというバンドで活動していましたが、商業的成功はソロ第二弾となった81年作の本作でした。シングル・カットされた妖しげなハード・ポップ・チューン、「イン・ザ・ダーク」のヒットにより一躍有名になります。そのしなやかなソング・ライティングとセクシーな声は、フォリナー、ジャーニーといった産業ロック系のバンドの持つ甘さだけではなく男臭さを教えてくれたのでした。		
BILLY SQUIER	あの娘はスーパー・スター		1982	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	82年作、ビリー・スクワイアのサード・アルバムにして、大ブレイク作となった1枚です。ジャケット・アートはアンディ・ウォーホル、共同プロデュースにはクイーンとの仕事で有名なマックが関わり、力の入れ具合もわかるというものです。フォリナーが80'sニュー・ウェイヴと合体した様な大ヒット・シングル、「Everybody Wants You」は、当時ラヴァーボーイの「それいけ! ウィークエンド」と共にハード・ロック・ファンの少女少女の心を捕らえたのでした。ちなみに日本ではこの曲は「あの娘はスーパー・スター」というごい邦題でリリースされていました。クイーンのフレディ・マーキュリー、ロジャー・テイラーがアルバム・タイトル曲でバック・コーラスで参加した事も話題となり、80年代を代表する1枚にもなっています。この人のクセのあるハスキーな声と、しなやかなソング・ライティングがハード・ロックとハード・ポップの間のギリギリのラインを保っていて、80'sメタル勃発前のロック・シーンにおいてはかなり頼もしい存在であったと思います。メロディ・メーカーとしてのセンスと、生粋のロッカーとしてのDNAが見事合体した好ナンバー、「She's A Runner」、ロック界で今まで題材として扱われていそうで意外となかった「Catch 22」ではAC/DC的なノリも見せています。アルバム最終曲の「Listen To The Heartbeat」は、彼の代表曲であるメロディアス・ハード型のクールな名曲、「In The Dark」のパート2の様な味わいもあり、この人の得意技がこれらに代表される軽やかな高揚感を持ったハード・ポップであった事もうかがえる。黒味深く聴けてしまいいます。		
BILLY J.KRAMER with THE DAKOTAS	(ペーパー・スリップ仕様) リッスン		1963	ブリティッシュビート60's	CD	ジョン・レノンにステージ・ネームを与えられたブライアン・エプスタインの秘蔵っ子、ビリー・J・クレイマーが、同時代の最高のビート/R&Bコンボ、ザ・ダコタスの演奏とジョージ・マーティンのプロデュースを得て発表したアルバム。ビリー・J・クレイマーとザ・ダコタスがイギリスで発表した唯一のアルバム(63年発表)の全曲に、全英1位のヒット曲「バッド・トゥ・ミー」などレノン/マッカートニー作品6曲も含む22曲を収録。	1.ダンス・ウィズ・ミー 2.プライド 3.アイ・ノウ 4.イエス 5.ザ・トゥエルフス・オア・ネヴァー 6.シュガー・ベイブ 7.ダー・ドゥー・ロン・ロン 8.イッツ・アップ・トゥ・ユー(恋のアイドル) 9.グレート・ボールズ・オブ・ファイア(火の玉ロック) 10.テル・ミー・ガール 11.エニシング・ザッツ・パート・オブ・ユー 12. ...	13.スティル・ウォーターズ 14.アイ・コール・ユア・ネイム (レノン & マッカートニー) 15.ドゥ・ユー・ウォント・トゥ・ノウ・ア・シークレット (レノン & マッカートニー) 16.アイル・キープ・ユー・サティスファイド (レノン & マッカートニー) 17.バッド・トゥ・ミー (レノン & マッカートニー) 18.アイル・キープ・ユー・サティスファイド (レノン & マッカートニー) 19.リトル・チルドレン 20.ゼイ・リマンド・ミー・オブ・ユー 21.フロム・ア・ウィンドウ (レノン & ...
BILLY JOEL	ピアノ・マン		1973年11月9日	ポップス	レコード	1973年作品。初のヒットナンパー「ピアノ・マン」を生んだCBS移籍第一弾で、ソロとしてはセカンド・アルバムになります。前作が思うように売れず、LAでは“ビリー・マーティン”の名でピアノの弾き語りをしてながら暮らしていました。その時の想いを元に、孤独な人々の集まる、土曜の9時頃のバーでの人間模様を描いた自伝的な歌が、この「ピアノ・マン」で、優しきや心の温もりが伝わってくる名曲に仕上がりました。他に「僕の故郷」「愛する言葉に託して」「キャプテン・ジャック」を収録。アルバムは全米27位まで上昇、売上は50万枚を突破しゴールド・ディスクを獲得しました。そうした成功が評価され、キャッシュ・ボックス誌で最優秀新人男性歌手賞を受賞。ビリーの輝かしいソロ・キャリアの第一歩となったのです。	1.流れ者の祈り 00:04:16 2.ピアノ・マン00:05:39 3.悪くはないさ00:03:19 4.僕の故郷00:03:13 5.さすらいのビリー・ザ・キッド 00:05:43	6.陽気な放浪者00:03:15 7.ネバダ・コネクション00:03:55 8.愛する言葉に託して00:03:34 9.小雨降る夜00:03:20 10.キャプテン・ジャック
BILLY JOEL	ストーリーライフ・セレーナデ		1974年10月11日	ポップス	レコード	Billy Joelが1974年にリリースした3rdアルバムで当初日本ではレコード会社が売れないと判断したのが販売が見送られ1977年アルバム『Stranger』で世界的に大ブレイクした後の1978年にリリースされました。本作品はタイトル通りストリートを往来する人々の様々な姿を音楽で表現したものです。アルバムのハイライトはインストゥルメンタルと言うよりはピアノ/楽曲でメロディラインが軽快な『Root Beer Rag』とムーン・グ楽器を使用したカントリー調の楽曲『The Entertainer』でしょう。『The Entertainer』はレコード会社とエンターティナーを演じている本人との関係を皮肉った内容で『Piano Man』の続編とも言える名曲です。この様な佳曲揃いのアルバムが当時アメリカで何故売れなかった(全米第35位: 売上100万枚)のか不思議でしょうがないです。それからこのAudio Fidelity社が発売するSACDマルチ音源盤シリーズには初の内部ディスクトレイが透明のタイプで内側にもレコードレーベルのデザイン画が描かれています。最後になりますが4.0chサラウンドのマルチ音源の出来も音の広がり方、音の分離、各パート楽器がクリアに聞こえ中々良い感じに仕上がっています。	Side A 1. 街の吟遊詩人は… 2. ロサンジェルス紀行 3. 場末じみた場面 4. ルート・ビアールラヴ 5. ロバート/街の恋物語	Side B 1. エンターティナー 2. ビッグ・タイム・スペンダー 3. 週末じみた日々 4. スーベニア 5. メキシカン・コネクション
BILLY JOEL	ニューヨーク物語		1976年5月19日	ポップス	レコード	1976年発表の通算4枚目のアルバム。ニューヨークの想いなど初期の名曲が含まれていて、天才的なメロディメーカー、アーティストとしての幕開けを予感させてくれる一枚。一般に天才ビリー・ジョエルの才能がブレイクしたのはアルバム「The Stranger」という事になっているが、実際はこの「Turnstiles」で間違いなく大爆発している。セールス面では雲泥の差がついてしまったが、このアルバムは「The Stranger」と同等かそれ以上のとんでもない大傑作アルバムである。	Side A 1. さよならハリウッド 2. 夏、ハ일랜드フォールズにて 3. 踊りたい 4. ニューヨークの想い	Side B 1. ジェイムズ 2. プレリユード/怒れる若者 3. 楽しかった日々 4. マイアミ2017

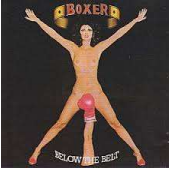
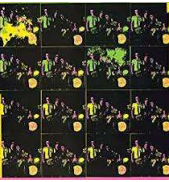
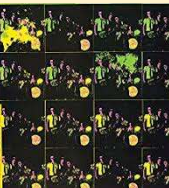
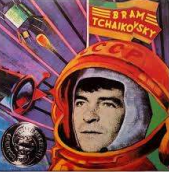
BILLY JOEL	ストレンジャー		1977年9月29日	ポップス	レコード	1977年に発表された本作は、ビリー・ジョエルという70～80年代のアメリカを象徴するシンガー・ソングライターの魅力 را端的に伝える代表作。ニューヨークを舞台にした現代人の孤独をソフィスティケートされたロディと映像的なリリックで表現し尽くした傑作だ。 この作品の成功は、プロデューサーであるフィル・ラモーンによるところが大きい。それまでのビリー・ジョエルといえば、「ピアノ・マン」に代表されるように「詩的でフォーキーなソングライター」というイメージが強かったのだが、本作では力強いバンド・サウンドを導入することで音楽のスケールを大きく広げるとともに、表現における自由度を飛躍的にアップさせている。そして、多様な音楽的アイデアを提案することで、彼の才能を最大限に引き出したのが、この作品以降も共同作業を続けることになるフィル・ラモーンだった、というわけだ。フォーク、カントリーといったアメリカン・ミュージックのルーツを洗練されたサウンドのなかで再現することで、新しいポップスのフォームを生み出したという点でも、きわめて重要な作品。〈1〉〈2〉〈3〉など、彼のキャリアを代表する名曲も数多く収録されている。	01 ムーヴィン・アウト 02 ストレンジャー 03 素顔のままで 04 イタリアン・レストランで	05 ウィーン 06 若死にするのは善人だけ 07 シーズ・オールウェイズ・ア・ウーマン 08 最初が肝心 09 エヴリバディ・ハズ・ア・ドリーム
BILLY JOEL	ニューヨーク52番街		1978年10月11日	ポップス	レコード	前作の大成功に引き続き、「オネスティ」「マイ・ライフ」「ビッグ・ショット」などヒットを連発した78年の6thアルバム。ジャズ的な要素をアルバム作りに持ち込んでいるのも魅力だ。ビリー・ジョエルの名盤の数々を初の紙ジャケ仕様にて限定リリース！ 今作は「78年発表。前作の大成功に続き、フィル・ラモーンとの絶妙なコンビネーションで作り上げた6thアルバム。『オネスティ』『マイ・ライフ』『ビッグ・ショット』など大ヒット連発。ビリーのテーマ曲ともいえる『マイ・ライフ』には当時シカゴのメンバーだったピーラー・セテラなどが参加。	01. ビッグ・ショット 02. オネスティ 03. マイ・ライフ 04. ザンジバル 05. 恋の切れ味 (スティレット)	06. ロザリンドの瞳 07. 自由への半マイル 08. アンティル・ザ・ナイト 09. ニューヨーク52番街
BILLY JOEL	グラス・ハウス		1980年3月12日	ポップス	レコード	今作は80年発表。ビリー自身が「聞いていて一番楽しいアルバム」と語るR&Rテイスト、ライブ感覚溢れる7thアルバム。初の全米ナンバーワンに輝いた「ロックンロールが最高さ」の他、「ガラスのニューヨーク」(最高位7位)「ドント・アスク・ミー・ホワイ」(最高位19位)、「真夜中のラブコール」(最高位36位)と大ヒットシングル収録。アルバムチャートは6週連続No.1！ プラチナ獲得、600万枚以上のビッグセールスを記録。3作連続グラミー賞獲得！ 第23回グラミー賞で最優秀男性ロック・ヴォーカル賞を受賞した。日本では「ガラスのニューヨーク」が1980年 SONY METAL365カセットのCMソングとして使用された。ビリーは「Just The Way You Are」(1977年)や「Honesty」(1979年)などからソフトなイメージがあった。それを打破すべく、本作からの最初のシングルは強いロックの「You May Be Right」で、セカンド・シングルは「It's Still Rock And Roll To Me」だった。効果的である。「It's Still Rock And Roll To Me」の歌詞はユーモラスで、良く出来ている。パンクやニューウェーブなどよりもロックンロールの方がいいという内容だが、「自分の車のタイヤを"white wall tires"に変えろというのか」という部分がある。これは恐らくピンク・フロイドの“The Wall”(1979年発表)の白いレンガ壁のアルバム・ジャケットを指している。	1 ガラスのニューヨーク 2 真夜中のラブコール 3 ドント・アスク・ミー・ホワイ 4 ロックンロールが最高さ 5 レイナ	6 孤独のマシハッタン 7 チャンスに賭ける 8 愛の面影(セトワ) 9 ボーダーライン 10 ロング・ナイト
BILLY JOEL	ナイロン・カーテン		1982年9月23日	ポップス	レコード	1982年に発表したアルバム。スタジオ・アルバムとしては8作目。全米アルバムチャートで7位を記録。 1982年4月15日、オートバイ事故で骨折して入院したビリーは、病室にあるナイロン製のカーテンを見て、本作のタイトルを決定した。 第1弾シングル「プレッシャー」は全米20位に達した。第2弾シングル「アレントアウン」は、ペンシルベニア州の工業都市アレントアウンの衰退と貧困問題、そして、それでも同地で真面目に生きていく人々を歌った曲で、全米17位。 第3弾シングル「グッドナイト・サイゴン〜英雄達の鎮魂歌」は、ベトナム戦争に駆り出された兵士の視点で歌われた反戦歌で、全米56位。ローリング・ストーン誌は、同曲を「ベトナム戦争に対する、ポップ・ミュージックによる究極の碑文として記憶されるだろう」と評した。ビリーの自信作の一つで、発表当時「僕にとつての『サージェント・ペパーズ』」とコメントしていた。	1.アレントアウン - 3:51 2.ローラ - 5:04 3.プレッシャー - 4:41 4.グッドナイト・サイゴン 7:03 5.シーズ・ライト・オン・タイム - 4:14	1.ふたりだけのルーム - 4:02 2.サプライズ - 3:26 3.スカンジナヴィアン・スカイ - 5:58 4.オーケストラは何処へ? - 3:17
BILLY JOEL	イノセント・マン		1983年8月8日	ポップス	レコード	『グラス・ハウス』以来のスタジオ・アルバム。ロックンローラーとして社会に訴えかけるプロテスト・ソングに彩られたアルバムであり、前作から引き続きハード・ロッカーとしての存在感もさらに強力に打ち出したもので、「グッドナイト・サイゴン」「アレントアウン」「プレッシャー」などシリアスで年齢的にも成熟した楽曲に彼のアイドル、ジョン・レノンを彷彿とさせる一枚。プラチナ・アルバム獲得。	01: アレントアウン 02: ローラ 03: プレッシャー 04: グッドナイト・サイゴン〜英雄達の鎮魂歌 05: シーズ・ライト・オン・タイム	06: ふたりだけのルーム 07: サプライズ 08: スカンジナヴィアン・スカイ 09: オーケストラは何処へ？
BILLY JOEL	ソングズ・イン・ジ・アティック		1981年9月10日	ポップス	レコード	スーパースターとなったビリーの初のライブ・アルバム。収録曲は初期のものから選ばれておりそれらを屋根裏から取り出したという意味だろう。しかし名曲揃いで数ある彼のアルバムのベリィ・ベストの一枚といっても過言ではない。「サマー・ハイランドフォールズ」「ロスアンジェリノス」「シーズ・ガット・ア・ウェイ」などは新しいアレンジを施され豊かで暖かな曲となっている。	1マイアミ2017 2夏、ハイランドフォールズにて 3街の吟遊詩人は.. 4ロスアンジェルズ紀行 5シーズ・ガット・ア・ウェイ 6エヴリバディ・ラヴス・ユー・ナウ	7さよならハリウッド 8キャプテン・ジャック 9僕の故郷 10さすらいのビリー・ザ・キッド 11楽しかった日々
BILLY JOEL	ビリー・ザ・ベスト		1985年	ポップス	レコード	1971年のソロ・デビュー作『コールド・スプリング・ハーバー』から1983年の『イノセント・マン』まで、計10枚のアルバムからのセレクションと書き下ろし2曲を加えた、ビリー・ジョエル初めてのベスト・アルバム！ 2枚組25曲の中に優れたメロディや歌詞が散りばめられ、改めて彼が抜きん出たメロディ・メイカーであることを実感させられるアルバム。本作はそんな彼の定番ベスト。全米6位まで上昇。 また、CDとは曲順や選曲が違っており、日本で大ヒットした「オネスティ(Honesty)」が日本盤には収録されているが、米盤には収録されていない。	DISC 1 Side A 1. ピアノ・マン 2. さよならハリウッド 3. ニューヨークの想い 4. ストレンジャー 5. 素顔のままで Side B 1. ムーヴィン・アウト 2. 若死にするのは善人だけ 3. シーズ・オールウェイズ・ア・ウーマン 4. マイライフ 5. ビッグ・ショット 6. オネスティ	DISC Side A 1. ガラスのニューヨーク 2. ロックンロールが最高さ 3. プレッシャー 4. アレントアウン 5. グッドナイト・サイゴン〜英雄達の鎮魂歌 Side B 1. あの娘にアタック 2. アップダウン・ガール 3. ロングスト・タイム 4. オンリー・ヒューマン 5. ナイト・イズ・スティル・ヤング
BLACKFOOT	真紅の砦		1979年	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	サザン・ロックの雄、ブラックフットのアトコ・レーベル第一弾！ 自身のヒット曲「トレイン・トレイン」や「ハイウェイ・ソング」を擁し、フリーやブルース・イメージのカヴァー曲などを含むアメリカン・ハード・ロックの名盤とされる一枚！ 彼らの代表曲である「HIGHWAY SONG」(それにしてもFREE BIRD!)の流れのカッコ良さ、痺れまくり。Track2「I GOT A LINE ON YOU」(SPIRIT:ランデカリアフォニア)・Track4「PAY MY DUES」(BLUES IMAGE:マイクピネラ在籍してたんだ！)・Track6「WISHING WELL」(FREE:ポールコゾフ)・・・なかなかのカヴァーセンス！ アルバム10曲約34分ながら、その充実度は半端ない。「ハード・ロック」好きな人は聴いて絶対に損はない隠れ名盤！	Side A 1. ロード・フィーヴァー 2. アイ・ガット・ア・ライン・オン・ユー 3. レフト・ターン・オン・ア・レッド・ライト 4. ベイ・マイ・デュース 5. ベイビー・ブルー	Side B 1. ウィッシング・ウェル 2. ラン・アンド・ハイド 3. トレイン・トレイン(プレリユード) 4. トレイン・トレイン 5. ハイウェイ・ソング
BLACKFOOT	ハイウェイソングライブ		1982	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	アメリカン・ハードの名バンド、ブラックフットのライブ盤で名盤！「ハイウェイソング - ライブ」はもともとドイツの輸入品としてのみ1982年に発行され、それ以来コレクターアイテムを見つけたのは非常に困難でした。レーナード・スキナードと同じフロリダのジャクソンヴィル出身、またヴォーカリストのリック・メドロックとベーシストのグレッグ・T・ウォーカーは、レーナード・スキナードに在籍していた事もあり、このブラックフットは完全なるサザン・ロック・バンドとしてのイメージが強いのですが、メドロックのパワフルなヴォーカルを中心としたガッツ溢れるハード・ロックを聴かせてくれます。「Train, Train」は彼等の79年のスマッシュ・ヒット曲で、UFOが同時期にリリースした「ヘヴィ・メタル・エクスプレス」No Place To Run」収録の、その名も「Mystery Train」にどことなく似ている気もするのですが、興味ある方は聴き比べてみるのも一興かもしれません。圧巻は代表曲となる「Highway Song」で、彼等にとっては「フリーバード」や「天国への階段」的なものとなる名曲です。	Side A 1. ギミ、ギミ、ギミ 2. 男の影 3. グッド・モーニング 4. ドライ・カウンティ 5. ローリン・アンド・タンブリン 6. フライ・アウェイ	Side B 1. ロード・フィーヴァー 2. トラブル・イン・マインド 3. トレイン・トレイン 4. ハイウェイ・ソング 5. ハウウェイ・ザ・ラッズ
BLACK SABBATH	黒い安息日		1970年2月13日	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	ラック・サバスの70年作、デビュー・アルバム。本作こそがヘヴィ・メタル誕生の瞬間ともされてきましたが、彼等が誕生した時代背景、環境といった要因の他に、奇跡的とも言える偶然もあつたからこそ衝撃的な作品にもなったのだと思います。彼等はけっして悪魔崇拝者ではなく、黒魔術に傾倒していたわけでもなかったわけで、元々は6人組であったボルカ・ターク・ブルース・バンドから、4人組のアースへと発展したバンドで、ホラー映画の影響を受け、ブラック・サバスと改名します。人々にショックを与えるためホラーを題材とした事も、トニー・アイオミの指の怪我のせいで生まれた地を這う様な低くヘヴィなギターも、彼等自信が最初から狙っていた事ではなかったはずです。結果として本作は、ロックがドロドロとした形の無いものから、徐々に形を整えとてつもないモンスターに生まれ変わる経過が音としてパッケージされたものとなったのではないのでしょうか。雨と雷のSEに続き、不気味な鐘の音、そしてたった3音で構成されたこの世のものとは思えないリフが、今も強烈な響きとなって流れる度、サバスの誕生がいかに奇跡的であったかを思い知らされます。そして彼等の初期の音楽性の奥の深さ、特にジャズ・ロック的なバンド・サウンドに、何度聴いても新鮮さを感じる事ができる不思議な1枚。	Side A 1. 黒い安息日 “Black Sabbath” - 6:16 2. 魔法使い “The Wizard” - 4:24 3. 眠りのとばりの後に “Behind the Wall of Sleep” - 3:38 4. N.I.B - 6:06	Side B 1. 魔女よ、誘惑するなかれ “Evil Woman” - 3:25 2. 眠れる村 “Sleeping Village” - 3:46 3. 警告 “Warning” - 10:32
BLACK SABBATH	(ペーパーズリープ仕様) 黒い安息日		1970	ハードロック&ヘビーメタル	CD			
BLACK SABBATH	パラノイド		1970年9月18日	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	70年作、ブラック・サバスのセカンド・アルバムとなった1枚です。 前作から僅か7ヵ月後にリリースされながら、格段のサウンド向上にまず驚かされます。オカルトをモチーフにしながら、やりたし事を全部詰め込んだ感があつたデビュー作に比べ、一層のヘヴィ・サウンドを重視しています。 キャッチーなリフが印象的なアルバム・タイトル曲や、初期の代表曲となつた「アイアン・マン」ばかり目立っている様ですが、ストーリー・ドゥームの原点となつた「Electric Funeral」や「Hand Of Doom」こそが本作を永遠に伝説化させているのだと思います。 地を這う様なリフ、とはまさにこれらの曲を言うわけで、スローでありながら重くでダークという革新的な音を生み出したのでした。 アルバム後半では彼等のジャズ指向がまだ残っていて、若きサバスが果敢にバンド・サウンドに幅を持たせようとしている姿が伝わってきます。 ジャケット・ワークもオカルトから一転、SFっぽい雰囲気 がミステリアスで秀逸です。 時代の空気を取り込むセンスと、オジーの特異なキャラがすでにに貫禄を持たせているのが奇跡的な1枚です。	Side A 1. ウォー・ビッグス - 7:58 2. パラノイド - 2:52 4. ブラネット・キャラヴァン - 4:34 5. アイアン・マン - 5:58	Side B 1. エレクトリック・フューネラル - 4:52 2. ハンド・オブ・ドゥーム - 7:09 3. ラット・サラダ - 2:30 4. フェアリーズ・ウェア・ブーツ - 6:13
BLACK SABBATH	パラノイド		1970年9月18日	ハードロック&ヘビーメタル	CD			
BLACK SABBATH	マスター・オブ・リアリティ		1971年7月21日	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	71年作、ブラック・サバスの3作目となったアルバムです。 前作、「パラノイド」が英米で大ヒットし、すでにビッグ・バンドとなった彼等が短いインターバルでアルバムを次々とリリースします。 僅か1年足らずで発表された本作も、けっしてやつぱり仕事ではありません。ここでもクラシクとなる様なリフを続々と生み出す底力は、ドラッグの助けがあつたのも事実だと思います。 そのままずばりのオープニング・ナンバー、「Sweet Leaf」がそれを物語っています。 「愛しいハッピー」と題されたこの曲のカッコ良さは言うまでもありませんが、1曲目にこれを持ってくるクレイジーぶりがたまりません。 名曲揃いのアルバムですが、特筆すべきなのが、メタルの開祖とされている彼等が、「Orchid」という美しい花をテーマにした曲を、ハード・ロック・バンドで発表しているという点です。	Side A 1. スウィート・リーフ - 5:05 2. アフター・フォーエヴァー - 5:26 3. エンブリオ - 2:18 4. チルドレン・オブ・ザ・グレイヴ - 5:17	Side B 1. オーキッド - 1:31 2. ロード・オブ・ジス・ワールド - 5:26 3. ソリテュード - 5:12 4. イントゥ・ザ・ヴォイド - 6:12

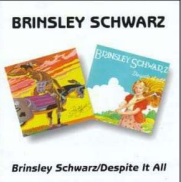
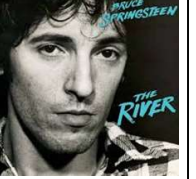
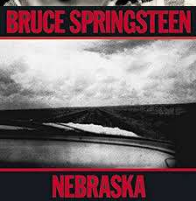
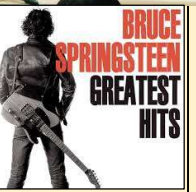
	BLACK SABBASH	(ペーパーズ リーブ仕様) マスター・オブ・ リアリティ		1971年7 月21日	ハード ロック& ヘビーメ タル	CD	この素晴らしい、新しいアコースティックのインスト・ナンバーを残しているのも幸運と喜べし。1分半の小曲ですが、この1曲だけ聴くためだけでも、全ロック・ファン必聴の1枚だと信じています。		
	BLACK SABBASH	ブラック・サバス 4		1972年9 月25日	ハード ロック& ヘビーメ タル	レコー ド	72年作、ブラック・サバスの通算4作目となったアルバムで、デビューから2年、怒涛の勢いでリリースされた過去3作から大きなサウンドの進化が見られた1枚です。それまでのプロデューサー、ロジャー・ベインの手を離れ、初のセルフ・プロデュースとなった事が大きかった様で、トニー・アイオミの主導権によるバンドの新たな方向性が目立ちます。オープニング・ナンバー、「WHEELS OF CONFUSION」のいきなりの官能的なギターが全体を象徴する響きを持ち、彼等がメロディアスなサウンドを以降展開していく事になりました。後のオジーのソロ・キャリアにも通じる美しいピアノ・バラード、「Changes」や、アコースティック・ギター・インストの「Laguna Sunrise」等は、ドゥームの元祖、またはヘヴィ・ブルースやホラーといった彼等の初期のイメージを覆すものだったと思います。その他にもシンセの導入を試みた「SE」での実験性も異色作となっていますが、その他のの従来のサバス・サウンドが実に充実していて、派手なシングル・ヒットよりもアルバム全体の構成を考えた曲の並びも効果的になっています。結果的には本作があったからこそ、サバスがワン・パターンに終わらず奥の深いキャリアを築く事になったと思うのですが、恐らくはツェッペリンの進化を彼等なりに意識していたのではないかと思います。一介のブルース・バンドで留まらない音楽的センスと、やっぱり「Tomorrow's Dream」等で見られる半端ではないヘヴィネスに、改めて驚かされる1枚です。	Side A 1. ウィールズ・オブ・コンフュージョン/ザ・ストレイテナー - 8:01 2. トゥモロウズ・ドリーム - 3:11 3. チェンジス - 4:44 4. FX - 1:43 5. スーパーナート - 4:49	Side B 1. スノウブラインド - 5:33 2. コーニコピア - 3:54 3. ラグナ・サンライズ - 2:55 4. セント・ヴィタス・ダンス - 2:29 5. アンダー・ザ・サン/エヴリ・デイ・カムズ・アンド・ゴーズ - 5:52
	BLACK SABBASH	ブラック・サバス 4		1972年9 月25日	ハード ロック& ヘビーメ タル	レコー ド			
	BLACK SABBASH	血まみれの安息日		1973年12 月1日	ハード ロック& ヘビーメ タル	レコー ド	73年作、ブラック・サバスの通産5作目となったアルバムです。原題と邦題、そしてジャケットから醸し出されるオカルト色は、確かにオープニング・ナンバーのアルバム・タイトル曲から伺えますが、全体の印象は実験性意外とも思えるメロディアスな感趣です。サバスならではのヘヴィなリフが2曲続くと、最早彼等のお得意芸とも言える美しいメロディが映えるインスト・ナンバー、「Fluff」へと続きます。ここではピアノ、ハーブ・コードが導入され、ドゥームでは終わらない彼等の進化を感じさせます。更に驚くべきは、当時イエスのメンバーだったリック・ウェイクマンをゲストに迎えてのシンセの導入、「おまえは誰だ!」ではメンバー自身がシンセ、メロトロンを導入またフルート、バグパイプも多用され、バンドのセルフ・プロデュースにより同時代のブリティッシュ・ハード勢の影響を受けながらも独自の路線を歩みだしたのが明確になっています。思えば本作こそがオジー時代のバンドのピークとも思え、彼等はやりたし事をここで全て試してしまっ様な感すらあります。オーケストラを大幅導入したラスト・ナンバーの壮大な展開は、脱退後のオジーのソロ活動にも繋がるサウンドだったと思います。皮肉な事に当時シンプルはハード・ロック路線を提唱していたオジーが、バンドと溝を深めていった理由となったのは、サバスの幅広い音楽性と、トニー・アイオミのアイデア豊富なサウンド作りだったのです。70年代サバスの作品としては、最もキャッチーでメロディアスなアルバムだと思っています。	Side A 1. 血まみれの安息日 "Sabbath Bloody Sabbath" - 5:45 2. ナショナル・アクロバット - 6:15 3. フラッフ - 4:12 4. サブラ・カダブラ - 5:59	Side B 1. 生への自殺 "Killing Yourself to Live" - 5:42 2. お前は誰だ! "Who Are You?" - 4:10 3. ルッキング・フォー・トゥデイ - 5:03 4. スパイラル・アーキテクト - 5:29
	BLACK SABBASH	血まみれの安息日		1973年12 月1日	ハード ロック& ヘビーメ タル	レコー ド			
	BLACK SABBASH	(ペーパーズ リーブ仕様) 血まみれの安息日		1973年12 月1日	ハード ロック& ヘビーメ タル	CD			
	BLACK SABBASH	サボタージュ		1975年7 月28日	ハード ロック& ヘビーメ タル	レコー ド	75年作、サバスの6作目となったアルバムです。それまで怒涛の勢いでリリースを続けていた印象が強かったのですが、本作はレコーディングに1年の歳月を費やし、これまでになく作り込まれたものとなっています。英国王室合唱団をしたフィーチャーした「帝王序曲」は、荘厳さと美しさが劇的な盛り上がりを見せるインストとなり、ライブのオープニングSEとして定着しています。前作での実験性がそのまま流用されている部分もあるのですが、ドゥームメタルの元祖と言われてきた彼等が、ツェッペリンも真っ青のヘヴィさをここで展開しています。「悪魔のしるし」のスピーディーなリフは、これぞサバスといった定番となり、メタル・バンドとしての彼等を一層カリスマ化させたと思います。バラエティに富んだ内容ですが、ヘヴィさが目立つ1枚です。	Side A 1. ホール・イン・ザ・スカイ - 4:00 2. ドント・スタート - 0:49 3. 悪魔のしるし "Symptom Of The Universe" - 6:30 4. 誇大妄想狂 "Megalomania" - 9:43	Side B 1. スリル・オブ・イット・オール - 5:56 2. 帝王序曲 "Supertzar" - 3:44 3. 発狂 "Am I Going Insane (Radio)" - 4:17 4. 誇大妄想狂 "Megalomania" - 8:43
	BLACK SABBASH	ネヴァー・セイ・ ダイ		1978年9 月28日	ハード ロック& ヘビーメ タル	レコー ド	ブラック・サバスが1978年に発表した8作目のスタジオ・アルバム。1977年11月、オジー・オズボーンがバンドを一度脱退したため、ブラック・サバスは後任ボーカリストのデヴィ・ウォーカーを加えた編成で短期間ライブ活動を行ったが、1978年1月にはオズボーンが復帰して、本作のレコーディングが行われた。「スワینگング・ザ・チェーン」ではビル・ワードがリード・ボーカルを担当しており、「ハード・ロード」では、普段は歌わないトニー・アイオミとキーザー・ハトラがバックアップ・ボーカルを務めている。全体的にポップで明るめなハードロックで、初期の、その後Doom Metalに繋がるようなドロドロとした重苦しさはありません。らしくない作品としてサバスファンから敬遠されがちなアルバムですが、サバスという固定概念を捨て、Never Say Die!と言う単一のロックアルバムとして聴くとそれはそれは素晴らしい名盤で、確かにアメリカンナイズされた箇所が随所に聞き取れるが曲自体が良い曲が多くクオリティーが高い。	Side A 1. ネヴァー・セイ・ダイ - 3:49 2. ジョニー・ブレード - 6:28 3. ジュニアーズ・アイズ - 6:43 4. ハード・ロード - 6:06	Side B 1. ショック・ウェイヴ - 5:16 2. エアー・ダンス - 5:18 3. オヴアー・トゥ・ユー - 5:24 4. ブレイクアウト - 2:35 5. スワینگング・ザ・チェーン - 4:05
	BLACK SABBASH	ヘヴン&ヘル		1980年4 月25日	ハード ロック& ヘビーメ タル	レコー ド	80年作、ブラック・サバスの通産9作目にして、バンド史上最もドラスティックな変化をしたアルバムです。オジー脱退後に迎えたヴォーカリストは、なんとレインボーを抜けた後の動向が注目されたロニー・ジェイムス・ディオール。プロデュースはバード・ブル、レインボーを支えてきたマーティン・バチ。これによりトニー・アイオミの巧みなりつと、ロニーの様式美が絡む新たなサバス・サウンドが生まれます。メロディアスな曲展開と、オジーにはなかったスピード感、更にロニーの歌唱力によりレインボーと聴き間違えてしまう程のナンバーもありますが、重厚なギターが以降のサバスの生命線を確認に伸ばしたのです。『Neon Knights ネオンの騎士』のカッコ良さには、今聴いても震えが走るほどです。	Side A 1. ネオンの騎士 - "Neon Knights" - 3:50 2. チルドレン・オブ・ザ・シー - 5:34 3. レディ・イーヴル - 4:24 4. ヘヴン&ヘル - 6:56	Side B 1. ウィツシング・ウェル - 4:05 2. ダイ・ヤング - 4:42 3. ウォーク・アウェイ - 4:21 4. 孤独の定め - "Lonely Is the Word" - 5:51
	BLIND FAUTH	スーパー・ジャ イアンツ		1969	ハード ロック& ヘヴィメ タル	レコー ド	クリームのエリック・クラプトンとトラフィックのスティーブ・ウィンウッドは68年にリリースされたザ・バンドのデビュー作『ミュージック・フロム・ビッグ・ピンク』に大きな衝撃を受けて、クラプトンはクリームを解散、天オウィンウッドと新グループを結成。ドラムにはクリームのジンジャー・ベーカー、ベースにファミリーのリック・グレッチが参加。スーパーグループとして騒がれアルバム『スーパー・ジャイアンツ』をリリースし、70年初頭に解散。実質の活動は半年ほどであったがロック史上に残る名グループ。収録曲は全6曲、うち「Well All Right」(バディ・ホリー作)と「Presence Of The Lord」(クラプトン作)の2曲がグレッチ抜き。あとはウィンウッドの曲が3曲、ジンジャー・ベーカーの曲が1曲という構成。当時、クラプトンはヴォーカルに自信がなく、本作は全曲ウィンウッドが歌っているのだが、ウィンウッドはリードギターでも素晴らしいテクニックを披露している。キーボードはもちろん、ベースの腕前も文句なしである。これだけひとりが活躍すると、普通に考えればウィンウッドのワンマンバンド的な仕上がりになってもおかしくないのだが、クラプトンとベーカーの個性が強いだけにしっかりと存在を主張しているのはさすがだ。収録されたナンバーはどれも良い曲ばかりだが、特に日本でシングルカットもされたクラプトンの「Presence Of The Lord」は名曲中の名曲である。この曲、ザ・バンドに影響されているのは明らかで、ウィンウッドのヴォーカル、ピアノ、クラプトンのギター、ベーカーのドラム(いつもの彼と違って少しおとなしい)、どれも名演である。間奏のリードギター部分はクリーム的な演奏で少し浮いているが悪くはない。本作中、もっともよく知られたナンバーが「Can't Find My Way Home」。これは本編のアコースティックバージョンよりも、クラプトンとウィンウッドのツインリードギターが味わえる6分近くに及ぶエレクトリックバージョン(デラックス盤に収録)のほうが出来は良いから、本編にはこちらを収録してほしい。この曲は多くのアーティストがカバー(ウィンウッドのセルフカバーもいくつかあり)しているので、聴き比べるのも一興だろう。	Side A 1. 泣きたい気持ち Had To Cry Today 9:46 2. マイ・ウェイ・ホーム 3:15 3. オール・ライト 4:25 4. プレゼンス・オブ・ザ・ロード 4:47	Side B 1. 歓喜の海 Sea Of Joy 5:22 2. 君の好きなように Do What You Like 15:18
	BLIND FAUTH	スーパー・ジャ イアンツ		1969	ハード ロック& ヘヴィメ タル	CD			
	BLITZ				パンク	レコー ド			
	Blondie	妖女ブロンディ		1976	パンク	レコー ド	70年代後半のパンク／ニューウェーブ・ムーヴメントから数多く登場したバンドの中で、その後、最も商業的な成功をおさめることになる、ブロンディのデビュー作。デビュー前からニューヨーク・パンク・シーンのセックス・シンボルの存在として注目を集めていたデボラ・ハリー。このアルバムからはヒット曲こそ生まれなかったものの、名曲「Xオフェンダー」に当時のCBGBの香りを充分感じることができる。60sガールポップ風の可憐さとCBGBの時代を反映したニュー・ヨーク・パンクの鋭さがミックスされた世界は今も新鮮。個々の曲のポップなクオリティもさることながらデボラ・ハリーの際立った存在に改めて感じ入る。マドンナ以後の女性ポップスターに与えた影響の大きさは計り知れないほど偉大だ。	Side A 1. Xオフェンダー 2. リトル・ガール・ライズ 3. 愛してほしい 4. ブルーな気持ちで 5. イン・ザ・サン 6. 暗闇のスリル	Side B 1. マン・オーバー・ボード 2. 汚れた天使 3. 射撃場の出来事 4. 戦え、カン・ファー・ガールズ 5. 恐怖のアリ軍団
	Blondie	囁きのブロン ディ		1978	パンク	レコー ド	1978年リリース。本作は、ニューヨークのパンク・シーンから登壇し、セックス・シンボル、デボラ・ハリーの妖艶な魅力とキャッチーなサウンドで世界的な成功を取ったブロンディのセカンド・アルバム。オリジナルタイトルはPlastic Letters。ヒット曲「デニスに夢中」が60年代のドゥー・ワップグループ(ランディ&ザ・レインボウズ)のカヴァーである事が象徴するようにノスタルジックなポップスの甘美さとガレージパンクのワイルドなビートが同居した魅力。シンセイザーの導入などファーストに比べ演奏も多彩化。デボラ・ハリーの歌声もさらに妖艶に響く。アナログ・シンセがビュン！！ビュン！！うなりを上げたと思ったらキンコンカンとベルが鳴り響く「1恋する手紙」が絶妙。シングル・ヒットした2「デニスに夢中」。のような50年代ポップス・サウンドは次作の布石。ポップだけでなくバカバカしくないのが魅力。4「恋の狙撃者」はパンクっぽい曲で次作以降はこのタイプの曲は急速になくなっていくので、このアルバムまでの初期の魅力を集約していると思う。一応はパンクの一派として登場したんだけど、現在ではオールディーズなポップスをパワー・ポップ調に演奏しているグループと見た方が自然かも。ただポップなだけでなく品があるのがこのグループの特徴。	Side A 1. 恋する手紙 2. デニスに夢中 3. フライト45 4. 恋の狙撃者 5. 赤い広場の饗宴 6. 今が最高 7. Eに魅せられて	Side B 1. イヤと言わないで 2. 棧橋で愛が 3. ノー・イマジネーション 4. 夢みるキッドナッパ 5. 私のデトロイト 6. 妖しい唇

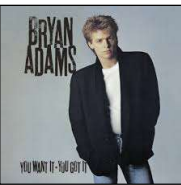
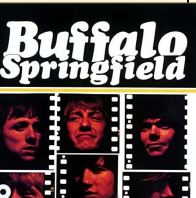
BLUE OYSTER CULT	タロットの呪い		1976	ハード ロック & ヘヴィメ タル	レコー ド	76年作、ブルー・オイスター・カルトの通産4作目となったアルバムです。ブラック・サバスへのアメリカからの返答、的な存在として知られていましたが、本作も手掛けているプロデューサー、サンディ・パールマンによりヘヴィ・メタル」とその音楽性を称された事で一躍有名になりました。 彼等の場合、ニューヨークのアンダーグラウンド・シーンともリンクしていただけに、同時期のブリディッシュ・ハードとは違った受け入れられ方があったのだと思います。 オカルトをテーマに盛り込みながら、どこか知性を感じさせる歌詞世界と音楽性、またアメリカ人らしい陽気なオトボケ度もバンドのキャラを際立てていたと思われます。 彼等の代表曲となった「死神」におけるメロディ・センス、ハード・ロックとはかけ離れた可愛いポップ・センスは、バンドの器用すぎる程の個性を決定付けています。			
BOBBIE GENTRY	オード・トゥ・ビリー・ジョー		1967	フォーク ロック	レコー ド	アメリカのシンガー・ソングライター「ボビー・ジェントリー」のデビューアルバム。4週連続して全米チャート1位を独走し、グラミー賞最優秀新人賞など3部門を獲得。日本では「ビリー・ジョーの唄」が60年代フォークのヒット曲として知られている程度だが、当時の排他的なアメリカ南部の生活を小説風に描く哲学的な歌と、女性の権利を勝ち取るうとした生き様が、アメリカはもちろん、イギリスやヨーロッパでも高い人気を持っている。現在でも根強い支持があるが、1981年に引退している。 アメリカ南部の泥臭いフォーク・サウンドやシュールなストリング・アレンジは、十二分にサイケだと感じる。スワンプ・ロックやカントリー・ロックの先駆けともいえる。なかでもアルバム・ラストの「オード・トゥ・ビリー・ジョー(邦題:ビリー・ジョーの唄)」のシングルが全米No.1ヒットの大ヒットになりボビー・ジェントリーの代名詞になった。また、アルバム中でも1曲目のブルース・ナンバー「ミシシッピ・デルタ」は素晴らしく、ファンキーでソウルフルなメロとサウンドを持っており、1967年時点での最新ブラック・ミュージックふうでありかつ、アメリカン・ルーツ志向(アメリカ人へのアピール)も感じられる。この曲はボビー・ジェントリーの代表作の一つである。	Side A 1. Mississippi Delta 2. I Saw an Angel Die 3. Chickasaw County Child 4. Sunday Best 5. Niki Hoeky	Side B 1. Papa, Won't You Let Me Go to Town with You? 2. Bugs 3. Hurry, Tuesday Child 4. Lazy Willie 5. Ode to Billie Joe	
BOB DYLAN	フリーホイーリン・ボブ・ディラン		1963	フォーク ロック	レコー ド	ボブ・ディラン2作目のスタジオ・アルバム。ディランを一躍有名にした「風に吹かれて」をはじめ、「北国の少女」、「戦争の親玉」、「はげしい雨が降る」、「くよくよするな」他を収録している。出世作「風に吹かれて」をはじめ、「戦争の親玉」、「第3次世界大戦を語るブルース」などのプロテスト・ソングによって、彼を「フォークの貴公子」として売り出すことに貢献したアルバムである。しかし、そういった時事的問題のみならず、恋愛における内面の矛盾を扱った「くよくよするな」や、混沌としたイメージに染める「はげしい雨が降る」などもある。 ジャケット写真と一緒に写っているのは、当時のガールフレンドだったスーズ・ロトロ。場所はニューヨークのグリニッジ・ウィレッジ、ジョーンズ・ストリートが西4番ストリートに突き当たるあたり[3]で、ここから数ヤード離れたアパートに2人は一緒に住んでいた。 ビルボード・トップ LP's チャートで最高22位。全英アルバム・チャートで1位を記録した。RIAAによりプラチナ・ディスクに認定されている。	Side A 1. 風に吹かれて 2:48 2. 北国の少女 3:22 3. 戦争の親玉 4:34 4. ダウン・ザ・ハイウェイ 3:27 5. ボブ・ディランのブルース 2:23 6. はげしい雨が降る 6:55 7. くよくよするな 3:40	Side B 1. ボブ・ディランの夢 5:03 2. オックスフォード・タウン 1:50 3. 第3次世界大戦を語るブルース 6:28 4. コリーナ、コリーナ 2:44 5. トラディショナル 6. ワン・モア・チャンス 2:01 7. アイ・シャル・ビー・フリー 4:49	
BOB DYLAN	フリーホイーリン・ボブ・ディラン		1963	フォーク ロック	CD				
BOB DYLAN	時代は変わる		1964	フォーク ロック	レコー ド	1964年にリリースされたボブ・ディラン3作目のスタジオ・アルバム。半数以上がプロテスト・ソングで、アルバム・タイトル曲や「神が味方」、「ノース・カントリー・ブルース」、「ハッディ・キャロルの寂しい死」など、プロテスト・ソングの代表作とされる曲が並び、この時期のディランのイメージを最もよく示す。一方、スーズ・ロトロとの関係が冷却化していた時期で「いつもの朝に」「スペイン革のブーツ」などにそれが反映しているという説もある。また、予言的な内容を持つ「船が入ってくる」と過去との決別を歌った「寂しい別れ」などは、その後のディランにつながる作品とされる。LP盤裏ジャケットには「11のあらしの墓碑銘」(11 Outlined Epitaphs)という長編の自由詩が掲載されており、裏ジャケットに掲載しきれない部分はインナースリーブに封入された。ビルボード・トップ LP's チャートで最高20位。全英アルバム・チャートで4位を記録した。RIAAによりゴールド・ディスクに認定されている。	Side A 1. 時代は変わる 3:15 2. ホリス・ブラウンのバラッド 5:06 3. 神が味方 7:08 4. いつもの朝に 2:41 5. ノース・カントリー・ブルース 4:35	Side B 1. しがない歩兵 3:33 2. スペイン革のブーツ 4:40 3. 船が入ってくるとき 3:18 4. ハッディ・キャロルの寂しい死 5:48 5. 寂しい別れ 5:32	
BOB DYLAN	アナザー・サイド・オブ・ボブ・ディラン		1964	フォーク ロック	レコー ド	1964年にリリースされたボブ・ディラン4作目のスタジオ・アルバム。「黒い方丈のブルース」で初めてピアノ演奏を披露した以外、すべてアコースティック・ギターとハーモニカによる弾き語りであるという点ではそれまでのフォークソングのスタイルと変らないが、曲調の上では「アйдント・ビリーヴ・ユウ」や「悲しきベイブ」などにすでにロックの影響が認められる。パズは「オール・アイ・リアリー・ウオント」「スパニッシュ・ハーレム・インシデント」「自由の鐘」「マイ・バック・ページズ」をフォークロックのスタイルでカバーしており、タイトルズも「悲しきベイブ」をカバーしてヒットさせた。以上のことから、次作の『プリンキング・イット・オール・バック・ホーム』(1965年)と共に、フォークロックの始発点に位置づけられるアルバムと言える。 歌詞の面で、「スパニッシュ・ハーレム・インシデント」「自由の鐘」「マイ・バック・ページズ」などで、特定の事柄を描かず、暗喩もしくはシュールなイメージによって性や内面心理・自由の問題などを象徴的に描く作詞法が目立つようになる。この作詞法も後のロックの歌詞に大きな影響を与えることになった。 LP盤裏ジャケットには前作同様、ディラン自身の長編詩が記載された。前作では読みやすい大きな活字で、記載しきれない部分はインナースリーブに封入されたが、本作ではそのサービスは止め、小さい活字で裏ジャケットに全編を無理矢理、押し込めていた。 ビルボード・トップ LP's チャートで最高43位。全英アルバム・チャートで8位を記録した。RIAAによりゴールド・ディスクに認定されている。	Side A 1. オール・アイ・リアリー・ウオント 4:04 2. 黒いカラスのブルース 3:14 3. スパニッシュ・ハーレム・インシデント 2:24 4. 自由の鐘 7:10 5. アイ・シャル・ビー・フリー 4:47 6. ラモーナに 3:52	Side B 1. 悪夢のドライブ 4:33 2. マイ・バック・ページズ 4:22 3. アイドント・ビリーヴ・ユウ 4:22 4. Dのバラッド 8:16 5. 悲しきベイブ 3:33	
BOB DYLAN	プリンキング・イット・オール・バック・ホーム		1965	フォーク ロック	レコー ド	1965年に発表した通算5枚目のアルバム。不滅の名盤・偉大なる音楽遺産を未来へ繋いでいく「レガシー・レコーディング・シリーズ」がスタート。あなたの人生を変えるかもしれない1枚がここにあるかもしれない。 1962年にフォーク・ソングの旗手としてデビューした彼が初めてエレクトリック・サウンドを取り入れた通算5作目。初めて全米トップ10入り(6位・全英1位)した作品であるとともに「フォーク・ロック」という新たなジャンルを確立した作品としてロック史における最重要作。代表曲のひとつである「ミスター・タンブリン・マン」はパズによってカバーされ、全米チャートで1位を記録した。歴史を動かした必聴のアルバム。	Side A 1. サブトレニアン・ホームシック・ブルース 2. シー・ビロングズ・トゥ・ミー 3. マギーズ・ファーム 4. ラヴ・マイナス・ゼロ/ノー・リミット 5. アウトロー・ブルース 6. オン・ザ・ロード・アゲイン 7. ボブ・ディランの115番目の夢	Side B 1. ミスター・タンブリン・マン 2. エデンの門 3. イッツ・オールライト・マ 4. イッツ・オール・オーバー・ナウ、ベイビー・ブルー	
BOB DYLAN	追憶のハイウェイ61		1965	フォーク ロック	レコー ド	ボブ・ディランが1965年に発表した6作目のスタジオ・アルバム。本アルバムはディランが彼自身のサウンドを確立し、後のニュー・ミュージックの起点となった作品と言われる。初のトップ10ヒットとなった「ライク・ア・ローリング・ストーン」を含む9曲が収録されている。「ライク・ア・ローリング・ストーン」は1965年6月中旬に完成したが、残りの曲は1965年に行われた伝説的な「ニューポート・フォーク・フェスティバル」後間もない4日間に渡ったセッションで録音された。そのセッションでは次のシングル「寂しき4番街」も録音されたが本アルバムには収録されなかった。 サウンド的にはキー・ボードを導入して、前作より格段に厚みを増しており、歌詞に相応しい混沌とした音作り已成功している。バックで主要な貢献をしたのはマイク・ブルームフィールドとアル・クーパーである。ブルームフィールドは、彼の加入していたバタフィールド・ブルース・バンドがディランのマネージャーでもあったアルバート・グロスマンにマネジメントされていた関係で、セッションに参加することになった。彼はディランの初期のアルバムを聴いて、(それがあまりにひどいので)ディランにギターを教えてやるつもりだったという。彼のプレイはアルバム全体に複雑な彩りを添えており、特に「トゥームストーン・ブルース」で見事なソロを披露している。クーパーは飛び入り参加でギターをやるつもりだったが、ブルームフィールドのプレイに恐れをなして断念し、隅で見ていたところ、適当なオルガン奏者がいなかったため、彼自身もほとんどオルガンを弾いたことがなかったにも関わらず、強引に申し出たという。クーパーのプレイは「やせっぽちのバラッド」などでコントロールを失うところがあり、彼の話が必ずしも謙遜ではないことを示しているが、荒削りで力強い演奏がこのアルバムのサウンドに大きな迫力を与えている。ビルボード・トップ LP's チャートで最高3位。全英アルバム・チャートで4位を記録した。RIAAによりプラチナ・ディスクに認定されている。2002年、グラミーの殿堂入りを果たした。	Side A 1. ライク・ア・ローリング・ストーン 6:09 2. トゥームストーン・ブルース 5:58 3. 悲しみは果てしく 4:09 4. ビュイック6型の想い出 3:19 5. やせっぽちのバラッド 5:58	Side B 1. クイーン・ジェーン 5:31 2. 追憶のハイウェイ61 3:30 3. 親指トムのブルースのように 5:31 4. 廃墟の街 11:21	
BOB DYLAN	追憶のハイウェイ61		1965	フォーク ロック	レコー ド				
BOB DYLAN	追憶のハイウェイ61		1965	フォーク ロック	CD				
BOB DYLAN	ブロード・オン・ブロード		1966年	フォーク ロック	レコー ド	1966年リリース、通算7作目のスタジオ製作オリジナル・アルバム。DISK1、2曲目はともにブルースでまるでローリング・ストーンズ(No.2)。3曲目も似たような曲。ジョン・バエズを指すところがあるがディランは詩で表現するのが先決だと思う。4曲目はサビのメロディが独特の歌い方までサビの詩と併せてCD/DLANがこいいな。6曲目は途中リズムが緩くなる所(ベース音)はジョージ・ハリスンの「This Song」みたいだ(ジョージするいな)。尚、途中のreally beの所が「レリビー (let it be)」と聴こえる。7曲目はリードギターがハード。ディランが弾いているとあるが本当かな? 私見だが、その曲は「ウエダ・...」とDISK2の「5人の信者達」のギターを聴いて発奮したポールは「タックス・マン」等で、ジョージは「シー・セッド・...」でリードを弾きまくったのではと思った。フォークの偉人にここまでやられて何するものぞといったような。先に前述したがディランの歌は大体が叙情詩だ。ジョン・レノンは「イマジ」の映画で「ディランも言葉で遊んでいる。意味はあったりなかったり」と言った。これ程見事に言い当てた指摘はないだろう。DISK2「我が道を行く」は独特のメロディと軽快なメロでかっこいい。「Absolutely・スイート・マリー」はドアーズの「ハートに灯をつけて」につながるのではないかと。4曲目はビートルズの「ノルウェイの森」のメロディとあるが、シタール風でそうかと思ったがこれはディランの取り巻きがそうしてて当人は深く考えていないと思う。「ローランドの悲しい目の乙女」のsad-eyedからは完全にビートルズのジョージの「ロング・ロング・ロング」でピアノにキーボードまで1967年に発表した8作目のスタジオ・アルバム。「モーター・サイクリング」事故後、隠遁生活を送っていたディランによる、久々のオリジナル・アルバムは、従来の攻撃的な音が影を潜めた渋いものとなった。伴奏も生ギターとハーモニカが中心というシンプルなもので、ディランのフォーク回帰も囁かれた。だが、以前のプロテストソングのような直接的な表現は見られず、ディラン自身がアメリカ先住民と共に立つアルバムのカバージャケットの写真も含め、一筋縄でいかない面がある。 アルバムタイトルの「ジョン・ウェズリー・ハーディング」は実在したアウトロー、ジョン・ウェズリー・ハーディングから採ったとされるが、米史上最悪の大統領の一人とされるウオレン・ハーディングのこことを示しているとも言われている。 漂流者・移民・ベテナ・泥棒・ホーボーなど、疎外された者の立場から歌われる作品が多く、療養生活を送った原典回帰志向を示すものと考えられる。「見張塔からずっと」はディランの社会観を切り詰めた歌詞と冴えた旋律で集約したもので彼の代表作の一つとされる。多くのミュージシャンにカバーされ、特にジミ・ヘンドリックスの「エレクトリック・ディランド」(1968年)におけるバージョンが有名でディラン自身が以後の演奏ではこのバージョンを参考になっている。また、「あわれな移民」も哀調を帯びたワルツに乗せて疎外された内面の矛盾を深く描いた秀作である。 「聖オーガスチンを夢見た」は隠遁中にザ・バンドとともに録音された「アカプルコに行こう」を基としている。原曲はアルバム『地下室(ザ・ベースメント・テープス)』(1975年)に収録。 拝啓地主様」はディランが遭遇した強烈な音楽関係者を諷したものとされている。 「入り江に沿って」は「アイ・ビー・ユー・ベイビー」の「ウエダ・...」はカントリー音楽の影響が強く、次	Side 1 1. 雨の日の女 4:36 2. プレジキング・マイ・タイム 3:50 3. ジョアンナのヴィン 7:33 4. スーナー・オア・レイター 4:54 Side 2 1. アイ・ウオント・ユー 3:07 2. メンフィス・ブルース・アゲイン 7:05 3. ヒョウ皮のふちなし帽 3:58 4. 女の如く 4:52	Side 3 1. 我が道を行く 3:30 2. 時にはアキレスのように 5:02 3. アブソリュートリー・スイート・マリー 4:57 4. フォーズ・タイム・アラウンド 4:35 - Obviously 5 Believers - 3:35 Side 4 1. ローランドの悲しい目の乙女 11:23	
BOB DYLAN	ナッシュヴィル・スカイライン		1969	フォーク ロック	レコー ド	漂流者・移民・ベテナ・泥棒・ホーボーなど、疎外された者の立場から歌われる作品が多く、療養生活を送った原典回帰志向を示すものと考えられる。「見張塔からずっと」はディランの社会観を切り詰めた歌詞と冴えた旋律で集約したもので彼の代表作の一つとされる。多くのミュージシャンにカバーされ、特にジミ・ヘンドリックスの「エレクトリック・ディランド」(1968年)におけるバージョンが有名でディラン自身が以後の演奏ではこのバージョンを参考になっている。また、「あわれな移民」も哀調を帯びたワルツに乗せて疎外された内面の矛盾を深く描いた秀作である。 「聖オーガスチンを夢見た」は隠遁中にザ・バンドとともに録音された「アカプルコに行こう」を基としている。原曲はアルバム『地下室(ザ・ベースメント・テープス)』(1975年)に収録。 拝啓地主様」はディランが遭遇した強烈な音楽関係者を諷したものとされている。 「入り江に沿って」は「アイ・ビー・ユー・ベイビー」の「ウエダ・...」はカントリー音楽の影響が強く、次	Side A 1. ジョン・ウェズリー・ハーディング - John Wesley Harding - 2:58 2. ある朝でかけると - As I Went Out One Morning - 2:49 3. 聖オーガスチンを夢でみた - I Dreamed I Saw St. Augustine - 3:53 4. 見張塔からずっと - All Along the Watchtower - 2:31 5. フランキー・リーとジュダス・プリーストのバラッド - The Ballad of Frankie Lee and Judas Priest - 5:35 6. 漂流者の逃亡 - Drifter's Escape - 2:52	Side B 1. 拝啓地主様 - Dear Landlord - 3:16 2. おれはさびしいホーボー - I Am a Lonesome Hobo - 3:19 3. あわれな移民 - I Pity the Poor Immigrant - 4:12 4. 悪意の使者 - The Wicked Messenger - 2:02 5. 入江にそって - Down Along the Cove - 2:23 6. アイル・ビー・ユー・ベイビー・トゥナイト - I'll Be Your Baby Tonight - 2:34	

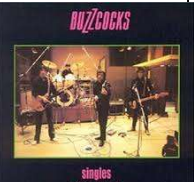
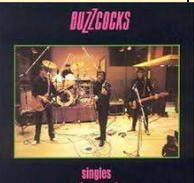
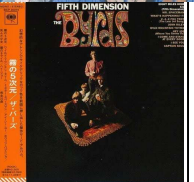
BOB DYLAN	欲望		1976	フォーク ロック	レコー ド	17作目のスタジオ・アルバム。このアルバムの制作開始にあたって、ディランはその当時、有名無名を問わずニューヨークにいたミュージシャンに片っ端から声をかけスタジオにつれていった。エリック・クラプトンの証言によると、スタジオは人であふれかえり混乱を極め、参加を見合わせざるをえなかった、とのことであった。レコーディングのやり方に対しては、エミルー・ハリスらがこう証言している。「ディランのレコーディングには楽譜もリードシートもない。キーはおろか、曲名さえ知らされない。それで私達はディランがおもむるにギターを弾き歌い始めると、彼の手元と唇の動きに最大限の注意を払い、合わせていかなければならない。なぜならそれが後にも先にも一回きりのレコーディングになるかもしれないからだ。」結局、エリック・クラプトン、ココモ、ロジャー・マツギンといった有名どころは参加を見合わせ、残ったメンバーは、デビュー間もないエミルー・ハリス以外はすべて無名ミュージシャンばかりになった。しかし、残ったメンバーのロブ・ストナー、スティーヴン・ソールズ、スカーレット・リヴェラらが醸し出す、ラグタイムとラテンミュージックを掛け合わせたような一種独特のサウンドは受け入れられ、アルバムはディラン最大のヒットを記録。メンバーにもそれぞれレコーディングの機会が与えられることとなった。ビルボード5週連続1位、全英3位を記録。	Side A 1. ハリケーン - Hurricane - 8:33 2. イシス - Isis - 6:58 3. モザンビーク - Mozambique - 3:00 4. コーヒーもう一杯 - One More Cup of Coffee (Valley Below) - 3:43 5. オー、シスター - Oh, Sister - 4:05	Side B 1. ジョーイー - Joey - 11:05 2. ドウランゴのロマンス - Romance in Durango - 5:50 3. ブラック・ダイヤモンド湾 - Black Diamond Bay - 7:30 4. サラ - Sara - 5:29
BOB WELCH	フレンチ・キス		1977	ロック	レコー ド			
BOB WELCH	スリー・ハーツ		1979	ロック	レコー ド			
BOB MARLEY AND THE WAILERS	キャッチ・ア・ファイア		1972	レゲエ	レコー ド	メジャーなレーベルでは初となるザ・ウェイラーズの1973年のアルバム。このアルバムにより、バンドは国際的な英雄となる。社会的な内容の歌詞と攻撃的な音は多くのリスナーに衝撃を与えた。また、他にもボブ・マリーとピーター・トッシュという二人の曲の対決的な主題や、抑圧下での自由への楽観的な視点に惹き付けられた。全体をよりロック市場受けするものとするためにアルバム全体に改変を加えたのである。分かりやすい例としては、「コンクリート・ジャングル」にギターソロが追加されたり、曲の回転を高めスピードが速められたりした。ただし、マリー自身はこのような改変を好意的に受け止めており、その後の音楽性にも取り込んでいる。「ハイ・タイド・オア・ロウ・タイド」と「オール・デイ・オール・ナイト」の2曲も同じ理由でアルバム未収録となった。2001年に発売された『キャッチ・ア・ファイア・デラックス・エディション』には、ブラックウェルが改変を加える前のオリジナル音源と、改変後の音源が2枚組で収録されている。	A面 1.Concrete Jungle - 4:13 2.Slave Driver - 2:53 3.400 Years - 2:45 4.Stop That Train - 3:55 5.Baby We've Got A Date - 3:57	B面 1.Stir It Up - 5:32 2.Kinky Reggae - 3:37 3.No More Trouble - 3:57 4.Midnight Ravers - 5:10
BOB MARLEY AND THE WAILERS	ナッティ・ドレッド		1974	レゲエ	レコー ド	ナッティ・ドレッドは、ワイラーズのバンドメンバーからオートワールへのボブ・マリーの決定的な移行を捉え、彼の歌と執筆は現在フロントとセンターであり、改良されたバンドは彼の反抗的なラスタファリアンの世界観にしっかりと手を引いた。この1974年のリリースは、アル・アンダーソンのスパイダー・ギター・フィル、Touterの電信キーボード、I-Threesの女性ボーカルコーラス、吸血鬼の角によって刻まれたラインナップのより新鮮なサウンドを反映しています。ジャマイカのトレンチタウンの怪しいゲットーの現実に関するポジションペーパーは、アルバムは一連の永続的なマリーの古典を巻き起し、その陽気だが神秘的な話しフェードアウト「あなたがダットバッグに入ったもの、デレ?」で、ゲディでセクシーなレゲエの国歌「Lively Up Yourself」で始まり、ます。「ノー・ウーマン・ノー・クライ」の高揚ベップ・トーク、「ベリー・フル(しかし、私たちは空腹)」と「反乱軍の音楽(3時ロードブロック)」の厳しい派遣、タイトル曲と「革命」の強要を続けています。マリー自身のドレッドヘアはまだその時に成長していましたが、これはそれにもかかわらず完全に成熟し、最も焦点を当て、義になっについて、リズムカルに魅力的ではありません。	Side 1 1.ライヴリー・アップ・ユアセルフ - 5:11 2.ノー・ウーマン、ノー・クライ - 3:46 3.ゼム・ベリー・フル - 3:13 4.レベル・ミュージック - 6:45	Side 2 1.ソー・ジャー・セイ - 4:28 2.ナッティ・ドレッド - 3:35 3.ペンド・ダウン・ロウ - 3:19 4.トーキン・ブルース - 4:07 5.レヴオリュション - 4:20
BOB MARLEY AND THE WAILERS	ラスタマン・ヴァイブレーション		1976年4月30日	レゲエ	レコー ド			
BOB MARLEY AND THE WAILERS	ライヴ！		1975	レゲエ	レコー ド	1975年に録音・発表したライヴ・アルバム。1975年7月のロンドン公演を収録。クレジット上はアイ・スリーズがバックিং・ボーカル担当となっているが、アイ・スリーズの3人のうち、ジュディ・モフットはこの時のツアーには参加していない[9]。録音は会場の外に停められたローリング・ストーンズ・モービル・スタジオ(モービル・ユニット)で行われた。レコーディング・エンジニアはスティーヴ・スミスが務めた。本作からは、「ノー・ウーマン、ノー・クライ」のライヴ・ヴァージョンが先行シングルとして発表されて、全英22位に達した。アメリカでは、総合アルバム・チャートのBillboard 200では90位、R&Bアルバム・チャートでは41位に達した。	Side A 1. トレンチタウン・ロック - 4:23 2. パーニン・アンド・ルーティン - 5:11 3. ゼム・ベリー・フル - 4:36 4. ライヴリー・アップ・ユアセルフ - 4:33	Side B 1. ノー・ウーマン、ノー・クライ - 7:07 2. アイ・ジョット・ザ・シェリフ - 5:18 3. ゲット・アップ、スタンド・アップ - 6:28
Boney M.	オーシャンズ・オブ・ファンタジー		1979年	ディスコ	レコー ド	1979年にリリースされた4枚目のアルバム。70年代後半のディスコブームで一躍売れたドイツのユニット。ダンサブルなナンバーのなかにも、レゲエあり、カリブソありとバリエーションに富んでいてハズレの曲が無い傑作アルバム。メガ・ヒットは生まれなかったものの、アルバムの完成度は高く評価され、こちらもイギリスを含むヨーロッパ各国でナンバー・ワンを記録したほど売れたアルバム。中でもヨーロッパで1位を獲得した「ガッタ・ゴー・ホーム」や、アフロなドラムをフューチャーしたダンスチューン「No More Chain Gang」を収録。	Side A 1. 音楽が全て(Let It All Be Music) 4:50 2. ガッタ・ゴー・ホーム 3:45 3. バイ・バイ・ブルーバード 4:49 4. バハマ・ママ 3:17 5. ホールド・オン(Hold On I'm Coming) 3:36 6. トゥ・オブ・アス 3:16 7. 碧いリボン(Ribbons Of Blue) 4:56	Side B 1. オーシャンズ・オブ・ファンタジー 5:06 2. エルルーテの物語り(EI Lute) 5:55 3. チェーン・ギャング(No More Chain Gang) 5:22 4. 生まれ変わった私(I'm Born Again) 4:08 5. ノータイム(No Time To Lose) 6:56
Boney M.	マーカー、サニー、ダディ・クール			ディスコ	レコー ド			
BON JOVI	夜明けのランナウェイ		1984	ハード ロック& ヘヴィメ タル	レコー ド	84年作、ボン・ジョヴィのデビュー・アルバム。当時はNWOBHMIによる英国からのメタルの新風、そしてアメリカでのモトリー・クルー等の台頭、ナイト・レンジャー等の80年代ハード・ロックの登場の中で現れた新星として注目されました。「RUNAWAY」の鮮烈なイントロ、そしてジョンの端整なルックスがすぐさま人気呼びましたが、本国ではブレイクしなかった。かなり欧州的な湿った陰りが、メロディアス・ハードと呼ばれたドラマティックな構成と、アメリカ的なパワー・ロックの陽性がミックスされたユニークな音楽性をすで見せていた事に改めて気づかれます。胸ときめくメロディ、計算し尽くされたアレンジは、やはり当時から優れていたと思います。「SHE DONT KNOW ME」は、外部ライターのナンバーで、本作中では最もメロディアスでポップな佳曲。		
BON JOVI	7800° ファーレンハイト		1985	ハード ロック& ヘヴィメ タル	レコー ド	85年リリース作、ボン・ジョヴィのセカンド・アルバム。日本では「夜明けのランナウェイ」の衝撃的なイントロと華麗なルックスにより、すでに次代のスターとしての地位を確立していましたが、本国アメリカにおいてはまだブレイクもしていないバンドの一つとしてこのアルバムも受け取られていました。次作のバラエティに富んだ内容に比べると、ここではメロディアス・ハード一色といった感が強い好盤になっています。当時の彼等はスコーピオンズやRAITTとのツアーでかなり影響を受け、ハード・ロックを意識したそうですが、メロディの素晴らしさはすでに一級品と言えると思います。全曲が印象深いメロディで彩られているだけに、彼等のキャリアの中では地味な1枚とされている。		
BON JOVI	スリッパリー・ホエン・ウェット		1986	ハード ロック& ヘヴィメ タル	レコー ド	ていたのは、本作をピークとするポップ・メタル、LAメタルのブームの中だったと思いますが、普段ロックを聴かない人達をも巻き込んだ現象が以降世界的ロック・バンドへのし上げていったのでした。ヴィジュアルが派手で、楽曲が覚えやすい、というバンドはなにも彼等が初めてだったわけではありません。このアルバムが非常に優れているは、ブルース・フェアバーン、デズモンド・チャイルドといったブレーンを採用し、80年代メタルの雛形とも言えるバラエティに富んだカラフルさを完成させた事だったと思います。圧倒的に完成されたスタジアム型アンセム、従来のアメリカン・ハードの伝統を引き継いだ土臭さ、甘くとろける様なハード・ポップ、バラード・ソングの上手さ、それらがバランス良く配置されています。けっして目新しい方法論ではないにせよ、ド派手なアレンジ、分厚いサウンド・プロダクションと共に、キラキラしていた時代を巧みに切り取ってみせたのだと思います。特に日本人にとっては、デビュー期から今一つ突き抜けない彼等の現状を悔しく思っていた人も多かったと思われ、本作で大ブレイク。新たな産業ロックのお手本となった事により、擲論される事も確かに多いとは思いますが、80年代の音楽シーンが彼等を中心に回っていた時期が確かにあった		
BON JOVI	夜明けのランナウェイ		1984	ハード ロック& ヘヴィメ タル	レコー ド			
BON JOVI	クロス・ロード		1994	ハード ロック& ヘヴィメ タル	CD	94年リリース、ボン・ジョヴィ初のオフインヤル・ベスト盤。結成10周年記念となった事もあり、選曲はバンド自身で行われたそうで、当然誰もが知るボン・ジョヴィ・ナンバーがズラリと並んでいます。本作のために新曲として収録された2曲、「Someday I'll Be Saturday Night」、「Always」が大きな目玉となりました。前者は現在でもライブの定番曲となっているナンバーで、ボン・ジョヴィがストリートで陽気なロック・バンドとして80'sメタル・シーンからいち早く脱却した事を象徴するものと言える1曲です。また「Livin' On A Prayer」以降開花した、ストリート目録でのストーリー・テラーとしてもますます冴えわたる歌詞も魅力的で、ブルース・スプリングスティーン等のアメリカン・ロックの正当後継者としての先天性を露わにした曲でもあったと思います。そして彼等の究極のラヴ・ソングと言える「オールウェイズ」、元々映画のために用意された曲らしいのですが、バラード・メイカーとして最高峰のバンドである事を改めて再認識させてくれた名曲となりました。この2曲もシングル・カットを記録...アルバム自体も各風で軒並み1位となるベストとなったが、本間アメリカでは意欲	1リヴィン・オン・ア・プレイヤー (4:10) 2キープ・ザ・フェイス (5:44) 3サムデイ・アイル・ビー・サタデイ・ナイト (4:39) 4オールウェイズ (5:53) 5ウオンテッド・デッド・オア・ライヴ (5:07) 6レイ・ユア・ハンズ・オン・ミー (5:58) 7禁じられた愛 (3:44)	8ベッド・オブ・ローゼズ (6:33) 9ブレイズ・オブ・グローリー (5:39) 10TOKYO ロード (5:43) 11バッド・メディスン (5:16) 12アイル・ビー・ゼア・フォー・ユー (5:41) 13恋の切り札 (4:27) 14夜明けのランナウェイ (3:52) 15ネヴァー・セイ・グッドバイ (4:51)

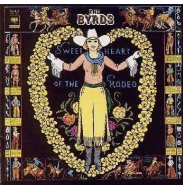
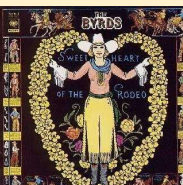
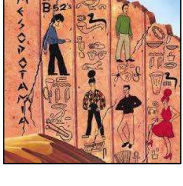
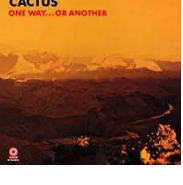
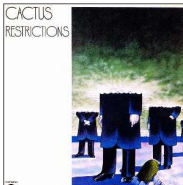
BONZO DOG BAND	仲良き事は美しき哉		1972	ロック	CD	ボンゾ・ドッグ・バンドが一旦解散した後に出した、いわゆる再結成盤で、72年の作品。わりと力の抜けた感じ(?)のアルバムではあるが、もちろんクオリティは高いし、いい曲/面白い曲がたくさん入ってる。	1. ザ・ストレイン 2. ターキーズ 3. キング・オブ・スカーフ 4. ワードローブを待ちながら 5. ストレイト・フロム・マイ・ハート 6. ラスティ	7. ロウリンスン・エンド 8. ドント・ゲット・ミー・ロング 9. フレッシュ・ウインド 10. バッド・ブラッド 11. スラッシュ 12. サスビション 13. スボン・フリーク
BONZO DOG BAND				ロック	レコード			
BONZO DOG BAND			1996	ロック	CD	The Bonzo Dog Band の初期4枚、「ゴリラ」(「Gorilla」)、「おばあちゃんの温室のドーナツ」(「The Doughnut In Granny's Greenhouse」)、「タッドポールズ」(「Tadpoles」)、「ケインシャム」(「Keynsham」)の4枚の紙ジャケットCDがCDサイズのボックスに収納。「おばあちゃんの温室のドーナツ」のみ見開きジャケット。		
BOOM TOWN RATS	ブームタウンラッツ		1977	パンク	レコード			
BOOM TOWN RATS	ブームタウンラッツ		1977	パンク	レコード			
BOOM TOWN RATS	ブームタウンラッツ		1977	パンク	レコード			
BOOM TOWN RATS	トニック・フォー・ザ・トゥループス		1978	パンク	レコード			
BOOM TOWN RATS	トニック・フォー・ザ・トゥループス		1979	パンク	レコード			
BOOM TOWN RATS	哀愁のマンディ		1979	パンク	レコード			
BOOM TOWN RATS	哀愁のマンディ		1979	パンク	レコード			
BOOM TOWN RATS	哀愁のマンディ		1979	パンク	レコード			
BOOM TOWN RATS	モンドボンゴ		1981	パンク	レコード			
BOSTON	幻想飛行		1976	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	1976年に発表されたボストンのデビューアルバム。全米チャート3位まで上昇。ノリのいいエイトビートのバックিংでメロディアスなギターソロをフューチャーした厚いサウンド。エコーをきかせたハイトーン・ヴォーカルと美しいコーラス。れらが多重録音によって厚いアンサンブルを奏でる。生の音ではない、創られた音の完成形の一つのカタチというものをここにみることができる。全体に、スベイスーパーな広がりのある厚いサウンドと美しくメロディアスで緩急の効いたテイストの楽曲で構成されているのがこの作品の特徴だ。		
BOSTON	ドントロックバック		1978	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	1978年8月2日にリリースされたセカンドアルバム。アメリカンハード名盤中の名盤。様々な音源を一つ一つ重ね合わせて作り上げられた超重厚宇宙空間的サウンドは、世界中のリスナーの度肝を抜くこととなりアルバムセールスはついに全米チャート1位を獲得。リズムボックスさえも使用しないというこだわり様は、天才を超えた変人の域に達する境地とも言えるでしょう。		
BOW WOW WOW	ジャングルでファン・ファン・ファン			ニューウェーブ	レコード			

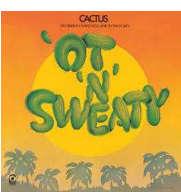
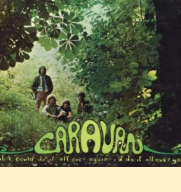
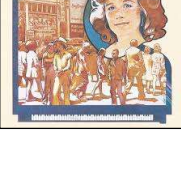
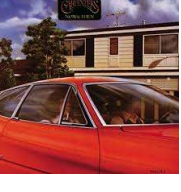
	BOW WOW WOW	バウ・ワウ・ワウ			ニュー ウェイブ	レコー ド			
	BOXER	痛いところを突く		1975	ハード ロック & ヘヴィー メタル	レコー ド	伝説のイギリスのバンドによる1975年のデビュー・アルバム。カルトヒーローのバットの終焉から2年後に元PATTOの中心メンバーの2人のマイク・バトウ(Vo)とオリー・ハルソール(G/Key)が75年に結成したグループ。バンドのラインナップは、ベーシストのキース・エリス(以前はファン・デル・グラフ・ジェネレータ、ジュシー・ルーシー、不気味な面)とドラマーのトニー・ニューマンによって完成しました。バトウの黒っぽい歌とオリーのジャジーでエネルギッシュなギターが炸裂するストレートなロックは爽快そのもの。 元メイ・ブリッツのトニー・ニューマンと元ジュシー・ルーシーのキース・エリスの重量級のリズム隊も迫力満点。過激なジャケットが話題になり、裏面に写る女性は無修正だったことからすぐに回収、アンダー・ヘアはベルトで隠されましたが、本作はそのベルトで隠されていないオリジナルのファースト・ジャケット。		
	BOYS	ボーイズ		1977	パンク	レコー ド	70年代に英国ロンドンで結成された初期パンクを代表するバンド、ボーイズの1STアルバム。パンク・バンドとしては珍しいキーボード奏者を含む5人組、ボーイズが77年にリリースした名盤の誉れ高きファースト。パンクのみならず、グラム・ロックやバブ・ロックからの影響も高いスピーディーでポップなサウンドが魅力。 1曲目から疾走感のあるイントロと鋭いギターリフにブギウギ・ピアノでロックンロール「Sick On You」から始まって、ラストの「Living In The City」までキャッチーでポップな激走パンキッシュR&Rナンバーのオンパレードで息つく暇もないくらい勢いで初期衝動を感じる一枚。名曲がずらりと素晴らしの一言。	Side A 1. Sick On You 2. I Call Your Name 3. Tumble With Me 4. Tonight 5. I Don't Care 6. Soda Pressing 7. No Money	Side B 1. First Time 2. Box Number 3. Kiss Like A Nun 4. Cop Cars 5. Keep Running 6. Tenement Kids 7. Living In The City
	BOYS	ボーイズ		1977	パンク	レコー ド		以下、CDボーナストラック 15. Watcha Gonna Do 16. Turning Grey 17. The First Time (Long Version) 18. Lonely Schooldays (Demo) 19. I Don't Care (Alternative Version) 20. Take A Heart (Demo) 21. Run Rudolph (The Yobs) 2. The Worm Song (The Yobs)	
	BOYS				パンク	レコー ド			
	BOYS				パンク	レコー ド			
	BOZ SCAGGS	シルク・ディグ リーズ		1976	AOR	レコー ド	ソロ・デヴューするもブルースに傾倒したスタイルで暫しヒットに恵まれなかったBOZ SCAGGSのターニングポイントとなるアルバム。76年の春にリリースされた通算7枚目のスタジオ・アルバムにして、A.O.R.という語源の発祥の道標となった最高傑作。このアルバムにアレンジメントと鍵盤で参加したスタジオミュージシャン・DAVID PAICHとドラムスのJEFF PORCAROは、この共演をきっかけにのTOTOを結成したのも有名な話であり、サンプリングソースとしても名高いシングル楽曲"Lowdown"(sample1)は勿論、LINUS LOVESによるリエディットもある"What Can I Say"(sample2)、ニューオーリンズ出身のピアニスト・ALLEN TOUSSAINTのカバー曲"What Do You Want The Girl To Do"や、当初"Lido Shuffle"(sample3)のB面の扱いであったが、RITA COOLIDGEによるカバーのヒットによって再評価されボズの代表曲となった感動フィナーレの大名曲"We're All Alone"など、全10曲		
	BOZ SCAGGS	ミドルマン		1980年	AOR	レコー ド	新しく鮮烈なスピリットを感じさせるボズのAOR 三部作の掉尾を飾る名盤。プロデューサーに新たにビル・シュナイを迎え、アレンジにデヴィッド・フォスターを起用。『シルク・ディグリーズ』『ダウン・トゥー・ゼン・レフト』、そして本作はAOR三部作と呼ばれ、ボズ・スカッグスは人気の絶頂を迎える。プロデューサーのビル・シュナイ、デヴィッド・フォスターの指揮のもと、さらに洗練を極め、メリハリの効いたハイセンスなサウンドは、ジェフ・ポーカロ(ds)やデヴィッド・ハンゲイト(b)、スティーヴ・ルカサー(g)、レイ・パーカーJr.(.g)らが参加。「ブレイクダウン・デッド・アヘッド」(全米15位)、「ジョジョ」(全米17位)がシングル・カットされ、アルバムは全米8位にランキングされた。当時2度目の来日公演もあり、テレビでもその公演が中継されアルバムもベスト・セラーとなった。カルロス・サンタナのパフォーマンスも聞きのがせない。	Side A 1. ジョジョ 2. ブレイクダウン・デッド・アヘッド 3. シモン (僕の心をもてあそぶ) 4. トワイライト・ハイウェイ	Side B 1. ミドル・マン 2. イン・ニューヨーク 3. エンジェル・ユー 4. イズント・イット・タイム 5. ユー・ガット・サム・イマジネイション
	BRAINS			1980	ニュー ウェーブ	レコー ド			
	BRAM TCHAIKOVSK Y	ストレンジマン・ チェンジマン		1979	パワー ポップ	レコー ド			
	BRAM TCHAIKOVSK Y	ストレンジマン・ チェンジマン		1979	パワー ポップ	レコー ド			
	BRAM TCHAIKOVSK Y	プレッシャー			パワー ポップ	レコー ド			
	BRAM TCHAIKOVSK Y	脅威の黒い影			パワー ポップ	レコー ド			
	Brian Eno	ヒア・カム・ザ・ ウォーム・ジェツ ツ		1974年1 月	ニュー ウェイブ	レコー ド	1stソロ作品。本アルバムはROXYMUSICの2nd「For Your Pleasure」から脱退に至り、そこからほぼ間を空けず制作されたアルバムだ。さて1曲目の"Needles In the Camel's Eye"は映画「ベルベット・ゴールドマイン」でもオープニングに使用された曲で、数多くのカバーを発生させた傑作だ。アルバムタイトルでもある"Here Come the Warm Jets"が本当に冒頭から格好良く鳥肌物だ。次作に含まれる" Third Uncle"にも繋がるテーマであろう。かなりエキセントリックなモダン・ポップの傑作。我国のパンク・ニューウェーブ・シーンにも計り知れない影響を与えた作品のひとつだろう。願わくばこの1stを手にとったなら2ndと3rdの「Another Green World」までは是非聴いて欲しい。 ROXYMUSIC時代から彼が好む音楽の密度や構成、空間は一貫しており、次第に整頓・洗練されてゆき、後にアンビエントに進んだことも理解が出来ると思う。	Side A 1. ニードルズ・イン・ザ・キャメルズ・アイ - 3:10 2. ザ・ボー・ボー・ニグロ・プロウ トーチ - 3:05 3. ベイビーズ・オン・ファイアー - 5:19 4. シンディ・テルズ・ミー - 3:25 5. ドライヴィング・ミー・バックワーズ - 5:12	Side B 1. オン・サム・ファアラウェイ・ビー チ - 4:36 2. ブランク・フランク - 3:37 3. デッド・フィンクス・ドント・トーク - 4:19 4. サム・オブ・ゼム・アー・オールド - 5:11 5. ヒア・カム・ザ・ウォーム・ジェッツ - 4:04

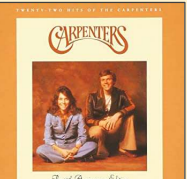
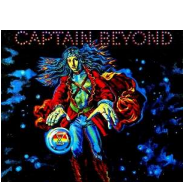
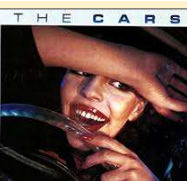
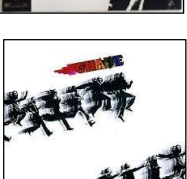
	BRINSLEY SCHWARZ	1st+2nd		1970	パブロック	CD	パブロックバンドの先駆け「プリンスリー・シュウォーツ」の1st「BRINSLEY SCHWARZ」&2nd「ディス・バイト・イット・オール」を収録。メンバーは、プリンスリー・シュウォーツ(g.vo)ニック・ロウ(b.vo)、ボブ・アンド・リュース(key.vo)、ブル・ランキング(ds)の4人組。 1st「BRINSLEY SCHWARZ」 70年発表の記念すべきプリンスリーの1stアルバム。全曲がニック・ロウの作品（1.のみロウを含めたメンバーの共作）で、既に優れたソング・ライティングを見せています。いきなりPOCOかよ？と思わせるコーラスが出てきてビックリしますが、元々このグループはウェスト・コースト・サウンドを目指していたらしく、その目論みはかなりいい線いっていると思います。4. なんかは完全にCSNです。そんなわけで全編にウェスト・コースト系のコーラスが聞かれますが、どこかがアメリカ勢とは違うぞ・・・という微妙な違いがあってそこがまた魅力になっています。まだアレンジに???の部分もあり（4. は7分超の長尺、7. は10分超だが短い曲がいくつか入っている）全体に荒削りではありますが、耳に心地が良い音なので、好き嫌いが分かれる音ではないと思います。とりあえずニック・ロウのファンは必聴でしょうね。ちなみにまだイアン・ゴムはいません。 2nd「ディス・バイト・イット・オール」 70年11月にリリースされた2作目。前作よりもニック・ロウのソングライティングに磨きが掛かり、アーシーなサウンドを強調したバンド・サウンドも見事で成長が伺える。フィドルを従えた#1はバースで有名なDylanの“You Ain't Going Nowher”のメロディーをそのまま借用したナンバー。フィドルと絡むプリンスリーのギターが絶品で、ウキウキと跳ねる感覚が聞き手の心も楽しくさせてくれる。#2のオルガンとピアノを重ねたボブ・アンド・リュースのセンスも抜群だが、人懐っこいメロディーがいつまでも心に残る印象的なナンバー。#3はこれギター何本重ねてるんや？とプリンスリーのギターが大活躍するナンバーでソロ部等、別のフレーズを奏でるギターが重なって行く様は見事の一言。良く練られています。特筆すべきは#5のさりげない美しさでニック・ロウって本当に良い曲を書くよなかと誰もが思ってしまう等。18曲のギター・ソング・アルバム。ニック・ロウのソングライティングが秀えたり、新加入のイアン・ゴムとの化学反応が理想的な形で結実した傑作の誉れ高いアルバム。英国カントリー・ロックのアルバムとしては重要、かつ楽しめる作品。リラックスした雰囲気を持ったこのアルバムは屋下がりには聴くにはもってこいだらう。カントリー路線とは言ってもビートルズの4thアルバムに似た雰囲気も持っている。ニック・ロウの曲はビートルズの影響を感じるものの、露骨にそれが出ているものは少ないのだけど、このアルバムでは結構その辺りが垣間見れて微笑ましい。ロウが6曲、イアン・ゴムが4曲、ジム・フォードの曲が2曲といった内容で、どちらのファンも納得か？4. はロウ作のカントリー・ワルツだが、近年のアコースティック路線の作風に非常に近い雰囲気を持っている佳曲。ギターの間奏が何となくビートルズの「If I Fell」を思わせる6. もカントリー路線の良い曲だ。7. ではモロに「Words Of Love」のフレーズが出て来て、「ああビートルズなんだな」と納得してしまう。グループの方向性ははっきりと分かる好盤である。ロウ作の佳作「ナイチンゲール」収録。4曲のボーストリズムを特別収録。	1ヒム・トゥ・ミー 2シャイニング・ブライトリー 3ロック・アンド・ロール・ウィメン 4レディ・コンスタント 5ホワット・ドウ・ユー・サジェスト? 6メイフライ 7ブラッド・オブ・ア・ハズ・ビーン・ビューティ・クイーン 8カントリー・ガール 9スロウ・ワン 10ファンク・エンジェル 11ピース・オブ・ホーム 12ラブ・ソング 13スター・シップ 14イブリー・ダウン 15オールド・ジャロウ	
	BRINSLEY SCHWARZ	シルヴァー・ピストル		1972	パブロック	レコード	化学反応が理想的な形で結実した傑作の誉れ高いアルバム。英国カントリー・ロックのアルバムとしては重要、かつ楽しめる作品。リラックスした雰囲気を持ったこのアルバムは屋下がりには聴くにはもってこいだらう。カントリー路線とは言ってもビートルズの4thアルバムに似た雰囲気も持っている。ニック・ロウの曲はビートルズの影響を感じるものの、露骨にそれが出ているものは少ないのだけど、このアルバムでは結構その辺りが垣間見れて微笑ましい。ロウが6曲、イアン・ゴムが4曲、ジム・フォードの曲が2曲といった内容で、どちらのファンも納得か？4. はロウ作のカントリー・ワルツだが、近年のアコースティック路線の作風に非常に近い雰囲気を持っている佳曲。ギターの間奏が何となくビートルズの「If I Fell」を思わせる6. もカントリー路線の良い曲だ。7. ではモロに「Words Of Love」のフレーズが出て来て、「ああビートルズなんだな」と納得してしまう。グループの方向性ははっきりと分かる好盤である。ロウ作の佳作「ナイチンゲール」収録。4曲のボーストリズムを特別収録。	Side A 1. ドライ・ランド 2. メリー・ゴー・ラウンド 3. ワン・モア・デイ 4. ナイチンゲール 5. シルヴァー・ピストル 6. ザ・ラスト・タイム・アイ・ウォズ・フルード	Side B 1. アンノウン・ナンバー 2. レンジ・ウォー 3. エジプト 4. ニキ・ホーキー・スピードウェイ 5. ジュ・ジュ・マン 6. ロッキン・チェアー
	BRONSKI BEAT	トゥルースデア・ダブルデア		1986	エレクトロニクス	レコード			
	BRUCE SPRINGSTEEN	アズベリー・パークからの挨拶		1973	ロック	レコード			
	BRUCE SPRINGSTEEN	青春の叫び		1973	ロック	レコード			
	BRUCE SPRINGSTEEN	明日なき暴走		1975	ロック	レコード			
	BRUCE SPRINGSTEEN	闇に吠える街		1978	ロック	レコード			
	BRUCE SPRINGSTEEN	闇に吠える街		1978	ロック	レコード	全米5位、全英16位獲得。		
	BRUCE SPRINGSTEEN	ザ・リバー		1980	ロック	レコード			
	BRUCE SPRINGSTEEN	ザ・リバー		1980	ロック	レコード			
	BRUCE SPRINGSTEEN	ネブラスカ		1982	ロック	レコード	全米3位、全英3位獲得。		
	BRUCE SPRINGSTEEN	ボーン・イン・ザ・U.S.A.		1984	ロック	レコード	全米1位、全英1位獲得。		
	BRUCE SPRINGSTEEN	The “Live” 1975-1985		1986	ロック	レコード	全米1位、全英4位獲得。		
	BRUCE SPRINGSTEEN	グレイテスト・ヒッツ		1995	ロック	CD	1995年に発表。20余年の軌跡をたどる、彼自身の選曲による全18曲。もちろん、この18曲で彼の存在を語り尽くすことなどできない。けれどもデビュー以来貫いてきた姿勢は、ファンの心には十分伝わってくるはずだ。 70年代を駆け抜けた疾走感満点のサウンド、男の人生を歌ったストリート・ロック、労働者史観的に歌いあげたアメリカへの想いは、思わず拳を握りしめてしまうほどに熱く、ストレートでエネルギー溢る力強さが全面からあふれでる。グラミー賞受賞曲<14>も収録。彼のロック・スピリッツは、リスナーの心をとらえて離さない。	1明日なき暴走 2涙のサンダーロード 3バッドランド 4ザ・リバー 5ハングリー・ハート 6アトランティック・シティ 7ダンシン・イン・ザ・ダーク 8ボーン・イン・ザ・U.S.A. 9マイ・ホームタウン	10グローリー・デイズ 11ブリリアント・ディスガイズ 12ヒューマン・タッチ 13ベター・デイズ 14ストリート・オブ・フィラデルフィア 15シークレット・ガーデン 16マーダー・インコーポレイテッド 17ブラッド・ブラザーズ 18ディス・ハード・ランド

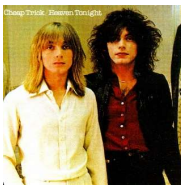
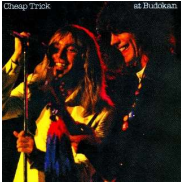
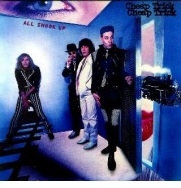
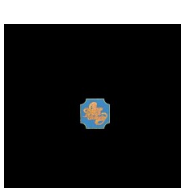
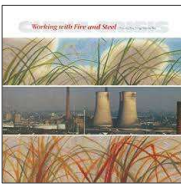
	BRUCE SPRINGSTEEN				ロック	レコード			
	BRUCE WOOLLEY & THE CAMERA CLUB	イングリッシュ・ガーデン		1979	ニューウェーブ	レコード	バグ尔斯の大名曲「ラジオスターの悲劇」の共作者として知られるブルース・ウーリー率いる英パワー・ポップ・バンドの1979年発売のデビューアルバム。ヒット曲「ラジオスターの悲劇」「クリン・クリン」を含む。		
	BRYAN ADAMS	ギブ・ミー・ユア・ラブ		1980年2月12日	ロック	レコード	1980年リリース。ブライアン・アダムのデビュー・アルバム。このアルバムは、当然の事ながら、大ヒットした3rd「Cuts Like a Knife」、最高傑作と目されている4th「Reckless」等の作品の深み、完成度には及びません。しかし、私達の持つイメージよりも、やや高音でクリアなボーカルから放たれるチューンは、非常にポップでシンプル且つ軽快な仕上がりとなっており、彼の後の成功を十分に予感させるクオリティとなっています。彼のヒストリーを知る上でもコアなファンにとって、是非ともチェックしておきたい作品。全9曲	Side A 1. 愛の隠れ家 (Hidin' From Love) 2. 時は去り行く (Win Some Lose Some) 3. 最後のチャンス (Wait And See) 4. ギブ・ミー・ユア・ラブ 5. ウェイステイン・タイム	Side B 1. さよならいわなで (Don't Ya Say It) 2. リメンバード 3. ステイト・オブ・マイン 4. 夜が明けるまで (Try To See It My Way)
	BRYAN ADAMS	ジェラシー		1981年7月21日	ロック	レコード	1981年に発表。ポップ・クリアマウンテンをプロデューサーに起用、ブライアン・サウンドの基礎を確立した2ndアルバム。日本でのデビューアルバム。「フィッツ・ヤ・グッド」、「ロンリー・ナイツ」を収録。	Side A 1. ロンリー・ナイツ 2. ワン・グッド・リーズン 3. ドント・ルック・ナウ 4. カミング・ホーム 5. フィッツ・ヤ・グッド	Side B 1. ジェラシー 2. トウナイト 3. ユー・ウォント・イット・ユー・ガット・イット 4. ラスト・チャンス 5. 君がすべて
	BRYAN ADAMS	カット・ライク・ア・ナイフ		1983年1月18日	ロック	レコード	ブライアン・アダムの1983年に発表した3rdアルバムで、ロック・ミュージック・アダムの名を決定的にした。全米最高位8位を記録した作品。ストレートで赤裸々な歌詞とロック・サウンドがまっすぐに放たれている名作。本作を発表する3年前にイアン・ロイドのために書かれた曲のセルフ・カバー「フロム・ザ・ハート」ほか、「ディス・タイム」「カット・ライク・ア・ナイフ」など、ロック・スピリッツあふれる楽曲をハスキーな声で歌い上げる10曲を収録。前作“You want it, you got it”以来、Bruce SpringsteenのアルバムをミックスしていたBob Clearmountainを共同プロデューサーに迎え、相棒Jim Vallanceと丹念につくった曲の数々が聴ける。オントリオ出身の田舎者が、何のひねりもつけず、ストレートにロックしている本作のような作品は、今の作品ではもうめったにお目にかかれない。“This time”ではForeignerのヴォーカル、Lou Grammがバックで参加。骨太ドラムスのMickey Curryは、この後Hall & Oatesのバンドで一躍トップドラマーになった。ギターのKeith Scott、ベースのDave Taylorあたりは、今でも彼の作品に参加する仲間である。	Side A 1. オンリー・ワン 2. テイク・ミー・バック 3. ディス・タイム 4. フロム・ザ・ハート 5. カット・ライク・ア・ナイフ	Side B 1. アイム・レディ 2. 木の葉のように 3. ドント・リーヴ・ミー・ロンリー 4. レット・ヒム・ノウ 5. 明日を信じて
	BRYAN ADAMS	レックレス		1984年11月5日	ロック	レコード	1984年に発表したブライアン・アダムの4枚目のアルバム。間違いないアダムの最も成功したソロアルバムで世界中で大ヒットし、アメリカでは全米1位で500万枚以上売り上げ、世界では1200万枚売り上げた。「ラン・トゥ・ユー(米6位)」、「サムバディ(米11位)」、「ヘヴン(米1位)」、「想い出のサマー(米5位)」、「ワン・ナイト・ラヴ・アフェアー(米13位)」そしてティナ・ターナーとのデュエット曲「イツ・オンリー・ラヴ(米15位)」6枚のシングルがアルバムからリリース。6枚のシングルすべてがUSビルボードでトップ15になった。これはそれまではマイケル・ジャクソンの『スリラー』とブルース・スプリングスティーンの『ボーン・イン・ザ・U.S.A.』だけしか達成できていなかった。当時はシンセ・ポップが音楽シーンを牛耳っていた中、ブライアンはライブ・パフォーマンスのエネルギーがそのまま詰まったアルバム作りを目指し、ギターを中心に据えたロックンロールを全米チャートに蘇らせたアルバムだ。	Side A 1. ワン・ナイト・ラヴ・アフェアー 4:32 2. いかしたダンシンガール 3:14 She's Only Happy When She's Dancin' 3. ラン・トゥ・ユー 3:54 4. ヘヴン 4:03 5. サムバディ 4:44	Side B 1. 想い出のサマー Summer of '69 3:35 2. キッズ・ワナ・ロック 2:36 3. イツ・オンリー・ラヴ(ティナ・ターナー) 3:15 4. ロング・ゴーン 3:57 5. 涙をふきとばせ Ain't Gonna Cry 4:06
	BUCKINGHAM NICKS	BUCKINGHAM NICKS		1973年	ロック	レコード	フリートウッド・マックのメンバーとして知られるリンジー・バッキングラムとスティーヴィー・ニックスが加入前に結成していたあの伝説のデュオ「バッキングラム・ニックス」によるが1973年に発表した唯一のアルバム『バッキングラム・ニックス』。のちのフリートウッド・マック黄金期のポップサウンドを予感させる本作は、『ファンタスティック・マック』収録の名曲「Crystal」も収録された隠れた名盤。商業的成功には至らず長く幻のアルバム扱いとなっていた。本作は、後にポップスからプログレ、ヘヴィ・メタルまで数多くのヒット作を手掛けるキース・オルセンがプロデュースした事もあり、アルバムとしての完成度も一級品だ。	Side A 1. クライミング・イン・ザ・ナイト 2. ステファニー 3. ウイズアウト・ア・レグ・トゥ・スタンド・オン 4. クリスタル 5. ロング・ディスタンス・ウイナー	Side B 1. ドント・レット・ミー・ダウン・アゲイン 2. ジャンゴ 3. レイセス・アー・ラン 4. ローラ(マイ・ラヴ) 5. フローズン・ラヴ
	BUFFALO SPRINGFIELD	バッファロー・スプリングフィールド		1966	フォークロック	レコード	ニール・ヤング、スティーブ・スティルス、リッチー・フューレイ、ブルース・バーマー、デューイ・マチンらを擁する『バッファロー・スプリングフィールド』の記念すべき1stアルバム。1966年12月にリリースされたが、当初はあまり売れず、翌年全米7位まで上昇したシングル・ヒット「フォー・ホワット・イツ・ワース」を入れ、当初B面の4曲目「ベイビー・ドント・スコールド・ミー」を外して再リリースし、全米チャートの80位にランクされた、という経緯を持っている。結局再リリース盤も含めるとこのアルバムには全部で13曲だが、その全ての楽曲がスティルス若しくはヤングの作品。A面がスティルスの作品中心で、B面がヤングの作品が中心となっている。ヒットした「フォー・ホワット・イツ・ワース」はスティルスの作品で、独特の浮遊感のあるサウンドとスティルスの抑揚を抑えたヴォーカルが印象的だ。ヤングが書いた5曲のうち3曲はプロデューサーの意向でフューレイがヴォーカルを取っている。ヤングの作品では他に美しいバラード「アウト・オブ・マイ・マインド」が耳に残る。スティルスの作品では「君を愛していると思う」や軽快な「ベイ・ザ・ブライス」などが素晴らしい出来。後にカーペンターズがカバーした「クランシーは歌わない(Nowadays Clancy Can't Even Sing)」はヤングの作品。当時の他のフォーク・ロック・バンド、つまりバーズやタートルズなどとは一線を画し、どこか当時の時代の空気を含んだ独特のサウンドを構築していたと思う。このバンドのメンバー達が後に所属したバンドを考えると、クロスビー・スティルス・ナッシュ＆ヤング、ボコからイーグルスまで見えて来る。それだけこのバンドがアメリカのロックの歴史に与えた影響は大きいと言える。ヤング、スティルスの喧嘩による確執やメンバーの麻薬逮捕などなど…トラブル続きで約2年という僅かな活動期間ながら後世に語り継がれてきたまさに歴史的な名盤。	Side A 1. フォー・ホワット 2. ゴー・アヘッド・セイ・グッバイ 3. 君を愛していると思う / Sit Down I Think I Love You 4. クランシーは歌わない / Nowadays Clancy Can't Even Sing 5. ホット・ダスティ・ローズ / Hot Dusty Roads	Side B 1. 僕のそばに居てくれ / Flying On The Ground Is Wrong 2. バード 3. いい娘になって / Do I Have To Come Right Out And Say It 4. リーヴ 5. アウト・オブ・マイ・マインド 6. ベイ・ザ・ブライス
	BUFFALO SPRINGFIELD	バッファロー・スプリングフィールド		1966	フォークロック	CD			
	BUFFALO SPRINGFIELD	バッファロー・スプリングフィールド・アゲイン		1967	フォークロック	レコード	1967年にリリースした2ndアルバム。活動期間は2年と短かく商業的な成功も得られませんでした。彼らの最高傑作。アルバム全体としては散漫な印象を受けるが、アメリカン・ロックの礎を作った見本市的なバラエティに富んだ、個々のクオリティが高い楽曲が挿入されている。このアルバムでヤングはニッチェと行動を共にし実験的な曲作りを試み、スティルスも彼のキャリアを代表する「ブルーバード」「ロックン・ロール・ウーマン」を書き上げた。カントリー、フォーク、ブルースといったアメリカ音楽のルーツを基本にしたながらも、ジャズ、ソウル、R&B、南米民族音楽、クラシックなどの要素を取り入れ、バンドを取り巻く状況が悪化する中にも関わらず、アイデアに溢れた実験的かつ幅広いサウンドに仕上げられている。また、メンバー間のバランスを配慮した曲順など、緊迫感とバンド崩壊の予兆めいたものも聞き取れ、バッファロー・スプリングフィールドの最高傑作と評されている	Side A 1. ミスター・ソウル 2. ア・チャイルズ・クレイム・トゥ・フェイス 3. エヴリデイズ 4. エクスベクティング・トゥ・フライ 5. ブルーバード	Side B 1. ハング・アップ・サイド・ダウン 2. 悲しみの想い出 3. グッド・タイム・ボーイ 4. ロックン・ロール・ウーマン 5. 折れた矢
	BUFFALO SPRINGFIELD	バッファロー・スプリングフィールド・アゲイン		1967	フォークロック	CD			
	BUFFALO SPRINGFIELD	ラスト・タイム・アROUND		1968	フォークロック	レコード	68年発表の3rd。グループ解散後に発表されたラスト作だが、メンバーが新作として制作したものではなく、未発表曲にメンバーのソロ作品、そしてリッチー・フューレイと新たに加入したジム・メッシーナによって制作された新曲を加えてまとめられたものである。ラストの曲にはスティール・ギターでラスティ・ヤングが参加しており、彼とリッチー・ジムでボコが結成される。本作はそういう意味においてはバッファローとボコがクロス・フェイドする作品であり、新曲を中心に考えればボコの原形的なものとも考えると出来ると思う。 1. はプラスの入った西海岸風ソフト・ロックとも言うべき仕上がりで軽快で爽やかなコーラスとストリングスが絡むアレンジが秀逸。この一曲だけでも本作の魅力は伝わってくる。 2. はカントリー・ブルース風の曲をアカデミックにアレンジしたかのような感じだが、洗練としたヴォーカルそのものの魅力が楽曲に強力なカラーを加えている。 3. は渋めのカントリー・ワルツ。中盤の短いギター・ソロは音色、フレーズ共にたまらないものがある。ニール・ヤングの名曲⑨、ボコで再演されるリッチー・フューレイの⑩あたりの佳曲が並んでますが、全体的にはややブルース色の強いカントリー・ロックといった楽曲が多く、後の彼らのイメージとはそれほど遠くない。ただ、よほどバッファローにのめりこんだ人、ファンの人以外にはお薦めできない。 1、2枚目の歴史的な意義に比べると、かなり碌碌し、つまらない作品	Side A 1. オン・ザ・ウェイ・ホーム 2. 待つのが辛くて 3. プリティ・ガール・ホワイ 4. フォー・デイズ・ゴーン 5. ケアフリー・カントリー・デイ 6. スペシャル・ケア	Side B 1. 雨なき頃 2. クエストions 3. アイ・アム・ア・チャイルド 4. メリー・ゴー・ラウンド 5. ウ・ムンド 6. カインド・ウーマン
	BUGGLES	プラスチックの中の未来		1980	ニューウェーブ	レコード			
	BUSTER	すてきなサンデー恋はOK!		1977	ロック	レコード	ファースト・シングル「すてきなサンデー」やセカンド・シングル「恋はO.K.！」といったポップ・ナンバーはもちろん、スティーヴン・ウルフのカヴァー「ワイルドで行こう」やメンバー作によるインスト曲「ディブレイク」など、ロック・テイストなナンバーも収録。	1. ウィ・ラブ・ガールズ 2. 恋のサタデー・ナイト 3. キミを歌いたい 4. すてきな足にひと目ぼれ 5. ディブレイク 6. ワイルドで行こう	7. 恋はO.K.！ 8. 彼女をひとり占め 9. 恋はおバカさん 10. あの娘におせっかい 11. すてきなサンデー 12. ウィ・ラブ・ガールズ(リプライズ)

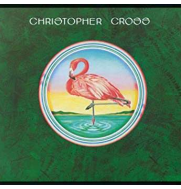
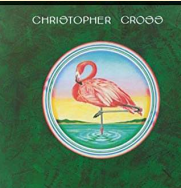
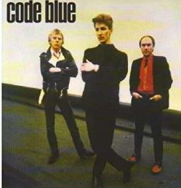
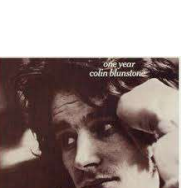
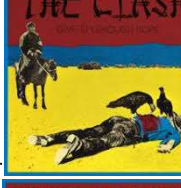
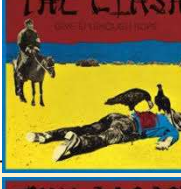
	BUTTERFIELD BLUES BAND	バターフィール ド・ブルース・バ ンド		1965	ロック	レコー ド	65年暮、雪の舞うシカゴから発表された衝撃のデビュー作。 ホワイト・ブルースの歴史が始まったことを天下に示めすマスターピース。 (1965年作品)		
	BUTTERFIELD BLUES BAND	イーストウェスト		1966	ロック	レコー ド			
	BUTTERFIELD BLUES BAND	イーストウェスト		1966	ロック	レコー ド			
	BUZZCOCKS	アナザー・ミュ ージック		1978	パンク	レコー ド			
	BUZZCOCKS	ア・ディファレント ・カインド・オ ブ・テンション		1979	パンク	レコー ド			
	BUZZCOCKS	シングلز・ゴ ーイング・ス テディ		1979	パンク	レコー ド	バズコックスは、衝撃的なバンド名と「Oh Shit?」「Orgasm Addict」(両曲ともこのシングル・コレクションに収録)といった曲名で、1970年代末のパンクロックの見事な代弁者となった。けれども、こうして今振り返ってみると、バズコックスがその他に成し遂げたことが手に取るようにわかる。そう、彼らはこの上なくキャッチーで挑発的なシングルを作り上げたのだ。そしてビート・シェリーは、ありきたりの甘ったるい恋に溺れることなく、胸が張り裂けそうな想いと挫折感をぶちまけた(最大のヒット曲のキャッチーなコーラスでは「恋してはいけない相手に恋したことはあるかい?」と歌っている)。1979年リリースのこの決定盤的コレクションは、マンチェスター出身の4人組による引き締まったメロディーと、無駄のないソングライティング、絶妙の速いテンポを心地よく聴かせてくれる。	1Orgasm Addict 2What Do I Get? 3I Don't Mind 4Love You More 5Ever Fallen In Love? 6Promises 7Everybody's Happy Nowadays 8Harmony In My Head	9What Ever Happened To? 10Oh Shit! 11Autonomy 12Noise Annoys 13Just Lust 14Lipstick 15Why Can't I Touch It? 16Something's Gone Wrong Again
	BUZZCOCKS	シングلز・ゴ ーイング・ス テディ (2001 Digital Remaster)		1979	パンク	CD	2001年リマスター音源。バズコックスは、アルバムのどれか一枚というより、このシングル集が一番いいと思います。突拍子もないビート・シェリーの声が曲にマッチし、良い曲が多い。1977年のデビューから1981年自動的に解散に追い込まれるまでのA面とB面のシングル曲のカップリング集で、特にB面には隠れた名曲があるので見逃さない。	1Orgasm Addict (Explicit) 2What Do I Get? 3I Don't Mind 4Love You More 5Ever Fallen In Love (With Someone You Shouldn't Have) 6Promises (2001 Remaster) 7Everybody's Happy Nowadays 8Harmony In My Head 9You Say You Don't Love Me 10Are Everything 11Strange Thing 12Running Free	13Whatever Happened To...? 14Oh Shit (Explicit) 15Autonomy 16Noise Annoys 17Just Lust 18Lipstick 19Why Can't I Touch It? 20Something's Gone Wrong Again 21Raison D'Etre 22Why She's A Girl From The Chainstore 23Airwaves Dream 24What Do You Know
	BYRDS	ミスター・タン 布林・マン		1965	フォーク ロック	レコー ド	1965年6月に発表した、フォーク・ロックのみならずロック史に燦然と輝く金字塔の名盤。世界的ヒット曲「ミスター・タン布林・マン」(全米No.1)、「オール・アイ・リアリー・ウオント」他を収録。65年発表、フォーク・ロックの先駆けと言えるバンド、バースのデビュー作『ミスター・タン布林・マン』。ボブ・ディランのカバー曲であるタイトル曲は全米1位を記録し、当時まさに人気の絶頂だったビートルズに対するアメリカからの対抗馬として大いに期待されました。ジム・マッギンの弾く12弦ギターと彼のボブ・ディランとビートルズの中間のような独特のボーカルを軸とし、後にクロスビー、スティルス＆ナッシュを結成するデヴィッド・クロスビーなどの美しいコーラスを活かしたカントリー・ロック的なサウンドを聴かせます。表題曲や「スバニッシュ・ハーレム・インシデント」など計4曲のボブ・ディランのカバー曲の他に、「すっきりしたぜ」「イッツ・ノー・ユース」などビートルズの影響を感じさせる曲も数多く収録されています。そんな中とくに目を引くのは、12弦ギターの名演が聴ける爽やかなナンバー「リムニーのベル」です。この曲はジョージ・ハリスンにも影響を与えた名曲として知られています。ただ、まだこの時点ではフォーク・ロックというスタイルが完全には出来上がっておらず、アルバム全体通した作りというよりはシングル曲を集めたものといった印象を受けます。しかし、表題曲など後の彼らを想わせる可能性を秘めた曲が多く、個々の楽曲も聴いていて心地良いものばかりです。	01. Mr. Tambourine Man 02. I'll Feel a Whole Lot Better 03. Spanish Harlem Incident 04. You Won't Have to Cry 05. Here Without You 06. Bells of Rhymney	07. All I Really Want to Do 08. I Knew I'd Want You 09. It's No Use 10. Don't Doubt Yourself, Babe 11. Chimes of Freedom 12. We'll Meet Again
	BYRDS	(ペーパー スリーブ仕様) ミスター・タン 布林・マン		1965	フォーク ロック	CD			
	BYRDS	ターン・ターン・ ターン		1965	フォーク ロック	レコー ド	ザ・バースが1965年に発表したセカンド・アルバム。2枚目の全米No.1シングルとなったタイトル曲を含む、よりビート・ロック色を強めた。前作に続き、テリー・メルチャーのプロデュースのもと試行錯誤して制作された本作は、メンバーそれぞれの個性も主張され、より幅広い音楽性を提示して見せた作品。後のウエストコースト・サウンドの萌芽をも感じさせる充実作。2曲目のジーン・クラークのオリジナル曲、4. 9曲目のボブ・ディランの曲や、5. 11曲目トラッドなどの曲がカヴァー・センスも光りロック・クラシックとして認知されている佳曲が並んでいる。完成度の高さという点においてもデビュー作と甲乙付け難いものがあるが、どちらにしても彼らのイメージ通りの作品として楽しめる名盤の一枚。全米チャート第17位、全英第11位。	1.ターン・ターン・ターン 3:53 2.悪くはないぜ 2:01 3.セツ・ユー・フリー 2:52 4.レイ・ダウン・ユア・ウィアリー・ チューン 3:33 5.友だちだった彼 2:34	6.彼女は世界の中心 2:16 7.サティスファイド・マインド 2:30 8.イフ・ユー・ワー・ゴーン 2:49 9.時代は変わる 2:22 10.ウェイト・アンド・シー 2:22 11.おおスザンナ 3:13
	BYRDS	(ペーパー スリーブ仕様) ターン・ターン・ ターン		1965	フォーク ロック	CD			
	BYRDS	霧の5次元		1966	フォーク ロック	レコー ド	英米でサイケデリアの到来をいち早く告げた傑作。66年発表の3rd。前作の後、ジーン・クラークが脱退して4人組となって初めて制作された作品。音楽的な志向も変化を見せ始めており、従来のフォーク・ロック的なスタイルに加えて時代を反映したかのようなサイケデリック／ラーガ・ロック的な要素を加味している。来るべきサマー・オブ・ラブの時代を予見させてみた。それまでのマッギンの緻密に音を散りばめるようなギターから、このアルバムではサイケデリックな音階の速さを意識したソロを披露している。7曲目は、そんなサイケデリック路線の代表曲の筆頭だが、それを置いても人気が高くたくさんのカヴァーを生んだ。珍しいところではEL&Pなどでも有名なキース・エマーソンも“3”でカヴァーしており、幅広い人気を得ていたことがよく分かる。またロジャー・マッギン作のタイトル曲はディランにコーラス・ハーモニーを付けたかのような初期の集大成とも言えるべき屈指の名曲。2曲目のストリングスの絡みも絶妙の味わいだ。ヴァン・ダイク・パークスが、キーボードで参加しており、脱退したクラークもタンバリン、ハーモニカ、ヴォーカルでクレジットされている。当時はドラッグ・ソングだとして放送禁止となったサイケ名曲「霧の8マイル」(全米シングルチャート14位)収録。全米チャート第24位、全英第27位。本作なくして古今東西のサイケ・カルチャーは語れない。	1霧の5次元 2ワイルド・マウンテン・タイム 3ミスター・スペースマン 4アイ・シー・ユー 5ホワッツ・ハブニング	6死んだ少女 7霧の8マイル 8ヘイ・ジョー 9キャプテン・ソウル 10ジョン・ライリー 11ジェット・ソング
	BYRDS	(ペーパー スリーブ仕様) 霧の5次元		1966	フォーク ロック	CD		CD以下、ボーナストラック 12何故(シングル・ヴァージョン) 13アイ・ノウ・マイ・ライダー 14サイコドラマ・シティ 15霧の8マイル(RCAスタジオ・ヴァー ジョン) 16何故(RCAスタジオ・ヴァージョン) 17ジョン・ライリー(インストゥルメンタ ル・ヴァージョン1)	
	BYRDS	(ペーパー スリーブ仕様) 昨日よりも若く		1967	フォーク ロック	CD	1967年発表の4thアルバム。本アルバムから全てオリジナル曲で占められ特にDavid CrosbyとChris Hillmanはソングライティングに大活躍で前作まで殆ど曲を書かなかった事が噂の様です。サウンド面でもギターの逆回転等実験的な部分がありよく巷で言われているビートルズの『Revolver』に影響を受けていると言うのは的確な表現だと思います。オープニングの『So You Want To Be A Rock'n'Roll Star』は後のT.Rexを彷彿させる楽曲で他にはDavid Crosbyの代表作の一つとなりえる『Renaissance Fair』や『Mind Gardens』等優れた楽曲が沢山あり質の高いアルバムになっています。それにしてもビートルズをしのぐわず数年で才能を開花させたスピードには驚くばかりです。しかし残念ながらDavid Crosbyは次作のレコーディング最中にThe Byrdsを脱退してしまいます。	1ロックン・ロール・スター 2あの娘を見なかったかい 3C.T.A.-102 4ルネッサンス・フェア 5タイム・ビトウィーン 6燃えつくせ 7思想と言語 8マインド・ガーデンス 9マイ・バック・ペイジズ 10名もない少女	

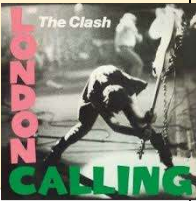
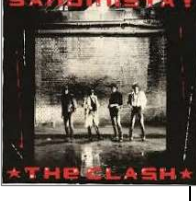
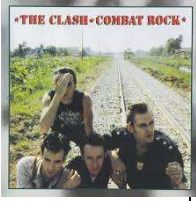
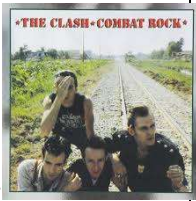
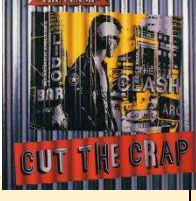
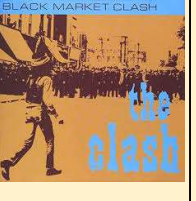
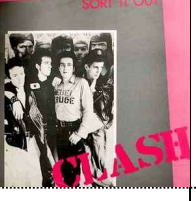
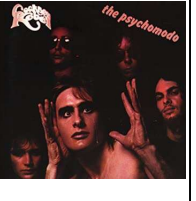
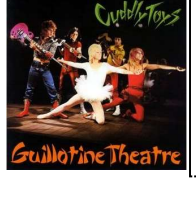
BYRDS	名うてのバード兄弟		1968	フォーク ロック	レコード	68年発表の5作目。制作途中にデヴィッド・クロズビーが脱退（CSNの結成へ）のため大半を残った3人で制作した作品。フォークやカントリーやサイケデリックやらの要素が渾然一体となったうえ個々の曲も切れ間なく続いて全体で一つの作品となっている印象。 1. は全面にプラスの入った派手なプラス・ロック。しかしながらメロディ・ラインはソフト・ロックのような雰囲気も持っており、やや微妙な仕上がりに。2. はバロック的な装飾音を加えたソフト・ロックっぽい曲。前作の延長線上のサイケっぽさも少しだけ感じるが、それも雰囲気程度のものであり、それよりも楽曲の完成度の方が耳に残る。これは名曲。3. はインディなメロディを聞かせるサイケ風味の曲。こちらもなかなかおもしろい仕上がりに。4. もサイケ風味のフォーク・ロック。中盤のSEとプラスによる間奏はほぼ前作の延長線上と言える。5. はS & Gを彷彿とさせるカントリー風味のフォーク・ロック。中盤はモロにインド風味になる。6. はソフト・ロック風の穏やかなカントリー・ワルツ。 前作のサイケ路線を整理してよりメロディアスな作風に昇華させた名作。弦やブラス、コーラスなどを駆使したソフト・ロック的なアレンジを聞かせる曲も多く、反面エキセントリックなリード・ギターが個性的なソロを聞かせるなど聴きどころは多い。全体的には穏やかな雰囲気でも統一されており、幻想的で霧が掛かったかのような音像の中を印象的なメロディが駆け抜けていく。 後にEagles等に影響を与えたカントリー・ロックのバイオニアの6作目。それまでのフォーク・ロック色からグラム・バーンソンズが新加入し、彼らの主導のもと作られた本作はカントリー・ロックというジャンルを極めたと言っていいほど、非常に完成度の高い作品に仕上がっています。耳当たりのいいアコースティック・ギターと絶妙なハーモニー、個々の楽曲も一つ一つのクオリティが高くまさに名盤。 スティール・ギターが印象的なポップ・ディランのカバー曲「ゴーイング・ノーホエア」にはじまり、パシジョーとフィドルがカントリー・ムードを高める「私は巡礼」「フリティ・ボーイ・フロイド」、こちらもスティール・ギターが美しい「ヒッコリー・ウィンド」、本作の中でも特にコーラスが心地よいグラム・バーンソンズ作の「100年後の世界」。最後もやはりポップ・ディランのカバー曲「なにも送ってこない」で、この名盤のラストを飾ります。 全体的に落ち着いた雰囲気の中で、曲自体はかなりキャッチーなものが多く、まさに時代を彩る名盤。	A面 1. 人造エネルギー 2:18 2. ゴーイング・バック 3:25 3. 自然なハーモニー 2:10 4. ドラフト・モーニング 2:42 5. ワズント・ボーン・トゥ・フロロー 2:04 6. ゲット・トゥ・ユー 2:39	B面 1. 今が転機 3:21 2. 年老いたジョン・ロバートソン 1:48 3. 部族集会 2:02 4. ドルフィンズ・スマイル 2:00 5. スペース・オデッセイ 4:02
BYRDS	ロデオの恋人		1968	フォーク ロック	レコード	後にEagles等に影響を与えたカントリー・ロックのバイオニアの6作目。それまでのフォーク・ロック色からグラム・バーンソンズが新加入し、彼らの主導のもと作られた本作はカントリー・ロックというジャンルを極めたと言っていいほど、非常に完成度の高い作品に仕上がっています。耳当たりのいいアコースティック・ギターと絶妙なハーモニー、個々の楽曲も一つ一つのクオリティが高くまさに名盤。 スティール・ギターが印象的なポップ・ディランのカバー曲「ゴーイング・ノーホエア」にはじまり、パシジョーとフィドルがカントリー・ムードを高める「私は巡礼」「フリティ・ボーイ・フロイド」、こちらもスティール・ギターが美しい「ヒッコリー・ウィンド」、本作の中でも特にコーラスが心地よいグラム・バーンソンズ作の「100年後の世界」。最後もやはりポップ・ディランのカバー曲「なにも送ってこない」で、この名盤のラストを飾ります。 全体的に落ち着いた雰囲気の中で、曲自体はかなりキャッチーなものが多く、まさに時代を彩る名盤。	1. You Ain't Goin' Nowhere 2. I Am a Pilgrim 3. The Christian Life 4. You Don't Miss Your Water 5. You're Still On My Mind 6. Pretty Boy Floyd	【B面】 1. Hickory Wind 2. One Hundred Years from Now 3. Blue Canadian Rockies 4. Life in Prison 5. Nothing Was Delivered
BYRDS	(ペーパース リーブ仕様) ロデオの恋人		1968	フォーク ロック	CD		CD以下、ボーナストラック 12レビュテーション 13けだるい日々 14かわいいいポリー 15クリスチャン・ライフ (リハーサル・テイク11) 16監獄暮らし (リハーサル・テイク11) 17思い焦がれて (リハーサル・テイク43) 18100年後の世界 (リハーサル・テイク22)	
BYRDS	(ペーパース リーブ仕様) バーズ博士とハイド氏		1969	フォーク ロック	CD	1969年発表通算7枚目のアルバム。前作「ロデオの恋人」発表後、ロジャー・マッギン以外全員脱退し、クラレンス・ホワイト、ジーン・バーンソンズ、ジョン・ヨークが加入。これはバーズの弱点でもある、それは、デビュー曲のミスター・タンプリンマンが、ロジャー以外の演奏は全てスタジオミュージシャンによるものだったと言われるように、ライブ演奏の弱さでした。その弱点を補うためにメンバーがロックバンドらしいライブができるメンバー構成となり、若くして世界したギターのクラレンス・ホワイトを含めテクニシャン揃いで、ロックバンドにナッシュビル特有の超絶テクが入った形となる。いわゆるロック的なドライブ感、この後期のユニットではじめて実現できており、そんな視点から前期と比べてみるのも面白い。 そのメンバーで作られた本作は、前作がカントリー・ロック＝7:3だったのに対し、カントリー・ロック＝3:7といった感じ。それ以上に、ブルースの割合が(クラレンス・ホワイトのペンダー・ギターのおかげで表面的にはわからなくなっているとはいえ)高くなっており、次作以降につながる流れとしては特筆すべきだと思います。といっても、次作がブルース色強いアルバムというわけじゃないですけど、いろんな要素が加わるという意味です。「ロデオ」以降、解散までカントリー・ロック路線が続きますが、一番(ライブ以外で)ロック寄りなアルバムだと思います。本作に加え、ボーナストラック『火の車』の初期ヴァージョンを始めとして興味深いものとなっている。	1. 火の車 2. オールド・ブルー 3. ユア・ジェントル・ウェイ・オブ・ラヴィング・ミー 4. チャイルド・オブ・ジュニヴァース 5. ナッシュビル・ウェスト 6. ドラッグ・ストア・トラック・ドライヴィン・マン 7. キング・アパシーIII	8. キャンディ 9. バッド・ナイト・アット・ザ・ウイズキー 10. メドレー <以下ボーナス・トラック> 11. スタンレイズ・ソング 12. レイ・レディ・レイ 13. 火の車 14. メドレー (オルタネイト・ヴァージョン - テイク1) 15. ナッシュビル・ウェスト (オルタネイト・ヴァージョン - ナッシュビル・レコーディング)
BYRDS	(ペーパース リーブ仕様) イージー・ライダー		1969	フォーク ロック	CD	1969年発表通算8枚目のアルバム。『ロデオの恋人』から本格化したカントリー・ロック路線の延長線上にある作品です。映画『イージー・ライダー』のために書かれたタイトル曲がとにかく有名な作品。その効果もあってかアルバムも全米30位のヒットを記録している。美しいギターのアルペジオにストリングスが絡む、まさに映画の挿入歌というタイトル曲はファンならずとも必聴だろう。2. では乾いたギターを活かしたバーズらしい曲の中盤にラテン・パーカッションを盛り込むなど楽しいアレンジを聞かせている。3. はジーン・バーンソンズとクラレンス・ホワイトによる伝承歌っぽい佳曲。とにかく印象的で味わい深いメロディに時折絡むコーラスが魅力だ。4. はトラッドのアレンジだが、マッギンが歌うとバーズのオリジナルのように聞こえるから不思議だ。9. はつま弾き風のエレガントなギター・アルペジオが印象的なやや洗練されたカントリー・ポップ。こちらもジーン・バーンソンズの曲だが、本作のタイトル曲に匹敵する佳曲である。本作の特徴はロジャー・マッギンの曲がタイトル曲の一曲しかないという点だろう。したがって一般にはやる気のない作品という捉え方もされてはいるし、実際にマッギン自身もそうだったのかもしれないが、それを補うかのように他のメンバーが活躍しており、全体としての不足感を感じられない。	1. イージー・ライダーのバラッド 2. ファイド 3. オイル・イン・マイ・ランプ 4. タルサ・カウンティ 5. 船乗りジャック・ター 6. ジーザス・イズ・ジャスト・オール・ライ 7. イッツ・オール・オーヴァー・ナウ、ベイビー・ブルー 8. ゼア・マスト・ビー・サムワン 9. ガンガ・ディン 10. ディボーティ 11. アームストロング・オルドリン&コリ 1. バイユーの恋人 2. 積極的に4thストリート 3. ナッシュビル西部 4. だからあなたはロックンロールスターになりたい 5. タンバリンさんの男 6. ミスター・スペースマン 7. 高さ8マイル 8. 栗の牝馬 9. トラック停止の女の子 10. 万有 11. 昨日の電車 12. 空腹の惑星 13. ただの季節 14. ささやく 15. 皆さんは皆、同じように見えます 16. さて、家に帰って来なさい	<ボーナス・トラック> 12. 太陽の彼方 13. メイ・ジーン・ゴーズ・トゥ・ハリウッド 14. オイル・イン・マイ・ランプ (オルタネイト・ヴァージョン) 15. タルサ・カウンティ (オルタネイト・ヴァージョン) 16. ファイダー・アドラム (ムーヴ・エクスプレメント) 17. イージー・ライダーのバラッド (ロング・ヴァージョン) 18. ビルド・イット・アップ (インストルル ディスク: 2 1. すべてのもの 2. 昨日の電車 3. バイユーの恋人 4. キャスリートの歌 5. 白い稲妻 Pt.2 6. ウィリン 7. あなたはどこにも行かない 8. オールドブルー 9. 大丈夫だよ(出血してるだけ) 10. イージー・ライダーのバラッド 11. マイバックページ 12. ウィフを取る(私に) 13. イエスはちょうどいいです 14. 車輪が燃えている
BYRDS	(ペーパース リーブ仕様) タイトルのない アルバム		1970	フォーク ロック	CD	70年発表の9作目。ジョン・ヨークに替わってスキップ・パッティンがベーシストになった新編成での70年初頭に収録されたライブ録音とそのメンバーで新録音されたスタジオ作を合わせて2枚組として発表された作品。バーズ初のライブ盤となった一枚目には新曲に代表曲を加えた7曲、スタジオ作の方には9曲の新曲が収録されていた。スタジオ作ではリトル・フィートの「トラック・ストップ・ガール」を取り上げているのも話題だが、マッギンがミュージカル「ジーン・トリップ」用に書いた曲4曲と新加入のパッティンが中心に書いた4曲も魅力的である。パッティン作の「WELCOM BACK HOME」ではお経の「ナンミョンホウレンゲキョウ」が登場しておもしろい。また00年の再発盤では元々2枚組だった作品を1枚に収録し、もう一枚の未発表曲集を付けた2枚組『(Untitled)/(Unissued)』として新装盤となっているので注意。こちらでは次作『バード・マニア』に収録される「キャスリンの歌」のオリジナル・バージョン他、未発表バージョン、リトル・フィートの「ウィリン」、ポップ・ディランの曲などスタジオノ・ライブ音源で14曲追加されているので、迷うことなくこちらを入手した方が良いでしょう。		
B-52'S	警告！THE B-52'S		1979	ニュー ウェイブ	レコード			
B-52'S	禁断の惑星		1980	ニュー ウェイブ	レコード			
B-52'S	メソポタミア		1982年	ニュー ウェイブ	レコード	トーキング・ヘッズのデヴィッド・バーンがプロデュースを担当。これまでのロッキン&パンクッシュな音は影を潜め、どこか冷めたシニカルなNEW WAVE DISCO、エレポップなサウンドに。シニカルな音作りながら、ホーンやパーカッション、シンセサイザーなど多彩なオーヴァー・ダビングが施され、彼らの新境地を示す作品となったが、バーンとレコード会社の意見の違いにより制作が中断され、6曲収録のミニ・アルバムとしてリリースされた。	Side A 1. ラヴランド 2. ディープ・スリープ 3. メソポタミア	Side B 1. ケーキ 2. ビート・ビート・ビート / throw that beat in the garbage can 3. 握りつぶせ / nip it in the bud
CABARET VOLTAIRE	レッド・メカ		1981	ニュー ウェイブ	レコード	キャバレー・ボルテールのサードアルバム。		
CACTUS	カクタス ファースト・アルバム		1970	ハード ロック & ヘヴィメタル	レコード	70年作デビュー作。。アメリカン・ハードの礎となった名盤！圧倒的なスピードと、火花が散る様なバンドの凄まじいバトルで押し切られ、当時のツェッペリンをもなぎ倒すかの如きの勢いが見事。HR/HM界で重鎮としての存在感を示し続けるカーマイン・アビスのドラムがとにかく凄い一言で、まさに彼のパワー・スタイルがここが基本。古典的なブルースも交えながら、正統派ブリティッシュ・ハードとしてのサウンドが展開されているのですが、どこかカラッとした印象も残るのはやはりアメリカン。炸裂するハードなリフと、後半の強烈なドラマ・ソロがあまにもカッコいい「FEEL SO GOOD」こそ、HEAVY METALの原点であると言っても過言ではないかと思う	Side A 1. パーチマン・ファーム 2. レイディ・フロム・サウス・オブ・デトロイト 3. プラザー・ビル 4. ユー・キャン・ジャッジ・ア・ブック・バイ・ザ・カヴァー	Side B 1. レット・ミー・スウィム 2. ノー・ニード・トゥ・ウォーリー 3. オウリオウ 4. フィール・ソー・グッド
CACTUS	セカンドアルバム		1971	ハード ロック & ヘヴィメタル	レコード	オリジナルは71年作、アメリカン・ハード史において地味ながらも重鎮として伝説的な名を残したカクタスのセカンド・アルバムです。ヴァニラ・ファッジのティム・ボガートとカーマイン・アビス、そしてデトロイト・ロック・シーンのアンボイ・デュークスのラスティ・ディ、ミッチ・ライダー & デトロイト・ホイールズのジム・マッカーティという、当時の凄腕達の集団だった彼等は、ポップ・シーンでのヒットこそなかったものの、多くのリスpektを受けていました。特に強力なリズム隊はジョン・ポーナムにも影響を与えていたと言われています。 恐ろしく緊張感の漂うバンド・サウンドと、幅広い音楽性から生まれる独特のうねりは、後の70年代ハード・ロックの流れを完全に先導していたと思われる。商業的成功こそなかったものの、ツェッペリンにさえ勝る荒々しさ、男臭さは今聴いても十分説得力があると思います。オープニングからロック・クラシック、「のっぽのサリー」のメタル・ヴァージョンが聴けますが、彼等の本領発揮と言える部分は、ブルース、サイケ、カントリーを強烈なバネで破壊していく様なオリジナル・ナンバーにあったと思います。 カクタスの71年作のサード・アルバム。オリジナル・メンバーでの最終作となり、バンドのピークを象徴する1枚となりました。元々はジェフ・ベックがヴァニラ・ファッジのカーマイン・アビスとティム・ボガートの最強リズム隊に注目し、ヴォーカルにロッド・スチュワートを加えたスーパー・グループ結成を画策しますが、ベックの事故により流れてしまいます。残されたアビス・ボガード組は、デトロイト・ロック・シーンで活躍していたジム・マッカーティとラスティ・ディと共にカクタスを結成、イギリスのツェッペリンに対抗しうるテクニカルかつ迫力なバンドとして以降のハード・ロック・シーンに大きな影響を残します。本作でも凄まじいインスト・バトルと、バラエティに富んだナンバーが、これぞハード・ロックとばかりに展開されています。惜しむらくは大衆に媚びる愛想が足りなかった点でしょうか、シングル向けのキャッチーさがあればもっと大ヒットしていたかもしれません。逆に言えば男らしく固太いサウンドに徹した事により、バンドは伝説化するわけですが、意外とも思える幅広い音楽性も見られます。このバンドがこのままこの路線で続ければ、キッスやエアロスミス、更にはヴァン・ヘイレンをも連ねるアメリカン・ハードの大ボスの存在になっていたと思うのですが、本作には十分その可能性が秘められている気がします。	Side A 1. のっぽのサリー 2. ロックアウト 3. ロックン・ロール・チルドレン 4. ビッグ・ママ・ブギーパート1&2	Side B 1. フィール・ソー・バッド 2. エアリーズの歌 3. ホームタウン・バスト 4. ワン・ウェイ・オブ・アナザー
CACTUS	リストラクションズ		1971	ハード ロック & ヘヴィメタル	レコード		Side A 1. リストラクションズ 2. トーケン・チョーキン 3. ギルトレス・グライダー 4. イーヴル	Side B 1. アラスカ 2. スウィート・シックスティーン 3. バッグ・ドラッグ 4. クリーヴランドの夜

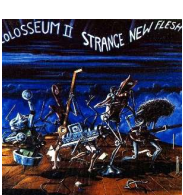
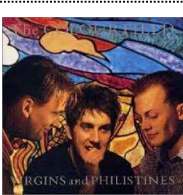
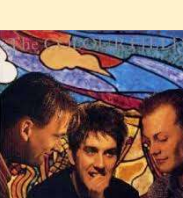
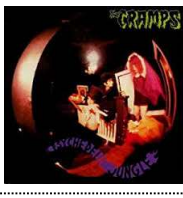
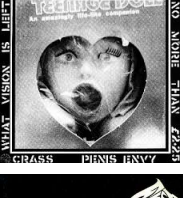
	CACTUS	汗と熱気(カクタス・ライブ)		1972	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	72年作、カクタスの通算4作目、オリジナル・カクタスとしては最後のアルバム。A面3曲がライブ、B面5曲がスタジオ新曲という内容。結果的にはこのバンドのストロングでパワフルな個性を剥き出し、これぞアメリカン・ハードと言うべき傑作になった。本作から大きなメンバー・チェンジがあり、ラスティ・ディ、ジム・マッカーティーが脱退、代わりに元ATOMIC ROOSTERのヴォーカリスト、ピーター・フレンチ、キーボードのデュアン・ヒッチングス、ギターのワナー・フレッチングスが加わり、5人編成となる。ヴォーカリストはロッド・スチュワートっぽい激激、ワイルド。尚、カクタスは本作を最後に解散(2006年には主要メンバーを中心に再結成)、当初から予定されていたジェフ・ベックとのバンド結成が実現され、BECK、GERT&APPICEが本作から1年後に唯一のアルバムをリリースする事になりますが、フレンチとヒッチングスは作曲面、ゲスト・プレイヤーとして参加をしています。そうした経緯を考えると、この当時のカクタスのメンバーの力量は最高峰とも思われ、曲の充実度にもそれは現れています。ライブでは過去に発表した曲を改変してプレイされているのですが、ロックンロール、プギの気持ち良さをハード・ロックとして豪快に呑み込んでしまうバンドのパワーに圧倒される事必至です。スタジオ・テイクも最後のお遊び的ナンバーを除けば、ヘヴィ・ブルース、パワー・バラード、ファンキーでポップなハード・ロックとバラエティに富んだ内容となっています。騒りや堅苦しさとは一切無縁、カラッカラの爽快ハード・ロック大会の醍醐味が満喫できる名盤です。	Side A 1. スム 2. バッド・マザー・プギー 3. オレたちのロックン・ロール 4. バッド・スタッフ	Side B 1. 墮落させないで 2. ベッドルーム・マズルカ 3. 教えてあげる 4. アーチの下で
	CACTUS	汗と熱気(カクタス・ライブ)		1972	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード			
	Captain & Tennille	愛ある限り		1975年	ポップス	レコード	70年代ポップ・ミュージックを代表するおしどり夫婦デュオ、キャプテン&テニールの初アルバム。ニールセダカの「愛ある限り」をカバーし、全米ナンバー・ワンにして75年の年間シングル1位、そしてグラミー最優秀レコード賞に輝いた表題曲を筆頭に、トップ10ヒット「君こそすべて(The Way I Want Touch You)」も収録。もともとキャプテン(ダリル・ドラゴン)はピーチボーイズのメンバー(キーボード奏者であり、テニールは彼の後釜として入り、二人でデュオを結成)として活動していたこともあり「デズニー・ガール」、「恋に夢中(Cuddle Up)」、「ゴッド・オンリー・ノウズ」と3曲のピーチボーイズのカバー曲を収録。またバニー・マニロウが後に大ヒットさせた「歌の贈り物(アイ・ライト・ソングス)」も実はこのアルバムが初出。そういう点で曲に恵まれており、いい感じのポップアルバムになっている。	Side A 1. 愛ある限り 2. デズニー・ガール 3. 君こそすべて 4. 恋に夢中 5. グッド・ソングス	Side B 1. ゴッド・オンリー・ノウズ 2. ふたりだけの夜 3. フィール・ライク・ア・マン 4. プロディ・バウンズ 5. とぎめく心 6. 歌の贈り物(アイ・ライト・ソングス)
	CARAVAN	(ペーパー・スリブ仕様) キャラバン登場		1970	プログレ	CD	70年発表の2nd。のっけからほのぼのした歌声が聞こえてきて、デイヴによるあの歪ませたオルガンのソロが出てくると「やっぱりキャラバンはこうだよな」となってしまう。前作は多分に青臭く、彼ららしさが出ていなかったが、本作ではすでに彼ららしさが全開になっており、次作以降の作品と何ら遜色のない仕上がりになっている。2.にしても牧歌的な緩い雰囲気が漂っていてメロディの美しさと相成ってこのアルバムを印象的にしている。演奏も楽曲も前作より格段に良くなっているが、それよりも大きいのは全体から感じられるサウンドの変化。この2ndでやっとかンタベリー・サウンドになったと言っても良いだろう。プロデューサーやエンジニアなどの裏方の力も大きいのだろうが、彼らなりの方向性がこの作品で明確になったのかもしれない。また長らくカンタベリー・サウンドの一つの顔になる歪ませたオルガンのソロは本作が初出であり、後のハットフィールドズのデイヴ・スチュワートもデイヴ・シンクレアに影響を受けたと語っていることから、この作品はカンタベリー・サウンドの原点として重要な作品とも言えるだろう。中盤以降のデイヴのオルガン・ソロは鬼気迫るものがあり、オルガン・ソロを満喫したいのであれば、この作品が最も楽しめる。	1. 手遅れの愛 2. アンド・アイ・ウィッシュ・アイ・フー・ストロンド ドント・ウォーリー 3. アズ・アイ・フィール・アイ・ダイ 4. 聞く耳を持って マーティン・アン オンリー・コックス リプライズ 5. ハロー・ハロー 6. アスフォルテリ 7. キャント・ビー・ロング・ナウ フランソワーズ リチャードのために ウォーロック 8. リミッツ	以下、CDボーナスストラック 9. ア・ディ・イン・ザ・ライフ・オブ・モーリス・ヘイレット 10. ホワイ 11. クリッピング・ザ・エイズ 12. アズ・アイ・フィール・アイ・ダイ
	CARAVAN	(ペーパー・スリブ仕様) グレイとピンクの地		1971	プログレ	CD	71年発表の3rd。このアルバムは、これぞカンタベリー・サウンド！と唸らずにはいられない名作。ハットフィールドズにしてもそうだが、リチャードが歌っているだけでもう名作だと思う。決してうまい歌手ではないが、この声だけで納得してしまう プロフの犬状態の私にはうまい下手などどうでも良い。この声だけで全てO. K. この作品はそのリチャードを含めてカンタベリー・サウンドに無くてはならない人物が揃っている。キャラバンを以降もずっと支え続けるカンタベリーの一つの柱のようなパイ・ヘイスティング(d)、カンタベリー・サウンドの特徴の一つであるファズで歪ませたオルガンの創始者、デイヴ・シンクレア(k)、カンタベリー系の作品には引っ張りだことなるジミー・ヘイスティング(f、sax、pic)と地味に凄い。このグループの作品の中では最も親しみやすく、曲の粒が揃っており、ポップスともジャズ・ロックとも言えない微妙なラインを持っているのが本作の魅力。これ以降、変にジャズ・ロックに走ったり、普通のポップスに走ったりしていくのも彼らの魅力ではあるが、この作品ほどの人を引き付ける魅力を持った作品は少ない。聞くたびに暖かく迎えてくれるかのような安堵感を与えてくれる作品だと思う。5. の大作は彼らの代表曲。カンタベリー系ジャズ・ロックの魅力にはまった人必見の傑作。このアルバムは、これぞカンタベリー・サウンド！と唸らずにはいられない名作。ハットフィールドズにしてもそうだが、リチャードが歌っているだけでもう名作だと思う。決してうまい歌手ではないが、この声だけで納得してしまう プロフの犬状態の私にはうまい下手などどうでも良い。この声だけで全てO. K. この作品はそのリチャードを含めてカンタベリー・サウンドに無くてはならない人物が揃っている。キャラバンを以降もずっと支え続けるカンタベリーの一つの柱のようなパイ・ヘイスティング(d)、カンタベリー・サウンドの特徴の一つであるファズで歪ませたオルガンの創始者、デイヴ・シンクレア(k)、カンタベリー系の作品には引っ張りだことなるジミー・ヘイスティング(f、sax、pic)と地味に凄い。このグループの作品の中では最も親しみやすく、曲の粒が揃っており、ポップスともジャズ・ロックとも言えない微妙なラインを持っているのが本作の魅力。これ以降、変にジャズ・ロックに走ったり、普通のポップスに走ったりしていくのも彼らの魅力ではあるが、この作品ほどの人を引き付ける魅力を持った作品は少ない。聞くたびに暖かく迎えてくれるかのような安堵感を与えてくれる作品だと思う。5. の大作は彼らの代表曲。カンタベリー系ジャズ・ロックの魅力にはまった人必見の傑作。	1. ゴルフ・ガール 2. ウィンター・ワイン 3. ラヴ・トゥ・ラヴ・ユー 4. グレイとピンクの地 5. 9フィートのアンダーグラウンド	以下、CDボーナスストラック 6. アイドント・ノウ・イツ・ネーム 7. 貴族 8. イッツ・ライクリー・トゥ・ハヴ・ネーム・ネクスト・ウィーク 9. グループ・ガール 10. 分離<ボーナス・トラック> 100%ブルーフ
	CARLY SIMON	アンティシペイション		1971	ポップス	レコード	CAROLE KING、JONI MITCHELLと並び70年代アメリカン・ロックを代表する女性SSW、CARLY SIMON、デビューシングル“幸福のノクターン”の大ヒットを受けて同年にリリースされた早くも2ND、元YARDBIRDSのベーシストPAUL SAMWELL-SMITHのプロデュースで伸びのある瑞々しいヴォーカルを聴かせる名品。シンプルでリッチなフォーキーアコースティックな楽曲が並び、当時恋の噂のあったCAT STEVENSにインスパイアされたという“LEGEND IN YOUR OWN TIME (悲しい伝説)”やボサノバ・アレンジの“SUMMER'S COMING AROUND AGAIN”等、自身の可憐な持ち味を生かしたソングライティングの才能もさらにあふれ出た一枚。こちらもロマンスを感じるKRIS KRISTOFFERSONカヴァー“I'VE GOT TO HAVE YOU”収録。		
	CARLY SIMON	ノー・シークレッツ		1972	ポップス	レコード	初のチャート1位を獲得した出世作にして豪華ゲスト参加作。MICK JAGGERがコーラスを添えるスマッシュヒット“YOU'RE SO VAIN (うつろな愛)”をはじめ、LINDA & PAUL MCCARTNEY参加の“NIGHT OWL”など、もちろん当時の恋人“夫JAMES TAYLORまで参加のなんとも豪華な一枚。ゲスト陣に負けないCARLYのソフトなヴォーカルと70'S SSWを体現するソングライティングもたまりません。ポップ、ジャズ、フォーク、ブルースが入り混じる傑作。全米No.1ヒットとなった名曲「うつろな愛」を収録。リチャード・ベリーをプロデューサーに迎え、シンプルでエレガントなポップ・ロックに仕上げられた大ベスト・セラー・アルバム。 《1972年作品》		
	CAROLE KING	つづれおり		1971	ポップス	レコード	1971年2月10日に発表。キャロル・キングの2枚目のソロ・アルバム。ロックの時代において神髄の作品であるという地位を得た。プロデュースはルー・アドラー。全米15週連続1位を獲得し、その後約6年(306週)に亘りチャートに登場。4つのグラミー賞(最優秀アルバム賞、最優秀女性ポップ・ヴォーカル、最優秀レコード賞「イッツ・トゥー・レイト」、最優秀楽曲賞「君の友だち」)も獲得。全ての曲を単独または共同で制作し、一部の曲は既に他のアーティストによってヒットしていた。アレサ・フランクリンの「ナチュラル・ウーマン」とジュレルズの「ウィル・ユー・ラヴ・ミー・トゥモロー」が挙げられる。収録曲のうち3曲は、彼女の元夫であるジェリー・ゴフンと共同で制作。このアルバムに参加したデュームス・テイラーは、「君の友だち」をカバーし、全米1位の大ヒットを記録した。 『ローリング・ストーン誌が選ぶオールタイム・ベストアルバム500』(2020年版)で、25位にランクイン。2002年にVH1は『つづれおり』をベストアルバムの39位に選ぶ。2003年、このアルバムはアメリカ議会図書館の全米録音資料登録簿(National Recording Registry)に選ばれた50の作品の1つになった。	Side A 空が落ちてくる - “I Feel the Earth Move” - 2:58 遠くゆく恋人 - “So Far Away” - 3:55 イッツ・トゥー・レイト - “It's Too Late” (作詞はToni Stern) - 3:53 ホーム・アゲイン - “Home Again” - 2:29 ビューティフル - “Beautiful” - 3:08 幸福な人生 - “Way Over Yonder” - 3:41	Side B 君の友だち - “You've Got a Friend” - 5:09 地の果てまでも - “Where You Lead” (作詞はStern) - 3:20 ウィル・ユー・ラヴ・ミー・トゥモロー - “Will You Love Me Tomorrow?” (Gerry Goffin, King) - 4:12 スマックウォーター・ジャック - “Smackwater Jack” (Goffin, King) - 3:41
	CAROLE KING	つづれおり		1971	ポップス	CD		CD以下、ボーナスストラック 13. アウト・イン・ザ・コールド (未発表曲) 14. スマックウォーター・ジャック (未発表ライブ)	
	CAROLE KING	ファンタジー		1973年6月	ポップス	レコード	キャロル・キングと当時は「つづれおり」と言われていた、その後の2ndアルバム「ファンタジー」の最高傑作アルバムとして彼女の代表作になっているが、自分としては彼女の最高傑作アルバムはこの「ファンタジー」だ！ メリサ・マンチェスターの「DON'T CRY OUT LOUD」と並び、白人女性アーティストのニューソウル路線アルバムとして、自分の70年代名盤となっている。70年代のニューソウルを代表するアーティストのダニー・ハザウェイとリオン・ウェアーの二人が、この二つのアルバムに大いに影響を与えている事は言うまでもない！ キャロルの「ファンタジー」はダニー・ハザウェイから大いに影響を受けていた時期に発表したアルバムだったし、メリサのアルバムの方はリオンがプロデュースしたアルバムだった。アルバム「ファンタジー」は、当時のキャロルの夫であったチャールズ・ラーキーのウッドベースとキャロルのピアノで始まる1曲目のジャズっぽいサウンドに、ハーヴェイ・メインソンのドラムと、これぞ！ デヴィッド・T！ と言う、デヴィッド・T・ウォーカーのギター、そして女性パーカッションリストのボビー・ホルのパーカッションが絡んで来てソウルフルな展開になって行く中で、このアルバムにどんどん引きずり込まれて行く！ サウンドはソウルフルな洗練されたものなのだが、詞の内容は人間性をテーマにしたアルバムだけあって、人種問題や戦争、愛を取り上げたシリアスな作品ばかりであった。アルバム「ファンタジー」は全ての楽曲、アレンジ、そしてバック・ミュージシャンの演奏、どれをとってもみなとても素晴らしく、キャロルの声も活き活きしていた。トム・スコット、アーニー・ワッツ、チャック・フィンリー等のホーン・セクション陣のホーン・アレンジとストリングス・アレンジもキャロル自らしているが、トータル・アルバムとして、この「ファンタジー」はキャロルの最高傑作である。このアルバムは、彼女が70年代の名盤である。このアルバムは、彼女が70年代の名盤である。このアルバムは、彼女が70年代の名盤である。	Side A 1. ファンタジー・ビギニング - 1:03 2. 道 - You've Been Around Too Long - 3:42 3. 愛 - Being at War With Each Other - 3:27 4. テレクションズ - 3:29 5. 愛の日々をもう一度 - That's How Things Go Down - 3:01 6. ウィークデイズ - 2:45	Side B 1. ヘイウッド 4:47 2. クワイエット・プレイス・トゥ・リヴ - 1:56 3. 悲しみのシンフォニー - 3:47 4. ユー・ライト・アップ・マイ・ライフ - 3:14 5. コラソン - 4:06 6. ビリーヴ・イン・ヒューマニティ - 3:19 7. ファンタジー・エンド - 1:25
	CAROLYN MAS	ニューヨーク・ギャル		1979	ロック	レコード	キャロライン・マスのデビュー・アルバム。そこからのシングルカット「スティル・セイン」がスマッシュヒットする。1979年9月8日全米チャート最高位71位。この曲調がもろブルース・スプリングスティーンで最高に力いた曲で、そこから女性ブルース・スプリングスティーンと言われるようになったと思われる。アルバムもいくつかブルース・スプリングスティーンのサウンドを思わせる曲があり、こうした音作りが、キャロラインのタフではつつとたノリのヴォーカルに実にフィットして気持ちが良い。また、2曲目の「セイディー・セズ」は、60年代前半のフィル・スペクターのサウンドの影響も伺え、表情豊かな彼女のヴォーカルに充分な可能性が見える。詩情のじむ佳曲には、キャロラインのソングライターとしての才能が発揮されている。	A面 1. スティル・セイン Stillsane 2:47 2. セイディー・セズ Sadie Says 3:06 3. スノウ Snow 5:00 4. イッツ・ノー・シークレット It's No Secret 3:24 5. コール・ミー Call Me 5:07	B面 1. グッバイ・クオート Quote Goodbye Quote 2:28 2. ウイズアウト・スリー Never Two Without Three 3:58 3. ドゥ・ユー・ビリーヴ Do You Believe I Love You 3:07 4. 暗闇に座って Sittin' In The Dark 4:38 5. ベイビー・プリーズ Baby Please 5:24
	CARPENTE RS	ナウ・アンド・ゼン(今、そしてあのころ)		1973	ポップス	レコード	5枚目のアルバム。『Now & Then』は、アメリカ、イギリス、カナダ、オランダのチャートでいずれも最高2位まで到達。アメリカでは200万枚、日本でも50万枚を売り上げた。こうしてカーペンターズは、「現在と過去のポップスを両方巧みにこなせるデュオ」という評価を不動のものにした。アルバム『Now & Then』はA面が「Now(現在)」、B面が「Then(過去)」という構成になっており、B面にはカーペンターズが若いころに聴いていたポップスやカントリーの懐かししのヒット曲のカヴァーが次々に演奏され、B面の1曲目は新曲が「Yesterday Once More」と、B面の冒頭にビッタリの内容だった。一方「Now」のA面は「Sing」で幕を開ける。これはテレビ番組「Sesame Street」の曲で音楽担当であったジョー・ラボノが作った曲。シングルでは「Yesterday Once More」が全米2位、全英2位、日本でも5位となるヒット曲。		
	CARPENTE RS	カーペンターズ		1973	ポップス	レコード	カーペンターズのベスト盤。	Side A: 1) Yesterday Once More 2) Top Of The World 3) Mr. Guder 4) A Song For You 5) Help! 6) Ticket To Ride Side B: 1) Superstar 2) Jambalaya (On The Bayou) 3) For All Me Know 4) Hideaway 5) I'll Never Fall In Love Again 6) Another Song	Side C: 1) Sing 2) Eve 3) Hurting Each Other 4) Crescent Noon 5) Bless The Beasts And Children 6) Rainy Days And Mondays Side D: 1) (They Long To Be) Close To You 2) One Love 3) It's Going To Take Some Time 4) Someday 5) Bacharach / David Medley 6) We've Only Just Begun

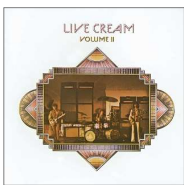
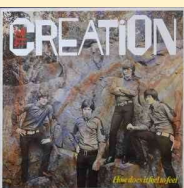
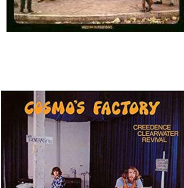
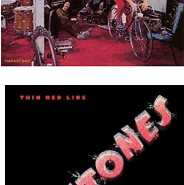
CARPENTE RS	青春の輝き〜 ベスト・オブ・ カーペンターズ		1995	ポップス	CD	1995年に放送された日本のテレビドラマ『未成年』で「青春の輝き」「トップ・オブ・ザ・ワールド」 [2] が起用され劇中でもカーペンターズの楽曲が使用されるなどしたため注目を集めた。オリコ ン集計で累計200万枚を突破した。 収録曲が、遙かなる影全米1位・全英6位、スーパースター全米2位、シング全米3位、イェスタ デイ・ワンス・モア全米2位・全英2位、愛のプリリュード全米2位、オンリー・イェスタデイ全米4 位、ふたりの誓い全米3位、雨の日と月曜日は全米2位、愛にさよならを全米7位・全英9位、小 さな愛の願い全米12位、青春の輝き25位、トップ・オブ・ザ・ワールド等、永遠のヒット曲がズラ リと並んだカーペンターズのベスト盤で功績が素晴らしい。	1青春の輝き 2愛のプリリュード 3スーパースター 4雨の日と月曜日は 5トップ・オブ・ザ・ワールド 6シング 7オンリー・イェスタデイ 8涙の乗車券 9愛にさよならを 10小さな愛の願い 11マスカレード	12スウィート・スマイル 13愛は夢の中に 14リリテア 15フリーズ・ミスター・ポストマン 16ハーディング・イーチ・アザー 17見つめあう恋 18ジャンバラヤ 19ふたりの誓い 20タッチ・ミー 21遙かなる影 22イェスタデイ・ワンス・モア
CAPTAIN BEEFHART	トラウト・マスク・ レプリカ		1969	プログレ	レコ ード	キャプテン・ビーフハート&マジック・バンドの3rdアルバムにして、世界の前衛ロック屈指の名盤 とされる2枚組。 上手い下手を超えて気紛れに鳴り続けるような演奏が、実際はすべてビーフハートが作曲した フレーズを書き起こした譜面を基に、過酷なりハーサルを重ねたうえでたった2日間で全曲レ コーディングされたアルバム。	1 フロウンランド 2 ザ・ダスト・ブロウズ・フォワード・ア ンド・ザ・ダスト・ブロウズ・バック 3 ダッハウ・ブルース 4 エラ・グールー 5 ヘア・バイ・ベイク1 6 ムーンライト・オン・ヴァーモント 7 パチューン・カデイヴァー 8 ビルズ・コープス 9 スウィート・スウィート・パプルス 10 ネオン・ミート・ドリーム・オブ・ア ・オブ・ア・オクタフィッシュ 11 チャイナ・ビッグ 12 マイ・ヒューマン・ゲッツ・ミー・ブ ルース 13 ダリズ・カー 14 ハア・バイ・ベイク2	15 ベイナ 16 ウェル 17 ホウエン・ビッグ・ジョーン・セッ ツ・アップ 18 フォーリン・ディッチ 19 シュガー・アンド・スパイクス 20 アント・マン・ビー 21 オレンジ・クロウ・ハンマー 22 ワイルド・ライフ 23 シーズ・トゥー・マッチ・フォー・マ イ・ミラー 24 ホー・ボー・チャング・バ 25 プリンプ(マウストラレプリカ) 26 スティール・ソフトリー・スルー・ス ノウ 27 オールド・ファート・アット・ブレイ 28 ガン・ホース・オブ・ザ・パ
CAPTAIN BEYOND	キャプテン・ビヨ ンド		1972	ハード ロック& ヘヴィメ タル	レコ ード	72年作、サイード・マフ・ア・レ・カ・リ・ツ・ナ・レ・メ・ン・バーであるロッド・エヴァンズが中心に結成され たキャプテン・ビヨンドのファースト・アルバムです。エヴァンス、元アイアン・バタフライのメン バー、ラリー・リノ・ラインハルト(最近計報が報じられました)とリードルマン、更にジョニー・ウ インターとの活動で有名なボビー・コールドウェル(アメリカのAORシンガーとは同姓同名の別 人です)という構成により、スーパー・グループという側面もあったバンドです。パープルの初代 ヴォーカリストとしては、かなり知名度、評価が低いと思われますが、このロッド・エヴァンスとい う人は80年代に偽ディー・パープルでの興行で裁判沙汰になり、胡散臭さにまみれてしまっ たのが大きかったと思います。ただ実力的にはかなり注目する点が多く、ソング・ライティング・ センスに加え、ソフトながらソウルフルな声質、個性は強くないですが幅広いメロディを歌いにな す器用さは、ユニークなハード・ロック・バンドには最適に人材であったと思われます。パープル よりはツェペリンのアプローチが強い中、ジャズ、プログレにも通じる複雑な構成も見せ、かな りグルーヴ感があるサウンドは、当時のプリティッシュ・ハード勢の中でも最先端の音であつた と思われる。時折垣間見える、まるで初期エアロスミスを思わせるかの様なりフ、サバスをス ベ	Side A 1. グッド・タイムズ・ロール - "Good Times Roll" - 3:44 2. ベスト・フレンズ・ガール - "My Best Friend's Girl" - 3:44 3. 燃える欲望 - "Just What I Needed" - 3:44 4. 狂気のふれあい - "I'm In Touch With Your World" - 3:31 5. ドント・チャ・ストップ - "Don't Stop Me From Loving You"	Side B 1. 今夜は逃がさない - "You're All I've Got Tonight" - 4:13 2. バイ・バイ・ラブ - "Bye Bye Love" - 4:14 3. ムービング・イン・ステレオ - "Moving In Stereo" - 4:41(グレッ グ・ホークス、オケイセック) 4. オール・ミックス・アップ - "All Mixed Up" - 4:14
CARS	錯乱のドライブ		1978年5 月	ニュー ウェイブ	レコ ード	カーズのデビュー・アルバム。(全米18位)グラミー新人賞ノミネート作品。78年のデビュー・ア ルバムが絶賛され、それ以降も次々にアルバムを大ヒットさせた'80年代アメリカを代表するバ ンドとなったカーズ。シングル「燃える欲望」(全米27位)「ベスト・フレンズ・ガール」(同35位) 「グッド・タイムズ・ロール」(同41位)がヒット。リック・オケイセックのボケたボーカル、グレッ グ・ホークスの浮遊感あるキーボード、デヴィッド・ロビンソンの素人ばいドラム、逆に鋭いエリ オット・イーストンのギター。しかし何よりベンジャミン・オールの瑞々しいボーカルをフィー チャーした「燃える欲望」「バイバイ・ラウ」「オール・ミクスドアップ」が素晴らしい。	Side A 1. レッツ・ゴー - "Let's Go" - 3:33 2. いつまでも恋人 - "Since I Held You" - 3:16 3. オール・アイ・キャン・ドウ - "It's All I Can Do" - 3:44 4. ダブル・ライフ - "Double Life" - 4:14 5. シュー・ビー・ドウ - "Shoo Be Doo" - 1:36	Side B 1. キャンディ・オーに捧ぐ - "Candy-O" - 2:36 2. ナイトスポット - "Nightspots" - 3:15 3. 燃えつきた恋 - "You Can't Hold On Too Long" - 2:46 4. ラスト・フォー・キックス - "Lust For Kicks" - 3:52 5. ガット・ア・ロット・オン・マイ・ヘッ ド - "Got A Lot On My Head" - 2:59 6. 危険がいっぱい - "Dangerous Type" - 4:28
CARS	錯乱のドライブ		1978年5 月	ニュー ウェイブ	CD			
CARS	キャンディー・ オーに捧ぐ		1979年6 月13日	ニュー ウェイブ	レコ ード	カーズのセカンド・アルバム。シャープ・アンド・ザ・サイザーはアメリカのバンドで、1978年に「全米3 位。前作同様にロイ・トーマス・ペイカーがプロデュースを担当した作品。全体的には同時期の ローラースに近いパワー・ポップを聞かせているが、とにかくシンセで奏でられるワグがキャク チーで素晴らしい。シンブルなバンド・サウンドをニュー・ウェイブ経由のシャープな演奏で組み立 て、ポイントとしてシンセサイザーを導入しているかのような感じであり、いわゆるテクニ的な雰 囲気は皆無である。ディーヴォなども彼らと同様のサウンドを発信していたが、カーズの場合は 音楽的な成熟度が高く、楽曲が安定しているため刺激はやや少ないものの完成度については 雲泥の差があると言わざるを得ない。シンセサイザーの音色は今となっては古臭い印象を受け てかえって新鮮に聞こえると思う。センスそのものは現代の耳で聞いてもかなり良いと思う。パ プ・ロックのルーマーも一時期に近いサウンドを目指していたように思うが、彼らには土臭さが 付きまといカーズのような洗練された雰囲気は違かった。パワー・ポップのファンならお薦め。シ ングル「レッツ・ゴー」(全米14位)「オール・アイ・キャン・ドウ」(同41位)ハイライは「ダブル ライフ」〜「シュビ・ドゥー」〜「キャンディー・オー」の流れ淡々とした曲とハードな曲の間を、実験 的なメロディで見事に繋いでいる。サビに入るギターがホリーズのパスストップを思わせるい つまでも恋人」や「レッツ・ゴー」の次にシングルカットしていればヒットしただらう「ナイトスポッ ト」が、1980年に発売した3rdアルバム。前作のポップ路線よりも、大きく実験的要素を容 んだ近作は賛否両論を巻き起こした問題作でもある。一般的に知られたヒット曲が「Touch And Go」のみということもあり、やや地味な印象を与える一軸だが、このバンドの歴史においてはは かなり重要な位置を占める作品。デビュー後立て続けにヒット・アルバムを出し、米国を代表する 「ニュー・ウェイヴ・バンド」となった彼等が、あえてメジャー・レーベルのアーティストとして許され るギリギリの範囲まで実験的なサウンド作りを試みた意欲作。確かに一度聴いただけではその 良さは分からないかもしれないが、「Gimme Some Slack」や「Down Boys」のクールなライヴ 感、「Misfit Kid」の歌詞に描かれる虚無的な世界観、そしてリックが敬愛するVUの歌詞を引用し た「隠れた名曲」You Wear Those Eyes」で聴けるベンとリックの掛け合いウォーカル等々、彼 等の魅力があらに溢れていて、決してあなどれないアルバムに仕上がっている。キーボ ードのグレッグが活躍しているのはモチロン、特筆すべきはエリオットのいぶし銀のようなギ ター・ワーク、デヴィッドによるシャープな切れ味のドラミングも気持ち良い。リック自身が描い たサウンドのヴィジョンに加え、プロデューサーのロイ・トーマス・ペイカーが果たした役割も大き い。このアルバムがそれど売れなかった結果、バンドは軌道修正を迫られ、次作以降はより ポップな路線を進むことになる。	Side A 1. パノラマ - "Panorama" - 5:42 2. タッチ・アンド・ゴー - "Touch And Go" - 4:55 3. キミ・サム・スラック - "Gimme Some Slack" - 3:32 4. ドント・テル・ミー・ノー - "Don't Tell Me No" - 4:00 5. ゲッティング・スルー - "Getting Through" - 2:35	Side B 1. ミスフィット・キッド - "Misfit Kid" - 4:30 2. ダウン・ボーイズ - "Down Boys" - 3:09 3. ユー・ウェア・ゾーズ・アイズ - "You Wear Those Eyes" - 4:55(オ ケイセック/グレッグ・ホークス) 4. ランニング・トゥ・ユー - "Running To You" - 3:22 5. アップ・アンド・ダウン - "Up And Down" - 3:31
CARS	パノラマ		1980年8 月15日	ニュー ウェイブ	レコ ード	カーズの3rdアルバム。前作のポップ路線よりも、大きく実験的要素を容 んだ近作は賛否両論を巻き起こした問題作でもある。一般的に知られたヒット曲が「Touch And Go」のみということもあり、やや地味な印象を与える一軸だが、このバンドの歴史においてはは かなり重要な位置を占める作品。デビュー後立て続けにヒット・アルバムを出し、米国を代表する 「ニュー・ウェイヴ・バンド」となった彼等が、あえてメジャー・レーベルのアーティストとして許され るギリギリの範囲まで実験的なサウンド作りを試みた意欲作。確かに一度聴いただけではその 良さは分からないかもしれないが、「Gimme Some Slack」や「Down Boys」のクールなライヴ 感、「Misfit Kid」の歌詞に描かれる虚無的な世界観、そしてリックが敬愛するVUの歌詞を引用し た「隠れた名曲」You Wear Those Eyes」で聴けるベンとリックの掛け合いウォーカル等々、彼 等の魅力があらに溢れていて、決してあなどれないアルバムに仕上がっている。キーボ ードのグレッグが活躍しているのはモチロン、特筆すべきはエリオットのいぶし銀のようなギ ター・ワーク、デヴィッドによるシャープな切れ味のドラミングも気持ち良い。リック自身が描い たサウンドのヴィジョンに加え、プロデューサーのロイ・トーマス・ペイカーが果たした役割も大き い。このアルバムがそれど売れなかった結果、バンドは軌道修正を迫られ、次作以降はより ポップな路線を進むことになる。	Side A 1. シンス・ユーアー・ゴーン - Since You're Gone (3:30) 2. シェイク・イット・アップ - Shake It Up (3:32) 3. アイム・ノット・ザ・ワン - I'm Not The One (4:12) 4. ビクテム・オブ・ラブ - Victim Of Love (4:24)	Side B 1. クルザー - Cruiser (4:54) 2. ドリーム・アウェイ - A Dream Away (5:44) 3. ジス・クッド・ビー・ラブ - This Could Be Love (4:26)(オケイセック ノグレッグ・ホークス) 4. シンク・イット・オーバー - Think It Over (4:56) 5. メイビー・ベイビー - Maybe Baby (5:04)
CARS	シェイク・イット・ アップ		1981年11 月	ニュー ウェイブ	レコ ード	カーズの4thアルバム。シャープ・アンド・ザ・サイザーの導入などにより、前作よりポップ な曲調が目立つ。シングル「Shake It Up」もオリコン・チャートで4位にランクインしている。前作 での冒險を経て、再度ポップ路線へと大きく振り戻した作風が非常に印象的だす。ただし、 キャクチーではありつつも、それなりにロックンな部分をも大いに内包していた初期2作品とは 異なり、ここのカーズは更にリズムミッドに、そしてダンスブルな方向性に舵を切ってきていま す。 シャープ&エッジな側面は大きく減退し、そのサウンド・スタイルはよりディスコ・ミュージックの 影響を取り入れたものになったと言っていていいでしょう。こうしたスタルというのは、当時の ニューウェイヴ系のアーティストたちにとっては、完全に時代のスタンダードとも呼ぶべき定番 路線であり、これをやらない限り音楽シーンでの成功はあり得ないとも言っても過言ではないのも でありました。ダンス/ディスコ・ミュージックとニューウェイヴ/シンセポップというのは、最早不 可分の共生関係にあったという点。 カーズの第5作アルバム。同バンドのリリースしたアルバムの中で最も商業的成功を収めてい る。全米アルバム最高3位。当時、全米のみで200万枚突破。現在の全米累計セールスは400 万枚突破。前々作『パノラマ』。前作『シェイク・イット・アップ』に比べ、全体的によりポップな仕 上がりになっている。『ラジオ&レコーズ』の年間アルバムチャートでは1位を獲得している。シ ングルでも「Drive」「Hello Again」「Magic」「You Might Think」がTOP20に入るなど、ヒットを量産し ている。アルバム中、5曲がシングルヒットした事が表すようにキャクチャーな粒揃いの曲が並ぶ。 コミカルなプロモーションビデオが有名You Might Thinkを始め、Stranger EyesやIt's Not the Nightの様な初期を思わせるハードな曲までヴァリエティ豊か。名曲 Driveの王冠輝バージョン とデモトラックの余りの落差には驚くが、スタジオワークの裏面がうかがえ興味深い。収録さ れたアーリーヴァージョンは総じて出来が良く、特にタイトル曲の初期版 Jackiはよりメロデー ー気味で世界的には、8歳でギタリに離れ、13歳でバンドを結成し、14歳でビートルズやザ・ビートルズ のレコーディングに参加する。その後も高名なロックミュージシャンたちとの競演を重ね、86年、17 歳で彼は初のソロである本作を発表する。 疾走感のある<2>でさっそうと登場し、ギタリストとしての腕前だけでなく、やたら箔のあるヴォ ーカルも披露した。オールミュージックにおいて5点満点中4点を付け「この10代のギタリストは、出 身地のテキサス州オースティンで、ブルースやフュージョン・ロックの素養を身に着けていたが、当時 の商業音楽界では、そうした音楽への需要は限られており、ドラムマシンやシンセサイザーを 積み重ねた音作りにならざるを得なかった」セクストンが後に発表した、より厳格なブルース指 向の作品の多くと比較すると、より興味深く楽しめるレコードである」と評している。また、甘い ルックスが人気となり、全米15位、日本では最高4位(14週トップ100入り)を記録し、「チャリ坊」 などと呼ばれ、洋楽アイドル路線の、またものに変わった。	Side A 1. ハロー・アゲイン - Hello Again (3:47) 2. ルッキン・フォー・ラヴ - Looking For Love (3:52) 3. マジック - Magic (3:57) 4. ドライヴ - Drive (3:55) 5. ストレンジャー・アイズ - Stranger Eyes (4:26)	Side B 1. インプレスト 2. ビーツ・ソー・ロンリー 3. レストレス 4. ホールド・ミー Side B 1. ピクチャー・フォー・プレジャー 2. テル・ミー 3. アトラクションズ 4. ユードント・ビロング・ヒア
CARS	ハートビート・シ ティ		1984年3 月13日	ニュー ウェイブ	レコ ード	1971年リリース。1970年代のブラスロックの双肩の「シカゴ」と「チェイス」。9人編成のブラス・ ロック・バンド、チェイスのデビュー・アルバム。4本のトランペットが生み出すサウンドでRockと Jazzの融合+ブラス」は実にシャープでスリリング。その魅力が最大限に発揮されたシングルA 面⑤Get It On「黒い炎」が大ヒットしアルバムも大ヒットした。Funky Groove③のってオルガンと ブラスが暴れるオープニング・インスト①「Open Up Wind」かなり黒いアップテンポなFunky チューン③「Hello Groceries」ミッドテンポ・R&B風な④など、佳曲揃い1枚。特筆すべき は、⑤「Get It On(邦題:黒い炎)」ホーンがインパクト満点。	Side A 1. オープン・アップ・ワイド 2. ジョー・ジャの夏 3. いかした女 4. ハンドバックと正装 5. Get It On(黒い炎)	Side B 1. ボーイズ・アンド・ガールズ 2. 組曲「炎の流れ」 トク・マインズ・ミート/ステイ/ ペイスト・イット・サッド/リフレク ション/ リバー
CHASE	追跡		1971年	ロック	レコ ード	77年作、デュー・トリックのデビュー作。本作が彼等のキャリヤ上だけでなく、アメリカン・ハード 史上でもユニークなものとして語られ続けているのには、いくつかの理由が挙げられると思いま す。 エアロスミス、スターズ等を手掛けていたジャック・ダグラスがプロデュースした事により、かな りメタリックでライブ感覚溢れるサウンド・プロダクションが成立し、彼等のハードな側面が強調さ れているのがまず目立ちます。その反面、パワー・ポップ調のメロディが新鮮で、10代の反抗、 皮肉タツプリのメッセーじ性も手伝い、ラモーンズやビストルズとも同列で語られる事となり、当 時はプロディやナックと並べてアメリカン・ニュー・ウェイヴの一派として見られる事にもなりま す。 更にモノクロで映るメンバーの奇妙なヴィジュアルもインパクトがあり、王子様のルックスのロビ ン、いかにもロック・スター然としたトム、髭と眼鏡の太ったオジサンのパン・E(と言っても当時 はまだ20代半ばのはずなのですが...)、そしてすっくばけた変人にしか見えなかったリック、と KISSやQUEEN全盛期の時代にあつてはかなり奇異な存在感を放っていました。特にここ日本 では特別な受け入れられ方を早々としていて、彼等の音楽性よりもアイドル的資質ばかりが先 行していましたが、同時に新しいハード・ロック・バンドとして正しい評価をする人達も多かったと 思います。ブルースに類らないメロディ・センス、パンキッシュでありながら歌メロは極めてポッ プ、バンド・サウンドはタイトかつハード・ロックのダイナミズムを損なわないワイルドさを持つ 等、鼻歌感覚で歌えるHR/HMをすでにここで確立しています。パンク、メタルの双方からリス ペクトが現在も続いているのは、本作が彼等の基本スタイルとしてあつたからに違いないと思いま す。 80年代ポップ・メタルの時代が訪れた時点では、ニュー・ウェイヴとされた彼等も多少過去のバ		
CHEAP TRICK	チープ・トリック I		1977	ハード ロック	レコ ード			

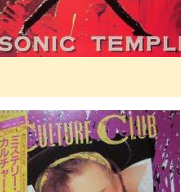
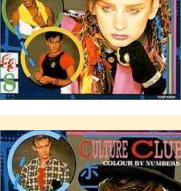
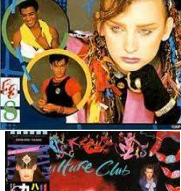
	CHEAP TRICK	蒼ざめたハイウェイ		1978	ハードロック	レコード	77年作、チープ・トリックのセカンド・アルバム。彼等の代表作は一般的には「at 武道館」が挙げられるのですが、本作を一番愛している人も未だ多いのではないのでしょうか。ジャック・ダグラスからトム・ワーマンにプロデュースが代わった事で、サウンドの感触がポップにまとめられ、パワー・ポップとしての側面が強くなっています。 日本ではアイドル的人気の盛り上がりとともにどうリンクしたキャッチーなメロディ集が、洋楽ロックの楽しさ、キラキラした輝きを当時の女子を中心に夢中させたわけですね。とは言え、コンパクトなポップネス、ハード・ロック・ファンをも満足させるバンド・サウンド、彼等のユニークなキャラクターは、次世代のヒーロー像として男子の目にもカッコ良く映っていたはずですね。ライブでのハードなエッジが封印されていますが、それまでのアメリカン・ハードの土臭さや汗臭さが皆無の甘く洗練された音は、以降の80年代ロックへの影響も大きく残したと思います。シュガー・コーティングがされていながら、歯応えはしっかりとっていて、時に辛味も感じさせてくれた上、満腹感も申し分ない、そんな感じでしょうか。ポップ・ロックでは終わらない、生粋のハード・ロッカーとしての血がソフトなサウンド・プロダクションの中でも隠しきれなかった結果だと思えます。表裏のジャケットのカッコ良さに始まり、「甘い罠」、「今夜は帰さない」、「ハロー・ゼア」といった、彼等の永遠のテーマ曲とも言える名曲を含み、全曲がシングル・カット可能であった充実度は、ボンボンと矢継ぎ早に繰り出されるキレのいい連珠の様で、何度手にしても胸ときめくものとなっています。		
	CHEAP TRICK	蒼ざめたハイウェイ		1978	ハードロック	CD			
	CHEAP TRICK	天国の罠		1978	ハードロック	レコード	78年作、チープ・トリックのサード・アルバムとなった1枚で、日本では彼等の人気絶頂期を象徴するものとして今も愛される大名盤です。アメリカン・ハードの土臭い部分を全く匂わせない新しいスタイルを確立したデビュー作、ハード・ポップとしての甘くライトな側面を強化されたセカンドに続き、ここでは彼等の真骨頂と言えるワイルドなギターとキャッチーなメロディが絡む胸キュン疾走型ハード・ロックを完成させています。 今も多くのアーティストにカバーされる「サレンダー」は彼等の代表曲になったのと同時に、ティーンの心情を巧みに描いた青春ソングの定番ともなりました。アンスラックス等が取り上げ、やはりカバー率の多い「サヨナラ・グッバイ Auf Wiedersehen」は、彼等流のポップ・メタル・ソング、珍しくダークな質感が目立つ重い哀愁バラードのアルバム・タイトル曲、「甘い罠」のスウィング・ヴァージョンとも言えるポップ・ナンバー、「How Are You?」等々、実に優れた曲が並びます。 当時の国内アナログ盤のライナーノーツには、「自転車に乗りながら鼻歌で歌えるハード・ロック」という様な表現がされていたと思いますが、まさに言い得て妙、全曲がポップ極まりないメロディを持ちながらハード・ロックとしてのダイナミズムを失っていません。 この辺のセンスが、当時は彼等をニュー・ウェイヴと見なした人が多かった原因だと思えますが、本作のキャッチーさはビートルズ以来の古典的なものであり、それはやがて80年代メタルへと受け継がれていったものだという事実により、後に再評価へと繋がっていったわけです。		
	CHEAP TRICK	チープ・トリック at 武道館		1978	ハードロック	レコード	78年リリース作。チープ・トリックのライブ盤。ビートルズやディー・パープルがすでに来日公演を果たしてきましたが、武道館の名前を世界中に知らしめたのは、まさしく本作。スタジオ盤ではポップな面が強調される事が多かった彼等のナンバーは、ライブ・バンドとしての実力とプロディン・ハードの影響も強い性格から、一気にハード・ロックとしての側面が強まったのも特徴だと思います。ブルースを基調としない底抜けのメロディの良さ、黄色い大歓声にもけつして負けないバンドのダイナミズムが、アイドル・バンドだけでは終わらない新世代感覚のハード・ロックを聴かせてくれた、という意味でもかなり重要な1枚だと思います。数あるロック・ライブ・アルバムの中でも、まず必聴すべきアルバム！		
	CHEAP TRICK	ドリーム・ポリス		1979	ハードロック	レコード	79年作。通算4作目のアルバムで、彼等の人気絶頂期を代表する1枚。実際には前年度に完成していた様ですが、武道館ライブが本国アメリカでも大ヒットし、本作のリリースはあえて先延ばしされた結果、全米6位という彼等のキャリア中最高チャート記録しています。彼等のポップ・センスはここでも冴えていて、更にメタリックな要素、そして凝ったアレンジが加わる事により、ハード・ポップ、ハード・ロックの名盤として色褪せていません。アルバム・タイトル曲はチープ・トリック流サイバー・パンクとも言える歌詞がユニークで、実際ジョージ・オーウェルの名作、「1984」から影響を受けている様です。この曲もそうなのですが、「Way Of The World」でもストリングスが導入され、かなり大掛かりなサウンドになっているにも関わらず、フットワークが軽い印象があるのは、ポップ・センスが優れているからだと思えます。彼等にしては珍しい長尺のナンバーで、ヘヴィかつダークな「GONNA RAISE HELL」、「NEED YOUR LOVE」、トム・ピーターソンが独特の鼻声を初披露した「I KNOW WHAT I WANT」等、その後のライブの重要レパートリーが目白押しとなった構成も見事。そしてハイライトはやはりスティーヴ・ルカサーがゲスト参加した珠玉のバラード、「VOICES」だと思われます。彼等のキャリアの中でも、1、2位を争うリリースでメロウなナンバー。		
	CHEAP TRICK	オール・シュック・アップ		1980	ハードロック	レコード	80年作、チープ・トリックの通算5作目となったアルバム。彼等にとっては大きな転機作ともなった1枚。 プロデュースは御大ジョージ・マーティン、ジャケット写真はモシャ・ブラカ、というそれまでのアイドル路線からは考えられない制作陣を起用しています。サウンドも甘いパワー・ポップから、ハード・ロック、メタリックなエッジの強い、まるでファースト・アルバムを更にハイパーにしたかの様な作風。本作後にトム・ピーターソンが脱退(トムの当時の奥方とのバンド活動が原因)。バラエティに富んだ実験作となった時点で、バンドはかなり消耗していた。AG/DGばりのロック・ソングから、インダストリアル・メタル風味、アフリカン・ビートの導入等、彼等のキャリアの中でも、かなり実験的となっていますが、あくまでキャッチー、痛快なハード・ロック・アルバムであるのは間違いないと思います。 現在では「Just Got Back」や「Stop This Game」のみがライブでプレイされていますが、かなり名曲揃いの1枚で、もっと再評価がされていいと強く思います。		
	CHELSEA	チェルシー			パンク	レコード		Side A	
	CHERIE CURRIE	ビューティー & ワイルド		1978	ロック	レコード	78年ソロ・ファースト。RUNAWAYSのオリジナル・リード・シンガー・CHERIE CURRIEがバンド脱退後の78年にリリースしたヴァレエティに富んだソロ・アルバム。年齢18歳がポップ・オリエンテッドにオトナの階段を上るポップ・ロック・アルバム。“LOVE AT FIRST SIGHT”では双子のMARIE CURRIEとデュエットしています。KIM FOWLEYのプロデュース。	Side A	
	CHERRY VANILLA	バッド・ガール		1978	パンク	レコード	1978年作品。女パンク番長とも称されるNY生まれのシンガー(本名:ケイティ・ドリトル)。本作は彼女のデビュー作で、ストリートなロックンロールが中心。デビュー以前にはあのデヴィッド・ボウイの広報係として働いていたり、アンディ・ウォーホルの舞台に出演経験もあるという異色の経歴の持ち主。デヴィッド・ボウイの影響なのかグラムロックを基調に当時流行だったPUNKの要素を取り込んだサウンドで、そのルックスと存在感抜群の印象的なステージングにあのデボラ・ハリーも影響を受けたとか。ライブではこれらの楽曲をよりスピーディかつラフに演奏していた。歌詞は常に実験性をモチーフにしている。	Side A 1. アイ・ノウ・ハウ・トゥ・フック 2. So 1950's 3. ノット・ソー・バッド 4. ザ・パンク 5. ノー・モア・カナリーズ	Side B 1. ハード・アズ・ア・ロック 2. リバプール 3. フォクシー・ビッチ 4. バッド・ガール 5. リトル・レッド・ルースター
	CHICKEN SHACK	(ペーパーズ・リーブ仕様) 100トンの鶏		1969	ハードロック & ヘヴィメタル	CD	チキン・シャックの69年3作目「100トン・チキン」。Christine Perfect が去りかわりにポール・レイモンドが加入。 栄光の英国ブルースロックの時代は去り、もうだめになるかと思いきや71年に目の覚めるようなハードな傑作「Imagination Lady」を出したのと同じく、どこにもつかみどころのないイメージのバンドです。 本作もしょうもないコスプレジャケットでとほほとなりそうですが、内容は素晴らしいです。ブルースロックを実にいいあんばいに進化させたといえますが、けっこうヴァレエティに富んだ内容にもかかわらず全編でかつこよさが爆発しています。 やっぱギターがいいねえってのは当然としてオルガンがいい味を出しており、バトルもかっこいい。ラストは驚きのDavy Grahamのカヴァー“Anji”できっちり締めめます。	Side A 1. The Road of Love 3:30 2. Look Ma, I'm Cryin' 3:25 3. Evelyn 4:18 4. ReconSider Baby Lowell Fulson 3:25 5. Weekend Love 2:14	Side B 1. Midnight Hour Clarence Gatemouth Brown 2:55 2. Tears in the Wind 2:45 3. Horse and Cart 3:36 4. The Way It Is 4:29 5. Still Worried About My Woman 3:12 6. Anji Davey Graham 1:39
	CHICAGO	シカゴの軌跡		1969年4月28日	ロック	レコード	1969年リリース。シカゴの最高傑作。新人バンドとしては異例の2枚組デビュー作。ブルース・ロックというバンド・スタイルと激動の60年代末を象徴するようなメッセーじ色の濃い内容は後続のバンドに多大なる影響を与えた。録音はたったの10日間、1曲を除きすべてオリジナル曲。大胆かつ整然としたホーン・セクションはテリー・キャスのワイルドなギターとボーカルを決して邪魔することなく、美しく調和している。もう一つの特徴は、ジミヘンも認めた、テリー・キャスのワイルドなギターが、歌心を感じるギターです。テリー・キャスはヴェンチヤーズに最も影響を受け、貧しい家庭環境のなか、独学でギターを習得した。68年にロサンゼルス・のウィスキー・ア・ゴーゴーでテリー・キャスの演奏を聴いたジミ・ヘンドリックスは「自分のギターより良い」と言っていたそうです。 そしてこのデビュー作から3作連続で2枚組アルバムを発表すると言うからバンドの創造力がみなぎってきたことが伺える。全米アルバム・チャート第17位。ヒット・シングル「いったい現実を把握している者はいらぬだろうか?」(全米第7位)と「ビギニングス」(全米第7位)を収録	Side A 1. イントロダクション 2. いったい現実を把握している者はいらぬだろうか? 3. ビギニングス Side B 1. クエストions 67/68 2. リッスン 3. ポエム58	Side C 1. フリー・フォーム・ギター 2. サウス・カリフォルニア・パープルズ 3. アイム・ア・マン Side D 1. 1968年8月29日シカゴ、民主党大会 2. 流血の日(1968年8月29日) 3. 解放
	CHICAGO	シカゴIII(シカゴと23の誓い)		1970年8月26日	ロック	レコード	デビュー作“シカゴ・トランジット・オーソリティー”改め“シカゴ”と名乗った2作目にあたる本作。バフワルで荒削りなデビュー・アルバムも凄かったが、より洗練されたこのセカンドは本当に見事。余りにも手ごたえがありすぎる。バフワルを残しつつも、スウィートなハーモニーがとつとも素敵。この時代のロックが、既存の色々な音楽のフィールドに侵食していくさまが、手に取るようにわかる。あの時代の夢と幻滅、そこから立ち上がった何かを成し遂げようとする意欲が、つめ込められている。シ注目して欲しいのは、ドラムスのダンニー・セラフィンです。現在のシカゴのように(コーディングでは)打ち込みなどでは無く、彼の卓越したドラミングが一作目同様堪能できます。「ほくらは何処へ」から「約束の地」まで、迷走することなく一気に駆け抜けて到達してしまふころ、ウインディシティの風にゆらぐことはない確固たるバンドの生命力みなぎる強靱な躍動感を感じる。テリー・キャスという稀代のギタリストがいた時代のロック色の強いシカゴが最高であり、テリー・キャス、ピーター・セテラの双頭ボーカルを聴くことのできる時代のアルバムこそシカゴだと思う。シカゴの最高傑作に間違いない。	DISC 1 Side A 1. ほくらは何処へ“Movin' In” - 4:06 2. ほくらの道“The Road” - 3:10 3. ほくらの詩“Poem for the People” - 5:31 4. ほくらの国“In the Country” - 6:34 Side B 1. 朝日と輝け“Wake Up Sunshine” - 2:29 2. バレエ・フォー・ア・ガール・イン・パキヤン - 12:55 3. ほくらに微笑みを“Make Me Smile” - 3:16 4. 言いたいことが沢山“So Much to Say, So Much to Give” - 1:12 5. 不安の国“Anxiety Attack” - 1:12	DISC 2 Side 3 1. 空想の色“Fancy Colours” - 5:10 2. 長い夜“25 or 6 to 4” - 4:50 3. 愛の記憶“Memories of Love” - 9:12 4. 夜明けのプレリュード“Prelude” - 1:10 5. 朝の祈り“A.M. Mourning” - 2:05 6. 午後の祈り“P.M. Mourning” - 1:58 7. 愛の記憶“Memories of Love” - 3:59 Side 4 1. 栄光への旅路“It Better End Soon” - 8:24 2. 第1楽章“1st Movement” - 2:33 3. 第2楽章“2nd Movement” - 2:33
	CHINA CRAISIS	ファイア・アンド・スティール		1983	エレクトロニクス	レコード	全英20位。チャイナ・クライシスのセカンドアルバム。		

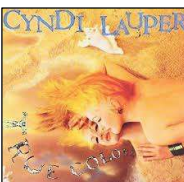
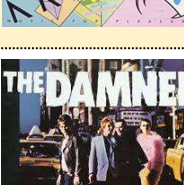
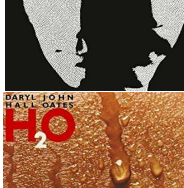
CHRISTOPHE R CROSS	南から来た男		1980	ポップス	レコード	AORを代表する男性シンガー、クリストファー・クロスの記念すべきデビュー・アルバム。1980年度グラミー賞「アルバム・オブ・ザ・イヤー」に輝き、400万枚以上を売り上げたと言われている名盤中の名盤。全米アルバム・チャート第6位。プロデューサーは、マイケル・オマーティアン。ゲスト・ミュージシャンで、ジェイ・グレイドン、マイケル・マクドナルド、ドン・ヘンリー、J.D. サウザー、ラリー・カールトンら豪華メンバーが参加している。暮星のごとく現れたクリストファー・クロスの同アルバムとシングル「Sailing」は、1981年のグラミー賞で史上初の主要4部門の同時受賞を含む5部門を独占し、衝撃的なデビューとなった。ビルボードでは、アルバムがUS6位、シングルは、「Sailing」がUS1位、「Ride Like The Wind(風立ちぬ)」が2位、「Never Be the Same(もう二度と)」が15位、「Say You'll Be Mine」が20位である。US 5xプラチナ・ディスク獲得。	Side A 1. セイ・ユール・ビー・マイン 2. 愛はまぼろし 3. スピーニング 4. もう二度と 5. 哀れなシャーリー	Side B 1. 風立ちぬ 2. ライト・イズ・オン 3. セイリング 4. ジゴロの芸人
CHRISTOPHE R CROSS	南から来た男		1980	ポップス	CD	日本で発売されたのは1980年に入ってからであるが、それ以前に、輸入盤がロコミで評判を呼び、都内の輸入盤店で売れまくったという伝説のアルバムでもある。「天使の声」と形容される、ソフトなハイトーン・ヴォイスは他の追隨を許さず、1980年代のAOR界に一時代を築いた。AOR界を代表するシンガーの伝説的アルバムである。		
CODE BLUE	コード・ブルー		1981	ニューウェーブ	レコード	コード・ブルーは、モータルズの初期のギタリストであるディーン・チャンパーレン(ヴォーカル)が結成したバンド。1980年にリリースされた偉大なニューウェーブ/パワーポップアルバムでした。このLAロックトリオの名声への最大の主張は、プリティ・イン・ピンクのサウンドトラックからの曲「ウィスパー・タッチ」。 甘いヴォーカルでソリッドの効いたパワーポップ、ニューウェーブサウンドは素晴らしく。殆ど捨て曲が無いくらい充実したアルバムで、ニューウェーブの最高傑作と言いたい内容。中々評価されていないバンドだが実力は他のバンドより遥かに素晴らしい。もっとも評価して欲しいアルバムの一つである。 特に、A1、B1はソリッドスピード感溢れる活かしたナンバーや、A4、B3といった硬質なギターと甘いヴォーカルのコントラストが印象的でポップなナンバーが揃ったアルバム。	Side A 1. Whisper/Touch 2. Modern Times 3. Hurt 4. Face to Face 5. Burning Bridges	Side B 1. Somebody Knows 2. Other End of Town 3. Where I Am 4. Settle for Less 5. The Need 6. Paint By Numbers
CODE BLUE	コード・ブルー		1981	ニューウェーブ	CD		12曲目 以下、CDボーナストラック 12. Whisper/Touch (2003 Remix) 13. Hurt (2003 Remix) 14. Burning Down the House of Love 15. Where I Am (Demo) 16. Settle for Less (Live) 17. Other End of Town (Live) 18. Book of Job 19. Burning Bridges (Demo)	
CODE BLUE	トゥルー・ストーリー		1983	ニューウェーブ	レコード	コード・ブルーのセカンドアルバム。ファーストが売れなかったこともあるのか、ファーストの様なスピード感やソリッドなサウンドが鳴りを潜めてしまい、逆にこのグループの良い点が生かされていない感じで正直惜しいアルバム。もっとファーストの様な音を追及しヴォーカルや演奏をもっと生かした方が良かったのでは？本当に惜しいバンドです。		
Colin Blunstone	ワン・イヤー		1971年	ロック	レコード	THE ZOMBIES解散後、初のソロ作で、盟友・Chris White & Rod Argentによるプロデュース。この作品は、“She Loves the Way They Love Her”の7月から、“Say You Don't Mind”の7月までの1年間のストーリーをアルバムにしたもので、1曲1曲が云々というより、1枚トータルで聴く名盤です。THE ZOMBIES時代に作られた(1)では、いかにもTHE ZOMBIESなPopで甘酸っぱい感じの佳曲を聴かせてくれます。 ただ、それは単なる始まりであって、本作の魅力は、その後に展開されていく、ストリングスをバックにした美しく儚い音世界。 優しく、甘く、切なく、メランコリックで、センチメンタル。何か思いつめたかのようなスティック感や、脆さと隣り合わせの純粹さには、思わず聴き入ってしまいます。(特に3,5) ストリングスをバックにした曲がほとんどで、普通のRockとは違いますが、「THE ZOMBIESファン」「60's・70'sのUK Rockファン」には、聴いてもらいたい作品です。自分の音楽の世界を、一つ広げてくれます。秋冬シーズン、夜、雨・曇りの日などに聴くと、より雰囲気が出てGood！です。	One Year(1枚目) Side A 1. She Loves The Way They Love Her 2. Misty Roses 3. Smokey Day 4. Caroline Goodbye 5. Though You Are Far Away Side B 1. Mary Won't You Warm My Bed 2. Her Song 3. I Can't Live Without You 4. Let Me Come Closer to You 5. Say You Don't Mind	that same year(2枚目) Side C 1. Are You Ready 2. I've Always Had You 3. Sing Your Own Song 4. Caroline Goodbye 5. I'd Like to Get to Know You Better 6. Though You Are Far Away 7. Too Much Too Soon Last Night Side D 1. I Wonder If You Know What You've Begun 2. I Won't Let You Down 3. You Gave Me a Reason 4. I'm Coming Home 5. I Really Do Love You
COLIN HARE	(ペーパーズリープ仕様) マーチ・ヘア		1971	フォークロック	CD	1971年リリース。英国が産んだフォーク・ロックの名盤。元ハニーバスのメンバーだった「コリン・ヘア」のソロアルバム。ハニーバス時代から受け継いがれたフォークーで憂いのあるメロディラインはUKシンガー・ソングライターの伝統を受け継いだ魅力に溢れている。 ハーマニカ、管弦鍵盤楽器、アコースティック・ギターの響きが効いているサウンドで、フォーク・ロック的楽曲以外にも、カントリー風味だったり、ハードな楽曲もあるけど、なんといっても素晴らしいキラリ光るメロディで素晴らしい楽曲の数々。ビートルズなんかとも思ひ起こさせる曲があったり、ディラン的なメロディと	1Get Up The Road 2Bloodshot Eyes 3For Where Have You Been 4Find Me 5Underground Girl 6To My Maker 7Alice	8Nothing To Write Home About 9New Day 10Cowboy Joe 11Just Like Me 12Charlie Brown's Time 13Grannie,Grannie(ボーナス・トラック) 14Fighting For Peace
CONNIE FRANCIS	ザ・ベリー・ベスト・オブ コニー・フランシス Vol2		1987年	ポップス	レコード	60年代のアメリカン・ポップス黄金時代に世界中のファンを魅了したアイドル、コニー・フランシスのベスト盤。	Side A 1. 恋のワルツ 2:47 2. ママ 4:00 3. ブルー・ウインター 2:29 4. トゥゲザー 2:58 5. ゴッド・ブレス・アメリカ 2:49 6. ビー・エニシング 2:12	Side B 1. ママのために 3:30 2. アルデイル 3:22 3. マラゲーニャ 3:08 4. お馬鹿さんの私 2:49 5. あなたがにくい 2:27 6. タイム・アローン・ウィル・テル 2:44
CLASH	白い暴動		1977年4月8日	パンク	レコード	1977年作。ザ・クラッシュのファースト・アルバム。プロデューサーは、ミックキー・フット。このクラッシュのファースト・アルバムは、普通のパンクバンドの音楽性とは違う、レゲエや初期ロックンロールの影響を明白に受けたものである。ジャケット表の写真は、バンドがリハーサルを重ねたカムデン・マーケットにあるビルの向かいの路地で撮られた。初期ドラマーのテリー・チャイムズは撮影時にはバンドを去ることを決意しており、写真には現れていない。	Side A 1. ジェニー・ジョーンズ (Janie Jones) - 2:08 2. リモート・コントロール (Remote Control) - 3:03 3. 反アメリカ (I'm So Bored with the USA) - 2:24 4. 白い暴動 (White Riot) - 1:56 5. 憎悪・戦争 (Hate and War) - 2:06 6. ワッツ・マイ・ネーム (What's My Name?) (ジョーンズ、キース・レヴィン、ストラマー) - 1:41 7. 憎悪 (Hate and War) - 3:06	Side B 1. 出世のチャンス (Career Opportunities) - 1:54 2. ベテン (Cheat) - 2:06 3. 反逆ブルー (Protex Blue) - 1:47 4. ポリスとコン泥 (Police and Thieves) (ジュニア・マーヴィン、リー・ベリー) - 6:03 5. 48時間 (48 Hours) - 1:36 6. ガレージランド (Garageland) - 3:12 11曲目は、ジョーンズのボーカル。また、2曲目と5曲目は、ストラマーとジェームズのデュオ・バージョン。
CLASH	白い暴動		1977年4月8日	パンク	レコード			
CLASH	動乱(獣を野に放て)		978年11月10日	パンク	レコード	ザ・クラッシュのセカンドアルバム。アメリカでは『白い暴動』に先行した公式デビューアルバムである。このアルバムは評論家やファンに受け入れられ、全英では最高2位、全米で最高128位になった。プロデューサー、サンディ・ハールマンはストラマーの声をあまり好んでおらず、ミックス時に全曲にわたリドラムスの音量をボーカルより大きくした。	Side A 1. セーフ・ヨーロッパ・ホーム (Safe European Home) - 3:50 2. イングリッシュ・シヴィル・ウォー (英国内乱) (English Civil War) - 2:35 3. トミー・ガン (Tommy Gun) - 3:17 4. ジュリーはドラッグ・スクワッドで働いている (Julie's in the Drug Squad) - 3:03 5. ロンドンは燃えている! 02:11 6. アイ・フォート・ザ・ロウ 02:41	Side B 1. 屋根の上の殺し屋 (Guns on the Roof) (ストラマー、ジョーンズ、シムノン、ヒードン) - 3:15 2. ドラッグ・スタビング・タイム (Drug-Stabbing Time) - 3:43 3. スティ・フリー (Stay Free) - 3:40 4. ケチな野郎のスーパー・スター (Cheapskates) - 3:25 5. すべての若きパンクスども (All Young Punkers) - 3:00
CLASH	動乱(獣を野に放て)		978年11月10日	パンク	レコード			
CLASH	動乱(獣を野に放て)		978年11月10日	パンク	CD			
CLASH	パール・ハーバー '79		1979年	パンク	レコード	『白い暴動』USヴァージョンにシングルを付けた日本独自盤。UKヴァージョンの替わりに収録されたのは、シングルのための発売で入手困難だった「クラッシュ・シティ・ロッカーズ」「ハーマスミス宮殿の白人」「ジェイル・ギター・ドアーズ」「アイ・フォート・ザ・ロウ」等で、同じく最新シングルから「グルービー・タイムズ」「ゲイツ・オブ・ザ・ウェスト」の2曲を付録のシングルに収録し、その当時、最新曲が聞ける内容となっていた。またジャケットもアメリカ盤と同じだが、その外側に日本独自のアウトター・スリーヴ(フル・サイズの帯)が付けられていた。	Side A 1. クラッシュ・シティ・ロッカーズ 03:49 2. 反アメリカ 02:25 3. リモート・コントロール 03:02 4. コンプリート・コントロール 03:14 5. 白い暴動 02:00 6. ハーマスミス宮殿の白人 04:01 7. ロンドンは燃えている! 02:11 8. アイ・フォート・ザ・ロウ 02:41	Side B 1. ジェニー・ジョーンズ 02:07 2. 出世のチャンス 01:53 3. ワッツ・マイ・ネーム 01:41 4. 憎悪・戦争 02:05 5. ポリスとコン泥 06:02 6. ジェイル・ギター・ドアーズ 03:05 7. ガレージランド 03:12 [8omCDシングル] 1. ゲイツ・オブ・ザ・ウェスト 03:28 2. グルーヴィー・タイムズ 03:29

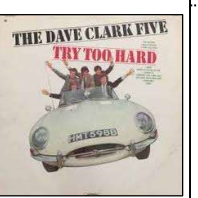
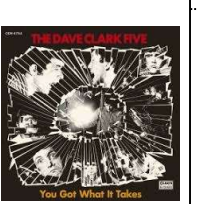
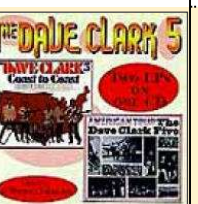
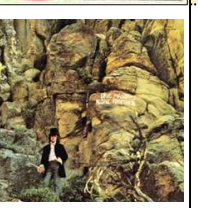
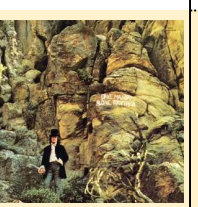
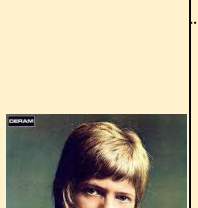
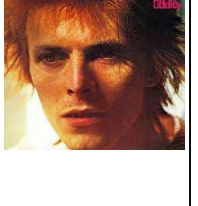
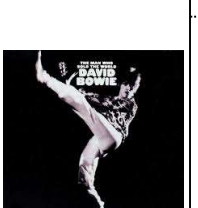
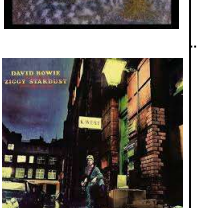
	CLASH	ロンドンコーリン グ		1979年12 月14日	パンク	レコー ド	ザ・クラッシュの2枚組アルバム。イギリスでは1979年12月、アメリカでは1980年1月の第1週に発売された。このアルバムによってクラッシュはバンドとしての新境地を切り開き、それまで以上に高い評価と商業的成功を勝ち得た。クラッシュの初期の作品と比較すると直球勝負のパンク・ロックは鳴りを潜め、幅広い音楽スタイルを盛り込んだことが大きな特色である。「トレイン・イン・ヴェイン」、「クランプダウン」(“Clampdown”)、「スペイン戦争」、「ジミー・ジャズ」(“Jimmy Jazz”)、そして表題曲「ロンドン・コーリング」などの楽曲では、ロカビリーや1960年代風のポップ・ソング、ラウンジ・ミュージック、R&B、スカ、ロックステディ、ハードロック、レゲエなどの諸要素をふんだんに取り入れて、洗練されたソング・ランティングを展開している。	Side A 1. ロンドン・コーリング (“London Calling”) - 3:19 2. 新型キャデラック (“Brand New Cadillac”) ウィンス・テ일러 - 2:08 3. ジミー・ジャズ (“Jimmy Jazz”) - 3:54 4. ヘイトフル (“Hateful”) - 2:44 5. しじむるなよ、ルーディ (“Rudie Can't Fail”) - 3:29 Side B 1. スペイン戦争 (“Spanish Bombs”) - 3:18 2. ニューヨーク42番街 (“The Right Profile”) - 3:54	Side C 1. ロンゲム・ボヨ (“Wrong 'Em Boyo”) C. Alphanso - 3:10 2. 死か栄光か (“Death or Glory”) - 3:54 3. コカ・コーラ (“Koka Kola”) - 1:47 4. いかさまカード師 (“The Card Cheat”) ジョーンズ、ストラマー、シムノン、ヒードン - 3:49 Side D 1. ラヴァーズ・ロック (“Lover's Rock”) - 4:03 2. 四人の騎士 (“Four Horsemen”) - 2:55 3. アイム・ノット・ダウン (“I'm Not
	CLASH	ロンドンコーリン グ		1979年12 月14日	パンク	CD			
	CLASH	サンディニスタ		1980年12 月12日	パンク	レコー ド	ザ・クラッシュの4作目のスタジオ・アルバム。3枚組で発売され、各面に6曲ずつの計36曲収録。基本的には、ミックとジョー2人のセルフ・プロデュース。このアルバムで、バンドはパンクやレゲエのみならず、ダブ、R&B、カリプソ、ゴスペルなどへと拡がりを見せた[3]。ストレートなロックナンバーと同等の、濃密でエコーが効いたサウンドは、明らかにレゲエ、特にプロデューサーのリー・“スクラッチ”・ペリーの影響を顕す。ベースのポール・シムノンは映画出演で忙しく、イアン・デューリー&ザ・ブロックヘッズのノーマン・ワット＝ロイが代役で呼ばれた。また、4人全員がリード・ボーカルを執った唯一のアルバムである。ドラムのトッパー・ヒードンは「イワンがG.I. ジョーに会う時」で独特のリードボーカルを披露し、ベースのポール・シムノンも「歪んだビート」でリードを取っている。「7人の偉人」はおそらく初のブリティッシュ・ラップ・シングルで白人バンドによる最初のラップシングルの一つであるという点において特筆に値する。このアルバムは、1980年代後半から1990年代前半のワールドミュージックの流行を予言する、文体上、時事問題上のポプリである。レゲエ、ジャズ、ゴスペル、ロカビリー、フォーク、ダブ、リズム・アンド・ブルース、カリプソ、クラッシュ流のロック、その他様々な要素が『サンディニスタ』にある。アルバムには、当時まだその中心となる黒人にさえ耳新しかったラップを2曲取り入れている。	Side 1 1. 7人の偉人 (The Magnificent Seven) - 5:28 2. ヒッツヴィルU.K. (Hitsville UK) - 4:20 3. ボーカル: ミック・ジョーンズ/エレン・フォーリー 4. ジャンコ (Junco Partner) (作者不詳) - 4:53 5. イワンがG.I.ジョーに会う時 (Ivan Meets G.I. Joe) - 3:05 6. ボーカル: トッパー・ヒードン 7. 政府の指導者 (The Leader) - 1:41 8. 老いたイングランド (Something About England) - 3:42 Side 2 1. 叛乱ワルツ (Rebel Waltz) - 3:25 2. ルック・ヒア (Look Here) (モーズ・アリスン) - 2:44 3. 歪んだビート (The Crooked Beat) - 5:29 4. ボーカル: ポール・シムノン 5. 誰かが殺された (Somebody Got Murdered) - 3:34 6. ワン・モア・タイム (One More Time) (ザ・クラッシュ / マイキー・ドレッド) - 3:32 7. ワン・モア・ダブ (One More Dub) (ザ・クラッシュ / マイキー・ドレッド)	Side 4 1. ポリス・オン・マイ・バック (Police on My Back) (エディ・グラント) - 3:15 2. ミッドナイト・ログ (Midnight Log) - 2:11 3. 平等 (The Equaliser) - 5:47 4. ザ・コール・アップ (The Call Up) - 5:25 5. サンディニスタ! (ワシントンの銃弾) (Washington Bullets) - 3:51 6. ブロードウェイ (Broadway) - 5:45 曲の最後にマリア・ギアラガーが歌う「ブリクストンの銃」が挿入されている Side 5 1. ルーズ・ディス・スキン (Lose This Skin) (タイモン・ドッグ) - 5:07 2. ボーカル: タイモン・ドッグ 3. チャーリー・ドント・サーフ (ナバーム弾の星) (Charlie Don't Surf) - 4:55 4. メンズフォース・ヒル (Mensforth Hill) - 3:42 5. 「老いたイングランド」の逆回転 6. ジャンキー・スリップ (Junkie Slip) - 2:48 7. キングストン・アドヴァイス (Kingston Advice) - 2:38 8. ストリート・バレード (The Street
	CLASH	コンバットロック		1982年5 月14日	パンク	レコー ド	ザ・クラッシュの5作目。オリジナル・メンバーが揃っての最後のアルバム。『ロンドン・コーリング』から『サンディニスタ!』と続いた、多様なスタイルの音楽を取り入れる路線を継承している。イギリスではアルバムチャートに23週間ランクインし、最高位は2位。アメリカでは61週で最高7位となり、プラチナアルバムとなった。当初『ラット・パトロール・フロム・フォート・ブラッグ』というタイトルで2枚組アルバムとして計画されていた。しかしこの案はバンド内での議論により破棄された。最初のカットはミック・ジョーンズのプロデュースで制作されたが、他のメンバーはこの出来に不満で、プロデュースはグリン・ジャリスの手に委ねられた。この時点でアルバムが1枚組になることが決定した。オリジナルのアメリカ盤では「イノキュレイトッド・シティ」は2分43秒の完全版で、このヴァージョンにはテレビ・コマーシャルや水洗便所の音が「2000フラッシュ」そして含まれている。メーカーからこれらの音の著作権に関するクレームが付き、2分11秒に編集された。初期ヴァージョンは特別デザインのラベルで10万枚プレスされたが、アルバム売上中のほとんどは、編集済みで変哲もないエピックのブルーラベルに変えられたヴァージョンである。この完全版は、シングル「ステイ・オア・ゴー」のアメリカ盤B面にも収録されている。	Side A 1. 権利主張 (Know Your Rights)(ストラマー/ジョーンズ) - 3:39 2. カー・ジャミング (Car Jamming) - 3:58 3. ステイ・オア・ゴー (Should I Stay or Should I Go?) - 3:06 4. ロック・ザ・カスバ (Rock the Casbah) - 3:44 5. レッド・エンジェル・ドラグネット (Red Angel Dragnet) - 3:48 6. ストレイト・トゥ・ヘル (Straight to Hell) - 5:30	Side B 1. オーヴァーパワード・バイ・ファンク (Overpowered by Funk) - 4:55 2. アトム・タン (Atom Tan) - 2:32 3. シーン・フリン (Sean Flynn) - 4:30 4. ゲットーの被告人 (Ghetto Defendant) - 4:45 5. イノキュレイトッド・シティ (Inoculated City) - 2:43(2分11秒に編集されているアルバムもある) 6. デス・イズ・ア・スター (Death Is a Star) - 3:08 ※Side Aの1,2,4,6曲目とサイド2の
	CLASH	コンバットロック		1982年5 月14日	パンク	レコー ド			
	CLASH	カット・ザ・クラ ブ		1985年11 月4日	パンク	レコー ド	ザ・クラッシュの最後のアルバム。1982年のトッパー・ヒードン解雇、1983年のミック・ジョーンズ脱退以降、はじめてのアルバムでもある。先行シングルの「ディス・イズ・イングランド」の売上以外は商業的に惨憺たるものであった。ミックの不在と、ヒードンの解雇により、『カット・ザ・クラブ』はジョーのソロ・アルバムとみなされている。このアルバムの最大の欠点は、ジョーがバンドに幻滅していたこと、そしてジョーの両親の相次ぐ死が彼を深く落ち込ませていたことである。ジョーは後に、このアルバムとの関連を否定した。1989年のインタビューで彼は新メンバーについてこう語った。「奴らのことは時々考えるよ。奴らの人生が台無しになっていなければいいけど」結局、このアルバムは旧メンバーも含めた純粋なクラッシュファンからはクラッシュ史に存在しないものとされており、ドキュメンタリー映画『ウェストウェイ・トゥ・ザ・ワールド』でも触れられていない。	Side A 1. ディクテイター- 3分0秒 2. ダーティ・パンク - 3分11秒 3. ウィー・アー・ザ・クラッシュ- 3分2秒 4. アー・ユー・レッド,Y- 3分1秒 5. クール・アンド・ヒート- 3分21秒 6. ムーヴァーズ・アンド・シェイカーズ - 3分1秒	Side B 1. ディス・イズ・イングランド - 3分49秒 2. スリー・カード・トリック - 3分9秒 3. プレイトゥ・ウイン - 3分6秒 4. フォイガー・ボッピン - 3分25秒 5. ノース・アンド・サウス - 3分32秒 6. ライフ・イズ・ワイルド - 2分39秒
	CLASH	ブラック・マー ケット・クラッ シュ		1905年6 月2日	パンク	CD	『ロンドン・コーリング』と『サンディニスタ!』の間にアメリカのみで発売されたザ・クラッシュのミニアルバム。アメリカでは輸入版以外で入手できなかった曲を集めて編集したものである。サイド1にはトウーツ・アンド・ザ・メイタルズのカバー曲「プレッシャー・ドロップ」と「死の街」は、1977年から1979年のB面曲で、「プレッシャー・ドロップ」についてはビル・ブライズによるリミックスが施された。『白い暴動』からの「ペテン」はアメリカ盤ではカットされていた。『ブラック・マーケット・クラッシュ』リリース時にはブッカー・T&ザ・MG'sのインストルメンタル曲「タイム・イズ・タイト」を唯一収録したレコードであった。『キャピタル・レディオ EP』に収録されていた「キャピタル・レディオ・ワン」はイギリスでも非常に稀少で、このミニアルバムはイギリスのファンからも垂涎的となった。後にバンドは新たなヴァージョンを録り直し、『コスト・オブ・リヴィング EP』に収録した。サイド2は「バンクローバー」と「ハルマゲドン・タイム」の元曲とダブヴァージョンから成る。当初は12インチシングル用として用意された「バンクローバー」は「ローバー・ダブ」になり、「ロンドン・コーリング」輸入版12インチシングルのB面にもみ収録されていた「ハルマゲドン・タイム」は「ジャス・テイス・トゥナイト/キック・イット・オーヴァー」となった。	1. キャピタル・レディオ・ワン (Capital Radio One) - 2:09 2. ザ・プリズナー (The Prisoner) - 3:00 3. プレッシャー・ドロップ (Pressure Drop)(トウーツ・ビバート) - 3:30 4. ペテン (Cheat) - 2:06 5. 死の街 (The City of the Dead) - 2:26 6. タイム・イズ・タイト (Time Is Tight)(ブッカー・T・ジョーンズ) - 4:05	※ここからレコード盤のB面 7. バンクローバー/ローバー・ダブ (Bankrobber/Robber Dub)(ストラマー、ジョーンズ、マイキー・ドレッド) - 6:16 8. ハルマゲドン・タイム (Armageddon Time)(ウィリアムス、ジャッキー・ミットウ) - 3:50 9. ジャステイス・トゥナイト/キック・イット・オーヴァー (Justice Tonight/Kick It Over)(ウィリアムス、ミットウ) - 7:00
	CLASH	ゾート・イット・ア フ		1978	パンク	レコー ド	クラッシュの初期のLIVE盤。海賊盤。1978年12月29日にロンドンのライセウムでの初期の貴重なライブ音源。セカンドアルバムがリリースする前のライブで、「トミー・ガン」がニューシングルと記載されている。	Side A 1. Safe European Home 2. I Fought The Law 3. Durg Stabbing Time 4. Clash City Rockers 5. City Of The Dead 6. English Civil War 7. White Man In Hammersmith Palais?	Side B 1. Complete Control 2. Cheapskates 3. Guns On The Roof 4. Tommy Gun 5. Julie's Working For The Durg Squad 6. Capital Radio 7. London's Burning 8. White Riot
	CLASSIX NOUVAUX	夜行人間		1981	ニュー ウェーブ	レコー ド	1981年作のファーストアルバム。インスト「フォワード」で仰々しく幕を開け、ヒットシングル「ギルティ」(ロング・ヴァージョン)が始まる。「オア・アム・ビー」のイントロはROXY MUSIC「Dance Away」他ならない。「ギルティ」にも使われている電子音はニュー・ロマンティック以前にもUltravoxやOMDが使っていたリフで、このアルバムでも多用されている。音楽的にはDavid BowieやROXY MUSICを身近なものとしたのがニュー・ロマンティックだったけど、クラシックス・ヌヴァーはサル・ソロが持つクラウス・ノミばりのカウンターテナーでその個性を発揮していた。	1. Foreward (Instrumental) 2. Guilty 3. Run Away 4. No Sympathy, No Violins 5. InSide OutSide 6. 23 (Instrumental)	Should Have One Or Night
	Cockney Rebel	さかしま		1974	ニュー ウェーブ	レコー ド	オリジナルは74年作、ボウイとマーグ・ボランが巻き起こしたグラム・ロック旋風の中で鈍い光を放っていたコックニー・レベルのセカンド・アルバムです。奇才、スティーヴ・ハーレイ率いるこのバンドは、本作を最後に実質的に解散、以降はSteve Harley & Cockney Rebelとして活動していきますが、同時期のBE BOP DELUXE、あるいはDEAF SCHOOLといったバンドと共にモダン・ポップ勢として忘れ難い存在となっています。ジャケッットに映るハーレイは化粧をしている事もあり、グラム・バンドとして認知されてはいましたが、彼等の音楽性は実に多彩で、ヴォードヴィル調から、後のXTTCにも影響を与えたであろうヒネクレ・ポップ・センス、プログレ的な幻想的なサウンドと、一言では言い尽くせない魅力がありました。パンク、ニュー・ウェイヴへと繋がっていく自由な発想と、ハーレイのユーモア・センス溢れる文学性がいかにも英国的な味を出していて、それがグラムのケバケバした直接的な妖しさとは違う個性を出していたのかもしれない。本作収録の大ヒット・シングル、「MR. SOFT」も実にすっとぼけた感覚が目立つヘンテコ・ソングで、プリティッシュ・ロックの黒の深さを象徴するものとなっています。全集に2曲目「ミス・タニ・ソフ	A1Sweet Dreams2:03 A2Psychomodo4:02 A3Mr. Soft3:16 A4Singular Band2:56 A5Ritz7:11	B1Cavaliers8:26 B2Bed In The Corner3:36 B3Sling It!2:35 B4Tumbling Down5:50
	COCTEAU TWINS	トレジャー - 神々が愛した女 たち		1984	オルタナ ティブ	レコー ド			
	CUDDLY TOYS	倒錯のギロチ ン・シアター		1979	ニュー ウェイブ	レコー ド	1977年初頭に結成されたレイブドから改名したのがカドリー・トイズ!メンバーはショーン・パーセル(Vo)、フェビアン・クウェスト(Gu)、トニー・バゲット(Ba)、パディー・フィールド(Dr)、ビリー・サージェナー(Syn/Sax etc)。本作は1981年にリリースされた1stアルバムのイギリス盤に、1979年に先行発売された日本盤のみに収録されていた曲と未発表曲をボーナス・トラックとしてに加えたスグレもの。(パティ在籍時全曲収録しかも!狂った抱擁」はマーク・ボラン(1レックス)とデヴィッド・ボウイの共作提供曲!!		

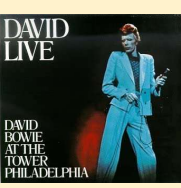
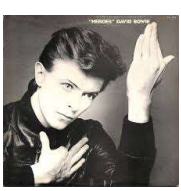
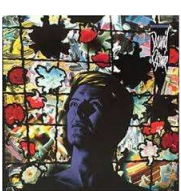
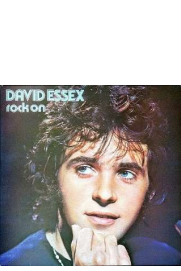
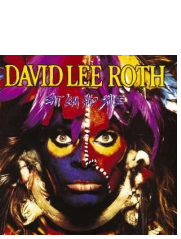
	COLOSSEUM II	ストレンジ・ニュー・フレッシュ		1976	ハード ロック・ヘヴィメタ	レコード	76年作、ブリテンイギリスのバンド史の中でも無視できないバンド。コラシウムⅡの第1弾アルバム。コラシウム、テンペストで名の知れたジャズ系ドラマー、ジョン・ハイズマンが、当時シン・リジィにも参加していたゲイリー・ムーアと合体。更にドン・エイリー、ニール・マレーイといった凄腕を迎え、本作限りとなった豪華なラインナップで濃厚なサウンドを聴かせます。ジャズ・ロック、プログレとされる事もある1枚ですが、ゲイリーのギターとファンキーなリズム隊が絡む様は、まさにハード・ロックとしてのダイナミズムに溢れています。後にユーライア・ヒープのジョン・ロートンが在籍していた名バンド、ルシファーズ・フレンドにも参加したマイク・スターズのヴォーカルも味わいがあります。ジョニー・ミッチェルのカヴァー、「Down To You」ではいかにもブリティッシュというメロウさを出しています。ゲイリー作の7分を超える大バラード大会、「On Second Thoughts」がやはりハイライトで、泣きのギターと哀愁メロディがとろけさせてくれます。 明らかに当時のソフ・ポップを意識していると思いますが、一審判にはならない。ただしの圧倒的なスタイル、サウンド、ビジュアル等が人気グループのリーダーであり、その後のバンドのモデルとなる。		
	COLOUR FIELD	ヴァージンズ・アンド・フィリス・タインズ		1985	ニューウェイブ	レコード	ホルが84年イギリス・マンチェスターで結成した3人組バンド。アルバム・チャート全英12位 比類なきメロディー・メーカーとして才能を開花させた、カラー・フィールドのファーストアルバム。アコースティックでポップで爽やかなメロディーを醸す素晴らしい作品。 '84年1月ファースト・シングル①「カラー・フィールド」全英43位。'84年7月④「テイク」全英70位。 '85年1月①「シンキング・オブ・ユー」全英12位。'85年4月③「キャッスル・イン・ジ・エアー」全英51位。 '86年1月⑩「シングズ・クッド・ビー・ソー・ビューティフル」全英83位。 林田氏は、エグザイル、バグダッド、ガム、スティーヴ・カイ、デビルなどに通じるアコースティック・サウンド、	Side A 1. シンキング・オブ・ユー 2. フェイント・ハーツ 3. キャッスル・イン・ジ・エアー 4. テイク 5. クルエル・サーカス 6. ハモンド・ソング	Side B 1. ヴァージンズ・アンド・フィリス・タインズ 2. ユアーズ・シンシアリー 3. アームチェア・シアター 4. ソーリー 5. ザ・カラー・フィールド 6. 風のささやき 7. プッシング・アップ・ザ・デイジー
	COLOUR FIELD	ヴァージンズ・アンド・フィリス・タインズ		1985	ニューウェイブ	CD	以下、CDボーナストラック 14. シンキング・オブ・ユー（シング・アロング・ヴァージョン） 15. マイ・ワイルド・フレイム 16. リトル・シングズ 17. キャッスル・イン・ジ・エアー（イクステンデッド・ヴァージョン） 18. ユア・ラヴ・ワズ・スマッシング 19. アイ・キャン't・ゲット・イナフ・オブ・ユー・ベイビー 20. シングズ・クッド・ビー・ソー・ビューティフル		
	CRAMPS			1980	サイコビリー	レコード			
	CRAMPS			1980	サイコビリー	レコード			
	CRASS	ペニゼンピー		1981	パンク	レコード			
	CRASS			1982	パンク	レコード			
	CREAM	フレッシュ・クリーム		1966	ハード ロック＆ヘヴィメタル	レコード	66年作、記念すべきクリームのデビュー・アルバムで歴史的な大名盤。彼等の登場がブルースの復権に繋がり、ライブでの大音響でのプレイがハード・ロック、ヘヴィ・メタルへの礎となったのでした。 グレatham・ボンド・オーガネ化とジョン・メイオール&ブルースプレイヤーズという二つの名門バンドの合体となったこの最強トリオは、最上、精粹という意味を持つクリームと名づけられます。 マディ・ウォーターズ、スキップ・ジェイムス、ウィリー・ディクスン等の古典的ブルースのカヴァーが含まれていますが、よくよく改めて聴いてみると純粋なブルース・バンドではなかった事がわかります。 サイケ、ニュー・ロックの夜明けとなった本作は、ブルースとジャズ的なインプロヴィゼーション、それもトリオによる強力な応酬が画期的で、以降のロック・シーンに与えた影響は計り知れないものでありました。 追加収録されたデビュー・シングル、「包装紙(Wrapping Paper)」ではポップなロック・バンドとしての佇まいが感じられますが、アルバム全体に漂う新感覚はアメリカのサイケ・ムーヴメントに歓迎され、ジャズ的な要素は以降のプログレにも繋がり、ブルースの白人的解釈はブリティッシュ・ハードへと継承されていったわけです。 クラプトンは、この時点では作曲には関わらず、唯一リード・ヴォーカルを聴かせるロバート・ジョンソン作の「Four Until Late」では、力の抜け具合が心地いいカントリー・ナンバーに仕上がっていて、なかなかの異色作だと思われます。	Side A 1. エヌ・エス・ユー (N.S.U.) 2:43 2. スリーピィ・タイム (Sleepy Time) 4:20 3. ドリーミング (Dreaming) 1:58 4. スウィート・ワイン (Sweet Wine) 3:17 5. スプーンフル (Spoonful) 6:30	Side B 1. 猫とリス (Cat's Squirrel) 3:03 2. フォー・アンティル・レイト (Four Until Late) 2:07 3. ローリン・アンド・タンブリン (Rollin' and Tumblin') 4:42 4. アイム・ソー・グラッド (I'm So Glad) 3:57 5. いやな奴 (Toad) 5:11
	CREAM	フレッシュ・クリーム		1966	ハード ロック＆ヘヴィメタル	レコード			
	CREAM	(ベーパーズ・リーブ仕様) フレッシュ・クリーム		1966	ハード ロック＆ヘヴィメタル	CD			
	CREAM	カラフル・クリーム		1967	ハード ロック＆ヘヴィメタル	レコード	67年作。説明不要のロック史に残る大名盤で、クリームのセカンド・アルバム。テクニシャン3人が繰り広げるバトルは、ブルースを土台に進化していったハード・ロックの礎となったのは言うまでもありません。 デビュー・アルバムがポップ市場狙いだったのに対し、本作ではロックのダイナミズムを追求しています。 キャッチーなヒット・シングルを含みながら、パラエティに富んだナンバーが揃い、何度聴いても飽きない構成も見事です。 即興ジャムが繰り広げられる緊迫感ばかりが語られる1枚だという感もありますが、本作以降の英国ロックが、ハード・ロック、アート・ロックやプログレと枝分かれていく事になったのも興味深いところです。	Side A 1. ストレンジ・ブルー (Strange Brew) 2:46 2. サンシャイン・ラヴ (Sunshine of Your Love) 4:10 3. 苦しみの世界 (World of Pain) 3:03 4. 夜通し踊ろう (Dance the Night Away) 3:34 5. ブルー・コンディション (Blue Condition) 6:06	Side B 1. 英雄ユリシーズ (Tales of Brave Ulysses) 2:46 2. スーパラー (SWLABR) 2:32 3. 間違ひそうだ (We're Going Wrong) 3:26 4. アウトサイド・ウーマン・ブルース (OutSide Woman Blues) 2:24 5. テイク・イット・バック (Take It Back) 3:05
	CREAM	カラフル・クリーム		1967	ハード ロック＆ヘヴィメタル	CD			
	CREAM	クリームの素晴らしい世界(銀) studio盤		1968	ハード ロック＆ヘヴィメタル	レコード	1972年3月にポリドール・レコード(アメリカではアトコ・レコード)からリリースされた、イギリスのロックバンド、クリームによるライブ・アルバム。1968年3月9日から10月4日までのライブから選ばれた6曲が収録	Side A 1. ホワイト・ルーム (White Room) 4:58 2. トップ・オブ・ザ・ワールド (Sitting on Top of the World) 4:58 3. 時は過ぎて (Passing the Time) 4:37 4. おまえの言うように (As You Said) 4:20	Side B 1. ねずみといのしし (Pressed Rat and Warthog) 3:13 2. 政治家 (Politician) 4:12 3. ゾーズ・ワー・ザ・デイズ (Those Were the Days) 2:53 4. 悪い星の下に (Born Under a Bad Sign) 3:09 5. 荒れ果てた街 (Deserted Cities of the Heart) 3:38
	CREAM	クリームの素晴らしい世界(金) LIVE盤		1968	ハード ロック＆ヘヴィメタル	レコード	1968年の2枚組アルバム。スタジオ録音とライブ盤の2枚から成る。本作はイギリスで最高3位、アメリカでは1位を獲得し、初めてプラチナディスクを獲得した2枚組アルバムとなった。本作はWheels of Fire (In the Studio)、Wheels of Fire (Live at the Fillmore) の2枚のLPとしてリリースされ、どちらもよく似たカバーアートである。イギリス盤のスタジオ・アルバムはアルミホイル地に黒のプリントがなされ、ライブ・アルバムはスタジオ盤の反転であった。日本盤のスタジオ・アルバムは金ホイル地に黒のプリント、ライブ・アルバムはアルミホイル地に黒のプリントが施されている。バンドのドラマー、ジンジャー・ベイカーはアルバムのためにピアニストのマイク・テイラーと共に3曲を、ベーシストのジャック・ブルースは詩人のビート・ブラウンと共に4曲を共同執筆した。ギタリストのエリック・クラプトンは、2つのカバー曲を選ぶことによって、アルバムに貢献した。 ディスク2にフェリックス・パバルディはジャック・ブルースのハーモニカソロが含まれる「列車時刻」、ジンジャー・ベイカーのドラマがフィーチャーされた「いやな奴」、エリック・クラプトンのギター演奏が引き立つ「スプーンフル」「クロスロード」を楽曲にした	ディスク2：ライブ・アット・ザ・フィルモア Side C 1. クロスロード (Crossroads) 4:13 1968年3月10日、サンフランシスコ、ウィンターランド 2. スプーンフル (Spoonful) 16:43 1968年3月10日、サンフランシスコ、ウィンターランド	Side D 1. 列車時刻 (Traintime) 7:01 1968年3月8日、サンフランシスコ、ウィンターランド 2. いやな奴 (Toad) 16:15 1968年3月7日、サンフランシスコ、フィルモア (2nd show)
	CREAM	(ベーパーズ・リーブ仕様) クリームの素晴らしい世界		1968	ハード ロック＆ヘヴィメタル	CD			

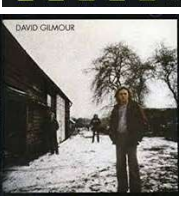
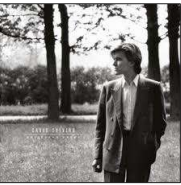
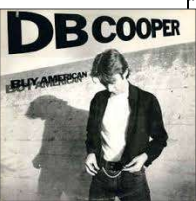
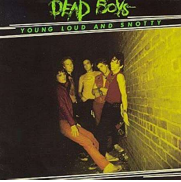
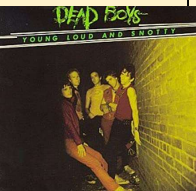
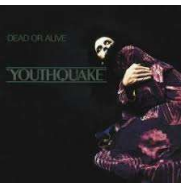
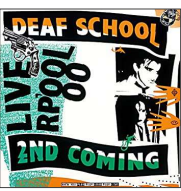
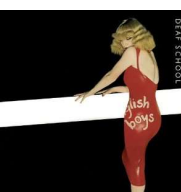
	CREAM	クリームの素晴らしき世界		1968	ハード ロック& ヘヴィメタル	CD			
	CREAM	グッバイ・クリーム		1969	ハード ロック& ヘヴィメタル	CD	69年作、クリームの68年11月の解散後にリリース。号説明不要のロック史に残る大名盤ですが、聴く度に各曲について語りたくなってしまう魅力を持っています。通算4作目となったアルバムですが、未発表のライヴ音源3曲、そして未発表スタジオ・ティク3曲という変則的内容、収録時間約30分という、言わばレコード会社の都合が見えてきそうな1枚ですが、イギリスでは初の1位を記録し、全米でも2位に輝くヒット作となりました。アルバム前半3曲は収録日時、場所等のクレジットがないのですが、「クリームの素晴らしき世界」、「ライヴ・クリーム」同様、フィルモア・ウエストでの音源とされています。特に「フレッシュ・クリーム」収録の「I'M SO GLAD」での凄まじいインプロヴィゼーション大会は圧巻で、このバンドの壮絶なリズム隊のバトルには鳥肌が立つ事請け合いです。スタジオ・ティクのオリジナルとは全く違った印象が強く、ロック界最強トリオの凄みを改めて思い知らされます。前作収録の「POLITICIAN 政治家」にしても、余裕のハード・ロッカーぶりといったバンド・サウンドが見事で、ここで初披露されたのは歴史的にも非常に意味があった。スタジオ・ナンバーは前作のセッション時のアウトテイクなのですが、これがまた聴き応えのあるものとなっています。「BUDGE」は彼等の代表曲にもなった名曲で、クラプトンとジョージ・ハリソンによる共作曲で、ジョージはルアンジェロ・ミステリオソの名前でギターを披露しています。「DOING THAT SCRAPYARD THING」は、ジャック・ブルース作で自身がヴォーカルを担当、ブリティッシュ・ポップ色の強い佳曲となっています。「WHAT A BRINGDOWN」はジンジャー・ペイカー作、やはり自身がヴォーカルを担当、こちらも哀愁テイスト漂うポップ・ナンバーもなっています。非常にコンパクトな内容ながら、ライヴ・バンドとしての凄まじさ、そして解散するにはもったいなかった、という、いかに惜しいかを表している1枚です。	Side A 1. アイム・ソー・グラッド 9:11 2. 政治家 Politician 6:19	Side B 1. トップ・オブ・ザ・ワールド 5:01 2. バッジ 2:45 3. スクラップヤード 3:14 4. ホワット・ア・ブリングダウン 3:56
	CREAM	ライヴ クリーム II		1972	ハード ロック& ヘヴィメタル	レコード	本作は、クリームの1968年3月から10月までライブから選ばれた演奏が収録されています。ライブ・アルバムとしては第2弾にあたり、「White Room」や「Sunshine Of Your Love」などの人気曲が収録されていて、第1弾よりも聴きやすい。聴く側としてはそれが逆にスリリングに感じ、とても興奮します。ジャンルは違えど、やっている事はすごく“ジャズ”ですね。クリームがバンドとして短命だったのも、この演奏を聴けば納得してしまいます。これじゃ続く訳がない。	Side A 1. 荒れ果てた街 (Deserted Cities of the Heart) 4:33 2. ルーム (White Room) 5:40 3. 政治家 (Politician 5:08 4. 英雄ユリシーズ (Tales of Brave Ulysses) 4:46	Side B 1. サンシャイン・ラヴ (Sunshine of Your Love) 7:25 2. ステッピン・アウト (Steppin' Out) 13:38
	CREATION				ロック	CD	THE MARK FOURを前身にデビューを期にバンド名をCREATIONと改名。PLANETレーベルからのリリースが不運の始まりでドイツではそこそこの人気と評価を得たらしいが本国イギリスでは不発に終わる一部のミュージシャンの間では絶大な人気を誇るカルトバンドとして扱われている。そのサウンドは解りやすく言うとなTHE WHOとYARDBIRDSを足した様なサウンドといえれば解りやすいだろうか？ 実際ギタリストのエディー・フリップスはヒート・タウンジェントに見初められTHE WHOのサイドギターに誘われる程であったとか、そしてジミー・ペイジでお馴染みのパイオリンの弓を使ったパフォーマンスもこのバンドが初である、そしてシンプルなビートを核に実験的な要素も加えPOPな面も合わせ持ちながらも全曲完成度が高く当時売れなかったのが不思議なくらい。	1. How Does It Feel To Feel [UK version] 2. Life Is Just Beginning 3. Through My Eyes 4. Ostrich Man 5. I Am The Walker 6. Tom Tom 7. The Girls Are Naked 8. Painter Man 9. Try And Stop Me 10. Biff-Bang-Pow	11. Making Time 12. Cool Jerk 13. For All That I Am 14. Nightmares 15. Midway Down 16. Can I Join Your Band? 17. Uncle Bert 18. Like A Rolling Stone 19. If I Stay Too Long 20. Hay Joe
	CREEDENCE CLEARWATER REVIVAL	バイラー・カントリ		1969年1月5日	アメリカンロック	レコード	1968年10月にハリウッドにあるRCAのレコーディング・スタジオにてセカンド・アルバム『Bayou Country』の制作に取り掛かった。シングル「Proud Mary」をリリース。月末になる頃には両面シングルが全米シングル・チャート入りを果たし、3月には3週間連続で最高2位にランクインした。一週間後にアルバム『Bayou Country』がリリースされた。シングルの勢いに後押しされ、『Bayou Country』は全米アルバム・チャートを着実に昇り続け、4月初旬にはTOP10入りを果たし、5月には7位にランクインした。のちにアイク&ティナ・ターナーもカバーする「ブラウド・メアリー」が大ヒットし、それまで類を見ない彼らの強烈なギター・サウンドのロックが王道を歩むこととなった。ジョン&トム・フォガティ兄弟を中心に、1967年、カリフォルニアで結成されたC. C. R. (クリーデンス・クリアウォーター・リヴァイヴアル)は、米国南部原産のブルース、R&B、カントリ、ゴスペルなどを吸収し自らの音楽として昇華させた。これがアメリカン・ロックの土台とも言われており、偉大な功績を残したバンドとの認識もある。	Side A 1. Born On The Bayou ボーン・オン・ザ・バイオー 2. Bootleg ブートレッグ 3. Graveyard Train 墓場行きの列車	Side B 1. Good Golly Miss Molly グッド・ゴリィ・ミス・モリー 2. Penthouse Pauper 天井小屋の乞食 3. 'Proud Mary' ブラウド・メアリー 4. Keep On Chooglin' キープ・オン・チューグリン
	CREEDENCE CLEARWATER REVIVAL	(ペーパーズリープ仕様) バイラー・カントリ		1969年1月5日	アメリカンロック	CD			
	CREEDENCE CLEARWATER REVIVAL	(ペーパーズリープ仕様) グリーン・リバー		1970年5月22日	アメリカンロック	CD	イギリスのLPチャートでも初めてTOP20入りを果たし、ベスト・セラーになった3枚目のアルバム。このアルバムを聴けば、当時のCCRが絶好調だったこと、そして同世代のアメリカのミュージシャン/グループの中でも群を抜くブルース・ロックを生み出していたことがわかる。セールスも好調で、アメリカでは1970年にゴールド・ディスクに、1990年にはトリプル・プラチナ・ディスクに認定されている。そして1970年、いよいよイギリスでもクリーデンス・クリアウォーター・リヴァイヴアルの快進撃が始まった。この年、イギリスで彼らは4曲のヒット曲を放ち、内2曲「Travelin' Band」と「Up Around The Bend」はトップ10入りを果たしている。そして9月には『Cosmo's Factory』で遂にLPチャートの首位を射止めたのだった。内容は、1. はアルバムと同時にシングルで発表された曲で彼らのイメージそのままの土臭いロック・ナンバー。シンプルな演奏ながら非常に濃厚な味を持った曲で、一度聞いたら絶対に忘れられない名曲である。2. はカントリ・ロックだが、そう呼ぶにはズッシリと重い仕上がりで大凡それらのイメージは感じられない。ベースのフレーズが印象的でまたその音色も素晴らしい。3. は南部ブルースを下敷にしたロック・ナンバーでこちらも彼らのイメージ通りの佳曲。チョーキングで引っぱるギターがここまで続くのに飽きない・・・というよりもそれを意識させない演奏もジョンのヴォーカルあってのものか？4. はカントリ／ブルース系のバラードの名曲。農場でギターを掻きむしりながら歌っている姿が自然に思い浮かぶ。楽曲は前作以上に引き締まっており、全く無駄のない厳選されたものが詰まっている。おそらく本作を受け付けなければC.C.R.はダメだろうが、逆に言えば本作の良さが分かなければ青二才と断言することも可能な絶対的な名盤だと思う。	Side A 1. グリーン・リヴァー 2. コモーション 3. 墓石の影 4. すべての人に歌を	Side B 1. バッド・ムーン・ライジング 2. ローダイ 3. クロス・タイ・ウォーカー 4. 黒い陰謀 5. ザ・ナイト・タイム・イズ・ザ・ライト・タイム
	CREEDENCE CLEARWATER REVIVAL	(ペーパーズリープ仕様) グリーン・リバー		1970年5月22日	アメリカンロック	CD	内容は、1. はアルバムと同時にシングルで発表された曲で彼らのイメージそのままの土臭いロック・ナンバー。シンプルな演奏ながら非常に濃厚な味を持った曲で、一度聞いたら絶対に忘れられない名曲である。2. はカントリ・ロックだが、そう呼ぶにはズッシリと重い仕上がりで大凡それらのイメージは感じられない。ベースのフレーズが印象的でまたその音色も素晴らしい。3. は南部ブルースを下敷にしたロック・ナンバーでこちらも彼らのイメージ通りの佳曲。チョーキングで引っぱるギターがここまで続くのに飽きない・・・というよりもそれを意識させない演奏もジョンのヴォーカルあってのものか？4. はカントリ／ブルース系のバラードの名曲。農場でギターを掻きむしりながら歌っている姿が自然に思い浮かぶ。楽曲は前作以上に引き締まっており、全く無駄のない厳選されたものが詰まっている。おそらく本作を受け付けなければC.C.R.はダメだろうが、逆に言えば本作の良さが分かなければ青二才と断言することも可能な絶対的な名盤だと思う。	1. グリーン・リヴァー 2. コモーション 3. 墓石の影 4. すべての人に歌を 5. バッド・ムーン・ライジング 6. ローダイ 7. クロス・タイ・ウォーカー 8. 黒い陰謀 9. ザ・ナイト・タイム・イズ・ザ・ライト・タイム	
	CREEDENCE CLEARWATER REVIVAL	ウィリー・アンド・ザ・ブアボーイズ		1969年11月2日	アメリカンロック	レコード	架空のバンド、“ウィリー・アンド・ザ・ブアボーイズ”としてストーリーを展開するコンセプトアルバムとなった4thアルバム。乾いた土臭い歌と演奏はスワンプやサザン系のロックの範疇に入るものかもしれませんが、エネルギッシュで力強いジョンのヴォーカルには本心に魅力的。なお「Before You Accuse Me」は後のエリック・クラプトンのアンブラグドなカバーが有名である。「My Baby Left Me」も「Arthur Crudup」のトラディショナルなR&B・ポップだが、これも上手くアメリカン・ロック・テイストでアレンジ、更に「Motown」ミュージックでスモーキー・ロビンソン(＋ミラクルズ)のオリジナル・ナンバーの「I Heard It Through the Grapevine」(66年)も、CCRはロック・テイストでカバーしている。なお後者は後のマービン・ゲイのフィーチャーが有名でスローな8ビートのR&Bスタイルで、CCRは基本的にこのバージョンを踏襲し印象である。以上の4曲のR&Bナンバーのカバーは何れもロック・テイストでこれら以外はCCRのオリジナルだが、ややハード・ロック・テイストの「Run Through the Jungle」、「Up Around the Bend」のほかは、前掲カバーに併せたようなトラディショナルなアメリカン・ロック・テイストがある。個人的にはウエスト・コースト・サウンド感溢れる「Who'll Stop the Rain」がベスト・ナンバーである。商業的には最も成功したスタジオ・アルバムの1つ。大ヒット・シングル「ダウン・オン・ザ・コーナー」(全米3位)、「フォーチュネイト・サン」(全米14位)を送り出し、全米3位を記録。	Side A 1. ダウン・オン・ザ・コーナー 02:47 2. 青空の使者 02:56 3. コットン・フィールズ 02:53 4. ブアボーイ・シャッフル 2:25 5. フィーリン・ブルー 05:03	Side B 1. フォーチュネイト・サン 02:20 2. ドント・ルック・ナウ 02:10 3. ザ・ミッドナイト・スペシャル 04:13 4. サイド・オー・ザ・ロード 03:24 5. エフィジー 06:31
	CREEDENCE CLEARWATER REVIVAL	コスモズ・ファクトリー		1970年7月25日	アメリカンロック	レコード		Side A 1. ランブル・タンブル 2. ビフォア・ユー・アキユーズ・ミー 3. トラヴェリン・バンド 4. ウービー・ドゥービー 5. ルッキン・アウト・マイ・バック・ド・ア 6. ジャングルを越えて	Side B 1. アップ・アラウンド・ザ・バンド 2. マイ・ベイビー・レフト・ミー 3. フール・ストップ・ザ・レイン 4. 悲しいうさ 5. 光りある限り
	CRETONES	激愛そしてモダン・ロマンス		1980	ニューウェーブ	レコード	クリトーンズはマーク・ゴールドンバーク(a)、ピーター・バーンスタイン(b)、スティーヴ・レオナード(kyd)、スティーヴ・ピアーズ(ds)の4人組。本盤のプロデュースも手掛けているピーター・バーンスタインがカーラ・ポノ、ケニー・エドワーズが組んでいたプリンドルの周辺にいたことからランダ・ロンシュタット「激愛」へのサポートとクリトーンズ(マーク)の楽曲提供で大ヒットしたことで注目されたバンド。このアルバムでは全曲が素晴らしい、ニューウェイブなポップサウンドにチープなオルガンに乗っかって鮮烈なサウンドで最高傑作と言っても良いくらいにマークの才能が素晴らしいです。この後にセカンドアルバムを出しますがその後は売れず解散してしまうのがもったいないバンドです。その後、マークがソロアルバムを出し、日本の邦題「靴を持った男」でサントリー・ロイヤルやペンギンズ・パー等々のCMに採用されることになり、やはり彼の才能は素晴らしいと改めて評価したい。	Side A 1. Real Love 3:13 2. Everybody's Mad At Katherine 3:21 3. I Can't Wait 2:50 4. Justine 4:05 5. Mad Love 3:40	Side B 1. Cost Of Love 2:55 2. Thin Red Line 3:09 3. Ways Of The Heart 3:59 4. Mrs Peel 3:06 5. Here Comes The Wave 3:52
	CROSBY,STILLS,NASH	クロスビー・スティルス・ナッシュ		1969	フォークロック	レコード	元ザ・バーズのデヴィッド・クロスビー、元ホリーズのグラハム・ナッシュ、元パッファロー・スプリングフィールドのスティヴン・スティルスにより1968年結成。69年1stアルバム『クロスビー、スティルス & ナッシュ』を発表。見事なヴォーカル・ハーモニー、アコースティック・ギターと変則チューニングを多用したサウンドで新風を巻き起こした。変化に富んだアコースティック・サウンド！スケール溢れるコーラス！その後のカリフォルニア・サウンドを決定づける3人組。CSNの大旋風！ロック史の60年代に輝くスーパー・グループの大ヒット・デビュー・アルバム！	Side A 1. 1.組曲:青い眼のジュディ 7:24 2. マラケッシュ行急行 2:38 3. グウィニヴィア 4:39 4. 泣くことはないよ 2:44 5. プリ・ロード・ダウンズ 2:57	Side B 1. 木の舟 5:27 2. 島の女 2:38 3. どうにもならない望み 2:41 4. ロング・タイム・ゴーン 4:17 5. 49のバイ・バイズ 5:05
	CROSBY,STILLS,NASH&YOUNG	デジャブ		1970	フォークロック	レコード	汗と土の匂いがしてくるようなブルース、アコースティック・ギターのインゼントな響きと抜群のコーラス・ワークが印象的なフォーク・ソング、ハードなドライブ感を押し出したロック・チューン、古く良きアメリカを想起させる牧歌的なカントリ・ナンバー。あまりにもバラエティに富んだサウンドは、まるでアメリカの音楽の歴史を1枚のレコードに凝縮したかのような、芳醇(ほうじゅん)な香りを放っている。デヴィッド・クロスビー(元バーズ)、スティヴン・スティルス(元パッファロー・スプリングフィールド)、グラハム・ナッシュ(元ホリーズ)の3人によるグループに、ニール・ヤングが加わって制作された2ndは、音楽的な完成度の高さはもちろん、1970年という時代の空気をはっきりと反映させた作品だ。このアルバムには、ヒッピー、ラブ & ピース、ウッドストックといったフレーズとともに、体制から逃れ、ある種の理想郷を作り上げようとした60年代カウンター・カルチャーの幻想と現実が、美しくもはかないサウンド・イメージのなかで描かれている。本作の持つ夢のような美しさと素朴な力強さを見事にデザインしたジャケットもすばらしい。	Side A 1. キャリー・オン - 4:26 2. ティーチ・ユア・チルドレン - 2:53 3. カット・マイ・ヘア - 4:31 4. ヘルプレス - 3:33 5. ウッドストック - 3:54	Side B 1. デジャヴ - 4:12 2. 僕達の家 - Our House - 2:59 3. 4・20 - 2:04 4. カントリー・ガール - 5:11 5. エリパディ・アイ・ラヴ・ユー - 2:21

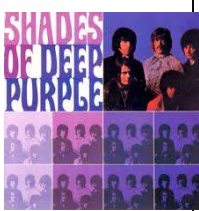
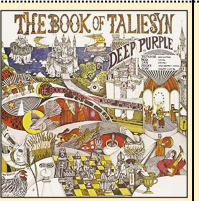
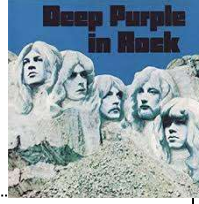
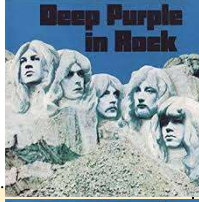
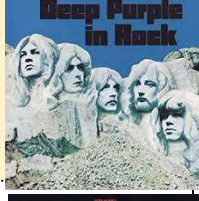
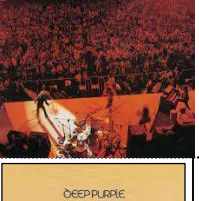
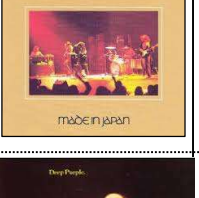
	CULT 【Southern Death Cult】	サザン・デス・カルト		1983	パンク	レコード	ボンディヴ・ハンゾウ御三家と称されたSouthern Death Cultは、81年にイギリスのブラッド・ブォードで結成されたバンドである。イアンの伸びのあるヴォーカルはまだ荒削りではあるものの、当時からその片鱗を十分に同わせ、ポジティブ・パンクと呼ばれたバンド達の中でも頭一つ飛びぬけた印象を与える。そして、バックの土着的で呪術的なリズムにやや単調なギターが生み出すサイケデリックなサウンドは、今なおその輝きを失っておらず、パンクの持っていた荒々しさの中にも新たな要素に満ちている。 残念ながら、Southern Death Cultの残された音源は、正確にはフル・アルバムではない。制作途中で解散をしたため、彼らの唯一のアルバムはシングルやライブ音源を寄せ集めたものしか存在しないのである。しかし、それでも彼らの持つ「勢い」が十分に感じ取られる傑作であることは間違いなく、ポジティブ・パンクといったカテゴライズの壁を打ち破る力がそこにはみなぎっている。	Side A 1. オール・グローリー All Glory 4:34 2. ファットマン Fatman 3:48 3. トゥデイ Today 2:44 4. ファルス・フェイスズ False Faces 3:49 5. ザ・クリプト The Crypt 3:05	Side B 1. クロウ Crow 1:46 2. フェイス Faith 4:11 3. ヴィヴィ・セクション Vivisection 3:11 4. アパッチ Apache 2:41 5. モヤ Moya 4:43
	CULT	ドリームタイム		1984	パンク	レコード	Southern Death Cult からバンド名改めての1984年発表アルバム。Cultの最高傑作と言う人が多いアルバム。特に1、は鳥肌ものです。2は今でもライブで演奏することもある人気曲。5もGOOD。どの曲を聴いてもカッコ良く、イアンの歌のうまさを感じる。このアルバムのビリーのギターがとても挑戦的というか、アイデアにあふれていて好きです。イアンの存在感溢れる声とビリーのノイズに浮遊するギターが重なりあって独特のギリギリ感が好きだ。	Side A 1. Horse Nation3:45 2. Spiritwalker3:40 3. 83rd Dream3:40 4. Butterflies2:59 5. Go West (Crazy Spinning Circles)4:00	Side B 1. Gimmick3:36 2. A Flower In The Desert3:42 3. Dreamtime2:49 4. Rider In The Snow3:13 5. Bad Medicine Waltz5:57
	CULT	ラヴ		1985		レコード	85年作。ザ・カルト名義としてはセカンド・アルバム。彼等のダークでミステリアスな魅力が詰まった本作は、ゴリゴリのメタル路線よりバンドの個性がはっきりとしている。彼等の進むべき方向性がすぐに見え隠れしていますが、英国特有の陰りとイアン・アストベリーのぬちっこいヴォーカルがゴス・パンクの名残りが感じられ、ビリー・ダフィーのギターもなめらかな音色を前面に出しています。 80年代英国ニュー・ウェイヴ風のダークさが好みの方には、かなりおすすめの1枚です。シングルとなった「Rain」では、当時のカルトのその妖しさが堪能できると思います。	Side A 1. Nirvana 2. The Big Neon Glitter 3. Love 4. Brother Wolf; Sister Moon Rain	Side B 1. The Phoenix 2. The Hollow Man 3. Revolution 4. She Sells Sanctuary 5. Black Angel
	CULT	エレクトリック		1985	ハード ロック& ヘヴィメタル	レコード	87年作、ザ・カルト名義としては3作目。彼等がメインストリームの王道ハード・ロック・バンドとして認知された出世作。プロデュースのリック・ルービンは本作を機に、ヒップ・ホップからいよいよメタルへの接近を果たした。ツェッペリン、AC/DC直系のキャッチーなリフと、イアン・アストベリーの粘着性ヴォーカルが独特のノリを生み、80年代的メタルとして機能しています。今だから言えますが、当時ハード・ロック、メタル・ファンは、ポップ化した甘い世界から、元ゴス・バンドによって救済された、という面白い状況があったわけです。本作、そしてカルトの活躍により、AC/DCが再び待望されたのも事実だと思います。 英国産のタメと陰り、アメリカンのカラッとしたダイナミズムが理想的に融合した大名盤です。	Side A 1. Wild Flower 2. Peace Dog 3. Lil' Devil 4. Aphrodisiac Jacket 5. Electric Ocean 6. Bad Fun	Side B 1. King Contrary Man 2. Love Removal Machine 3. Born To Be Wild 4. Outlaw 5. Memphis Hip Shake
	CULT	(ペーパーズ リープ仕様) ソニック・テンプル		1989	ハード ロック& ヘヴィメタル	CD	89年作、ザ・カルトの通算4作目にして彼等の最も有名なアルバムとなった1枚です。 前作の「ELECTRIC」でのHR/HMバンドとしての覚醒から2年、更に研ぎ澄まされ、そして太くなった印象があります。プロデュースはリック・ルービンからポップ・ロックに交替し、ここから一気に80年代メタルがヘヴィでグルーヴ感の強い質感を得ていくのに貢献をしたと言ってもいいのではないのでしょうか。MOTLEY CRUE、METALLICAの作品で大物プロデュース者として大成する以前のポップ・ロックの分厚いサウンド・プロダクションは、すでにここで確立され、自身のキャリアを決定づけるアルバムとしてポップ本人も公言している様です。オープニングの「SUN KING」からカルト特有の妖しさが全開、速さよりも確実なインパクトを残すパンチ力に溢れたハード・ロックを展開してくれています。続く「FIRE WOMAN」、「AMERICAN HORSE」でアクセル全開となり、彼等が徹底したアメリカン・ハード指向に転じた事を思い知らされます。 同時期のガゼスの大ブレイクも手伝い、本作が化粧品と甘い香りに包まれたポップ・メタルの衰退を後押ししたのでした。イアン・アストベリーのヌメとしたヴォーカルが僅かにプリティッシュ臭を残すものの、アルバム後半ではBON JOVIが持ち合わせる土臭さにも通じる側面を披露、アメリカのバンドと言われても全くおかしくないサウンドとなっています。初期の彼等の音を知る人にとっては別バンドの様に思えるのかもしれませんが、脳天気なバーティー・ロックになっていゝるあの妖しさは、決してなく、むしろ新たな境地を開いていくことに必要な要素は随分と入っている盤です。	1. サン・キング 2. ファイアー・ウーマン 3. アメリカン・ホース 4. エディ(チャオ・ベイビー) 5. スウィート・ソウル・シスター 6. ソウル・アサイラム 7. ニューヨーク・シティ 8. オートマティック・ブルース 9. ソルジャー・ブルー 10. ウェイク・アップ・タイム・フォー・フリーダム 11. メディシン・トレイン	
	Culture Club	ミステリー・ボーイ		1982	ニュー ウェイブ	レコード	ボーイ・ジョージの妖艶なルックスが話題を呼び、瞬く間にニュー・ロマンティックスを代表するグループとなった彼らのデビュー作。全米14位・全英5位をランク。特に、全世界で650万枚売り上げ全米1位・全英2位の大ヒットとなった「君は完璧さ」をはじめ、「タイム」(全米2位)、「君のためなら」(全米9位)の3枚のシングルを全米トップ10内にランクインさせ、ザ・ビートルズ以来となるデビュー・アルバムから3曲のトップ10ヒットを放った。アイドル的な人気の方で、レゲエやソウルをベースにしたポップ・サウンドはポスト・パンク〜ニュー・ウェイヴのファンからも支持された。ブラック・ミュージックのエッセンスを取り入れたポップなサウンドを聴かせるこのアルバムはボーイジョージの音楽センスが素晴らしく、人気とビジュアルだけで固唾けてしまうのが勿体ない程に素晴らしいアルバムだ。	Side A 1. ホワイト・ボーイ 2. 知っているくせに (ユー・ノウ・アイム・ノット・クレイジー) 3. 君のためなら (アイル・タンブル・4・ヤ) 4. おおい召すまに(テイク・コントロール) 5. ラヴ・トゥイスト	Side B 1. ミステリーボーイ 2. アイム・ザ・ボーイ 3. あしたのボクは？ (アイム・アフレイト・オブ・ミー) 3. 悲しきホワイト・ボーイズ(ホワイト・ボーイズ・キャン・コントロール・イット) 4. 君は完璧さ(当初→冷たくないで)
	Culture Club	タイム		1983	ニュー ウェイブ	レコード	日本独自の企画の「ビッグラベル」ピクチャー。日本未発表シングル曲「タイム」とロングヴァージョン「ホワイトボーイ」「あしたのボクは？」、ダブヴァージョン「君は完璧さ」を4曲収録の12 inchシングル。	Side A 1. タイム 2. ホワイトボーイ	Side B 1. あしたのボクは？ 2. 君は完璧さ
	Culture Club	カラー・バイ・ナンバース		1983	ニュー ウェイブ	レコード	83年作、カルチャー・クラブのセカンド・アルバム。UK NEW WAVE、更にはポップ・ミュージック史の中でもっとも音楽的に語られ続けている大名盤だ。ニューロマンティックという過性のブームが残したのは、キラキラした衣装と化粧品、グラマラスな虚像であった。彼等のヴィジュアルとキャラクターは、音楽性を正当評価する事がないまま、大衆の中で膨れ上がっていた。ただ本作を聴き直してみても、懐かしさというよりは常に新鮮な甘酸っぱさと心地良さを感じるのには本当に軌跡的。これはビートルズやクイーンとはまた違ったクラシック要素であると思われる。メロディの素晴らしいに加え、バンド・サウンドとアレンジが普遍性を持ったポップ・ミュージックのセオリーを守っていたからだと思います。同時期のニュー・ウェイヴがエレ・ポップ的要素がかなり強かったのに対し、本作ではストリングス、ピアノ、ホーン・セクション等の生楽器の温もりを前面に出していたのが大きな要因ではないのでしょうか。加えてソウルフルなヴォーカル、そして見事としか言いようのないプロデュース。30年以上前のアルバムだが、真実に本作を英国ロックの	Side A 1. カーマは気まぐれ 2. イッツ・ア・ミラクル 3. ブラック・マネー 4. チェンジング・エヴリ・デイ 5. ザッツ・ザ・ウェイ	Side B 1. チャーチ・オブ・ザ・ポイズン・マインド 2. ミス・ミー・ブラインド 3. ドント・ターク・アバウト・イット 4. スターマン 5. ヴィクティムズ(いつもふたりで)
	Culture Club	カラー・バイ・ナンバース		1983	ニュー ウェイブ	CD			
	Culture Club	ウェイキング・アップ・ウィズ・ハウス・オン・ファイアー		1984年10月	ニュー ウェイブ	レコード	1984年リリース。最後に日本語で「センソウハンタイ」と歌われる「戦争のうた」(全米17位・全英2位)や、日本の化粧品品のCMで使われた「ドント・トーク・アバウト・イット」を含むサード・アルバム。ボーイ・ジョージのソウルフルなヴォーカルに深みが増し、それを引き立てるコーラス隊の存在も光る。ポップな面は維持しつつも、スムーズかつ洗練されたサウンドが、極上のブルー・アイド・ソウル・アルバムへと昇華させている。全米26位・全英2位を獲得。	Side A 1. デインジャラス・マン 4:13 2. 戦争のうた(The War Song)4:11 3. 僕、ついてない(Unfortunate Thing)3:08 4. 夜は犯罪の時(Crime Time) 2:57 5. ミステイク・ナンバー 3 4:33	Side B 1. ザ・ダイヴ 3:46 2. メダル・ソング(The Medal Song) 4:13 3. ドント・ターク・アバウト・イット 3:17 4. マスカン人形(Mannequin) 2:53 5. ハロー・グッドバイ 3:22
	Culture Club	ラグジャリー・トゥ・ハートエイク		1986年	ニュー ウェイブ	レコード	1986年リリース。4thアルバム。デビュー作から手がけてきたスティーヴ・レヴィンから、名匠アリフ・マーディンにプロデュースをバトンタッチ。軽快なダンス・チューン「ムーヴ・アウェイ」をはじめ、ダンサンプルなサウンド指向が打ち出され、本作の前年にアリフが手がけたスクリットィー・ポリッティの「キュービッド&サイケ85」との近似性を感じさせる。本作発表の1年後、バンドは解散を表明。ボーイ・ジョージはソロ活動をスタートさせる。	Side A 1. ムーヴ・アウェイ 2. 僕の折り 3. ワーク・オン・ミー・ベイビー 4. ガストー・プラストー 5. ヘヴンズ・チルドレン	Side B 1. サンキュー・ウーマン 2. リーズン 3. 夢の国アメリカ 4. カム・クリーン 5. セクシュアリティ
	Culture Club	ディス・タイム		1995	ニュー ウェイブ	CD	カルチャー・クラブのベスト盤。『カーマ・カメレオン』『君は完璧さ』といった代表曲に加え、サントラ「エレクトリック・ドリームズ」への提供曲「ラヴ・イズ・ラヴ」、「アイル・タンブル・フォー・ヤー」の12インチ・リミックスなどを含む全14曲収録を収録した1995年制作のベスト・アルバム。大傑作「カラー・バイ・ナンバース」からの曲が多いのだが、8曲目の「ムーヴ・アウェイ」などの後期の佳曲にも注目したい。また、隠れた名曲 10曲目の「ラヴ・イズ・ラヴ」が入っているという点で、また初心者にはヒット曲をまとめて聴けるという点で、このベスト盤の存在価値がある。	1. カーマ・カメレオン 2. チャーチ・オブ・ザ・ポイズン・マインド 3. ミス・ミー・ブラインド 4. タイム 5. イッツ・ア・ミラクル 6. ブラック・マネー 7. 君は完璧さ	8. ムーヴ・アウェイ 9. アイル・タンブル・フォー・ヤー 10. ラヴ・イズ・ラヴ 11. 戦争のうた 12. ヴィクティムズ 13. アイル・ダンブル・フォー・ヤー 14. イッツ・ア・ミラクル ミス・ミー・ブラインド
	CURE	日本人の囁き		1983	ニュー ウェイブ	CD	ザ・キュアーが「ポップ期」の1982〜83年にリリースしたオリジナルアルバム未収録のシングル曲やカップリング曲を収録した日本特別企画編集集。	1. レッツ・ゴー・トゥ・ベッド 2. ドリーム 3. ジャスト・ワン・キス 4. アップステアーズ・ルーム 5. ウォーク 6. スピーク・マイ・ランゲージ 7. ラ・メント 8. ラヴキャッツ	
	CURE	ザ・トップ		1984年	ニュー ウェイブ	レコード	1984年にリリースした5枚目のアルバム。前作『ボルノグラフィー』からおよそ2年のブランクを挟み、5人編成で活動を再開した新生キュアーのアルバム。全英アルバム・チャートで10位。2nd「セプテンティー・セコンズ」3rd「フェイス」を、キュアーの第一期の頂点と考えるファンは多い。音数の少ない構成で空間的に感じられる音像に、ロバートの喉を詰まらせたような高音Vo.が絡まってくるスタイルは、バンド・アンサンブルとして完成されていた。だが、大衆に強くアピールするポップ性という面では、決定的に押し出しの強さが欠けていた。いや、そもそも広く大衆に受け入れられようとしてはいないバンドだったのだろう。それが、メンバーの相次ぐ脱退によって、大きく路線変更をしていかざるを得なくなった。一つ大きな影響は、ロバート・スミスがスージー&ザ・バンシーズの正式ギタリストになったことによるものだろう。とにかく、キュアーは、メジャー街道へと転進した。これまでのキュアーとは別物と考えていい。第二期キュアーである。本作に収録されている「キャタピラー」は、MTVで何度も放映され、先のシングル「ラヴキャッツ」のプロモと合わせ、ロバート・スミスというキャラクターまでブレイクさせた。	Side A 1. シェイク・ドッグ・シェイク 2. バードマッド・ガール 3. ウェイリング・ウォール 4. ギヴ・ミー・イット 5. ドレッシング・アップ	Side B 1. キャタピラー 2. ビッキー・イン・ザ・ミラー 3. エンブティー・ワールド 4. パナナフィッシュボーイズ 5. ザ・トップ

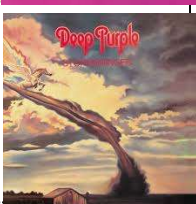
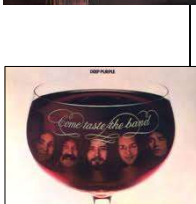
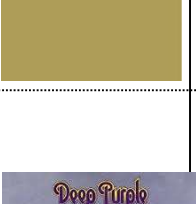
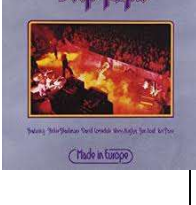
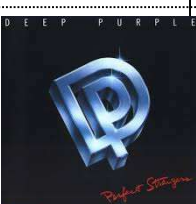
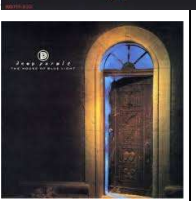
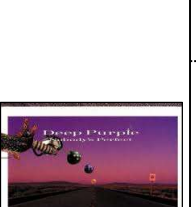
CYNDI LAUPER	N.Y.ダンステリア		1983年10月14日	ポップス	レコード	1983年リリースのソロ・デビューアルバム。グラミー賞で最優秀アルバム・パッケージ賞を受賞し、新しいものを求めていたアメリカの音楽ファンは彼女を受け入れ支持し、結果、女性ヴォーカルの新境地を開いたと言っても良い。アルバムは全米4位、カナダ1位と各国で大ヒットし、アルバムからシングルカットし、「ガールズ・ジャスト・ワナ・ハヴ・ファン」全米2位、「タイム・アフター・タイム」全米1位、「シー・バップ」全米3位、「オール・スルー・ザ・ナイト」全米5位と4曲連続で5位以内を獲得した他、「マナー・チェンジズ・エヴリシング」が全米27位とヒット曲が出たモンスターアルバム。「タイム・アフター・タイム」はロックのスタンダードとして後世に残る名曲である。ファーストアルバムでこんな名曲を残してしまうのだから彼女は時代を作ったミュージシャンである。	Side A 1. マナー・チェンジズ・エヴリシング 5:05 2. ガールズ・ジャスト・ワナ・ハヴ・ファン 3:58 3. ホエン・ユー・ワー・マイン 5:06 4. タイム・アフター・タイム 4:03	Side B 1. シー・バップ 3:51 2. オール・スルー・ザ・ナイト 4:32 3. ウィットネス 3:40 4. アイル・キス・ユー 4:12 5. ヒーズ・ソー・アンジュアル 0:45 6. イエー、イエー 3:19	
CYNDI LAUPER	トウルー・カラーズ		1986年9月	ポップス	レコード	本作は、シンディ・ローパーが1986年の秋に発表したセカンド・アルバム。前作は映画「グーニーズ」のサウンドで、これが第2弾になる。デビュー以来彼女の存在は確固たるものとなっており、「トウルー・カラーズ」が全米No1、セカンド・シングル「チェンジ・オブ・ハート」13位、マーヴィン・ゲイのカヴァー「ホワッツ・ゴーイン・オン」12位とコンスタントにヒットを飛ばし進化をファンにアピールしている。「メイビー・ヒール・ノウ」は、かつてローパーが在籍していたバンド「ブルー・エンジェル」のアルバム『Blue Angel』(1980年)収録曲のリメイク。「ホワッツ・ゴーイン・オン」はマーヴィン・ゲイのカヴァー。「トウルー・カラーズ」は、既にマドンナの「ライク・ア・ヴァージン」等を手かけたソングライター・コンビ、トム・ケリーとビリー・スタインバークが書き下ろした曲で、本作が初出の曲としては唯一、ローパーがソングライティングに関与していない。全米最高4位を記録し、各国で大ヒットした。	Side A 1. チェンジ・オブ・ハート - 4:24 2. メイビー・ヒール・ノウ - 4:27 3. ボーイ・ブルー - 4:46 4. トウルー・カラーズ - 3:47 5. 嵐の中の静けさ “Calm Inside the Storm” - 3:54	Side B 1. ホワッツ・ゴーイン・オン - 4:43 2. アイコ・アイコ - 2:04 3. ザ・ファラウェイ・ニアバイ - 2:59 4. 911 - 3:16 5. ワン・トラック・マインド - 3:42	
CYNDI LAUPER	グレイテスト・ヒッツ		1994	ポップス	CD	1994年に発表されたベスト・アルバム。1970年代後半、バンドのバググ・ラウンド・シンガーやリードシンガーとして働き、喉を酷使し声帯に損傷を受け、暫く音楽活動を休止するも歌声を取り戻し、自身のバンド・ブルー・エンジェル(Blue Angel)を結成するも2年程で解散。彼女は自己破産を申請し、小売店で働き始め、生活のためにまた歌い始める。 1983年アルバム『シーズ・ソー・アン・ユージュアル/N.Y.ダンステリア』でソロデビュー。先行シングル「ガールズ・ジャスト・ワナ・ハヴ・ファン」全米2位となり、アルバムは全米4位、カナダでは1位、日本でも7位を記録する大ヒットとなり、その後シングル・カットされた「タイム・アフター・タイム」は1984年に1位を獲得し、「シー・バップ」は全米3位、「オール・スルー・ザ・ナイト」は全米5位、「マナー・チェンジズ・エヴリシング」は全米27位を記録しアルバムから5曲のヒットナンバーを叩き出した。当時彼女は30歳で運送きのスーパースターの始まりとなった。その他「アイム・スチル・ア・ロマンティック・ガイ」、「ガールズ・ジャスト・ワナ・ハヴ・ファン」、「ホワッツ・ゴーイン・オン」など全12曲を収録。	1アイム・ゴナ・ビー・ストロング 2ガールズ・ジャスト・ワナ・ハヴ・ファン 3マナー・チェンジズ・エヴリシング 4タイム・アフター・タイム 5シー・バップ 6オール・スルー・ザ・ナイト 7チェンジ・オブ・ハート 8トウルー・カラーズ 9ホワッツ・ゴーイン・オン		
DAMNED	地獄に落ちろ野郎ども		1977年1月	パンク	レコード	デビュー・シングル「ニュー・ローズ」(1976年)に続いて発表された作品で、イギリスのパンク・ロック・シーンにおける初のアルバムとされている。プロデューサーはあのバブルロックの大御所のニック・ロウが担当でダムドの勢いや本物感を出し切ったパンクロックまたはダムドアルバムの中でも最高傑作に挙げられる。これを聴かずにパンクは語れないほど価値がある。本作の発表と同時期に、「ニート・ニート・ニート」がバンドのセカンド・シングルとして発表された。本作の邦題は、グループ名「The Damned(ダムド)」と同じ題の映画『The Damned』の邦題「地獄に堕ちた勇者ども」に由来している。 1曲目の「Neat Neat Neat」は、スピード感ある、パンクというイメージにぴったりな曲。ちなみに、この曲の日本盤シングルの邦題は「嵐のロックン・ロール」だった。また、12曲目の「I Feel Alright」は、デトロイト・ロックを代表するThe Stoogesの2ndアルバム「Fan House」(1970年)収録の「1970」を改変したもので、イギー・ポップ、MC5、アリス・クーパーに代表されるデトロイト・ロックが、Damnedや、当時のロンドン・キッズ達に大きな影響を与えたと推察します。とにかく最初から最後まで一気にたたみかけるハチャメチャなサウンドは素晴らしい一言！ このアルバムはUKパンクの第一波として歴史的な使命を果たした名盤で、UKパンクを知るには、欠かす事のできない1枚です。	Side A 1. ニート・ニート・ニート - “Neat Neat Neat” - 2:42 2. ファン・クラブ - “Fan Club” - 2:55 3. アイ・フォール - “I Fall” - 2:05 4. ボーン・トゥ・キル - “Born to Kill” - 2:37 5. スタップ・ユア・バック - “Stab Your Back” (Rat Scabies) - 0:58	Side B 1. ニュー・ローズ - “New Rose” - 2:42 2. フィッシュ - “Fish” - 1:38 3. シー・ハー・トゥナイト - “See Her Tonite” - 2:28 4. ワン・オブ・ザ・ツウ - “1 of the 2” - 3:07 5. ソー・メスト・アップ - “So Messed Up” - 1:51	
DAMNED	地獄に落ちろ野郎ども		1977年1月	パンク	レコード				
DAMNED	地獄に落ちろ野郎ども		1977年1月	パンク	CD				
DAMNED			1977年11月	パンク	CD	前作と同年に発表された2作目。プロデュースはピンク・フロイドのニック・メイスン。本作発表後、ラットが抜けてジョン・モス(ex-ロンドン)が参加するけどブライアンも脱退してバンドは一時解散。ラウドな前作に比べてスカッとした音作りで、パンク・チューンが迫力にかけられるためか比較的地味な扱いの本作。興味深いのは、メロディやギターの色音が既に初期パンクからはみ出しており、初期のワイヤーやラフト・レコード(これもあくまで初期ね)のアーティストみtainな曲も混じっているという、この人達のセンスと才能の幅を感じさせる1枚である。 パンク・アルバムとして聴くと、彼等本来のメロディ・センスの良さが災いして余計、荒々しさが削がれるという結果に結び付いており、急いで作り過ぎちゃった感是否めず星は渋めに付けてある。本作で初期パンク・バンドとしてのダムドは一旦終焉を迎えるのだが、それは才能やエネルギーの枯渇ではなく、巷で「パンク」と定義される音の定義の狭さと彼等の才能の広さのアンマッチを巡る、リセット期間のようなものだった	1. Problem Child 2. Dont Cry Wolf 3. One Way Love 4. Politics 5. Stretcher Case 6. Idiot Box 7. You Take My Money 8. Alone 9. Your Eyes 10. Creep (You Cant Fool Me) 11. You Know		
DAMNED	マシンガン・エチケツ		1979	パンク	レコード	ダムドが1979年に発表した3作目。ダムドの解散・再結成を経て発表された作品で、チジック・レコードへの移籍第1弾アルバム。ダムドは結果的に、イギリスのパンク・バンドとしては初めて再結成を果たしたバンドとなった。オリジナル・メンバーのうちブライアン・ジェイムスを除く3人と、新メンバーのアルジー・ワードによる編成でレコーディングされた。前作までベースを担当していたキャプテン・センシブルは、本作より主にギターを演奏するようになる。「ルッキング・アット・ユー」はMC5のカヴァー。「ラヴ・ソング」(全英20位[1])、「スマッシュ・イット・アップ」(全英35位[1])、「荒唐の街角」(全英46位[1])がシングル・ヒットした。	Side A 1. ラヴ・ソング - 2:21 2. マシンガン・エチケツ - 1:49 3. 荒唐の街角 (Dave Vanian, Captain Sensible, Algy Ward, Rat Scabies, Giovanni Dadomo) - 3:42 4. メロディ・リー - 2:07 5. アンチ・ボウブ (D. Vanian, C. Sensible, A. Ward, R. Scabies, Phillip Burns) - 3:19 6. ジーズ・ハンズ - 2:02	Side B 1. ブラン9 チャンネル7 - 5:08 2. ノイズ・ノイズ・ノイズ (D. Vanian, C. Sensible, A. Ward, R. Scabies, Jennet Ward) - 3:09 3. ルッキング・アット・ユー (Wayne Kramer, Frederick Smith, Rob Tyner, Michael Davis, Dennis Thompson) - 5:07 4. ライアー - 2:44 5. スマッシュ・イット・アップ (パート	
DAMNED	ブラックアルバム		1980	パンク	レコード	ダムドが1980年に発表した4作目。本作より加入したベースистのポール・グレイは、元エディ&ザ・ホット・ロッズ(英語版)のメンバーとして知られていた。音楽的にはゴス・ロックの先駆けとなった作品として評価されており、キャプテン・センシブルは2011年のインタビューにおいて、当時のことを「俺はデヴィ(ヴァニアン)のソングライティングが、違うレベル、そして違う領域、ダークな領域に進んでいたことに気付いた。これはより一層面白いアルバムになると思ったね」と振り返っている。本作からの先行シングル「ヒストリー・オブ・ザ・ワールド・パート1」は、全英シングルチャートで51位に達した[6]。そして、本作は全英アルバムチャートで3週トップ100入りし、最高29位を記録した	Side A 1. ウェイト・フォー・ザ・ブラックアウト (Dave Vanian, Captain Sensible, Paul Gray, Rat Scabies, Billy Karloff) - 3:56 2. ライヴリー・アーツ - 3:00 3. シリー・キッズ・ゲームス - 2:35 4. ドリンキング・アバウト・マイ・ベイビー - 3:03 5. ツイステッド・ナヴ - 4:39	Side B 1. Dr.ジギル&Mr.ハイド (D. Vanian, C. Sensible, P. Gray, R. Scabies, Giovanni Dadomo) - 4:35 2. シック・オブ・ディス・アンド・ザット - 1:49 3. ヒストリー・オブ・ザ・ワールド (パート1) - 3:46 4. 13thフロアー・ヴェンデッタ - 5:05	
DAMNED	ダムド・バット・ナット・フォー・ガットウン		1985	パンク	CD	ロンドンのパンク・バンド、ダムドが1980年代にブロンズ・レーベルに残したアルバム。	1ダンス・ガールズ 2ラヴリー・マナー 3アイム・ワンダフル 4ディス・サイズ 5テイクザット 6トーチアー・ミー	7ディス・コ・マン 8サンクス・フォー・ザ・ナイト 9デイク・ミー・アウェイ 10サム・ガールズ・アー・アグリー 11ナイス・カップ・オブ・ティー 12ビリー・バッド・ブレイクス	
DAMNED				パンク	CD	1〜12曲目までが1977年2月17日のバーミンガムRebecca'sでのライヴを収録。13〜23曲目が1977年3月17日の同じくバーミンガムOdeonでのライヴ音源を収録。			
Daryl Hall & John Oates	モダン・ヴォイス		1980	ロック	レコード				
Daryl Hall & John Oates	プライベート・アイズ		1981	ロック	レコード	不滅の名盤・偉大なる音楽遺産を未来へつなぐ「レガシー・レコーディング」第2弾は、80年代の名盤40タイトル。 R&Bテイストに裏打ちされフィラデルフィア・ソウルの洗練された味わい、一歩前を進むサウンド作りで人気グループとなった、ホール&オーツのRCAでの8作目、通算12枚目のアルバム『プライベート・アイズ』。前作に続きセルフ・プロデュース作品、全米シングル・チャート1位を獲得した「プライベート・アイズ」、「アイ・キャン・ゴー・フォー・ザット」など、全盛期を迎えた作品で、プラチナ・ディスクも獲得。今聴いても新鮮さを失わない永遠の傑作ポップ・クラシック・アルバム。			
Daryl Hall & John Oates	H2O		1982	ロック	レコード	ホール&オーツRCAでの9作目、通算13枚目のアルバム『H2O』。TOP10入りしたシングルが計3曲収録されている、全米アルバム・チャートでも最高位3位を記録した名盤。			
Daryl Hall & John Oates	H2O		1982	ロック	レコード				

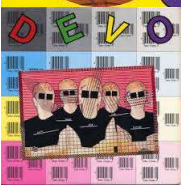
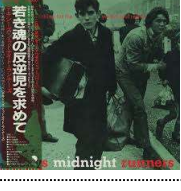
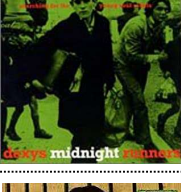
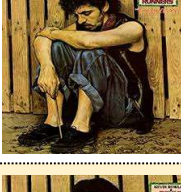
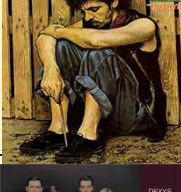
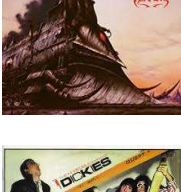
	Daryl Hall & John Oates	サラ・スマイル 〜ウェイト・ フォー・ミー ベ スト			ロック	レコ ード	ホール&オーツのサラ・スマイル〜ウェイト・フォー・ミーまでの初のベストアルバム。		
	DAVE CLARK FIVE	グラッド・オ ール・オーバ ー		1964	ブリ ティ ッ シュ ビ ート	レコ ード	全英No.1大ヒット・ナンバーのタイトル・トラックを収録した彼らのデビュー・アルバム。プリティッシュ・インヴェイジョンを代表するグループの一つ、デイヴ・クラーク・ファイヴ。シングル「Glad All Over」がザ・ビートルズの「I Wanna Hold Your Hand」を蹴落とし、全英No.1を獲得したことにより、彼らはザ・ビートルズの好敵手と目されるようになった。アメリカをツアーした初めてのブリティッシュ・バンドとなった彼らは、ザ・ビートルズについてカーネギー・ホールで公演を行い、また15曲連続でシングルを全米チャートのTOP20へ送り込み、エド・サリヴァン・ショーへの出演回数が最も多い英国のグループの一つ。	Side A 1. Glad All Over 2. All of the Time 3. STAY 4. CHAQUITA 5. DO YOU LOVE ME	Side B 1.BITS AND PIECES 2. I KNOW YOU 3. NO TIME TO LOSE 4. DOO DAH 5. TIME 6. SHE 'S ALL MINE
	DAVE CLARK FIVE	トライ・トゥ・ハ ード		1966年	ブリ ティ ッ シュ ビ ート	レコ ード	66年にリリースしたアメリカ8作目。大瀧詠一のナイアガラ作品にも影響を与えた全米12位のヒット・チューン「トライ・トゥー・ハード」をフィーチャーし、円熟期に差しかったトットナム・サウンドを存分に味わうことができる。メンバーがジャガーの白いスポーツカーに乗ったアルバム・ジャケットも印象的だ。	Side A 1. TRY TOO HARD 2. TODAY 3. I NEVER WILL 4. LOOKING IN 5. EVER SINCE YOU' VE BEEN AWAY	Side B 1. SOMEBODY FIND A NEW LOVE 2. I REALLY LOVE YOU 3. IT DON' T FEEL GOOD 4. SCARED OF FALLING IN LOVE 5. I KNOW
	DAVE CLARK FIVE	ユー・ガット・ホ ワット・イット・テ イクス		1967年	ブリ ティ ッ シュ ビ ート	レコ ード	67年にリリースしたアメリカ11作目。全米7位をマークした「ユー・ガット・ホワット・イット・テイクス」は、数々のヒットを放ったデイヴ・クラーク・ファイヴにとって、アメリカでの最後の大ヒット・ナンバー。ホーンを取り入れた最高にかっこいいサウンドが特徴のこの曲は、日本でもラジオの洋楽ランキング番組にテーマ・ソングとして採用されるなど、一度聴いたら忘れられないほどキャッチーな作品であり、DC5にとって最後の輝きといえた。同曲を含むアメリカ通算11作目となる本盤も、円熟を迎えた5人のメンバーによる集大成ともいえる充実した内容を誇る一枚だ。67年はグループの歴史を語るうえでも大変思い出深い一年といえるだろう。	Side A 1. YOU GOT WHAT IT TAKES 2. I' VE GOT TO HAVE A REASON 3. YOU DON' T PLAY ME AROUND 4. THINKING OF YOU BABY 5. LOVIN' SO GOOD	Side B 1. DOCTOR RHYTHM 2. PLAY WITH ME 3. LET ME BE 4. BLUEBERRY HILL 5. TABATHA TWITCHIT
	DAVE CLARK FIVE	コースト・トゥ・ コースト&アメリ カン・ツアー			ブリ ティ ッ シュ ビ ート	CD	「アメリカン・ツアー」は、アメリカで通算3枚目アルバム(64年リリース)と、「コースト・トゥ・コースト」はアメリカで通算4枚目のアルバムのカップリング。両アルバムは、すべて彼らのオリジナル曲で構成された作成。	【アメリカン・ツアー】 01. Because 02. Who Does He Think He Is 03. Move On 04. Whenever You're Around 05. I Want You Still 06. Long Ago 07. Come On Over 08. Blue Monday 09. Somethimes	以下、CDボーナスストラック 24. I Knew It All The Time (シング ルB面) 25. Concentration Baby (シング ルB面) 26. Man In A Pin-Stipped Suite (シ ングルB面) 27. Children (シングルB面) 28. Always Me (シングルB面) 29. Southern Man (シングル盤)
	DAVE MASON	アローン・トゥゲ ザー		1970	ロック	レコ ード	ステーブ・ウィンウッドと結成したトラフィックを脱退したデyv・メイソンが1970年に発表した最初のソロ・アルバム。1967年の春頃、デイヴ・メイソンはLA訪問時、グラム・パーソンズの紹介でデニー・&ボニーと会います。1967年というたデイヴはトラフィック結成間際の頃、でも結局はスワンブへの憧憬は捨て切れなかったのか、デイヴは1969年、トラフィック脱退後に渡米し、デニー・&ボニー等の協力の下、ファーストアルバムを制作したこのアルバムが英国ミュージシャンとしては初のスワンブ・アルバムと云われている。また、同時期にアメリカに渡ったエリック・クラプトンのブルースの影響を多分にうけていると思われるが、デyv・メイソン独特の歌とギターが楽しめるアルバムでもある。プロデューサーはトミーとデイヴ。70年代のデイヴ・メイソンのアルバムはどれも素晴らしい、拙ブログでも過去「It's Like You Never Left」(1973)、「Split Coconut」(1975)といった名盤を紹介しておりますが、やっぱりこのファーストが一番しっくりくるかもしれません。	Side A 1. オンリー・ユー・ノウ・アンド・アイ・ノウ 04:06 2. キャント・ストップ・ウォーリング、 キャント・ストップ・ラヴィング 03:02 3. ウェイティン・オン・ユー 03:03 4. シュドウント・ハヴ・トゥック・モア・ ザン・ユー・ゲイヴ 06:06	Side B 1. ワールド・イン・チェンジズ 04:31 2. サッド・アンド・ディーブ・アズ・ ユー 03:35 3. ジャスト・ア・ソング 03:00 4. ルック・アット・ユー・ルック・アッ ト・ミー 07:37
	DAVE MASON	(ペーパーズ リーブ仕様) アローン・トゥゲ ザー		1970	ロック	CD		1. オンリー・ユー・ノウ・アンド・アイ・ノウ 04:06 2. キャント・ストップ・ウォーリング、 キャント・ストップ・ラヴィング 03:02 3. ウェイティン・オン・ユー 03:03 4. シュドウント・ハヴ・トゥック・モア・ ザン・ユー・ゲイヴ 06:06	5. ワールド・イン・チェンジズ 04:31 6. サッド・アンド・ディーブ・アズ・ ユー 03:35 7. ジャスト・ア・ソング 03:00 8. ルック・アット・ユー・ルック・アッ ト・ミー 07:37
	DAVID BOWIE	(ペーパーズ リーブ仕様) デヴィッド・ボウ イ		1967年6 月1日	ロック	CD	デヴィッド・ボウイの第1作のアルバム。別名「Love You till Tuesday」(ラブ・ユー・ティル・トゥエズデイ)とも呼ばれる。デッカ・レコードが前衛的なロックの門戸として設立したデラム・レコードと新たに契約を結び、1966年12月にシングル「ラバー・バンド / ロンドン・ボーイズ」、1967年4月にセカンド・シングル「ラフing・ノーム / ゴスペル・アコーディング・トゥ・トニー・デイ」、そしてその約2か月後に本作「デヴィッド・ボウイ」が発表された。翌月にサード・シングル「愛は火曜日まで / デイドウ・ユー・エヴァー・ハヴ・ア・ドリーム」も発表されたが、いずれも鳴かず飛ばずに終わり、当時の3枚出して駄目なら解雇という風潮にも違い、ボウイのデラム・レコードの時代は終わった。全体的に安定した作りだが、突出した部分も無く、発売当時は全く話題にならなかった。プロデューサーは、デッカ傘下にてバーダ・レーベルを主宰し、フリートウッド・マックやジョン・メイオナルドなどを手掛けていたマイク・ヴァーノンが担当。レコーディング・エンジニアは、マイクの助手であり後にエルトン・ジョンのプロデューサーとして知られるガス・ダッジョンが担当している。本作のためのセッションは1966年11月14日から1967年2月25日までの内の8回(8日)行われており、全17曲が録音されている。その内の6回分のセッションの14曲が本作に収録されており、残りの2回分はシングル用の音源として使用された。当時マネージャーのケネス・ビットのアイデアで、当時イギリスで話題だったボブ・ディランのようなフォークシンガーのイメージで売り出す事となり、シンガー・ソングライターのスタイルを求められた。全曲がボウイによる作詞・作曲となっており、マネージャーが意図していたボブ・ディランのイメージよりは、ポップなアプローチの作詞・作曲となっていた。	11ラバー・バンド (シングル・ヴァー ジョン) 2ロンドン・ボーイズ 3ラフing・ノーム 4ゴスペル・アコーディング・トゥ・ト ニー・デイ 5 アングル・アーサー 6 セル・ミー・ア・コート 7 ラバー・バンド 8 愛は火曜まで 9 幸福の国 10 ウィ・アー・ハンダグリー・メン 11 僕の夢がかとう時 12 衰れた砲撃手 13 愚かな少年 14 マーケット・スクエアの玩具売り 15 仲間になれば 16 勲章をもらった女	19愛は火曜まで (シングル・ヴァー ジョン) 20デイド・ユー・エヴァー・ハヴ・ア・ド リーム 21カーマ・マン 22レット・ミー・スリープ・ビサイド・ ユー 23イン・ザ・ヒート・オブ・ザ・モーニン グ 24チンガ・リング 25セル・ミー・ア・コート 26僕の夢がかとう時 27スペース・オディティ
	DAVID BOWIE	スペース・オディ ティ		1969年11 月4日	ロック	レコ ード	69年作、デヴィッド・ボウイのセカンド・アルバム。彼の天出世作である。全英17位、全米16位。「2001年宇宙の旅」からヒントを得ながら、ドラッグによるトリップ体験を歌にしたとも言われたアルバム・タイトル曲は、アポロ11号の月面着陸という人類史上偉大な功績と共に見事シンクし、彼の初期の代表曲として知られるようになった。こうしてボウイのSF的イメージが固まり、やがてグラム・ロック時代へと突入していく自然な流れが出来上がって行く。本作でのサウンドはトラッド色を残しながらフォーク・ロック、サイケ・ロックとしてのメロディ・メイカーぶりが目立つものとなっている。また当時のボウイはプライベートに相当な問題を抱えていた様で、父親の死、兄弟の精神状態の悪化等、どこか暗く深い影が本作に漂っているのも事実です。前述のドラッグ体験、あるいは当時のヒッピー文化からの影響を受けた内省的な歌詞は、以降の彼のキラキラしたロック・スターぶりは想像できないものとなっていますが、ペンタングルのメンバー等を迎えた味わい深い1バンド・サウンドをバックにアーシーなロックを歌うボウイの魅力もなかなかのもの。当初、フィリップスよりイギリスでは「DAVID BOWIE」、アメリカでは「MAN OF WORDS / MAN OF MUSIC」というタイトルで発売されたが、RCAより再発売され、その際ジャケットのリニューアル、そして「SPACE.ODDITY.」へと改題され、以後正式なタイトルとなった。	Side A 全作詞・作曲: デヴィッド・ボウイ。 1. スペース・オディティ 5:14 2. 眩惑された魂(Unwashed and Somewhat Slightly Dazed) 6:10 3. ドント・シット・ダウン 0:39 4. ヘルミオーネへの手紙(Letter To Hermione) 2:30 5. シグネット・コミティー 9:30	Side B 1. ジャーニス 3:19 2. おりおりの夢(An Occasional Dream) 2:56 3. フリークラウドから来たワイルド な瞳の少年(Wild Eyed Boy From Freecloud)4:47 4. 神は知っている(God Knows I'm Good) 3:16 5. フリー・フェスティバルの思い出 (Memory Of A Free Festival) 7:07
	DAVID BOWIE	世界を売った男		1970年11 月4日	ロック	レコ ード	第3作目のアルバム。「ハイズ」でシンセサイザー・プレイヤーのラルフ・フレイマーを迎えて本作の録音が開始された。プロデューサーでベース担当のトニー・ヴィスコンティは当時・レックスの作品も手掛けており、作品全体として演奏の端々には新興を燃えるグラムロックの影響が窺える。本来シンプルかつ官能的なサウンドを基調とするボウイにあって、全体的に複雑な展開とプロレハ・ハードっぽい一聴するとブラックサバスにも聴こえるスリリングな演奏の本作は、もっと評価されてもいいと思う。ストリートワイルドなダクンロー「Black Country Rock」、「Running Gun Blues」も悪くない。「Saviour Machine」、「The Superman」はHR/HM的とするらえるヘヴィかつラディカルな曲だし、ダークで官能的な「The Man Who Sold the World」はまさに代表曲の一つだ。思うに、本来のボウイの特徴的かつ官能的な歌声をメインにすえているのに対して、本作は、演奏の比重も高い。ギターもドラムも大げさしている。リフとリズムが素晴らしい。シンプルなのにガツンとくる他の作品とは違った感触だが、クオリティは非常に高い。全英アルバムチャート26位。	Side A 1.チェンジズ3:33 2.ユー・プリティー・シングス 3:11 3.8行詩(Eight Line Poem) 2:53 4.火星の生活(Life On Mars?) 3:48 5.クークス 2:49 6.流砂(Quicksand) 5:03	Side B 1.ランニング・ガン・ブルース 3:11 2.セイヴィア・マシン (救世の機 械)(Saviour Machine) 4:25 3.シー・シュック・ミー・コールド 4:13 4.世界を売った男(The Man Who Sold The World) 3:55 5.スーパーメン 3:38
	DAVID BOWIE	ハンキー・ドリー		1971年12 月17日	ロック	レコ ード	4枚目のアルバム。アルバム「ジギー・スターダスト」と同時進行で制作されたアルバム。注目すべきは1曲目の「チェンジス」で、この曲では自らの変容を予告するような歌詞になっている。また、息子の誕生への喜びを表した2曲目「ユー・プリティ・シングス」、フランク・シナトラの大ヒット曲「マイ・ウェイ」と全く同じコード進行で、マスメディアへの大冒険となった4曲目「火星の生活」など軽快な曲群の中にも、自らの無力さを綴った6曲目「流砂」、や、精神病院に入れられてしまった実の兄を思う11曲目「ザ・ビューレイ・プラザース」など、狂気を感じさせる陰鬱な曲も収録されている。	Side A 1. 5年間(Five Years) 4:42 2. 魂の愛(Soul Love) 3:33 3. 月世界の白昼夢(Moonage Daydream) 4:37 4. スターマン(Starman) 4:16 5. イット・エイント・イージー ロン・ デyヴィス 2:57	Side B 1. レディ・スターダスト 3:21 2. スター 2:47 3. 君の意志のままに(Hang Onto Yourself) 2:40 4. 屈折する星くず(Ziggy Stardust) 3:13 5. サフラジェット・シティ(Suffragette City) 3:25 6. ロックン・ロールの自殺者 (The Man Who Sold the World) 3:55
	DAVID BOWIE	ジギー・スター ダスト		1972年6 月16日	グラム ロック	レコ ード	デヴィッド・ボウイの5作目。全英5位だが全米では75位と売れず。デヴィッド・ボウイの代表作の一つにして、ロックの歴史に重要な足跡を残したアルバム。1972年6月にオリジナル・リリースされたこの「ジギー・スターダスト」は、デヴィッド・ボウイの5枚目のアルバムで、ボウイ自身とケン・スコットが共同でプロデュース。架空のロック・スター「ジギー・スターダスト」をボウイが演じた11曲で構成されるコンセプト・アルバムで、「スターマン」「レディ・スターダスト」「ロックン・ロールの自殺者」などのヒット曲を生み、デヴィッド・ボウイの最高傑作であるだけでなく、70年代のロックで最も重要なアルバムと呼ばれる作品。このアルバムは多くのファンの心をつかみ、ツァイトガイスト(時代精神)となって次世代―特にミュージシャンやアーティスト、デザイナーなどバンク・ムーヴメントに関心を寄せる人々に多大な 影響を及ぼし、それは結果的にロックやポップスの再生へとつながりました。	Side A 1. あの男を注意しろ(Watch That Man) 4:25 2. アラジン・セイン 5:07 3. ドライヴ・インの土曜日(Drive In Saturday) 4:28 4. デトロイトでのパニック(Panic In Detroit) 4:23 5. 気のふれた男優(Cracked Actor) 2:58	Side B 6. 時間(Time) 5:13 7. プリティエスト・スター 3:27 8. 夜をぶっとばせ!(Let's Spend the Night Together) 3:06 ※ローリングストーンズの曲 9. ジーン・ジニー 4:07 10. 薄笑いソウルの淑女(Lady Grinning Soul) 3:52
	DAVID BOWIE	アラジン・セイン		1973年4 月13日	ロック	レコ ード	1973年4月13日にRCAレコードよりリリースされたデヴィッド・ボウイの6枚目のアルバム。基本的なバンク・ミュージシャンは、前2作と同様スパイダーズ・フロム・マーズ(ミック・ロンソン、トレヴァー・ホルダー、ウディ・ウッドマンジー)だが、ジャズ畑のピアニスト、マイク・ガーソンの参加により、より洗練的な美学に満ちたサウンドを獲得。前作「ジギー・スターダスト」のツアーで初めて本格的に乗り込んだアメリカの風土や文化からの刺激を多分に受けており、またイヴリン・ウォーの長編小説『Vile Bodies』もコンセプトの一因として据えられている。アルバム・タイトルは、『A Lad In Vain(空虚な若者)』、『A Lad Insane(狂気の若者)』、『A Land Insane(狂気の国)』といったドラッグを思わせる候補に二転三転したと言われているが、最終的には隠語的・バントマイの神秘性や混乱した精神という意味も含んだ『Aladdin Sane』に落ち着いた。タイトル曲の副題(1913-1938-197?)は第一次、第二次世界大戦勃発のそれぞれ前年を指しており、最後はベトナム戦争から世界は破壊を辿るとの暗示だったという。「プリティエスト・スター The Prettiest Star」は、以前シングルで発表された曲(この時のリード・ギターはマーク・ボランだった)のリメイク、先行シングル「ジーン・ジニー (The Jean Genie)」は全英2位の大ヒットとなるが、全米では71位止まりであった。しかしアルバムの方は、ボウイ初のワールド・ツアーの終了に合わせて発売されたこともあり、念願の全英1位を5週連続で記録。全米でも初のトップ20入りを、最高12位を果した。ビルボード・チャートによる全米最大の編		

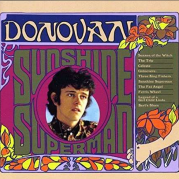
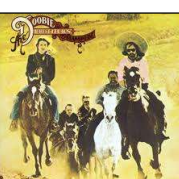
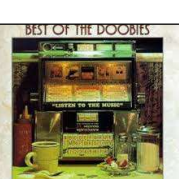
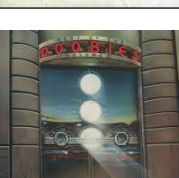
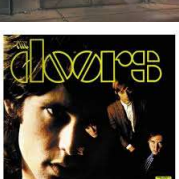
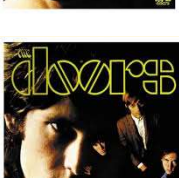
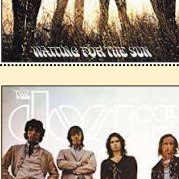
DAVID BOWIE	ピンナップス		1973年10月19日	ロック	レコード	デヴィッド・ボウワイによるカヴァー・アルバム。ボウワイのキャリアエににおいて唯一の全曲カヴァーアルバム。本作の制作背景には、肥大化した「ジギー・スターダスト」のキャラクターから脱却し、原点回帰を考えたことがあった。 全曲とも1960年代の作品のカヴァー。殆どは英国のバンドの曲だが、B1のオリジナルのイージー・ビーツのみオーストラリアのバンド。内訳はプリティ・シングス(A1、B3)、ゼム(A2)、ヤード・バース(A3、B4)、ピンク・フロイド(A4)、モージョズ(A5)、ザ・フー(A6、B5)、イージー・ビーツ(B1)、マー・ジョーズ(B2)、キンクス(B6)。 バック・バンドのスパイダース・フロム・マースにメンバー・チェンジが生じ、ドラマーがウッド・ウッドマンジーからインズレー・ダンバー(後にジャーニーやホワイトスネイク等で活躍)に交替。また、ミック・ロンソンは本作を最後にボウイと一旦別れ、次に共演するのは1990年代のことであった。ジャケットでボウイと並んでいる女性は、有名モデルのツイッキー。全英1位、全米22位を記録。
DAVID BOWIE	ダイヤモンドの犬		1974年4月24日	ロック	レコード	前2作『ジギー・スターダスト』『アラジン・セイン』において虚構のスターを演じるというコンセプト・アルバムを立て続けにヒットさせていたボウイは、パブリック・イメージからの脱却のために「引退」宣言を行い、次作のコンセプトの検討をしていた。この頃、スタッフやバック・バンドとのトラブルに巻き込まれ、精神的に追い詰められていたボウイは、僅かな食事と薬に頼る生活をしており、心身ともに憔悴しきっていた。そんな最中、イギリスの作家であるジョージ・オーウェルの作品『1984年』に影響を受けたボウイは、同作品のミュージカル化を企画し、計画を進めようとしていたが、著者の未亡人に拒否されたため、自らが半人半獣の姿で退廃した未来を予言するというコンセプトへと変更を余儀なくされた。また、この頃にある雑誌記者の紹介で、アメリカの作家であるウィリアム・ハロウズを紹介されたボウイは、彼の影響で本アルバムにおいて「カットアップ」という手法で歌詞を作成、こうして両名からの強い影響によって本アルバムはコンセプト・アルバムとして完成した。しかし、前2作において共演していたバック・バンドのメンバーであり、盟友であったミック・ロンソンなどは参加しておらず、華々しいイメージから遠ざかった作品に、多くの評論家からは批判を受けることとなった。また、本アルバムリリース後に同タイトルのツアーを始めたボウイだったが、ツアーの途中で突然ソウルミュージックを取り入れた全く異なるステージングへと路線を転換し、その後のアルバム『スライム・アンド・ラヴ』へと至ることとなる。
DAVID BOWIE	ヤング・アメリカンズ		1975年3月7日	ロック	レコード	デヴィッド・ボウイの8枚目のアルバム。数あるボウイ作品の中でも屈指の名作。フィラデルフィアに赴き、本格的にリズム＆ブルース/ソウルに取り組んだ、その後の英国ミュージシャンたちのホワイトソウルの作品のプラトタイプとなった重要作。録音当時すでに深刻なドラッグの問題を抱えていたボウイだが、現地ミュージシャン達との交流と新たな試みがそれを感じさせない躍動感を生んでいる。以後の白人ミュージシャンによるR&B〜ソウル音楽の解釈の雛形となったマスターピース的作品といえる。後半の盛り上がる展開(SAXはデヴィッド・サンボーン)と「ニクソン大統領を憶えているかい?」というフレーズも格好いい(1)、ルーサー・ヴァンドロースとの共作の超ファンキーな(3)、ボッサ調の(4)、あまりに劇的なビートルズのカヴァー(6)、そしてジョン・レノンとの競演によるスライムファンク(8)と楽曲も粒粒いだ。全英2位、全米9位。第2弾シングル「フェイム」は、ボウイにとって初の全米1位となった。
DAVID BOWIE	ステイション・トゥ・ステイション		1976年1月23日	ロック	レコード	デヴィッド・ボウイの1976年に発表した9作目のアルバム。前作『ヤング・アメリカンズ』とは正反對の「白人である自分がいかに黒人音楽を取り入れるべきか」という結論に至り、それが本アルバムのテーマとなった。本作品は、ソウル・ミュージックを大胆に取り入れた前作から次作『ロウ』でのクラフトワークなどの影響による電子音楽への傾倒までの間に制作されており、その中間点とも呼べる作品である。ソウル・ミュージックへの傾倒が進むなか、ヨーロッパとしてのアイデンティティのもとに生み出されたホワイト・ソウルの傑作。
DAVID BOWIE	デヴィッド・ボウイ・ライブ		1974年10月29日	ロック	CD	デヴィッド・ボウイによる最初のライブ・アルバム。このアルバムは、1974年7月にペンシルベニア州アッパー・マービー・タワー・シアターで録音され、10月にRCAからリリースされた。このアルバムは、『ジギー・スターダスト』『アラジン・セイン』に代表されるグラム・ロック期から、『ヤング・アメリカンズ』に始まるプラスチック・ソウル期への過渡期にあるボウイを捉えている。収録曲は主に当時の最新作『ダイヤモンドの犬』『アラジン・セイン』と、『ジギー・スターダスト』以前の代表曲から選ばれている他、1972年にモット・ザ・フールに提供した「すべての若き野郎ども」が収録されている。イギリス2位、カナダ5位、米国8位を記録。
DAVID BOWIE	ロウ		1977年1月14日	ロック	レコード	10枚目のアルバム。全英2位。ブライアン・イーノと共に創り上げた実験的作品。後半はすべてインストが占める。音楽的にはジャーマン・ロックからの影響が見られ、ボウイ自身も1979年のインタビューで、クラフトワークやタンジェリン・ドリームをよく聴いていたと語っている。先鋭的な内容のため、レコード会社の上層部は困惑したようだが、商業的にも全英2位、全米11位と成功を収めた。後に「ペルリン三部作」と呼ばれることになる作品群の第1弾であり、次作『英雄夢語り(ヒーローズ)』も、本作のコンセプトを踏襲して作られた。
DAVID BOWIE	英雄夢語り(ヒーローズ)		1977年10月14日	ロック	レコード	11枚目のオリジナルアルバム。全英3位。前作『ロウ』と制作時期が近く、参加ミュージシャンの多くが共通しており、同じくペルリンで録音され、構成も似ている(両者ともインストゥルメンタル曲の比率が高い)為、姉妹作と言える(1979年発表の『ロジャー(間借人)』を含めて3部作とされるが、『ロウ』と今作の二つは特に作風が似ている)。前作に比べると、今作は内容がドラマチックでロック色が強い。ボウイを筆頭とした鬼才が結集し、創りあげた前衛かつ退廃的ロックの最高峰。アートの匂いがするから、通好みに好まれるのだろうし、程よくノイズ、シンセが散りばめられ、後のアンビエントミュージックに通じる実験的試みがあるから、今だに先駆者として賛美される。数あるボウイの作品の中でNo1に挙げるファンの方が多いのもうなづける。また、なんとと言ってもシングルカットした名曲“Heroes”は色んな意味でも素晴らしい曲だ。
DAVID BOWIE	ロジャー(間借人)		1979年5月18日	ロック	レコード	デヴィッド・ボウイの12枚目のアルバム。ロウ』や『英雄夢語り(ヒーローズ)』に引き続いてブライアン・イーノが参加しているため、「ペルリン三部作」の最終章として語られるアルバム。後半がインスト曲中心だった前作とは異なり、ポップな歌ものが並ぶ。ブライアン・イーノや、盟友とも言えるギタリスト、カルロス・アロマーに加え、前年のワールド・ツアーにも帯同したエイドリアン・ブリューやサイモン・ハウスといった個性派プレイヤーが参加。全英4位、全米20位を記録。
DAVID BOWIE	レッツ・ダンス		1983年4月14日	ロック	レコード	14枚目のアルバム。ナイル・ロジャースとの共同プロデュースで作られた、ダンスサブルな楽曲を中心に構成されたアルバム。映画出演などの効果も相まって、全世界で爆発的なヒットを記録した。このヒットにより、それまで「メジャーなカルト」だったボウイが、メインストリームに押し上げられることとなった。また、シングルカットされた「レッツ・ダンス」や「チャイナ・ガール」も大ヒットを記録した。まだ無名だったブルース・ギタリスト、ステュー・ウィー・レイ・ヴァーンをリード・ギタリに起用し、後の彼のブレイクのきっかけを作った。アルバム・リリース後、ヒットの勢いそのままに大規模なワールド・ツアー「シリウス・ムーンライト・ツアー」を展開した。英音楽誌NMEは、本作から「レッツ・ダンス」(6位)、「モダン・ラヴ」(8位)、「チャイナ・ガール」(27位)の3曲を「NMEが選ぶデヴィッド・ボウイの究極の名曲1〜40位」に選んでいる
DAVID BOWIE	トゥナイト		1984年9月24日	ロック	レコード	1984年作のデヴィッド・ボウイの15枚目のアルバム。先行シングルとして大ヒットした「ブルー・ジーン」や、ティナ・ターナーとのデュエット曲「トゥナイト」を含む全9曲。音楽的には前作『レッツ・ダンス』の延長線上にあると言える。「神のみぞ知る」、「アイ・キープ・フォーゲッティング」といったカヴァー一曲や、ボウイとイギー・ポップが以前共作した曲のセルフ・カヴァーが目立ち、純粋なオリジナル新曲は少ない。イギリスではチャート1位を獲得し、『スケアリー・モンスタース』から3作連続での首位獲得となった。アメリカでもプラチナ・ディスクに認定されるなど、前作の勢いそのままに世界各国でヒットを記録した。
DAVID ESSE	ロックにすべてを		1973	ロック	レコード	UKの俳優兼ポップ・シンガー、デビッド・エセックスはREEMのマイケル・ス・ダインなどバング・ニューウェイヴ系のアーティストにも多大な影響を与えたイギリスのロック・アーティスト、デヴィッド・エセックスのファースト・アルバム。ヒット曲「ROCK ON」はデフ・レバードやブロンディなどにもカヴァーされた名曲。デビッド・エセックスは1963年にデッカ・レコードからデビューし、2年ほど自分のバンドでツアーをし、1stアルバムを発表。“Gonna Make You a Star”と“Hold Me Close”の2曲で全英No.1を獲得し、全英のトップ・アイドルになった。その後、以前から映画に出ていたこともあり、本格的に映画俳優としても活動を始め、二束のわらじを履いた彼は、音楽と映画、次はミュージカルでも成功を収めている。現在でも彼は、しばしばアルバムを出してはツアーを行い、ミュージカルの舞台にも立っており、才能溢れるミュージシャンであり、エンターテイナーだ。このアルバムに収録されている「ROCK ON」がイギリスで1位となり、「魔法のランプ(Lamplight)」のヒット曲を含むアルバム。妖艶、グラマラスな雰囲気が漂っていて、歌い方も当時流行りのグラムロックの中心人物であったデヴィッド・ボウイやT・レックスのマーク・ボランを意識した感じで?アルバム全体が70年代前半のロンドンの雰囲気包まれている感じだ。この独特のメロディとリズムの“タメ”は、良い悪いを超えて記憶に残るものになっている。とても新人の作った曲とは思えないほど、イマジネーションとオリジナリティに溢れていると思う。パラード系の“On and On”はバックのストリングスやサククスが効果的で、まるで映画のエンドロールに使われそうな曲である。もしくはラスベガスでのステージでも歌われそうな甘い歌になっていない。この曲はボウイと彼は才能豊かなミュージシャンだったことがわかる。また、アルバム11曲中前作のミニ・アルバム、『プリティ・シングス』から一転、完全にバーディ・ロジャースの王者として復活したダイヤモンド・デイヴのソロ名義でのフル・アルバム第一弾です。正式にヴァン・ヘイレン脱退がアナウンスされ、両者の動向がかなり注目されていた中、デイヴは極彩色のメイクと派手なナンバーで、80年代を再び席捲する事となります。アルバム・タイトルはヴァン・ヘイレンへの揶揄とされていますが、アルバム全体に溢れる陽性のパワーは確かにデイヴに分があったとも思われます。そして本作の重要な意味として今も語られるのは、やはりスティヴ・ヴァイとビリー・シエンの発掘であったと思います。テクニク主義だけでは終わらないのは、もちろんデイヴの個性が前面に出ているためですが、革新的なギター・サウンドを中心としたバンド・サウンドも何度聴いても飽きがきません。
DAVID LEE ROTH	イート・エム・アンド・スマイル		1989	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	
DAVE EDMUNDS	リビート・ホエン・ネセサリー			ロック	レコード	
DAVE EDMUNDS	ディー・イー・セブンス			ロック	レコード	

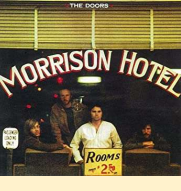
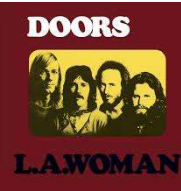
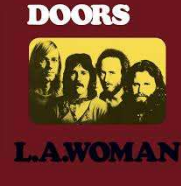
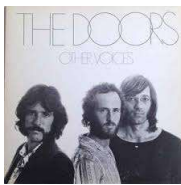
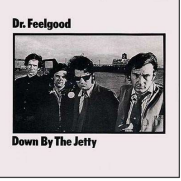
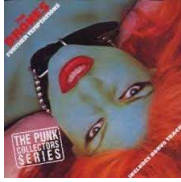
	DAVID GILMOUR	デヴィッド・ギルモア		1978	プログレ	レコード	1978年作品。デヴィッド・ギルモアの、そしてピンク・フロイドのメンバーとしても初のソロ・アルバム。大規模な『アニマルズ』ツアー後、1977年後半から旧友を集めて制作をスタート。フロイド参加前のジョーカース・ワイルドのメンバー、ペーシストのリック・ウィリスと、ジョーカース・ワイルド結成前のニュー・カマーズのメンバーだったドラマーのウィリー・ウィルソン、そしてギルモア(プロデュース、ギター、キーボード)の3人を中心にフランスで録音。フロイド作品からもったいぶった装飾の部分を取り払い、ブルーズやフォークのテイストを強めたアルバム。情感たっぷりのギターソロを聴かせる、優れた正統派ブリティッシュ・ロック・ギタリストとしてのギルモアの原点回帰作。		
	DAVID SYLVIAN	プリリアント・トゥリーズ		1984	ニューウェーブ	レコード			
	D B COOPER	BUY AMERICAN		1980	ニューウェーブ	レコード	小気味よいロックナンバーが満載！どちらかと言うとイギリスのニューウェーブバンド風で、エルビスコストロや初期のジョー・ジャクソンを思わせる。		
	dB's	スタンズ・フォー・デシベルズ		1981	ニューウェーブ	レコード			
	DEAD BOYS	デッド・ボーイズ登場！！ヤング・ラウド・アンド・スナッチィ		1977	パンク	レコード	ニューヨークのセックス・ピストルズと呼ばれ、僅か2枚のアルバムを残して解散してしまっただッド・ボーイズのパンク史に残る名盤1STアルバム。1970年代初期に活躍していたカルトバンド、ロケット・フロム・ザ・トゥームのチーター・クロム&ジョニー・ブリッツに、スティヴ・ペイターズ、ジミー・ゼロ、ジェフ・マグナムが加わりデッド・ボーイズを結成。ニューヨークパンクの中心的ライヴハウス“CBGB”での熱演に火が着いて1977年にメジャーデビューを果たすものの、わずか2枚のアルバムを残して1978年に解散。 本作は、彼らの記念すべきデビューアルバム。スリリングなバンド演奏にダミ声ヴォーカルがさく裂する<1>、勢いバリのパンクロック<3>など、過激なパフォーマンスとパンクスピリットあふれる演奏を武器に「ニューヨークのセックス・ピストルズ」と称えられた、まさに絶頂期の名盤である。名曲「ソニック・リデューサー」や、CBGB' Sでライブ録音された「ヘイ・リトル・ガール」他を収録。爆発寸前の初期衝動がダイレクトにぶち込まれた希跡の1枚。	Side A 1. ソニック・リデューサー 3:04 2. オール・ディス・アンド・モア 2:48 3. ホワット・ラヴ・イズ 2:06 4. ノット・エニモア 3:38 5. エイント・ナッシン・トゥ・ドウ 3:35 Side B 1. コート・ウィズ・ザ・ミート・イン・ユア・マウス 2:04 2. ヘイ・リトル・ガール 3:01	
	DEAD BOYS	デッド・ボーイズ登場！！ヤング・ラウド・アンド・スナッチィ		1977	パンク	CD		CDボーナストラック 11. ノット・エニモア/エイント・ナッシン・トゥ・ドウ(メドレー)	
	DEAD BOYS	サード・ジェネレーション		1978	パンク	レコード	1978年リリースのデッド・ボーイズのセカンドアルバム。攻撃性を全面に押し出した1stに比べ、この2ndはどちらかというとバンドの持つポップな側面に比重を置いた作りになっています。ラストのROCKET FROM THE TOMBS(Cheetah ChromeとJohnny Blitzが在籍し、PERU UBUのメンバーも在籍したクリーブランドの伝説的バンド)時代からの名曲「エイント・イット・ファン」はガムズなどもカバーしていますが、やはりこのDEAD BOYSバージョンはStiv Batorsのカリスマ的ボーカルと相俟って別格の格好良さです。因みにAIN'T IT FUNの最後に聞こえる声は、Cheetahと共にこの曲を書き1977年6月に亡くなった、ROCKET FROM THE TOMBS〜初期PERU UBUのギタリスト故Peter Laughnerの声だそうです。	Side A 1. 3rd Generation Nation 2:36 2. I Won't Look Back 2:15 3. (I Don't Wanna Be No) Catholic Boy 2:40 4. Flame Thrower Love 2:04 5. Son Of Sam 5:08 Side B 1. Tell Me 2:37 2. Big City 3:00	
	DEAD KENNEDYS	暗殺			パンク	レコード			
	DEAD KENNEDYS	イン・ゴッド・ウィ・トラス・T.INC.			パンク	レコード			
	DEAD OR ALIVE	美醜の館		1984	ダンスミュージック	レコード			
	DEAD OR ALIVE	ユースクエイク		1985	ダンスミュージック	レコード			
	DEAF SCHOOL	セカンド・カミング		1970	ニューウェーブ	レコード	デフ・スクールの1973年リヴァプールで結成。75年『メロディ・メーカー』誌主催のロッキング・ブギークンテストで優勝。レコード会社の争奪戦のうでワーナー・ブラザーズと契約し、76年『セカンド・ハネムーン』でデビュー。続く77年には2作目『ドント・ストップ・ザ・ワールド』、78年には『イングリッシュ・ボーイズ/ワーキング・ガールズ』を発表したが、ほどなくして解散。商業的に大きな成功は納められなかったが、英国ならではのひねくれたポップ・センスで後進に与えた影響は計り知れない。解散から10年後の1988年6月21日、ロンドンのブル&ゲイトで行われた再結成コンサートの模様を収録のライヴ・アルバム。オリジナル・メンバーに加えて、マッドネスのリー・トンプソン(鼓)、のちにデヴィッド・ボウイのパートナーとしても活躍するリーヴス・ゲイブルス(鼓)らが参加。オリジナル曲を始め、フレミング・グルーヴィーズのカヴァーや映画『ブルー・ヴェルヴェット』のテーマ曲も収録。	A面 1. What A Way To End It All 2. Shake Some Action 3. Hi Jo Hi 4. Nearly Moonlit Night Motel 5. Taxi! 6. Ronnie Zamora 7. Thunder & Lightning B面 1. Blue Velvet Working Girls 2. Golden Showers 3. Thunder And Lightning 4. What A Week 5. Refugee 6. Ronnie Zamora (My Friend Ron) 7. English Boys (With Guns) 8. All Queued Up 9. I Wanna Be Your Boy 10. Morning After	
	DEAF SCHOOL	イングリッシュ・ボーイ ワーキング・ガール		1978	ニューウェーブ	レコード	オリジナルは78年作、リヴァプールから突如現れた伝説的バンド、デフ・スクールのサード・アルバムにして、ラスト作となった1枚です。80年代UKロックの職人的プロデューサー、クライヴ・ランガー率いた8人組で、そのユニークな音楽性は一言ではなかなか伝えきれません。場末のキャバレー・ミュージックをベースに、パブ・ロックの空気を漂わせ、幅広いメロディを自在に操る伝統的ブリティッシュ・ポップはカラフルでもあり、変態的でもあります。以降のニュー・ウェーブにも多大な影響を与え続けたスタイルは、ずっとぼけながらも知的さが見えるという、いかにも英国的なバンドなのですが、本当に愛すべきバンドだったと思います。	2. Golden Showers 3. Thunder And Lightning 4. What A Week 5. Refugee 6. Ronnie Zamora (My Friend Ron) 7. English Boys (With Guns) 8. All Queued Up 9. I Wanna Be Your Boy 10. Morning After	
	DEBBIE HARRY	予感		1981年	ニューウェーブ	レコード	HRギガワ作によるアルバムジャケットはデビーの顔を4本の指が貫く衝撃的なものとなった。この絵はまさに4つの話題を提供する本作を象徴的に示すものとなった。1つはデビー初のソロ、2つ目は大物ナイル・ロジャースによるプロデュース、3つ目は豪華なバックミュージシャン、4つ目はブロンディの行く末である。話題作とはなったものの必ずしもヒットに繋がらなかったこと、発表の翌年にブロンディは解散となり快調とはいかなかったようだ。アルバムの中身については、軽快で煌めくポップさは影を潜め、ナイル・ロジャース流のファンクさシックさが前面に出ており、No.4,6など洗練された都会的なサウンドに仕上がっている。懐かしい80年代の定番サウンド満載である。ただこのアレンジにコーディネートしてしまったデビーは、おとなしめでこれまでの弾けた感じが薄れ、アダルト路線に大きく舵をとった恣意的な変化が見て取れる。しかし沖縄民謡風のNo.3やアラビアンテイストのNo.10など実験的試みもあり、デビーの歌の巧さといえ、随所にファンを愉ませる仕掛けが施されているのはとても惜しい。(この辺りはデビーとギターとして参加しているクリス・スタインの仕業もあるのではないかと。デビーはかなりの信をおいているのだろう、実はこの点は見逃せないかもと感じた)私はこのアルバムを購入する際に、上記2,3のポイントに注目しつつも実際のところ出来はどの様なものかジャケットデザインより感じる不吉な予感(アルバム邦題「予感」)を禁じえなかったのだが、80年代サウンド爆点と相まってデビーの初ソロ、話題作として楽しめたことが出来た。	Side A 1. ジャンプ・ジャンプ 2. ジャム 3. クローム 4. サレンダー 5. インナー・シティ・スピルオーバー Side B 1. バックファイアー 2. さよならの旋律 3. 恋の大捜査線 4. ミリタリー・ラップ 5. オアシス	

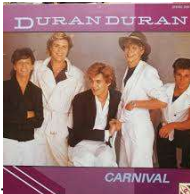
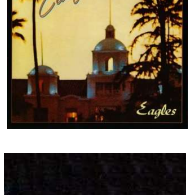
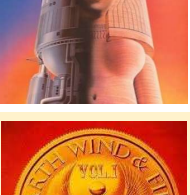
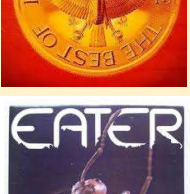
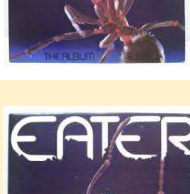
DEEP PURPLE	ハッシュ		1968	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコー ド	68年作のデビュー作。アメリカではデビュー・シングル「Love Potion No.9」が4位となり、日本でもアルバム・タイトルにこの曲が使用されましたが、本国イギリスではあまり注目されていなかったのが今となっては不思議です。元々は「Love Potion No.9」等のヒットで知られる人気バンド、サーチャーズのメンバーだったクリス・カーティスがラウンドアバウトなる新バンドの結成の為、フラワー・ボットのジョン・ロード、アウトローズのリッチー・ブラックモアを参加させた事から伝説は始まりました。 言い出しっぺのカーティスは早々といなくなり、互いの才能に惚れあったロード・ブラックモア・チームがニック・シンバー、ロッド・エヴァンス、そしてイアン・ペイスを集め、改名後に発表されたのが本作です。 前述のシングルの他、ジミ・ヘンドリックスのカヴァーでも有名な「Hey Joe」、ビートルズの「Help」を取り上げながら、ジョン・ロードの Hammond オルガンが全体を引っ張るサイケデリック・ロックが展開されています。 アメリカのヴァニラ・ファッジを意識していた様ですが、オープニングのインスト・ナンバー、「And The Address」では、プログレ的な幕開けの後に以降のハード・ロック期へと突入していくダイナミズムがすでに見てとれます。やはり特筆すべきはリッチー、そしてロード、ペイスのプレイで、歌メロがかなりキャッチーなナンバーが揃う中、「Mandrake Root」の様な殺気が漂うバンド・サ 69年作、ディープ・パープルのセカンド・アルバムとなった1枚です。当時のパープルは初代ヴォーカリスト、ロッド・エヴァンスを擁したサイケデリック・ポップ・バンドとして認知されていたわけで、本作も注目すべき点がいっつもありませんが、黄金の第二期と比べると、どうしても見劣りがしてしまうのは仕方のないところだと思います。 それでもビートルズのカヴァー、「恋を抱きしめよう」のユニークかつ斬新な解釈や、各メンバーのテクニックに裏打ちされた幅広い音楽性は聴き所満載となっています。特にリッチーの強引過ぎるとも言えるギター・プレイや、ジョン・ロードのクラシックのセンスは他のバンドには無い魅力があります。サイケからアート・ロック、そしてハード・ロックへと時代が流れていく中、パープルの正当な進化を見せられている気にもなるサウンドは、確かに興味深いものがあります。本作がツェッペリン登場前にリリースされた事を考えると、やはり当時は衝撃的な1枚であったはずだと思います。	1アンド・ジ・アドレス(インストゥルメンタル) 2ハッシュ 3ワン・モア・レイニー・デイ 4(a)プレリュード・ハッピーネス(インストゥルメンタル) (b)アイム・ソー・グラッド 5マンドレイク・ルート 6ヘルプ 7ラヴ・ヘルプ・ミー 8ヘイ・ジョー	
DEEP PURPLE	(ペーパーズ リーブ仕様) 詩人タリエシ の世界		1968	ハード ロック& ヘヴィー メタル	CD		1リッスン 2リング・ザット・ネック 3ケンタッキー・ウーマン 4(a)エクスボジション (b)恋を抱きしめよう 5シールド 6聖なる歌 7リヴァー・ディープ・マウンテン・ハイ	
DEEP PURPLE	ディープ・パー プル III		1969	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコー ド	69年作。本格的なハード・ロック路線が開花される寸前の、ディープ・パープルの3作目のアルバム。 邦題のセンスが時代を感じさせますが、当初はヴァニラ・ファッジ風のサイケ、アート・ロックと見なされていた様です。 バンド自体は、本作リリース前にデビューしたレッド・ツェッペリンからの影響を強く受けていた様で、バンド・サウンドがかなり大音量となっています。 シングル向けのナンバーの不在、ジョン・ロードのクラシック指向が半面残っている点もあって、彼等のキャリアの中ではかなり印象の薄いアルバムとなっていますが、ユニークな1枚として楽しめるのも事実です。	1影を追って 2ブラインド 3ラレーニヤ 4(a)フォールト・ライン(インストゥルメンタル) (b)画家 5何故ローズマリーは 6小鳥は去った 74月の協奏曲	
DEEP PURPLE	インロック		1970	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコー ド		1スピード・キング. 04:20 2ブラッドサッカー. 04:11 3チャイルド・イン・タイム. 10:18 4フライト・オブ・ザ・ラット. 07:53 5イントゥ・ザ・ファイア. 03:30 6リビング・レック. 04:30 7ハード・ラヴィン・マン. 07:12	
DEEP PURPLE	インロック		1970	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコー ド	70年作、第二期パープルの事実上の1作目であり、彼等のハード・ロック路線が開始された記念碑的なアルバムです。 ツェッペリン、サバスがブルースを基盤にブリティッシュ・ハードの歴史を大きく動かしていたのに対し、ここではクラシカルな要素を残しつつ、スピーディーでメロディアスな展開を吐絶なギターとオルガンのバトルにより、全く新しいハード・ロックを生み出しています。様式美と評されたこの路線は、多くのバンドにフォローされていくわけですが、まさに本作があってこそだったと思います。 ツェッペリンのサウンドがその圧倒的なリズムの爆発によるハードさによるものだとしたら、パープルはここでスピードとメロディの高揚感によるメタリックな質感を生み出したと思えます。もちろん全ロック・ファン必聴の1枚だと言えるでしょう。 本作は発売25周年記念盤としてリリースされたもので、貴重な写真を含むブックレット、サインがプリントされたブラ・ケース、更にリマスター化の上、ロジャー・グローヴァーのミックスによる未発表音源が追加収録されたものとなっています。		
DEEP PURPLE	インロック		1970	ハード ロック& ヘヴィー メタル	CD			
DEEP PURPLE	ファイヤーボー ル		1971	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコー ド	71年作、ディープ・パープルのハード・ロック展開第2弾となったアルバムで、本作により初の全英チャートを制覇しています。改めて聴き直すと、かなりバラエティに富んだ内容となっているのが意外で、あからさまなブルース・ナンバーこそないものの、かなり同時期のツェッペリンの勢いを意識していたのでは、と思われれます。 カントリー・タッチの「Anyone's Daughter」や、プログレ風味の「Fools」で当時のバンドの意欲が感じられますが、やはり彼等の代名詞となったスピーディーなメタル・ソングのアルバム・タイトル曲で独自の個性を確立していると思います。 キャッチーさこそ次作には負けますが、ユニークな1枚として輝いています。	1ファイアーボール 2ノー・ノー・ノー 3ストレンジ・ウーマン 4誰かの娘 5ミュール 6フールズ 7誰もこない	
DEEP PURPLE	(ペーパーズ リーブ仕様) ファイヤーボー ル		1971	ハード ロック& ヘヴィー メタル	CD			
DEEP PURPLE	マシン・ヘッド		1972	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコー ド	72年作、言わずと知れたディープ・パープルの最高傑作として知られる歴史的な名盤。第二期と言われる70年代初頭の彼等のハード・ロック期のピークであり、テクニシャン集団がジャム・セッションでのスリリングなバトルから、練り上げたメロディ作りを目指した1枚とも言えると思います。「IN ROCK」、「FIREBALL」、そして本作を三部作とするならば、クラシック指向からメタル指向へと転向した終着点がここだったのかもしれませんが。 誰もが知るロック・クラシックとなった「ハイウェイ・スター」、「スモーク・オン・ザ・ウォーター」はもちろん、どの曲にもキャッチーな感触を残しているのは、かなり計算され尽くした結果だと思えます。 ツェッペリンを始めとするブリティッシュ・ハードが、ブルースの拡大解釈であったのに対し、パープルは各メンバーのアンサンブルを大事にしつつ、疾走感をどう表現するかにこだわっていたのではないかと、この頃からツェッペリンの頂点とも言える歴史的な傑作となつたディープ・パープルの代表的な1枚です。当時はアナログ盤2枚組として発表されています。 日本の武道館を世界に知らしめたライブ・アルバムとして、78年のボブ・ディラン、79年のチープ・トリックの来日公演を収録したものが有名ですが、いち早く武道館での音源を発表していたのはパープルだったわけです。 実際には大阪厚生年金会館での収録の音源が半数収録されているため、純然たる武道館ライブではないのですが、音質、演奏共に高い品質を誇った1枚です。 それだけ彼等の人気があったと同時に、最大の個性である疾走感、ダイナミズムがわかりやすくコンパクトにレコーディングされていたからだと思います。特に20分にも及ぶ「Space Truckin」でのリッチー大先生と、ジョン・ロードのトリッキーな掛け合いは必聴もの。	1Highway Star ハイウェイ・スター 2Maybe I'm A Leo メイビー・アイム・ア・レオ 3Pictures Of Home ピクチャー・オブ・ホーム 4Never Before ネヴァー・ビフォア 5Smoke On The Water スモーク・オン・ザ・ウォーター 6Lazy レイジー 7Space Truckin' スペース・トラッキ	
DEEP PURPLE	ライブインジャ パン		1972	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコー ド		ディスク: 1 1ハイウェイ・スター 2チャイルド・イン・タイム 3スモーク・オン・ザ・ウォーター 4ミュール 5ストレンジ・ウーマン 6レイジー 7スペース・トラッキン	ディスク: 2 1ブラック・ナイト 2スピード・キング 3ブラック・ナイト 4ルシール 5ブラック・ナイト 6スピード・キング
DEEP PURPLE	ライブインジャ パン			ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコー ド	当初は日本でのみのリリース予定だったが「メイド・イン・ジャパン」の名前で世界リリースもされた盤。		
DEEP PURPLE	紫の肖像		1973	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコー ド	懐の深さを知るにはやはり必聴盤と言えると思います。 「マシン・ヘッド」そして「ライヴ・イン・ジャパン」と立て続けにヒット・アルバムを連発、大物バンドとしての風格と余裕が、本作をバラエティに富んだものとしているかもしれません。デヴィッド・カヴァー・デイルが参加する直前のパープルのファンキーな要素や、パープル流ブルースへの挑戦、アメリカン・ロックへと接近したかの様なのプログレ・ハードのアレンジ等、彼等のハード・ロックが更に進化している点がユニークです。第二期メンバー最後の作品ともあって、なかなか味わい深い傑作で、各曲をじっくり聴き直してみると本作の凄さが伝わってきます。 ポップな「ウーマン・フロム・トーキョー」ばかりが有名なかもしれませんが、王道パープル節が聴ける「スムース・ダンサー」、ツェッペリンを意識した様な「ラット・バット・ブルー」、そしてビートルズ色も見られるミドル・バラード、「アワ・レディ」等、カラフルナンバーが飽きさせません。	1ウーマン・フロム・トーキョー 2マリー・ロング 3スーパー・トウルーパー 4スムース・ダンサー 5ラット・バット・ブルー 6ブレイス・イン・ライン 7アワ・レディ	
DEEP PURPLE	紫の肖像		1973	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコー ド			
DEEP PURPLE	紫の炎		1974	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコー ド	74年作、第三期ディープ・パープルと呼ばれる時期の第1弾となり、デヴィッド・カヴァー・デイル、グレン・ヒューズという強力ライン・ヴォーカル体制が誕生した記念すべき1枚です。アルバム・タイトル曲のインパクトがあまりにも大きく、他のナンバーと比べるとあまりにもイメージが離れている曲調が目立ちますが、それこそが本作の魅力でもあると思います。 ファンキーかつソウルフルなサウンドは、パープルの新たな個性となり、彼等が今もリスペクトされ続けている要因の一つにもなっている感もあります。半面、その強いクセが、リッチーのバンドに対する不満をつのらせていくわけですが、結果レインボーが生まれていくきっかけになる事を考えれば、本作の意味もかなり大きかったのではないのでしょうか。 そのリッチーが以降もずっと大切にいた名曲、彼等のキャリアの中でも最重要楽曲と言える「Mistreated」の、ギターとヴォーカルの吐絶かつセクシーな絡みがハイライトとなっています。	1紫の炎 2デイ・ユア・ライフ 3レイ・ダウン・ステイ・ダウン 4セイル・アウェイ 5ユー・フール・ノー・ワン 6ホワッツ・ゴーイング・オン・ヒア 7ミストゥリー・テッド 8"A" 200	

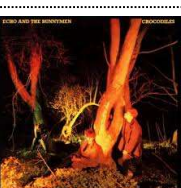
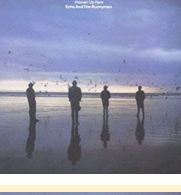
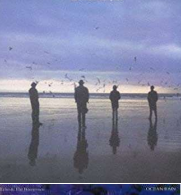
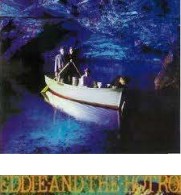
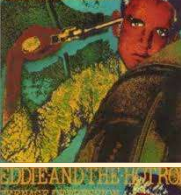
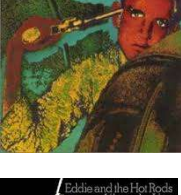
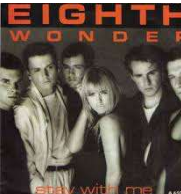
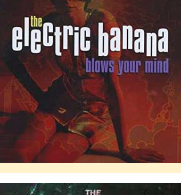
D	DEEP PURPLE	(ペーパーズ リーブ仕様) 紫の炎		1974	ハード ロック& ヘヴィー メタル	CD		
	DEEP PURPLE	嵐の使者		1974	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコー ド	74年作、第三期パープルが前作、「紫の炎」から僅か1年足らずでリリースしたアルバムです。オープニングからいきなり鳴り出すシンセの音に驚かされます。デヴィッド・カヴァーデイルが後にホワイトスネイクで極めていく路線が続く、かなりアメリカ南部臭が強いサウンドは、好き嫌いが分かれるところでしょうが、メロディの充実ぶりは見事なものがあります。パープル流サザン・ロックは確かにハード・ロック・ファン離れを起こしたのかもしれませんが、改めて聴くとバラエティに富んだ作風が飽きさせません。グレン・ヒューズの歌の上手さや、リッチーのスライド・ギター等、新たな方向性を模索する中、これはこれで味わいのある1枚となっています。思えばリッチーのアメリカナイズされたサウンドへの指向は、ここから始まっていたのかもしれませんが。	1嵐の使者 2愛は何よりも強く 3聖人 4ホールド・オン 5嵐の女 6ユー・キャン・ドゥー・イット・ライト 7ハイ・ボール・シューター 8ジブシー 9幸運な兵士
	DEEP PURPLE	嵐の使者		1974	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコー ド		
	DEEP PURPLE	カム・テイスト・ザ・バンド		1975	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコー ド	75年作、ディープ・パープルの70年代の最終作となったアルバムで、当時は酷評された様ですが、改めて聴くとこれがなかなかカッコいい1枚です。デヴィッド・カヴァーデイル、グレン・ヒューズ主導によるファンキーなハード・ロック路線にととうりリッチー大先生が耐え切れず脱退、バンドは解散かと思われましたが、アメリカ人のトミー・ボーリンを迎える事によってフレッシュさを取り戻しています。全くの別バンドと言ってもいい土臭いハード・ロック・バンドとなっているのですが、トミーの色気のあるギターと陽性の高揚感が、新たなパープルの魅力として根付くには、このラインナップであと2、3枚のアルバムが必要だったのかもしれませんが。ただポップでゴキゲンなノリは、以降のWHITESNAKEが受け継ぎ、リッチーはRAINBOWで様式美を追求する事となったという事実を考えれば、本作の意味もかなり大きかった気はします。アメリカン・ハードのカラーとしたダイナミズムに溢れた「Gettin' Tighter」は、トミー抜きでは考えられなかった名曲であつたはずですし、「Love Child」ではそんなトミーに煽られる様にカヴァーデイル節が炸裂していて、かなりの名曲になっていると思われます。アメリカンなセンスが目立つ中、ジョン・ロード一人がプリティシュの芳醇な香りをキープしているのも特徴的で、ユニークな作風になっていたのも見逃せません。ご存知の様に本作リリース後、間もなくバンドは正式解散し、程なくしてトミー・ボーリンは婦らぬ人となってしまいました。	1カミン・ホーム 2レイディ・ラック 3ゲッティン・タイター 4ディーラー 5アイ・ニード・ラヴ 6ドリフター 7ラヴ・チャイルド 8a)ジス・タイム・アラウンド b)オウド・トゥ・'G' 9キーブ・オン・ムーヴィング
	DEEP PURPLE	ブラック・ナイト = 24カラット		1975	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコー ド	1975年発表の第二期ディープ・パープルの活動をまとめたベスト・アルバム。伝説のハード・ロック・バンド、ディープ・パープルのロックの古典的名曲とライヴ音源をセレクトした編集盤。	1'ウーマン・フロム・トーキョー 2ファイア・ボール 3ストレンジ・ウーマン 4ネヴァー・ビフォア 5ブラック・ナイト 6スピード・キング 7スモーク・オン・ザ・ウォーター 8チャイルド・イン・タイム
	DEEP PURPLE	メイド・イン・ヨー ロッパ		1975	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコー ド	76年リリース作、ディープ・パープルの2枚目となったライヴ・アルバムです。彼等のライヴ盤は、やはり「メイド・イン・ジャパン」に尽きるのですが、本作を聴かずにおくのはあまりにももったいない話です。トミー・ボーリンを迎えた「COME TASTE THE BAND」リリース後、バンドは76年に解散表明をしています。本作はその数カ月後に発売される形となりましたが、重要なのは本作は彼等の当時のファイナル・ツアーを収録したものであつた事です。つまりリッチー・ブラックモアが在籍した70年代パープルの最後のツアーであつたという事になります。邦題はライヴ・イン・パリとされていますが、オーストリア、ドイツ、そしてフランスでの公演の音源から構成されています。デヴィッド・カヴァーデイルとグレン・ヒューズによるファンキーなハード・ロック指向、そしてリッチーがそれまで作り上げてきた大音量によるキャッチーなハード・ロック指向のぶつかり合いがパープル崩壊を招いたわけですが、本ライヴではそのギリギリのバランスが保たれたバンドのスリリングな状態が貴重な記録としてパッケージされています。カヴァーデイルの圧倒的歌唱力、またギランの絶頂期を思わせるシャウトとブンブン引く張るベースが存在感を見せるヒューズは、実に見事なパフォーマンスだと思うのですが、特に耳を惹くのはやはりリッチーだと言えるでしょう。全曲が第三期・パープルのナンバーとなるのですが、スタジオ・ヴァージョンでは聴けなかった凄まじいプレイの数は、まさに燃え尽きようとしているリッチーの壮絶な姿そのものだと思います。そのリッチーに必死に食い下がるかの様なバンド・サウンドも凄まじく、これが解散寸前のバンド4年作、当時時代が最も盛んな黄金の第二期パープルの再結成第1弾となったアルバムです。	紫の炎 / Burn - 7:28 ミストウリーテッド / Mistreated (Interpolating Rock Me Baby) - 11:43 嵐の女 / Lady Double Dealer - 4:18 ユー・フル・ノー・ワン / You Fool No One - 16:43 嵐の使者 / Stormbringer - 5:33 メンバー リッチー・ブラックモア - ギター デヴィッド・カヴァーデイル - ボーカル グレン・ヒューズ - ベース、ボーカル ジョン・ロード - キーボード イアン・ペイス - ドラムス
	DEEP PURPLE	パーフェクト・スト レンジャーズ		1984	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコー ド	レーンボーの消滅も、この劇的な復活によってファンは納得をしたのでした。リッチーとイアン・ギランの合流は、奇跡的とも思えるものであり、サバサにも参加していたギランが再びパープルに戻った瞬間は、リアルタイムで伝説を見れた若いファンをも取り込んでいったのでした。確かにレーンボーの続編と思われるのも仕方ないのかもしれませんが。アダルトなハード・ロック、という見方もされましたが、「Knocking At Your Back Door」という新たな代表曲を生み、「A Gypsy's Kiss」や「Hungry Daze」ではこのメンバーならではのマジックもあつたと思います。80年代という空気を讀むベテランの職人技の凄みはもちろん、何よりもロック界全体を賑わす黒い流星の1枚として、細部に凝った経典です。	1ノッキング・アット・ユア・バック・ドア 2アンダー・ザ・ガン 3ノーバディーズ・ホーム 4ミン・ストローク 5パーフェクト・ストレンジャーズ 6ア・ジブシーズ・キス 7ウェイステッド・サンセツ 8ハングリー・デイズ 9ノット・レスポンシブル
	DEEP PURPLE	ハウス・オブ・ブ ルー・ライト		1987年1 月12日	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコー ド	第2期メンバーによる再結成後のセカンド・アルバム。再結成後の1枚目の「パーフェクト・ストレンジャー」があまりにも良かったためか、評価は低い部類に入ってしまったが、どうして、なかなか、そんなよそらのヘヴィネスではない。前作は、当時よく言われていたようにレーンボーみたいな音にディープ・パープルらしさを絶妙にブレンドしたもの。リッチー主導で曲も前々から相対練られていたと思う。70年代パープルのパロディーとも思えるようなフレーズなんかも出てきて、確かに良くできた作品。が、今回は、このメンツで、顔を突き合わせて、あらためて曲を作っているんだと思う。2作続けてのリッチー主導を嫌うギラン、ここでのギランのボーカルは凄まじいデキ。おそらく彼のキャリアの中でも10本の指の中に入れてもおかしくないくらい。いつものシャウトだけでなく、様々な表現力を持っているところが凄い。あらためて、この人って単なる2期のボーカルだった人みたいに簡単に過去の人として葬り去られるような人じゃないんだと思う。ただ、リッチーのあのスリリングなギターが聴きたいという方にはウーン、あまり無い。でも、決して、半端な作品ではありませんよ。どの曲も良くできた曲。捨て曲なしと言ってもいいでしょう。	Side A 1.バッド・アティチュード 2.アンリトゥン・ロウ 3.コール・オブ・ワイルド 4.マッド・ドッグ 5.ブラック・アンド・ホワイ Side B 1.ハード・ラヴィン・ウーマン 2.スバニッシュ・アーチャー 3.ストレンジウェイズ 4.ミッティー・デュブレ 5.デッド・オア・アライヴ
	DEEP PURPLE	ノーバディーズ・ パーフェクト		1988年6 月28日	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコー ド	第2期メンバーによる再結成後の、'88年に発売されたライヴ・アルバム。1「パーフェクト・ストレンジャー」で見事よみがえったパープルのライヴ。絶対に良い。2期のハーフ・オフィシャルなんかをあさっているなら、まずこの期の盤を聴くべきと思う。シャウトするギラン、リッチーのギターもスリリング、ジョンのボーカルも狂気。かといって何もかもあの2期かと言えはそうではない。レーンボーをはじめ、メンバーはいろんな経験をしている。今さら2期の音を出しても仕方ないのは、承知の上でのことである。どこか新しい。でも、しよせん自分たちに求められているのは、あの2期の音の再現かなどもと覚悟している。そういう微妙なスタンスである。曲からして、再結成後のものと昔の2期のものと半々ぐらいで構成している。よく分かった人たちのだ。このよく分かったところが、批判されるところでもあるのだけれど。演奏も、あの「メイド・イン・ジャパン」の頃の様な凄まじい緊張感よりも、どこか余裕を見せつけるような迫力のある演奏。いろいろ批判があつた前作の曲も異なった曲のようにドライヴしている。本当によく分かった人たちである。ジョンも天国に召された現在。もう、このメンツは絶対にそろはない。このメンツが絶対とは言わないけれど、このメンツならではのロックがあつたのも確か。ロックファンなら、ぜひともこの2枚、あの栄光の「プリティシュ・ロック」の刻印が押されている。	Side 1 1.Highway Star 2.Strange Kind Of Woman 3.Old Or Alive Side 2 1.Perfect Strangers 2.Hard Lovin' Woman 3.Bad Attitude 4.Knocking At Your Back Door Side 3 1.Child In Time 2.Lazy 3.Space Trucking Side 4 1.Black Night 2.Woman From Tokyo 3.Smoke On The Water 4.Hush
	DEEP PURPLE	(ペーパーズ リーブ仕様) マシンヘッド・ラ イヴ〜ライヴ・イ ン・デンマーク 1972		2008年07 月23日	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコー ド	マシンヘッド発売直前に「ファイア・ボール・ツアー」の流れのままセットリストを変えたばかり、という頃のライヴのよう。やっている曲はマシンヘッドの曲が多いのですが、音はむしろファイア・ボールに近い、という微妙なライヴ。勿論「ライヴイン・ジャパン」のクオリティにはかないません。ライヴ音源では貴重な、アンコールの「Fireball」に結構期待していたのですが、ギランの声の調子がマイチ(かなり苦しそう)＆ロジャーのピンポイントベースソロも?ということで、唯一興味を引いたのが「Child in Time」のギターソロ＋キーボードソロ部分。	ディスク: 1 1ハイウェイ・スター 2ストレンジ・ウーマン 3チャイルド・イン・タイム 4ザ・ミュージ ディスク: 2 1レイジー 2スペース・トラッキン 3ファイア・ボール 4ルシール
DEF LEPPARD	オン・スルー・ ザ・ナイト		1980	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコー ド	80年作、N.W.O.B.H.M.の夜明けとなった1枚で、デフ・レパードのデビュー・アルバム。当時平均年齢19歳という若き5人組は、アイアン・メイデン、サクソン、ガール等と共に、ヘヴィ・メタルの新たなヒーローとなった。ジューダス・プリーストやシン・シジ、UFOの影響下にありながら、早くからアメリカン・マーケットを意識したサウンドは、同時代のバンドと比べると明らかにキャッチーさに長けていました。元々ツイーン・リードの魅力よりもキャッチーなメロディをスピーディーなリフに乗せるのが個性だった様で、初期の彼等は荒々しさの中で光る歌メロの良さが特に目立ちます。パンクシズムにも思える疾走感80年代初期の空気を感ぜさせ、ブルースに全く頼らず、グラマラスなコーラスを多用する点は、明らかに新世代と思われ、無限の可能性を確かに感ぜさせてくれました。次作で彼等はとんでもない進化を見せていくわけですが、本作では多少の青臭さも魅力となっていて、今聴いても胸がときめくメタル・アルバムだと思います。		
DEF LEPPARD	ハイ&ドライ		1981	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコー ド	81年作、デフ・レパードのセカンド・アルバム。僅か1年で格段の進化を見せた事で驚かせました。AC/DCの「地獄のハイウェイ」、「バック・イン・ブラック」を手掛けたプロデューサーのロバート・ジョン・マット・ランジと手を組む事を選択し、ジャケット・アートはビंक・フロイド、ツェッペリン、UFOとの仕事で有名なヒプノシスに依頼。すでにN.W.O.B.H.M.勢とは一線を画したメロディの幅の広さ、スピードだけではなくメロディの良さは、当時はアメリカ指向として本国では批判的に向きもあつた様ですが、次作の「炎のターゲット」に繋がると下地はここで完成されています。フォリナーの「4」の制作が完了したばかりのマット・ランジの色合いも、彼等のメタリックかつキャッチーなサウンドへの移行にも影響した様で、この両者のタッグが時代を切り開こうとする勢いが全編に溢れています。脱退したビート・ウイリスの後任として、フィル・コリン(GIRL)が参加し、いよいよ彼等の黄金期が始ま。その後、84年にフィルを迎えてのリミックス・ヴァージョン、「プリンギン・オン・ザ・ハードブレイク」、「ミー・アンド・マイ・ワイン」が収録されたアルバムが再リリースする。全英26位。		
DEF LEPPARD	炎のターゲッ ト		1983	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコー ド	83年作。デフ・レパードの3作目にして、80年代メタルを象徴する大名盤。思えば本作の世界的大ヒットにより、NWOBHMの一過性の熱は冷め、時代はアメリカを中心にLAメタル、ポップ・メタルを求めるようになる。バンドは本作より元GIRLのフィル・コリンを正式に迎え、ヴィジュアル的にもいよいよ充実ぶりを見せる。フォリナーやAC/DCを手掛けてきたロバート・ジョン・マット・ランジとのタッグが、ここでサウンドの完成度の極みを見せ、以降ブライアン・アダマス等がこのプロダクションを踏襲する事になります。「フォトグラフ」での見事なポップ・メタル展開、「フーリン」での80年代型パワー・バラードの雛形とでも言うべき完成度等、奇跡的なメロディの呆れる程の見事さ。オープニングから最後まで、全く隙の無いメロディ構成は今聴いても震えがくる程で、ドラマティックかつポップ、パワー・バラードでは燃え上がる様な叙情性も見事で、これぞ80'sメタルというお手本の内容となっている。全ロック・ファン必聴の1枚と言える大名盤の一つ。全英18位、全米2位。		

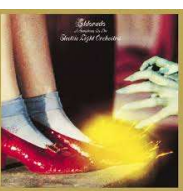
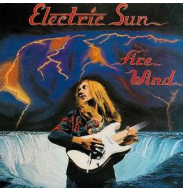
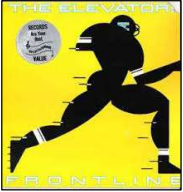
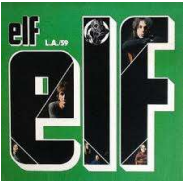
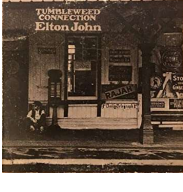
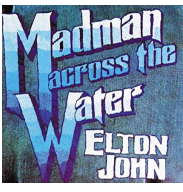
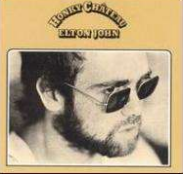
	DEVO	生存学未来編			ニューウェイブ	レコード			
	DEVO	ビー・スティック			ニューウェイブ	レコード			
	DEXYS MIDNIGHT RUNNERS	若き魂の反逆児を求めて		1980	ニューウェイブ	レコード	英国バーミンガムのワーキング・クラス出身、この1980年の1stアルバム、「パンクは姿勢だ」を地で行く硬派パンクスのケヴィン・ローランド(ex:The Killjoys)率いる彼らDexy's Midnight Runnersのデビュー作。今となつては、ローランドがSex Pistols崩壊後にソウルやスカ、アイリッシュに傾倒したことで完成したこのサウンドも後の名曲「Come On Eileen」誕生を予言していたかのように聴こえます。ラジオのチューニングの彼方にDeep PurpleやSex Pistols、The Specialsの音楽が聞こえる【1】や全英1位を記録した【5】、本作きってのポップ・ナンバー【8】などまさに名曲揃いのこの一枚、同時期に発表されたThe Clashの歴史的傑作『Sandinista!』と同じく「真のパンク」を知るためには聴き逃さない傑作。『若き魂の反逆児を求めて』というタイトルといい、緊張感張りつめるジャケといい、本当に非の打ち所がないってのはこのこと。ケヴィン・ローランドは本当に天才だ！	1焼きはらえ 2青に変わる時 3カフスで出会ったバンド 4アイム・ジャスト・ルッキング 5ジーノ 67日間は長すぎる 7誰かいるなら 8どこも、かしこも 9キープ・イット 10ラヴ・パート1	
	DEXYS MIDNIGHT RUNNERS	若き魂の反逆児を求めて		1980	ニューウェイブ	CD			
	DEXYS MIDNIGHT RUNNERS	女の泪はワザモンだ！！		1982	ニューウェイブ	レコード	1982年リリース。デキシーズ・ミッドナイト・ランナーズのセカンドアルバム。1stアルバムのマスター・テープを人質にしたギャラの値上げ交渉、マスコミとの絶縁宣言、度重なるメンバーの離脱などグループの中心人物のケヴィン・ローランドはかなりの癖のある人物のようですが、そんな妥協しない姿勢が作品にも現れているのか、デキシーズの数枚の作品はどれも素晴らしい出来です。取り組んでいる曲調とメンバーがどのアルバムも異なるため、アルバムごとに雰囲気異なりますね。ケルト色を打ち出したこの曲は何となくフォーク・ダンスみtainな雰囲気もあるのですが、そんな明るい曲調の中にちょっと泣きのスパイスを聞かせたような感じが絶妙。誰しもがオッ！！と思わされる名曲ですので未聴の方はとりえず聴いてみることをおすすめいたします。捨て曲なしの好盤。ソウルをベースにしたメロディに特徴のある佳曲が多い中で、「カモン・アイル・メン」は特別にソウルポップスです。	1ザ・ケルティック・ソウル・ブラザーズ 2レッツ・メイク・ジス・プレシャス 3オール・イン・オール 4ジャッキー・ウィルソン・セッド 5オールド 6ブランB 7アイル・ジョー・ユー 8ライアーズ A`E 9ビリーヴ・イン・マイ・ソウル	
	DEXYS MIDNIGHT RUNNERS	女の泪はワザモンだ！！		1982	ニューウェイブ	CD			
	DEXYS MIDNIGHT RUNNERS	ドント・スタンド・ミー・ダウン		1985	ニューウェイブ	レコード		1Kevin Rowland's 13th time 2Occasional flicker 3This is what she's like 4My national pride (formerly Knowledge of beauty) 5One of those things 6Reminisce (part 2) 7I love you (Listen to this) 8Waltz	
	DIAMOND HEAD	偽りの時		1982	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	82年作「ダイヤモンド・ヘッド」のメジャー・デビュー作となったアルバムです。メタリカが「AM I EVIL? 悪魔のささやき」をカバーした事により、再評価もされたバンドですが、NWOBHMシーン勃発時には早くから注目されていた伝説的存在です。メガデスの影響も大きかったとされていますが、このバンドの本来の魅力はスラッシュ的なスピードや複雑な曲構成ではなかったと思われます。いかにも英国的な煮え切らないヴォーカル、速さよりもタメの効いた味のあるギターは、むしろUFOが大事にしてきたツェッペリン以降のプリティッシュ・ハードの魅力を大事にしていたと考えられます。メイデンやサクソン、デフ・レバード等が競う様に攻撃的でスピーディーなリフを生み出していた時代、彼等はハード・ロックの古典的なダイナミズムを80年代風に再現してきたのではないのでしょうか。ジャケット・イメージといい、長尺のナンバーが多い点等、古くからのB級センスを愛するロック・マニアに特に愛され続けている1枚だと思いま		
	DIAMOND HEAD			1987	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	4つのEP盤別のバージョンやのデモであったり、ラジオセッションのために記録された物の編集盤。		
	DICKIES	インクレディブル・シュリンキング・ディッキーズ		1979	パンク	レコード	ロスアンゼルスにて 1977年に結成された「ディッキーズ」のファーストアルバム。ウェストコーストのニューウェーブシーンから飛び出したイキのいいバンド。活動当初から最初期ロスアンゼルスPunk シーンで活動し、即 A&M とメジャー契約を果たし、一躍人気バンドへと駆け上った。躍動するパワーとハードでたたかなポップセンスで人気アルバム。本作は名曲連打の大傑作。当時の中では高速パンクで有名で、1曲の時間も大体1分〜2分程度の曲が主流で、正にパンクというに相応しいグループでアメリカのバンドとは思えない感じだったこともあり、彼らはアメリカのパンクバンドの中で初めてイギリスでチャートで上位ランクさせたバンドであった。また、シングル「BANANA SPLITS」がベスト10位以内のヒットさせイギリスで大いに支持され、新たな地平を切り拓いたバンドでもある。	Side A 1. Give It Back 2. Poodle Party 3. Paranoid 4. She 5. Shadow Man 6. Mental Ward 7. Eve Of Destruction Side B 1. You Drive Me Ape (You Big	
	DICKIES	インクレディブル・シュリンキング・ディッキーズ		1979	パンク	レコード		Side A 1. ギヴ・イット・バック 2. プードル・パーティー 3. パラノイド 4. シー 5. シャドウ・マン 6. メタル・ワールド 7. 明日なき世界 Side B 1. ユードライブ・ミー・エイブ	
	DIO	情念の炎〜ホーリー・ダイヴァー		1983	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	83年作「情念の炎」はロニー・ジェイムズ・ディオが、レインボウ・ブラッギング・ザバスの世界観を更に濃縮したと思える程の音を生み出したディオの1stアルバムです。 超2大バンドの看板を務め、70年代、80年代と圧倒的な存在感を放っていたロニーのその後の動向が注目されていた中、誰もが望む様式美メタルの具現化の理想形として完成されていたのはもちろん、ある意味意外とも思えたポップ化が大きな収穫であったと思います。 ジミー・ペイン、ヴィニー・ムーアという超強カリズム隊に、当時無名であったヴィヴィアン・キャンベルを擁し、タイトでヘヴィ、そしてサウンドはドラマティック、更にロニーが嫌った苦の後期レインボウを思わせる適度なキャッチーさが新鮮でした。		
	DIO	ラスト・イン・ライン		1984	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	84年作「ラスト・イン・ライン」はロニー・ジェイムズ・ディオの最も輝いていたキャリアの中でも挙げられるべき1枚、ディオのセカンド・アルバム。前作でほぼ確立されていた様式ハード・ロック、そしてスピーディーかつドラマチックな美しいメタル・スタイルは更に強化されています。 特にヴィヴィアン・キャンベル、ジミー・ペインという優れたソング・ライターとしてのセンスが大きな貢献をしています。 クレジットにはロニーが全ての曲を作った事になっていますが、名手ジミー・ペインもいる事ですし、そんな事はないと思うのですが・・・ おそらくこころ辺に大人の事情、ヴィヴィアン脱退の秘密があるのでしょう。 オープニングのハイ・スピード・アンセム、「We Rock」、ドラマチックなアルバム・タイトル曲、そしてジミー・ペインのハード・ポップ調の異色作「Mystery」等、優れたメロディがズラリと並んだ大名盤です。80年代メタルのお手本的な1枚でもあると思います。		
	DIO	セクレッド・ハート		1985	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	85年作、ディオのサード・アルバムにして、ヴィヴィアン・キャンベルが在籍した最後の1枚として有名な作品です。 サントラ提供曲となった「Hungry For Heaven」を始め、キャッチーで高揚感溢れるメロディに溢れ、ディオのキャリアの中では最もメロディアス・ハードのカラーが強いかもしれません。 ジミー・ペイン、そしてヴィヴィアンという優れたソング・ライターが、ロニーの元で最良の仕事をしていた頃のピーク時だったと思いますが、この路線がもうしばらく続いても本当に良かったと思えるだけに残念です。		
	DIO	ミステリー 12"、シングル		1984	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード			

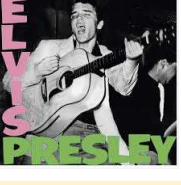
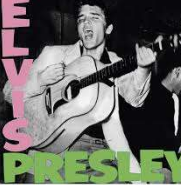
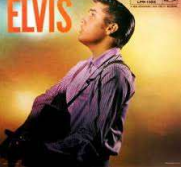
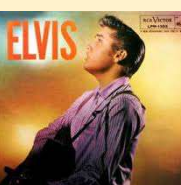
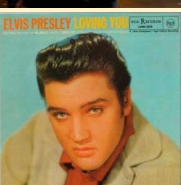
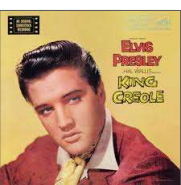
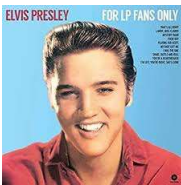
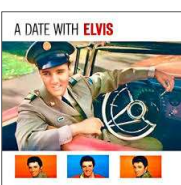
DONNA SUMMER	恋の魔法使い		1982年	ポップス	レコード	長年の音楽パートナー、ジョルジオ・モロダー＆ビート・ペロッティに代わって、この頃マイケル・ジャクソン『Off The Wall』や自身の『The Dude (愛のコリーダ)』のヒットで乗りに乗っていたスーパープロデューサー、クインシー・ジョーンズがプロデュースを担当。そのクインシーの手引きによる豪華作家陣／ゲストアーティストの参加もあり、それまでのディスコサウンドから当時最新トレンドのブラコン路線へとシフトした作品。クインシー人脈が総動員されたあまりにも豪華すぎる制作陣、プロダクション、サウンドコンセプトにドナ自身が「まるでクインシーのアルバムに参加しているみたいね」とかなり戸惑いをおぼえたという逸話も残されている問題作(?)ながらも、ブラコン～ポップアルバムとして恐ろしく高い完成度を誇る1枚。	Side A 1. Love Is In Control(Finger On The Trigger) 2. Mystery Of Love 3. The Woman In Me 4. State Of Independence	Side B 5. Livin' In America 6. Protection 7. (If it)Hurts Just A Little 8. Love Is Just A Breath Away 9. Lush Life
DONOVAN	サンシャイン・スーパーマン		1966	フォークロック	CD	1966年発表の3rdアルバム。「サンシャイン・スーパーマン」が、ビルボードの全米チャートで1位に輝いた。このアルバムを出すことによってイギリスだけでなくアメリカにも人気が広がる。またドノヴァンはビートルズの「リボルバー」セッションにもよく遊びにいらしたらしく、このアルバムには、ビートルズの影響も強く受けており、サイケデリックが強くなった作品でもある。スーパーマンやグリーンランタンなど、歌詞には架空のスーパーヒーローたちが登場するが、彼らへの敬意を払いつつも、大好きな女性への思いをつづるラヴ・ソングだ。ハーブシコードを印象深く使い、エキゾチックでカラフルなそのサウンドは、文字通りのサイケデリック・サウンドで、ドノヴァンがフォーク・シンガーから抜け出し、ポップ・カルチャーそのものの真ん中に飛び込んだことを教えてくれるものでもあった。	1. サンシャイン・スーパーマン 2. 少女リンダの伝説 3. 3羽のかわせみ 4. 観覧車 5. パートのブルース 6. 魔女の季節 7. 夢の旅路 8. 王妃グイナヴィア 9. 太った天使 10. シレスト	
Doobie Brothers	キャプテン・アンド・ミー		1973年3月	ポップス	レコード	まさにドゥービー・ブラザーズの絶頂期の頃の作品です。輝かしい大ヒットを記録し、バンドの地位を不動のものとした、ドゥービー・ブラザーズの記念すべき名3rdアルバム！大ヒットしたLong Train Runnin'and China Groveは名曲ですが、他の曲もすべて素晴らしいです。ブルースやカントリーっぽい曲もありますが、全体的には彼らの原点でもあるウエストコーストロックにこだわった作風です。キーボードも効果的に多用しています。	Side A 1. ナチュラル・シング. 03:18 2. ロング・トレイン・ランニン. 03:26 3. チャイナ・グローヴ. 03:14 4. ダーク・アイド・ケイジャン・ウーマン. 04:12 5. クリア・アズ・ザ・ドライヴン・スノー. 05:17	Side B 1. ウィズアウト・ユー. 04:59 2. サウス・シティ・ミッドナイト・レディ. 05:28 3. イーヴル・ウーマン. 03:18 4. オコネリー・コーナース. 00:47 5. ユカシア. 03:02 6. キャプテン・アンド・ミー. 04:49
Doobie Brothers	スタンピード		1975年5月	ポップス	レコード	トム・ジョンストン(vo.g)が中心となり1970年米国カリフォルニアで結成。マリファナのスラングである"ドゥービー"から名前をとってドゥービー・ブラザーズとし、71年にアルバム『ドゥービー・ブラザーズ・ファースト』でデビュー。1975年リリースの4thアルバム。これぞアメリカン・ロック！スティーリー・ダンに在籍したジェフ・バクスターを迎え、トリプル・リード・ギターが炸裂！！まさに疾走する歴史的な大ベストセラー・アルバム。ライ・クーダー、マリア・マルダーも参加。「Take Me In Your Arms/君の胸に抱かれない」収録。全米4位獲得。	Side A 1. スウィート・マキシン. 04:26 2. ニールのファンダンゴ. 03:09 3. テキサス・ララバイ. 05:01 4. ミュージック・マン. 03:32 5. スラッド・キーン・ソクェル・ラヴ. 01:53	Side B 1. 君の胸に抱かれない. 03:41 2. ハングマン. 06:38 3. プレシー. 00:58 4. レイニー・デイ・クロスロード・ブルース. 03:45 5. おまえに首ったけ. 04:24 6. ダブル・ティールン・フォア・フラッシュャー. 03:35
Doobie Brothers	ミニット・バイ・ミニット		1978年12月1日	ポップス	レコード	ドゥービー・ブラザーズの8thアルバム。マイケル・マクドナルドが中心となって作り上げた、グループ後期の最高傑作。マイケル・マクドナルドのヴォーカルのパワフルさと繊細さが、ともに出ていて、前へ前へと広がります。ブルー・アイド・ソウルと称されるタイプのボーカリストの一人であり、ハスキーで深みのある非常に個性的な歌声を持つあの歌声が堪能できる。全米アルバム・チャートNo.1を記録した、グラミー受賞作品。「ホワット・ア・フール・ビリーブス」、「ミニット・バイ・ミニット」等を収録。	Side A 1. ヒア・トゥ・ラヴ・ユー 2. ホワット・ア・フール・ビリーブス 3. ミニット・バイ・ミニット 4. ティンペディン・オン・ユー 5. 轍を見つめて	Side B 6. オープン・ユア・アイズ 7. スウィート・フィーリン 8. ステイマー・レイン・ブレイクダウン 9. ユー・ネヴァー・チェンジ 10. ハウ・ドゥ・ザ・フールズ・サヴァイヴ?
Doobie Brothers	ベスト・オブ・ザ・ドゥービーズ		1976年	ポップス	レコード		Side A 1. China Grove 2. Long Train Runnin' 3. Takin' It to the Streets 4. Listen to the Music (Edit) 5. Black Water 6. Rockin' Down the Highway	Side B 1. Rockin' Down the Highway 2. Jesus Is Just Alright with Me 3. It Keeps You Runnin' 4. South City Midnight Lady 5. Take Me in Your Arms (Rock Me a Little While) 6. Without You
Doobie Brothers	ベスト・オブ・ザ・ドゥービーズⅡ		1981年	ポップス	レコード	バンドが一旦その活動を休止させたのちとなる1981年に発表された彼らにとって2枚目のベスト・アルバム	Side A 1. Little Darling (I Need You) 2. Echoes of Love 3. You Belong to Me 4. One Step Closer 5. What a Fool Believes	Side B 1. Dependin' on You 2. Here to Love You 3. One by One 4. Real Love 5. Minute by Minute
DOORS	ハートに火をつけて		1967	ロック	レコード	1967年1月発売のドアーズのデビュー・アルバム。後にロック文学ともいわれるよう革新的で難解な詩と、トリップしたような音楽の組み合わせが特徴。歌詞そのものは評論家の多くに「つかみどころがない」とされるも、音楽やルックスなどが、ベトナム戦時下当時のヒッピー層に熱狂的に受け入れられた。その結果、思わぬ形で反戦・反体制のシンボルとされ、政治的な発言を求められるようになり、ついにはアメリカ国内にて保守層の攻撃対象に至る発端となった。やがてジム・モリソンの死を経て、90年代に彼らの映画が制作され、世界的にロックの歌詞が見直されるようになり、ドアーズは普遍的な評価を得るに至った。本作は彼らのデビュー作にして最高傑作であるといえるが、それは「バンドのデビューまでにジムが長年にわたり詩を書きためていたこと」「デビューまでにバンドが毎晩のように少ないギャラでバーのステージに出演し、演奏しながら曲を練り上げていった事」「政治やアル中などの影響が少ないこと」があげられる。	A面 1. ブレイク・オン・スルー - Break on Through (To the Other Side) 2. ソウル・キッチン - Soul Kitchen 3. 水晶の舟 - Crystal Ships 4. 20世紀の狐 - Twentieth Century Fox 5. アラバマ・ソング - Whisky bar(Alabama Song) 6. ハートに火をつけて - Light My Fire	B面 1. バック・ドア・マン - Back Door Man 2. 君を見つめて - I Looked at You 3. エンド・オブ・ザ・ナイト - End of the Night 4. チャンスはつかめ - Take it as it Comes 5. ジ・エンド - The End
DOORS	(ペーパーズ・リーブ仕様) ハートに火をつけて (デジタルリマスター)		1967	ロック	CD	ジョン・デンスモアは後の著書で、このアルバムに関しては、レコーディングのトラック数が少なく、ドラムとベースとギターは同一トラックに一発録りしたと語っている。A面の1曲目「ブレイク・オン・スルー」は、バンドの方向性を示した曲であるとされ、A面のラストのハートに火をつけては、ドアーズ最大のヒット曲。また、ジ・エンドは問題作であり、ドアーズの代名詞とされ、ドアーズのアルバムの中でも最高傑作。		
DOORS	まぼろしの世界		1967	ロック	レコード	ドアーズの2枚目のアルバム。1967年10月発売。この年の1月に発売されたデビュー作の成功によって、バンドは自信を持ってレコーディングにのぞむことができ、より強く彼らの世界が表現されている。このアルバムに収められた曲は、華やかな曲は少ないものの、実験精神に富みながらも、アルバム全体の統一感が保たれている。ジャケットは、曲芸師の団が街を練り歩くというもので、他のドアーズのアルバムがメンバーの写真なのに対して、異彩を放っている。ちなみに、ジャケットしているのはカメラマンのアシスタント、トランペット奏者はタクシー運転手を5ドルで雇って出演させた。エンジニアはブルース・ポトニック、プロデューサーはポール・A・ロスチャイルド。レーベルはエレクトラ。	A面 1. ストレンジ・デイズ Strange Days - 3:09 2. 迷子の少女 You're Lost,Little Girl - 3:03 3. ラヴ・ミー・トゥー・タイムス Love Me Two Times - 3:16 4. アンハッピー・ガール Unhappy Girl - 2:00 5. 放牧地帯 Horse Latitudes - 1:35 6. 狐の20世紀 Twentieth Century Fox	B面 1. まぼろしの世界 People are Strange - 2:12 2. マイ・アイズ・ハヴ・シーン・ユー My Eyes Have Seen You - 2:29 3. おぼろな顔 I Can't See Your Face in My Mind - 3:26 4. 音楽が終わったら When the Music's Over - 10:59
DOORS	(ペーパーズ・リーブ仕様) まぼろしの世界 (デジタルリマスター)		1967	ロック	CD			
DOORS	太陽を待ちながら		1968	ロック	レコード	1968年にリリースされたドアーズのサードアルバム。本作は彼らのアルバムで初の一位を獲得し、シングル・カットされた「ハロー・アイ・ラヴ・ユー」は二度目のナンバー・ワン・ヒットとなった。「ハロー・アイ・ラヴ・ユー」はそのコード進行、メロディからキンクスの「オール・ザ・ナイト」の盗作と騒がれた。ジャケット内側に印刷された詩「セレブレーション・オブ・ザ・リザード」は「大地に触れずに」に一部使用されているが、完全版は後の『アプソルوترリー・ライヴ』で日の目を見ることとなる。フラメンコ風の「スペインッシュ・キャラバン」にはスペインの作曲家、イサーク・アルベニスの作品「アストゥリアス」から一部が引用されている。本作のタイトルとなった楽曲「太陽を待ちながら」は1970年の『モリソン・ホテル』に収録された。	Side 1 1. ハロー・アイ・ラヴ・ユー - Hello, I Love You 2:22 2. ラヴ・ストリート - Love Street 3:06 3. 大地に触れずに - Not to Touch the Earth 3:54 4. 夏は去りゆく - Summer's Almost Gone 3:20 5. ウインタータイム・ラヴ - Winter Time Love 3:56	Side 2 1. スペニッシュ・キャラバン - Spanish Caravan 2:58 2. マイ・ワイルド・ラヴ - My Wild Love 2:50 3. 一緒にいられたら - We Could Be So Good Together 2:20 4. 川は知っている - Yes, the River Knows 2:35 5. ファイヴ・トゥ・ワン - Five to One 1:46
DOORS	(ペーパーズ・リーブ仕様) 太陽を待ちながら (デジタルリマスター)		1968	ロック	CD			
DOORS	太陽を待ちながら		1968	ロック	CD			
DOORS	ソフト・パレード		1969	ロック	CD	1969年発表のドアーズ第4作目。プラス・セクション、パーカッションを大胆に導入し、センセーションを巻き起こした注目作だが、全体的にポップな作風となつたが以前の作品に比べて評価が低い作品となった。モリソンに代わり、作詞を主にロビー・クリーガーが担当した作品。全米No.1ヒット「タッチ・ミー」収録。全米6位。	1. テル・オール・ザ・ビーブル - Tell All the People (Krieger) 3:21 2. タッチ・ミー - Touch Me (Densmore, Krieger, Manzarek, Morrison) 3:12 3. シャーマンズ・ブルース - Shaman's Blues (Densmore, Krieger, Manzarek, Morrison) 4:48 4. ドゥー・イット - Do It (Krieger, Morrison) 3:09	6. ワイルド・チャイルド - Wild Child (Densmore, Krieger, Manzarek, Morrison) 2:36 7. ラニン・ブルー - Runnin' Blue (Krieger) 2:27 8. ヴィッシュフル・シンフル - Wishful Sinful (Krieger) 2:58 9. ソフト・パレード - The Soft Parade (Densmore, Krieger, Manzarek, Morrison) 8:36

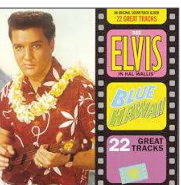
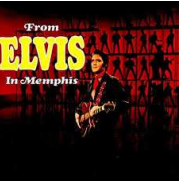
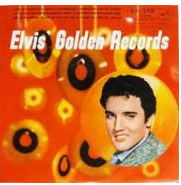
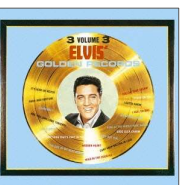
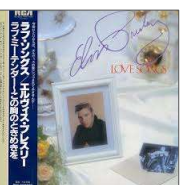
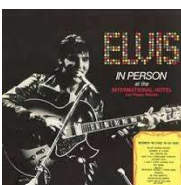
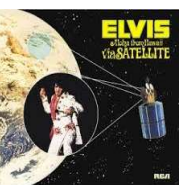
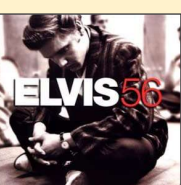
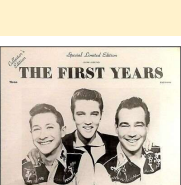
	DOORS	(ペーパーズ リーブ仕様) モリソン・ホテル		1970	ロック	CD	1970年にリリースされたドアーズの5作目のアルバム。1969年3月のマイアミ事件以後、ステージから遠ざかっていた状況下で制作された本作は、衝動と反逆のスタイルを復活、前作よりもブルース色が濃く、自分たちの原点に立ち返った作品であると言える作品。インディアン交通事故死を目撃したモリスンの幼児体験に触発された「ピース・フロッグ」他アルバムのAB面はそれぞれ、HARDROCK CAFEサイド、MORRISON HOTELサイドと名付けられている。ジャケット写真はロサンゼルスダウンタウンに実在する同名のホテルを借りて撮影された。全米4位、全英12位。	HARD ROCK CAFE ロードハウス・ブルース – Roadhouse Blues (Densmore, Krieger, Manzarek, Morrison) 4:04 太陽を待ちながら – Waiting for the Sun (Densmore, Krieger, Manzarek, Morrison) 3:58 ユー・メイク・ミー・リアル – You Make Me Real (Densmore, Krieger, Manzarek, Morrison) 2:50 ピース・フロッグ – Peace Frog (Densmore, Krieger, Manzarek, Morrison) 2:52 ブルー・サン・デイ – Blue Sunday	MORRISON HOTEL ランド・ホー – Land Ho! (Krieger, Morrison) 4:08 ザ・スパイ – The Spy (Densmore, Krieger, Manzarek, Morrison) 4:15 ハイウェイの女王 – Queen of the Highway (Densmore, Krieger, Manzarek, Morrison) 2:47 インディアン・サマー – Indian Summer (Krieger, Morrison) 2:33 マギー・マギル – Maggie McGill (Densmore, Krieger, Manzarek, Morrison) 4:24
	DOORS	L.A.ウーマン –		1971	ロック	レコード	1971年にリリースされたドアーズのアルバム。ジム・モリソンが参加した最後のアルバムとなった。ドアーズの作品の中でもブルース色の濃い作品の一方、「L.A.ウーマン」など、それまでのドアーズの作品には無い、スピード感溢れる軽快な曲も含まれている。一方、アルバムの最後を飾る「ライダーズ・オン・ザ・ストーム」は哀感に満ちた内容で、直後のジムの死を予感させる曲とも言われるが、レイ・マンザレクによれば「ヒッチハイクシリアルキラー」として知られるビル・クック(英語版)をモデルにした曲であるという。また、歌詞中では哲学者マルティン・ハイデッガーの提唱した投企という概念に言及している。アルバム制作に際しては、前作までのプロデューサー、ポール・A・ロスチャイルドと決別し、エンジニアのブルース・ボトニックとメンバーの共同プロデュースとなった。本作はベースにジェリー・シェフ、ギターにマーク・ペノをゲストに迎えている。殆どの曲は、デビュー・アルバム同様一発録りに近い形式で録音されており、またジムのボーカルは、浴室を使って収録されたと言う話もある。ジムは、本作の録音を終えるとバりに旅立ち、結局そこで死を迎える事となった。ジムは、バンドのボーカルとしての自分に嫌気が差していたと言われていたが、メンバー曰く、本作の後もバンド名義によるアルバム制作に意欲を持っていたという。	A面 1. チェンジリング – The Changeling (The Doors) 4:21 2. ラブ・ハー・マッドリー – Love Her Madly (The Doors) 3:20 3. ビーン・ダウン・ソー・ロング – Been Down So Long (The Doors) 4:12 4. カーズ・ヒス・バイ・マイ・ウィンドウ – Cars Hiss by My Window (The Doors) 4:44	B面 1. ラメリカ – L'America (The Doors) 4:38 2. ヒヤシンスの家 – Hyacinth House (The Doors) 3:12 3. クローリング・キング・スネーク – Crawling King Snake (Hooker) 5:00 4. テキサス・ラジオ – The WASP (Texas Radio and the Big Beat) (The Doors) 4:15 5. ゴッド・ザ・グッド・バイ・バイ・バイ
	DOORS	L.A.ウーマン –		1971	ロック	CD			
	DOORS	アザー・ヴォイ セズ		1971	ロック	レコード	1971年にリリースされたドアーズのアルバム。ジム・モリソンの死後残りの三人によって製作された。レイ・マンザレクとロビー・クリーガーがモリソンの代わりのリード・ヴォーカルを務めた。ベシストとしてジャック・コンラッドをゲストに迎えた。ジム・モリソンに言及した「Tightrope Ride」を初め、ジム・モリソンというカリスマ不在の中で作られたアルバムですが、バンド・サウンドを重視した作りは、THE BANDのようなアメリカン・サウンドに近いものを醸しだしており、ROBBY KRIGERのソロ・ギターが全開となる箇所があったりと音楽的には、果敢な成長を遂げた新生DOORSの姿がここにあります。当然ジム・モリソン不在という事実を直視出来ないファンからは評価されなかった。ただし、ファンキーかつジャジーで知的かつ野蠻なDOORSサウンドの、最も進化した姿を垣間見た思いを新たにした力作。長らくCD化されず入手困難であった。	A面 1. イン・ジ・アイ・オブ・ザ・サン In the Eye of the Sun – 4:48 2. 激動の人生 Variety Is the Spice of Life – 2:50 3. 雲の船発ち Ships w/ Sails – 7:38 4. タイトロープ・ライド Tightrope Ride – 4:15	B面 1. ダウン・オン・ザ・ファーム Down on the Farm – 4:15 2. アიმ・ホーニー、アिम・スタン ド I'm Horny, I'm Stoned – 3:55 3. さすらミュージシャン Wandering Musician – 6:25 4. ハング・オン・トゥ・ユア・ライフ Hang on to Your Life – 5:36
	DOORS	フル・サークル –		1972	ロック	レコード	1972年にリリースされたドアーズのアルバム。ジム・モリソン死後に発表された二作目、および彼らのラスト・アルバム。シングル「蚊」がヒットしたが、アルバムは売れなかった。今までのサウンドから完全に離れたジャズ系ミュージシャンをゲストに迎えて明るいナンバーを主流に新たな方向へと舵を切ったが結局はこれが最後になってしまった。前作同様メンバーがヴォーカルを取るが所詮ドアーズの看板をひっかけている以上ジムのイメージからは逃れられずドアーズの終焉を迎える事になる。内容は明るいジャズテイストのあるロックと言うよりポップナンバーで構成され新規一転を図ったサウンドで、ドアーズとは違うバンドと思えば内容的には流石にレイ・マンザレクの才能は凄くって内容が悪くはなかった。長らくCD化されず入手困難であった。	A面 1. Get Up and Dance (Krieger, Manzarek) – 2:25 2. 4 Billion Souls (Krieger) – 3:18 3. Verdillac (Krieger, Manzarek) – 5:40 4. Hardwood Floor (Krieger) – 3:38 5. Good Rockin' (Brown) – 4:22	B面 1. The Mosquito (Densmore, Krieger, Manzarek) – 5:16 2. The Piano Bird (Conrad, Densmore) – 5:50 3. It Slipped My Mind (Krieger) – 3:11 4. The Peking King and the New York Queen (Manzarek) – 6:25
	DOORS	グレートスト ッツ		1980	ロック	レコード	ジム・モリソン率いるドアーズのベストアルバム。名曲「ハートに火をつけて」やドアーズを代表するヒット曲「ハロー・アイ・ラブ・ユー」「タッチ・ミー」を収録。	A面 1. ello, I Love You 2:16 2. Light My Fire 7:05 3. People Are Strange 2:10 4. Love Me Two Times 3:14 5. Riders On The Storm 7:11	B面 1. Break On Through 2:26 2. Roadhouse Blues 4:04 3. Not To Touch The Earth 3:55 4. Touch Me 3:11 5. L.A. Woman 7:49
	DOWNLINERS SECT	(ペーパーズ リーブ仕様) ザ・ロック・セク ツ・イン		1966	ロック	CD	1966年リリース。元祖ガレージ、元祖パンクと言われるワイルド・サウンド。"プリティーシングス"と共にイギリスを代表するR&B BEAT PUNKグループ"ダウンライナーズセクト"の66年作のサードアルバム。UK的な"ガレージ・パンク・サウンド"の元祖とも称される荒々しくWildなBeatサウンドが楽しめる。ファースト共に英60年代R&Bバンドの最高傑作と言われるアルバム。アルバム未収録のシングルを4曲収録。	A1Hang On Sloopy A2Fortune Teller A3Hey Hey Hey Hey A4Everything I've Got To Give A5OutSide A6I'm Hooked On You A7Comin' Home Baby	B1Why Don't You Smile Now B2Don't Lie To Me B3May The Bird Of Paradise Fly Up Your Nose B4He Was A Square B5I'm Looking For A Woman B6The Rock Sect's In Again B7Brand New Cadillac
	DR FEELGOOD	ダウン・バイ ザ・ジェティー		1975	ロック	CD	75年発表のデビュー・アルバム。パプ・ロックの雄、ドクター・フィールグッド。こちらは1975年に英国ロック界の隠れた名プロデューサー、ウィック・メイルがプロデュースを担当した彼らのデビュー・アルバムで名作の誉れ高い一枚。ブルースやR&Bを下敷きにしながらも、ウィルコ・ジョンソンのカッコいいことこの上ない、と味わい深いリー・プリローのvo.が組み合わせさせて彼らにしか出せない、ストイックで緊張感溢れる演奏を聴かせる。歯切れいいウィルコ・ジョンソンのギター、リー・プリローの濃いヴォーカルなど既に完成したスタイルを築いているのはさすが。1曲目の「She Dose It Right」はウィルコのライブでも演奏される人気曲の一つ。	1. シー・ダズ・イット・ライト 2. ブーン・ブーン 3. ザ・モアー・アイ・ギヴ 4. ログゼット 5. ワン・ウィークエンド 6. ザット・エイント・ザ・ウェイト・トゥ・ビヘイヴ 7. アイドント・マインド	8. トウエンディー・ヤーズ・ビハインド 9. キープ・イット・アウト・オブ・サイト 10. オール・スルー・ザ・シティー 11. チェック・ブック 12. オーイェ! 13. テキラ 14・ユーザーレビュー
	DR FEELGOOD	プリモ		1991	ロック	CD	1991年リリースの17作目。ギターは5代目となるスティーヴ・ウォルソン。ニック・ロウの1. やミッキー・ジャップの8. などパプ・ロックのファンなら避けて通れない曲と同時にドアーズの9. という一見ミス・マッチな曲をカヴァーしている作品であり、ジャケットも彼らにしては明るくてポップな印象があるためそれなりに目立つ作品と言えるだろう。サウンド的には大差がない(w)と書いてしまっても実も蓋もないが、初期と比べると若干こじんまりとした分ライトにポップになった印象がある。プラスが導入された3. にしても重さよりも聞きやすさに重点を置いた感じがするが、それも微調整程度か? オケは湿った音で初期とは違った雰囲気はあるものの、スカットとしたドラムのサウンドは本当に気持ちが良い。おまけにリー・プリローのハーブとヴォーカルは絶好調なので、代表作とは言わないものの必聴盤とは言いたい作品。何にしても1. はやっぱり定期的に聞きたくなる必殺の一曲。	1Heart Of The City 2My Sugar Turns To Alcohol 3Going Down 4No Time 5World In A Jug 6If My Baby Quit Me	7Primo Blues 8Standing At The Crossroads Again 9Been Down So Long 10Don't Worry Baby 11Down By The Jetty Blues 12Two Times Nine
	DRONES				パンク	レコード			
	DURAN DURAN	デュラン・デュ ラン		1981	ニュー ウェイブ	レコード			
	DURAN DURAN	デュラン・デュ ラン		1981	ニュー ウェイブ	レコード			
	DURAN DURAN	リオ		1982	ニュー ウェイブ	レコード			
	DURAN DURAN	セブン・アンド・ ザ・ラグド・タイ ガー		1983	ニュー ウェイブ	レコード	1983年発売 全英1位、米8位 デュラン・デュランのサードアルバム。		
	DURAN DURAN	セブン・アンド・ ザ・ラグド・タイ ガー		1983	ニュー ウェイブ	レコード	1983年発売 全英1位、米9位 デュラン・デュランのサードアルバム		

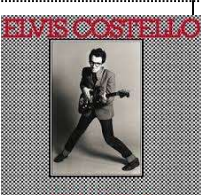
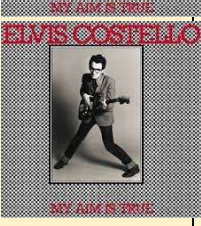
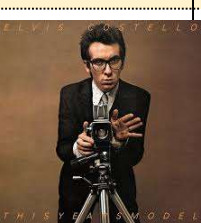
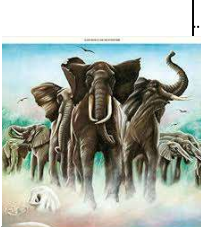
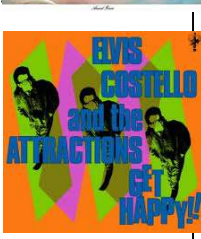
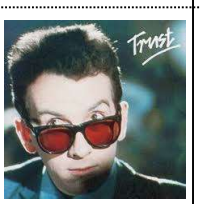
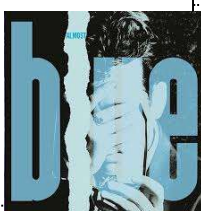
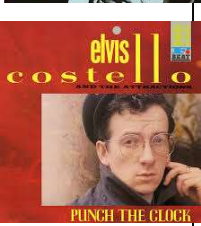
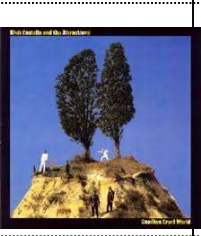
	DURAN DURAN	ノトーリアス		1986年	ニューウェーブ	レコード	デュラン・デュランの4枚目で1986年リリースのアルバム。プロデューサーにナイルロジャースを迎え、アンディー・テイラーの脱退で三人になった注目された作品。彼らが予想以上に、ブラックミュージックに傾倒してことがわかる楽曲が満載。「スキン・トレイド」や「アメリカン・サイエンス」など、ただのアイドル・バンドには出来ないであろう高度でテクニク的にもレベルの高い名曲が揃っている。ただし、当時の若いリスナーには求めているものがかけ離れていた為、またあまりにもアダルトな方向へと軌道修正した為、受け入れられなかったと言える。彼らのキャリアのなかでも、最高傑作！と断言しても過言ではない程の、出来栄えをもってミュージック・シーンの最前線へと舞い戻ってきたという、驚嘆の事実があるファルセットがセクシーなヴォーカルと、アレンジ&コンポーズのテクニックを披露した「ノトーリアス」「ホールド・ミー」他、全10曲を収録。英16位・米12位	Side A 1. ノトーリアス 2. アメリカン・サイエンス 3. スキン・トレイド 4. ア・マター・オブ・フィーリング 5. ホールド・ミー	Side B 1. めまい(Vertigo) 2. ソー・ミスレッド 3. ミート・エル・プレジデンテ 4. ウインター・マーチズ・オン 15. プロポジション
	DURAN DURAN	カーニバル		1982	ニューウェーブ	レコード			
	DURAN DURAN	アリーナ		1984	ニューウェーブ	レコード			
	DUSTY SPRINGFIELD	ダスティと呼ばれる少女		1964	ポップス	レコード	ダスティ・スプリングフィールドのデビュー・アルバム『A Girl Called Dusty』。ソロ・デビュー曲「I Only Want To Be With You (邦題: 二人だけのデート)」が大ヒットとなり、続く「Stay Awhile」もヒットし、1964年の春に出したファースト・アルバム。いきなり全英6位となった記念碑的な作品。今や伝説的な歌手となっているダスティは『A Girl Called Dusty』で全英アルバム・チャートに初めて登場することになった。 最近では、ファースト・アルバムには最新のヒット曲をふたつ入れることが最優先となっているようだ。1960年代の音楽業界では、既にヒットしていたシングル2曲はアルバムのタイミングでは鮮度を失った古新聞のようにみなされていた。このアルバムで、ダスティはシングルを収録する代わりに新曲を12曲吹き込んでいる。ここでのプロデューサーは、いつも組んでいたジョニー・フランツが務めた。	Side A 1. Mama Said 2. ou Don't Own Me 3. Do Rei Mi 4. When The Lovelight Starts Shining Thru His Eyes 5. My Colouring Book 6. Mockingbird	Side B 1. Twenty-Four Hour From Tulsa 2. Nothing 3. Anyone Who Had A Heart 4. Will You Love Me Tomorrow 5. Wishin' And Hopin' 6. Don't You Know
	DUSTY SPRINGFIELD	ダスティ・イン・メンフィス		1969	ポップス	レコード	69年作が180グラム重量盤アナログ・リイシュー。メンフィスのAMERICAN SOUND STUDIOで録音が行われた5枚目は、ATLANTICがDUSTYのアイドルでもあるARETHA FRANKLINの白人版を狙った一枚として知られる作品。 プロデューサーにはJERRY WEXLER、ARIF MARDINIにTOM DOWD、レコーディング・チームにはベーシストTOMMY COGBILLとギタリストREGGIE YOUNG率いるインスト・バンドMEMPHIS CATSにバックিং・ヴォーカルのTHE SWEET INSPIRATIONSなどが集い、ソングライターにはGERRY GOFFIN & CAROLE KING、BARRY MANN & CYNTHIA WEIL、MICHEL LEGRAND、RANDY NEWMANにBURT BACHARACH & HAL DAVIDとまさに一流の布陣。 憧れのソウル・ミュージック・ルーツとそれまでも挑戦してきたR&BにDUSTYならではのソフトな一面が混ざり合った一級のポップ・ミュージックに仕上がっています。英国アーティストのメンフィス詣でに先鞭をつけた名作です。	Side A 1. Just A Little Lovin' 2. So Much Love 3. Son Of A Preacher Man 4. I Don't Want To Hear It Anymore 5. Don't Forget About Me 6. Breakfast In Bed	Side B 1. Just One Smile 2. The Windmills Of Your Mind 3. In The Land Of Make Believe 4. No Easy Way Down 5. I Can't Make It Alone
	EAGLES	イーグルス・ファースト		1972年6月1日	アメリカンロック	レコード	リンダ・ロンシュタットのバックバンドの編成のために、名うてのミュージシャンが集められた後、このバックバンドが独立しデビュー。このファーストでは「フォーク&カントリー・ロック」のテイスト満載、西海岸ロックの代表的バンドの当初の姿をしっかりと留めている。米国ルーツ・ロックの好壁でイーグルスの最高傑作と言える。1曲目の「Take It Easy」は、ジャクソン・ブラウンとグレイン・フライの共作。バーニー・レドンの奏でるバンジョーとスティール・ギターが絶妙なカントリー・テイストを醸し出し、この楽曲をカントリー・ロックの名曲たらしめている。2曲目の「Witchy Woman」から、ハードロックなテイストが入り込んでくる。3曲目の「Chug All Night」などは、ライトなハードロックという印象。イーグルスというバンド、活動初期から中盤までのヒット曲は「フォーク&カントリー・ロック」のテイストを前面に押し出しているが、実は結構「ハードロック」な要素を好みとしている。	Side A 1. テイク・イット・イージー 2. 魔女のささやき 3. チャグ・オール・ナイト 4. 哀しみの我等 5. ナイチンゲールの歌	Side B 1. 今朝発つ列車 2. テイク・ザ・デヴィル 3. 早起き鳥 4. ビースフル・イージー・フィーリング グ 5. トライイン
	EAGLES	呪われた夜		1975年6月10日	アメリカンロック	レコード	イーグルスが1975年6月に発表した4枚目のアルバム。元々カントリー・ロック調のイメージが強かったイーグルスは前作『オン・ザ・ボーダー』でよりロックへの志向をあらわしていたが、このアルバムではよりハードさ、ファンキーさが顕著になっている。これは、前作から加入したギタリストのドン・フェルダーと、プロデューサーのビル・シムジクに拠るところが大きい。また、前3作までは、アルバムの曲作りにもD.サウザーやジャクソン・ブラウンなどが参加していたが、全てヘンリー・フライのコンビを中心としたバンドのメンバーだけで曲作りを行った。アルバムは全米1位を記録し、「呪われた夜」(全米第1位)「いつわりの瞳」(同第2位)「テイク・イット・トゥ・ザ・リミット」(同8位)の3枚のビッグヒットを生み出した。一方、ギターのパニーニ・レドンは、あまりに産業ロックにシフトしすぎていることや、ヘンリーとフライが独裁化したことへの不満で脱退する。	Side A 1. 呪われた夜 2. トゥー・メニイ・ハンズ 3. ハリウッド・ワルツ 4. 魔術師の旅	Side B 1. いつわりの瞳 2. テイク・イット・トゥ・ザ・リミット 3. ヴィジョンズ 4. アフター・ザ・スリル・イズ・ゴーン 5. 安らぎによせて
	EAGLES	ホテルカリフォルニア		1976	アメリカンロック	レコード	美しいメロディーとハーモニーを展開するフォーク・ミュージックとロック・サウンドを見事融合した、5作目のオリジナル・アルバム(1976年発表)であり、全米アルバム・チャートNo.1に輝いたスーパー・アルバム。70年代を代表する不滅の最高傑作アルバム。本作よりバーニー・レドンに代わりジョー・ウォルシュが参加。よりバワフルかつ切れ味のよいサウンドがここに完成。	1.ホテル・カリフォルニア 2.ニュー・キッド・イン・タウン 3.駆け足の人生 4.時は流れて 5.時は流れて(リプライズ) 6.暗熱の日々 7.お前を夢みて 8.素晴らしい愛をもう一度 9.ラスト・リゾート	
	EAGLES	ザ・ロングラン		1979年	アメリカンロック	レコード	イーグルスの1979年リリースした第6作目。本作より、ベーシストとしてティモシー・B・シュミットが参加。ダークな官能美に包まれた70年代最後のアメリカン・ドリームを体現する実質上のラスト・アルバム。 "Hotel California" がどんなに名盤だとしても、"Long Run" は、バンドとしての最高傑作と呼ぶに相応しい出来だと思う。2. I Can't Tell You Why がロック史上に残してもいい名バラードだと思っていて、ラストの 10.The Sad Cafe とともに本作の価値を大いに高めている。 今思えば、解散を予感させるかのような「もののあわれ」が全体に漂っているが、アルバムのまとまり、バランスも"Hotel California"をトータルで上回っている。EAGLESの有終の美を飾るに相応しい作品だ。 (全米アルバム・チャート:9週連続第1位)	Side A 1. ロング・ラン 2. 言いだせなくて 3. イン・ザ・シティ 4. ディスコ・ストラングラー 5. ハリウッドよ永遠に	Side B 1. ハートエイク・トゥナイト 2. ゾーズ・シューズ 3. ティーンエイジ・ジェイル 4. グリークスはフリークスお断り 5. サッド・カフェ
	EARTH WIND AND FIRE	天空の女神		1981	ソウル	レコード	1981年作品。「セプテンバー」と並ぶEW&Fのディスコ曲として名高い「レッツ・グルーヴ」(R&B1位/ポップ3位)で勢いよく幕を開けるヒット作。タイトで整ったシンセとプラスの音色がブラック・コンテンポラリー感を高めるアルバムで、『地球最後の日』録音時のギタリストだったローランド・パウティスタがメンバーに復帰してルーツ回帰的な面を見せつつ、それをエレクトロニックなサウンドで再構築したようなアプローチが新鮮だ。特に「レッツ・グルーヴ」を書いたM・ホワイとウェイン・ウォーンのコンビによる曲が秀逸で、「マイ・ラヴ」「愛・ウォナ・ビー・ウィズ・ユー」はシカゴ・ソウルの的なアーバン作法が粋な極上ミッド。グレッグ・フィリングエンズが携わったアップ「果てしなき挑戦」は、マイケル・ジャクソンへの意識も窺える。	01レッツ・グルーヴ 02レディ・サン 03マイ・ラヴ 04エヴオリュション・オレンジ 05カリン・パトゥリー 06偉大なる覇者 07果てしなき挑戦 08アイ・ウォナ・ビー・ウィズ・ユー 09ザ・チェンジング・タイムズ	
	EARTH WIND AND FIRE	ベスト・オブ・アース・ウィンド & ファイアー		1978	ソウル	CD	EW&F全盛期に発表された、栄光のベストアルバム。オリジナル・アルバム未収録の曲が収録されており、1曲目「ガット・トゥ・ゲット・ユー・イントゥ・マイ・ライフ」、当時新曲の4曲目の「ラヴ・ミュージック」や、7曲目の「セプテンバー」を収録。その他7曲は全てヒットした代表曲ばかりという、素晴らしい内容です。2曲目は、洗練されまくりのビートルズ・カバーや、大ヒット曲の2曲目の「宇宙のファンタジー」と、7曲目の「セプテンバー」の2曲は音楽史に残る説明不要の名曲です。	1. ガット・トゥ・ゲット・ユー・イントゥ・マイ・ライフ 2. 宇宙のファンタジー 3. キャント・ハイド・ラヴ 4. ラヴ・ミュージック 5. ゲッタウェイ 6. 暗黒への挑戦 7. セプテンバー 8. シャイニング・スター 9. リーズンズ 10. ミッドナイト・ラヴ 11. ア・マター・オブ・フィーリング 12. センチメンタル・ラヴ 13. ア・マター・オブ・フィーリング 14. センチメンタル・ラヴ 15. ア・マター・オブ・フィーリング 16. センチメンタル・ラヴ 17. ア・マター・オブ・フィーリング 18. センチメンタル・ラヴ 19. ア・マター・オブ・フィーリング 20. センチメンタル・ラヴ 21. ア・マター・オブ・フィーリング 22. センチメンタル・ラヴ 23. ア・マター・オブ・フィーリング 24. センチメンタル・ラヴ 25. ア・マター・オブ・フィーリング 26. センチメンタル・ラヴ 27. ア・マター・オブ・フィーリング 28. センチメンタル・ラヴ 29. ア・マター・オブ・フィーリング 30. センチメンタル・ラヴ	
	EATER	夜をぶっ飛ばせ		1977	パンク	レコード	「パンクでぶっ飛ばせ!」〜衝撃の初期PUNKバンド、イーター。ロンドンパンク第一世代である彼等は、1976年のバンド結成時のメンバーは13〜17歳!ザ・ダムドもシャム69もイーターのサポートアクトであった、そんな時代。セックス・ピストルズのエンジニアだったデイヴ・グッドマンのプロデュースで1977年の3月にはファーストシングル「Outside View」をリリース。全盛期のUKパンクムーブメントの中心にいた彼等も、わずか3年程の活動で解散(後に再結成し現在もライブ活動中)となってしまう、残された作品はこのアルバム1枚のみ。1977年には『パンクでぶっ飛ばせ』という強烈な邦題でポリドールから国内盤LPも発売され話題に。ほとんどが2分程の疾走感あふれるパンクナンバー。 速いパッセージでランニングするベースに、もう待ちきれない!とエレキギターのカッティングがかぶさってくる1曲目「You」のイントロから、初期衝動のまま駆け抜ける、嘘偽りなしの演奏が痛快だ。ヴォーカルは、エター・グランドの「Sweet Jane」から「I Wanna Be a Star」の「I Wanna Be a Star」	Side A 1. YOU 2. PUBLIC TOYS 3. ROOM FOR ONE 4. LOCK IT UP 5. SWEET JANE 6. FIFTEEN 7. I DON'T NEED IT 8. ANNE 9. GET RAPED	
	EATER	夜をぶっ飛ばせ		1977	パンク	レコード	以下、CDボーナストラック 17. OUTSIDE VIEW 18. THINKIN' OF THE U.S.A. 19. MICHAEL'S MONETARY SYSTEM 20. SHE'S WEARING GREEN 21. NOTEBOOK 22. JEEPSTER 23. DEBUTANTES BALL 24. HOLLAND 25. WHAT SHE WANTS SHE NEEDS 26. REACH FOR THE SKY		
	ECHO AND THE BUNNYMEN	クロコダイル		1980	ニューウェーブ	レコード	ポスト・パンク激動期、UKニュー・ウェイヴ・シーンにおいて異彩を放ち、ネオ・サイケデリアの旗手として決定付けたエコー & ザ・バニーメン、デビュー・アルバム。 ドアーズやヴェルヴェット・アンダーグラウンドの濃厚な影響下にありながらマージービート以来の伝統を感じさせる確かなソングライティングの才気と英国的な驚りを帯びた演奏&歌唱。偉大なネオ・サイケデリアの出发点。 ウィル・サージエントのギタープレイとイアン・マックロウのヴォーカルはこの時点で既に完成されている。 (1980年作品)全英17位	A面 1. GOING UP / ゴーイング・アップ 2. STARS ARE STARS / スターズ・アー・スターズ 3. PRIDE / プライド 4. MONKEYS / モンキーズ 5. CROCODILES / クロコダイルズ	B面 1. RESCUE / レスキュー 2. VILLIERS TERRACE / ヴィリアー・テラス 3. PICTURES ON MY WALL / ピクチャー・ズ・オン・マイ・ウォール 4. ALL THAT JAZZ / オール・ザット・ジャズ 5. HAPPY DEATH MEN / ハッピー・デス・メン

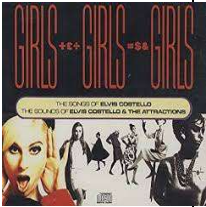
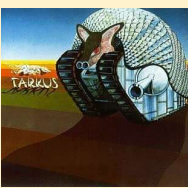
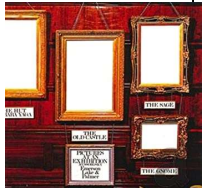
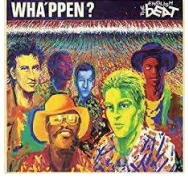
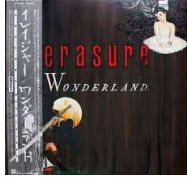
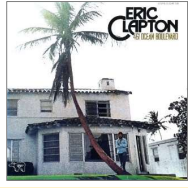
ECHO AND THE BUNNYMEN	クロコダイル		1980	ニューウェイブ	レコード	イアン・マッカロックとウィル・サージャントの出会いにより78年リヴァプールにて結成されたエコー&ザ・バニーメン。バンド名の「エコー」は、当時使用していたドラム・マシーン(ECHO)の名前から。1979年、彼らはZoo Recordsからバンド初のリリースとなる7インチ・アナログ・シングル『PICTURES OF MY WALL』(B面は「Read It In The Books」)を発表。そのデビュー・シングル曲は、1980年にリリースしたデビュー・アルバム『CROCODILES』にも収録された。ポスト・パンクの波が渦巻く中、NME誌から“ブリティッシュ・バンドによるアルバムの中で今年最高の作品”と絶賛されたこともあり、彼らはこのアルバムをもって“今いる最高のバンドの一つ”としての評判を確固たるものにした。最終的にはアルバムは全英チャートのTOP20にエントリーを果たし、多くの批評家たちから“最高のデビュー・アルバム”の一つとして挙げられることとなった。		
ECHO AND THE BUNNYMEN	クロコダイル		1980	ニューウェイブ	レコード			
ECHO AND THE BUNNYMEN	クロコダイル		1980	ニューウェイブ	CD			
ECHO AND THE BUNNYMEN	ヘヴン・アップ・ヒア		1981	ニューウェイブ	レコード	1981年にリリースされたセカンド・アルバム。これら全てが美しく幻想的で掴みどころのない冷たいサイケデリック世界が広がってゆく。冒頭3曲の音楽的レベルの高さがアルバム全体の完成度を決定付けたと言って良いだろう。気高いヴォーカル、シンプルなリズム・セクション、陰影に富んだメロディの絶妙な融合によりネオ・サイケデリアの境地に達したクールで繊細な問題作。(1981年作品)全英10位、全米184位	Side A 1. SHOW OF STRENGTH / ショウ・オブ・ストレングス 2. WITH A HIP / ウィズ・ア・ヒップ 3. OVER THE WALL / オーヴァー・ザ・ウォール 4. IT WAS A PLEASURE / イット・ワズ・ア・プレジャー 5. A PROMISE / プロミス	Side B 1. HEAVEN UP HERE / ヘヴン・アップ・ヒア 2. THE DISEASE / ザ・ディーズ 3. ALL MY COLOURS / オール・マイ・カラーズ 4. NO DARK THINGS / ノー・ダーク・シングス 5. TURQUOISE DAYS / ターquoise・デイズ
ECHO AND THE BUNNYMEN	ヘヴン・アップ・ヒア		1981	ニューウェイブ	CD			
ECHO AND THE BUNNYMEN	オーシャン・レイン		1984	ニューウェイブ	レコード	ストリングスをフィーチャーし、ヨーロッパ的な耽美感を漂わせたアコースティック色濃い4作目。氷のように冷たくて鋭くて透明度が高く、中世のヨーロッパ的な暗く静かで美しい世界がこれでもかと展開されていく。「キリング・ムーン」「シルヴァー」収録。(1984年作品)全英4位、全米87位	Side A 1. SILVER / シルヴァー 2. NOCTURNAL ME / ノックターナル・ミー 3. CRYSTAL DAYS / クリスタル・デイズ 4. THE YO-YO MAN / ヨーヨー・マン 5. THORN OF CROWNS / ソーン・オブ・クラウン	Side B 1. THE KILLING MOON / キリング・ムーン 2. SEVEN SEAS / セヴン・シーズ 3. MY KINGDOM / マイ・キングダム 4. OCEAN RAIN / オーシャン・レイン
EDDIE AND THE HOT RODS	十代の暴走		1976	パンク	レコード	76年に発表されたファースト・アルバム。パンクとバブ・ロックの中間的なイメージの付きまとうグループの代表格といったところだろうか？最初期にはルー・ルイスも在籍していたが、本作発表時はバリー・マスターズ(vo)、デヴィ・ヒグス(g)、ポール・グレイ(b)、スティヴ・ニコル(dr)の4人組となっている。楽曲はメンバーの手によるオリジナル曲が中心で、ギタリストのヒグスのものの比重が高い。バブ・ロックからパンク・ムーヴメント勃発への橋渡しの役割を果たしたロンドンのロックンロール・バンド、ホット・ロッズのファースト、改めて聴き直すと、76年の本作はまさに“橋渡しの役割”と言うにふさわしいサウンドで、シンプルでスピード感あふれる痛快なロックンロールは、四半世紀を過ぎた今でも驚くほど新鮮だ。1. はポップ目なパンクっぽい仕上がりで、バブ・ロックにありがちなおっさん臭さは薄い。決してフレッシュとは言わないが元氣一杯の演奏は聞いていて清々しい。2. はポップなリフを中心に展開していくパワー・ポップで、高域を中心に躍りまくるメロディアスなベースもかなり印象的。3. も高域を中心に歌いまくるベースが印象的なロックンロールで、この種のグループにありがちな曲ながら、そのベースのブレイによってかなりポップに響く。基本はオールド・スタイルのロックンロールだと思う。4. はブギー・スタイルの曲だが、ブルース臭さは皆無しのバブ／パンク・スタイルの曲になっている。確かにパンクとしても十分に聞けるトンガった雰囲気はあるものの、演奏面においてはパンクにありがちな単調さや平坦をほとんど感じないレベルであり、むしろ若々しいながら職人技のようなブレイを聞かせている。要するに彼らの持つパンクとバブ・ロックの中間というイメージ通りの内容だと思う。特に聞き物なのはベースで、ジョー・ジャクソンのバックに参加していたグラハム・メイビーに似た派手目の演奏は印象的である。	Side A 1. ゲット・アクロス・トゥ・ユー 2. ホワイ・キャント・イット・ビー 3. ショウ・ミー 4. オール・アイ・ニード・イズ・マネー 5. ダブル・チェッキング・ウーマン 6. キッズ・アー・オーライト	Side B 1. ティーンエイジ・ディプレッション 2. ホース・プレイ 3. ビーン・ソー・ロング 4. シェイク 5. オン・ザ・ラン
EDDIE AND THE HOT RODS	十代の暴走		1976	パンク	CD			
EDDIE AND THE HOT RODS	イチカバチカ		1977	パンク	レコード	77年発表の2nd。彼らの代表作で10. が全英44位、1. が全英9位、2. が全英38位、アルバムも全英27位のヒットを記録している。この成績は前作発表後に元カーサル・フライヤーズのグレアム・ダグラス(g)が参加(契約の問題でクレジットなし)して曲作りにも全面的に関わっていることが功を成したようだ。 1. はバブ風味のパワー・ポップで後のレコーズあたりにも通じるポップ・センスを感じさせる仕上がりで、このメロディラインならベイ・シティ・ローラーズあたりにもタメを張れるほど、バンド・クラブの導入にも効果的である。2. もパワー・ポップで、高速かつシャープな演奏の中で甘いメロディが弾けている。バック・コーラスの入り方も最高である。3. はステイタス・クォーあたりにも通じるブギー・スタイルの曲。弾力性のある演奏は彼らの演奏面での実力の高さを示している。タテノリ一辺倒ではないところが本作の魅力の一つになっている。4. はギンギンのギターも凄いが、バリバリと鳴り響くベースが強力。とにかくトーンそのものが生々しくてベース好きにはたまらないと思う。 シャープな職人技的な演奏はそのままにバブ・ロック／パンク系のサウンドから一気にパワー・ポップに脱皮した作品で曲は良い意味で素れ線のポップなものが多い。パワー・ポップ／バブ・	Side A 1. 燃える叫び 2. クィット・ディス・タウン 3. テレフォン・ガール 4. ホワッツ・リアリー・ゴーイング・オン 5. イグノーア・ゼム(スティル・ライフ)	Side B 1. ライフ・オン・ザ・ライン 2. (アンド)ドント・ビリーヴ・ユア・アイズ 3. ウィ・シング…ザ・クロス 4. ビギニング・オブ・ジ・エンド
EDDIE MONEY	噂のエディー・マネー		1977	ロック	レコード	1977年発売のデビュー・アルバム。最高位37位。ダブルプラチナ。あの伝説のプロモーターBILL GRAHAMに見初められ、80年代のアメリカン・ロック・シーンに名を残すロッカーとして成功したEDDIE MONEY。DOORSなどの仕事で知られるBRUCE BOTNICKがプロデューサーを担当し、ヒット曲“TWO TICKETS TO PARADISE”、“BABY HOLD ON”等を収録。ここ日本での知名度はいま一つなEDDIE MONEYだが、その歌唱力とサウンドの確かさから根強いファンが存在している。AOR/メロハ〜好きから骨太なロック/ブルーアイドなどの音楽が楽しめる。このアルバムからカットしたデビュー・シングル「ベイビー・ホールド・オン〜Baby Hold On」が78年春に最高位11位の大ヒット、また第2弾シングルの「天国行き超特急」Two Tickets To Paradise」が最高位22位のヒットとなった。	1. Two Tickets to Paradise 2. You've Really Got a Hold On Me 3. Wanna Be a Rock 'n' Roll Star 4. Save A Little Room In Your Heart 5. So Good To Be In Love Again 6. Baby Hold On 7. Don't Worry 8. Jealousys 9. Got To Get Another Girl 10. Gambler Man	
EIGHTE WONDER	スティ・ウィズ・ミー		1985	ロック	レコード			
Einstürzende Neubauten	半分人間		1985	オルタナティブ	レコード			
ELECTRIC BANANA	ブロー・ユア・マインド			ロック	CD	ブリティシングスの変名バンド。彼らが67〜68年にかけて、エレクトリック・バナナはブリティシングスが様々なトラブルにより徐々にシングルやアルバムが売れなくなっていたためバンドの活動資金を稼ぐため、映画音楽を担当する際、エレクトリック・バナナという変名で製作されており、そのバンドでリリースした数枚のアルバムから寄せ集められたのがこの作品。フィル・メイによるポルノ小説を書くようなものらしいが、そこに残されたサウンドはヤツツケ仕事ではなく素晴らしい作品があります。1967年にこの編集盤がそのままブリティシングス名義のアルバムとして出しても何の違和感も無い。むしろこれが素晴らしい。曲としては「SFソロウ」以上といってもいいくらい、ヘビーサイケありサイケポップありの充実したアルバムとなっています。あのトウインクが参加した曲も多数含まれています。時期的に「エモーションズ」「SFソロウ」と重なってますので、絶頂期の作品として無視できない作品です。	[1] Alexander [2] It'll Never Be Me [3] I Love You [4] Gray Skies [5] What's Good For The Goose [6] If I Needed Somebody [7] Street Girl	[8] Blow Your Mind [9] Eagle's Son [10] I See You [11] Love, Dance And Sing [12] Danger Signs [13] Walking Down The Street [14] A Thousand Ages From The Sun [15] Rave Up
Electric Chairs (WAYNE COUNTY)	ザ・エレクトリック・チェアーズ		1978	パンク	レコード	「ロッキング・ロール・クレオパトラ」を自称するニュー・ヨークの怪人。ウェインのクリスチャー・デグマラスな世界。ウェイン・カウンティ&ザ・エレクトリック・チェアーズは、1970年代のニューヨーク・シーンのパンク・バンドのオリジナル・ファースト・ウェーブの一部だった。バンドはジョージア州生まれのトランスセクシュアルが率いており、MC5の出身地であるミシガン州にちなんでウェイン郡と名乗ったが、後にジェーン郡に改名した。ウェイン郡はもともとニューヨークで演奏を始めており、「バックストーリー・ボーイズ」というバンドと共に、先駆的なパンク・クラブ、マックスのカンザスシティのマネージャーによって管理されていた。ニューヨークのシーンでカウンティとザ・ディセーターズの間でよく知られた。長く続いている確執が起こり、彼女はヘックリングされた後、マイクスランドで物理的に報復した。ほとんど成功しなかった後、彼女はロンドンに移り、ギタリストのグレッグ・ヴァン・クック、ベーシストのヴァレ・ロウ、ドラムmersのジョー・マクドナルドを結成し「エレクトリック・チェアーズ」を結成。彼女の演技は、...	Side A 1. Eddie & Sheena4:27 2. Bad in Bed3:22 3. Hot Blood3:24 4. Worry Wart2:45 5. 28 Model T1:58 6. Out of Control3:37	Side B 1. Max's Kansas City3:53 2. On the Crest4:49 3. Plain of Nazca3:11 4. Big Black Window3:24 5. Take It2:29 6. Rock'n'Roll Resurrection 4:33
Electric Chairs (WAYNE COUNTY)	ストーム・ザ・ゲイツ・オブ・ヘヴン		1978	パンク	レコード	Wayne County & The Electric Chairs ~ 名義となつてのアルバムで通算 2nd アルバム。元 MOTT THE HOOPLEのモーガン・フィッシャー、CURVED AIRのダリル・ウェイら異色のゲストプレイヤーが参加し、1978年に製作されたセカンド・アルバム。	Side A 1. Storm The Gates Of Heaven 2. Cry Of Angels 3. Speed Demon 4. Mr. Normal	Side B 1. Man Enough To Be A Woman 2. Trying To Get On The Radio 3. I Had Too Much To Dream Last Night 4. Tomorrow Is Another Day

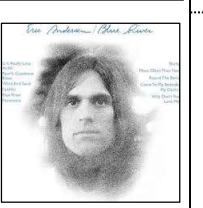
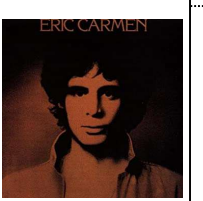
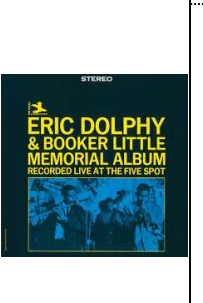
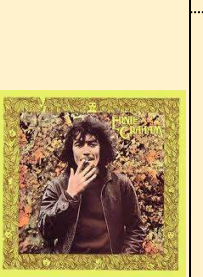
	ELECTRIC LIGHT ORCHESTRA	エルドラド		1974	ロック	レコード	ELOのサードアルバムで初期の代表する作品。本作は夢の国「エルドラド」にて巻き起こる出来事を描いたコンセプト・アルバムである。本作よりストリングスアレンジに指揮者のルイス・クラークを迎え、ストリングスサウンドが洗練され、彼の指揮する本物のオーケストラが取り入れられることになった。このオーケストラの比率が徐々にアルバムを追って大きくなっていき、『ディスカバリー』(1979年)ではバンド内のストリングスメンバーが参加する機会がなくなるのだが、本作では比較的ELOのストリングスメンバーが参加する作品とオーケストラが参加する作品とのバランスが取れており、共演する作品もある。ジャケットは「オズの魔法使い」のワンシーンより。	Side A 1. エルドラド = 序曲 2. 見果てぬ想い 3. ボーイ・ブルーの帰還 4. ラレドの嵐 5. プア・ボーイ	Side B 1. 偉大なる支配者 2. ノーバディズ・チャイルド 3. ト長調の幻想 4. エルドラド 5. エルドラド = 終曲
	ELECTRIC LIGHT ORCHESTRA	アウト・オブ・ザ・ブルー		1977	ロック	レコード	1977年作でELOの通算77作目となる『アウト・オブ・ブルー』時は2枚組となつたLPです。全英4位、全米4位で400枚を売り上げゴールドディスクを獲得した。長岡秀星によるスペースなジャケット、モドレー形式の曲が並ぶ等、コンセプト作品的なイメージも強いのですが、大掛かりなセットでのツアーでそこその宇宙的なスタイルが象徴的に使用されましたが、実際には各曲が独立してシングル・カットが可能な完璧なポップ・アルバムです。現在まで全世界で1000万枚以上のセールスを誇るモンスター・アルバムであり、彼等がビートルズ、クイーン、10ccと並んでプリティッシュ・ポップのクラシックとして語られる所以ともなっています。前作の「オーロラの救世主」は、ストリングスとロックの融合を試みてきたELOの過渡期的な作品となり、プログレ・バンドとしても認知されていた彼等がそのパブリック・イメージを大きく変える事に成功しました。本作ではいよいよジェフ・リンのポップ・ワールドが完成され、実際ストリングス・メンバーを含む7人編成のバンドが本作を以て解体されています。1978年に発表されたエレクトリック・サン・ファイヤー・ウィンドの8枚目のアルバム、全英では初の1位となるが、全米では5位となり、セールスの的にも前回を下回り200万枚となる。ゴールドディスクを獲得。アルバム名は、メンバーのリチャード・タンディが「very disco」(すぐディスコ向き)という言葉を入れ替えて付けたものという逸話があるほど、ディスコ調の曲が目立つ。また、リーダーのジェフ・リンが再婚を控えた時期の製作だったこともあり、ラブソングが多いのも特徴。これまでのELOの音楽性は、ストリングスを多用した壮大なスケールの作品が目立ったが、本作はグループからストリングス担当メンバーを解雇した上で、ストリングスはすべて大編成のオーケストラによるものになった。その上で、シンセサイザーをこれまで以上に利用し、楽曲自体もポップでコンパクトなものに変貌した。結果的には、そうした路線に変えたことが大きな成功へと繋がった。本作はタイム・ビーズのストリングスを本編に演らした、ホーランド社とのコラボレーション。	RECORD 1 Side A 1. ターン・トゥ・ストーン 2. 哀愁の果て 3. スウィート・トーカー・ウーマン 4. 国境の彼方 Side B 1. ナイト・イン・ザ・シティ 2. スターライト 3. ジャングル 4. ビリーヴ・ミー・ナウ 5. ステッピン・アウト 雨の日のコン	RECORD 2 Side A 1. 雨にうたれて 2. ビッグ・ウィールズ 3. サマー・アンド・ライトニング 4. ミスター・ブルー・スカイ Side B 1. スウィート・イズ・ザ・ナイト 2. ザ・ホエール 3. パーミンガム・ブルース 4. ワイルド・ウエスト・ヒーロー
	ELECTRIC LIGHT ORCHESTRA	ディスカバリー		1979年	ロック	レコード	1979年に発表されたエレクトリック・サン・ファイヤー・ウィンドの8枚目のアルバム、全英では初の1位となるが、全米では5位となり、セールスの的にも前回を下回り200万枚となる。ゴールドディスクを獲得。アルバム名は、メンバーのリチャード・タンディが「very disco」(すぐディスコ向き)という言葉を入れ替えて付けたものという逸話があるほど、ディスコ調の曲が目立つ。また、リーダーのジェフ・リンが再婚を控えた時期の製作だったこともあり、ラブソングが多いのも特徴。これまでのELOの音楽性は、ストリングスを多用した壮大なスケールの作品が目立ったが、本作はグループからストリングス担当メンバーを解雇した上で、ストリングスはすべて大編成のオーケストラによるものになった。その上で、シンセサイザーをこれまで以上に利用し、楽曲自体もポップでコンパクトなものに変貌した。結果的には、そうした路線に変えたことが大きな成功へと繋がった。本作はタイム・ビーズのストリングスを本編に演らした、ホーランド社とのコラボレーション。	Side A 1. シャイン・ラヴ 2. コンフュージョン 3. ニード・ハー・ラヴ 4. ホレスの日記	Side B 1. ロンドン行き最終列車 2. ミッドナイト・ブルー 3. オン・ザ・ラン 4. ウィッシング 5. ドント・プリング・ミー・ダウン
	ELECTRIC PRUNES	今夜は眠れない		1966	ロック	レコード	1967年名作のデビューアルバム。カリフォルニアはサンフェルナンド・ヴァレーが生んだサイケ・ロック・バンドの雄、エレクトリック・プルーンズ。収録。前年全米11位のヒットを記録した不滅の名曲「今夜は眠れない I Had Too Much To Dream」(後年のStiv Batorsや、ダムドの変名バンド他のカバーで有名)、同27位「Get Me To The World On Time」や、MODガレージ「Bangles」、幻想的ガレージ・サイケ「Are You Lovin' Me More」他、内容充実の全12曲。	Side A 1. 今夜は眠れない 2. バングルズ 3. オニー 4. アー・ユー・ラヴィング・ミー・モア 5. トレイン・フォー・トゥモロウ 6. ソールド・トゥ・ザ・ハイレスト・ビッダー	Side B 1. ゲット・ミー・トゥ・ザ・ワールド・オン・タイム 2. アバウト・ア・クォーター・トゥ・ナイン 3. ザ・キング・イズ・イン・ザ・カウンティング・ハウス 4. ラヴィン 5. トライ・ミー・オン・フォー・サイズ 6. ザ・トゥーナー・ウィル・トロリー
	ELECTRIC SUN	天地震動		1979	ハードロック&ヘビメタル	レコード	スコビーオンズを脱退したウリ・ジョン・ロートが、独特の世界観で自分のバンドのファーストアルバム。ヘンドリックスからの影響を強く感じる作品。ジミヘンがギターの革命児と言われるのは、従来のギタープレイの既存概念を破壊して、さらにギターという楽器の可能性を求めた点にあると思いますが、ウリはそんなジミヘンの遺志を継承しつつ、卓越したテクニクでさらに驚きの世界を私たちに見せてくれる。特に8曲目の「天地震動」あたりでは、実におどろおどろしい音のマグマが全身を襲ってくるようです。ただ、惜しむのはヴォーカルが弱いということ。声量がない点が難点で優秀なヴォーカリストを確保してギターに専念してほしいかった。	Side A 1. Electric Sun5:21 2. Lilac2:47 3. Burning Wheels Turning6:41 4. Japanese Dream4:29	Side B 1. Sundown4:07 2. Winterdays1:25 3. Still So Many Lives Away4:39 4. Earthquake10:37
	ELECTRIC SUN	ファイヤー・ウィンド		1981	ハードロック&ヘビメタル	レコード	81年作、スコビーオンズを脱退したウリ・ジョン・ロートが結成したエレクトリック・サン・のセカンド・アルバムです。過小評価がされている人だとは思いますが、そのスピリチュアルな世界観がどうしても大衆化を邪魔しているのでしょうか。それでもこの人の作り出す音は美しく激しい甘美的なハード・ロックだと思います。スコビーオンズ時代からヴォーカルこそ今いちの気がしますが、メロディ、フレーズにはハッとさせられるものが多く、前作で完全にジミ・ヘンドリックスに傾倒していた作風も本作では完全に独自のものを作り上げています。初期スコビーオンズの妖しく色気のあるギターに加え、マイケル・シェンカー全盛期の様な情感溢れるメロディが加わった大名盤です。	Side A 1. Cast Away Your Chains 4:12 2. Indian Dawn 5:14 3. I'll Be Loving You Always 4:57 4. Fire Wind 5:00 5. Prelude In Space Minor 1:20	Side B 1. Just Another Rainbow 3:52 2. Children Of The Sea 3:22 3. Chaplin And I 5:45 4. Enola Gay 10:42
	THE ELEVATORS	フロントライン		1980年	ニューウェーブ	レコード	カーズに似た感じのエレクトリックなニューウェーブバンド。アルバム全体的には内容が良い。但し、似た感じのバンドが多いため独自の大きな特徴が無い。	Side A 1. Frontline 3:21 2. Girlfriend's Girlfriend 2:52 3. Stop The World 3:03 4. Stickball Kids 3:37 5. Lie Detector 2:32 6. Don't Let Me Die 3:29	Side B 1. Tropical Fish 3:09 2. Lies 3:22 3. Johnny Train Your Mind 2:56 4. Friends 3:16 5. On The Wire 3:57
	ELF					レコード	元レインボー〜ブラック・サバス〜ディオのロニー・ジェイムス・ディオが在籍していたバンド、エルフが'74年にリリースしたセカンド・アルバム。ロジャー・グローバーがプロデュースを担当。英国ではパープル・レコードから『キャロライナ・カウンティ・ボール』とタイトルを変えリリースされた。	Side A 1. カロライナカウンティボール 2. ロサンゼルス 59 3. エイント・イット・オール・アミューズ・ジング 4. ハッピー	Side B 1. アニー、ニューオーリンズ 2. ロッキング・チェアーズ・ロックン・ロール・ブルース 3. レインボー 4. ドゥ・ザ・セイム・シング 5. ブランシュ
	ELF	バーン・ザ・サン		1975	ハードロック&ヘビメタル	レコード	元レインボーのボーカリスト、ロニー・ジェイムス・ディオが在籍していたことで知られるエルフのサード・アルバム(75年リリース)。ロジャー・グローバーがプロデュースを担当し、シークレットながらリッチー・ブラックモアもゲストで参加。本作リリース後、グループはリッチー・ブラックモアと合流、リッチー・ブラックモアズ・レインボーと名を変える。	Side A 1. Black Swampy Water 2. Prentice Wood 3. When She Smiles 4. Good Time Music	Side B 1. Liberty Road 2. Shotgun Boogie 3. Wonderland 4. Streetwalker
	ELTON JOHN	僕の歌は君の歌		1970	ロック	レコード	エルトン・ジョンのセカンド・アルバム。グラミー賞の最優秀アルバムと新人賞にノミネートされた。デビュー1年後の1970年にリリースした「僕の歌は君の歌(原題: Your Song)」が世界的に認められたアルバム。全英4位、全米11位と大ヒットした。ポール・バックマスターによる弦楽器のアレンジが、叙情性を際立たせている。「僕の歌は君の歌(Your Song)」収録。この曲は、作詞家バーニー・トープンで、歌詞を渡して15分ほどで出来上がったという。	Side A 1. 僕の歌は君の歌 - Your Song 2. 君は護りの天使 - I Need You to Turn to 3. パイロットにつれていって - Take Me to the Pilot 4. ルーイズに靴紐はない - No Shoe Strings on Louise 5. ハイアントンの思い出 - First Episode at Hienton	Side B 1. 60才のとき - Sixty Years on 2. 人生の壁 - Border Song 3. 驚きのお話 - The Greatest Discovery 4. 檻の中に住みたくない - The Cage 5. 王は死ぬものだ - The King Must Die
	ELTON JOHN	エルトン・ジョン 3		1970	ロック	レコード	1970年作、エルドラドジンのサードアルバム、エルドラドに似て美しい佳曲「Come Down in Time」「My Father's Gun」やロッド・スチュワートがカバーした「Country Comfort」など素晴らしい楽曲を収録した隠れ名盤。前作に続いてガス・ダッジョンがプロデューサーを務めている。当時は、シングルとアルバムのマーケットが別個に考えられており、シングル曲が揃ったアルバムではなかったものの、魅力たっぷりの内容である。優しげな「Come Down in Time(邦題: 遅れないでいらっしやい)」もあるし、ドラマティックな「Where To Now St. Peter? (邦題: 聖ペテロよ、私はこれから何処へ)」もある。そしてアルバムの最後は、「Burn Down The Mission(邦題: 布教本部を焼き落とせ)」で締めくくられる。また「Love Song(邦題: 愛の歌)」はイギリス人シンガー・ソングライター・レスリー・ダンカンが作った魅力的な曲で、アルバム中これだけがエルトン・ジョンとバーニー・トープンの共作ではなかったが、それでも決して場違いではなかった。アルバム『Tumbleweed Connection』は発売当時全英チャートで最高8位を記録。のちに再びチャートで順位を上げ、最高2位にまで上がっている。またアメリカでは最高5位を記録し、プラチナ・ディスクになった。	Side A 1. 名高い盗賊の伝説 - Ballad of a Well-Known Gun 2. 遅れないでいらっしやい - Come Down in Time 3. 故郷は心の慰め - Country Comfort 4. 君は君の親父の息子 - Son of Your Father 5. 父の統 - My Father's Gun	Side B 1. 聖ペテロよ、私はこれから何処へ - Where to Now St. Peter? 2. 愛の歌 - Love Song 3. 過ぎし日のアモーリーナ - Amoreena 4. 老兵の話 - Talking Old Soldiers 5. 布教本部を焼き落とせ - Burn Down the Mission
	ELTON JOHN	マッドマン		1971	ロック	レコード	1971年度作『マッドマン』。元マガナ・カルタのデイヴィ・ジョンストンもバックに加わり、従来の壮さとともにトラディショナルな側面も加味された4作目は、「可愛いダンサー (マキシに捧ぐ)」「リーヴォンの生涯」他、ポール・バックマスターによるオーケストレーションを大胆に取り入れたメロディアスなバラード・アルバム。全米41位のM1、24位のM2といったシングルがヒットし、アルバム自体も最高位8位という好結果を残した。	Side A 1. 可愛いダンサー (マキシに捧ぐ) 2. リーヴォンの生涯 3. 愛すべき男レザー・フェイス 4. マッドマン	Side B 1. 黄昏のインディアン 2. ホリデイ・インのやすらぎ 3. 人生とは腐った桃のよう 4. 偽りの日々 5. グッドバイ
	ELTON JOHN	ホンキー・シャトー		1972年5月19日	ロック	レコード	1972年に発表されたエルトン・ジョンの5枚目のアルバム。本アルバムが初めて全米第1位に輝き以降7作連続で全米チャート第1位となった。これまでのポール・バックマスターの叙情的なオーケストラアレンジに代わりシンセサイザーを用いたことで、軽快なポップサウンドとなっており、シングルカットされた「Rocket Man」、軽快なポップソングの「Honky Cat」を始め秀逸な曲が目白押しで、これが文字通り全盛期の始まりになった記念碑的作品。跳ねたピアノ演奏の「ホンキー・キャット」、当時話題となっていた宇宙飛行を「朝9時に家を出発し5日後に家に戻る」という週間のサラリーマン生活の悲哀に掛けモチーフにした、リカット・シングル「ロケット・マン」がヒットした。ニューヨークに住む人々の生活を取った「モナ・リザ・アンド・マッド・ハッター」は、アメリカ同時多発テロ事件後の追悼コンサートなどで披露された。	Side A 1. ホンキー・キャット 2. メロウ 3. 自殺の予感 - I Think I'm Going to Kill Myself 4. スーヰィ 5. ロケット・マン	Side B 1. サルヴェイション 2. スレイヴ 3. エイミー 4. モナリザ・アンド・マッド・ハッター 5. ハーキュリーズ
	ELTON JOHN	ピアニストを撃つな!		1973	ロック	レコード	1973年に発表した6枚目のアルバムで最高傑作。全英、全米共に1位を獲得したアルバム! タイトルとジャケットデザインは、フランソワ・トリュフォー監督の1960年の映画『ピアニストを撃て』からインスパイアされたもの。オールディーズ風のロックンロール曲「クロコダイル・ロック」、オーケストラがドラマチックな「罪人にあわれみを」などが収録されている。「ダニエル」は兄弟愛を歌った曲だが、実際は3番まである歌詞の2番までしか歌われていないため、後にエルトンがバイセクシャルと判明した後はゲイリブの歌詞かと噂されたが、実際の3番はベトナム戦争からの兄弟の帰還という内容である。	Side A 1. ダニエル 2. 僕には先生が必要 - Teacher I Need You 3. にわとこのワイン - Elderberry Wine 4. ベイビーと僕のためのブルース - Blues for My Baby and Me 5. ミッドナイト・クリーパー	Side B 1. 罪人にあわれみを - Have Mercy on the Criminal 2. ティーン・エイジャーのアイドル - I'm Going to Be a Teenage Idol 3. テキサスのラヴ・ソング 4. クロコダイル・ロック 5. ハイ・フライング・バード

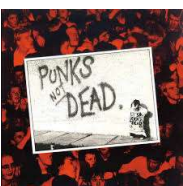
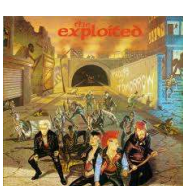
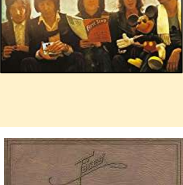
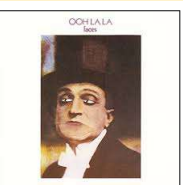
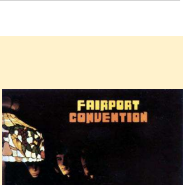
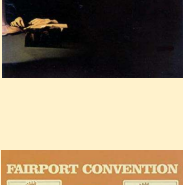
ELTON JOHN	黄昏のレンガ路		1973	ロック	レコード	1973年に発表された7枚目のアルバム。こちらも全英、全米共に1位を記録。この時期楽曲の製作が好調だったため、2枚組になった(アルバムに収録されずシングルB面となったものもある)。殆どの楽曲は1、2テイクで収録されたという。ブルー・アイド・ソウルの「ベニー&ジェッツ」は、白人として初めてR&Bチャートの1位を獲得した。エルトン本人は売れるわけがないと思っていたが、ラジオのリクエスト数が後押しとなり、シングル・カットされた。「ローリングストーン誌」が選ぶオールタイム・ベスト・アルバム500」において第91位に選出された。邦題は「黄昏の～」とあるが、「イエロー・ブリック・ロード」とは、ジュディ・ガーランド主演のミュージカル映画『オズの魔法使い』の中の、オズへ続く「黄色いレンガの道」を指している。	Side 1 1. 葬送～血まみれの恋はおしまい (メドレー) - Funeral for a Friend(Love Lies Bleeding) 2. 風の中の火のように (孤独な歌手、ノーマ・ジーン) - Candle in the Wind 3. ベニーとジェッツ (やつらの演奏は最高) - Bennie and the Jets Side 2 1. グッバイ・イエロー・ブリック・ロード 2. こんな歌にタイトルはいらない - This Song Has No Title 3. グレイ・シール Side 3 1. スウィート・ベインテッド・レディ 2. ダニー・ベイリーのバラード(ケンタッキーの英雄の死) - The Ballad of Danny Bailey(1909-34) 3. ダーティ・リトル・ガール 4. 女の子、みんなアリスに首ったけ - All the Girls Love Alice Side 4 1. ツイストは踊れない - Your Sister Can't Twist(But She Can Rock 'n Roll) 2. 土曜の夜は僕の生きがい - Saturday Night's Alright for Fighting 3. 歌うカウボーイ、ロイ・ロジャース Side B 1. 空飛ぶ円盤 2. スティンカー(虫けらのような男) 3. 僕の瞳に小さな太陽 4. ティッキング(母さんの言葉)
ELTON JOHN	カリブ		1974年	ロック	レコード	1974年に発表された8枚目のアルバム。ホーン・セクションにタワー・オブ・パワー、コーラスにビーチ・ボーイズのカール・ウィルソンとブルース・ジョンストンらが参加したスタジオ8曲目で、初のアメリカ録音盤。「あばずれさんのお帰り」「僕の瞳に小さな太陽」といったクオリティの高い楽曲を収め、3作連続の全米・全英1位を記録。	Side A 1. あばずれさんのお帰り 2. ピンキー 3. グリムズビー(美しき故郷) 4. テキシー・リリー(ショーボートが川を行く) 5. ソラー・プレスティッジ・ア・ガモン (ざらざら太陽マークの特上ハム) 6. ニューヨークの尻軽女 Side B 1. キャプテン・ファンタスティックとブラウン・ダート・カウボーイ(エルトン、バーニーの華麗な夢) 2. バベルの塔 3. 苦しみの指先 4. 汽笛が鳴ったらおしえて 5. 僕を救ったプリマドンナ 6. ミール・チケット Side B 1. 僕に迫る自殺の誘惑 2. ライティング(歓びの歌をつくる時) 3. 幼き恋の日々 4. ベールの中の遠い思い出 5. ルーシー・イン・ザ・スカイ・ウィズ・ダイヤモンド 6. ワン・デイ 7. フィラデルフィア・フリーダム
ELTON JOHN	キャプテン・ファンタスティック		1975	ロック	レコード	1975年に発表した9枚目。こちらは全米では初登場1位を獲得し史上初めてのアルバムとなるが、全英は2位となる。エルトンとバーニーが、デビューするまでの思い出をモチーフにしたコンセプトアルバム。タイトルの「キャプテン」がエルトンを、「カウボーイ」はバーニーを示している。『ローリング・ストーン誌」が選ぶオールタイム・ベストアルバム500』において、158位にランクイン	ディスク:1 A面 1. 序曲 - "Your Starter For": インストウルメンタル 2. トウナイト 3. ちっぽけな町 - "One Horse Town" 4. カメレオン B面 1. ブギー・ビルグリム 2. かごの小鳥 (エディット・ピアフに捧げる歌) - "Cage The Songbird" 3. クレージー・ウォーター 4. ショルダー・ホルスター ディスク:2 A面 1. 悲しみのバラード - "Sorry Seems To Be The Hardest Word" 2. アウト・オブ・ザ・ブルー 3. 17才と20才の頃 - "Between Seventeen And Twenty" 4. 大きな瞳の陽気な娘 - "The Wide Eyed And Laughing" 5. ある男の終曲 - "Someone's Final Song" B面 1. 愛しのシュラー - "Where's The Shoarah?" 2. 神はいるの - "If There's A God In Heaven(What's He Waiting For?)" 3. アイドル 4. 架空のテレビ番組主題歌 - "Theme From A Non-Existant TV Show" Side B 1. バート・タイム・ラヴ 2. ジョージア 3. シューティング・スター 4. マッドネス 5. 幻想 - Reverie: (インストウルメンタル) 6. ソング・フォー・ガイ (インストウルメンタル)
ELTON JOHN	蒼い肖像		1976	ロック	レコード	1976年に発表。アナログ2枚組のコンセプト・アルバムとして発売された。自身が立ち上げたレーベル「ロケット・レコード」からの第一作となる。静謐な印象を与える作品で、これをエルトンの契機とみるファンや評論家も多い。また作詞家バーニーとのコンビもこの作品で一旦終わりとなった。美しいバラード「トゥナイト」や切々と歌い上げる「悲しみのバラード」などバンドサウンドを排した曲が印象的だが、「ちっぽけな町」などのロックナンバーも挟まれている。ダンスナンバー「バイト・ユア・リップ」のフェードアウトで終わるアルバム。完全にジャズという珍しい楽曲「アイドル」もある。ポップ・スター的なバンド・サウンドから距離を置き、聴く者に静かな印象を与える作品。本作後、バーニー・タウビンとの作曲コンビを一時解消。エルトンのターニング・ポイントとなった。	Side A 1. 愛の輝き - Shine On Through 2. リターン・トゥ・パラダイス 3. 今・・・だから愛 - I Don't Care 4. ビッグ・ディッパー - Big Dipper 5. 浮気のゆくえ - It Ain't Gonna Be Easy Side B 1. ハート・ブレイク・ホテル 2. リターン・トゥ・パラダイス 3. 今・・・だから愛 - I Don't Care 4. ビッグ・ディッパー - Big Dipper 5. 浮気のゆくえ - It Ain't Gonna Be Easy 6. ジャスト・ビコーズ 2:32
ELTON JOHN	シングル・マン		1978	ロック	レコード	1978年に発表した枚目のアルバム。メンバーはキキ・ディーのアルバム制作とほとんど同じ。プロデュースも共同とは言え自身が手がけている。作詞は盟友バーニーと離れ、全曲をゲイリー・オズボーンが担当。アルバムは静的な印象で、ピアノの音が綺麗に響くアルバムである。「蒼い肖像」と同様かつさらに静的な印象で、ピアノの音が綺麗に響くアルバムである。アップテンポな「パート・タイム・ラブ」はシングルとなった。「ソング・フォー・ガイ」は事故死した17歳のメッセンジャー・ボーイに捧げたインスト曲。今までのけばけばしい衣装から一転して、今回のジャケットはシルクハットにコートという姿でたずむエルトン。眼鏡やサングラスも外し、帽子を愛用するようになったのもこの頃からである。	Side A 1. 愛の輝き - Shine On Through 2. リターン・トゥ・パラダイス 3. 今・・・だから愛 - I Don't Care 4. ビッグ・ディッパー - Big Dipper 5. 浮気のゆくえ - It Ain't Gonna Be Easy 6. ジャスト・ビコーズ 2:32
ELVIS PRESLEY	エルビス登場！		1956	ロカビリー	レコード	エルヴィス・プレスリーのデビュー・アルバム。1956年3月発売。デビュー・シングルの『ハート・ブレイク・ホテル』が3月3日に68位で登場したばかりでまだヒットに至っておらず、アルバムヒットの保証が無かったため、サン・レコードで録音されていた5曲と、RCAでの第1回目のセッション(1月10日、11日)と、第2回目のセッション(1月30日、31日、2月3日)で録音されたカバー曲が5曲、その場で作られた新曲が2曲が収録された。しかし、蓋を開けてみると、10週連続1位を獲得し、発売からおよそ1年間チャート・イン。RCAのポップス・アルバムの中の、ソロ・アーティストとしては史上初の100万枚以上の収益を記録し、RCAのポップス部門最大のヒット作となった。ジャケット写真は、1955年1月31日にフロリダ州タンパで撮影されたもの。エルヴィスの後ろにいるのは、ビル・ブラックである。	Side A 1.ブルー・スエード・シューズ 1:58 2.当てにしているぜ (I'm Counting on You) 2:24 3.アイ・ガット・ア・ウーマン 2:23 4.ワンの・サイデッド・ラヴ・アフェア 2:09 5.アイ・ラヴ・ユー・ビコーズ 2:42 6.ジャスト・ビコーズ 2:32 Side B 1.トゥッティ・フルッティ 1:59 2.お前が欲しくて (Trying to Get to You) 2:33 3.座って泣きたい (I'm Gonna Sit Right Down and Cry) 2:05 4.あなたを離さない (I'll Never Let You Go) 2:25 5.ブルー・ムーン 2:43 6.マネー・ハニー 2:36
ELVIS PRESLEY	エルビス登場！		1956	ロカビリー	CD		
ELVIS PRESLEY	セカンド		1956	ロカビリー	レコード	エルヴィス・プレスリーのセカンドアルバム。1956年10月発売。前作「エルヴィス・プレスリー登場」のセッションからの「恋がかなった」を除く11曲が1956年9月1日から3日にかけてハリウッドのラジオ・レコーダーズで録音された。「ハウンド・ドッグ」の大ヒットを受けてエルヴィスへの提供曲を一手に引き受けていたヒル&レインジ音楽出版はジェリー・リーバー＆マイク・ストラーに楽曲の提供を依頼。しかしリーバー、ストラーはこの申し出を真剣に受け止めず、自分達の作った曲の中で最低の出来と評していたラヴ・ミーを提供。エルヴィスはこれを見事にアレンジし、リーバー、ストラーもエルヴィスのバージョンを大変気に入り評価を改めた。「ファースト・イン・ライン」はエルヴィスが納得するまで27ものテイクが行われた。このアルバムではエルヴィス自身がピアノを弾きながら歌っている。エルヴィスが自分でピアノを弾きながらレコーディングするのはこれが初めてだったとされている。	Side A 1.陽気に行こうぜ (Rip It Up) 1:50 2.ラヴ・ミー 2:41 3.ブルー・ムーンがまた輝けば (When My Blue Moon Turns to Gold Again) 2:18 4.のっぽのサリー (Long Tall Sally) 1:51 5.ファースト・イン・ライン 3:21 6.悩まされて (Paralyzed) 2:18 Side B 1.恋がかなった (So Glad You're Mine) 2:18 2.オールド・シェップ 4:10 3.レディ・テディ 1:55 4.どこでも天国 (Anyplace Is Paradise) 2:26 5.浮世の仕打ち (How's the World Treating You?) 2:23 6.こんな気持ちがわかるかい (How Do You Think I Feel) 2:1
ELVIS PRESLEY	エルヴィス(アップグレード・ヴァージョン)		1956	ロカビリー	CD	当時の未収録の大ヒットシングル 1. ハウンド・ドッグ2. 冷たくしないで、3. どちらみち俺のもの、16. トゥー・マッチ、17. プレイング・フォー・キープス、18ラヴ・ミー・テンダー の計6曲を追加収録したアップグレード盤。	1ハウンド・ドッグ(ボーナス・トラック) 2冷たくしないで(ボーナス・トラック) 3どっちみち俺のもの(ボーナス・トラック) 4陽気に行こうぜ 5ラヴ・ミー 6ブルー・ムーンがまた輝けば 7のっぽのサリー 8ファースト・イン・ライン 9悩まされて 10恋がかなった 11オールド・シェップ 12レディ・テディ 13どこでも天国 14浮世の仕打ち 15こんな気持ちがわかるかい 16トゥー・マッチ(ボーナス・トラック) 17プレイング・フォー・キープス(ボーナス・トラック) 18ラヴ・ミー・テンダー(ボーナス・トラック)
ELVIS PRESLEY	(ペーパーズ・リーブ仕様) さまよう青春		1957	ロカビリー	CD	56年の「LOVE ME TENDER (やさしく愛して)」に続くELVIS主演映画第2作目の57年作「LOVING YOU(さまよう青春)」のサウンドトラック盤としてリリースされた1957年作。初期の若さと活きの良さがバンパンの名作です。全米ナンバーワンシングル「TEDDY BEAR」収録。	1ミニ・ウーマン・ブルース 2テディ・ベア 3ラヴィング・ユー 4ゴット・ア・ロット・オブ・リヴィング 5ロンサム・カウボーイ 6ホット・ドッグ Side B 7バーディ 8ブルーベリー・ヒル 9トゥルー・ラヴ 10ドント・リヴ・ミー・ナウ 11愛していると云ったつけ 12アイ・ニード・ユー・ソー
ELVIS PRESLEY	闇に響く声		1958	ロカビリー	レコード		
ELVIS PRESLEY	ザッツ・オール・ライト		1959	ロカビリー	レコード		
ELVIS PRESLEY	デイト・ウィズ・エルヴィス		1959	ロカビリー	レコード		
ELVIS PRESLEY	エルヴィス・イズ・バック		1960	ロカビリー	レコード		

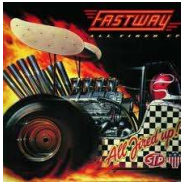
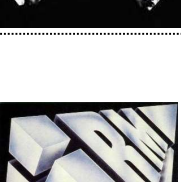
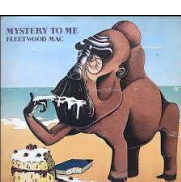
E	ELVIS PRESLEY	(ペーパーズ リーブ仕様) G.I.ブルース		1960	ロカビ リー	CD	エルヴィス・プレスリー主演映画「G.I.ブルース」のサウンドトラック・アルバム。この映画はエルヴィスが陸軍を除隊した直後に製作され、実際に駐屯していたフランクフルトを舞台にしており、当時ファンはエルヴィスの軍隊生活をオーバーラップさせてこの映画を観ていた。このサウンドトラックは発売当時10週間連続で全米チャート第1位を記録、さらに111週間チャート・インを続けた超ロング・セラー・アルバム。テーマ曲「G.I.ブルース」を始めとして、ロックンロールだけではなく、ドイツ民謡や軍隊風マーチまでバラエティに富んだ楽曲が楽しい。尚「G.I.ブルース」は当時日本でのみシングル・カットされ各ラジオ・チャートNo.1を獲得した。		
	ELVIS PRESLEY	心のふるさと		1960	ロカビ リー	レコー ド		01. His Hand In Mine 02. I' m Gonna Walk Dem Golden Stairs 03. In My Father' s House 04. Milky White Way 05. Known Only To Him 06. I Believe In The Man In The Sky	07. Joshua Fit The Battle 08. He Knows Just What I Need 09. Swing Down Sweet Chariot 10. Mansion Over The Hilltop 11. If We Never Meet Again 12. Working On The Building
	ELVIS PRESLEY	ブルー・ハワイ		1961	ロカビ リー	レコー ド			
	ELVIS PRESLEY	エルヴィス・イン・メンフィス		1969	ロカビ リー	レコー ド			
	ELVIS PRESLEY	エルヴィスの ゴールデンレ コード第1集		1958	ロカビ リー	レコー ド			
	ELVIS PRESLEY	エルヴィスの ゴールデンレ コード第2集		1959	ロカビ リー	レコー ド			
	ELVIS PRESLEY	エルヴィスの ゴールデンレ コード第3集		1963	ロカビ リー	レコー ド			
	ELVIS PRESLEY	メンフィス・テネ シー		1965	ロカビ リー	レコー ド			
	ELVIS PRESLEY	ラヴ・ソングス		1981	ロカビ リー	レコー ド			
	ELVIS PRESLEY	エルヴィス・オ ン・ステージ Vol.3		1970	ロカビ リー	レコー ド			
	ELVIS PRESLEY	エルヴィス・イ ン・ニューヨーク		1972	ロカビ リー	レコー ド			
	ELVIS PRESLEY	エルヴィス・イ ン・ハワイ		1973	ロカビ リー	レコー ド			
	ELVIS PRESLEY	(デジパック) エルヴィス' 56			ロカビ リー	CD	RCAデビュー40周年(1996年)を記念して、デビューから1年の間にレコーディングされた中から22曲を選んでリリースしたアルバムの24bitデジタル・リマスター盤。コレクターズ・エディション輸入盤限定盤。24ページのオリジナルフォトブック付き。	1.ハートブレイク・ホテル 2.マイ・ベイビー・レフト・ミー 3.ブルー・スエード・シューズ 4.恋がかなった 5.トゥッティ・フルッティ 6.ワン・サイデッド・ラヴ・アフェア 7.ラヴ・ミー 8.どこでも天国 9.悩まされて 10.レディ・テディ 11.トゥー・マッチ 12.ハウンド・ドッグ	13.どっちみち俺のもの 14.冷たくないで 15.ローディ・ミス・クローディ 16.シェイク・ラトル・アンド・ロール (オルタネイト・ライク8) 17.アイ・ウオント・ユー、アイ・ニード・ユー、アイ・ラヴ・ユー 18.陽気に行こうぜ 19.ハートブレイク・ホテル (オルタネイト・ライク5) 20.アイ・ガット・ア・ウーマン 21.ただひとりの男
	ELVIS PRESLEY	エルヴィス・ザ ファースト・イ ヤー			ロカビ リー	レコー ド	盟友Scotty Moore、Bill Blackとともに行なった'55年3月ヒューストンでのライブ音源～インタビューを発掘収録。ギタリストのスコッティ・ムーアは、エルヴィス・プレスリーのツアーやレコーディングに最初期から60年代まで参加し、その鮮烈なギター・サウンドでエルヴィスとロックンロールを世界中に広めたといってもいい。	A面 1. First Meeting 2.Discovery Of Elvis By Sam Phillips 3.The First Recording Session 4.The Second Recording Session 5.Shows With The Starlite Wranglers 6.On Their Own 7.Stranded In Shreveport, Louisiana 8.Grand Ole Opry Appearance 9.Louisiana Hayride Appearance	B面 1. There's Good Rockin' Tonight 2.Baby, Let's Play House 3.Blue Moon Of Kentucky 4.I've Got A Woman 5.That's Alright Little Mama
	ELVIS PRESLEY			1984	ロカビ リー	レコー ド		A1 I Forgot To Remember To Forget A2 I Got A Woman A3 One Sided Love Affair A4 So Glad You're Mine A5 I'm Gonna Sit Right Down & Cry Over You A6 Paralysed	B1 How Do You Think I Feel B2 We'Re Gonna Move B3 Poor Boy B4 Let Me B5 When My Blue Moon Turns To Gold Again B6 Long Tall Sally

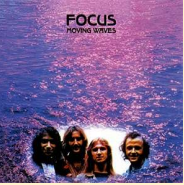
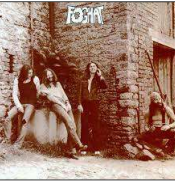
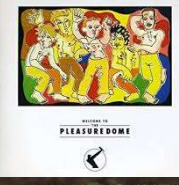
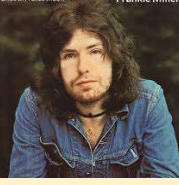
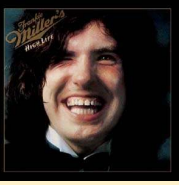
ELVIS COSTELLO	マイ・エイム・イズ・トゥルー		1977年7月22日	ニューウェイブ	レコード	Dr. フィールグッドのマネージャーにスカウトされ1977年に発表したコストロのデビューアルバム。全英14位、全米32位を記録。3月にデビュー・シングルとして先行発表されていた「レス・ザン・ゼロ」や、リンダ・ロンシュタット等にカバーされたコストロの代表曲「アリスン」を収録。プロデュースはデビュー前からコストロと親交のあったニック・ロウが務めている。UK出身のエルビス・コストロは、いわゆる70年代のUKにおけるプログレッシブ・ハード・ロックの勃興に対抗するシンブルな「パブ・ロック」のジャンルで語られるように広闊するが、本アルバムはそのコストロの1977年にリリースされた1stスタジオ・アルバムである。デビューからいきなりUK・USではヒット・チャート上位に登場。本アルバムのフィーチャー・ナンバーは全て彼自身の手に依るものだが、トラック13の「Watching the Detectives」は当初のUK版のLP（アナログ）レコードではフィーチャーされておらず、後れてリリースされたUS版から追加されたものである。フィーチャー・ナンバーでは、何と言ってもアルバムに先行してシングル・リリースされたバラード・ロックの「Alison」で、このナンバーはリンダ・ロンシュタットが79年の『Living in the USA』で、オリジナルをほぼ踏襲するしっとりしたバラードでカバーしている。この「Alison」より2ヶ月ほど先行したシングルが「Less Than Zero」で、「Sneaky Feelings」、「(The Angels Wanna Wear My) Red Shoes」、「I'm Not Angry」などと共にピートルズの中盤頃を彷彿とさせるソフト・ロックの雰囲気があるが、他方アメリカン・ロック・テイストの「Mystery Dance」、「Watching the Detectives」なども類える。	Side A 1. ウェルカム・トゥ・ザ・ワーキング・ウィーク 2. ミラクル・マン 3. ノー・ダンシング 4. プレ임・イット・オン・ケイン 5. アリスン 6. スニーキー・フィーリングス	Side B 1. レッド・シューズ 2. レス・ザン・ゼロ 3. ミステリー・ダンス 4. ベイ・イット・バック 5. アイム・ノット・アングリー 6. ウェイティング・フォー・ジ・エンド・オブ・ザ・ワールド 7. ウォッチング・ザ・ディテクティヴス
ELVIS COSTELLO	マイ・エイム・イズ・トゥルー		1977年7月22日	ニューウェイブ	CD		以下、SCボーナストラック 14. レディオ・スイートハート - Radio Sweetheart 15. ストレンジジャー・イン・ザ・ハウス - Stranger in the House 16. イマジネーション - Imagination (Is a Powerful Deceiver) 17. メジャーデビュー前のバンドであるフリップ・シティによる録音(1974年〜1975年頃)	18. ミステリー・ダンス - Mystery Dance (Demo version) 19. チーズ・リウード - Cheap Reward (Demo version) 20. ジャンプ・アップ - Jump Up (Demo version) 21. ウェイヴ・ア・ホワイト・フラッグ - Wave a White Flag (Demo version) 22. プレ임・イット・オン・ケイン - Blame It on Cain (Demo version) 23. ポイズン・ムーン - Poison Moon (Demo version)
ELVIS COSTELLO	ジス・イヤー・モデル		1978年3月17日	ニューウェイブ	レコード	1978年発表。エルヴィス・コストロの2作目にして、自身のバンド=ジ・アトラクションズを率いての初アルバム。スピード感と緊張感に溢れる、パンクッシュで切れ味鋭いサウンドが光る初期の快作。全英4位を記録した。全編に渡って小気味よくビートが効いたロックンロールを展開しています。シングル・カットされた3曲『(I Don't Want to Go to) Chelsea』『Pump It Up』『Radio Radio』を始めアルバムの最後から最後まで息をもたず疾走している感じ。専門誌では本作品を最高傑作と評している事が多い。当初、日本では契約の関係でこのレコードが先に発売され、ほぼ同時に「マイ・エイム・イズ・トゥルー」が別会社から出た。	Side A 1. ノー・アクション 2. ディス・イヤーズ・ガール 3. ザ・ビート 4. パンプ・イット・アップ 5. リトル・トリガーズ 6. ユー・ビロング・トゥ・ミー	Side B 1. ハンド・イン・バンド 2. チェルシー 3. リップ・サービス 4. リヴィング・イン・パラダイス 5. リップスティック・ヴォーグ 6. ナイト・ラリ
ELVIS COSTELLO	アームド・フォース		1979年1月5日	ニューウェイブ	レコード	1979年発表。エルヴィス・コストロにとって3枚目のアルバム。プロデューサーはニック・ロウ。原題は「エモーショナル・ファシズム」だった。サウンドはかなりポップ寄り。歌詞はやはり辛口。コマーシャル的な側面ではかなり成功したアルバム。バックバンド=アトラクションズ=とのコンビネーションも絶妙。ソングライティングセンスがかなり光る。突っ走る怒りぶちまけソングはあまり見受けられないが、彼のポップス全般に対する精通ぶりがそこかしこに散見できる部分がある。内容的にもコマーシャル面でも満足のいく結果の出したアルバム。初期コストロのピークをなす1枚で初期コストロのアルバムの中でも、曲の良さは際立っている。他アーティストによるカバーヴァージョンの多さも人気の高さを証明。 1.は氷室京介、3.はブルー、6.はリンダ・ロンシュタット、12.はトッド・ラングレンが歌っているし、同じセッションからシングルB面に収録された「ガールズ・トーク」はデヴィ・エンドモンズによってカバーされてヒットする。この時期のコストロ先生がいかにノッていたのがわかるだろう。 尚、英国版のオリジナルLPに入っていた「サンデーズ・ベスト」は、内容が英国的すぎるという理由で米国版LPからは外され、代わりにニック・ロウのシングルのB面としてリリースされていた「ピース、ラヴ・アンド・アンダースタンディング」が収録された。また、 初回版LPには「Live At Hollywood High」というタイトルの3曲入りライブEPが付属 していた。	Side A 1. アクシデンツ・ウィル・ハブ 2. シニア・サービス 3. オリヴァーズ・アーミー 4. ビッグ・ボーイズ 5. グリーン・シャツ 6. パーティー・ガール	Side B 1. グーン・スクワッド 2. ビジー・ボディー 3. サンデイズ・ベスト 4. ムーズ・フォー・モダンズ 5. ケミストリー・クラス 6. トゥー・リトル・ヒットラーズ
ELVIS COSTELLO	アームド・フォース		1979年1月5日	ニューウェイブ	レコード			
ELVIS COSTELLO	ゲット・ハッピー		1980年2月15日	ニューウェイブ	レコード	1980年発表。全英1位、全米11位獲得。エルヴィス・コストロにとって4枚目のアルバム。プロデューサーはニック・ロウ。全英1位を記録。R&B、ソウル、スカ、カントリー・ロックなど幅広い音楽性が見事。今作のコストロのポップセンスは更に洗練されて、おしゃれな印象すらあります。このアルバムでは見事なコストロ流ブルー・アイドソングが展開されています。モータウンやノーザンソウル、一部にスカの影響があったり、あいかわらず好奇心旺盛なところも見えています。ミュージシャンたちからの信頼はものすごいものがあり、たくさんの音楽家からプロデュースの依頼がこのひとはあります。ポピュラー音楽のエキスパートとしての彼の側面を象徴しております。エモーショナルかつジャンピー=ダンスアルバム=似仕上がったこのアルバムは、バックバンド=『アトラクションズ』とのコンビネーションもばつぐんであります。今年のフジロックを見ましたらばきちんとビートマス=ドラムも演奏しておりました。メロディーメーカーとしても一流でありながらプロデューサーとしても一流、しゃれていて、一度聴いたら耳から離れないそんなメロディーを紡ぐことのできるポップな巨人これがコストロと言えるであらうでしょうか。楽曲は短いでホガ込みぬれた音の感じが、高いのではありません。	Side A 1. ラヴ・フォー・テンドー 2. オボチュニティー 3. ジ・インボスター 4. セカンダリ・モダン 5. キング・ホース 6. ポゼッション 7. メン・コールド・アングル 8. クラウンタイム・イズ・オーヴァー 9. ニュー・アムステルダム 10. ハイ・フィデリティ	Side B 1. アイ・キャン・スタンド・アップ・フォー・フォーリング・ダウン 2. ブラック&ホワイト・ワールド 3. ファイヴ・ギアズ・イン・リヴァース 4. ビー・ムーヴィー 5. モーテル・マッチズ 6. ヒューマン・タッチ 7. ビントゥン・トゥ・ザ・パンチ 8. テンペテーション 9. アイ・スタンド・アキューズド 10. ライオット・アクト
ELVIS COSTELLO	トラスト		1981年1月	ニューウェイブ	レコード	1981年リリースの5枚目のアルバム。プロデューサーはニック・ロウ。この時期はコストロのスランプ時期と言われている頃の作品。ヒットシングル「Clubland」やSqueezeのグレン・ティレルブルックがデュエットした「From A Whisper To A Scream」は、聴きごたえげうぶんで、これを聴くだけでもアルバムの価値がある。深みのあるやさしさがれたコストロの声と、ティレルブルックのソフトな声の対比が実に絶妙で、アップテンポなジ・アトラクションズの演奏をバックに二人が楽しげに歌う姿が、目に浮かんできそう。	Side A 1. クラブランド 2. ラヴァーズ・ウォーク 3. ユール・ネヴァー・ビー・ア・マン 4. フリティ・ワーズ 5. ストリック・タイム 6. ルクセンブルク 7. 足下に注意！ - Watch Your Step	Side B 1. ニュー・レース・スリーヴス 2. フロム・ア・ウィスパー・トゥ・ア・スクリーム 3. ディファレント・フィンガー 4. ホワイト・ナックルズ 5. ショット・ウィズ・ヒズ・オウン・ガン 6. フィッシュ・アンド・チップ・ペーパー 7. ビッグ・シスターズ・クローゼズ
ELVIS COSTELLO	オールモスト・ブルー		1981年10月23日	ニューウェイブ	レコード	1981年発表。エルヴィス・コストロ&ジ・アトラクションズの7枚目のアルバム。全英7位を記録。プロデューサーはビリー・シェリル。このアルバムの収録曲はすべてカントリー・ソングのカバーで構成される。もともとはその当時のコストロ自身の憂鬱な気持ちを反映した「ブルー」な曲を集めたものにしてと考えていたが、次第にカントリーに惹かれていき、最終的にカントリーを集めた形となった。とコストロ自身が語っている。コストロの魅力の一つは、唯一無二この声だと思のですが、その声の魅力をたっぷり味わえます。カバーアルバムでオリジナルの曲がないことに不満を感じる人もいられるかもしれないが、誰の曲であろうと、コストロのあの声で歌われると、コストロの歌になってしまうのです。そのことを再認識させてくれる一枚でコストロの新たな魅力が発見できる作品。このアルバムからシングルカットした「グッド・イヤー・フォー・ザ・ローゼズ」が6位となる。	Side A 1. ホワイ・ドント・ユー・ラヴ・ミー(ライク・ユー・ユースト・トゥ・ドゥ) 2. スウィート・ドリームス 3. サクセス 4. アイム・ユア・トイ 5. トゥナイト・ザ・ボトル・レット・ミー・ダウン 6. ブラウン・トゥ・ブルー	Side B 1. グッド・イヤー・フォー・ザ・ローゼズ 2. シッティン・アンド・シンキン 3. カラー・オブ・ザ・ブルース 4. トゥー・ファアー・ゴーン 5. ハニー・ハッシュ 6. ハウ・マッチ・アイ・ライド
ELVIS COSTELLO	パンチ・ザ・クロック		1983年8月5日	ニューウェイブ	レコード	1983年に発表。エルヴィス・コストロの8枚目のアルバム。全英1位、全米24位を記録。プロデューサーはクライヴ・ランガーとアラン・ウィンスタンリー。TKOホーンズをホーンセクションに迎えた全体的に派手なサウンドが特徴だが、コストロ自身は、表面的で深みがなく、また80年代的なサウンドであるという理由で、本アルバムには批判的な見解を述べている。ただクライヴに対しては、彼のおかげでレコードがヒットしたということで批判的というわけではない。前作以上にアレンジが大胆で、ホーンサウンドや女性コーラスを積極に取り入れた派手なナンバーが多い。今までのコストロにはない要素がたくさんちりばめられているのが特徴なのだが、結果的にいかに80年代という時代を感じさせるサウンドになってしまった。 尚、このアルバムからシングルカットした「ビルズ・アンド・ソープ」はサッチャー政権に対するプロテストソングで「エルヴィス・コストロ」ではなく「ジ・インボスター」名義でリリースされ、イギリスのチャートで16位を獲得し、その他「エヴリデイ・アイ・ライト・ザ・ブック - Everyday I Write the Book」もイギリスで28位となりスマッシュヒットとなる。	Side A 1. レット・ゼム・オール・トーク 2. エヴリデイ・アイ・ライト・ザ・ブック 3. ザ・グレイテスト・シング 4. ジ・エレメント・ウィズ・イン・ハー 5. ラヴ・ウェント・マッド 6. シップビルディング	Side B 1. TKO(ボクシング・デイ) 2. チャーム・スクール 3. ジ・インヴィジブル・マン 4. マウス・オールマイティ 5. キング・オブ・シーヴズ 6. ビルズ・アンド・ソープ 7. ザ・ワールド・アンド・ヒズ・ワイフ
ELVIS COSTELLO	グッバイ・クルエル・ワールド		1984年6月18日	ニューウェイブ	レコード	84年発表のコストロ9作目のアルバム。前年のパンチ・ザ・クロックに続いてクライヴ・ランガーとアラン・ウィンスタンレイのプロデュース。コストロ自ら失敗作と公言するだけあって、楽曲とプロデュースが噛み合っていないところが多いです。この頃コストロは、最初の奥さんとの離婚が間近な上にバックのアトラクションズとの関係も悪化し始めており、今作用の詞・曲は内省的で暗いものが多かった。しかし、前作「パンチ・ザ・クロック」でコストロをポップ・チャートに復活させたランガーとウィンスタンレイは元々歯切れの良いフリテンシユ・ポップ本道の音職人で、そういった原曲のムードとは相反する指向性だったが、とにかく何とかレコードにはしてくれと頼み込んで無理やり完成させた曰くつきのアルバム。セールス的にはそれなりの結果が出たが、完成直後から出来に不満の彼はキャリア初のソロ・ツアーに(Tボーン・バーネットだけを従えて)出かけ、楽曲そのものと向き合うという原点を見つめなおすことになる。また、アルバムからシングルカットした「ピース・イン・ア・タイム」はプロテストソングで「エルヴィス・コストロ」ではなく「ジ・インボスター」名義でリリースされる。	Side A 1. ジ・オンリー・フレ임・イン・タウン 2. ホーム・トゥルース 3. ルーム・ウィズ・ノー・ナンバー 4. インチ・バイ・インチ 5. ウォースレス・シング 6. ラヴ・フィールド	Side B 1. アイ・ワナ・ビー・ラヴド 2. ザ・コメディアンズ 3. ジョー・ボーターハウス 4. サワー・ミルク・カウ・ブルース 5. ザ・グレート・アンノウン 6. ザ・デ・ボーティーズ・クラブ 7. ビース・イン・ア・ワ・タイム
ELVIS COSTELLO	キング・オブ・アメリカ		1986年2月21日	ニューウェイブ	レコード	1986年にザ・コストロ・ショウ名義で発売されたエルヴィス・コストロの10枚目のアルバム。プロデューサーはTボーン・バーネットとデ克蘭・マクマナス(エルヴィス・コストロとラリー・ヒルシュ。本来デ克蘭・パトリック・アロイヤス・マクマナスという本名で出したかったが、レコード会社の説得によりザ・コストロ・ショウとなった。また、本作では数曲を除き作曲クレジットはコストロの本名である「デ克蘭・マクマナス」名義となっている。 デビュー時からカントリーやリズム・アンド・ブルースなど、アメリカ音楽に対する視線や影響をそこかしこに反映させてきたが、この作品でアメリカの腕利きのミュージシャンをバックに、アメリカン・ミュージックの、そしてこれも彼の根本的な影響にあるアイリッシュ・ミュージックの要素を全面展開した、彼にとつて一大転機となった作品がこれである。"American Without Tears"、"Jack Of All Parades"など、彼の曲の中でも屈指の作品が揃っているという点でも、代表作に推せる。その中で、前作までコストロのバックを務めたアトラクションズは、本作では「スーズ・オブ・ライツ」の1曲のみで参加している。もともとはアトラクションズとそれ以外のバンドの演奏を半分ずつ収録する構想だったが、アトラクションズがセッションに到着した頃にはすでに多くの曲を撮り終えていたことと、そのことによるバンドメンバーとの関係の悪化で、曲のみの参加に決まった。Tボーン・バーネットとケヴィン・キレン。本作では、ポール・マッカートニーとの共作・共演が話題となった。エルヴィスとポールは、本作の「ヴェロニカ」「バックス・ボウズ・アンド・クロウズ」に加え、ポールのアルバム『フラワーズ・イン・ザ・ダート』収録曲4曲を共作。また、「...ディス・タウン」と「ヴェロニカ」では、ポールがベースを弾いている。 参加メンバーも超豪華。しかも最初の4曲の並び方が最高に良く、いきなりロジャー・マッギンの12弦とポール・マッカートニーのベースが共演する1. はこの曲の誰もかれもがあんなに害毒だと思わないうちはあんたはいてもいなくても同じなんだというコストロらしい辛辣な歌詞が際立ったせつなさあふれるフォークロック。冤罪で絞首刑にされた男を歌った2. にはひりひりした緊張感が横溢。3. はダーティ・ダズン・プラスバンドのホーンが感動的なバラード。テレビ番組のOPにも使われたポールとの珠玉の共作ナンバー「ヴェロニカ」が素晴らしい。また、神様の視点を持ち出したおかしくも悲しげな5. もいい曲です。ダーティ・ダズン・プラスバンドのパワフルなホーンを前面に出したインスト8. は87年来日公演での開演前のBGMに使われていて印象深かった。また、フリテンダズズのクリッシー・ハインドとのデュエット曲もありて、流石にコストロは素晴らしい。	Side A 1. プリリアント・ミステイク 2. ラヴァブル 3. アフ・リトル・エンジェル 4. ドント・レット・ミー・ビー・ミスアンダストウッド 5. グリッター・ゲルチ 6. インドア・ファイアーワークス 7. リトル・パレス 8. アイル・ウェア・イット・ブラウダリー	Side B 1. アメリカン・ウイズアウト・ティアーズ 2. サテライト 3. アイゼンハワー・ブルース 4. ポイズンド・ローズ 5. ザ・ビッグ・ライト 6. ジャック・オブ・オール・パレーズ 7. スート・オブ・ライツ 7. スリープ・オブ・ザ・ジャスト
ELVIS COSTELLO	スピーク		1989年2月14日	ニューウェイブ	レコード	1989年2月に発表されたエルヴィス・コストロの11枚目のアルバム。プロデューサーはTボーン・バーネットとデ克蘭・マクマナス(エルヴィス・コストロとラリー・ヒルシュ。本来デ克蘭・パトリック・アロイヤス・マクマナスという本名で出したかったが、レコード会社の説得によりザ・コストロ・ショウとなった。また、本作では数曲を除き作曲クレジットはコストロの本名である「デ克蘭・マクマナス」名義となっている。 参加メンバーも超豪華。しかも最初の4曲の並び方が最高に良く、いきなりロジャー・マッギンの12弦とポール・マッカートニーのベースが共演する1. はこの曲の誰もかれもがあんなに害毒だと思わないうちはあんたはいてもいなくても同じなんだというコストロらしい辛辣な歌詞が際立ったせつなさあふれるフォークロック。冤罪で絞首刑にされた男を歌った2. にはひりひりした緊張感が横溢。3. はダーティ・ダズン・プラスバンドのホーンが感動的なバラード。テレビ番組のOPにも使われたポールとの珠玉の共作ナンバー「ヴェロニカ」が素晴らしい。また、神様の視点を持ち出したおかしくも悲しげな5. もいい曲です。ダーティ・ダズン・プラスバンドのパワフルなホーンを前面に出したインスト8. は87年来日公演での開演前のBGMに使われていて印象深かった。また、フリテンダズズのクリッシー・ハインドとのデュエット曲もありて、流石にコストロは素晴らしい。	Side A 1. ...ディス・タウン - 2. レット・ヒム・ダングル 3. ディープ・ダーク・トゥルースフル・ミラー 4. ヴェロニカ 5. ゴッス・ゴシック 6. チューイング・ガム 7. トランプ・ザ・ダート・ダウン	Side B 1. スターリン・マローン 2. サテライト 3. バックス・ボウズ・アンド・クロウズ 4. ベイビー・ブレイズ・アラウンド 5. ミス・クベス 6. エニ・キングス・シリグ 7. コール・トレイン・ロバリーズ 8. ラスト・ポート・リヴィング

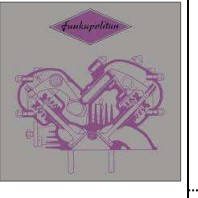
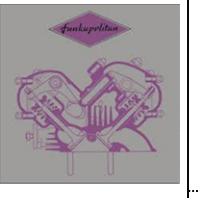
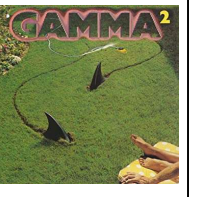
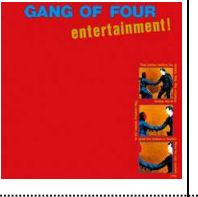
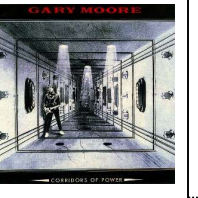
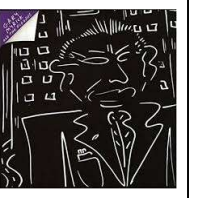
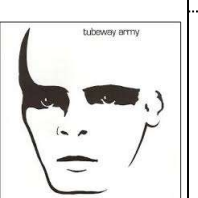
ELVIS COSTELLO	ガールズ・ガールズ・ガールズ		1989	ニューウェイブ	レコード	スティップ・ディーモン時代の10年間の録音をコストロ自身が選曲・編集した2枚組のアルバム。本人の解説によれば4つのパートに構成したそうでたとえば2枚目後半には政治的なテーマの歌が並んでいる。彼の天才を改めて思い知らせてくれる重量級の回顧録だ。当然粗削りながら後のコストロを彷彿とさせる曲が多く、ファンとして持っていて悪くないアルバム。	Side A 1. Watching The Detectives 2. I Hope You're Happy Now 3. Pump It Up 4. Lover's Walk 5. Temptation 6. Lovable 7. (I Don't Want To Go To) Chelsea 8. High Fidelity 9. Lipstick Vogue Side B 1. Man Out Of Time 2. Brilliant Mistake 3. New Lace Sleeves 4. Accidents Will Happen 5. King Horse 6. Green Shirt 7. (The Angels Wanna Wear My) Red Shoes 8. ...	Side C 1. Alison 2. Indoor Fireworks 3. Party Girl 4. Almost Blue 5. Riot Act 6. Poisoned Rose 7. I Want You (Single Version) 8. I'll Wear It Proudly Side D 1. Oliver's Army 2. Pills And Soap 3. Stranger In The House 4. Clubland 5. Tokyo Storm Warning 6. Shipbuilding
EMERSON LAKE&PALMER	エマーソン、レイク&パーマー		1970	プログレ	レコード	1970年リリースのEL&Pのセンセーショナルなデビュー作となった1枚。すでに「クリムゾン・キングの宮殿」が新たなロック・ムーブメントを巻き起こしていた中、ナイス、キング・クリムゾン、アトミック・ルースターのメンバーが集まった事でスーパーグループとして注目され、以降の英国プログレの勢いに拍車をかける重要作となりました。3人ともすでに知名度の高いミュージシャンであったわけですが、デビュー作にしてすでに個々の力量、個性が遺憾なく発揮された事により、同時代のプログレ作品の中でもかなり重厚、叙情性に富んだものとなっています。シンセはごく僅かに留めながら、エマーソンのオルガンとピアノが曲の全体的なイメージを主導し、ディストーションがバリバリかかったベース、超絶ドラムが絡む様はまさに圧巻です。またこの時代のブームでもあったクラシックとロックの融合という意味でも理想的なモデルともなっていないが、「The Barbarian」や「Tank」ではキング・クリムゾンへの恐ろしいまでのライバル意識とでも言えそうなヘヴィかつ複雑なサウンドを展開しています。最終曲のアコースティック調のバラード、「Lucky Man」でのリカルなメロディ・センスもいかにも英国的な美しさを誇り、全編を通して隙を見せない完璧なアルバムとなっています。	Side A 1. 未開人- The Barbarian 2. 石をとれ - Take A Pebble 3. ナイフとエッジ- Knife Edge	Side B 1. 運命の三人の女神- The Three Fates クロソー - Clotho ラクシス - Lachisis アトロ波斯 - Atropos 2. タンク - Tank 3. ラッキー・マン- Lucky Man
EMERSON LAKE&PALMER	(パーバースリーブ仕様)タルカス		1971	プログレ	CD	71年作、EL&Pのアルバム。ジャケットに描かれたアルマジロと戦車の怪物がタルカスなのですが、これは日本ではウルトラセブンで登場した恐竜戦車とソックリであるには有名な話だと思います。セブンの方が先にテレビ放映されているのですが、関連はあったのでしょうか。本作では当時アナログA面全てを使い、20分を越す組曲として、このタルカスにまつわる壮大なドラマが描かれています。火山から生まれた機械と野獣の化身で、戦闘獣タルカスと、人間と神獣が融合したマンティコアの戦いがあらずとなっています。ハード・ロック的なダイナミズムを持った三人の凄まじいぶつかり合いが聴きもので、一瞬たりとも耳を離せないスリリングな展開が何度聴いても鳥肌ものとなっています。後半はポップな小曲が並び、音楽性の幅の広さを見せつける構成となっています。パイプ・オルガンの荘厳さが光るナンバーもありますが、むしろブギやジャズ・ロック的なアプローチをしている意外性に驚かされます。ユニークなコンセプト作としても興味深いものがあるのですが、前半の凄まじいテクニック合戦から解き放たれる様な爽快感が味わえるのが本作の魅力です。	1. タルカス 2. ジェレミー・ベンター 3. ビッチズ・クリスタル 4. ジ・オンリー・ウェイ 5. 限りなき宇宙の果てに 6. タイム・アンド・プレース 7. アーユー・レディ・エディ	
EMERSON LAKE&PALMER	展覧会の絵		1972	プログレ	レコード	71年リリース作、EL&Pの三作目。彼等のイメージを決定付けた代表作となりました。元タムソルグスキーの「展覧会の絵」はライヴ・レパートリーとして演奏されていた様で、キース・エマーソンは新作としてスタジオ・レコーディングを計画していた様です。それに反対したのがグレッグ・レイクだった様で、ライヴ収録なら問題ないという発案が本作に採用されたそうです。収録はパイプ・オルガンが設置してあるニューキャッスル・シティ・ホール。オープニングではその地の利が存分に生かされています。ライブとは思えない完璧なバンド・サウンドが、何度聴いても奇跡的に思えます。攻撃的なシンセとオルガン、カール・パーマーの超絶的な手数の多さ、そして叙情的なヴォーカル、生ギターが絡み、クラシックとロックの融合の理想的な完成型を生演奏で実現してしまっています。	Side A 1. プロムナード 2. こびと 3. プロムナード 4. 賢人 5. 古い城 6. ブルーズ・ヴァリエーション	Side B 1. プロムナード 2. パーバ・ヤーガの小屋 3. パーバ・ヤーガの呪い 4. パーバ・ヤーガの小屋 5. キエフの大門 THE END 6. ナットロッカー
EMERSON LAKE&PALMER	(パーバースリーブ仕様)展覧会の絵		1972	プログレ	CD	71年リリース作、EL&Pの三作目。彼等のイメージを決定付けた代表作となりました。元タムソルグスキーの「展覧会の絵」はライヴ・レパートリーとして演奏されていた様で、キース・エマーソンは新作としてスタジオ・レコーディングを計画していた様です。それに反対したのがグレッグ・レイクだった様で、ライヴ収録なら問題ないという発案が本作に採用されたそうです。収録はパイプ・オルガンが設置してあるニューキャッスル・シティ・ホール。オープニングではその地の利が存分に生かされています。ライブとは思えない完璧なバンド・サウンドが、何度聴いても奇跡的に思えます。攻撃的なシンセとオルガン、カール・パーマーの超絶的な手数の多さ、そして叙情的なヴォーカル、生ギターが絡み、クラシックとロックの融合の理想的な完成型を生演奏で実現してしまっています。	1. プロムナード 2. こびと 3. プロムナード 4. 賢人 5. 古い城 6. ブルーズ・ヴァリエーション	7. プロムナード 8. パーバ・ヤーガの小屋 9. パーバ・ヤーガの呪い 10. パーバ・ヤーガの小屋 11. キエフの大門 THE END 12. ナットロッカー
EMERSON LAKE&PALMER	恐怖の頭脳改革		1973年11月19日	プログレ	レコード	『恐怖の頭脳改革』(Brain Salad Surgery)は、エマーソン・レイク・アンド・パーマー(ELP)が1973年に発表したアルバムである。本作はELPが1973年3月に設立したレコード・レーベル「マンティコア・レコード」から初めてリリースされたELPのアルバムである。1972年6月に発表された前作『トリロジー』に続く約1年半ぶりの新作として、1973年11月に発表された。ELPは1970年6月にデビューして以来、約半年ごとにアルバムを発表してきた。本作の制作は、レコーディングの途中でツアーが開始されたり、キース・エマーソンが音楽的に行き詰ったり、といった事象に相次いで見舞われ、これまでのアルバムの制作よりも時間がかかってしまった。最終的には、1973年11月の全米ツアーに間に合う形でようやく発売にこぎつけた。本作はELPの全盛期の最後のスタジオ・アルバムであり、代表作として高く評価されてきた。	Side A 1. 聖地エルサレム - Jerusalem 2. トッカータ - Toccata 3. スティル...ユー・ターン・ミー・オン - Still...You Turn Me On 4. 用心棒ベニー - Benny The Bouncer 5. 悪の教典#9 第1印象 パート1 - Karn Evil 9: 1st Impression-Part 1	Side B 1. 悪の教典#9 第1印象 パート2 - Karn Evil 9: 1st Impression-Part 2 2. 悪の教典#9 第2印象 - Karn Evil 9: 2nd Impression 3. 悪の教典#9 第3印象 - Karn Evil 9: 3rd Impression
Luxury Liner	エリート・ホテル		1975年12月29日	ポップス	レコード	1975年にリリースされたガンドリー・ミュージック・アーティスト、エミルー・ハリスの3枚目のアルバムであり、幅広く評価された同年の前作『緑の天使』に続く作品である。『エリート・ホテル』はビルボードチャートで前作を上回り、ハリスの最初のナンバーワンカントリーアルバムとなった。アルバムからは「トゥギャザー・アゲイン」とバツィー・クラインのヒット曲「スウィート・ドリームス」のカバーと言う2つのナンバーワンカントリーシングルを生み出し、「いつの日か」も3位となった。ビートルズの楽曲「ヒア・ゼア・アノド・エヴリウェア」ではポップチャートの65位に入った。引き続きトラディショナルな要素と現代的な要素を混ぜ合わせた。旧友グラム・パーソンズの書いた曲を再び取り上げているが、その3曲のうち「Sin City」「Wheels」の2曲はパーソンズのなかでも息の長い人気を誇るナンバーに数えられる。だがそれ以上に感動的なのは、カントリーで最も有名なスタンダード2曲のカバー――バック・オウエンズの「Together Again」とドン・ギブソンの「Sweet Dreams」(バツィー・クラインが大ヒットさせた曲)――で、いずれもカントリー・チャートのトップに送りこんだ。	Side A 1. アマリロ 3:05 2. トゥギャザー・アゲイン 3:56 3. フィーリン・シングル・シーイン・ダブ 2:34 4. シン・シティ 3:57 5. いつの日か - One of These Days 3:03 6. テイル・アイ・ゲイン・コントロール・アゲイン 5:40	Side B 1. ヒア・ゼア・アノド・エヴリウェア 3:59 2. ウー・ラス・ヴェガス 3:47 3. スウィート・ドリームス 4:03 4. ジャンバラヤ 3:05 5. サタンズ・ジュウェル・クラウン 3:13 6. ホールズ 3:13
Luxury Liner	真珠の舟		1977年	ポップス	レコード	1976年にリリースされたエミルー・ハリスの4枚目のアルバム。このアルバムはハリスの2枚連続してビルボードチャートでNo.1となったカントリーアルバムだったが、前作「エリート・ホテル」とは異なりこのアルバムからのNo.1シングルヒットはなかった。シングルチャートでの最高位はチャック・ペリーのカバー曲「セ・ラ・ヴィ」の6位と、「メイキング・ビリーブ」(オリジナルはキティ・ウェルズのヒット曲)の8位だった。しかし、このアルバムはタ운ズ・ヴァン・ザントの1972年の曲「パンチョと左きき」の最初のカバー版を含むことでよく知られている。エミルー・ハリス率いるホット・バンドは1977年には、すでに迫力満点だった主要メンバーのリッキー・スキャッグス、グレン・D・ハーディン、ロドニー・クロウェル、ハンク・デヴィートに加え、エレキ・ギターの魔術師アルバート・リーを迎えたことでまさに脂が乗りきっていた。選曲もヴァリエティ豊かでありながら自信に満ち、カーター・ファミリーやルーヴィン・ブラザーズから、チャック・ペリーや見事な「Pancho & Lefty」を提供したタ운ズ・ヴァン・ザントまでまでありとあらゆるアーティストを取り上げている。またハリスにとって不可欠なグラム・パーソンズのナンバーととも、	Side A 1. 真珠の舟 Luxury Liner 3:41 2. パンチョと左きき Pancho and Lefty 4:50 3. メイキング・ビリーブ 3:37 4. かわらぬ想い You're Supposed to Be Feeling Good 4:01 5. サンアントンの薔薇 I'll Be Your San Antone Rose 3:43	Side B 1. セ・ラ・ヴィ 3:27 2. 夢が終わったら When I Stop Dreaming 3:15 3. ハロー・ストレンジヤー 3:59 4. シー 3:15 5. タルサ・クイーン 4:47
ENGLISH BEAT			1981	ニューウェイブ	レコード	2トーンバンドのブームから出てきたグループ。セカンドアルバム。	Side A 1. Doors Of Your Heart 2. All Out To Get You 3. Monkey Murders 4. I Am Your Flag 5. French Toast (Soleil Trop Chaud) 6. Drowning	Side B 1. Dream Home In NZ 2. Walk Away 3. Over And Over 4. Cheated 5. Get-A-Job 6. The Limits We Set
ERASURE	ワンダーランド		1986年	エレクトロニクス	レコード	元ヤズーのヴィンス・クラークが結成したイレイジャーのデビューアルバム。オーディションで選ばれたアンディ・ベルが盟友ヴィンスと組む事になった記念作。タイトなエレクトロ・ビートとエモーショナルなヴォーカル、そして抜群のポップセンスの融合が生み出したイレイジャーサウンド。この独特の捻ったテクノと変調ビートは当時、センセーショナルだった。イギリスでヒットしたシングル曲の「フー・ニーズ・ラブ」「ヘヴンリィ・アクション」を含む。	Side A 1. フー・ニーズ・ラブ 2. リユニオン 3. クライ・ソー・イージ 4. センスリス 5. ヘヴンリィ・アクション	Side B 1. セイ・ホワット 2. ラヴ・イズ・アール・ア・ルーサー 3. マーチ・オン・ダウン・ザ・ライン 4. マイ・ハート・オン・ザ・ライン 5. オー・ラムール
ERIC CLAPTON	461 オーシャン・プール・ヴァード		1974	ハードロック	レコード	ドラッグと酒の依存症から復活した新生エリック・クラプトン・バンドによるクラプトンの復帰第1弾。録音に使われたスタジオの住所をそのままアルバムタイトルに使われました。「いとしのレイラ」と共に、エリック・クラプトンの最高傑作アルバムというだけではなく、ロック史上に燦然と輝く名盤中の名盤と言われる作品。このアルバムと収録曲の、ポップ・マリーのカヴァー曲「I Shot The Sheriff」がシングルが、共に全米1位を獲得する最大のヒットになり、ロック界にレゲエを知らしめる曲になった。その他、エルモア・ジェームス、ロバート・ジョンソン等の往年のブルース・マンのカヴァーしているが、どの曲もカラッと乾いた印象になっている。	Side A 1. マザーレス・チルドレン 2. ギヴ・ミー・ストレンクス 3. ウィリー・アンド・ザ・バンド・ジャイヴ 4. ゲット・レディ 5. アイ・ショット・ザ・シェリフ	Side B 1. アイ・キャント・ホールド・アウト 2. プリーズ・ビー・ウィズ・ミー 3. レット・イット・グロウ 4. ステディ・ローリン・マン 5. メインライン・フロリダ
ERIC CLAPTON	ザ・ベスト・オブ・エリック・クラプトン		1990	ハードロック	CD	エリック・クラプトンのベストアルバム。	1. Boom Boom (Out Goes The Light)2:23 2. Choker1:11 3. Snake Drive2:27 4. Freight Loader2:48 5. Draggin' My Tail3:03 6. Louise (Louise Blues)3:25 7. Early In The Morning3:34 8. Pound And Stomps2:16 9. The First Time I Met The Girl4:50 10. ...	11. Big Boss Man3:47 12. Jeff's Blues2:59 13. Tribute To Elmore2:05 14. Highway 492:41 15. Wang-Dang-Doodle4:24 16. Five Long Years4:58 17. She's So Respectable5:41 18. For Your Love2:27 19. Respectable5:21 20. 23 Hours Too Long5:10
ERIC CLAPTON	ワンダフル・トゥナイト			ハードロック	CD		1. ミス・ユー 2. ワンダフル・トゥナイト 3. ティアリング・アパート 4. パッチ 5. クロス・ロード 6. ホワイト・ルーム 7. ファーザー・オン・アップ・ザ・ロード 8. いとしのレイラ 9. ハング・アップ・オン・ユア・ラヴ	

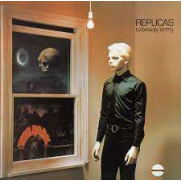
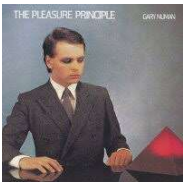
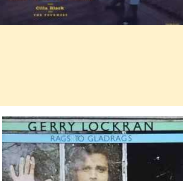
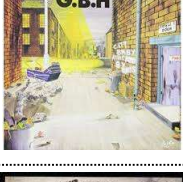
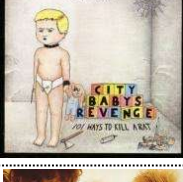
ERIC ANDERSEN	トゥデイ・イズ・ザ・ハイウェイ		1965	フォーク	レコード	本作は1965年にリリースされた1stアルバムです。1943年ペンシルベニア州ピッツバーグ出身のエリック・アンダーソン。ボブ・ディランやフィル・オクスと並び、グリニッジ・ヴィレッジで活躍したフォーク・シンガーです。 ビッグ・ジョー・ウィリアムズ作、枯れた味わいの「Baby Please Don't Go」以外は全て自作曲で構成。淡く繊細な「Today Is The Highway」をはじめ、多くのフォーク・グループが取り上げた「Come To My Bedside」、荒涼とした情景が目に見え「Dusty Box Car Wall」、抒情的な「Looking Glass」、優しい歌声とおだやかなサウンドが郷愁を誘う「Everything Ain't Been Said」等を収録。 3曲で彼の最初の妻であったデビー・グリーンがセカンド・ギターで参加していますが、それ以外は自身のギターとともに登場するハーモニカのみ。シンプルだからこそ聴く程に味わいが増え傑作です。	Side A 1. Today Is The Highway 2:22 2. Dusty Box Car Wall 2:22 3. Time For My Returning 3:19 4. Plains Of Nebrasky-o 3:29 5. Looking Glass 5:05 6. Never Coming Home 3:09	Side B 1. Come To My BedSide 3:56 2. Baby Please Don't Go 3:22 3. Everything Ain't Been Said 4:39 4. Bay Of Mexico 3:09 5. Song To J.C.B. 4:55 6. Bumblebee 3:20
ERIC ANDERSEN	バウト・チェンジズ & シングス		1966	フォーク	レコード	1966年リリース。エリック・アンダーソンのセカンドアルバム。アンダーソンは1943年2月14日ピッツバーグ生まれ。1960年代からシンガー、ソング・ライターとして活躍。1965年、「Today Is the Highway」でデビュー。その後、いくつかのレーベルを移籍しながらも多くの作品を発表。エリック・アンダーソンと言えばどうしても「Blue River」ばかりが露出してしまいがちだが、「夜明けのすみれ」や「サースティ・ブーツ」などの名曲を残したフォーク期の時代も忘れて欲しいと思う。繊細さという部分は既に感じるけれど、恐らくこの代表作に残された歌唱は多くの人々にとって新鮮に映るはず。若き日のエリックのラヴソングやR&R、C&W風味のトラックまで入った充実の一作。	Side A 1. Violets Of Dawn 3:47 2. The Girl I Love 3:00 3. That's Alright Mama 2:27 4. Thirsty Boots 5:50 5. The Hustler 4:00 6. Cross Your Mind 4:50	Side B 1. I Shall Go Unbounded 6:10 2. Champion At Keepin' Them Rolling 2:40 3. Hey Babe, Have You Been Cheatin' 3:04 4. Blind Fiddler 5:05 5. Close The Door Lightly When You Go 3:27 6. My Land Is A Good Land 2:56
ERIC ANDERSEN	ブルー・リヴァー		1972	フォーク	レコード	70年代初頭、シンガー・ソングライターが脚光を浴びた中でも傑作として名高いエリック・アンダーソンの8thアルバム。1972年にコロンビアに移籍して発売した名盤として名高い「ブルー・リヴァー」。ノバート・プットナムがプロデュースを担当したナッシュビル録音で、いぶし銀のバック・サウンドが淡々としながらも複雑な心象風景を描いていくエリックの歌を際立たせた名作に仕上げています。荘厳なタイトル曲や、爽やかな「リアリー・ラヴ・アット・オール」など、繊細なロマンティシズムを湛えた名曲揃い! 控え目な演奏も心に沁みる。	Side A 1. リアリー・ラヴ・アット・オール 2. パールズ・グッドタイム・ブルース (ジャニス・ジョプリンに捧げるブルース) 3. ウインド・アンド・サンド 4. フェイスフル 5. ブルー・リヴァー	Side B 1. フロレンティン 2. シーラ 3. モア・オープン・ザン・ノット 4. ラウンド・ザ・ベンド 5. おいでよ僕のベッドに 6. ホワイドント・ユー・ラヴ・ミー
ERIC CARMEN	サンライズ		1975	ロック	レコード	ラズベリーズ解散後のデビュー作にして最高傑作。ラフマニノフのピアノコンチェルトを織り交ぜた美しいバラード「ALL BY MYSELF」や、「恋にノータッチ」の邦題でヒットした「NEVER GONNA FALL IN LOVE AGAIN」、のちに俳優に転ずるSHAUN CASSIDY (DAVID CASSIDYの弟)によってカバーされた「THAT'S ROCK'N ROLL」(すてきなロックンロール)など名曲ぞろい。	Side A 1. サンライズ[5:22] 2. すてきなロックン・ロール[3:11] 3. 恋にノー・タッチ[3:46] 4. オール・バイ・マイセルフ[7:10] 5. 悲しきラスト・ナイト[2:57] Side B 1. 愛しのマイ・ガール[3:03] 2. 野望[3:04] 3. エヴリシング[1:59]	
ERIC CARMEN	雄々しき翼		1977	ロック	レコード	77年作、ソロ・ヴォーカリストとして大成初めたデビュー作がら2年ぶりにリリースされた5thアルバム「雄々しき翼」は、元ポップ・バンドのメンバーというイメージを覆すプロデュース・メイカーとして知られ、更なる音楽的高みを目指す意欲作となっています。当初はエルトン・ジョンの名プロデューサーであったガス・ダッチョンの指揮下で制作が進められていましたが、結局はセルフ・プロデュースとなりましたが、オーケストレーションを多用したサウンド・プロダクションはそのまま応用され、パワー・ポップでは留まらない普遍性を勝ち得ています。 後に名プロデューサーとしてHEARTやCHEAP TRICK等の再生屋とまで言われたリッチー・ズイトー、TOTOの名ドラマーであった故ジェフ・ポーカロ、BEACH BOYSのブルース・ジョンソン等、多くのゲストを迎えられ、ゴージャスなサウンドに華を添えています。彼のバラード・メイカーとしてのセンスを再認知させたアルバム・タイトル曲、ソウルフルなロック・ヴォーカリストである事も証明した「マロン・マン」、ウキウキ・ポップとしてのメロディも健在な「愛をくれたあの娘」	Side A 1. 雄々しき翼[4:27] 2. マラソン・マン[3:59] 3. つらい別れ[5:02] 4. 恋はかけひき[4:00]	Side B 1. 恋のすべて[4:20] 2. 愛をくれたあの娘[3:49] 3. 自己をみつめて[4:24] 4. ラン・アウェイ[8:03]
ERIC CARMEN	チェンジ・オブ・ハート		1978	ロック	レコード	1978年作、3枚目のアルバム。本作の「Desperate Fools」は、「流麗なストリングスが印象的なインストゥルメンタル・ナンバー。ラストの「Desperate Fools」と対になっており、タイトル名や郷愁のあるメロディがEaglesの73年の名曲「Desperado / ならず者」を思わせる。続く「Haven't We Come a Long Way / 二人のラヴ・ウェイ」は瑞々しさ溢れるポップ・ロックで、甘酸っぱく爽やかなメロディはEricの真骨頂。グルーヴ感抜群のJeff Porcaroのドラムスも心地よい。「Heaven Can Wait」の甘美なメロディと切なげな歌声は、Ericを代表する名バラード「All By Myself」のよう。この曲は78年の同名映画「Heaven Can Wait / 天国から来たチャンピオン」のために書かれたが、事情があって使われなかったらしい。タイトル曲「Change Of Heart」はファースト・シングルとなり、Billboard Hot 100チャートの19位に到達。バック・ヴォーカルを担当した女性シンガーのSamantha Sangが、同年のデビュー作「Emotion」でこの曲を歌っている。本作の中で一番AORらしい爽やかなナンバーだ。軽快な「Hey Deanie」は男性ポップ・シンガーのShaun Cassidyに贈られ、77年にCassidyの歌で全米7位のヒットを記録した(Cassidyのアルバム「Born Late」に収録)。続くビーチ・ボーイズ風の「Someday」は、Ericの77年のヒット曲「She Did It / 愛をくれたあの娘」(米23位)のB面にカップリングされていた曲である。 ラストでは、ピアノを静かに弾きながら、Ericが「Desperate Fools」を情感豊かに歌う。それを包むストリングスが美しく、スケールの大きな映画を見た後のような、しっとりした後味が残る。これもまた名曲だが、Eric Carmenの代表作として名を馳せる名盤だ。	Side A 1. デスベレート・フールズ・オーヴァチュア - 2:05 2. 二人のラヴ・ウェイ - 3:17 3. エンド・オブ・ザ・ワールド - 3:29 4. ヘヴン・キャン・ウェイト - 3:33	Side B 1. 愛をもとめて - 3:17 2. チェンジ・オブ・ハート - 3:30 3. ヘイ・ディニー - 4:26 4. サムデー - 2:52 5. デスベレート・フールズ - 3:07
Eric Dolphy & Booker Little	メモリアル・アルバム		1965年	ジャズ	レコード	Eric Dolphy & Booker Littleの歴史的なクインテットが、ファイブスポットで残した記録としては『At the Five Spot』のVol.1とVol.2が有名ですが、もう一枚、このアルバムもなかなかの内容。伝説的なファイブ・スポットのライブ盤の三作目。パーソンnelは、当然、Vol.1 & Vol.2と同じく、Eric Dolphy (fl, bc, as)、Booker Little (tp)、Mal Waldron (p)、Richard Davis (b)、Eddie Blackwell(ds)というのがメンバーで、1961年7月16日、ニューヨークのライブスポット「Five Spot」の録音。ドルフィーとリトルは、相変わらず、アブストラクトでアバンギャルド。限りなくフリーに近い、自由度の高いプロウを繰り広げている。スリル満点の疾走感。どこへどう展開するか判らない、限りなくフリーで自由度の高いアドリブ・フリーズ。この自由度の高い演奏は何度聴いても良い。このアルバムで目立っているのが、エド・ブラックウェル(Eddie Blackwell)のドラム。パッションバッシュンと浮いたような、腰の高いドラミングが、アブストラクトでアバンギャルドなドルフィーとリトルを煽りまくる。珍しく、長編のドラム・ソロも良い感じた。	Side A 1. ナンバー・エイト 16:00	Side B 1. ブッカーズ・ワルツ 14:15
ERIC JUSTIN KAZ	(ペーパーズ・リープ仕様) イフ・ユアー・ロンリー		1972	フォーク ロック	CD	1947年ニューヨーク、ブルックリン出身のシンガー・ソングライター。たぐい稀なる才能を持つソングライターエリック・カズの代表作。1972年に発表された「If You're Lonely」は彼のデビュー作にして、代表作であり、数多くのシンガー・ソングライターの名作が誕生した70年代でも屈指の名盤とされている。ソウルフルでクールなグルーヴ。そして感動のメロディー。洗練と素朴さのバランスが絶妙な歴史に残る名盤。 エリック・カズのルーズなヴォーカルスタイルは、楽曲の作風にも良くマッチしている。あの、デオタードがストリングスアレンジで参加している事や、JAZZ畑の参加が全体的にソウルティストを醸し出している。 また、エリックの曲は、ボニー・レイット、リンダ・ロンシュタット、アート・ガーファンクルなど多くのアーティストによって歌われ、彼らの心を捉えて離さなかった。	1クルーエル・ウインド 2イフ・ユアー・ロンリー 3テンペティション 4タイム・ハズ・カム 5トゥナイト、ザ・スカイズ・アバウト・トゥ・クライ	6クライ・ライク・ア・レインストーム 7マザー・アース 8ウェン・アイム・ゴーン 9サムデイ、マイ・ラヴ・メイ・グロウ 10クライスト、イツツ・マイティ・コール・ド・アウトサイド
ERNIE GRAHM	(ペーパーズ・リープ仕様) アニー・グレアム		1971	ロック(ス ワンプ・ ロック)	CD	1971年作盤。2001年にひっそりこの世を去ったアニー・グレアムがバグ・ボッツ・ジーンズを代表する2大グループ「プリンスリー・シュワーツ」と「ヘルプ・ユアセルフ」とのメンバーのサポートを得て完成させた唯一のソロ・アルバム。ボブ・ディラン、ザ・バンドといったアーティスト/グループの影響を滲ませたトラックから哀感を湛えたフォーク・タッチのナンバーまで聴くほどに味わいを増す8曲で構成。 ソロ作としては本作しか発表されていないのに関わらず、極めて日本で人気が高いのはザ・ダウン・ホーム・リズム・キングスと称してプリンスリー・シュワーツやヘルプ・ユアセルフのメンバーが全面参加しているためだろうか。プリンスリーからはプリンスリー・シュワーツ(g)、ニック・ロウ(b, vo)、イアン・ゴム(g, vo)、ポップ・アンドリュース(k)、ビリー・ランキン(dr)、ヘルプスからはマルコム・モーリー(g, p)、リチャード・トリース(g)、ケン・ホエリー(b)、デイヴ・チャールズ(dr, vo)、そして彼らに加えてクリス・カニンガム(vln)、ジョン・エイチャラー(vo)らが参加している。楽曲はボブ・ディランをメロディ・アスにしたかのようなフォーク・ロックでヘルプ・ユアセルフに近いが、より純度が高い。こういう音楽はいつも側に置いておきたい。そう誰もが思うであろう「間違いない」名作。バブ・ロックと言うよりも純粋にカントリー／フォーク・ロックの要素が強いとは思うが、そんなジャンル分けなど不要の素晴らしい楽曲がズラリと並んでいる。フランキー・ミラーの「Once In A Blue Moon」(こちらもバックはプリンスリー)を更に枯らしたような味わい深い作品である。 アルバムは本作発表後、ヘルプ・ユアセルフにメンバーとして参加。アルバム二枚を完成して、この世を去った。	1. セバスティアン 2. ソー・ロンリー 3. シー・フィヴァー 4. ザ・ガール・ザット・ターンド・ザ・レヴァー 5. フォー・ア・リトル・ホワイル	6. ブルース・トゥ・スノーウィー 7. ドント・ウオント・ミー・ラウンド・ユー 8. ベルファスト 9. ロメモ・アンド・ザ・ロンリー・ガール 10. オンリー・タイム・ウィル・テル
EUROPE	ザ・ファイナル・カウントダウン		1986年発表	ハード ロック& ヘヴィメタル	レコード	1986年発表。スウェーデン出身のロック・バンド「ヨーロッパ」の代表作となった3rdアルバム。80年代のポップ・メタルを代表する1枚として名高い大名盤です。北欧メタルという様から一気に世界的人気バンドとなった。メロディアス・ハード、ヘヴィメタルのイメージが本作により定着。全曲がシングル・カット可能なメロディの素晴らしさが目立ち、アルバム・タイトル曲でもあるヒット曲の「ザ・ファイナル・カウントダウン」の他、パワー・バラードの定番曲とも言える「Carrie」等、今聴いても胸ときめく1枚。	Side A 1. ザ・ファイナル・カウントダウン 2. ロック・ザ・ナイト 3. キャリー 4. ディンジャー・オン・ザ・トラック 5. ニンジャ	Side B 1. チェロキー 2. タイム・ハズ・カム 3. ハート・オブ・ストーン 4. オン・ザ・ルース 5. ラヴ・チェイサー
Eurythmics	イン・ザ・ガーデン		1981	ニュー ウェイブ	レコード	プロデューサーのコンニー・ブランクは80年代テクノを語る上で欠かせない重要なプロデューサー＝エンジニアであり、彼の人脈で、ロバート・ゲール(DAF)やホルガー・シューカイ、ヤキリーベツァイト(いずれもCAN)といったゲストが参加している。2作目以後の世界的ヒットと比べると、本作は地味な印象があるが、なかなか聴き応えがある。 物憂げなメロディの上に街頭のざわめき、そして不吉なサイレンの音が重なってゆく#1。高まりゆくメロディの頂点に、一吹きだけ、ホルガーによるホルンが重なる#2。チープなシンセのシーケンスや、レジスターの音(#3)、といった、おそらくはコンニーの手による実験的なエフェクトが、アニー・レノックスの実にシンプルな歌詞とあいまって、絶妙な効果を上げている。パグ尔斯の「ラジオスターの悲劇」と並び、ポピュラー音楽において音響や音色による表現が開花した時期の名盤であろう。曲自体はパンシース、更にその源流に位置するD.ボウイなんかの影響も感じられ、当時よくあったくもったギターサウンドに収まっています。アニーはソウルフルな力強い歌い方をまた取り入れておらず、静かな透明感のあるボーカルに徹してるのですが、結果的に彼女の声のこの程々な透明感が本作品を凡庸の「オロワニ」から脱せしめています。		
Eurythmics	スイート・ドリーム		1983	ニュー ウェイブ	レコード	1983年に発売されたユーリズミックスのセカンド・アルバム。「スイート・ドリームズ」はユーリズミックスを世間に知らしめた重要な位置づけを持つアルバムだ。当時のエレクトロポップ・グループの乱立する中、デイヴ・スチュワートの紡ぎだすエキセントリックな旋律とアン・レノックスの声域・声量ともに超弩級のボーカルがここに結実した。彼女のソウルフルなボーカルはまだ前面にフィーチャーされているというほどではないにしろ、収録曲のそこそこに彼等の魅力が垣間見え、彼等の時代の幕開けを感じさせる作品だ。高まった緊張感をメロディで切って落とす落差が心地よい#1「スウィート・ドリームズ」の出来はもちろんだが、うめき声による不思議な効果が面白い#1「ラヴ・イズ・ア・ストレンジャー」やサビの部分にアン・レノックスの魅力がきらめく、「スイート・ドリームズ」は全体に抑え気味の曲が多く、軽快なポップ・アルバムではないが、都会派アダルト指向とでもいうべき一枚だ。		

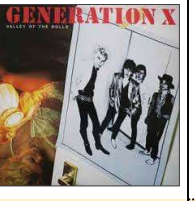
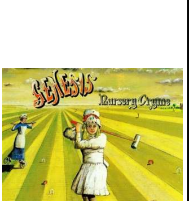
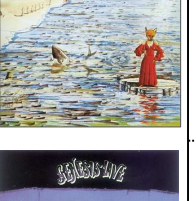
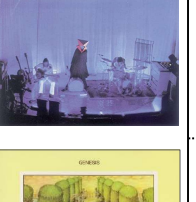
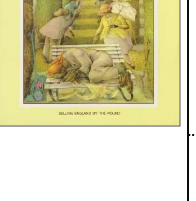
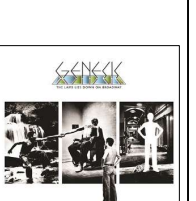
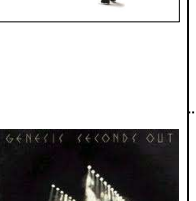
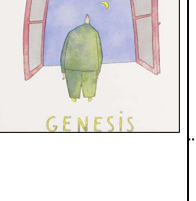
F	Eurythmics	タッチ		1983	ニューウェーブ	レコード	80sUKエレクトロポップ黄金期の1枚と呼ばれるに相応しい傑作セカンドアルバム。SWEET DREAMSはかり常に高評価されがちですが(ファーストは巨匠&今は亡きCONNY PLANKプロダクションの、セールス面では地味な結果となったアルバムTHE GARDEN)、サードの本作AQUAは音造りにさらなる実験的な要素を加え、サウンド面ではよりクリアな方向に磨きかけたSWEET DREAMS同様再評価されるべきエレポップ作品なんです。SWEET DREAMS と本作2作品で聴ける独特なドラムマシンの音がとにかく好きです。UK大ヒットナンバーHERE COMES THE RAIN AGAIN(永遠の名曲！！)、RIGHT BY YOUR SIDE、WHO'S THAT GIRLがハイライト的なナンバーですが、アルバム全曲スキップせずにじっくり聴いてほしいです。ラストを飾るPAINT A ROMOURなんて最高にクールなナンバーだと思えます。テクノの意志の下に造られたEUTYHMICSのアルバムは基本的に本作がSWEET DREAMSに続いてラスト+ANNIE LENOXの素晴らしい歌唱力(THERE MUST BE AN ANGELを聴いたウチの母までヒット当時大絶賛！？)が世界的に注目され始めるのも、より売れ筋ポップ路線に重点を置いて製作される本作以降の作品による様な気がします。取りあえずテクノポップマニアはフルエレクトロの時期の本作と前後のSWEET DREAMSは同じく、なんのなんのにもあって当然の裏には思えます。		
	EVERYTHING BUT THE GIRL	ラヴ・ノット・マネー		1985		レコード	トレイシー・ゾーンとベン・ワットのふたりからなるイギリスのエヴリシング・バット・ザ・ガール。ネオアコシーンに登場し、様々な変遷を経ることで都度変化を遂げながら進化していた素晴らしいバンドです。セカンドアルバムの本盤も良曲満載。“When All's Well”のこれぞネオアコと思える清々しさ。疾走感溢れる弾ける“Anytown”、エヴァーグリーンな良曲“Ballad Of The Times”、バンドの個性を感じられる音が癖になります。写真家ハンフリー・スベンダーの“Worktown People”の1枚を使用したジャケットも印象に残ります。	When All's Well3:00 Ugly Little Dreams2:54 Shoot Me Down4:12 Are You Trying To Be Funny3:16 Sean3:30	Ballad Of The Times3:27 Anytown3:26 This Love (Not For Sale)3:05 Trouble And Strife3:07 Angel5:35
	EXPLOITED	パンクス・ノット・デッド		1981年	パンク	レコード	Oiから進化した音だけに破壊力・疾走感がクラシカルに映ってしまう1作目(81年)。しかし彼らの掲げたスローガン及び武装の服飾はハード・コアのスタイル確立に多大なる貢献を残した。入門者にとってD.チャージの『WHY』が必聴盤。UKハードコアパンク御三家の他のバンド(ディスチャージ、G.B.H.)と比較すると、彼等が最もオリジナル・パンクの音を引き継いでいたことが良く分かる。ギターの音やリフ、スカスカな録音も初期パンクな味がある。遅れてきた世代にとっては、70'sUKパンクから80'sハードコアパンクがどのように生まれたかということを歴史的に検証できる一枚。『Punks Not Dead』と『I Believe In Anarchy』の2曲は、パンク/ハードコア好きの方には必聴最強ソング。	Side A 1. パンクス・ノット・デッド 2. マッキー・バップ 3. コップ・カーズ 4. フリー・フライト 5. アーミー・ライフ 6. ブラウン・トゥ・ビッツ 7. セックス・アンド・バイオレンス	Side B 1. S.P.G. 2. ロイアルティ 3. ドール・Q 4. エクスプロイデッド・バーミー・アーミー 5. リッパー 6. アウト・オブ・コントロール 7. サン・オブ・ア・コバー 8. アイ・ビリーヴ・イン・アナークー
	EXPLOITED	トゥループス・オブ・トゥモロー		1982年	パンク	レコード	1982年発表2ndアルバム。スピード感、楽曲の完成度、演奏、ジャケットの完璧さなど、全ハードコア・パンク・ファン必聴級のTHE EXPLOITED最高傑作。1stよりハードコア度は格段にアップした充実の楽曲群はVo/ワッティーの一切の迷いなき豪快な歌いっぷりと共に有無を言わさぬカッコよさである。特にEXPLOITED屈指の名曲「ALTERNATIVE」から、ワッティの赤いモホークで衝撃登場の初期UKハードコア・ドキュメンタリービデオ『UK/DK』の冒頭を飾った「USA」への流れは完璧である。	Side A 1. ジミー・ボイル 2. デイリー・ニュース 3. ディスオーダー 4. オルターナティブ 5. U.S.A. 6. レビスト 7. トゥループス・オブ・トゥモロー	Side B 1. U.K.82 2. シド・ヴィシャウス・ワズ・イノセント 3. ウォー 4. ゼイ・ウォント・ストップ 5. ソートラジック 6. ジャーム
	FABULOUS POODLES	理由なき亀裂		1978年	ニューウェーブ	レコード	78年リリースのセカンド。スパークスやデフ・スクールと並ぶアート・スクール系バンド。その「UK ニュー・ウェーブの先駆者」、スパークスやミルク&クッキーズといったモダン・ポップ・バンドのアルバムを手掛けたことで知られるマフ・ウィンウッドが6曲をプロデュース。ジャケットのアートワークはヒブノシスが担当。	Side A 1. Mirror Star 4:27 2. Work Shy 3:30 3. Chicago Boxcar 3:56 4. Oh Cheryl 3:25 5. Toy Town People 2:10	Side B 1. Mr. Mike 3:38 2. Roll Your Own 2:46 3. 'B' Movies 3:18 4. Tit Photographer Blues 2:48 5. Cherchez La Femme 3:38
	FACES	ファースト・ステップ(デジタルリマスター)		1970	ロック	CD	1965年スティーヴ・マリOTT(vo.g)が中心となって、前身となるスモール・フェイスズを結成。R&Bをベースにしたサウンドで人気を集めたが、69年にマリOTTが脱退。後任としてのちにローリング・ストーンズで活躍するロン・ウッド(g)と、シンガーのロッド・スチュワート(vo)を迎え、バンド名も“フェイスズ”に改める。70年に『ファースト・ステップ』でデビューし、ロンとロッドが持つている華やかなエンタテインメント性を軸としたグループにシフト。他のメンバーはロニー・レーン(b)、ケニー・ジョーンズ(ds)、イアン・マクレガン(key)。マリOTTの代りに同じくスタイリッシュでR&B好きであったロン・ウッドとロッド・スチュワートが入ってきてくれたことは、ロニー・レーンにとってどれほど嬉しかったことか。さらにウッドとスチュワートがカントリー、英国トラッドの趣味を持っていたことで、ロニー・レーンは自分の色をバンドで出せることになります。ボ・ディランの1. Wicked Messenger を除いて、メンバーそれぞれが持ち寄った曲を演奏しているながら、アルバムに不思議な統一感があります。5. Around The Plynth なんかは、カントリーの形をとっている割に、とてもプログレッシブな曲。(ツェッペリンもこういう曲をよくやります。)6. Flying も劇的な展開をもつ曲で、フェイスズの抜けるような楽しさとは違う風味を持っています。いろいろな意味でメンバーの創作意欲がうまく結実している作品。ジャケット写真でロン・ウッドが手にしているテキストに「ギターを弾くためのファースト・ステップ」の文字。ベースを無理やり71年発表のフェイスズのセカンドアルバム。1stは実に土臭くて洗いた作品だったが、本作ではその土臭さを残しつつも、フェイススらしさを感じさせる明解さを開花させている。1. の土埃が舞いそうなサウンドもポップなメロディを聞かせているために実に聞きやすい。ロン・ウッドのモコモコ鳴るギターも、イアンピアノやオルガンも実に味わい深いが、やはりロッドのヴォーカルがあってこそ光るものだと思う。2. はブルース風味のバラード。ロッドのソロにも通じる味わい深い歌唱を聞かせている。3. はトラッド的な美しいメロディを聞かせる趣やかな曲。ベダルス・ティールが洗い。4. はロニーが歌う曲であり、スライドが印象的だが、もうすでに後のスリム・チャンスを感じさせる仕上がりになっている。5. はポール・マッカートニーの有名曲のカヴァーのライヴ録音。ロッドのヴォーカルはかなり荒いが、さすがに聞かせてしまう。6. はいかにもフェイスス！って感じの弾けたロックンロール。9. はスライドのソロだ。本作と前作は次作と比べるとかなり洗った仕上がりであり、次作で思いつき弾けるのが不思議なくらい。でもど派手な彼らも魅力だが、本作くらい目の保養もまた良い。5. や8. のカヴァーあたりに次作への布石を感じる。	1. ウィキッド・メッセンジャー 2. デヴォーション 3. シェイク、シャダー 4. ストーン 5. アラウンド・ザ・プリンス 6. フライイング 7. バイナッブル & ザ・モンキー 8. ノーバディ・ノヴズ 9. ルッキング・アウト・ザ・ウィンドウ 10. 3つのボタン	
	FACES	ロング・プレイヤー		1971	ロック	レコード	フェイスズの代表作であり、アメリカではビルボードで6位[2]、イギリスでは2位を記録した。最大のヒット曲「ステイ・ウィズ・ミー」が収録されている。ジャケットのアートワークはロン・ウッドが手がけ、英米の初回盤には色々な写真や絵をコラージュした特大ポスターが特典として付属した。長いアルバムタイトルはリーダー、ロニー・レーンがつけた。	Side A 1. バッド・アンド・ルーイン 2. テル・エヴリワン 3. スウィート・レディ・メアリー 4. リッチモンド 5. 恋することのもしかし	Side B 1. リアル・グッド・タイム 2. オン・ザ・ビーチ 3. フィール・ソー・グッド 4. エルサレム
	FACES	馬の耳に念仏(デジタルリマスター)		1971	ロック	CD	フェイスズの代表作であり、アメリカではビルボードで6位[2]、イギリスでは2位を記録した。最大のヒット曲「ステイ・ウィズ・ミー」が収録されている。ジャケットのアートワークはロン・ウッドが手がけ、英米の初回盤には色々な写真や絵をコラージュした特大ポスターが特典として付属した。長いアルバムタイトルはリーダー、ロニー・レーンがつけた。	ジュディ・ファーム - “Miss Judy’s Farm” (スチュワート、ウッド) - 3:42 ユアー・ソー・ルード - “You’re So Rude” (レーン、マクレガン) - 3:46 ラヴ・リヴズ・ヒア - “Love Lives Here” (レーン、スチュワート、ウッド) - 3:09 ラスト・オーダー・プリーズ - “Last Orders Please” (レーン) - 2:38 ステイ・ウィズ・ミー - “Stay with Me” (スチュワート、ウッド) - 3:46 1. シリコン・グロウン. 03:06 2. いとしのシンディ. 02:37 3. フラッグス・アンド・バーナズ. 02:00 4. 俺のせいだ. 03:05 5. ボースタル・ボーイズ. 02:52 6. フライ・イン・ジョイントメント. 03:49 7. イフ・アイム・オン・ザ・レイト・サイド. 02:36 8. グラッド・アンド・ソーリー. 03:04 9. ジャスト・アナザー・ホンキー. 03:32 10. ウィ・ユア・ラ. 03:30	サイド2 デブリ - “Debris” (レーン) - 4:39 メンフィス、テネシー - “Memphis, Tennessee” (チャック・ベリー) - 5:31 ひどいもんだよ - “Too Bad” (スチュワート、ウッド) - 3:16 ザッツ・オール・ユー・ニード - “That’s All You Need” (スチュワート、ウッド) - 5:05
	FACES	ウー・ラ・ラ(デジタルリマスター)		1973	ロック	CD	フェイスズ名義の最後のスタジオアルバム。バンド重視するか、ロッド・スチュワートのバックバンドと化すかの選択を突きつけられていた時期の作品。ロッドがメディアに発した「あれは失敗作という声に失望したロニーレーンは脱退。残されたメンバーは、「あれはロニーレーンのアルバム」と評したといいます。フェイスズのアルバムはその乾いた音の感触が耳に心地いい。ヒット曲の Cindy Incidentally を含めた全曲に漂う寂しさや殺伐感をあけられんとした演奏で通り過ぎていったかのような、良い意味での“やつつけ仕事”な名作です。スワンプ、カントリー風味というのはこのバンドの特徴でもありましたが、ロン・ウッドの歌うタイトル曲はその典型であり、その他の曲ではそこから離れていくような新境地を見ているのも新鮮でした。フェイススならコレ。ロッドのヴォーカル曲は10曲中6曲(あとはロニー・レーン2曲、ロン・ウッド1曲、インスト1曲)	1. ウー・ラ・ラ. 03:30 2. 私はどこにいるの 3. イフ 4. テカメロン 5. ジャック・オ・ダイヤモンド 6. ポートフォリオ 7. チェルシーの朝 8. 太陽の影	
	FAIRPORT CONVENTION	(ペーパーズ・リーブ仕様)フェアポート・コンベンション		1968	フォークロック	CD	68年7月リリース。フェアポート・コンヴェンションのデビュー・アルバム。エレクトロポップ・ソングの代表的グループだが、この1stではまだ方向性が定まっておらず、散漫な印象がある。サンディ・デニーも参加しておらず、ヴォーカルはフェアポート脱退直後にクリムゾンの前身バンドへ経てレイダー・ホーンなるグループで素晴らしいアルバムを完成するジュディ・ダイブル、後にカントリー・ロックの路線で優れた作品をたくさん発表するイアン・マッシュューズなどを配していた。イアン・マッシュューズは当時はイアン・マクナルドという名前だったが、クリムゾンのメンバーとの混同を避けるためにマッシュューズに改名したのは有名な話。他はお馴染みのリチャード・トンブソン、サイモン・ニコル、アシュレイ・ハッチングス、マーティン・ランブル。1. はCSNなどを彷彿とさせるカントリー・ロックだが、コーラスはすでにフェアポートらしさを持っている。2. はジュディの美しいヴォーカルが聴かれるサイケ・ポップ調の楽曲。(ジョニ・ミッチェル作) 3. もカントリー調。4. はサイケ・ポップ調の佳曲だが、やはりCSNあたりの影響を感じさせる。5. はディランの曲。グループの元々の指向が良く表れた作品であり、後に表れるトラッド的な要素は皆無だが、優れたソングライターがたくさん在籍しているだけにオリジナル曲の出来も素晴らしく、一般のイメージは完全に払拭する内容だろうと思う。微妙なカントリー風味はあるものの、この時代のサイケ・ソングの良さをよく表している。	1. ウォーク・アワイル 2. ドクター・オブ・フィジック 3. ダーティ・リネン 4. スロウス 5. サマー・バトリック・スペンス 6. フラットバック・ケイパー 7. フア・ウィル&ザ・ジョリー・ハンクマン (ボーナス・トラック) 8. フラワーズ・オブ・ザ・フォレスト 9. ナウ・ビー・サンクフル (モノ) (ボーナス・トラック) 10. サニー・B. マッケンジー (ボーナス・トラック)	9. ざりがに 10. それは魔法 11. ワン・シュアー・シング 12. 挫折 以下、CDボーナストラック 13. スザンヌ 14. イフ・アイ・ハド・ア・リボン・パウ 15. モーニング・グローリー 16. レノ、ネヴァダ
	FAIRPORT CONVENTION	(ペーパーズ・リーブ仕様)フル・ハウス		1970	フォークロック	CD	70年発表の5作目。前作でサンディ・デニーとアシュレイ・ハッチングが脱退。デイヴ・ベグが新たに加わり、ずっとゲストとして参加していたデイヴ・スウォーブリックが正式にメンバーとして参加した。全7曲中4曲がトラッドになっており、彼らのイメージ通りの人気作である。初めて女性ヴォーカルがいなくなり、やや違った印象を受ける部分もあるものの、これはこれでなかなか魅力的な作品がある。一聴して分かるのは演奏面でのスウォーブリックの活躍だろう。本作の後、リチャード・トンブソンも脱退してしまうが、何となくスウォーブリックの存在の大きさが彼を弾き出してしまったようにも思ってしまうほどだ。全編に流れる彼の滑らかなフィドルは、前作までにあった独特のクセのようなものを緩和しており、作品を非常に聴きやすくしている。このグループにトラッドを取り入れさせたのも彼の前歴からによるものらしく、フェアポートの魅力は彼が担っているとも言えると思う。そんな彼が全面に出たこの作品。サンディ・デニーはいないけれども個人的には最高傑作として挙げたいと思う。リチャードによるハードなエレクトリック・ギターも魅力。味わい深い楽曲が揃っています。	1. ウォーク・アワイル 2. ドクター・オブ・フィジック 3. ダーティ・リネン 4. スロウス 5. サマー・バトリック・スペンス 6. フラットバック・ケイパー 7. フア・ウィル&ザ・ジョリー・ハンクマン (ボーナス・トラック) 8. フラワーズ・オブ・ザ・フォレスト 9. ナウ・ビー・サンクフル (モノ) (ボーナス・トラック) 10. サニー・B. マッケンジー (ボーナス・トラック)	
	FALCO	ロック・ミー・アマデウス		1985年		レコード	オーストリア、ウィーン出身ながら「ロックミー・アマデウス」がアメリカで大ヒットして注目された作品。Falcoの最高傑作にしてポップス、ロックの歴史に残る名作で『ロック・ミー・アマデウス』を筆頭に7曲のいい曲が揃っており全曲が最高。大ヒットしたシングル「ロックミー・アマデウス」は刺激的なヒップホップのビートに乗せてモータールの生涯をラップで歌い込んだ曲は、地元オーストリアをはじめカナダ、ニュージーランド、アイルランド、スウェーデン、ドイツの各国で1位を獲得した。内容は、あの独特の出だしから始まる「Rock Me Amadeus」をはじめとして、皮肉たっぷりの「America」、少女の誘拐を歌うシングルカットされた「Jeannie」や、遊園地テイストの同じくシングルカットされヒットした曲「Vienna Calling」、しみじみとラストを飾る「It's All Over Now Baby Blue」(最後のGosh!が笑わせてくれる)、『Tango The Night』、『Munich Girls』等、ハズレが無い。聞いて損はないと断言できる逸品だ。なお、四作目のアルバム、「Emotional」の『The Sound Of Musik』もオススメ。	Side A 1. Rock Me Amadeus 8:22 2. America 3:57 3. Tango The Night 2:27 4. Munich Girls 4:17 5. Jeanny 5:54	Side B 1. Vienna Calling 7:39 2. Manner Des Westens'Any Kind Of Land 4:03 3. Nothin' Sweeter Than Arabia 4:47 4. Macho Macho 4:57 5. It's All Over Now, Baby Blue 4:41

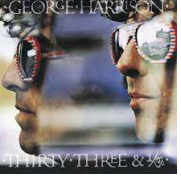
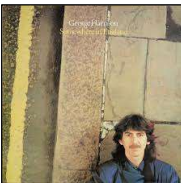
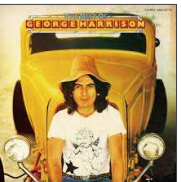
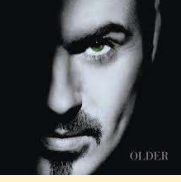
	FASTWAY	ファストウェイ		1983	ハード ロック& ヘヴィメ タル	レコー ド	83年作、N.W.O.B.H.Mの名盤の一つとして今も名高いワイド・ウェイのデビュー・アルバムです。MOTORHEADのエディ・ファスト・クラーク、UFOのビート・ウェイが合体した事で話題となり、新たな名バンドの誕生を大きく期待されましたが、結局ビート・ウェイはWAYSTED結成のため脱退、バンド名にだけその足跡を残します。それでもこのバンドは、元HUMBLE PIEのベテラン・ドラマー、ジェリー・シャーリー、そして若きロバート・プラントと呼ばれた新人ヴォーカリスト、デイヴ・キングの力量がエディの手堅いギターと対等に渡り合い、極上のハード・ロックを聴かせてくれます。現在ではアイリッシュ・パンク・バンド、Flogging Mollyで活躍しているデイヴのヴォーカルは、確かにツェッペリンを強く思わせますが、80年代的なキャッチーを適度に散りばめた爽快、豪快なナンバーはAC/DC的な匂いも感じさせます。(元々はシングル・リリースのみで、CD化に際しボーナス・トラックとして収録された「Far Far From Home」のみ、もうツェッペリン風となっています。)モーターヘッド色は皆無と言っていい程の正統派HRとなったのが意外でしたが、それが逆に新鮮でもありました。彼等が登場した時代は、まだ本家ツェッペリンへの喪失感 は強くあったものの、メタルがどんどん新しく洗練されていく過程にあったわけですから、この堂々たるオールド・ウェイヴ指向はなかなか勇気がいったと思われます。当時はツェッペリンの「Rock and Roll」にリフがソックリと言われていた「EASY LIVIN」は、個人的には歌メロがURIAH HEPPの72年発表の同名異曲、「EASY LIVIN」に似ている気がしてなりません。ジャケットのセンスの良さ、バンド名のカッコ良さ、リッチー・ブラックモアを美形化した様なエディのルックス、そしてデイヴの端正なヴァジュアルも見栄えが良く、そのサウンドの流さとの対比がまたユニー		
	FASTWAY	オール・クビク・アップ		1984	ハード ロック& ヘヴィメ タル	レコー ド	1984年発表の2ndアルバムで、内容のほうは、1st同様70年代HRスタイルのオールドブリティッシュハードをやっており、ツェッペリン等が好きな方にお勧めのアルバム。アルバム・タイトルにもなっているALL FIRED UP等、良い曲も収録されている。以降バンドはメロディアス・ハード・バンドとして知られる様になっていきます。		
	FEELIES	クレイジー・リズム		1980	ニュー ウェーブ	レコー ド	80年代のUSインディロックを語る上では欠かせない名ギター・ポップ・バンド、ザ・フィーリーズのファースト・アルバム。ニュージャージー出身。グレン・マーサーを中心として1976年にバンド結成。当時はR.E.M.と並ぶ人気を獲得していた。また、ベル・ウブの初期ドラマーにして、ラウンジ・リザーズ、ゴールデン・パロミノスのメンバーでもあった「アントン・フィア」在籍時の80年の1stアルバムがこれ。テレビジョンのような淡々としていながらも内面では静かに燃えている感覚を1曲目を聴いたときに受けましたが、2曲目、3曲目と進んでいくうちにサイケデリック色、アート色が強まっていき、ラストのストーンスのカヴァーまでのめり込んで聴いてしまいました。繊細に絡み合う2本のギター、力強く独特の場を生み出すドラミングも聴き所です。フィーリーズは4枚のアルバム『クレイジー・リズム』(1980)『ザ・グッド・アース』(1986)『オンリー・ライフ』(1988)『タムス・フォー・ア・ウィットネス』(1991)をリリース後、1992年に解散。2008年に再結成し、ライブ活動を開始。2011年には約20年ぶりとなる5枚目のアルバム『ヒア・ビフォア』をリリースした。	Side A 1. The Boy With the Perpetual Nervousness 2. Fa Ce-La 3. Loveless Love 4. Forces At Work	Side B 1. Original Love 2. Everybody's Got Something to Hide (Except Me and My Monkey) 3. Moscow Nights 4. Raised Eyebrows 5. Crazy Rhythms
	FINE YOUNG CANNIBALS	ファイン・ヤング・カーニバルズ		1984	ポップス	レコー ド			
	FIRM	ファーム		1984	ハード ロック& ヘヴィメ タル	レコー ド	84年、ザ・ハミードリフパーズという超ビッグ・プロジェクトにより、ツェッペリン伝説がまた更に動き出したかの様に思われましたが、ロバート・プラントはマイ・ペースを維持し、時代と向き合うかの様に果敢にハード・ロックのモダンな解釈を続けていました。一方のジミー・ペイジは85年、なんとロック界の名ヴォーカリスト、ポール・ロジャースと合体し、この二大巨頭によるザ・ファームを結成しました。ベースには後にBLUE MURDERへの参加で注目されるトニー・フランクリン、ドラムにはやはり後にAC/DCへの参加で名を上げるクリス・スレイドと、質実剛健と言えるリズム隊をバックにしています。ツェッペリン崩壊後、サントラとしての「ロサンゼルス」を発表したものの、その名声を自ら壊す様な中途半端な出来に不満を覚えていたロック・ファンは、本作により一時的に溜飲が下がる思いをしたのでした。この人独自の扇情的なリフが所々見られるのですが、基本はポール・ロジャース色が強いと思われ、古典的ででありながら愛すべきブリティッシュ・ハードを展開してくれています。そのロジャース作の「Radioactive」は、NEW WAVE的な味わいを持つユニークなナンバーとなり、シングル・ヒットとなった事により、このOLD WAVEの代表格である二人がシーンを再び沸かす事に成功します。ライチャス・ブラザーズの64年の大ヒット曲、「ふられた気持ち YOU'VE LOST THAT LOVIN' FEELING」のカヴァーや、BAD COMPANY再燃といったバラード、「MONEY CAN'T BUY」も、ロジャースの真骨頂といったところでしょう。個人的にはオープニングの「CLOSER」でのペイジ特有のリフと、ファンキーなノリを聴くと、どうしてもロバート・プラントのヴォーカルを思い出してしまうのですが、こうしたツェッペリン伝説がかなり意識的に探っているのが少しもどかしい気もします。		
	FLEETWOOD MAC	(ペーパーズ・リーブ仕様) ピーター・グリーンズ・フリートウッド・マック		1968	ハード ロック& ヘヴィメ タル	CD	68年発表の1st、チキン・シャック、サヴォイ・ブラウンと共に3大英国ブルース・バンドの一つとして語られるマックのデビュー作。英国ではチャートの4位まで登った。メンバーはピーター・グリーン(vo, g)、ジェレミー・スペンサー(vo, g)、ジョン・マクヴィー(b)、ミック・フリートウッド(dr)の4人で3、のみ最初期のメンバー、ポップ・ランニングがベースを担当しているピーター、ジョン、ミック3人がジョン・メイオールのグループの出身である。チューニングから始まる生々しくも荒々しい演奏が御機嫌であり、曲が始まる所クソクくるほどだ。どっしりとしたリズム隊と自由奔放に唸りまくるギターの絡みは後のマックからは想像も付かないまた別の次元の素晴らしい演奏であり、ヴォーカルもハーブも唸ってしまほうど深い。ブルース・ロックの代表的な一枚として絶対に押さえるべき名盤だと思う。輪郭のハッキリとしたクリアな録音もこの時代のものとしてはかなりのクオリティである。蛇足だがジャケットも秀逸。再発盤ではリハーサル音源を追加したものもある。	1My Heart Beat Like a Hammer 2Merry Go Round 3Long Grey Mare 4Hellhound on My Trail 5Shake Your Moneymaker 6Looking for Somebody 7No Place to Go 8My Baby's Good to Me 9I Loved Another Woman 10Cold Black Night 11The World Keep on Turning 12Got ta Move...	
	FLEETWOOD MAC	英吉利の薔薇		1969	ハード ロック	レコー ド		Side A 1. Black Magic Woman 2:48 2. I've Lost My Baby 4:17 3. One Sunny Day 3:12 4. Without You 4:40 5. Coming Home 2:40 6. Albatross 3:09	Side B 1. Stop Messin' Round 2:22 2. Jigsaw Puzzle Blues 1:36 3. Doctor Brown 3:46 4. Something In Side Of Me 3:57 5. Evenin' Boogie 2:42 6. Love That Burns
	FLEETWOOD MAC	神秘の扉		1973年10月15日	ハード ロック	レコー ド	前作発表後、デイヴ・ウォーカー(vo)とスティーヴ・ナイ(k)が一斉きりで脱退。音楽性を整理して、またヤードバーズの出世作の11、を取り上げるなど売り上げを意識した作品作りが行なわれている。1. はブルース・ロックをベースにした曲で、クラブ風のリード・ギターも聞き物だが、既に太ヒット時代のポップ性も感じられる仕上がりを見せており、楽曲としての完成度は貴様すら感じさせるものがある。2. はクリスティンによる幻想的なピアノによるイントロを加えつつも一気にカントリー風味も感じさせるスピーディーなロックンロールとなる。こちらもドゥービーズあたりに通じるヒット性の高い仕上がりを見せており、良い意味での売れ線を意識した楽曲と言えると思う。3. は骨太なベースとピアノ、スライド・ギターを導入したポップ・チューン。土臭さは残るものの、キャッチーなメロディはリンジー＆スティーヴィー参加後の作品と比べても全く見劣りはしない。佳曲の多いクリスティンの曲の中でもベストのものの一つであらう。5. はリズム・ボックスを導入したサンバ。楽曲はどれもかなり練られた印象を受け、シングル・ヒットを狙ったかのようなキャッチーなものが多い。本作はリンジー＆スティーヴィー時代以前としては「枯れ木」の次に売れた作品とのことだが、そうした事実がそのまま裏付けられる隠れた名作である。本作発表後、ポップ・ウェストンが脱退する。ブルース・バンドからライセンスなアメリカン・テイスト・バンドになってしまったフリートウッド・マックですが、ここに至る過渡期にポップ・ウェルチなる人物が絡みまして、実にユニークなアルバムを数枚出しております。アルバム中でも「シティ」と「サム・バディ」がお気に入りです。特に「サム・バディ」のバック・コーラスがなんともいえません。	Side A 1. エメラルドの瞳 2. ビリーヴ・ミー 3. ジャスト・クレイジー・ラヴ 4. ヒップ・タイズ 5. フォーエヴァー 6. キープ・オン・ゴーイング	Side B 1. ザ・シティ 2. マイルス・アウェイ 3. サム・バディ 4. 感じるままに 5. フォー・ユア・ラヴ 6. ホワイ
	FLEETWOOD MAC	クリスタルの謎		1974年9月13日	ハード ロック	レコー ド	グループにとって、フロントマンであったポップ・ウェルチ在籍の最後のアルバム。全11曲中、ポップ・ウェルチの作品が7曲を占める。このアルバムは初めてビルボードのトップ40入りを果たした。過渡期のアルバムではありますが、ポップ・ウェルチ独特の(ちょっと変わった)ポップセンスが炸裂した名盤。全体を通すと、ブルース、R&B、カントリー、フュージョンなどバラエティ豊かな音が聴ける。ウェルチお得意のポップ路線の曲も良い。本当のロック好きは「クリスタルの謎」に行き着くはず。silver heelsはポップ・ウェルチの隠れた名曲。	Side A 1. ガラスのヒーロー (Heroes Are Hard to Find) - 3:35 2. カミング・ホーム- 3:52 3. エンジェル - 3:55 4. パーミューダ・トライアングル - 4:08 5. リトル・ビット・クローサー (Come a Little Bit Closer) - 4:45	Side B 1. シーズ・チェンジング・ミー - 2:58 2. バッド・ルーザー - 3:25 3. シルヴァー・ヒーローズ - 3:25 4. 私を見つめて (Prove Your Love) - 3:57 5. 魔法使い (Born Enchanter) - 2:54 6. 秘密の隠れ場所 (Safe Harbour) - 2:32
	FLEETWOOD MAC	ファンタスティック・マック		1975年7月11日	ロック	レコー ド	リンジー・バツギンガムとスティーヴィー・ニックス加入で黄金期に突入したブリーンドワッド・マジック・クリスティン・マクヴィーと共に強力ウーマン・パワーで、センシティブなフォーク・ロックを聞かせ、全米第1位を獲得の1975年作品。スマッシュ・ヒットの「マンディ・モーニング」「リアノン」他、全11曲収録。この当時、マックのメンバーは4人。キャリアはそれなりにあったとしても、コアなブルースに向かおうとする「若さ」が最大の魅力。長いマックのキャリアのオープニングを飾るのは、意外にもジェレミー・スペンサーのMy Heart Beat Like a Hammer。もうエルモア・ジェイムスのギターと、わざと野蠻な歌い方をしているところが、微笑ましくもカッコよい。マックは不思議なグループで、リズム・セクションの二人の名前がバンド名のわりには、(交代する)フロントのギタリスト、ボーカリストの顔でグループの性格をコロコロ変化させていきます。貫いているのは、抑制されたりリズムの味。実に手堅い仕事で、どんなタイプのギタリストが来ても盤石。ピーター・グリーン、ギターと東がにの作品の最上にもふとこらだ	Side A 1. マンディ・モーニング 2. ウォーム・ウェイズ 3. ブルー・レター 4. リアノン 5. オーヴァー・マイ・ヘッド 6. クリスタル	Side B 1. セイ・ユー・ラヴ・ミー 2. ランドスライド 3. ワールド・ターニング 4. シュガー・ダディ 5. アイム・ソー・アフレイド
	FLEETWOOD MAC	噂		1977	ロック	レコー ド	1967年にイギリスロンドンで結成。当初はブリティッシュ・ブルースロックとしてスタートし、1970年代半ばにソフトロック路線に転換して成功を収めた。「噂」は13枚目のスタジオ・アルバム。当時のライン・ナップで録音した2作目。全米1位を獲得し年間でも1位となり、全英でも最高1位、各国でも1位を記録し累計4,000万枚以上の売上を記録し、現在2020年10月に約42年ぶりに全米で再び7位までチャートインしている驚異のアルバム。1978年にグラミー賞の最優秀アルバム賞を獲得した。	Side A 1. セカンド・バンド・ニュース (Lindsey Buckingham) - 2:43 2. ドリームス (Stevie Nicks) - 4:14 3. もう帰らない (Buckingham) - 2:14 4. ドント・ストップ (Christine McVie) - 3:11 5. オウン・ウェイ - Go Your Own Way (Buckingham) - 3:38	Side B 1. ザ・チェイン (Nicks, Buckingham, C. McVie, John McVie, Mick Fleetwood) - 4:28 2. ユー・メイク・ラヴィング・ファン (C. McVie) - 3:31 3. アイ・ドント・ウオント・トゥ・ノウ (Nicks) - 3:11 4. オー・ダディ (C. McVie) - 3:54 5. ゴールド・ダスト・ウーマン
	FLYING LIZARDS	ミュージック・ファクトリー		1980	ニュー ウェーブ	レコー ド	80年発表の1st、フライング・リザーズことデヴィッド・カンギガムのデビュー作。パンク/ニュー・ウェイヴ時代のキワモノの一つとも言える作品だが、いわゆる実験音楽的なものではなく、セカンド・シングルの6、は全米34位、全英5位のヒットを記録するなどロック/ポップスの範疇に入るものである。ではどこがキワモノかというと演奏経験のほとんどない素人が、空き缶やダンボールを叩いたりしたものを多重録音したりして有名曲のカヴァーを制作したり、テープの早回しにバック・トラックに素人の女性ヴォーカルを乗せてみたりとプロならやり得ない手法をあえて(何も考えずに)実践している点だと思う。発想としてはディーヴォあたりにも通じる部分もあるのだが、こちらは電子楽器をほとんど使っておらず、ガラタがメインになっているため全く別物にしか聞こえない。アイデア中心でかなり稚拙な演奏はさすがにチープだが、その手作り的な質感は他の多くの作品の中でも新鮮だと思う。たった6ポンドで作ったという6、は金もない、技術もない、メンバーもいない人物が発想だけで作り上げた楽しい一曲である。技術至上主義の対極にある作品だけにある意味で最もパンクのとも言える。曲はポップなものが多クダブ的な曲もあり、とにかくインパクトが凄まじい。	Side A 1. マネー 2. ハー・ストーリー 3. TV 4. ロシア 5. サマータイム・ブルース	Side B 1. マネー 2. ザ・フラッド 3. トラブル 4. イベント・デュアリング・フラッド 5. ザ・ウィンドウ
	FLYING LIZARDS	ミュージック・ファクトリー		1980	ニュー ウェーブ	CD	以下、CDボーナス・トラック 11. ール・ギターズ(ボーナス・トラック) 12. チューブ(ボーナス・トラック) 13. マネー(シングル・エディット)		

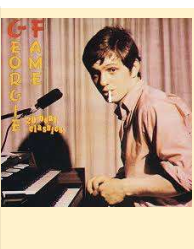
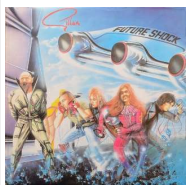
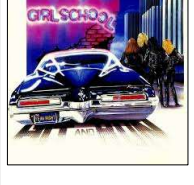
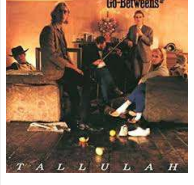
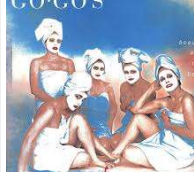
	FOCUS	(ペーパース リーブ仕様) ムーヴィング・ ウェイヴズ		1971	プログレ	CD	77年発表の2nd。前作発表後、クニ松隊の解散などを経て再編された新世代フォークの第一弾。元々はブルース系のレーベルであった英国のブルー・ホライズンと契約してマイク・ヴァーノンのプロデュースで本作を制作／発表。本作からいきなりワールド・ワイドな活動を展開することとなる。もっともグループは本作発表後、ハリドールに移籍してそこから本作を再発。全英2位、全米8位の大ヒットを記録するが、大成功の影には演奏／楽曲の質の高さ以上のしたたかさという実力があつたことも付け加えたい。アルバムはアナログ時代の片面全てを使った23分超の大作6. と小品5曲を収録した前半という構成になっており、正にプログレ仕様といった作品と言える。 1.は弾力のあるヘヴィなギターが引く張るハード・ロック・チューンで、彼等の特徴でもあるヨーデルを取り入れたヴォーカルも印象的。路線としてはユーライア・ヒープにかなり近い曲だが、先のヴォーカルの珍妙な味わいによって個性も強く出ている。新加入のドラムスは主張も強いのかミックスも生々しく音も全面に出ており、曲に躍動感を与えている。何にしてもこの曲は彼等の代表曲の一つであることは間違いない楽曲そのものは元より、構成を含めて完成度は極めて高い。アイディアを次から次へと放り込んで練り込んだかのような展開は聞き物である。2.はアコギとメロトロンを中心としたインストのプログレ・バラード。転調などを含めてクリムゾンの影響を強く感じるが、トリルを含めた美しいギターのプレイには強い個性を感じる。3.もフルートの旋律にはクリムゾンの影響を強く感じるが、ガッツリとしたロックよりのドラムスが土台をしつかり支え重さを加えている。何にしてもフルートの和声が美しい曲で、一聴で人の心を掴むであろう佳曲である。4. はエンドを思わせるクラシカルで美しいヴォーカル曲。6. にはEL&Pの影も散らつく。 前作にあつたくぐもった雰囲気は一掃されメジャーな雰囲気が一気に強まっている。弱かった72年作、フリティッシュがハード史において見逃す事のできないハード・ロックのバンド、フォガットの記念すべきデビュー・アルバムです。60年代から活躍する名バンド、サヴォイ・ブラウンのメンバーだったデイヴ・ベヴァレット、ロジャー・アール、トニー・スティーヴンズが、FREEに参加する前にポール・コプフとサイモン・カークが在籍していたBLACK CAT BONESのギタリストであったロッド・プライスを加えて結成されたのが、このフォガットでした。ツイン・リードによる単純明快なリフの応酬と、ブルース臭さを感じさせないハード・ロック感覚は、同時代の英国ハード勢の中でも異色と言える存在だっと思います。バンドはトッド・ラングレンが所属していた事で有名なアメリカのレーベル、BEARSVILEからデビューを果たします。豪快なドライヴィング感覚と、キャッチーなメロディのせいもあり、彼等はアメリカでも人気を得る事に成功します。プロデューサーはバブ・ロック界のボス、デイヴ・エドモンズ。この人はパワー・ポップの軽快なロックンロールを得意としている職人ですが、本作ではフォガットのライブ感覚溢れるバンド・サウンドを見事にパッケージしていると思います。マディ・ウォーターズの「I JUST WANT TO MAKE TO YOU」、チャック・ベリーの「MAYBELLINE」のカヴァーが、見事に70年代ハード・ロックとして成立していて、陽気なAC/DCとでも言えそうな痛快さがすでに確立されています。ブギ、ブルースといったキーワードで語られがちなバンドですが、実はかなり間口が広い人達で、「SARAH LEE」では大らかなアメリカン・ハードのセンス、「A HOLE TO HIDE IN」ではガッツ溢れる哀愁なハード・ロック。I.G.O.I.T.A. GET.T.O. KNOW.YOU.L.L.U.では哀愁な泣き節も披露してくれています。フォガットのサードアルバム、1974年発表です！サヴォイ・ブラウンのメンバーがごっそり脱退して作られたフォガットがポップでロックなハード・ブギー・バンドとしての音楽性をはっきり確立したのは、このアルバムから。1曲目の「Train Kept a Rollin'」(このアルバムだと「Honey Hush」というタイトルになってます)のアレンジが、ヤードバースやオリジナルのビッグ・ジョー・ターナーとまるで違って、えらくハード！でもどこかポップ。つまり、フォガットな感じですね。それは、バディ・ホリーの「That'll Be The Day」も同じで、ギターがドライブしまくってロック、でも曲はポップ。グランド・ファンクがやった「Locomotion」みたいなもんですね。個人的に大好きなのが、超傑作アルバム『Foghat Live』にも入っていた「Home in My Hand」。スタジオ録音はホーンセクションが入ってさらにポップ、でもギターはギョインギョインいっててしかもむちゃくちゃうまいので、えらくロックでもある所がたまりません。フォガットは、リード・ギターにブラックキャット・ボーンズのロッド・プライスを連れてきたところが成功の原因だったんじゃないでしょうか。ロッド・プライスが図抜けてうまく、しかもロックなんですよ。同時期のロックでポップなバンドというと、AC/DCとかエアロスミスとか色々いますが、フォガットはさすがスタジオミュージシャンの集団だけあって演奏のレベルが違いました。また、イギリスのバンドだけあってアメリカのロックバンドの雑さやいなさとは無縁で、洗練されています。曲もいいし、ベアズヴィルというローカル・レーベルと契約しなければもっと売れていたバンドなのかも。		
	FOGAHT	フォガット		1972	ハード ロック	レコー ド	72年作、フリティッシュがハード史において見逃す事のできないハード・ロックのバンド、フォガットの記念すべきデビュー・アルバムです。60年代から活躍する名バンド、サヴォイ・ブラウンのメンバーだったデイヴ・ベヴァレット、ロジャー・アール、トニー・スティーヴンズが、FREEに参加する前にポール・コプフとサイモン・カークが在籍していたBLACK CAT BONESのギタリストであったロッド・プライスを加えて結成されたのが、このフォガットでした。ツイン・リードによる単純明快なリフの応酬と、ブルース臭さを感じさせないハード・ロック感覚は、同時代の英国ハード勢の中でも異色と言える存在だっと思います。バンドはトッド・ラングレンが所属していた事で有名なアメリカのレーベル、BEARSVILEからデビューを果たします。豪快なドライヴィング感覚と、キャッチーなメロディのせいもあり、彼等はアメリカでも人気を得る事に成功します。プロデューサーはバブ・ロック界のボス、デイヴ・エドモンズ。この人はパワー・ポップの軽快なロックンロールを得意としている職人ですが、本作ではフォガットのライブ感覚溢れるバンド・サウンドを見事にパッケージしていると思います。マディ・ウォーターズの「I JUST WANT TO MAKE TO YOU」、チャック・ベリーの「MAYBELLINE」のカヴァーが、見事に70年代ハード・ロックとして成立していて、陽気なAC/DCとでも言えそうな痛快さがすでに確立されています。ブギ、ブルースといったキーワードで語られがちなバンドですが、実はかなり間口が広い人達で、「SARAH LEE」では大らかなアメリカン・ハードのセンス、「A HOLE TO HIDE IN」ではガッツ溢れる哀愁なハード・ロック。I.G.O.I.T.A. GET.T.O. KNOW.YOU.L.L.U.では哀愁な泣き節も披露してくれています。フォガットのサードアルバム、1974年発表です！サヴォイ・ブラウンのメンバーがごっそり脱退して作られたフォガットがポップでロックなハード・ブギー・バンドとしての音楽性をはっきり確立したのは、このアルバムから。1曲目の「Train Kept a Rollin'」(このアルバムだと「Honey Hush」というタイトルになってます)のアレンジが、ヤードバースやオリジナルのビッグ・ジョー・ターナーとまるで違って、えらくハード！でもどこかポップ。つまり、フォガットな感じですね。それは、バディ・ホリーの「That'll Be The Day」も同じで、ギターがドライブしまくってロック、でも曲はポップ。グランド・ファンクがやった「Locomotion」みたいなもんですね。個人的に大好きなのが、超傑作アルバム『Foghat Live』にも入っていた「Home in My Hand」。スタジオ録音はホーンセクションが入ってさらにポップ、でもギターはギョインギョインいっててしかもむちゃくちゃうまいので、えらくロックでもある所がたまりません。フォガットは、リード・ギターにブラックキャット・ボーンズのロッド・プライスを連れてきたところが成功の原因だったんじゃないでしょうか。ロッド・プライスが図抜けてうまく、しかもロックなんですよ。同時期のロックでポップなバンドというと、AC/DCとかエアロスミスとか色々いますが、フォガットはさすがスタジオミュージシャンの集団だけあって演奏のレベルが違いました。また、イギリスのバンドだけあってアメリカのロックバンドの雑さやいなさとは無縁で、洗練されています。曲もいいし、ベアズヴィルというローカル・レーベルと契約しなければもっと売れていたバンドなのかも。	Side A 1. 君を愛したい I Just Want To Make Love To You 4:18 2. トラブル・トラブル Trouble, Trouble 3:16 3. リーヴイン'・アゲイン Leavin' Again (Again) 3:34 4. 迷声の殿堂 Fool's Hall Of Fame 2:57 5. サラ・リー Sarah Lee 4:33	Side B 1. ハイウェイ Highway (Killing Me) 3:47 2. メイビリーン Maybelline 3:32 3. ホール・トゥ・ハイド・イン A Hole To Hide In 4:06 4. ゴッタ・ゲット・トゥ・ノウ・ユー Gotta Get To Know You 7:42
	FOGAHT	電撃のフォガット		1974	ハード ロック	レコー ド	74年作、フォガットの通算5作目にして彼等最大のヒット作となった1枚です。ステイタス・クォーと並び、英国の2大ハード・ブギー・バンドとして知られていますが、フォガットはアメリカで絶大な人気を誇る事からもカラッととしたハード・ロック感覚が個性となっていて、本作ではその醍醐味を余すところ無く発揮しています。 ウィリー・ディクスン作、プレスリーやイアン・ギランやロジャー・グローヴァーが在籍していたエピソード・シックスがカヴァーした事でも有名なブルース・クラシックの「MY BABE」、デルタ・ブルースの父、ロバート・ジョンソンの「TERRAPLANE BLUES」のカヴァーも、湿り気を感じさせずにカラッととしたハード・ロックにしてしまうセンスこそがアメリカで受けたのだと思います。シングル・ヒットした「SLOW RIDE」や、アルバム・タイトル曲等は、アメリカン・ハードとも言えそうな陽気さが心地良く、ツイン・リードの豪快さに思わず体が反応してしまいます。 ラスト・ナンバーの「TAKE IT OR LEAVE IT」では、洗練されたメロウなセンスも披露、これも初期ドゥービー・ブラザーズやサザン・ロック系のバンドが演じていてもおかしくないものとなっています。 ジャケットのすっとぼけた雰囲気はいかにも英国的ですが、70年代アメリカン・ハードとしても聴けてしまう案に爽快な1枚です。	Side A 1. Honey Hush 4:19 2. Step OutSide 6:18 3. Golden Arrow 4:03 4. Home In My Hand 5:09	Side B 1. ild Cherry 5:27 2. That'll Be The Day 2:33 3. Fly By Night 4:47 4. Nothin' I Won't Do 6:54
	FOGAHT	シティ・ロックン・ ロール		1975	ハード ロック	レコー ド	75年作、フォガットの通算5作目にして彼等最大のヒット作となった1枚です。ステイタス・クォーと並び、英国の2大ハード・ブギー・バンドとして知られていますが、フォガットはアメリカで絶大な人気を誇る事からもカラッととしたハード・ロック感覚が個性となっていて、本作ではその醍醐味を余すところ無く発揮しています。 ウィリー・ディクスン作、プレスリーやイアン・ギランやロジャー・グローヴァーが在籍していたエピソード・シックスがカヴァーした事でも有名なブルース・クラシックの「MY BABE」、デルタ・ブルースの父、ロバート・ジョンソンの「TERRAPLANE BLUES」のカヴァーも、湿り気を感じさせずにカラッととしたハード・ロックにしてしまうセンスこそがアメリカで受けたのだと思います。シングル・ヒットした「SLOW RIDE」や、アルバム・タイトル曲等は、アメリカン・ハードとも言えそうな陽気さが心地良く、ツイン・リードの豪快さに思わず体が反応してしまいます。 ラスト・ナンバーの「TAKE IT OR LEAVE IT」では、洗練されたメロウなセンスも披露、これも初期ドゥービー・ブラザーズやサザン・ロック系のバンドが演じていてもおかしくないものとなっています。 ジャケットのすっとぼけた雰囲気はいかにも英国的ですが、70年代アメリカン・ハードとしても聴けてしまう案に爽快な1枚です。	Side A 1. シティ・ロックン・ロール 4:32 2. マイ・ベイブ 4:36 3. スロー・ライド 8:13	Side B 1. テラプレーン・ブルース 5:44 2. セイブ・ユア・ラヴィング 3:31 3. ドラヴ・ミー・ホーム 3:54 4. テイク・イット・オア・リーヴ・イット 4:59
	FOGAHT			1977	ハード ロック	レコー ド	Foghatは、イギリスのグループながらアメリカンテイストが強く、ブギーやブルース色の強い3人組とは思えないハードなロックを聴かせてくれたグループ。このアルバムは77年の彼らの7枚目のアルバムにあたる初のライブ盤。曲数は6曲と少ないですが、それまでのヒット、メジャーな曲が並んでおり、ベスト盤的なラインアップになっています。ロックのライブ盤としては迫力、パワーとも有数の名盤。メンバーは、ロンサムデヴィヴァレット(Vo/G)・ロッドプライス(G)・ロジャーアール(Dr)・クレイグマックレイガー(B)・・・今は亡き三人のギターの鳴りは最高。	Side A 1. フール・フォー・ザ・シティ 5:29 2. ホーム・イン・マイ・ハンド 4:54 3. アイ・ジャスト・ウォント・トゥ・メイクラヴ・トゥ・ユー 8:35	Side B 1. ロード・フィーヴァー 5:27 2. ハニー・ハッシュ 5:36 3. スロウ・ライド 8:49
	FOOLS	ゾールド・アウト		1980	ニュー ウェーブ	レコー ド	ストン出身の4人組フルーズ1980年作。彼らを一躍有名にしたのは何と書いてもトーキングヘッズ「サイコ・キラー」をパロディ化した「サイコ・チキン」。元々アルバムのおまけとして付いていたレコードの収録曲だったためUS盤には入っていなかったが、日本盤ではヒットに合わせて追加収録されている。	Side A 1. Night Out 3:04 2. Fine With Me 3:18 3. Don't Tell Me 3:36 4. Sold Out 3:22 5. Sad Story 4:26 6. Psycho Chicken (Beeped) 3:18	Side B 1. Mutual Of Omaha3:45 2. It's A Night For Beautiful Girls3:54 3. Spent The Rent2:46 4. Easy For You 3:35 5. I Won't Grow Up 2:06
	FOREIGNER	栄光の旅立ち		1977	ハード ロック& ヘヴィメ タル	レコー ド	77年作、フォリナーの記念すべきデビュー・アルバムとなった1枚です。時代はバングの夜明けが近づいていた頃ですが、元スプーキー・トゥースのミック・ジョーンズと元キンク・クリムゾンのイアン・マクナルドの合体がされたフォリナーはスーパー・グループと話題になりました。 そのイアン・マクナルドのフルート、サクスが絡むキャッチーなハード・ロックと、ルー・グラム soulfulなヴォーカルは、当時ではかなりユニークであったと思います。プログレ・ハードとされる事も多い彼等ですが、本作に限って言えば、間違いなく新世代のハード・ロック・バンドであり、80年代を予見していた先見性を持っていたと思います。「衝撃のファースト・タイム」、「つめたいお前」等の初期の代表曲が、今も強烈なインパクトを誇っています。	Side A 1. 衝撃のファースト・タイム 2. つめたいお前 3. スターライダー 4. ヘッド・ノッカー 5. ダメージ・イズ・ダン	Side B 1. ロング・ロング・ウェイ・フロム・ホーム 2. ウーマン・オー・ウーマン 3. 人生は闘い 4. お前に夢中 5. アイ・ニード・ユー
	FOREIGNER	ヘッド・ゲームス		1979年	ハード ロック& ヘヴィメ タル	レコー ド	1977年の1枚目(400万枚)、1978年の2枚目(600万枚)と大ヒットを飛ばした後、1979年の3枚目、ジャケットが非難を呼び、前2作ほどセールスは200万枚と伸びなかったもののとてもドライブ感とうねりがある作品。1.『ダーティ・ホワイト・ボーイ』からいきなりストリート感溢れるサウンド。2.『真夜中の電話』は1stの『冷たいお前』2ndの『寒い朝』の延長線上にあるビノのコードが綺麗なナンバー。3.『女たち』ギターリフのアンサンブルが印象的なロックンロール。前2作では3曲目がいずれもバラードだったのだが、ここにこの曲が入ることでより緊張感が持続する。4.『反逆の夜』はデビューシングル「衝撃のファーストタイム」的な王道サウンド。5.『17セヴンティーン』は前半のクライマックス、そしてタイトルトラックで大ヒットの6.『ヘッド・ゲームス』は売れ線狙いミックがヴォーカルを取る7.『モダン・デイ』まで息もつかせず一気に聴ける。8.『科学の影に』でようやくバラード。これまでと異なる80年代を意識した音づりになっている。9.『灰色の別れ』はアコギとコーラスの綺麗なアップテンポナンバー。10.『レヴ・オン・ザ・レッド・ライン』も隠れた名曲である。	Side A 1. ダーティ・ホワイト・ボーイ 2. 真夜中の電話 3. 女たち 4. 反逆の夜 5. 17(セヴンティーン)	Side B 1. ヘッド・ゲームス 2. モダン・デイ 3. 科学の影に 4. 灰色の別れ 5. レヴ・オン・ザ・レッド・ライン
	FOTOMAKER			1978	ニュー ウェイブ	レコー ド	元ラスカルズのジーン・コーニッシュ、ディノ・ダネリ、元ラズベリーズのウォーリー・ブライストンが結成した'78年最大のホープとして1978年に発表されたファーストアルバム。「輝ける未来を約束された彼らの名はフォト・メーカー」というタイトルで日本では売られていた通りにメロディーは確りとした素晴らしいアルバムだった。ジャケットも印象的で良かったが次のアルバムでは正反對のお爺さんがジャケットとなり正直怖くて買いたくない(笑)ジャケットの一つ。音はこの時代のパワーポップで美しいポップなメロディが素晴らしいロック色もしっかり出ている。全体的には平均以上の仕上がりだと思うが、インパクト的な部分で普通な印象になってしまっている感がいまひとつ抜き出すことが出来なかったのではないかと思う。メロディーも確りしているので売れなかったのはとても惜しいグループだ。	Side A 1. どこにも行かないで 2. この愛に救いを 3. 魅せられし瞳 4. 愛の魔力 5. ジ・アザー・サイド	Side B 6. セイ・ザ・セიმ・フォー・ユー 7. ブレイシング 8. 時の流れ 9. 恋のつらさがわかるかい 10. ルーズ・アット・ラヴ
	FRANKIE GOES TO HOLLYWOOD	ウェルカム・ トゥ・ザ・プレ ジャードーム		1984	ニュー ウェイブ	レコー ド	1983年にZTTレーベルからデビューし、デビュー曲の「リラックス」が全英、全米共に1位となるが放送禁止となってしまふ。また、トゥ・トライブス全英で9週連続1位を記録。デビューアルバムも全英、全米共に1位となる。		
	FRANKIE MILLER	(ペーパース リーブ仕様) ワンス・イン・ ア・ブルー・ム ーン		1973	ロック(ス ワンプ・ ロック)	CD	ソウル・ミュージックの影響色濃いその歌声からロバート・パーマーらと並称されるフランキー・ミラーが、ニック・ロウが在籍したことで知られるバブ・ロックの雄、プリンスレー・ジュウォーツの全面的なバックアップを得てレコーディングした1973年のファースト・アルバム。同時代の米ボビュラー・ミュージックに対する憧憬も顕わな大らかなアンサンブルとミラーのざらついた歌声が絶妙に融和した傑作。	1. You Don't Need To Laugh (To Be Happy) / ユー・ドント・ニード・トゥ・ラフ 2. I Can't Change It / アイ・キャン・ト・チェンジ・イット 3. Candlelight Sonata In 'F' Major / キャンドルライト・ソナタ・F長調 4. Ann Eliza Jane / アン・エリーザ・ジェイン 5. It's All Over / イッツ・オール・	6. In No Resistance / イン・ノー・レジスタンス 7. After All (I Live My Life) / アフター・オール 8. Just Like Tom Thumb's Blues / 親指トムのブルースのように 9. Mail Box / メール・ボックス 10. I'm Ready / アイム・レディ
	FRANKIE MILLER	(ペーパース リーブ仕様) ハイ・ライフ		1974	ロック(ス ワンプ・ ロック)	CD	フランキー・ミラーが1974年にリリースしたセカンド・アルバム「ハイ・ライフ」。アラン・トゥーサンプロデュースによって米国アトランタでレコーディングされたアルバムでアラン・トゥーサンがピアノ、オルガン、コンガで参加しています。米国南部風ロウ・ファンク・サウンドをバックにしたフランキー・ミラーの力強いボーカルが堪能できる名作。	1. High Life 2. Play Something Sweet (Brickyard Blues) 3. Trouble 4. A Fool 5. Little Angel 6. With You In Mind 7. The Devil Gun 8. I'll Take A Melody	9. Just A Song 10. Shoo-Rah 11. I'm Falling In Love Again 12. With You In Mind 以下、CDボーナストラック 13. Brickyard Blues (live) 14. The Devil Gun (live) 15. If You Need Me (live) 16. With You In Mind (demo)

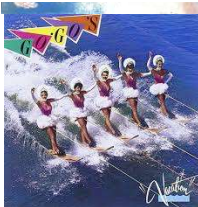
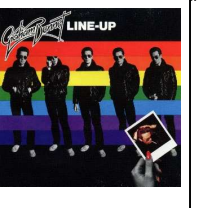
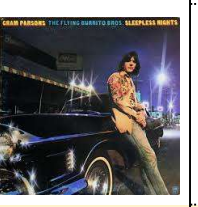
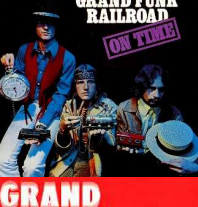
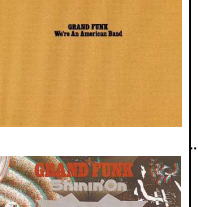
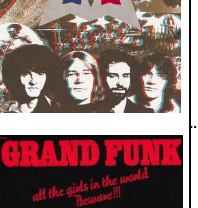
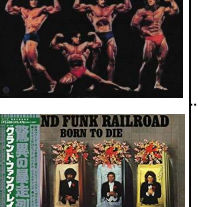
	FREE	ハートブレイカー		1972	ハードロック	レコード	72年作「フリー」の通算8作目バンドの最終章となった1枚。 この時期のフリーは不安定な状況下で、ポロポロになりながらも名曲を多く残す事になります。前作を最後に一度は解散をしていたながら、薬物漬けになっていたポール・コゾフを救済すべく再結成を果たす。すでにピースというバンドで活動始めていたポール・ロジャースは、「Heartbreaker」というミドル・ナンバーの名曲を手土産として本作に望みます。 そしてロック・クラシックの一つで、多くのカヴァーがされている「WISHING WELL」も、ここで誕生しました。ただやはり若くて大成功をした天才ミュージシャン集団の亀裂は大きかったのか、結末は長く続きませんでした。結局ポールとサイモン・カークのオリジナル・フリー組、そしてコゾフ・カーク・テツ・ラビットで話題を呼んだラビットと山内テツが合体した形で再生されました。途中までレコーディングに参加したポール・コゾフのギターは、「COME TOGETHER IN THE MORNING」、「TRAVELLIN IN STYLE」、「COMMON MORTAL MAN」、「SEVEN ANGELS」、そして前述のアルバム表題曲で、変わらぬ泣きっぷりを見せています。 枯れたメロディが多い構成もあり、寂しい影が見え隠れしているのですが、日本人の琴線に触れる1枚として愛されていると思いますが、純粋なフリーとして見なされていないのも事実だと思います。ただやはりポール・ロジャースは当時まだ23歳という若さで、説得力、味わい深さには何處勝っても素人でした。	1. ウィッシング・ウェル 2. カム・トゥゲザー・イン・ザ・モーニング 3. トラヴェリン・イン・スタイル 4. ハートブレイカー 5. マディ・ウォーター 6. コモン・モータル・マン 7. イージー・オン・マイ・ソウル 8. セヴン・エンジェルズ	
	FREE	(ペーパー・スリー・リブ仕様)ハートブレイカー		1972	ハードロック	CD		1. ウィッシング・ウェル 2. カム・トゥゲザー・イン・ザ・モーニング 3. トラヴェリン・イン・スタイル 4. ハートブレイカー 5. マディ・ウォーター 6. コモン・モータル・マン 7. イージー・オン・マイ・ソウル 8. セヴン・エンジェルズ	以下、CDボーナス・トラック 9. ウィッシング・ウェル (USミックス) 10. レット・ミー・ショウ・ユー 11. マディ・ウォーター (オルタナティブ・ヴァージョン) 12. ハンド・ミー・ダウン/ターン・ミー・ラウンド (プロスペクティブ・アルバム・トラック) 13. ハートブレイカー (リハーサル・ヴァージョン)
	FUN BOY THREE	ファン・ボーイ・スリーがやってくる / ファン、ファン、ファン！		1982	ニューウェイブ	レコード	スペシャルズを脱退したテリー・ホールが黒人2人の盟友ネヴィル・ステイブルズ、リンヴァル・ゴードリングと結成した3人組のファンボーイスリーのファーストアルバム。全英7位・ゴールド・ディスク獲得。 '81年結成〜'83年解散と活動期間は短命だったが、商業的に成功し80年代において忘れられないバンド名の1つで、当時はテリー・ホールの人気とバナナラマとの共演等話題が多く、サウンドは実験的な楽曲が融合し、とにかく新しい音楽をやろうと言うテリーの感覚が色んな意味で実験的なサウンドになったが、当時のリスナーもこの音に魅了されたのは流石だし確かだ。音はとにかくダークでスペシャルズのようなスカの朗らかさは皆無。デビュー曲の「ザ・ルナティックス」も、ロックファンにはジャニス・ジョプリンの熱唱で知られるガーシュウインのスタンダード曲「サマータイム」のカバーも、アフリカン・ビートで凄。また、「泡いっぱい恋」は、テリー・ホールがコーゴーズのジェーン・ウィードリンと共作したナンバーだが、彼女たちのバージョンが弾むようなポップソングであるのに対して、FB3のバージョンは憂鬱度200パーセントアレンジが凄く良い。	Side A 1. Sanctuary 2. Way to London 3. Lunatics, The (Have Taken over the Asylum) 4. Life in General 5. Faith, Hope and Charity 6. Funrama 2	Side B 1. Best of Luck Mate 2. 'Tain't What You Do (It's the Way That You Do It) 3. Telephone Always Rings, The 4. I Don't Believe It 5. Alone
	FUN BOY THREE	ファン・ボーイ・スリーがやってくる / ファン、ファン、ファン！		1982	ニューウェイブ	レコード			
	FUN BOY THREE	ウェイティング		1983	ニューウェイブ	レコード	ファンボーイスリーのセカンドアルバム。テリー・ホールの際立った作曲センスが浮き彫りになった記念すべき作品でもある。といってもカラーフィールド以降に見られるギタボ・テイストは薄めなニューウェーブ・サウンドでまとめられており、以降の活動しか知らない人は面食らうかもしれない。ただ、適度なエスノ趣味を持ち前のポップセンスで調理したこのアルバムが何とも言えない感じが病みつきになるサウンドは流石だ。 曲の1はミス・マープルが活躍する同名映画(61年公開)曲のカバー。先に発表されたGo-Go'sのバージョンでも知られる7はジェーン・ウィードリンとの共作。両者のバージョンを聞き比べると、アメリカ人とイギリス人の感性の違いがわかりとても面白い。	Side A 1. Murder She Said 2. The More I See (The Less I Believe) 3. Going Home 4. We're Having All The Fun 5. The Farmyard Connection	Side B 1. The Tunnel Of Love 2. Our Lips Are Sealed 3. Pressure Of Life, The (Takes The Weight Off The Body) 4. Things We Do 5. Well Fancy That
	FUNKAPOLITAN	ファンカポリタン		1982	ニューウェイブ	レコード	サヴァンナバンド直系のファンカラティナー。ミュージタントディスコの最重要人物サヴァンナバンド〜キッド・クレオール&ザ・ココナツのオーガスタ・ダーネルがプロデュースを手掛けたファンカポリタン1982年唯一のアルバム。スティールパンのイントロから中盤のラップと味付けが最高な「If Only」ほかディスコをベースにしながら黒さは出さずニューウェイヴのひねくれた先鋭性やオールドスクールのパーティー感覚を押し出したところはやはりオーガスタ・ダーネル仕事。風通しの良いラティノ感とひねくれたニューウェイヴ感が絶妙にミックスされた、スウィートなパーティー・チューン。中盤に挿入されるベタウマなラップも最高。モダン・ロマンスとかヘアカット100とかブルー・ロンド・アラ・タークとかの、80年代UKファンカラティナーの流れを汲むバンド。サヴァンナバンド関連作としても聴き逃すことのできない隠れた名盤です！	Side A 1. ラン・ラン・ラン 5:26 2. イリュージョンズ 5:24 3. ウォー 5:22 4. イフ・オンリー 4:50	Side B 1. イン・ザ・クライム・オブ・ライフ 5:50 2. ビホールド・ザ・スパー・エース 4:10 3. ゼア・イット・イズ・アゲイン 4:08 4. アズ・ザ・タイム・ゴーズ・バイ 4:58
	FUNKAPOLITAN	ファンカポリタン		1982	ニューウェイブ	レコード		Side A 1. ラン・ラン・ラン 5:26 2. イリュージョンズ 5:24 3. ウォー 5:22 4. イフ・オンリー 4:50	Side B 1. イン・ザ・クライム・オブ・ライフ 5:50 2. ビホールド・ザ・スパー・エース 4:10 3. ゼア・イット・イズ・アゲイン 4:08 4. アズ・ザ・タイム・ゴーズ・バイ 4:58
	GAMMA/	ガンマ 2		1980	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	80年作「ロニー・モンローズ率いるガンマのセカンド・アルバム」です。 本作からベースистのグレン・レッチ、ドラムにデニー・カーマッシュが加わり、新たな体制でよりタイト、キャッチーなアメリカン・ハードを聴かせてくれます。カーマッシュが加わった事により、キーボードのジム・アルシヴァー、そしてロニーと、モントローズ組が3人揃った事になりました。印象的なジャケットを担当したのは、数々の名盤を手がけてきたデザイナー、ミック・ハガティ。(デヴィッド・ボウイの「Let's Dance」、Styxの「Corner Stone」、Supertrampの「Breakfast in America」のジャケット担当で有名) そしてプロデューサーは、LONE STAR、FOREIGNER、AEROSMITH、TRILLION等、メロディアス・ハードの名盤を多く手掛けてきた事で有名なゲイリー・ライオンズがロニーと共同で務めています。キラキラした80年代ハード・ロックの到来を予見したかの様なキーボードの多様がありながら、デイヴィー・パティソンのガッツ溢れるパワフルなヴォーカルがグイグイ引っ張ってくれています。ロニーのプレイもメタリックなエッジとメロウな味わいのギャップが見事で、キャッチーな歌メロをより際立たせるものとなっています。中盤のアダルトなバラード、「VOAGER」を挟んで、プログレ・ハード風、VAN HALEN風、ハード・ポップ風と、実にバラエティに富んだ内容で一気に聴かせてくれます。70年代のハード・ロックが、一気に洗練されていくそのちょうど過渡期を象徴する様なバンドと云えるかもしれません。全8曲というコンパクトな内容が名盤らしい感を醸	Side A 1. ミーン・ストローク MEAN STREAK 2. フォー・ホースメン FOUR HORSEMEN 3. ダーティ・シティ DIRTY CITY 4. 船乗り VOYAGER	Side B 1. 空中の標的 SOMETHING IN THE AIR 2. つながれた猫 CAT ON A LEASH 3. スキン・アンド・ボーン SKIN AND BONE 4. メーデー MAYDAY
	GANG OF FOUR	エンターテインメント		1979	ニューウェイブ	レコード			
	GANG OF FOUR	ソリット・ゴールド		1981	ニューウェイブ	レコード			
	GARY MOORE	バック・オン・ザ・ストリート		1978	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	78年作、ゲイリー・ムーアの初のソロアルバム。当時コロシアムとシン・リジィでの活動を掛け持ち、本作でギタリスト、メロディ・メイカーとして大きな評価を得る事になる。 その代表曲と言えるのがやはり「バリの散歩道」で、それまでマンガン・ピッキングと評された速弾きのイメージから、泣きのギタリストという新たな称号を手に入れる。 共作者のフィル・ライノットとは、シン・リジィのナンバー、「甘い言葉に気をつけろ」でヴォーカルの掛け合いも披露している。シンリジィよりはかなりスローなヴァージョンになっていて、全々の別曲として生まれ変わっています。 コロシアムⅡでのジャズ、フュージョン色もこの頃は強い時期だったと思いますが、ハード・ロックとプログレの両サイドが混ざっている点も、本作をユニークなものになっている。		
	GARY MOORE	大いなる野望		1982	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	82年作、ゲイリー・ムーアの全盛期を代表するアルバムで、以降の80年代ハード・ロックのモデル・ケースとも称されてきた大名盤です。それまで一定の評価を受けていながら、ソロ・キャリアでのセールスには恵まれていなかった彼がVIRGIN移籍後の第一弾としてリリースされ、ここ日本でも人気はビッグに達しました。イアン・ペイス、ニール・マールイ、ドン・エリヤーという最強のメンバーをバックにして、メロディアス・ハードという言葉がまだ生まれていなかった時期に、泣けるハード・ロックの世界を完成させています。とにかくメロディ、ギター、そして味のあるヴォーカル、と完璧な構成となったアルバムで、ゲイリーのハード・ロック期を知るには最適な1枚です。		
	GARY MYRICK AND THE FIGURES	ゲイリー・マイリック&ザ・フィギュア		1981	ニューウェイブ	レコード	このアルバムは、1980年にリリースされたゲイリー・マイリックのファーストアルバムこちらもB級ニューウェーブバンドで、かなりマイナーなバンドです。彼らは70年代後半から80年代初頭に確立されたポップロックの柱のひとつとして80年代初頭にロサンゼルスから出現した多くの有名なニューウェーブバンド(ナック、モータールズ)よりもハードでかつエナメルギンシュなサウンドを繰り上げます。同時にメロディーとキャッチーでインスタントなコーラスが最高のアルバムです。バックバンド、ザ・フィギュアズはエルビズコストロで言うところのトランク・ジョンズの様な存在で相性抜群のサポートバンドです。中でも「She Talk In Stereo」は注目を集めたマイナーヒットとなり、彼の代表曲ナンバーです。その他、強力なナンバーには、「Living Disaster」、「Ever Since The World Began」、「Model」そしてアルバム名のベストトラック「The Party」等、素晴らしい曲が粒ぞろいです	Side A 1. Living Disaster 2. Ever Since The World Began 3. She Talks In Stereo 4. Model 5. She's So Teenage	Side B 1. You 2. The Party 3. Meaningless 4. Who'll Be The Next In Line 5. Deep In The Heartland
	GARY NUMAN(TUBE WAY ARMY)	デビュー・アルバム		1978	ニューウェイブ	レコード			

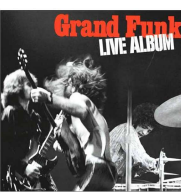
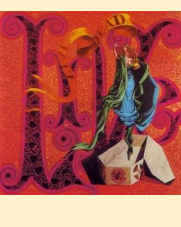
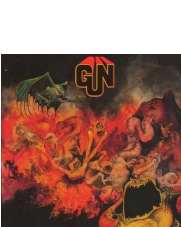
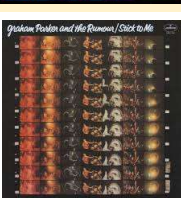
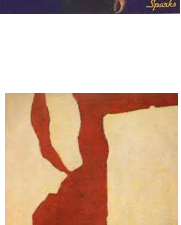
	GARY NUMAN(TUBE WAY ARMY)	幻想アンドロイド		1979	ニューウェイブ	レコード	ゲーリー・ニューマンのチューブウェイ・アーミーでのセカンドアルバム。		
	GARY NUMAN(TUBE WAY ARMY)	幻想アンドロイド		1980	ニューウェイブ	レコード	ゲーリー・ニューマンのチューブウェイ・アーミーでのセカンドアルバム。		
	GARY NUMAN(TUBE WAY ARMY)	エレクトリック・ショック！		1979	ニューウェイブ	レコード			
	GARY NUMAN(TUBE WAY ARMY)	テレコン		1980年	ニューウェイブ	レコード	全英アルバム・チャートの1位を獲得。シングルのA1とA5が共に全英シングル・チャートの20位以内に入るヒットとなりました。A1は、日本語の歌詞が歌われていることでも有名な曲です。成功したことにより、本作ではより高価な機材を使用して制作することができ、巻の貧乏なシンセポップ・バンドやニューウェイヴ・バンドのサウンドに比べ音色のゴージャス感で一線を画しています。参加ミュージシャンはチューブウェイ・アーミー時代のメンバーを今回も招いているので、良い意味で期待を裏切らない安心感がありますが、悪く言えば既に出てきたマンネリ感が漂っています。A2 でシンプル・マインズのメンバー3人がハンドクラッピングで参加しています。	Side A 1. This Wreckage 2. The Aircrash Bureau 3. Telekon 4. Remind Me To Smile 5. I Die : You Die	Side B 1. I'm An Agent 2. I Dream Of Wires 3. Remember I Was Vapour 4. Please Push No More 5. The Joy Circuit
	Gerry & The Pacemakers	(ペーパーズ・リープ仕様) ハウ・ドウ・ユー・ライク・イット(恋のテクニク)		1963		CD	1963年フアースト・アルバム。フロンDMンGERRY MARSDENが率いGEORGE MARTINが手がけたリヴァプール・サウンズ/マーシービートの代名詞GERRY AND THE PACEMAKERS。ミッチ・マーレーの作く恋のテクニク(How Do You Do It)>は、イギリスでは1963年春に発表され1位になり、アメリカでは1964年夏「You'll Never Walk Alone」とのカップリングでシングル発売され全米9位を獲得。リヴァプールでビートルズと人気を二分したトップ・ビート・グループ(メンバーは、ヴォーカルのジェリー・マースデン、を中心にレスリー・マガイヤー、レス・チャドウィック、フレディ・マースデン、の4人組)。1962年6月に、グループはブライアン・エプスタインとマネージメント契約を交わし、更にそれから半年後に英コロンビア・レコードの専属アーティストとなりました・・・1963年春にデビュー・シングル「How Do You Do It/Away From You」を発表し、全英第1位を記録。BEATLESがレコーディングしたもののがリリースしなかったという曰くを持つ記念すべき1STシングル「HOW DO YOU DO IT?」、今も世界中のサッカー・スタジアムで愛唱される「YOU'LL NEVER WALK ALONE」を筆頭とした全28曲収録。	1.A Shot Of Rhythm And Blues 2.Jambalaya 3.Where Have You Been? 4.Here's Hoping 5.Pretend 6.Maybellene 7.You'll Never Walk Alone	8.The Wrong Yo Yo 9.You're The Reason 10.Chills 11.You Can't Fool Me 12.Don't You Ever 13.Summertime 14.Slow Down
	Gerry & The Pacemakers	(ペーパーズ・リープ仕様) フェリー・クロス・ザ・マージー (マージー河のフェリーボート)		1965		CD	ブライアン・エプスタインがマネージャーを務めていたビートルズの弟分であるジェリー & ベースメーカーズが「ヤア・ヤア・ヤア」に続けとばかりに作った彼ら主演の映画のサントラ盤。映画の為にジェリー・マースデン(vo)が9曲を書き下ろしたジェリー・マースデンの作曲力はもっと評価されてもいい。時代が彼らにアイドル性を求めたのだろうが、ポップな曲のメロディ・ラインなんか良く出来ているし、ビートが効いている曲なんかもあり、当時のマーシーサイドの雰囲気伝える名曲揃い見逃せない傑作盤。主題歌「マージー河のフェリーボート」は大ヒット。	1イツツ・ゴナ・ビー・オール・ライト 2ホワイ・オー・ホワイ 3フォール・イン・ラヴ 4シンク・アバウト・ラヴ 5アイ・ラヴ・ユー・トゥー 6オール・クワイエット・オン・ザ・マー ジー・フロント 7デイス・シング・コールド・ラヴ 8ベイビー・ユア・ソー・グッド・トゥ・ミ ー 9アイル・ウェイト・フォー・ユー 10シーズ・ジ・オンリー・ガール・ フォー・ミー 11イズ・イット・ラヴ	section- 17ドリームズ -bonus section- 18ラ・ラ・ラ-bonus section- 19ウイザウト・ユー -bonus section- 20ガール・オン・ア・スウィング - bonus section- 21フール・トゥ・マイセルフ -bonus section- 22カム・バック・トゥ・ミー -bonus section- 23ハレルヤ・アイ・ラヴ・ハー・ソー - bonus section- 24イツツ・ゴナ・ビー・オール・ライト (ステレオ・ヴァージョン) -bonus
	GERRY LOCKRAN	ラグス・トゥー・グラッドラグス		1976	スワンプ・ロック	レコード	76年リリース。7枚目のアルバム。英国ブルース／スワンプ系SSWを代表する名盤として確固たる地位を築いているジェリー・ロックランの「ラグス・トゥー・グラッドラグス」。バックにグリース・バンド、ココモのメンバーが参加。スワンプビーだけでなく、ラグタム・ブルースあたりまで手掛けて味わい深い。アコースティック・ブルースを基調に、タイト&グルーヴィーなスワンプ風味を加えたサウンドは、渋みや陰影と洗練とが絶妙にブレンドしていて旨味たっぷり。グリース・バンドやメルコリンスをバックに言うことのないスワンプロックを繰り広げます。2016年に逝去したヘンリー・マッカローの味のあるギターも聴ける。	Temptations (Always Winning Through)3:05 Can't Get The Fingerpickin'3:16 New York's My Home4:10 You Don't Know Me2:21 The Garden Of Life3:57 Jonas And The Whale3:02	Cane On The Brazos3:47 I'll Be Gone3:24 One Kind Favour2:50 My Brother3:24 Tired Of What's Bin' Goin' On3:39
	GERRY RAFFERTY	シティ・トゥ・シティ		1978	ロック	レコード	ステイーラーズ・ホイールを率いて73年に「Stuck In The Middle With You」をヒットさせたこともある、スコットランド出身のシンガー・ソングライター、ジェリー・ラファティがソロ2ndソロ・アルバムで大成功。全米No.1となった最大のヒット・アルバムであり最高傑作。英国トラディショナル・フォークをベースにした音楽性を持つ人だが、ここでの曲作りは洗練されており、もともと定評のある美しいメロディ・ラインに、より磨きをかけており名作といえるだろう。収録曲の「Baker Street」「霧のベーカー街」は、ビルボードチャートで同時期に1位を独走したアンディ・ギブの「Shadow Dancing」に阻まれ1位になれなかった。ギターのジェット音とサックスの絡みが抜群なイントロが目茶目茶格好いい。「Baker Street」だけでなく、続いてヒットした「Right Down The Line」ライト・ダウン・ザ・ライン」や哀愁のサビがよくサックスがいい味出している「Island」アイランド、民謡風の「Ark」ジ・アーク、「Mattie's Rag」やタイトルトラックなど捨て曲のないとてもいい作品で、まさに最高傑作と言われるアルバム。ジェリー・ラファティのソロ・サードアルバム。全米No.1となった前作「City to City」を受けて1年後に製作され、そこそこのヒットとなったアルバム。アルバムとしての統一感と平均的な曲のクオリティは、前作よりむしろ上ですが、「Baker Street」の様な傑出した曲が無いのが残念。アルバムは「Days Gone Down」で幕を開けるが、それは少し酸っぱい日々を過ぎ去った嘆きで、終末のジャクソン・ブラウンをあまり滑らかにすることなく、なんとかチャレンリングすることに成功しているアルバムではあるがミューだか鮮明なドラムサウンド、流れるようなベース、タイトなアレンジは、1979年の最先端を行くものだ。「Days Gone Down」の落ち着いた憂鬱さがタイトルトラックにつまずき、ロック、調和のとれたベースとギターのリファージを備えたビートの後ろのグループは、マイケル・マクドナルド・ドゥービーやステイーリー・ダンを彷彿とさせる。「Family Tree」のメトロロンレースのイントロなど、いくつかの瞬間を除いて、スネアが始まるまで以前のラファティの化身を思い出しますが、40年後、それはラファティのカタログへの重要なエントリであることを証明しています。そして、真の恩寵”のつかの間の瞬間は、スクラブな天才がしばしばまったく行為ではなかった豪傑によって取り潰されたことを示唆しています。	A面 1. 暁の方舟 The Ark 2. 霧のベーカー・ストリート Baker Street 3. ライト・ダウン・ザ・ライン Right Down the Line 4. シティ・トゥ・シティ City to City 5. スティーリン・タイム Stealin' Time	B面 1. マティーズ・ラグ Mattie's Rag 2. あなたの心に Whatever's Written in Your Heart 3. ホーム・アンド・ドライ Home and Dry 4. アイランド Island 5. その日を待つて Waiting for the Day
	GERRY RAFFERTY	ナイト・アウル		1979	ロック	レコード	ジェリー・ラファティのソロ・サードアルバム。全米No.1となった前作「City to City」を受けて1年後に製作され、そこそこのヒットとなったアルバム。アルバムとしての統一感と平均的な曲のクオリティは、前作よりむしろ上ですが、「Baker Street」の様な傑出した曲が無いのが残念。アルバムは「Days Gone Down」で幕を開けるが、それは少し酸っぱい日々を過ぎ去った嘆きで、終末のジャクソン・ブラウンをあまり滑らかにすることなく、なんとかチャレンリングすることに成功しているアルバムではあるがミューだか鮮明なドラムサウンド、流れるようなベース、タイトなアレンジは、1979年の最先端を行くものだ。「Days Gone Down」の落ち着いた憂鬱さがタイトルラックにつまずき、ロック、調和のとれたベースとギターのリファージを備えたビートの後ろのグループは、マイケル・マクドナルド・ドゥービーやステイーリー・ダンを彷彿とさせる。「Family Tree」のメトロロンレースのイントロなど、いくつかの瞬間を除いて、スネアが始まるまで以前のラファティの化身を思い出しますが、40年後、それはラファティのカタログへの重要なエントリであることを証明しています。そして、真の恩寵”のつかの間の瞬間は、スクラブな天才がしばしばまったく行為ではなかった豪傑によって取り潰されたことを示唆しています。	A面 1. Days Gone Down6:27 2. Night Owl6:09 3. The Way That You Do It5:06 4. Why Won't You Talk To Me3:56 5. Get It Right Next Time4:39	B面 1. Take The Money And Run5:48 2. Family Tree5:55 3. Already Gone4:52 4. The Tourist4:14 5. It's Gonna Be A Long Night4:22
	G.B.H	襲撃			パンク	レコード			
	G.B.H	シティ・ベイビー			パンク	レコード			
	GENERATION X	ジェネレーションX		1978	パンク	レコード	1978年リリース。全英アルバムチャート29位。チェルシーからビリー・アイドルらが脱退して結成。ジェネレーションXというバンド名は、ジェーン・デヴァーソン著の社会学の本から命名。ビリー・アイドルはギターからボーカルにスイッチし、ポップ・アンドリュースがリード・ギターとして加入。最初のライブを1976年12月21日にロキシーで行う。クリサリス・レコードと契約し、デビュー・シングル「ユア・ジェネレーション」を発表する。ジョン・タウがオルタナティブTVに移り、元サブウェイ・セクトのマーク・ラフに交代。このメンバー構成で最初の2枚のアルバムを発表する。BBCの人気音楽番組『トップ・オブ・ザ・ポップス』に初めて出演したパンク・バンド。	Side A 1. フロム・ザ・ハート 2. 100/パンクス 3. リッスン 4. レディ、ステディ、ゴー 5. クリネックス 6. プロミセス・プロミセス Side B 1. デイ・バイ・デイ 2. 透明人間	
	GENERATION X	ジェネレーションX		1978	パンク	レコード			
	GENERATION X	ジェネレーションX		1978	パンク	レコード			

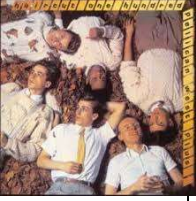
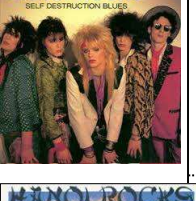
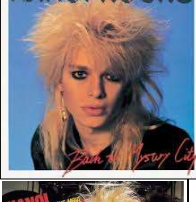
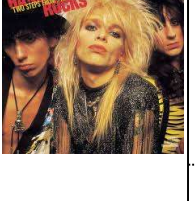
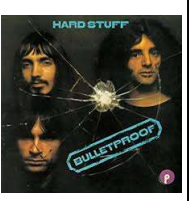
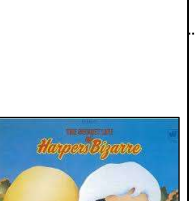
	GENERATION X	ジェネレーションX		1978	パンク	CD			
	GENERATION X	人形の谷		1979	パンク	レコード	1979年、全英51位。70年代パンクロックバンド、ジェネレーションXの2ndアルバム。前作は荒削りなギターサウンド、シャウトするボーカル等、Sex Pistolsを始めとするパンクロックへの愛が感じられるアルバムだったが、今作はよりオリジナリティを出してきた印象。オスメはFriday's AngelとValley of the Dolls。このバンドのこのアルバムでしか聴けないんじゃないかと思うくらい独特な、不思議な暖かみのあるギターサウンドを鳴らしてくれています。Billy Idolも相変わらずスケール感のある良い歌声です。	Side A 1. ボス・サウンド 2. キャデラックの夜 3. パラダイス・ウエスト 4. フライデイズ・エンジェル 5. キング・ロッカー	Side B 1. 人形の谷 2. イングリッシュ・ドリーム 3. ラヴ・ライク・ファイアー 4. ケニー・シルヴァースの青春 (パート1) 5. ケニー・シルヴァースの青春 (パート2)
	GENERATION X	人形の谷		1979	パンク	CD			
	Genesis	怪奇骨董音楽箱		1971	プログレ	レコード	ジェネシスは1967年に結成され、ピーター・ゲイブリエルをはじめ創設時のメンバーは同じ学校に通っており、言わば部活の延長のような存在であった。彼らが変わったのは、メンバーの脱退で外からの補充が必要になった時だ。オーディションによってドラムのフィル・コリンズとギターのスティーブ・ハケットが加入し、リハーサルを繰り返すことで彼らの音楽は一気に進歩する。今回取り上げるのはコリンズとハケットが参加した最初のアルバム『怪奇骨董音楽箱(原題: Nursery Cryme)』(’71)で、通算3作目となる。本作はジェネシス独自の演劇や童話をモチーフにしたサウンドが確立されようとしていた途上にある。収録曲は全部で7曲。冒頭の10分半に及ぶ「The Musical Box」は牧歌的なイントロで始まり、徐々にドラマチックな展開になっていく。曲の途中で登場するハケットのギターソロは、驚くべきことにすでにタッピング(ライトハンド)奏法が使われていて、彼のプレイは当時のプリティッシュロックギタリストの多くに影響を与えた。「The Return Of The Giant Hogweed」は植物が人間を襲うというSF的な内容のナンバーで、オペラ風で緻密な構成になっている。クイーンはジェネシスから多くの影響を受けていることがよく分かるナンバーだ。また、アルバム最後の「The Fountain Of Salmacis」ではコリンズの今も変わらない個性的なドラマが聴ける。アルバムの完成度という意味では4作目の『フォックスロット』(’72)に、ヒット作という意味では6作目『月影の騎士(原題: Selling England By The Pound)』(’73)に及ばないが、本作は全英チャートで39位となり、ジェネシスはようやく本国で認知されるようになる。ジェネシスはピーター・ゲイブリエルが在籍していた(1967〜75)時代とフィル・コリンズがリードボーカルになった(1976〜96)時代とでは、まったく違うアルバムだと言っても過言ではない。	● Side-A 1.The Musical Box 2.For Absent Friends 3.The Return Of The Giant Hogweed	● Side-B 1.Seven Stones 2.Harold The Barrel 3.Harlequin 4.The Fountain Of Salmacis
	Genesis	フォックスロット		1972	プログレ	レコード	7つのパートによって構成された約23分にも及ぶ大曲「サパーズ・レディ」を収録した通算4作目。1曲目のメトロノムも印象的な、まさに英国らしい寓話的な世界観を荘厳なサウンドで表現した所期の代表作。全英チャート12位を記録。プログレッシヴ・ロック・バンドとしての魅力を開花させ、一気にスターダムを駆け上がるきっかけとなった作品。	● Side-A 1.Watcher Of The Skies 2.Time Table 3.Get 'Em Out By Friday 4.Can-utility And The Coastliners	● Side-B 1.Horizons 2.Supper's Ready
	Genesis	ライブ		1973	プログレ	レコード	ジェネシス・ライブは、1973年7月にカリスマ・レコードでリリースされたイギリスのロックバンド、ジェネシスの最初のライブ・アルバム。当初はアメリカのロック番組「キング・ビセクト・フラー・アワー」でラジオ放送のために録音されたこのアルバムは、アルバム『Foxrot』をサポートするツアー中の番組の録音から形成されている。ジェネシス・ライブはイギリスでトップ10入り、9位に入ったバンド初のアルバム。「Watcher Of The Skies」「The Return Of The Giant Hogweed」などの名曲を収録したジェネシス初のライブアルバム。1973年Free Trade Hall、De Montfort Hallでのライブ録音。	A面 ウォッチャー・オブ・ザ・スカイズ ゲッテム・アウト・バイ・フライデイ ジャイアント・ホッグウィード	B面 ミュージカル・ボックス ナイフ
	Genesis	月影の騎士		1973	プログレ	レコード	初のライブ作を挟んで発表された通算5作目のオリジナル・アルバム。高度なテクニクと緻密なサウンドで叙情的かつミステリアスな世界を表現。5人の個性がぶつかりあった緊張感溢れる内容は、収録曲のどれもが名曲という名盤にして全英チャート3位を記録した。初のシングル・ヒット「アイ・ノウ・ホワット・アイ・ライク」を収録。	● Side-A 1.Dancing With The Moonlit Knight 2.I Know What I Like (In Your Wardrobe) 3.Firth Of Fifth 4.More Fool Me	● Side-B 1.The Battle Of Epping Forest 2.After The Ordeal 3.The Cinema Show 4.Aisle Of Plenty
	Genesis	眩惑のブロードウェイ		1974	プログレ	レコード	ピーター・ガブリエルが在籍したジェネシス最後の作品にして、最高傑作と謳われる2枚組コンセプト・アルバム。ラエルという名の少年がさまざまな世界にワープしながら兄を探すというシュールで不思議な冒険物語を、抜群の構成力で支えた内容はプログレッシヴ・ロックの頂点を極めた作品として高い評価を得ている。全英チャート10位を記録。	ディスク1 「ザ・ラム・ライズ・ダウン・オン・ブロードウェイ」 - "The Lamb Lies Down on Broadway" - 4:55 「フライ・オン・ア・ウインドシールド」 - "Fly on a Windshield" - 2:47 「ブロードウェイ・メロディ・オブ・1974」 - "Broadway Melody of 1974" - 1:58 「カクコ・コクーン」 - "Cuckoo Cocoon" - 2:14 「イン・ザ・ケージ」 - "In the Cage" - 8:15 「ザ・グランド・パレード・オブ・ライフ・レス・パッケージング」 - "The Grand Parade of Lifeless Packaging" - 4:07 「バック・イン・N.Y.C.」 - "Back in N.Y.C." - 5:49 「ヘアレス・ハート」 - "Hairless	ディスク2 「リリーホワイト・リリス」 - "Lilywhite Lilith" - 2:40 「ザ・ウェイティング・ルーム」 - "The Waiting Room" - 5:28 「エニウェイ」 - "Anyway" - 3:18 「ヒア・カムズ・ザ・スーパ・ナチュラル・アナスセイス」 - "Here Comes the Supernatural Anaesthetist" - 2:50 「ザ・ラミア」 - "The Lamia" - 6:57 「サイレント・ソロウ・イン・エンブティ・ボーツ」 - "Silent Sorrow in Empty Boats" - 3:06 「ザ・コロニー・オブ・スリッパメン」 - "The Colony of Slippermen" - 8:14 「ラヴィーン」 - "Ravine" - 2:05 「ザ・ライト・ダイズ・ダウン・オン・ブロードウェイ」 - "The Light Dies
	Genesis	セカンズ・アウト 眩惑のスーパー・ライブ		1977	プログレ	レコード	77年リリース。ピーター・ガブリエル脱退後の初のライブ盤。録音は77年のパリ公演の音源だが、1曲のみ76年のライブで「The Cinema Show」が収録。レパートリーの半数以上がガブリエル在籍時のもの。当時の彼等は、初期の幻想性、童話性を緻密なポップ・プログレへと徐々に変遷していた過渡期で、ガブリエルの強烈なキャラが生み出していた独特の個性も残しており見事、フィル・コリンズのヴォーカリストとしての語り口が単純にメロディの良さを際立たせている点、バンドの演奏力の味わい深さが、スタジオ盤に劣らないジェネシス・ワールドを構築。	ディスク: 1 Side A 1. スコンク 2. カーベット・クロラーズ 3. ロベリー・アソルト&バッテリー 4. アフターグロー Side B 1. ファース・オブ・フィフス 2. アイ・ノウ・ホワット・アイ・ライク 3. ザ・ラム・ライズ・ダウン・オン・ブロードウェイ 4. ザ・ミュージカル・ボックス	ディスク: 2 Side A 1. サパーズ・レディ Side B 1. ザ・シネマ・ショウ 2. ダンス・オン・ア・ヴォルケーノ 3. ロス・エンドス
	Genesis	デューク		1980	プログレ	レコード	3人によるグループとなり、ポップ感を強調した作風で成功を収めたジェネシス。1980年発表の本作はその路線を更に推し進めた一枚。ここではよりリズミカルなサウンドを展開しており、フィル・コリンズによる独特のドラマがクローズアップされるようになった。全米11位。	A面 1. ビハインド・ザ・ラインズ Behind The Lines (05:31) 2. ダッチス Duchess (06:40) 3. 導きの声 Guide Vocal (01:18) 4. マン・オブ・アワ・タイムズ Man Of Our Times (05:35) 5. 誤解 Misunderstanding (03:11) 6. ヒートヘイズ Heathaze (05:00)	B面 1. 君のTVショウ Turn It On Again (03:50) 2. アローン・トゥナイト Alone Tonight (03:54) 3. 窮地 Cul De Sac (05:02) 4. プリーズ・ドント・アスク Please Don't Ask (04:00) 5. デュークス・トラペルス Duke's
	Genesis	ジェネシス		1983年10月3日	プログレ	レコード	ジェネシスが1983年に発表した12作目。非常にモダンかつシンブルになった作品であり、2. のシングル・ヒットなども生み出した。フィル・コリンズのソロの成功や他のメンバーのソロ活動などもあった時期を経てからの作品にだけにメンバーの演奏も力強い印象を受ける。テクニ的なリズム・パターンを持った1. はこの作品の特徴を強く表しており、このアルバムが持つ特有の雰囲気のようなものが良く分かる。このアルバムの英国風味を発酵培養したかのような不思議な雰囲気はトニーの操るシンセの音色やフィルのゲート・エコーのドラムによるものが大きいと思うが、このやり過ぎ感がこの曲には顕著に現れている。モダンな雰囲気を持った2. は、トニーの曲の中でも一、二位を争う名曲。次作で大ヒットを飛ばしつつも、それと同時に軽薄さを感じさせるサウンドに変化する彼ら。この曲にはそんな要素が皆無である。エレクトリック・グランドのピアノの音色を生かしたプレイも聞き物。3-4. もこのアルバムの代表曲だが、次作に繋がる軽さを備えており、大作でありながら聞きやすい。5. に至ってはポップな曲で少々唖然とはするものの、慣れれば愛おしい曲。本作は非常にポップな作品ではあるものの、次作にあるような突き抜けるような開放的なポップ性はない。この軽いうて少し淀んだようなサウンドこそが英国風と言う奴だと思う。	Side A 1. ママ - 6:52 2. ザッツ・オール - 4:26 3. ホーム・バイ・ザ・シー - 5:07 4. セカンド・ホーム・バイ・ザ・シー - 6:07	Side B 1. イリーガル・エイリアン - 5:15 2. オール・トゥー・ハード - 3:58 3. ジャスト・ア・ジョブ・トゥ・ドゥ - 4:47 4. シルヴァー・レインボウ - 4:30 5. イッツ・ゴナ・ゲット・ベター - 5:14
】George Duke		ドリーム・オン		1982年	ジャズ	レコード	EPICより82年にリリース。ここ日本のどこのディスコでも「Shine On」がヘヴィー・ローテーションされており、ジョージ・デューク自身もジャズ・フュージョンのフィールドから一気にポピュラー方面へ活躍の場を広げるきっかけとなった大人気盤。ディスコ請けがすこぶる良い内容は、時代が時代だけに日頃は音楽ファンではない多くのリスナーをも取り込むことにも成功。特に前述の「Shine On」を筆頭に、アルバム・タイトル曲「Dream On」や「Ride On Love」などのダンサーにはいずれも耳馴染みの良いメロディにクールなアレンジが施されており、これなら誰もが目撃にはいられない完璧仕様。そしてさらにライト・ユーザー(平たく言えばオネーチャン達のことですね。)を虜にしたのはアーバン感覚溢れるミディアム郡。「You」「Someday」などで浮遊感溢れるファルセットを駆使し見事な感覚を披露。やはりファルセットが効いているアース路線のスロウ「I Will Always Be Your Friend」もこのアルバムの成功の要因の一つ	Side A 1. シャイン・オン 2. ユー 3. ドリーム・オン 4. オールウェイズ・ビー・ユア・フレンズ 5. フレイムド	Side B 1. ライド・オン・ラヴ 2. サン・オブ・リーチ・フォー・イット 3. サムデイ 4. ポジティブ・エナジー 5. レット・ユア・ラヴ・シャイン

G	GEORGE HARRISON	オール・シング ス・マスト・パス		1971	ロック	レコー ド	1970年11月27日に発売されたジョージ・ハリスンのスタジオ・アルバム。全英・全米ともに第1位を記録した彼のソロ・キャリアにおける代表作である。ビートルズ時代から温めていた楽曲なども含めて、彼のソングライターとしての実力が遺憾なく発揮されている。70年代の幕開けを飾るロックの金字塔とも評される。シングルでも「マイ・スウィート・ロード」(全英・全米1位、日本4位)、「美しき人生」(全米10位、日本19位)などのヒットを生み出した。アルバム全体を通して、ジョージが崇拝する神への念を素直に表現している。オリジナルLPのディスク3は"Apple Jam"と呼ばれ、ジョージを中心としたジャム・セッションの様子を収録。エリック・クラプトンを中心としたデレク・アンド・ザ・ドミスの全メンバーや、リンゴ・スター、パッドフィンガー、ビリー・プレストンなどがレコーディングに参加している。プロデュースはジョージとフィル・スペクター。『ビルボード』誌アルバム・チャートでは、7週連続第1位を獲得	Disc 1 Side A 1. アイド・ハヴ・ユー・エニータイム 2. マイ・スウィート・ロード 3. ワー・ワー 4. イズント・イット・ア・ビティー Side B 1. 美しき人生 - What is Life 2. イフ・ノット・フォー・ユー 3. ビハインド・ザット・ロックト・ドア 4. レット・イット・ダウン 5. ラン・オブ・ザ・ミル Disc 2 Side A 1. ビウェア・オブ・ダークネス 2. アップル・スクラップス 3. サー・フランキー・クリスプのバ ラード 4. アウェイティング・オン・ユー・	Side B 1. アイ・ディッグ・ラヴ 2. アート・オブ・ダイニング 3. イズント・イット・ア・ビティー 4. ヒア・ミー・ロード Disc 3 Side A 1. アウト・オブ・ザ・ブルー 2. ジョニーの誕生日 - It's Johnny's Birthday 3. プラダ・ミー・イン Side B 1. アイ・リメンパー・ジープ 2. サンクス・フォー・ザ・ベッパロニ
	GEORGE HARRISON	オール・シング ス・マスト・パス		1971	ロック	CD		Disc 1 1. アイド・ハヴ・ユー・エニータイム 2. マイ・スウィート・ロード 3. ワー・ワー 4. イズント・イット・ア・ビティー 5. 美しき人生 - What is Life 6. イフ・ノット・フォー・ユー 7. ビハインド・ザット・ロックト・ドア 8. レット・イット・ダウン 9. ラン・オブ・ザ・ミル Disc 2 1. ビウェア・オブ・ダークネス 2. アップル・スクラップス 3. サー・フランキー・クリスプのバ ラード 4. アウェイティング・オン・ユー・ オール 5. オール・シングス・マスト・パス 6. アイ・ディッグ・ラヴ 7. アート・オブ・ダイニング 8. イズント・イット・ア・ビティー	
	GEORGE HARRISON	バングラデ シュ・コンサート		1971年12 月20日	ロック	レコー ド	1971年8月1日にニューヨークのマジソン・スクエア・ガーデンで行なわれたチャリティ・コンサートのライブ盤。ジョージ・ハリスンの呼びかけに応じたロック・ミュージシャンによるバングラデシュ難民救済を目的としたチャリティ・コンサートの夜の部を収めたライブ盤。チャリティ・コンサートとして先駆的であるほか、ジョージ・ハリスンのキャリアの一つの最高の瞬間を捉えたものでもある。ボブ・ディラン、エリック・クラプトン、リンゴ・スター、レオン・ラッセルなどが参加。レオンラッセル2曲、ビリープレストン1曲、ジョージは主催者だから6曲、リンゴ1曲、全員で主題のバングラディッシュを歌った1曲、ラビシャンカール1曲(長いけど)そしてボブディラン5曲とジョージに次いでの曲数。全米で6週最高位第2位を獲得。	Side 1 1. イントロダクション / ジョージ、ラ ヴィ・シヤンカール 2. バングラ・デューン / ラヴィ・シヤン カール Side 2 (1〜3ジョージ) 1. ワー・ワー / ジョージ 2. マイ・スウィート・ロード / ジョー ジ 3. アウェイティング・オン・ユー・ オール 4. ザッツ・ザ・ウェイ・ゴット・ブラン ド・イット(神の掟) / ビリー・プレスト ン Side 3 1. 明日への願い / リンゴ・スター 2. ビウェア・オブ・ダークネス /	Side 4 1. ジャンピン・ジャック・フラッシュ / ジョージ 2. ヤングブラッド / レオン・ラッセル 3. ヒア・カムズ・ザ・サン / ジョージ Side 5 (1〜5 ボブディラン) 1. はげしい雨が降る 2. 悲しみは果てなく 3. 風に吹かれて 4. ミスター・タン布林・マン 5. 女の如く Side 6 1. サムシング / ジョージ 2. バングラデシュ / ジョージ
	GEORGE HARRISON	リヴィング・イ ン・ザ・マテリア ル・ワールド		1973	ロック	レコー ド	1973年6月22日に発表されたジョージ・ハリスンのオリジナル・アルバム。日本では同年7月22日に東芝音楽工業(現: EMIミュージック・ジャパン)からリリースされた。ビルボード・アルバム・チャートで5週連続1位、1973年度年間ランキング第43位、『キャッシュボックス』誌では4週連続1位を獲得し、1973年度年間ランキング47位だった。全英では最高位第8位。また、「トライ・サム・バイ・サム」は、2003年に、デヴィッド・ボウイのアルバム『リアリティ』にてカヴァーされた。	Side A 1. ギヴ・ミー・ラヴ (3:36) 全米1位。 (4:48) 2. スー・ミー、スー・ユー、ブルース (4:48) 3. ザ・ライト・ザット・ハッド・ライテッ ド・ ザ・ワールド (3:31) 4. ドント・レット・ミー・ウェイト・ トゥー・ロング (2:57) 5. フー・キャン・シー・イット (3:52) 6. リヴィング・イン・ザ・マテリアル・ ワールド (5:31) Side B 1. ギヴ・ミー・ラヴ (3:36) 全米1位。 (4:48) 2. スー・ミー、スー・ユー、ブルース (4:48) 3. ザ・ライト・ザット・ハッド・ライテッ ド・ ザ・ワールド (3:31) 4. ドント・レット・ミー・ウェイト・ トゥー・ロング (2:57) 5. フー・キャン・シー・イット (3:52) 6. リヴィング・イン・ザ・マテリアル・ ワールド (5:31)	Side B 1. ギヴ・ミー・ラヴ (3:36) 全米1位。 (4:48) 2. スー・ミー、スー・ユー、ブルース (4:48) 3. ザ・ライト・ザット・ハッド・ライテッ ド・ ザ・ワールド (3:31) 4. ドント・レット・ミー・ウェイト・ トゥー・ロング (2:57) 5. フー・キャン・シー・イット (3:52) 6. リヴィング・イン・ザ・マテリアル・ ワールド (5:31)
	GEORGE HARRISON	ダークホース		1974	ロック	レコー ド	1974年11月20日に発表される。日本では翌年2月5日に東芝EMIからリリースされた。全米4位、『キャッシュボックス』誌でも、最高位第4位を記録し、1975年度年間ランキングで69位を記録。イギリスではチャート・インを果たせなかった。多忙なスケジュールや妻パティと別居等あったためか、このアルバムでのジョージの声は荒れてしやがれており、他のアルバムと比べても別人のようである。「バイ・バイ・ラヴ」はエヴァリー・ブラザーズのカヴァー。パティと別れた悲しみを反映して取り上げたと言われている。	Side A 1. ハリス・オン・トゥアー (4:44) 2. シンプル・シェイティ (4:38) 3. ソー・サッド - So Sad (5:00) 4. バイ・バイ・ラヴ (4:08) 5. マヤ・ラヴ (4:24) Side B 1. デイン・ドン (3:40) 2. ダーク・ホース (3:54) 3. ソー・サッド - So Sad (5:00) 4. イット・イズ・ヒー(ジェイスリ・ク リシュナ) (4:50)	
	GEORGE HARRISON	ジョージ・ハリス ン帝国		1975	ロック	レコー ド	1975年9月22日に発表。遅れてイギリスでは10月3日、日本では10月20日に東芝EMIからリリース。全米3週連続最高位8位を記録し、ゴールドディスクを獲得。『キャッシュボックス』誌では、2週連続最高位第9位を獲得し、1975年度年間ランキング89位。また、全英アルバムチャートでは最高位22位。ジョージがEMI/アップルに残した最後の作品で、オリジナル盤のレーベルには、芯だけになったリンゴの絵が描かれていた。A面1曲目の「二人はアイ・ラヴ・ユー - You」は、ロニー・スペクターのために1971年に書き下ろしたが、未発表に終わる。ジョージは、ロニーに提供されたベース・トラックのテープの回転数を変え、自分のリード・ボーカルと一部楽器のオーバーデューブを加えて、本作に収録した。	Side A 1. 二人はアイ・ラヴ・ユー You (3:41) 2. 答は最後に The Answer's At The End (5:32) 3. ギターは泣いている This Guitar (Can't Keep From Crying) (4:10) 4. ウー・ベイビー、わかるかい (You Know That I Love You) (4:08) Side B 1. 君を抱きしめて A Bit More Of You (0:45) 2. つるの想い Can't Stop Thinking About You (4:30) 3. 哀しみのミッドナイト・ブルー Tired Of Midnight Blue (4:51) 4. 暗い偽り Gray Cloudy Lies (3:41)	Side B 1. 君を抱きしめて A Bit More Of You (0:45) 2. つるの想い Can't Stop Thinking About You (4:30) 3. 哀しみのミッドナイト・ブルー Tired Of Midnight Blue (4:51) 4. 暗い偽り Gray Cloudy Lies (3:41)
	GEORGE HARRISON	サーティ・ス リー・アンド・ワ ン・サード		1976	ロック	レコー ド	1976年発表。全米11位／全英35位。世界中のビートルズ・ファン、ジョージ・ハリスンを愛するひとびとにとって垂涎のフロダクツ。アメリカ・ナイズされたサウンドが新鮮な響きを放つソロ7作目はダーク・ホースからの第1弾。全米25位にランク・インした「ジス・ソング」、コール・ポーターの楽曲をとりあげた「トゥルー・ラヴ」、憧れの俳優だったロード・バックリーに捧げた「人生の夜明け」はプロモーション・ビデオも制作された。アルバム・タイトルはレコードの回転数を意味するとともにジョージの当時の年齢をかけたもの。	Side A 1. 僕のために泣かないで Woman Don't you Cry For Me (3:18) 2. ディア・ワン (5:08) 3. ビューティフル・ガール (3:39) 4. ジス・ソング (4:13) 5. シー・ユアセルフ (2:51) Side B 1. イット・ホワット・ユー・ヴァリュウ (5:07) 2. トゥルー・ラヴ (2:45) 3. ビュー・スモークー (3:56) 4. 人生の夜明け Crackerbox Palace (3:57) 5. 愛のでてて Learning How To Love You (4:13)	Side B 1. イット・ホワット・ユー・ヴァリュウ (5:07) 2. トゥルー・ラヴ (2:45) 3. ビュー・スモークー (3:56) 4. 人生の夜明け Crackerbox Palace (3:57) 5. 愛のでてて Learning How To Love You (4:13)
	GEORGE HARRISON	慈愛の輝き (じあいのかが やき)		1979年2 月14日	ロック	レコー ド	ダークホースレーベル期に出されたアルバムの中でも、地味ながら高い人気を誇るアルバムがこの「慈愛の輝き」。後の「クラウド・ナイン」よりもとっつきにくさがあるのかもしれないが(全体的にかなり甘いアレンジが施されている)。けれど、ジョージが作る音楽を好きな方は、きっとこのアルバムの中に生涯のお気に入り楽曲を何曲か見つけと思う。というより所謂「捨て曲」が一つもない。B面「Faster」は走行音で始まるキャッチーなタイトルで抑揚感UPの楽しいタイトル。全米14位、全英39位。	Side A 1. 愛はすべての人に(Love Comes to Everyone)4:36 2. ノット・ギルティ 3:35 3. ヒア・カムズ・ザ・ムーン 4:48 4. ソフト・ハーテッド・ハナ 4:03 5. ブロー・アウェイ 4:00 Side B 1. ファースター 4:46 2. ダーク・スウィート・レディ 3:32 3. 永遠の愛(Your Love Is Forever) 3:45 4. ソフト・タッチ 3:59 5. イフ・ユー・ビリーヴ 4:54	Side B 1. ファースター 4:46 2. ダーク・スウィート・レディ 3:32 3. 永遠の愛(Your Love Is Forever) 3:45 4. ソフト・タッチ 3:59 5. イフ・ユー・ビリーヴ 4:54
	GEORGE HARRISON	想いは果てなく 〜母なるイング ランド		1979年2 月20日	ロック	レコー ド	当初のオリジナルでは売れないどの烙印を「ワザー」側に押され数曲を差し替えられた末に発売されたというエピソードのアルバム。ジョンへの追悼を歌にした「過ぎ去りし日々」は誰よりも早くこのことを歌いあげた曲でジョージのジョンへの思いが込められています。また、という皮肉か、差し替えられたオリジナル曲が没にするには余りに惜しい佳曲揃い。さらに言えば「サット・シンキング」「フライング・アワー」などはジョージ屈指の名曲だろう。だからと言って代わりに採用された曲の出来が悪いと言えば、1、や4などはアルバム中の骨格を形成し得る外せない曲と言える。1はイントロからついにジョージもニューウェーブか？と思わせながら、ワナーへの一矢を報いた痛快なメッセージのテンポ良いジョージらしい転調の小気味よいメロディで、やはりイントロでデスコか？と思わせた前々作のアメリカンテイストの「Thirty Three & 1/3」を意識したような使い方が面白い。ポール唯一の公式客演も話題だった4もシングル・ヒット(全米2位)して、これがあるからアルバムも久しぶりに売れた(全米11位)とも言える訳であり、逆にこの2曲がお蔵入りだったならば、どうかと考えればやはり先の2曲同様に惜しまれるように思う。そう考えると、同じ作者のカバー曲を2曲を入れているが、オリジナル曲がこれ程高水準ならば取り敢えずこれらはお蔵入りでも良かったような気がする。そして、このアルバムでの揺るぎない核は10なのだと思う。このアルバム・タイトルの如くイギリスの何処かで、ジョージは世界の趨勢を憂いているんだろうな、と思わされる。曲の作りが、大きなテーマに相応した仰々しく大げさなアレンジにはならず、何かお伽噺っぽいトーンの軽い音響のスカのテイストも感じるポップでわかり易いメロディだったのが、重々しくなく逆に思いが伝わってくる。前作辺りからスライド・ギターの線が極端に細くそれも不要に思える程手数が多いのだが、それが曲の印象を損ねているようにも思われ、今作では特に顕著なのが残念である。ただ、この時期のジョージはお蔵入りの曲も含めて、メロディメーカーとしての復調が見て取れ、特に前作ではもう捻り足りない一本調子のメロディが残ったのだが、多くの曲でジョージらしい展開に戻っている。	Side A 1. フラッド・フロム・ア・クローン4:03 2. 空白地帯(Unconsciousness Rules) 3:35 3. ライフ・イットセルフ 4:25 4. 過ぎ去りし日々 (All Those Years Ago) 3:45 5. パルチマア・オリオール 3:57 Side B 1. ティアードロップス 4:07 2. ザット・ホウィッチ・アイ・ハヴ・ロ スト 3:47 3. 神のらくがき(Writing On The Wall) 4:00 4. ホンコン・ブルース 2:55 5. 世界を救え(Save the World) 4:54	Side B 1. ティアードロップス 4:07 2. ザット・ホウィッチ・アイ・ハヴ・ロ スト 3:47 3. 神のらくがき(Writing On The Wall) 4:00 4. ホンコン・ブルース 2:55 5. 世界を救え(Save the World) 4:54
	GEORGE HARRISON	ザ・ベスト・オ ブ・ジョージ・ハ リスン		1976	ロック	レコー ド	1976年11月8日に発表されたジョージ・ハリスンのベスト・アルバムである。日本では同年12月20日にリリースされた。A面にビートルズ時代の彼のオリジナル曲7曲、B面にビートルズ解散後のシングルヒット曲6曲が収録されている。同時期にはマッカートニー以外のメンバーのベスト・アルバムが相次いでリリースされたが、レノンの『シェイヴド・フィッシュ』やスターの『想い出を映して』がどれもソロ時代のヒット曲から構成されていたのに対し、ハリスンのアルバムだけがビートルズ・ナンバーを交えた選曲となっていた。こういったソロ・アーティストとしてのキャリアを踏みにじるような選曲や、あたかもダーク・ホース・レーベルからの移籍第1弾アルバム『33 1/3』のセールスを妨害しようとしているかのような発売日設定にハリスンは当時、激怒したといわれている。『ビルボード』誌アルバム・チャートでは、最高位第31位を記録。『キャッシュボックス』誌では、最高位29位を記録	Side A 1. サムシング - Something (3:02) 2. 恋をするなら - If I Needed Someone (2:24) 3. ヒア・カムズ・ザ・サン - Here Comes The Sun (3:07) 4. タックスマン - Taxman (2:38) 5. 噓つきや - Think For Yourself (2:21) 6. フォー・ユー・ブルー - For You (4:08) Side B 1. フェイス 2. ファザー・フィギュア 3. アイ・ウオント・ユア・セックス (Part1 & 2) 4. ワン・モア・トライ 5. ハード・ディ	
	GEORGE MICHAEL	フェイス		2013年7 月24日	ポップス	CD	本作は、ジョージ・マイケルがワム！を離れて制作したソロ・デビュー・アルバム。ポップな感覚、R&Bテイスト、アダルト・コンテンポラリーに通ずる内容などあらゆる音楽要素を包括し、彼が国際的なスーパー・スターとなった記念碑的な作品。白人アーティストとして史上初全米ブラックアルバム・チャートでNo.1を獲得! ビルボード年間アルバム、シングル1位!	1. ジェイズ・トゥ・ア・チャイルド 2. ファストラヴ 3. オルダー 4. スピーニング・ザ・ウィール 5. イット・ダズント・リアリー・マター	6. ハンド・トゥ・マウス 7. ルック・アット・ユア・ハンズ 8. モンキー 9. キッシング・ア・フール 10. ア・ラスト・リクエスト(アイ・ウオ ント・ユア・セックス Part3)
	GEORGE MICHAEL	オルダー		2004年3 月15日	ポップス	CD	「ワザー」第1弾アルバム「愛の間のジレンマ」のどの権利を誰に与えるかで2004年11月20日に「Prejudice vol.1」になります。 “Too Funky”など、ちょこちょこ楽曲をリリースしていたとは言え、やはり6年という期間は長い。この期間の苦悶や忍耐といった人生経験が、本作の音楽にも反映されえいと感じます。 全体的に、2ndよりも深い内面を投影したような楽曲で、知的で美しい作風。 恐ろしいまでの集中力・ストイックさが、最初から最後まで貫かれており、超人的に思えます。 2ndにあった重く暗く崇高な雰囲気を変えたバラード(1) “Jesus to a Child”から幕開け。 Funkyなダンスチューン(2) “Fastlove”は、本作の目玉といっいいでしょう。浮遊感のあるSaxにSIMPLY REDのような感覚があります。 他、優雅さと憂鬱が溶け合った Jazz Vo風の逸品(3) “Older”、独特な妖艶さと官能が心地よいレゲエ(4) “Spinning the Wheel” ミステリアスな雰囲気にも幻惑される(6) “The Strangest Thing”、Sade Aduが歌っても合いそうなる苦バラード(10) “You Have been Loved”、 などなど、 George Michaelでないとい作れないような楽曲が満載なアルバムです。	1. ジェイズ・トゥ・ア・チャイルド 2. ファストラヴ 3. オルダー 4. スピーニング・ザ・ウィール 5. イット・ダズント・リアリー・マター	6. ハンド・トゥ・マウス 7. ルック・アット・ユア・ハンズ 8. モンキー 9. キッシング・ア・フール 10. ア・ラスト・リクエスト(アイ・ウオ ント・ユア・セックス Part3) 11. フリー

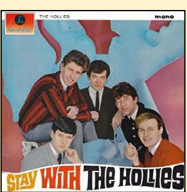
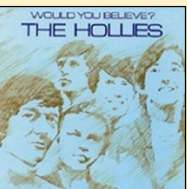
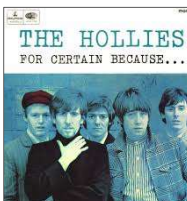
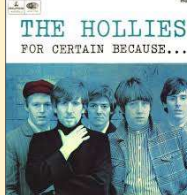
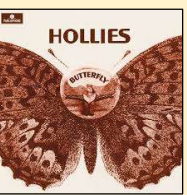
GEORGIE FAME	イエー・イエー 〜20ビート・ク ラッシュクス		1983	ロック	CD	オックスフォード・モーツァルの光栄者、ジョージ・FAMEが英ポピュラー・ミュージックに残した作品からセレクトされたベスト・セレクション。彼のセカンドとサードアルバムからのナンバーを中心にシングル盤を集めたモッド期のベスト盤。一曲目の「イエィ」からモータウンやノーザン・ソウルのカバー曲まで、ジョージ自らシングルをリリースしている曲とあって、演奏はもちろん、選曲が素晴らしい！全英1位シングル「イエー・イエー」や、テンプテーションズの「マイ・ガール」、ジェームス・ブラウンの「ハバのニューバック」、マーヴィン・ゲイの「ブライド&ジョイ」のカヴァーほか収録。モッズとは本来モダン・ソウルやクール・ジャズ的なサウンドで週末の夜にタバコの煙が充満するクラブで演奏し盛り上げていた人達を言う。このアルバムにはGEORGIE FAMEのオリジナル曲はあまり収録されておらず、テンプテーションズやジェームス・ブラウンといったモータウン・スタックスを代表するソウルシンガーのカバーを中心にBOOKER T&THE MG'SのGREEN ONIONSのインストナンバーもきっちり収録してて居ますが、ハモンドの音はそんなに前面に出ておらずボーカルを前面に出してて、決してソウルフルな歌い方ではなくソフトな感じで非常にガッツとソウル溢れる一枚！この盤の思い出がふかふか懐かしい。	1.イエー・イエー (MONO) 2.ゲッタウェイ (MONO) 3ド・レ・ミ (MONO) 4.マイ・ガール (MONO) 5.スウィート・シングス (MONO) 6.ポイント・オブ・ノー・リターン (MONO) 7.ゲット・オン・ザ・ライト・トラック・ベイビー (MONO) 8.ライド・ユア・ボニー (MONO) 9.ムー・デイズ・ムード・フォー・ラヴ (MONO) 10.ファンニー・ハウ・タイム・スリッパ・	11.サニー (MONO) 12.シッティング・イン・ザ・パーク (MONO) 13.グリーン・オニオン (MONO) 14.イン・ザ・ミーンタイム (MONO) 15.ハバのニュー・バック (MONO) 16.ブルー・マンディ (MONO) 17.ブライド&ジョイ (MONO) 18.ピンク・シャンペーン (MONO) 19.ピット・ザ・サンシャイン・イン (MONO) 20.アイ・ラヴ・ザ・ライフ・アイ・リヴ (MONO)
GILLAN	フューチャー・ ショック		1981	ハード ロック& ヘヴィメ タル	レコー ド	81年作、ギランの通算4作目となったアルバムで、彼等の最大のヒット作となった1枚です。N.W.O.B.H.M.の爆りの中で、バーブル・ファミリーであるRAINBOW、WHITESNAKEが躍進していた中、このGILLANの人氣は本国イギリスでは最も高かったと言えると思います。日本ではイアン・ギランのワイルドな風貌や歌唱がどうも相容れないものがあつたのか、リッチーの様式美、デビカバのセクシーさ、ポップさの方が人氣がありました。ただ幅広い音楽性、プログレッシヴなバンド・サウンド、そして当時のメタルとして最もスピード感があつたのは、実はこのギランであつたところがある本当であつたという気がします。奇妙なイラストがすごくなる本作ですが、内容の方はかなり聴き応えのあるものとなっています。前作の「GLORY ROAD」が全英3位、本作が2位という人氣の高さは、バーニー・トーマのクールなヴィジュアルとバラエティに富んだナンバーに合わせた的確なプレイをする器用さ、そしてスぺーシーに駆け回るコリン・タウンズのキーボード、タフでタイトなジョン・マッコイとミック・アンダーウッドのリズム隊の貢献度もかなり大きかったと思います。各メンバーがそれぞれソング・ライティング能力に長け、イアンのロックンローラーとしてのセンスを生かすのが巧かった事も見逃せません。バーブルを洗練させた様なバフフルなメタル・ナンバーとなったアルバム・タイトル曲、超スピード・ナンバーの「SACRE BLEU」等はギランの本領発揮となつたもので、同時代の後続バンドに負けないメタル度を感じさせるのは、そうしたバンドの協調性の良さが生んだものだと思います。フィンガー5、あるいはキョンキョンの「学園天国」の元ネタとなったゲイリー・U.S.・ボンドのカヴァー、「NEW ORLEANS」はまさにイアンにうってつけのナンバーとなり、「NO LAUGHING IN HEAVEN」ではラップに近い唱法まで披露する等、このバンドならではのユニークさも聴きどころとなっています。オリジナル盤のラスト曲となるのは、アルバム中最もメロディアスな「FOR YOUR DREAMS」。ミステリアスな雰囲気を持つたナンバーですが、すでに80年代メタルを見越したモダンさを感じさせ、このバンドの奥深さを感じ知らされます。	Side A 1. Future Shock 3:06 2. Nightride Out Of Phoenix 5:06 3. The Lucitania Express 3:10 4. No Laughing In Heaven 4:58 5. Sacre Bleu 3:03 6. New Orleans 2:37	1. Bite The Bullet 4:50 2. If I Sing Softly 6:10 3. Don't Want The Truth 5:40 4. For Your Dreams 5:04
GILLAN	Double Trouble (ダブル・トラ ブル)		1981年	ハード ロック& ヘヴィメ タル	レコー ド	ギラン名義では通算5作目。スタジオ録音の新曲による1枚と81年の最新ライブによる1枚の2枚組みで発表された作品。前作発表後にバーニー・トーマが脱退。新たにヤニック・ジャーズ(g)が参加している。(カプリングされたライブ盤はバーニーが参加した最後の音源となっている。)ソングライティングの要の一人であつたバーニーの穴は他のメンバーが埋めているが、新加入のヤニックが関わっているのは4.のみ。おそらくは彼が参加する以前に多くの楽曲が書かれたのだろう。 1. はエコーの加減もあつたかやたらとスケール・アップしたかのようなサウンドが新鮮。大地を揺るがすかのようなドラムス、フュージョン寄りのトーンで爽やかに弾きまくるギター、そして何よりもギラン自身のヴォーカルが一味違う。まるでロバート・プラントみたいである。ハード・ロックとしても一皮剥けた印象があるが、明らかにZEPを意識していると思う。まさにZEPに肉薄する完成度の高い一曲である。2. も思いっきりZEPを意識しているが、今までにないほどポップ、そしてキャッチーな仕上がりを見せており、明らかにヒット狙いの一曲だろう。ハードなギターにきらびやかなシンセと目から鱗が落ちるような佳曲である。3. は思いっきりパワー・ポップ路線の一曲だが、ギランのヴォーカルのロバート・プラント風味によってハード・ロック路線をキープしている。いかにも80年代なシンセ・リードにビックリ。どこかレコーズを思わせるギターも素晴らしい。ギタリストの交代もあったが、それ以上に他のメンバーの変化も大きい。特にギランのヴォーカルはロバート・プラント路線に変化しており、楽曲もどちらかと言えば今までは軽めだったものが、一気に重量感を増しておりギランの作品の中でも一皮剥けた印象を受ける。ハード・ロックの作品としては間違いない超一級であり必聴盤だろう。前作までとは全く質感が異なるので注意。ライブ盤の方は良い意味で70年代を引きずつたような音質ながらギランのヴォーカルがややオフ気味になっているのがちょっと残念。単独のライブ盤として発表されなかつたのはこれが原因かも。	Side A 1. I'll Rip Your Spine Out -4:30 2. Restless -3:19 3. Men Of War -4:31 4. Sunbeam -5:11 Side B 1. Nightmare -3:15 2. Hadely Bop Pop -2:50 3. Life Goes On -4:12 4. Born To Kill -9:28	Side C 1. No Laughing In Heaven -6:24 2. No Easy Way -10:32 3. Trouble -3:04 Side D 1. Mutually Assured Destruction -5:13 2. If You Believe Me -8:26 3. New Orleans -5:54
G.I. ORANGE	サイキック・マ ジック		1985	ロック	レコー ド	1984年当時、CBS・ソニーが独自に企画し売り出した和製洋楽アイドル・グループ、カール(ヴォーカル&ギター)、マーク(キーボード)、サイモン(ベース)の3兄弟&ギャリー・ホル(ドラム)の4人組。1985年にはCBS SONYよりシングル「涙でブレイク・アウェイ(Fight Away The Lover)」にて日本デビューを果たし、同年デビューアルバム「サイキック・マジック」とミニ・アルバム「ウィンター・ワンダーランド」をリリース。アルバムからセカンド・シングル「サイキック・マジック」は5週間1位を獲得し、人気番組「タヤけニヤンニヤン」のテーマ曲としても使用された。当時、日本の音楽番組にも多数出演し、アルバムはトータル10万枚のセールスを記録したほどの人氣があつた。1986年には5枚目のシングル「テイク・ミー・トゥ・ユア・リーダー」を発売。この曲はTV・CMにも採用されたが、このシングルを最後に、各メンバーの方向性の違いでバンドは活動し、デフ・レバード等と話題の中心核にいましたが、その音楽性とヴィジュアルは明らかに他のバンド勢とは毛色が違つていて、特にルックスで女子人氣を高めました。オープニングを飾る「HOLLYWOOD TEASE」の荒々しい疾走感とキャッチーなメロディだけは、誰もが無視できないインパクトを持っていた。フィリップ・ルイスとフィル・コリンの共作によるこの超名曲こそが彼等の伝説の源であり、結果的にはバンドのピークとなつてしまつた。KISSの「DO YOU LOVE ME」という的確なカヴァーも光りますが、アルバム全体は当時のメタルの熱気とは違う素晴らしい感じがしました。プロデュースは、クリス・タンガリーディスとニック・タウバーで、この二人はTHIN LIZZYの名盤をプロデュースしている事で有名。本作収録の「TAKE ME DANCING」はまさにリジー・ソングと言えるナンバーとなっています。レゲエ・ビートの大胆な導入がミステリアスな「PASSING CLOUDS」、バンキッシュな「LOVELY LORRAINE」、英国ニュー・ウェーブ風の驕りが目立つ「STRAWBERRIES」等、かなりバラエティに富んだ曲調がユニーク。この辺はもう一人のギタリストであり、後にSHEER GREEDをバンド名にして活動するジェリー・ラフィーのセンスが強い様です。「MY NUMBER」や「HEARTBREAK AMERICA」といったメタリックな感觸も当然有るのですが、とにかくハリウッド・ティーズの強烈な印象がずっと頭に残るのも事実です。改めて聴くとグラム・メタルという言葉が実に良く似合うアルバムで、ファッションだけでなくサウンドにも独特の妖しさがあつたのがやはり個性的。デフ・レバード(フィル・コリンズ)、LAガンズ(フィリップ・ルイス)のメンバーがいたバンド、といった語り口で終わらせるには実に忍びないアルバムで、1980年という激動の時代、何かわからないけど確実に新しいモノが登場してきた、という空気が痛い程突き刺さつてくる傑作！	Side A 1. トウー・レイト 3:44 2. ツー・ハーツ・ビート・アンダー・フ ルーフ 3:25 3. ダンス・マイ・ソウル 4:55 4. ストロベリーズ 5. リトル・ミス・アン 6. ドクター・ドクター Side B 1. ハリウッド・ティーズ 2. ザ・シングズ・ユー・セイ 3. ラヴリー・ローレイン 4. ストロベリーズ 5. リトル・ミス・アン 6. ドクター・ドクター	Side B 1. サイキック・マジック 3:07 2. チャース・オブ・サバイバル 4:13 3. ワン・グッド・キス 2:28 4. バッシング・クラウド 4:19 5. アイ・ドント・ウォント・ユア・ イエスタディズ 3:51
GIRL	シアー・グリー ド		1980	ハード ロック& ヘヴィメ タル	レコー ド	82年作、グラム・メタルの元祖と言え伝説的バンド、ガール・オセガダ・アルバムにじて最終作。前作の「SHEER GREED」は、男臭いN.W.O.B.H.M.シーンに女性ファンを取り込むヴィジュアルと妖しいポップ・センスで大ブレイク。しかし、ガールはプロダクション側と悪戦苦闘し最終的には崩壊してしまう。元々グラム、パンクからの影響が強い音楽性がバンドの大きな強みの一つであつたが、マーケティングの制約を狙つたJETはガールにメタル・アルバムを要求しており、バンド側は自らの個性を生かす選択をするが、結局プロデューサーにレベール側から押し付けにより、GIRLの魅力を無難なサウンド・プロダクションでスポイルしてしまい、結果的にガールの魅力が薄れ中途半端なハードロックに仕上がつてしまう。新加入のドラマー、ブライソン・グラハムが持ち込んだ「Ice In The Blood」では、初期のJAPANのファンクとハード・ロックが融合した様なグルーヴを見せているところが見逃せない。また「Old Dogs」では当時のNEW WAVE BANDを彷彿させる酒落つ気を展開していたり、スリージーな「Nice 'N' Nasty」、強烈なバグをかます「Overnight Angels」等、バラエティに富んだ内容が、当時としては革新的だと思われる。「Hollywood Tease」の様な強烈なフックはもう見当たらなかつた。結局はフィル・コリンがDEF LEPPARDに引き抜かれた事により解散を余儀なくされ消滅してしまい、時代に散つた徒花としての独特の嬌さは、今聴いても胸がときめくものがある。	Side A 1. Thru' the Twilite 2. Old Dogs 3. Ice in the Blood 4. Wasted Youth 5. Standard Romance	Side B 1. Nice 'N' Nasty 2. McKitty's Back 3. 19 4. Overnight Angels 5. Sweet Kids
GIRLSCHOOL	暁のメタルク イーン(デモリッ ション)		1980	ハード ロック& ヘヴィメ タル	レコー ド	80年作、ガールスクールの記念すべきデビュー・アルバム。MOTORHEADの妹分としてもその実力を発揮し続けた。MOTORHEAD同様爆走型ロックンロールというイメージが強いが、初期の彼女達はよりバンキッシュ、ガレージ・ロック、あるいはパブ・ロック的なサウンド。プロデュースを務めたダック・メイルのシンプルかつバフフルにまとめる手腕がかなり貢献度大と思われる。ライブ・バンドとしても優れていた彼女達の良い意味でのチープさリリッピンに生かされている。「Race With The Devil」のみカヴァーとなり、残る全てのナンバーがメンバーによるオリジナル。一本調子にならないリフ・メイカーぶりも彼女らの優れているところでもある。また、リード・ヴォーカルが3人いたのも特徴的と言えますが、正直それぞれの声の区別がなかなかつかみません。	Side A 1. Demolition Boys 2. Not For Sale 3. Race With The Devil 4. Take It All Away	Side B 1. Nothing To Lose 2. Breakdown 3. Midnight Ride 4. Emergency
GIRLSCHOOL	ヒット・アンド・ラ ン		1981	ハード ロック& ヘヴィメ タル	レコー ド	アメリカでのデビュー・アルバムとなった、セカンド・アルバム。前作に引き続き、プロデュースはヴィック・メイルが担当。この人はモータヘッドを始め、DR. FEELGOOD等、ソリッドなギターをライブ感覚溢れるサウンド・プロダクションでまとめる名手ですが、本作でも女性らしい線の細さを感じさせないゴリゴリ系メタルとしています。汗臭さと土埃が舞っているようなZZ TOPの「TUSH」のカヴァーを収録しているのも、そんな狙いがあったのかもしれないが、とにかくオリジナル曲がカッコ良すぎます。しっとりしたリフを持つ典型的NWOBHMソングと、パンクの荒々しさを残す疾走型ナンバーが両立しているのですが、リード・ヴォーカルを3人で担当していたため、それぞれの個性も生かされているんだと思う。キャッチーなリフとバンキッシュなバンド・サウンドが疾走する本作がシンプルで最も熱かったところで「THE HUNTER」やアルバム・タイトル曲等は、今聴いてもゾクゾクする程妖しい色気を放っている。	Side A 1. カモン・レッツ・ゴー 2. ハンター 3. (アイム・ユア)ヴィクティム 4. キック・イット・ダウン 5. フォロウイング・ザ・クラウド 6. タッシュ Side B 1. ヒット・アンド・ラン 2. ハンター 3. (アイム・ユア)ヴィクティム 4. キック・イット・ダウン 5. フォロウイング・ザ・クラウド 6. タッシュ	Side B 1. ヒット・アンド・ラン 2. ウォッチ・ユア・ステップ 3. バック・トゥ・スタート 4. イエー・ライト 5. フューチャー・フラッシュ
GO- BETWEENS(ゴ ー・ビトウィーン ズ)	Tallulah		1987年6 月	ニュー ウェイブ	レコー ド	人氣の「RIGHT HERE」、「BYE BYE PRIDE」収録！Flipper's Guitarも影響を受けたギターポップ・バンド、GO-BETWEENSの87年作。	Side A 1. Right Here -3:50 2. You Tell Me -3:35 3. Someone Else's Wife -4:07 4. I Just Get Caught Out -2:13 5. Cut It Out -3:55	Side B 1. The House That Jack Kerouac Built -4:46 2. Bye Bye Pride -4:04 3. Spirit Of A Vampire -3:53 4. The Clarke Sisters -3:16 5. Hope Then Strife -4:59
GO GO'S	ビューティ・アン ド・ザ・ビート		1981	ガールズ バンド	レコー ド	アメリカの女性ロック・バンド、GO-GO'Sの1981年リリースのデビュー・アルバム『BEAUTY & THE BEAT』がヴァイナル・リイシュー。「WE GOT THE BEAT」や、OUR LIPS ARE SEALED”を収録、200万枚を超えるセールスを記録した史上最も成功したデビュー・アルバムの一つと言われている。「アメリカのニューウェーブの礎となるアルバム」と評される歴史的作品。	1. 泡いっばいの恋 2. ハウ・マッチ・モア 3. トウナイト 4. ラスト・トゥ・ラヴ 5. この街のビート	6. ウィ・ガット・ザ・ビート 7. フェイディング・ファースト 8. 自動的意識 9. イン・ユア・スリープ 10. スキッドマークス・オン・マイ・ハート 11. キャント・ストップ・ザ・ワールド

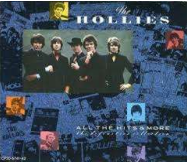
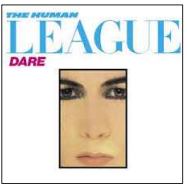
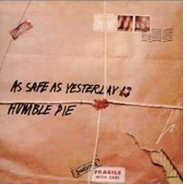
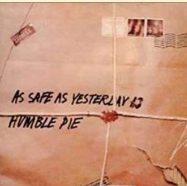
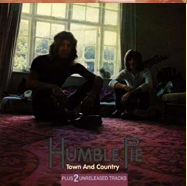
GO GO'S	ヴァケーション		1982	ガールズ バンド	レコー ド	82年に発表された彼女たちにとって2枚目のアルバム。前作にて「ガールズ・グループ」として初めてのNo1を獲得した勢いをそのまま持ち込んだ意欲作で、この頃日本ではスズキ自動車のCMに出演来日公演も行う等 彼女らの知名度・人気もグッと上がった。前作でのPunkのフィーリングでオールレディースの影響を垣間見せる楽曲をキャッチーなメロディー構成によってPopフィールドを引き寄せた感覚は希薄で、Pop寄りに大きく歩み寄った楽曲が賛否両論を呼んだ。それでも疾走感溢れるストリートなR&R #5やジャングル・ビートを彼女たちなりに昇華した#7、The Capitolsのオールレディースカバー・#9、スマッシュ・ヒットした#1と聞くべき所も多い。特に#1はそのタイトルやジャケット、曲調から夏を待ち焦がれる青春讃歌と思われがちだが、「あなたが行ってしまっても私は一人 ヴァケーションなんて早く終われば良いのに」とビターな歌詞を乗せている所が一筋縄では行かない彼女たちらしい所だ。	1. ヴァケーション 2. 不思議な恋のプリズナー 3. 私の好きな100のリスト 4. ウィドント・ゲット・アロング 5. イッツ・ミー 6. パーティータイム	7. ゲット・アップ・アンド・ゴー 8. 素敵なオール・ド・フィーリング 9. クール・ジャーク 10. 恋はダンスで 11. ビートニック・ピーチ 12. ワールズ・アウェイ
GRAHAM BONNET	孤独のナイト・ゲームス		1981	ハード ロック & ヘヴィメ タル	レコー ド	81年作、レインボー脱退後のグラハム・ボネットが、その動向が注目される中発表したソロ作です。バックにはコージー・パウエル、WHITESNAKEのミックキー・ムーディー、ジョン・ロードという布陣となっています。当時このメンバーでバンド結成の話もあった様ですが、ご存知の様にグラハムはコージーに誘われる様にしてMSGへ、コージー自身はWHITESNAKEへと参加する事になります。そのハード・ロック界激動の時代と言える狭間の中で、本作は宙に浮いた感もありますが、グラハムのヴォーカリストとしての資質を知るには見逃せない枚です。ラス・バラード作のオリジナル曲、キンクスやチャック・ベリー、ロネッツのカヴァーを含めながら、ハード・ポップ、ポップスまでもこなしてしまう上手さを改めて思い知らされます。日本では西城秀樹がカヴァーした事で有名な「ナイト・ゲームス」も、グラハムのキャリアの中では重要曲となりました。アメリカン・ブ로그レ・ハードを思わせる「S.O.S.」や、ミックキー・ムーディーとステイタス・クォーの作詞家として有名なボブ・ヤングの共作曲、「二人の終」等、名曲が裏に多く含まれている1枚で、60年代後半にグラム・パーソンズの参加したフライング・バリット・ブラザーズ(ある意味ハースより凄い!)と、70年代の傑作ソロ2枚の隙間を埋めるアンソロジー集。70年初頭にフライング・バリット・ブラザーズを離れる直前に録音した9曲と遺作『グリーヴァス・エンジェル』のアウトテイク3曲からなる編集盤。アウトテイク3曲はいずれもエミルー・ハリスとのデュエットでミックスが終わる前にパーソンズが亡くなったため採用されなかった経緯がある。FBBとしての録音の方ではマール・ハガードやバック・オウエンズのカヴァーの他、盟友キース・リチャーズとミック・ジャガー作の「ホンキー・トック・ウィメン」を取上げている。グラムやエミルー・ハリスの黄金色のハーモニーが時代を越えて、今も胸に突き刺さります。グラム・パーソンズと初期のエミルー・ハリスのファンは必聴盤です。この盤でしか聴けないいくつかのミックスがあります。		
GRAM PARSONS (THE FLYING BURRITO BROS)			1976	ロック	レコー ド		Side A 1. Brand New Heartache 2. Tonight The Bottle Let Me Down 3. Sing Me Back Home 4. Your Angel Steps Out Of Heaven 5. Crazy Arms 6. Sleepless Nights	Side B 1. Close Up The Honkey 2. Together Again 3. Honky Tonky Woman 4. Green, Green, Grass Of Home 5. Dim Lights 6. The Angels Rejoiced Last Night
GRAM PARSONS	(デジパック仕様BOX)アンソロジー		2001	ロック	CD	米ライノ・レーベルからのグラム・パーソンズの2枚組ベスト。65年に結成したインターナショナル・サブマリン・バンド、ハース、フライング・バリット・ブラザーズ、フォールン・エンジェルズ、そしてソロと、73年に26歳の若さで亡くなるまでの音楽活動を集大成したものだ。カントリー・ロック、といえぱすぐグラム・パーソンズの名前が出てくるほどで、短い生涯ながら彼が残した功績の大ききというのはとくに自明の理となっている。たとえば表現力のあるヴォーカル、ソングライティングなどは、近年のカントリー・チャートで猛威をふるっているのと比べものにならないほど個性的だちょっと強引な比較か)。まあカントリーだのロックだのを越えて革新的だったのはもちろん、ルックスにもにじんでいる繊細さとかも魅力で、とにかくこの人の音楽には精神的にひかれる部分も多い。だから彼が見出したエミルー・ハリスも立派に育っている。グラムはハースの『ロデオの恋人』(’68)に参加し、カントリーロックを創り上げた人物として紹介されることが多いが、彼の狙いはカントリーとソウルをミックスしたオールタナティブな音楽を生み出そうとしたところにある。	ディスク: 1 1ブルー・アイズ 2真珠の舟 3僕の淋しさを知って 4お前の知ってる誰か 5ミラズ・ケイヴ 6ニュー・ディープ・イン・ザ・ブルース 7ソッコー・ウインド 8思い焦がれて 9クリスチャン・ライフ 10涙の溜れるまで 11100年後の世界 12悪女之歌 13シン・シティ 14ドゥ・ライト・ウーマン 15ダーク・エンド・オブ・ザ・ストリート 16ウィールズ 17ジュニア 18ホット・バリット#1 19ホット・バリット#2 20ハイ・ファッション・クween 21オールダー・ガイズ 22コーディー、コーディー 23リトル・ホーネーズ 1.アー・ユー・レディ 2.エニバデイズ・アンサー 3.タイム・マシーン 4.ハイ・オン・ア・ホース 5.T.N.U.C.	ディスク: 2 1ラヴ・サムバディ 2スティル・フィーリング・ブルー 3ウィル・スウィープ・アウト・ジ・アツ シェズ・イン・ザ・モニング 4・ソング・フォー・ユー 5ストリート・オブ・バルティモア 6シー 7ニュー・ソフト・シュエ 8キス・ザ・チルドレン 9ハヴ・マッチ・アィヴ・ラйд 10ドラッグ・ストアートラック・ライ ヴィン・マン 11ザッツ・オール・イット・トゥック12カ リフォルニア・コットン・フィールズ 13リターン・オブ・ザ・グリーヴァス・ エンジェル 14ハーツ・オン・ファイヤー 15プラス・ボタズ 161000ダラー・ウェディング 17ラヴ・ハーツ 18ウー・ラスヴェガス 19イン・マイ・アワ・オブ・ダークネス 20.グランド・ニュー・ハートエイク 6.イントゥ・ザ・サン 7.ハートブレイカー 8.コールド・ユアセルフ・ア・マン 9.キャント・ビートゥー・ロング 10.アッブス・アンド・ダウンス
GRAND FUNK RAILROAD	グラランド・ファンク・レイルロード登場		1969	ハード ロック & ヘヴィメ タル	レコー ド	69年作。記念すべきG.F.R.のデビュー。69年というロック界にとっては黄金の年、イギリスで旋風を巻き起こしていたプリティッシュ・ハードの煽りを吹き飛ばすかの様な勢いをしています。荒削りながらゴツゴツした感触と、突き抜ける様なバワフルなサウンドは、間違い無く以降のアメリカン・ハードのお手本にもなっていたと思います。ディーブ・バーブルにも影響を与えたと言われている彼ヴァニラ・ファッジ、メタルだけではなくパンクの開祖ともされるブルー・チアーは、G.F.R.よりも一足先にデビューしていますが、陽性の爆発力をとことん突き詰めたという意味では本作の登場の意味も大きかったと思われます。サイケ、ガレージの影響の強い前身バンド、テリー・ナイト&ザ・バックのメンバーを中心に結成されたこのパワートリオ、日本ではツェッペリンもぶっ飛んだ超大型新人バンド、として紹介されたそうです。		
GRAND FUNK RAILROAD	グラランド・ファンク・レイルロード登場		1969	ハード ロック & ヘヴィメ タル	CD	確かに「T.N.U.C.」の壮絶なドラマ・ソロを聴くと、ジョン・ボーナムを思い出す人も多いでしょう。また彼等の「HEARTBREAKER」は、ツェッペリンのそれとは違い、洗練されたメロディを持つヘヴィ・バラードであるのも面白いところかもしれません。まだまだ以降のキャッチーさこそありませんが、デビュー・シングルの「TIME MACHINE」に代表される様に、プリティッシュ・ハードからの影響を強く受けながらも、ギターの音色はカラツクカラに乾いているのが印象的で、感情面よりも肉体的性が強調されたハード・ロックの誕生と言えたのかもかもしれません。		
GRAND FUNK RAILROAD	グラランド・ファンク		969年12月29日	ハード ロック & ヘヴィメ タル	レコー ド	1969年リリースしたグラランド・ファンク・レイルロードのセカンドアルバム、ツェッペリンの前座を務め、そのド迫力ライブで一氣に名を広めた彼等が、前作から僅か4か月後にリリースしたセカンド・アルバムです。ビルボード最高位11位となった本作は、パワー・トリオとしてのタイトで分厚いバンド・サウンドを軸に、70年代を目前にした荒ぶる魂をそのまま音にした様な混沌としたインプロが時代を如実に現した力作となりました。英国のアート・ロックの影響もあったのか、アルバム後半はほぼ全てが7分を超える大作ばかり、各パートがスリリングに展開していきます。その反面、歌メロはアメリカン・ハードらしい大らかなメロディが目立ち、当時のプリティッシュ・ハード勢のヘヴィ・ブルース大会とはまた違った魅力が新鮮だったと思われます。奇しくもブラック・サバスの初期代表曲と同名タイトルとなった「PARANOID」は、SEやトリップ感覚満載のギターが印象的なナンバーで、スピードに頼らない初期型メタルとも言えそうです。G.F.R.の方がサバスより数ヶ月先にリリースしているのですが、両者の「PARANOID」を比較する事と英米の空気感の差を感じ取れるのも興味深いところでです。またライヴのハイライトの一つとなった「Inside Looking Out 孤独の叫び」は本作中唯一のカヴァー曲、元々はトラディショナル・フォークであった曲をアニマルズが66年に改作、ヒットさせたナンバーです。9分半に渡る大ハード・ロック大会となったこのカヴァー、アルバムのラストを飾るに相応しい強烈なフックを持っています。	Side A 1. ゴット・ディス・シング・オン・ザ・ムーヴ 2. フリーズ・ドント・ウォーリー 3. ハイ・ファル・ティン・ウーマン 4. ミスター・リムジン・ドライバー 5. イン・ニード	Side B 1. ウインター・アンド・マイ・ソウル 2. バラノイド 3. 孤独の叫び
GRAND FUNK RAILROAD	グラランド・ファンク		1969年12月29日	ハード ロック & ヘヴィメ タル	CD	1. ゴット・ディス・シング・オン・ザ・ムーヴ 2. フリーズ・ドント・ウォーリー 3. ハイ・ファル・ティン・ウーマン 4. ミスター・リムジン・ドライバー 5. イン・ニード 6. ウインター・アンド・マイ・ソウル 7. バラノイド 8. 孤独の叫び		
GRAND FUNK RAILROAD	クローサー・トゥ・ホーム		1970年7月	ハード ロック & ヘヴィメ タル	CD	グラランド・ファンク・レイルロードの1970年発表のサード・アルバム。落ち着いたアコースティック・ギターのストロークから一転、歪みまくったギターに横面を張り飛ばされるすさまじいイントロ。1. Sin's A Good Man's Brother の出だしはブラック・サバスの「ウォー・ピグズ」に匹敵すると思います。グラランド・ファンク全史で最もヘビーなアルバムではないでしょうか。洒落たソロこそ弾けないけれどピンチページ感一杯のギター、地響きのようなメロ・サッチャーのベースが文句を言わせません。下腹を蹴り上げられる3曲が続いたあと、4. Mean Mistreater です。次の「ライブ・アルバム」でこの曲だけは特異な存在感があって、彼らの敬虔さに胸が締め付けられるようでした。マーク・ファナーの弾く電気ピアノとコーラスだけで聴かせる曲です。ファナーは教会の聖歌隊に属していたんじゃないかと勝手に推測しています。ハードロックのボーカルというよりゴスペルの歌い手のような雰囲気があります。8. I'm Your Captain/Closer To Home がよいのは言わずもがなです。通して聴いてきて、このラストは最高のカタルシスです。	1. グッド・マンズ・ブラザー 2. エイムレス・レディ 3. ナッシング・イズ・ザ・セイム 4. ミーン・ミストリーター 5. ゲット・イット・トゥゲザー	6. アイ・ドント・ハヴ・トゥ・シング・ザ・ブルース 7. フック・オン・ラヴ 8. アイム・ユア・キャプテン 9. グッド・マンズ・ブラザー(シングルヴァージョン) 10. アイム・ユア・キャプテン(シングルヴァージョン)
GRAND FUNK RAILROAD	アメリカン・バンド		1973	ハード ロック & ヘヴィメ タル	レコー ド	73年作。大爆音と豪快なステージで突っ走ったグラランド・ファンク・レイルロードの通産7作目となったアルバム。当時のプリティッシュ・ハードに対する、強くマッチョなアメリカン・ハードを定着させた代表格ではないでしょうか。ハードでダイナミックだけではなく、ポップなセンスも持ち合わせていたのが、いかにもアメリカンだったのだと思います。プロデュースはすでに多彩なバンドを手掛けていたトッド・ラングレンで、彼のポップ・フィーリングがかなり強調されています。永遠のロック・アンセムとなった「アメリカン・バンド」に代表される明快さこそが、以降の80年代ハード・ロックの骨格にもなったと思われます。ヘヴィな曲調でも、隠せない陽気さが楽しいハード・ロック・アルバムです。	01.アメリカン・バンド 02.ストップ・ルッキン・バック 03.クリービン 04.ブラック・リコリス 05.ザ・レイルロード 06.エイント・ガット・ノーバディ 07.ウォーク・ライク・ア・マン 08.ロニン・エース・ライダー	
GRAND FUNK RAILROAD	輝くグラランド・ファンク		1974	ハード ロック & ヘヴィメ タル	レコー ド	グラランド・ファンクの8th アルバム。プロデュースを再びトッド・ラングレンが担当し、全米5位を記録した1974年発表のアルバム。全米NO.1シングル「ロコ・モーション」他を収録。LPジャケットは、ジャケット内に埋め込まれた赤と青のセロファンが付き眼鏡で見ると3Dになるデザインが採用されていた。	01.シャイニン・オン 02.ゲット・バック・イン 03.ロコ・モーション 04.キャリアー・ミー・スルー 05.フリーズ・ミー 06.プリティー・ボーイ 07.ゲッティン・オーヴァー・ユー 08.リトル・ジョニー・フッカー	
GRAND FUNK RAILROAD	ハード・ロック野郎(世界の女は御用心)		1974	ハード ロック & ヘヴィメ タル	レコー ド	プロデューサーにジミー・イエナーを起用し、よりポップ路線となった1974年発表作。全米15位。「SOME KIND OF WONDERFUL」や「BAD TIME」等収録しています。発売当時のチャートではシングル・カットされた「Some Kind of Wonderful」(Soul Brothers Sixのカヴァー)が3位、「Bad Time」が4位を記録している。表ジャケットには古くからの友人であるアーノルド・シュワルツェネッガーやフランコ・コロンボらボディ・ビルダーがポーズを取り、頭部はメンバーの顔写真とすげ替えられた画像が使用された。	1. レスボシズリティ 2. ランニン 3. ライフ 4. ルック・アット・グラニ・ラン・ラン 5. メモリーズ 6. 世界の女は御用心 7. ワイルド 8. グッド・アンド・イーヴル 9. バッド・タイム 10. オー・ワンダフル	
GRAND FUNK RAILROAD	驚異の暴走列車		1976	ハード ロック & ヘヴィメ タル	レコー ド	「グラランド・ファンク・レイルロード」の76年10thアルバム。前作『ハード・ロック野郎 (All the Girls in the World Beware!!!)』の路線を継承しハードロックに加えポップスも加味し多様な楽曲構成がされる。ヒット曲Bad Time を彷彿させるSally、プリューワーによる激しいTake Me、コーラスワーク、サククス、ピアノが印象的で叙情的なTalk to the Peopleなどの佳曲もあり内容的には決して劣るものではなかったがチャートアクションは芳しくなく、バンドが続けてきたゴールドディスク以上獲得の記録もとざれることになった。従来のハードな曲はもちろん、ダークなナンバーからキャッチーなポップ・チューンまでバラエティ豊かな楽曲が詰まった作品。	1. Born to Die 5:29 2. Dues 5:27 3. Sally 3:12 4. I Fell for Your Love 4:06 5. Talk to the People 5:27 6. Take Me 5:00 7. Genevieve 6:12 8. Love Is Dyin' 4:07 9. Politician 3:51 10. Good Things 4:14	

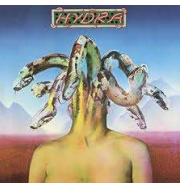
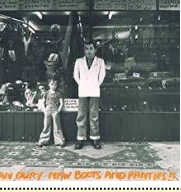
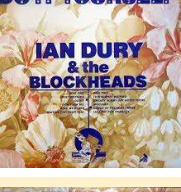
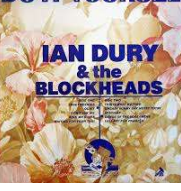
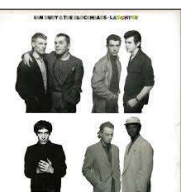
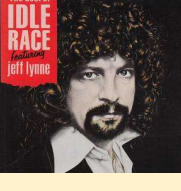
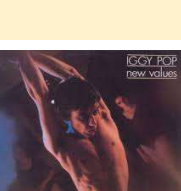
GRAND FUNK RAILROAD	ライヴ・アルバム		1970	ハード ロック& ヘヴィメタル	レコード	初期のライヴ・パフォーマンスを収録した、1970年発表のライヴ・アルバムで最高傑作。後にクレイグ・フロスト(Key)を迎えた編成では『グラランド・ファンク・ツアー '75 (原題: Caught in the Act)』が発売されるが、このアルバムでは3人による生々しい1970年7月のフロリダでのライブが収録されている。特にスタジオ・バージョンでも 9分31秒 とロック・バンドにしては長めの曲「Inside Looking Out」が、このライブでは 12分22秒 もの長尺になっていて聴き所になっている。プロデューサーはテリー・ナイトが担当。バンドにとっては RIAA Gold Disc に認定された4枚目のアルバム。アルバム・ジャケットに使用されている写真は、1970年7月に行われた「Atlanta International Pop Festival」へ出演した際の画像が使われている。	1. イントロダクション 2. アー・ユー・レディ 3. バラノイド 4. イン・ニード 5. ハートブレイカー 6. ワーズ・オブ・ウィズダム 7. ミーン・ミストリーター 8. マーク・セイズ・オールライト 9. T.N.U.C. 10. 孤独の叫び	
GRAND PRIX	デッドヒート		1981年	ハード ロック& ヘヴィメタル	レコード	後にマイケルシェンカーとバンドを組みロビン・マッコリーが在籍していたバンド。NWOBHM期にデビューしたハードロックバンドだが、どちらかと言うとアメリカのサウンドに近くメロディー重視のスタイルに加えてプログレ・ハード色が強いサウンド。ヴォーカルのBernie Shawの、高音域と中音域 を巧みに歌い分ける繊細かつナイーブな歌声は、楽曲の叙情性を高め、更に厚いボーカル・ハーモニーは哀愁のメロディを盛り上げ、また、Phil Lanzonの素晴らしい鍵盤演奏も相まって、完成度の高いドラマティックな良曲がアルバム全体に詰め込まれて います。本作は、ブリティッシュ・ロックに大陸系のプログレ・ハード・ロックが絶妙にブレンドされたアルバム。	Side A 1. Waiting For The Night 3:30 2. Day In The Life 4:54 3. Thinking Of You 3:35 4. Mama Sayes 3:51 5. Which Way Did The Wind Blow 7:12 Side B 1. Westwind 5:47 2. Next To You 4:11 3. You Know It Can Be 3:40	
GRATEFUL DEAD	ライブ/デッド		1969	アメリカン ロック	CD	1969年にリリース。バンドとしては最初の公式ライブ盤。ロックライブの名盤としても名高いアルバム。メンバーは、Jerry Garcia (g. vo)、Bob Weir (g. vo)、Phil Lesh (b. vo)、Mickey Hart (ds)、Bill Kreutzmann (ds)、Ron "Pigpen" McKernan (key. vo)、Tom Constanten (key)という布陣。数あるライブアルバムの中でもこのアルバムに比肩しうるアルバムはなかなかないと思う。全編インプロで編集されたサイケデリック、トリップ好きは感涙ものである。ただし、名盤とされているが、このアルバムではクワイマックスだけを集めてしまったことで、「これはちょっとちがうな」という印象を与えてしまう。気軽にDEADのライブの良さを体験してもらいたい」という意気込みの現れなのですが、既に理解している僕達にとっては棺桶の身も蓋もないという印象です。できれば他のライブアルバムから入ってもらいたいと思います。それと初期のDEADは米国のJAZZ誌DOWN BEATでの評価が高かったのですが、実際サイケとかドラッグの概念を持ち出さなくともしっかりとハーサルされたJAZZ演奏として正面から聴けば充分楽しめる純音楽でその意味ではポップとかサイケとは一線を画したものの。	1. Dark Star 2. St. Stephen 3. The Eleven 4. Turn On Your Love Light 5. Death Don't Have No Mercy 6. Feedback 7. And We Bid You Goodnight 8. Dark Star 9. WB Commercial for Live/Dead	
GUESS WHO	アメリカン・ウーマン		1970	ハード ロック& ヘヴィメタル	レコード	70年代に一世を風靡したカナディアン・ロック・バンドTHE GUESS WHO。ギタリストRANDY BACHMANをフィーチャーした最後の作品。のちにLENNY KRAVITZもカヴァー、一躍スターダムに躍り出るきっかけとなった大ヒット・シングル“AMERICAN WOMAN”やビュア・フォークな“TALISMAN”、メロディアスな“NO TIME”等々ヴァリエティに富みながら、サイケデリックでブルースなハード・ロックン・ギター・リフが満載の名盤です。		
GUN	悪魔天国		1968	ハード ロック& ヘヴィメタル	レコード	68年作、本作こそメタルの先祖とも言うべきで、苦しいアルバムで、幻の名バンドと呼ぶにはあまりにも凄まじいキャリアを持つガンズのデビュー・アルバムです。邦題の強烈なインパクトは、シングルとなった「Races With The Devil」、そしてあのロジャー・ディーンが初のアルバム・アートとして手掛けた地獄絵図から生まれたものだと思いますが、サウンドの鮮烈な印象は今聴いても色褪せていません。すでにこの時点でサブスとパープルが合体した様なメタリック・ナンバーを生み出しています。当時はまだカーティス名を名乗っていた兄弟、ポールとエイドリアンは、後にガーヴィッツ姓を名乗り、ブリティッシュ・ハード界の重要な存在として知れ渡っていきます。兄のポール・ガーヴィッツはベーシストでありながら、オーケストラを含むアレンジを担当している様で、その多彩な音楽センスが本作をユニークにしています。弟のエイドリアン・ガーヴィッツの華麗なギター、ソング・ライティング・センスも重要で、彼は後にAORシンガーとしても大成功し、90年代にはあの大作映画、「ボディガード」のサントラに参加している事でも有名です。ガーヴィッツ兄弟はGUNで2枚のアルバムを残し、元スー・キー・トゥースのマイク・ケリーとスリー・マン・アーミーを結成、その後ジンジャー・ベイカーと共にベイカー・ガーヴィッツ・アーミーへと発展していきます。すでに本作で早すぎると言える程の才能を発揮していて、ハード・ロック、プログレ、ポップ・ソングと縦横無尽に駆け回る音は本当にカラフルで、ツェッペリンが世界を騒がせている影で、こんなバンドがデビューしていた事に驚かされます。	A面 1. 悪魔天国 Race With The Devil 3:35 2. 悲しい物語 The Sad Saga Of The Boy And The Bee 4:51 3. ルーバーツ・トラヴェルス Rupert's Travels 2:14 4. イエロー・キャブ・マン Yellow Cab Man 4:17 5. イット・ウォント・ビー・ロング It Won't Be Long (Heartbeat) 4:29 B面 1. サンシャイン Sunshine 4:26 2. ラット・レース Rat Race 3:56 3. テイク・オフ Take Off 11:03	
GUN CLUB	マイアミ		1982	ニュー ウェイブ	レコード			
GUNS N' ROSES	アベタイト・フォー・ディストラクション		1987	ハード ロック& ヘヴィメタル	レコード	87年作、ガンズのデビュー・アルバム。全世界で3000万枚以上のセールスを誇り、HR/HMシーンに留まらず、全音楽ファンを虜にしたと言っても過言では無い1枚。当初ジャケットでレイヴ・デザイ(イラスト)が問題となり直ぐに回収され発売となったため初回盤は高額。ロックが衝動的、暴力的、そして肉感的なものである事を、ヴィジュアル、サウンドで再び教えてくれたのでした。LAメタルという過性のブームは、確かにケバケバしたロックの妖しさの爪痕を残してはきましたが、耳馴染みの良さや商業性の香りが強調されていく中、いつの間にか大量生産ポップと化してしまいました。そんな中、アクセルの壊れる寸前のシャウトと、破壊衝動に包まれた攻撃的なサウンドは、ロック・バンドが本来持っていた初期衝動を思い出させたのです。かつてストーンズやピストルズ、ツェッペリンやエアロスミスが放っていたその何かを確実に撒き散らしていたんだと思います。今聴いても音のインパクトの方が語るべき重要性を持っているのではないのでしょうか。	1. ウェルカム・トゥ・ザ・ジャングル 2. イッツ・ソー・イージー 3. ナイトレイン 4. アウト・タ・ゲット・ミー 5. ミスター・ブラウンストーン 6. パラダイス・シティ 7. マイ・ミシェル 8. シンク・アバウト・ユー 9. スウィート・チャイルド・オブ・マイン 10. ユー・アー・クレイジー 11. エニシング・ゴーズ 12. ロケット・クイーン	
GUNS N' ROSES	ユーズ・ユア・イリュージョン II		1991	ハード ロック& ヘヴィメタル	レコード	同時リリースとなったⅠとⅡは、その売上の違いに微妙な差があつたのもユニークでした。Ⅰはアメリカン・チャート第1週で約69万枚、対してⅡは77万枚。全世界ではⅠは1700万枚、Ⅱは1800万枚というモンスターぶりも、今更ながら驚異的です。シングルとなった「You Could Be Mine」が、大ヒット映画「ターミネーター2」に使用された事もあり、幾分キャッチーなイメージが本作の方が強いのかもかもしれません。またポップ・ディランのカヴァーで、やはり映画「デイズ・オブ・サンダー」に使用された「Knockin' On Heaven's Door」も、確かにハイライトとなっています。その反面メッセージ色の強いナンバーも目立つのも特色で、彼等の反戦歌となった「Civil War」、そしてアクセルがリングに上がって来いと強烈な煽りを見せるジャーナリスト批判曲、「Get In The Ring」では実名を晒してヤジっています。この2曲こそがガンズがエアロスミスやツェッペリンと大きく違っていた部分であったのでは、と強く思われます。	1. シヴィル・ウォー 2. 14イヤーズ 3. イエスタデイズ 4. ノックン・オン・ヘヴンズ・ドア 5. ゲット・イン・ザ・リング 6. ショットガン・ブルース 7. ブレイクダウン 8. ブリティ・タイド・アップ 9. ロコモティヴ 10. ソー・ファイン 11. イストレインジド 12. ユー・クッド・ビー・マイン 13. ドント・クライ (オルタナティブ・リリックス) 14. マイ・ワールド	
GRAHAM PARKER	ステティック・トゥ・ミー		1977	ニュー ウェイブ	レコード	1977年発表のサード・アルバム。再びプロデューサーにニック・ロウを迎え制作。イギリスNO.1 ストリート・ロッカーによる、最もストリート・ロック色の濃いアルバムがこれ。ライヴ感の強い、ラフでソリッドな作品になったことが逆に、ジャーニーやボストンのようなサウンドが人気で時代にそぐわず、リリース当時メディアから酷評されたが、今ではそのラフでライヴ感の強い感じから最高傑作と評価する人が多い銘品。アルバムのオープニングからテンションが高い。そして2曲目のアン・ピブルズのカヴァー「I'M GONNA TEAR YOUR PLAYHOUSE DOWN」は本当にカッコいい。他に「THUNDER AND RAIN」、「HEAT IN HARLEM」などは、彼が「英国のスプリングスティーン」と呼ばれたということもなずける、独特の高揚感を与えてくれる。	Side A 1. ステティック・トゥ・ミー 2. おもちゃの家をぶつ壊せ /I'm Gonna Tear Your Playhouse Down 3. プロブレム・チャイルド 4. ソウル・オン・アイズ 5. クリア・ヘッド Side B 1. ニューヨーク・シャッフル 2. ウォッチ・ザ・ムーン 3. 雷雨 / Thunder And Rain 4. ヒート・イン・ハーレム 5. 侵略 / The Raid	
GRAHAM PARKER	スパークス		1979	ニュー ウェイブ	レコード	79年発表の5作目。プロデューサーとしてスペクター門下で、バッファロー・スプリングフィールド〜ニール・ヤングのオーケストラ・アレンジなどで関わっていたジャック・ニッチェを迎えて制作された作品。1. はほんの少しだけAOR的な艶を加えているが、合いも変わらずシャープなギターを中心としたサウンドを聞かせている。ヴォーカルに絡む印象的なギター・リフはピカイチ。2. は一見普通のようにレゲエを消化したかのようなリズム・アレンジが聞かせる曲。こちらもギターのフレーズが耳に残る。3. はバック・コーラスがバッチリと決まる佳曲。グループとしてのまとまりの良さを強く感じさせる仕上がりであり、演奏は元よりコーラスのキマリ具合もカッコイイの一言。多くのパブ・ロック／パンク系のグループでもここまでのまとまりの良さを感じさせるグループは少ないだろう。楽曲も素晴らしいものばかりであり、駄作の少ない彼の作品の中でも傑出したものの一つだと思う。ただジャック・ニッチェをイメージさせるものはほとんどなく例えば彼の得意なストリングスなどを期待するとガッカリするかもしれない。もちろん本作にオーケストラ・サウンドなど似合うはずもなく、彼は正しい判断で作品に貢献していることは間違いない。引きの美学のようなものを感じさせる作品である。	Side A 1. ディスカバリング・ジャパン 2. ローカル・ガールズ 3. ノーバディ・ハーツ・ユー 4. ユー・キャン・ビー・トゥー・ストロング 5. パッション Side B 1. 土曜の夜は終わつたぜ 2. ラブ・ゲッツ・ユー・トゥイステッド 3. プロテクション 4. UFO 5. ドント・ゲット・エキサイテッド	
GRAHAM PARKER	ジ・アップ・エスカレーター		1980年	ニュー ウェイブ	レコード	80年発表の6作目。プロデューサーであるテリー・メルチャーが当時ロンドン・セッションでは最後の演奏となった作。前作発表後にルーモアのポップ・アントリュース (k)が脱退しており、また同年にはルーモア単独のアルバム「PURITY OF ESSENCE」もポップ抜きで制作／発表されているが、その後にはルーモアは解散している。本作にはルーモアのメンバーの他、ニッキー・ホプキンス(k)、ダニー・フェデリシ(k)、アル・スチュワートのセッションでの仕事でも知られるピーター・ウッド(syn)、ジミー・マエロン(per)、パッキング・ヴォーカルにブルース・スプリングスティーンが参加しており、なかなか豪華な布陣となっているが、これは次作以降の布石にもなっている。1. はのんびりとした牧歌的な雰囲気も感じさせる曲で、初期を彷彿とさせる仕上がり。こういう曲でのルーモアの演奏はこれ以上の組み合わせはないほどにハマっている。2. は「トラスト」時代のコスデロに通じる・・・というよりも典型的なタイプのバーカーの曲だが、ピアノが良いアクセントになっている。この低域から高域まで活かし切るプレイはおそらくはニッキーのものだろう。3. も1. と同じ路線の曲だが、ギターでのフレーズがとにかく印象的。5. も乾いたギターが印象的なロカビリー的な風味も感じさせる曲。スクワイーズに似た曲(バーカーが先)があるが、こちらの方が印象的。	Side A 1. No Holding Back3:18 2. Devil's Sidewalk3:14 3. Stupefaction3:30 4. Empty Lives5:06 5. The Beating Of Another Heart4:20 Side B 1. Endless Night 3:35 2. Paralysed3:12 3. Manoeuvres3:28 4. Jolie Jolie2:59 5. Love Without Greed3:24	
GROPEFRUIT	カモン・マリアンヌ グレイプフルーツ・ファースト		1968	ブリ ティッシュ ビート	レコード	バム、トニー・リヴァース&キャスタウェイズから分裂し結成された英国ポップサイケの代表格。1968年作のファーストです。ビーチ・ボーイズから影響を受け、独自の進化を遂げたフレッシュで美しいハーモニーとスピード感溢れるビート、美しいメロディが一体となった正に傑作です。制作は西海岸の名プロデューサーであるテリー・メルチャーが担当。GRAPEFRUITは THE BEATLES の設立したアップルと音楽出版の契約を交わした第一号アーティストで、グループ名も John Lennon の提案によるもの。メンバー4人のうち3人が一時期 TONY RIVERS & THE CASTAWAYS に参加していただけあって、コーラスワークも完璧。曲も THE 4 SEASONS のカヴァー「C'mon Marianne」を除いて全てメンバーのオリジナル(1曲以外は全て George Alexander の作曲)で、ポップなメロディ全開の曲ばかり。中でも5枚目のシングルとしてリリースされた「Round Going Round」まさしく傑作です！60年代後半のちょっとサイケデリックでビートルズっぽくもあり、この時代を反映した、サイケデリックなポップグループといった感じの作品。因みに、ベースのジョージ・アレクサンダー、本名アレクサンダー・ヤングは、AC/DCのアンガス&マシュー・ヤングの父です。	Side A 1. Another Game 2:51 2. Yesterday's Sunshine 3:32 3. Elevator 2:05 4. Yes 2:20 5. C'mon Marianne 2:36 6. Lullaby 3:29 Side B 1. Round Going Round 3:00 2. Dear Delilah 2:36 3. This Little Man 2:26 4. Ain't It Cool 2:36 5. Them For Twiggy 3:15 6. Someday 3:02	
HAIRCUT ONE HUNDRED	ベリカン・ウェスト		1982	ニュー ウェイブ	レコード	UKネオアコ・シーンを代表するHAIRCUT 100の名を知らしめた、ファンカリータナ超名盤。世界中で大ヒットし、一躍ネオアコ'80'S ポップ・シーンの代表バンドに躍り出た、NICK HEYWARD率いるHAIRCUT 100の1982年リリース1ST。デビューシングルにしてクラシック「FAVOURITE SHIRTS (BOY MEETS GIRL)」をはじめ、「LOVE PLUS ONE」などを収録。英国の男性SSW、Nick Heywardを擁するポップ・パン。ニューウェーブとラテンを絶妙のセンスでお洒落にミックスさせたサウンドが格好良いです。この曲がなければフリップ・バースのあの名曲も生まれなかったであろう「A1. Favourite Shirts (Boy Meets Girl)」、サビ前のキャッチーなコーラスも耳に残る「B1. Love Plus One」など、名曲のオンパレード。	Side A 1. お気に入りのシャツ(ボーイミーツガール) / Favourite Shirts (Boy Meets Girl) 3:06 2. ラブプラスワン 3:34 3. レモン消防隊/Lemon Firebrigade 3:56 4. マリンボーイ 3:33 5. ミルクフィルム 2:53 Side B 1. ファンタスティックデー 3:14 2. ベイクトビーン 4:03 3. スノーガール 2:56 4. Love's Got Me In Triangles 3:38 5. もう一度私を驚かせる / Surprise Me Again 3:19 6. キャプテン・オータムを呼ぶ / Calling Captain Autumn 4:06	

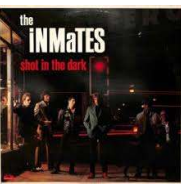
	HAIRCUT ONE HUNDRED	ベリカン・ウェスト		1982	ニューウェイブ	レコード			
	HAIRCUT ONE HUNDRED	ベリカン・ウェスト		1982	ニューウェイブ	CD			
	HANOI ROCKS	白夜のバイオレンス		1981	ロック	レコード	マイケル・モンロー、アンディ・マッコイ等によるハノイ・ロックスのデビュー・アルバム。メタルと言うよりグラム、パンク、パワーポップを上手く自分たちなりに解釈して作り上げたR&Rと言える。大体がビジュアル面でアイドル系の扱いの場合は大概がサウンドでの評価が落ちる場合が多く、このハノイ・ロックスも例外では無く音楽面での評価がされないのが残念なバンドだ。サウンドは荒削りな所も、セルフプロデュース故の完成度の低さも含め、B級なところがなおカッコイイ。1曲目の「白夜のトラジディ」や4曲目「ネバー・リーブ・ミー」、B面の3曲目「11th ストリート・キッズ」などは今でも彼らの「名曲」としては有名。	Side A 1. 白夜のトラジディ 2. ヴィレージ・ガール 3. 泣かないでセブンティーン 4. ネバー・リーブ・ミー 5. ロスト・イン・ザ・シティ	Side B 1. ファースト・タイマー 2. 涙のシャイアン 3. 11th ストリート・キッズ 4. ウォーキング・ウィズ・マイ・エンジェル 15. 誘惑のプリテンダー
	HANOI ROCKS	白夜のバイオレンス		1981	ロック	CD			
	HANOI ROCKS	オリエンタル・ビート		1982	ロック	レコード	1982年に発表した傑作2ndアルバム。1曲目、MOTORVATIN'のキャッチーで疾走感が全開のイントロが強烈。アルバムは全てキャッチー、疾走感、トラディショナル感が全て詰まっています。第一期HANOI ROCKSは捨て曲なしで、アンディ・マッコイの才能を堪能出来ます。ギタープレイにしても、ちょっと他に見当たらない独特のアレンジで楽しませてくれます。製作当初レコーディングディレクターがハノイロックスの音楽性を理解しておらず、方向性がイマイチ定まっていなまま予算の関係もあり発売されてしまった曰く付きの作品で、ハノイロックスのメンバーも出来に全く納得していなかったらしい。	Side A 1. 炎のドライビン 2. ドント・フォロー・ミー 3. ヴィジター 4. ティーンエンジェル・アウトサイダー 5. シティ・ガール	Side B 1. モーター・サイクル・ベイビー 2. 無法の街 3. オリエンタル・ビート 4. デビル・ウーマン 5. ライトニン・バー・ブルース 6. フォーレン・スター
	HANOI ROCKS	ミステリー・シティ		1983	ロック	レコード	ハノイ・ロックスの4作目。アンサンブルもよくプロダクションがしっかりしている。この作品は大概の曲が縦乗りなのでモットとは少し違いますが、アルバムを通じてのグリッターな感覚、男っぽさはモット譲りです。このアルバム以降、ギターの音割りがあまりカラフルでなくなり、割と普通のハードロック風になっていくのがちょっと残念。世界的に売るとなると意識してしまうんでしょうか。ドラムはラズルになってからは幾分かタイトになり、ドラムの音数も増えた分重厚になっています。彼は突っ込んだリタメたりと随所で柔軟なドラミングを披露しています。	Side A 1. Strange Boys Play Weird Openings / オープニング 2. Malibu Beach Nightmare / マリブ・ビーチの誘惑 3. メンタル・ビート 4. トゥーティング・ベク・レック 5. Until I Get You / 愛してほしい	Side B 1. Sailing Down The Tears / 瞳の中の影 2. リック・サマー・ラヴ 3. Beating Gets Faster / せつない気持 4. アイス・クリーム・サマー 5. ミステリー・シティ
	HANOI ROCKS	トゥー・ステップス・フロム・ザ・ムーヴ		1984年	ロック	レコード	スタジオ4作目でラストアルバム。アメリカでのメジャーデビュー盤。プロデューサーにALICE COOPERやKISSを手がけたボブ・エズリンを迎えて世界を制覇すべく制作されハノイロックスの最高傑作といわれている作品で、これがラストアルバムになってした、解散の理由は、モトリークールのヴィンスニールの飲酒運転による事故によって、助手席に乗っていたドラマーのラズルが死亡したため。このアルバムの音作りは、彼らの作品の中では一番ヘビーだ。今聞いてもこの作品の革新性は少しも色褪せてない。	1.アップ・アラウンド・ザ・ベンド 2.ハイ・スクール 3.アイ・キャント・ゲット・イット 4.アンダー・ウォーター・ワールド 5.ドント・ユー・エヴァー・リーブ・ミー	6.ミリオン・マイルズ・アウェイ 7.フルヴァード・オブ・ブロークン・ドリームス 8.ボイラー 9.フュチュラマ 10.カッティング・コーナース
	HARD STUFF	バレットブルーフ		1972	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	アトミック・ルースターからの彼の無意識の発砲に続いてギタリストのジョン・デュ・カンによって形成されたハード・スタッフは、ディーパーブルのパープルレーベルに署名される前にすでに2つの名前を通していました。デーモンは、いくつかのリハーサルを続けました。弾丸は単一を生き延びた。彼らは別の弾丸が彼らに法的苦情を発した後、ハードスタッフになり、防弾は彼らのリボストでした。重くて、大きな音をする。期間レビューはパーブルの影響に混乱し、彼らはマークから遠くないが、オルガンはギター、ギター、およびより多くのギターに置き換えるために、ミックスから切除された場合にのみ。デュ・カンのショーボートは、時にははるかにブルージーなクリームやテイストを連想させる猛烈な攻撃ですが、仲間のルースターの同窓生ポール・ハモンド(ドラム)とベテランベーシストのジョン・グスタフソンは、ポリウムと同じくらい美德で特徴づけられたアルバムを作成	Side A 1. Jay Time 2. Sinister Minister 3. No Witch At All 4. Taken Alive 5. Time Gambler (Rodney)	Side B 1. Millionaire 2. Monster In Paradise 3. Hobo 4. Mr. Longevity-RIP 5. The Provider-Part One
	Harpers Bizarre「The Secret Life Of Harpers Bizarre」	シークレット・ライフ		1968年	ロック	レコード	1967年リリースのハーバース・ビザールのセカンド・アルバムで超名盤。ソフトサウンディングなコンセプト・アルバム。プロデュースはレニー・ワロンカー。後にプロデューサーとして名をあげるテッド・テンブルマンが在籍していたグループとしても有名。1967年に全米45位を記録した「チャタガ・チュー・チュー」と1968年に「全米95位を記録した「ニューオーリンズの闇い」、バート・バカラック作曲の「ミー・ジャパニーズ・ボーイ」を含んだハーバース・ビザールのサード・アルバム。まるで一編の映画のようなコンセプト・アルバムとなっている。中でもロジャー・ニコルズ作品の「ザ・ドリフター」が素晴らしい。アレンジャーにニック・デカロ、ベリー・ボトキン・ジュニア、ロン・エリオット他が参加している。基本はソフト・ロックですが、より幻想性が高いと言うか、演劇性が強い気がします。適所に効果音なども導入されており、まさに映画そのまま。美しいメロディとコーラスも聞き物です。15.「ロジャー・ニコルズ・アンド・スモール・サークル・オブ・フレンズの曲としても有名。	Side A 1. 虹を見てごらん(「フィニアン の虹」より) 2. バトル・オブ・ニュー・オリンズ 3. ホエン・アイ・ワズ・ア・カウボーイ 4. センチメンタル・ジャーニー～間奏曲 5. センチメンタル・ジャーニー 6. ラス・マニャニータス 7. メドレー: バイ・バイ・バイノヴァ イン・ストリート 8. ジャパニーズ・ボーイ	Side B 1. ステアウェイ・トゥ・パラダイス(天国への階段)～間奏曲 2. ステアウェイ・トゥ・パラダイス(天国への階段) 3. グリーン・アップル・トゥーリー 4. シット・ダウン・ユア・ロックン・グ・ザ・ポート 5. アイ・ラヴ・ユー、ママ～間奏曲 6. アイ・ラヴ・ユー、ママ 7. ファニー・ハウ・ラヴ・キャン・ビー 8. マッド 9. 虹を見てごらん(「フィニアン の虹」より) 10. ドリフター 11. ドリフター ～ リブライズ
	HAWKWIND	ドレミファソラシド		1972年	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	1970年デビューのイギリスのバンドで、ハード・ロック、プログレッシヴ・ロック、グラム・ロックなど様々なジャンルに股をかけて活動。ホークウインドの3rdアルバム。アルバム挿入曲の「シルバー・マシーン (Silver Machine)」が全英3位の大ヒットとなる。モーターヘッドの結成前に在籍しミー・キルミスターがが参加するはじめてのホークウインドのアルバムでもある。定番「スペース・リチュアル」を除けば最も有名な作品。代表曲が満載で、この作品で地位を確立したとも言える。全編、宇宙の闇を突き抜けるような冷たく金属的なサウンドが刺激的で、このバンドらしい、素晴らしい内容になっています。吹きまくるサクセスと上昇下降を繰り返すエレクトロニクス、ぶんぶんうなるベース、ザクザクとひたすらリズムを刻むギター・・・全てがホークウインドの世界、新たに加入した現モーターヘッドのレミーがぶっといベース・ラインで曲をリードしていくさまが心地よい。どこか安っぽい中にもプログレ、サイケデリック、ハード・ロックなどのブレンドが聴ける名盤だ。	Side A 1. シルバー・マシーン 2. プレインストーム 3. スペース・イズ・ディープ 4. ワン・チェンジ	Side B 1. ロード・オブ・ライト 2. ダウン・スルー・ザ・ナイト 3. タイム・ウィ・レフト・ディス・ワールド・トゥーデイ 4. ザ・ウォッチャー
	HAWKWIND	スペース・リチュアル (宇宙の祭典)		1973年	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	73年5月にリリース。72年12月に行われたリヴァプールとロンドン公演から構成された2枚組ライブ・アルバム。このアルバムで同えるバワフルなステージを、2ヶ月間ほぼ1日おきで行ったホークウインド。その当時の勢い、精力的なステージの一端を垣間見ることができます。ここで繰り広げられるリズムとギター、サクセス、フルート、電子音の洪水は宇宙空間を突き進むが如く怒濤の推進力で、既存のアルバム収録曲が霞むような迫力。合間に現れる浮遊感のある静の演奏と動の演奏が渾然一体となって圧倒的なトリップ感覚を生み出します。ホークスを代表する1枚であると共に、ロック史に残る名盤。アルバム冒頭の電子音とカルバートの朗読(Earth Calling)からレミーのドライブ感あるベースに引っ張られてスタートするBorn To Goなど新曲が多く含まれており、リリース直後のアルバムDOREMI FASOL LATIDOの拡大版という印象。	Side1 1. アース・コーリング 2. ボーン・トゥ・ゴー 3. ダウン・スルー・ザ・ナイト 4. 覚醒/The Awakening Side2 1. 光の神/Lord Of Light 2. 黒い回廊/The Black Corridor 3. 深淵なる宇宙/Space Is Deep 4. エレクトロニック No.1	Side3 1. オルゴン・アキウムレーター 2. アップサイド・ダウン 3. Brainstorm Side4 1. セブン・バイ・セブン 2. ソニック・アタック 3. 離陸の時/Time We Left This World Today 4. 宇宙の支配者/Master Of The Universe 5. 未来への誘い/Welcome To The Future
	HAZEL O'CONNOR	ブレイキング・グラス			ニューウェイブ	レコード	ヘイゼル・オコーナーのデビューアルバム。ヘイゼル・オコーナーはモデルなどの仕事もしたが、ドイツで本格的に音楽に取り組み、レコード契約を結ぶ。1980年にロック映画「ブレイキング・グラス」の女優として主演し、映画サントラとして発表し一躍脚光を浴びる。		
	HEADBOYS	ヒーローへの道		1979	ニューウェイブ	レコード			

H	HEADBOYS	ヒーローへの道		1979	ニューウェイブ	レコード	ヘッドボーイズのファストアルバム		
	HEART	ドリームボート・アニー		1976年	ハードロック	レコード	1976年リリース作品。ハートの記念すべきデビュー・アルバム。Heartの最高傑作と言われる。全米アルバムチャートの第7位にランクイン。本作品では主にロック色とアコースティック色に分かれており両者が絶妙に絡み合って相乗効果を生み出し良い作品に仕上がっていると思います。ロック色ではギター・リフが印象的な楽曲『Magic Man』（全米第9位）、イントロのギターがかっこいいツェッペリン風のナンバー『Crazy on You』（全米第35位）、アコースティック色では爽やかさを感じさせる表題曲の『Dreamboat Annie』（全米第43位）、美しいバラードの楽曲『(Love Me Like Music) I'll Be Your Song』が澄んだ明るい光が親密に降り注ぐような感じで秀逸。アン・ウィルソンのあけっぴるげソウルテイストな高音ヴォイスが素晴らしい。「マジック・マン」「クレイジー・オン・ユー」「夢みるアニー」などの大ヒット・シングルを多数収録。	Side A 1. マジック・マン 2. 夢みるアニー(ファンタジー・チャイルド) 3. クレイジー・オン・ユー 4. ソウル・オブ・ザ・シー 5. 夢みるアニー	Side B 1. ホワイト・ライトニング・アンド・ワイン 2. ラヴ・ミー・ライク・ミュージック 3. シング・チャイルド 4. ハウ・ディー・イット・ゴーズ 5. 夢みるアニー(リプライズ)
	HEART	リトル・クイーン		1977	ハードロック	レコード	1977年発表。ハートのCBS移籍第1弾であり彼等のセカンド・アルバム。アルバム「ドリームボート・アニー」で一躍アメリカン・ロック・シーンへ登場。シアトルで結成されヴァンクーヴァーで活躍していたウィルソン姉妹を中心とした5人編成のロック・グループ。音楽性はロックンロール、ブルース、ソウル、フォークといった要素がサウンドに取り入れられブレンツしポップ色の濃い音に仕上げられている。本アルバムは全米アルバム・チャート9位まで上昇、ダブル・プラチナを獲得、初期ハートの代表作。ボーナス・トラックはなんとツェッペリンのカヴァー曲も収録されている。	Side A 1. バラクーダ 2. 愛を大切に 3. 森の詩 4. 狩人の夢 5. キック・イット・アウト	Side B 1. リトル・クイーン 2. やさしくて 3. セイ・ハロー 4. クライ・トゥ・ミー 5. ゴー・オン・クライ
	HEART	マガジン		1978年	ハードロック	レコード	『マガジン』(Magazine)は、アメリカのロックバンド、ハートの2枚目の78年リリースのスタジオアルバム。このアルバムは、当初1977年4月19日にバンドの承諾なしに未完成のままマッシュルーム・レコードから発売された。このアルバムの2回目の正式版は1978年4月22日に発売された。アメリカ合衆国とカナダの両方でプラチナアルバムとして認定されている。初期heartのロックを堪能できる名盤。just the wineではストリングスのアレンジが美しく、アンのフルートも聴ける。without youはカバーソング。絶品のバラードを熱唱している。B面のmagazine、73年録音のhere songは純粹に美しい曲。本作はライブ音源も含めて全ての曲がシンプルでビュア。音質は70年代らしく響きの少ない乾いた音。ナローレンジだが音圧が低めなので、楽曲のニュアンスがよくわかり聴きやすい。今ではほとんど聴けなくなったリアルロックを是非とも聴いていただきたい。	Side A 1. ハートレス 2. デビル・ディライト 3. ジャスト・ザ・ワイン 4. ウィズアウト・ユー	Side B 1. マガジン 2. ヒア・ソング 3. マザー・アース・ブルース (ライヴ) 4. アイヴ・ガット・ザ・ミュージック・イン・ミー (ライヴ)
	HEART	ベベ・ル・ストレンジ		1980	ハードロック	レコード	ハートの通算5作目となる80年作。全米最高位5位を記録したアルバム。オリジナル・メンバーのロジャー・フィッシャーが脱退、5人編成となったハートはこれまでのツェッペリン魂を受け継ぎながら若干のサウンド変換を試みています。サウンド・プロダクションには当時のNEW WAVEを意識したかのような軽さ、華やかさがありますが、曲そのものは骨太なものばかりとなり、アンのヴォーカルもしっかりロバート・プラントしてくれているのが目立ちます。以降のポップ路線が信じられない位、ハートのメタリックなハード・ロッカーぶりが光っていて、70年代バンドの最後のブライドが感じられる。オープニングはシングル・カットもされたアルバム・タイトル曲で、「カシミアール」と「マイ・シャローナ」がマッシュアップされた様なユニークなロック・ナンバー、リード・シングルとなった「Even It Up」もホーン・セクションを迎えたエディ・コ克蘭のハード・ロック版と言える好曲、間に挟まれるホーンは後のデヴィッド・ボウイの「Blue Jean」に流用された感もあるものとなっています。ナンシーの歌う「Raised On You」、オリビア・ニュートン・ジョンばりにセクシーに歌い上げるアンの「Pilot」、ピアノをバックにパワー・ヴォーカルが炸裂するバラード、「Sweet Darlin」等、ソフトな面も挟まれながら、ゴリゴリにはヘヴィ・ナンバー、「Strange Night」でのカッコ良さがこのバンドの本当の魅力を感じさせてくれます。		
	HEAVEN 17	ベントハウス・&ベイヴメント		1981	エレクトロニクス	レコード	ヒューマン・リーグを脱退したマーティン・ウェアとイアン・マーシュの2人にVoのグレン・グレゴリーを加えて結成したバンドのファーストアルバム。小説「時計仕掛けのオレンジ」からバンド名がつけられました。		
	HEAVEN 17	ベントハウス・&ベイヴメント		1981	エレクトロニクス	レコード			
	HEAVEN 17	ザ・ラクシャリー・ギャップ		1982	エレクトロニクス	レコード	ファンキーかつダンスバブルでメロディも秀逸。どこを切ってもシングル級の曲が多く、実際に、#1(全英17位、アイルランド10位)#3(全英41位、全米74位)#4(全英2位、アイルランド3位、ドイツ11位、ニュージーランド15位)#6(全英5位、アイルランド7位)#8(全米102位)とシングルがヒットし、アルバムチャートでも全英4位(プラチナ・アルバム)、ニュージーランド11位、スウェーデン17位、全米72位を記録した程に素晴らしい曲が並んでおり、巷ではHEAVEN17は1STの方が評価が高いのですが、個人的には2ndの方が好きです。1stのスカスカ感がなくなり、より重厚な電子音楽を聞かせてくれます。AOR的といってもよいメロディアスな曲が印象に残る。大ヒットしたCome Live with Me!はその代表曲。Let me goは今聴いても、美しいコーラスと、うねうねシンセベースにリンドラムの絶妙なマシンドラム、展開も感動的で鳥肌が立ってきます。ポップにソウル色を強めつつ、一皮向けた感があります。80'sエレポップの金字塔		
	HEAVY METAL KIDS	ヘヴィ・メタル・キッズ登場		1974年	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	イギリスのグラマーロックバンドの1974年発表1stアルバム。ポップでヘヴィなギター・リフ、エキセントリックなヴォーカル、AC/DCやビートルズなどにも影響を与えたプリティッシュ・ヘヴィ・ロックの伝説的名盤。ビュアでストレートなロックン・ロールをハードな音で体現していたGary Holton(Vo)を中心としたプリティッシュ・ハードロック・バンド。ヴォーカルのゲイリー・ボルトンのハスキーなヴォーカルとふてぶてしくもエキセントリックなパフォーマンス。「アナーキー〜」をちょっと思わせるポップでヘヴィーなギター・リフからプログレッシヴに展開する。ストレートなロックン・ロール、そしてドラマティックなバラードなどとアーリー70'sのプリティッシュ・ロックの美味しいトコどりの名盤。	Side A 1. ハンギン・オン- 3:05 2. ハートで行こう(Ain't It Hard)- 3:00 3. 同じことさ(It's The Same)- 5:40 4. ラン・アラウンド・アイズ(Run Around Eyes)- 2:57 5. これでお別れ(We Gotta Go) - 4:55	Side B 1. プレンティ・オブ・ウィメン(Always Plenty Of Woman) - 3:25 2. ネイチャー・オブ・マイ・ゲーム(Nature Of My Game) - 3:35 3. カインド・ウーマン(Kind Woman) - 4:28 4. ロックン・ロール・マン(Rock N' Roll Man) - 7:30 5. これでお別れ(We Gotta Go) - 1:20
	HERBIE HANCOCK	ヘッド・ハンターズ		1973年10月13日	フュージョン	レコード	ハービー・ハンコックの本作は、彼がさらにもう一歩踏みだした、記念すべきアルバムである。電気楽器類はもう使い始めていたが、迷いもあった。それが吹っきたこの1枚は、簡単にいうと、ファンク・R&Bの要素を取り入れ、ファンクのビート、16ビートでアドリブをとりまくった作品だ。ハーモニー的にはシンプルだが、それだけにハンコックのエレクトリックピアノによるソロは、手に汗握る激しさだ。さらに、バンドが一丸となってバシバシ決まる「キメ」も心地よい。本作を聴いた当時のジャズファンは、ハービーも墮落したと非難した。だが、ジャズファン以外へは記録的に売れた。ハービー・ハンコックはしばらくこの路線を続けるが、ジャズを忘れたわけではない。結局、カレオニックに多彩な活動を平行して行っていく。70年代の、いわゆるフュージョン(当時はクロスオーバーと呼んだ)ブームを代表する名盤である。	Side A 1. カメレオン 2. ウォーターメロン・マン	Side B 1. スライ 2. ヴェイン・メルター
	HERMAN'S HERMITS	ミセス・ブラウンのお嬢さん		1965	ブリティッシュビート	レコード	ハーマンズ・ハーミッツの1965年発表のアルバム。日本でのファーストアルバム。当時アイドル的な存在だったバンドだけに、オリジナル曲は本当にポップで上質。のちに10ccでも大活躍するグラハム・グールドマン、アイヴィー・リーグでも知られる作曲チームのカーター＝ルイスに加え、カヴァーではあるが、あのゴフィン＝キングの曲も収録。理屈抜きに60年代ビートを楽しめる1枚。「ミセス・ブラウンのお嬢さん」朝からゴキゲン」「ハートがドキドキ」他収録。	1. ミセス・ブラウンのお嬢さん 2. ハートがドキドキ 3. この世の果てまで 4. ワンダフル・ワールド 5. ショウ・ミー・ガール 6. シュー・クルーズ 7. フォー・ユア・ラヴ 8. 朝からゴキゲン 9. シルエット 10. アイ・アンダースタンド	
	HERMAN'S HERMITS	(ペーパーズ・リープ仕様)ミセス・ブラウンのお嬢さん		1965	ブリティッシュビート	CD			

HERMAN' S HERMITS	(ペーパーズ リーブ仕様) ボス・サイズ・オブ・ハーマンズ・ハーミッツ		1966	ブリ ティツ シュビ ート	CD	1966年発表の2ndアルバム。"ブリティッシュ・インヴェイジョン"の時代にキャッチーなヒット曲を連発。アメリカで圧倒的な人気を誇ったハーマンズ・ハーミッツの2ndアルバム。	1リトル・ボーイ・サッド 2ストーリー・オブ・マイ・ライフ 3マイ・リザヴェーションズ・ビーン・コンファームド 4バス・ストップ 5フォー・ラヴ 6ホエア・ワー・ユー・ホエン・アイ・ニード・ユー (恋する君はどこに) 7オール・ザ・シングス・アイ・ドゥ・フォー・ユー・ベイビー (すべて君のため) 8リーニング・オン・ザ・ランプ・ポスト (恋のランプ・ポスト) (アルバム・ヴァージョン) 9ダイアル・マイ・ナンバー 10ウー・イズ・ベイビー 11ゼアス・ア・カインド・オブ・ハッシュ (見つめあう恋) 12サタデイズ・チャイルド 13イフ・ユア・シンキン・ホワット・アイム・シンキン 14ユー・ウォント・ビー・リーヴィング (二人でいつまでも) 15ダンディ 16ジェザベル 17ノー・ミルク・トゥデイ 18リトル・ミス・ソロウ・チャイルド・オブ・トゥモロウ 19ガスライト・ストリート 10トララ 11イースト・ウェスト 12ザ・フューチャー・ミセス・ホーキングズ -bonus section- 13オー・ミスター・ポーター -bonus section- 14トゥー・ラヴリー・ブラック・アイズ -bonus section- 15マイ・オールド・ダッチ -bonus 16イーキン・バウト・ユー 17ミスター・ムーンライト 18ユー・ベター・ムーヴ・オン 19ルシール 20ベイビー・ドント・クライ 21メンフィス 22ステイ 23ロッキン・ロビン 24ホワットチャ・ゴナ・ドゥ・バウト・イット 2510ドゥ・ユー・ラヴ・ミー 2611イツ・オンリー・メイク・ビリーヴ (思わせぶり)	13ユー・ウォント・ビー・リーヴィング (二人でいつまでも) -bonus section- 14デイス・ドア・スウィングズ・ボス・ウェイズ (ドアがスイング) -bonus section- 15ホールド・オン (アルバム・ヴァージョン) -bonus section- 16ザ・ジョー・ジ・アンド・ドラゴン -bonus section- 17ワイルド・ラヴ -bonus section- 18ホワット・イズ・ロング・ホワット・イズ・ライト -bonus section- 19バディン・マイ・タイム -bonus section- 20ガット・ア・フィーリング -bonus section- 21ウー・シーズ・ダン・イット・アゲイン -bonus section- 22レモン・アンド・ライム -bonus section- 23ザ・モースト・ビューティフル・シン・グ・イン・マイ・ライフ -bonus section- 24デিজリー・チェイン PARTI -bonus section- 25デিজリー・チェイン PARTII -bonus section- 26ザ・ワールド・イズ・フォー・ザ・ヤング -bonus section- 27ロンドン・ルック -bonus section- 28サタデイズ・チャイルド 29イフ・ユーアー・シンキング・ホワット・アイム・シンキング 30いつまでも二人で 31ダンディ 32ノー・ミルク・トゥデイ 33リトル・ミス・ソロウ・チャイルド・オブ・トゥモロウ 34ホワット・カインド・オブ・ガール・アー・ユー 35リトル・ラヴァー 36キャンディ・マン BONUS TRACKS: [15] (Ain't That) Just Like Me [16] Hey What's Wrong With Me [17] Searchin' [18] Whole World Over [19] Now's The Time [20] Zip-A-Dee-Doo-Dah [21] I Understand [22] Stay (stereo version) [23] Poison Ivy (take 10-12)
HERMAN' S HERMITS	(ペーパーズ リーブ仕様) ゼアス・ア・カインド・オブ・ハッシュ・プラス		1967	ブリ ティツ シュビ ート	CD	ハーマンズ・ハーミッツのサードアルバム。ブリティッシュ・ポップスのメロウ・サウンドを代表する名盤。カーペンターズがヒットさせた「見つめあう恋」を筆頭に「イースト・ウエスト」「二人でいつまでも」「ノー・ミルク・トゥデイ」等、キャッチーなナンバー満載のアルバムにサントラ盤収録曲やシングル盤など15曲をプラスした全26曲。		
HOLLISS	(ペーパーズ リーブ仕様) ステイ・ウィズ・ザ・ホリーズ		1964	ブリ ティツ シュビ ート	CD	刺激的なコーラス・ワークとアグレッシヴなアンサンブルで熱狂的な支持を得た英国を代表するポップ・グループ、ホリーズの1stアルバム。63年にデビュー・シングル「ジャスト・ライク・ミー」、セカンド・シングル「サーチン」、サード・シングル「ステイ」(7.)、4枚目のシングル「ジャスト・フン・ルック」の発表に続いて発表されたデビュー・アルバム。先に発表されたシングル曲同様に13. の一曲以外はカヴァーとなっているが、時代を考えれば定番の作りといったところだろう。アルバム制作時のメンバーはグラハム・ナッシュ(g, vo)、アラン・クラーク(vo)、トニー・ヒックス(g, vo)、エリック・ヘイドック(b)、ロビー・エリオット(dr) の5人だが、初期のシングルではドン・ラスボーンがドラムスとして参加していた。 1. は彼らにしては黒っぽい仕上がりで、ファルセットとのユニゾンとなるハーモニー・スタイルが新鮮。ギターはベンチャーズ・スタイルに近いと思う。2. はビートルズでもお馴染みの曲。こちらの方がビート・ポップ風の仕上がりである。3. はストーンズのカヴァーでも有名。当然こちらの方がクセが少ない。4. は有名なR&Bのスタンダード。7. も有名曲だが、おそらくはホリーズのバージョンが一番出来が良く間違いない必殺の仕上がりに。下手ウマのギター・ソロが印象的で、このタメはビートルズの「恋に落ちたら」に並ぶもの。 いわゆるブリティッシュ・ビートの典型的な作品で演奏技術も高いのだが、ビートルズやストーンズの知名度が高すぎるためどうしても二番煎じに聞こえてしまうのは否めない。ホリーズの特徴は他のグループと比較して非常に爽やかに聞こえるところだろう。		
HOLLISS	(ペーパーズ リーブ仕様) イン・ザ・ホリーズ・スタイル (これがホリーズ・スタイル)		1964	ブリ ティツ シュビ ート	CD	自信に満ちた表題が示唆する通り、ホリーズのスタイルの確立を印象付けた1965年の2ndアルバム。前作のカヴァー中心の内容から一気にオリジナル曲中心に変化。半数以上の曲がオリジナルとなっており、本作からクラーク/ナッシュ/ヒックスによるソングライター・ネームの「L. ランスフォード」が登場している。オリジナルは2. 3. 5. 9. 10. 11. 12. の7曲で、チャック・ペリーの7. やドレーの1. を含めて5曲がカヴァーとなっている。あえて当時のオリジナルでのヒット曲「We're Through」を外してあるものも含めて曲作りの面においても当初から実力が高かったことが伺える。また前作のカヴァー中心のアルバムと雰囲気的にはほぼ同じで、前作の多くのスタンダード曲が既にホリーズのスタイルに染まっていたことが逆説的に良く分かる作品でもある。本作はオリジナル中心だが、いわゆるブリティッシュ・ビートの枠から大きく離れないそのジャンルの典型的な作品として楽しめると思う。キンキンのギターと爽やかなコーラス・ワークはこの時代ならではのサウンドである。	1ニッティ・グリッティ・サムシングズ・ガット・ア・ホールド・オン・ミー 2ドント・ユー・ノウ 3トゥ・ユー・マイ・ラヴ 4イツ・イン・ハー・キス 5タイム・フォー・ラヴ 6ホワット・カインド・オブ・ボーイ 7トゥー・マッチ・モンキー・ビジネス 8アイ・ソート・オブ・ユー・ラスト・ナイト(ゆうべもきみを) 9ブリーズ・ドント・フィール・トゥー・バッド(悪く思なよ) 10カム・オン・ホーム 11ユール・ビー・マイン 12セット・ミー・フリー	BONUS TRACKS: [13] Just One Look [14] Keep Off That Friend Of Mine [15] Here I Go Again [16] Baby That's All [17] We're Through [18] Come On Back [19] What Kind Of Love [20] When I'm Not There [21] Yes I Will [22] Nobody [23] We're Through (alternate take) [24] Yes I Will (alternate version) [25] Yes I Will (stereo version)
HOLLISS	(ペーパーズ リーブ仕様) ホリーズ登場！		1965年	ブリ ティツ シュビ ート	CD	65年発表の3rd。オリジナルとカヴァーがほぼ均等に含まれる初期のスタイルを踏襲した内容だが、当時のヒット・シングルが含まれていないあたりにアルバムとしての完成度を高めようという意志と自信のようなものが伝わってくる。 1. は初期ビートルズ的な簡単なギター・ソロも印象的なマイナー調のマーギー・ビート。2. もこの時代の典型的なマーギー・ビートだが、短いハーモニカのソロや強力なコーラス・フレーズなど凄まじくポップ。3. もポップなマーギー・ビート。4. はロイ・オー・ビソンの曲。5. は穏やかなロック・バラード。10. には中期ビートルズの的な雰囲気もあり。オリジナルもカヴァーも彼らなりに消化させて非常に統一感を感じさせる。いわゆる典型的なマーギー・ビート作になっており、本家のビートルズよりもその雰囲気が強いくらいだ。カヴァーの選曲も凄まじくポップ寄りであらう。黒っぽさが少ないのも特徴。	1ヴェリー・ラスト・デイ 2ユー・マスト・ビリーヴ・ミー 3プット・ユアセルフ・イン・マイ・ブレ イス 4ダウン・ザ・ライン 5ザッツ・マイ・デザイア 6トゥー・メニィ・ビーブル 7ローディ・ミス・クロード BONUS TRACKS: 8ホエン・アイ・カム・ホーム・トゥ・ユー 9フォーチュン・テラー	10ソー・ロンリー 11アイヴ・ビーン・ロング 12ミッキーズ・モンキー-[13] I'm Alive [14] You Know He Did [15] Look Through Any Window [16] Honey And Wine [17] If I Needed Someone [18] I Can't Get Nowhere With You [19] She Gives Me Everything I Want [20] You In My Arms [21] Look Through Any Window (stereo version) [22] French version
HOLLISS	(ペーパーズ リーブ仕様) ウッド・ユー・ビリーヴ?		1966	ブリ ティツ シュビ ート	CD	グループのキャリアを代表する大ヒット曲のひとつ「アイ・キャン・レット・ゴー」を含む1966年の4thアルバム。本作発表後、エリック・ヘイドック(b)が脱退するためオリジナル・メンバーで制作された作品としては最後となる作品。全体的にやや黒っぽい雰囲気も感じられるが、それは選曲の変化ということもあるのだろう。チャック・ペリーの4. やバディ・ホリーの7. などのロック・クラシックに混じってS&Gの6. などフォーク系のカヴァーやトラッドの10. オリジナルの2. や9. においてもアコギによるフォーク調の曲が含まれており音楽的な変化も見られる内容だが、シングルでも大ヒットを記録したビート・ポップ調の14. がやはり本作の白眉。この曲には彼らの初期のイメージが濃厚に感じられ、初期ホリーズの残り香のような名曲と言っても良いと思う。こういった新旧の内容が混在するあたりから彼らの歴史上は過渡期の作品とされることが多い本作だが、作品としての魅力は何ら問題はない。素晴らしい仕上がりである。	1. アイ・デイク・ホワット・アイ・ウォ ント 2. ハード・ハード・イヤー 3. ザッツ・ハウ・ストロング・マイ・ラ ヴ・イズ 4. スウィート・リトル・シックスティ ン 5. オリエンタル・サッドネス 6. アイ・アム・ア・ロック	7. デイク・ユア・タイム 8. ドント・ユー・イーヴン・ケア 9. フィフィ・ザ・フリー 10. ステューボール 11. アイヴ・ガット・ア・ウェイ・オブ・ マイ・オウ ン 12. アイ・キャン・レット・ゴー
HOLLISS	フォー・サートゥン・ビゴーズ		1966	ブリ ティツ シュビ ート	レコ ード	1966年発売 5枚目のアルバム。全曲オリジナルによりアルバムとしての統一感もしっかり保たれ破綻がない。後に米国のみでシングルカットされた「Pay you back with interest」や米国人シンガーKeithモカバレーのシングルカットした「Tell me to my face」、さらに、このアルバム発売前に一足早くシングルとして発売され英米で大ヒットした「Stop stop stop」など、楽曲のクオリティも高い。1966年にリリースされたシングル曲「After The Fox」、同年にリリースされUKシングル・チャートで5位を記録したヒット曲「Bus Stop」収録。パンジーが何曲にも使われ、アメリカの雰囲気がある。12曲全曲がアラン・クラーク、グラハム・ナッシュ、トニー・ヒックスによって作曲されている。ホーン・セクションや木管楽器も使われ、サウンドが豪華だ。デビュー当時のビートグループのサウンドではなくなっている。「ハイ・クラスト」はママス&パピスのキャス・エリオットが歌うような曲。	A面 1. What's Wrong With The Way I Live 2. Pay You Back With Interest 3. Tell Me To My Face 4. Clown 5. Suspicious Look In Your Eyes 6. It's You	B面 1.High Classed 2.Peculiar Situation 3.What Went Wrong 4.Crusader 5.Don't Even Think About Changing 6. Stop Stop Stop (Or Honey I'll Be Gone)
HOLLISS	(ペーパーズ リーブ仕様) フォー・サートゥン・ビゴーズ		1966	ブリ ティツ シュビ ート	CD			
HOLLISS	(ペーパーズ リーブ仕様) エヴォリューション		1967	ブリ ティツ シュビ ート	CD	ホリーズの”サイケデリック・イヤーズ”を代表する1967年の6thアルバム。ジャケット・デザインそのままのカラフルなサウンドと、グループ本来の持ち味であるシャープなポップ・センスが融和した人気作。アルバムとしての評価は、同年発表の次作「バタフライ」が本作をよりコンセプトを高めた形で認知されているものの、サイケデリック影響下にありながらホリーズ印のキャッチーな楽曲が並ぶという点では「エヴォリューション」に1日の長があり、決して引けを取らない傑作。このアルバムに収められたナンバーは、フォーク、ラーが音楽、カリブソ音楽などの多様な要素を散りばめながら、美しいメロディーとハーモニーを聴かせてくれます。アコースティック・ギターのコードに導かれてディストーション・ギターがリフを響かせる瞬間からアルバムが終わるまで、カラフルで唯美主義的(＝サイケデリック)な刺激に溢れた世界を満喫出来ます。とびきりポップでサイケデリックな名盤です!!	1.ゼン・ザ・ハートイクス・ビギン 2.ストップ・ライト・ゼア 3.ウォーター・オン・ザ・ブレイン 4.ラバイトゥ・ティム 5.ハヴ・ユウ・エヴァー・ラヴド・サム・バディ 6.ユー・ニード・ラヴ 7.レイン・オン・ザ・ウィンドウ 8.ヘディング・フォー・ア・フォール 9.オールド・トフィ・ショップ 10.ホエン・ユア・ライツ・ターンド・オン 11.リーヴ・ミー 12.ゲイズ・ウィ・ブレイ 13.ゼン・ザ・ハートイクス・ビギン (ステレオ・ヴァージョン) 14.ストップ・ライト・ゼア (ステレオ・ヴァージョン) 15.ウォーター・オン・ザ・ブレイン (ステレオ・ヴァージョン) 16.ディア・エロイース 17.アウェイ・アウェイ・アウェイ 18.メイカー 19.ベガサス 20.ウツ・ユー・ビリーヴ 21.ウィッシュ・ユー・ア・ウィッシュ	16.ラバイトゥ・ティム (ステレオ・ヴァージョン) 17.ハヴ・ユウ・エヴァー・ラヴド・サム・バディ (ステレオ・ヴァージョン) 18.ユー・ニード・ラヴ (ステレオ・ヴァージョン) 19.レイン・オン・ザ・ウィンドウ (ステレオ・ヴァージョン) 20.ヘディング・フォー・ア・フォール (ステレオ・ヴァージョン) 21.オールド・トフィ・ショップ (ステレオ・ヴァージョン) 22.ホエン・ユア・ライツ・ターンド・オン (ステレオ・ヴァージョン) 23.リーヴ・ミー (ステレオ・ヴァージョン) 24.ゲイズ・ウィ・ブレイ (ステレオ・ヴァージョン) 25.キル・ミー・クウィック 7.ポストカード 8.チャーリー・アンド・フレッド 9.トライ・イット 10.エレヴェイテッド・オブザ・ウェイション 11.ステップ・イン・サイド (とび出せ初恋) 12.バタフライ
HOLLISS	(デジパック仕様) バタフライ		1967	ブリ ティツ シュビ ート	CD	1967年リリースのホリーズの7thアルバム。60年代後半のサイケデリックブームの時期のホリーズの傑作のバタフライ。このアルバムは、サイケデリック・ロックやフォーク・ロック等の要素をナッシュ独自のポップ・センスとオーケストレーションにより、美しく刺激的な美しさに上げています。 1曲目「Dear Eloise」の幻想的な導入からラストの「Butterfly」の悲しくささ響く美しさまで、飽きる事無くメロディアスな60年代後期のロックンロール黄金期の世界に没れます!! 商業的な成功はつかめず、このアルバム後にナッシュはバンドを去る事となってしまうし、このアルバム自体も一時は廃盤となってしまっって入手不可能だった様ですが、内容は正に「名盤」と呼べるもの		

	HOLLIESS	オール・ザ・ヒッツ・アンド・モア		1988/12/28	ブリティッシュ・ビート	CD	ホリーズの代表曲40曲を収録したベスト盤。	DISC1 1 ジャスト・ライク・ミー 2 .サーチン 3 .ステイ 4 .ジャスト・ワン・ルック 5 ヒア・アイ・ゴー・アゲイン 6 .ウィアー・スルー 7 .イエス・アイ・ウィル 8 .アイム・アライブ 9 .恋は窓から 10 .イフ・アイ・ニード・サムワン 11 .アイ・キャン・レット・ゴー 12 .パス・ストップ 13 .ストップ・ストップ・ストップ 14 .ベイ・ユー・バック・ウィズ・インタレスト 15 .恋のカルーセル 16 .キャリー・アン 17 .キング・マイダス 18 .ディア・エロイズ 19 .ジェニファー・エクルス 20 .リッスン・トゥ・ミー 21 .ごめんねスザンヌ 22 .兄弟の誓い	DISC2 1 .迷える僕 2 .懐しのガリソン・アレー 3 .ヘイ・ウィリー 4 .喪服の女 5 .ベイビー 6 .カーリー・ビリー 7 .安らぎの世界へ 8 .サンディ 9 .アイム・ダウン 10 .ダディ・ドント・マインド 11 .結婚しては早すぎる 12 .ソルジャーズ・ソング 13 .イフ・ザ・ライツ・ゴー・アウト 14 .テイク・マイ・ラブ・アンド・ラン 15 .ギブ・ミー・タイム 16 .ハートビート 17 .テル・ミー・ハウ 18 .ドント・レット・ミー・ダウン
	HOWARD JONES	かくれんぼ		1984	エレクトロニクス	レコード			
	HOWARD JONES	オンリー・ゲット・ベター 12インチャーズ		1985	エレクトロニクス	レコード			
	HUEY LEWIS AND THE NEWS	スポーツ		1983	ロック	レコード	1983年リリース作品。ヒューイ・ルイス&ザ・ニュースの人気を決定づけたサード・アルバムで、全米チャートで長期間にわたり1位を記録している。「アイ・ウオント・ア・ニュー・ドラッグ」や「ハート・オブ・ロックン・ロール」などヒット・ナンバーが満載。	1 ハート・オブ・ロックン・ロール 2 THE HEART OF ROCK AND ROLL 3 ハート・アンド・ソウル HEART AND SOUL 4 バッド・イズ・バッド BAD IS BAD 5 アイ・ウオント・ア・ニュー・ドラッグ 6 I WANT A NEW DRUG 7 ウォーキング・オン・ア・シン・ライン 8 WALKING ON A THIN LINE	6 君のもとへ FINALLY FOUND A HOME 7 いつも夢みて IF THIS IS IT 8 ユー・クランク・ミー・アップ YOU CRACK ME UP 9 ホンキー・トック・ブルーズ HONKY TONK BLUES
	HUEY LEWIS AND THE NEWS			1983	ロック	レコード	前作「SPORTS」に、映画「バック・トゥ・ザ・フューチャー」から、「The Power of Love」「Back in Time」の大ヒットと、ノリにノった状態で出された4作目。ゴルフ好きの彼らしく、「危ない！」を意味する掛け声、「FORE！」がタイトルに据えた、余裕の一枚。 中身はこれまでとまったく変わらないロックンロールがずらりなんだが、大ヒットの余裕からか、よりどっしり構えた感がある。これまで以上に“Tower of Power”によるホーン・セクションが目につき、場末のロックバンドから、すっかりスタジオ・バンド然としたところがある。無理にスケールアップを狙ったって感じでもなく、違和感がない。(1)(2)が全米1位、(4)(5)も大ヒット。得意のアカペラもあり、バラエティに富んだ内容で一氣に聞かせる、ヒューイ達を語る上でこれも欠かせない。	1ジェイコブズ・ラダー 2スタック・ウィズ・ユー 3ホール・ロット・ラヴィン 4すべてを君に 5ヒップ・トゥ・ビー・スクエア	6アイ・ノウ・ホワット・アイ・ライク 7アイ・ネヴァー・ウォーク・アローン 8パワー・オブ・ラブ 9愛しき人々 10ナチュラリー 11シンプル・アズ・ザット
	HUMAN LEAGUE	人類零年		1979	エレクトロニクス	レコード			
	HUMAN LEAGUE	幻の果てに		1980	エレクトロニクス	レコード			
	HUMAN LEAGUE	ラヴ・アクション		1981	エレクトロニクス	レコード			
	HUMAN LEAGUE	ラヴ・アンド・ダンシング		1982	エレクトロニクス	レコード			
	HUMAN LEAGUE	ヒステリア		1984	エレクトロニクス	レコード			
	HUMBLE PIE	アズ・セイフ・アズ・イエスタデイ・イズ		1969	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	スモール・フェイス解散後、スティーヴ・マリOTTがザ・ハードのピーター・フランプトンらと結成したハンブル・パイの記念すべき1stアルバム。人気があった二人が結成したバンドと言う事でスーパーグループ誕生と言われ、メンバー各々がそれまでのヒット・ポップス・バンドから脱皮を狙って結成した当初の音楽的方向は“ダーティー・ロックンロール”と呼ばれるものであった。R&Bとロックンロール色の濃いアルバムとなっているが、一方でアコースティックな感覚も忍ばせるなど、マリOTTとフランプトンの個性の違いを表した興味深い作品となっている。尚、収録曲の「デスベレイション」はステッペンウルフのカヴァーで、「グロウイング・クローサー」はスティーヴ・マリOTTがかつて在籍していたスモール・フェイスのメンバー、イアン・マクレガン作の曲。全英アルバムチャートで32位。デビュー・シングル「あいつ(Natural Born Bugie)」は、全英シングルチャートで最高4位を記録。	Side A 1. デスベレイション 2. スティック・シフト 3. パター・ミルク・ボーイ 4. グロウイング・クローサー 5. アズ・セイフ・アズ・イエスタデイ・イズ	Side B 1. バン! 2. アラバマ' 69 3. アイル・ゴー・アローン 4. ア・ニフティ・リトル・ナンバー・ライク・ユー 5. ホワット・ユー・ウィル
	HUMBLE PIE	(ペーパーズ・リープ仕様) アズ・セイフ・アズ・イエスタデイ・イズ		1969	ハードロック&ヘヴィメタル	CD		以下、CDボーナス・トラック 11あいつ 12リスト・ジョブ	
	HUMBLE PIE	(ペーパーズ・リープ仕様) タウン・アンド・カントリー		1969年	ハードロック&ヘヴィメタル	CD	ハンブル・パイのセカンド・アルバム。全体的にアコースティックでフューリーない些さいを強めた作品。「アズ・セイフ・アズ・イエスタデイ・イズ」とこの作品は、同じ時期のセッションから制作され、「アズ・セイフ〜」に比較的他ビーな曲を集めたため、アコースティック・セットが残ってしまった、というのも知られた話です。米国ルーツ音楽に近寄りうとした気配も感じられますし、ボーカルが三人もいるためバッファロー・スプリングフィールドやバースあたりを意識していたのかもしれませんが、実に沢くて、いい曲が多いです。フランプトンがトラッド、フォークの味わいを持ち込んだと感じられるかもしれませんが、マリOTTも半分曲を書いています。「タウン・アンド・カントリー」というタイトルとジャケットのコンセプトから、マリOTT対フランプトンという色合いを感じられるかたがいしたら、それは誤解。ファーストとセカンドは完成度はともかく、共にデモだったと思います。次作に「ハンブル・パイ」というタイトルをつけて、実質のスタートとしているのが根拠です。 3.はラーガ・ロック。4.はスティーヴの沢くて甘いナンバー。7.はカントリー。8.はポップ・ロック。10.はスプーキー・トウースそっくり。9.と11.がアコースティックでスベシーなピーターの曲。11.は素晴らしい。	1. テイク・ミー・バック 2. シェイキー・ジェイクの哀れな物語 3. ライト・オブ・ラブ 4. コールド・レディー 5. ダウン・ホーム・アゲイン 6. オリー・オリー 7. エヴリ・マザーズ・サン 8. ハートビート 9. オンリー・ユー・キャン・シー 10. シルヴァー・タン 11. ホーム・アンド・アウェイ	以下、CDボーナス・トラック 12. 79TH ストリート・ブルース 13. グレグス・ソング

	HUMBLE PIE	大地と海の歌		1970年	ハード ロック& ヘヴィメ タル	CD	1970年リリースのA&M移籍後の心機一転第1弾アルバム……通算3作目。R&Bをルーツにしたラブなロックをやっています。スティーブマリOTT・ピーターフランプトン・グレッググリドレー・ジェリーシャーリーの4人によるプリティッシュロックの良さを伝える1枚。ピーター・フランプトンが在籍し、メンバーそれぞれの思惑のはざまで成立していた、この時期も捨てがたい魅力です。ピ アスレーの絵を配したカバーのイメージとかなり違い、ヘビーロックのお手本のような作品で す。オープニングを飾るLive With Meの地べたを這いするとき重さ、劇的展開は、ツェッペリン にも劣りません。そうしたヘビー曲が4曲。メンバーそれぞれが作曲しボーカルもとる4曲がその 間に配置される構成です。メンバーそれぞれの曲は全てカントリーに根差していて、4人ともア メリカのルーツ・ミュージック好きだったことが判ります。それが共作になると別グループかと思 うぐらいブルースとハード・ブギの世界になるのが不思議。おそらくこの頃のバイのメンバーは お互いをリスペクトしていて、これでもか、これでもか、とセッションを重ねるうち、重い音になっ ていったのではないかと。よく言われているように、フランプトンのみがアコースティック指向を 持っていたわけではありません。それどころか、彼の歪んだギターこそが、前期バイの破壊的 魅力の基盤です。改めて聞くと、マリOTT、フランプトン、ジェリー・シャーリー、グレッグ・グライド	Side A 1. リヴ・ウィズ・ミー 2. オンリー・ア・ローチ 3. スネイク・ルンバ 4. 大地と海の歌	Side B 1. アイム・レディー 2. スキントのテーマ 3. レッド・ライト・ママ、レッド・ホット! 4. スウィート・ヴァイン
	HUMBLE PIE	スモーキン		1972	ハード ロック& ヘヴィメ タル	CD	72年作。ハンブル・パイの通算5作目となったアルバム。プリティッシュ・ハード史に残る名盤。 本作から音楽性の違いにより脱退したピーター・フランプトンに代わり、元コロシアムのクレム ・クレムソンが参加しています。ポップ指向とスター性を備えていたフランプトンの脱退により、バ ンドはますますスティーブ・マリOTT主導のものになっていきます。ソウル・ミュージックとハー ド・ロックの融合がここで完成し、唯一無比の個性を生み出していきます。 MR. BIGがカヴァーした事で有名な「30 Days in the hole(ほら穴の30日間)」が本作からヒット し、バンドは人気絶頂期を迎えようとしています。	1. ホット・アンド・ナースティ 2. フィクサー 3. ユア・ソー・グッド・フォー・ミー 4. カモン・エブリバディ 5. オールド・タイム・フィーリン 6. ほら穴の30日 7. ロード・ランナー/ロード・ラン ナー・G・ジャム 8. アイ・ワンダー 9. スイート・ピース・アンド・タイム	
	HYDRA	不死身のロック 魂		1974年	ハード ロック& ヘヴィメ タル	レコー ド	ヒブノシスによるジャケットが目引くハイドラのデビューアルバムです。UKロックに通じるような プリティッシュ風な曲展開に、サウンドはカラッと乾いたアメリカン・ハード・ロック!。オールマンズ を擁したカプリコーンレーベルから1974年にデビューした実はサザンロックバンド。セカンドの 「ランド・オブ・マネー」とレーベル移籍した後のサード「ロック・ザ・ワールド」の方がよりプリ ティッシュ然としています。が、このファーストはまだアメリカン・ハードロック然としており、このテ イストも悪くありません。	Side A 1. Glitter Queen 4:04 2. Keep You Around 5:20 3. It's So Hard 4:49 4. Going Down 3:06 5. Feel A Pain 6:25	Side B 1. Good Time Man 3:23 2. Let Me Down Easy 4:23 3. Warp 16 4:22 4. If You Care To Survive 2:59 5. Miriam 7:42
	IAN DURY	ニュー・ブーツ・ アンド・パン ティーズ		1977	バブロッ ク	レコー ド	エルビスコストロやニック・ロウらとともにバブ・サーキットから飛び出したバブ・ロックの雄イ アン・デュリーの記念すべきデビュー作にしてヒット作。 盟友CHAS JANKELのセンスと共にソウルやファンク、レゲエやワールドを消化した最高のロッ クンロールが詰まった永遠のバブ・ロック・クラシック。	Side A 1. ウェイク・アップ・アンド・メイク・ラ ヴ・ウィズ・ミー 2. スウィート・ジーン・ヴィンセント 3. アブラカダブラ 4. マイ・オールド・マン 5. ビラリキー・ディッキー	Side B 1. クレヴァー・トレヴァー 2. イフ・アイ・ウオズ・ウィズ・ア・ ウーマン 3. ブロックヘッズ 4. プラーストゥ・パトリシア 5. ブラックメール・マン
	IAN DURY	ニュー・ブーツ・ アンド・パン ティーズ		1977	バブロッ ク	レコー ド		Side A 1. ウェイク・アップ・アンド・メイク・ラ ヴ・ウィズ・ミー 2. スウィート・ジーン・ヴィンセント 3. アブラカダブラ 4. マイ・オールド・マン 5. ビラリキー・ディッキー	Side B 1. クレヴァー・トレヴァー 2. イフ・アイ・ウオズ・ウィズ・ア・ ウーマン 3. ブロックヘッズ 4. プラーストゥ・パトリシア 5. ブラックメール・マン
I	IAN DURY	ニュー・ブーツ・ アンド・パン ティーズ		1977	バブロッ ク	CD		1ウェイク・アップ・アンド・メイク・ラ ヴ・ウィズ・ミー 2スウィート・ジーン・ヴィンセント 3アブラカダブラ 4マイ・オールド・マン 5ビラリキー・ディッキー 6クレヴァー・トレヴァー 7イフ・アイ・ウオズ・ウィズ・ア・ウー マン 8ブロックヘッズ 9クレヴァー・トレヴァー 10マン・デ・グランド 11マン・デ・グランド 12マン・デ・グランド 13マン・デ・グランド 14マン・デ・グランド 15マン・デ・グランド 16マン・デ・グランド 17マン・デ・グランド 18マン・デ・グランド 19マン・デ・グランド 20マン・デ・グランド	以下、CDボーナストラック 11. INTORO BY VINYL MOGUL 12. ウェイク・アップ・アンド・メイク・ ラヴ・ウィズ・ミー 13. スウィート・ジーン・ヴィンセント 14. マイ・オールド・マン 15. ビラリキー・ディッキー 16. クレヴァー・トレヴァー 17. イフ・アイ・ウオズ・ウィズ・ア・ ウーマン
	IAN DURY	ドウ・イット・ユア セルフ		1979	バブロッ ク	レコー ド	1979年発表のセカンド・アルバム。今作からはブロック・ヘッズ名義になった。結果として演奏、 アレンジ、楽曲にと前作を上回っている。ただ、ここにはアルバムに先だってリリースしたシング ル曲たちが含まれて居らず、ファーストほどのキャッチーさはない。(「アルバムとシングルは別 物」とイアン本人が断固切り捨てたらしい。)タイトに煮詰めた楽曲は現在聴いても知的で新し く、なるほどこの曲順にはこの楽曲とアレンジしかないよな、と思う。チャス・ジャンケルは今作 でブロック・ヘッズを去りそれと共にイアンの人気も下降したが、それはそれ。アルバム3〜4枚 スターダムが続くのはメジャーの世界の話でイアンたちは大健闘だ。実際ここでイアン+チャス のコンビは一度完結している。発売当時この音は「けつ青いガキ」であつた私には衝撃的で、 なにせ演奏が抜群に巧い。そしてファーストイアン名義だからか?)で垣間見たブルービートの 影が全くない。真正ブロック・ヘッズ、唯一ここにありき。	1インビトウーニーズ 2クワイエット 3ドント・アスク・ミー 4シンク・マイ・ポート 5ウェイティング・フォー・ユア・タク シー 6ディス・イズ・ホワット・ウィ・ファイン ド 7アンイージー・サニー・ディ・ホッ ヅィ・トゥツィ	
	IAN DURY	(ペーパーズ リーブ仕様) ドウ・イット・ユア セルフ		1979	バブロッ ク	CD			
	IAN DURY	ラーフター		1980	バブロッ ク	レコー ド	1980年発表のサード・アルバム。80年発表の3rd。チャズ・ジャンケルの脱退に伴い、同時期 にドクター・フィールグッドを脱退していたウィルコ・ジョンソンが参加した話題作。いわばバブ ・ロックの両雄が揃った格好になっており、またプレイヤーとしてのみならずソングライターとして も有能なウィルコの参加はチャズの穴を埋めるにはもってこいの人材とも言えるが、典型的なタ デワリの彼とこれまた典型的なヨコリノブロックヘッズの演奏との噛み合いの悪さは聞く前か ら想像に難しくはない。しかしながらそのすぐに分かるギターとブロックヘッズ、そしてストリン グスが加わった1. は見事なバブ/ファンクに仕上がっており、そんな不安は一気に消え失せる。 本作でのウィルコの楽曲提供は11. のみとなっているが、先行シングルで発表された全米51 位の「スーパー・マンズ・ビッグ・システム」も彼の手によるものだった。またゲストとしてドン・チェ リー(tp)、レイ・クーバー(per)なども参加しており、蓋を開けてみれば作品の出来栄は文句な し。こんなことは言うまでもないがバブ・ロック・ファン必聴の作品である。チャズはいないが本 当に良い曲が集まっており、他のメンバーのソングライティングの実力の高さが伺える。特に12. は代表曲の一つと言ってよいと思う。今から思えばもったいないということに尽きるのだが、本 作を最後にデュリーはブロックヘッズと袂を分ち、再度チャズ・ジャンケルと組む事となる。 プリンスリー・ジュウォーツにいたギタリスト、イアン・コムが解散後ソロになり、英アルビオン から1980年に発表した2nd。このアルバム、昔レコファンで輸入盤がよく売ってて、当時値段が 2000円以上したので敬遠してたけど、あれから約20年、いいかげん安くなった中古盤を手に入 れて聞いてみたら、いいじゃないですかこれ。内容は元同僚ニック・ロウに通じるシンプルで味 わい深いR&Rにレゲエが入ったポップソング集で、	01Superman Big Sister 02Pardon 03Delusions Of Grandeur 04Yes And No (Paula) 05Dance Of The Crackpots 06Over The Points 07(Take Your Elbow Out Of The Soup)You're Sitting On The Chicken	08Uncoolohol 09Hey, Hey Take Me Away 10Manic Depression (Jimi) 11Oh Mr Peanut 12F**king Ada 13I Want To Be Straight 14That's Not All 15You'll See Glimpses
	IAN GOMM	ホワット・ア・ブ ロウ			ニュー ウェイブ	レコー ド	元プリンスレイ・ジュウォーツにいたギタリスト、イアン・コムが解散後ソロになり、英アルビオン から1980年に発表した2nd。このアルバム、昔レコファンで輸入盤がよく売ってて、当時値段が 2000円以上したので敬遠してたけど、あれから約20年、いいかげん安くなった中古盤を手に入 れて聞いてみたら、いいじゃないですかこれ。内容は元同僚ニック・ロウに通じるシンプルで味 わい深いR&Rにレゲエが入ったポップソング集で、		
	IAN GOMM	ホワット・ア・ブ ロウ			ニュー ウェイブ	レコー ド	元プリンスレイ・ジュウォーツにいたギタリスト、イアン・コムが解散後ソロになり、英アルビオン から1980年に発表した2nd。このアルバム、昔レコファンで輸入盤がよく売ってて、当時値段が 2000円以上したので敬遠してたけど、あれから約20年、いいかげん安くなった中古盤を手に入 れて聞いてみたら、いいじゃないですかこれ。内容は元同僚ニック・ロウに通じるシンプルで味 わい深いR&Rにレゲエが入ったポップソング集で、		
	IDLE RACE featuring JEFF LINNE	ベスト・オブ・ア イドル・レース		1990	ロック	CD	アイドル・レース(ジェフリン)のベスト盤。	The End Of The Road The Morning Sunshine The Lady Who Said She Could Fly Happy Birthday The Birthday Girl At The Window Big Chief Woolly Boshier Here We Go Round The Lemon Tree My Father's Son The Skeleton And The Roundabout Come With Me Going Home	Mr Crow And Sir Norman Please No More Sad Songs Follow Me Follow On With The Show Lucky Man Imposters Of Life's Magazine Days Of The Broken Arrows I Like My Toys Sea Of Dreams A Better Life (The Weatherman Knows) Warm Red Carpet Someone Knocking Hurry Up, John
	IGGY POP	ニュー・ヴァ リューズ		1979	ロック	レコー ド	ARISTAレーベル移籍後の第1弾アルバム。プロデュースはSTOOGESの盟友JAMES WILLIAMSON、ギター、キーボードでSCOTT THURSTON、ドラムスでTANGERINE DREAMの KLAUS KRUGERが参加。バンク・アンセム"I'M BORED"、"FIVE FOOT ONE"などなど、IGGY がソングライターとしての実力を覚醒させたコンパクトなロックンロール・ナンバーが並ぶキレの 良い名盤。"DON'T LOOK DOWN"はのち84年にDAVID BOWIEが『TONIGHT』でカヴァー。 曲、アレンジともに無駄が全くない凄くタフなサウンド。当時のバンク・ニューウェイヴへの彼な りの回答として面白い。しかし幾多の若いバンクと連うのはイギーを含めてバンドが非常に巧 いことで、ミニマムな音でこれだけの重みと疾走感が出せるのは流石。お馴染みのオアシス ・サーストンとはここでは主にギター担当している。バックギンも見事だが、全編、楽譜に起こせ そうな素晴らしいラインのソロを聴かせている。特にタイトル曲の間奏は攻撃的だが美しい。プ ロデュースはJウイラムソン。	1. Tell Me a Story 2:47 2. New Values 2:36 3. Girls 2:57 4. I'm Bored 2:45 5. Don't Look 3:35 6. The Endless Sea 4:47	7. Five Foot One 4:28 8. How Do Ya Fix a Broken Part 2:52 9. Angel 3:41 10. Curiosity 2:26 11. African Man 3:33 12. Billy Is a Runaway 2:26
	INMATES	ファースト・オ フェンス		1979	ニュー ウェイブ	レコー ド	インメイツのデビュー・アルバム『ファースト・オフENSE』は、1979年にリリースされたアメリカ・ナ ショナル・チャートで40位に達した。60年代のR&Bを自分たちのオリジナルで置き、まるで80 年代のローリングストーンズを感じて、ヴォーカルがミックジャガーかと思わせる位に素晴らしい。 楽曲は全てカッコ良い!		

	INMATES	ショット・イン・ザ・ダーク		1980	ニューウェイブ	レコード			
	INXS	シャブー・シュバー		1980	ロック	レコード	オーストラリア出身のロック・バンド。インエクセスのサードアルバム。本作は前2作に比べるとニューウェーブ色からビートの効いたロック・アルバムへ変化した作品になっている。 1. 「THE ONE THING」(全米デビュー・シングルとなり30位を記録(オーストラリア14位) 10. O「DON'T CHANGE」(‘82年全米80位、オーストラリア14位)GOO GOO DOLLSもカバー 2. 「TO LOOK AT YOU」(‘83年オーストラリア36位) 6. 「BLACK AND WHITE」(‘83年オーストラリア24位)と4枚のシングルがヒットした。アルバムもオーストラリア5位、全米46位とヒット。	1. The One Thing 2. To Look at You 3. Spy of Love 4. Soul Mistake 5. Here Comes	6. Black and White 7. Golden Playpen 8. Jan's Song 9. Old World New World 10. Don't Change
	INXS	シャブー・シュバー		1980	ロック	CD			
	INXS	スウィング		1984	ロック	レコード	インエクセスの通算4枚目のアルバム。洗練されたロック・サウンドが聴くことができる好盤。 1曲目の「ORIGINAL SIN」は、ナイル・ロジャースがプロデュースし、ダリル・ホールがコーラスで参加したこの曲は'83年オーストラリアでNO.1、ニュージーランド6位、スイス23位、全米58位と大ヒット。その他、3曲目の「I SEND A MESSAGE」(‘84年オーストラリア2位、ニュージーランド18位、全米77位)、9曲目の「BURN FOR YOU」(‘84年オーストラリア3位、ニュージーランド29位)、4曲目の「DANCING ON THE JETTY」(‘84年オーストラリア39位)と4枚のシングルがヒットし、アルバムもオーストラリアNO.1、ニュージーランド6位、全米52位を記録。	Side A 1. オリジナル・シン 2. 太陽の誘惑 3. メッセージ 4. ダンシング・オン・Z・ジェティ 5. スウィング	Side B 1. ジョンソンの飛行機 2. ホワット・アイ・セイ 3. フェイス・ザ・チェンジ 4. バーン・フォー・ユー 5. オール・ザ・ヴォイス
	INXS	スウィング		1984	ロック	CD		1. Original Sin 2. Melting In The Sun 3. I Send A Message 4. Dancing On The Jetty 5. The Swing	6. Johnson's Aeroplane 7. Love Is (What I Say) 8. Face The Change 9. Burn For You 10. All The Voices
	INXS	キック		1987	ロック	レコード	インエクセスの通算6枚目となるアルバム。60年代のソウル・ミュージックを隠し味にしながらも、聴することなく打ち込みを取り入れているため、いわゆるニュー・ウェーブと呼ばれるサウンドのようでもあるが、全体のグルーヴ感ほロック以外の何物でもなく、音楽ファンの新たなニーズに応えることとなった。初の全米No.1シングルとなった「ニード・ユー・トゥナイト」をはじめ、トータル4曲ものトップ10シングルを叩き出し、彼らを世界トップ・クラスの座へと導いた出世作となった。	Side A 1. Guns In The Sky 2. New Sensation 3. Devil InSide 4. Need You Tonight 5. Mediate 6. The Loved One	Side B 1. Wild Life 2. Never Tear Us Apart 3. Mystify 4. Kick 5. Calling All Nations 6. Tiny Daggers
	INXS	キック		1987	ロック	CD			
	INXS	X		1990	ロック	CD	前作の大ヒットした「KICK」に続き'90年にリリースされた7枚目のアルバム。本作は全米で200万枚のセールスを記録し、全米で最高2位の大ヒットを記録し、全英2位、本国オーストラリアでもNO.1を記録した。 ここから4枚のシングルがカットされヒット。1「SUICIDE BLONDE」全米9位、全英11位。2「DISAPPEAR」全米8、全英21位。9「BITTER TEARS」全英30位。5「BY MY SIDE」全英42位。前作よりノリがあり勢いのある楽曲が多い。	1. Suicide Blonde 2. Disappear 3. The Stairs 4. Faith In Each Other 5. By My Side 6. Lately	7. Who Pays The Price 8. Know The Difference 9. Bitter Tears 10. On My Way 11. Hear That Sound
	INXS	ホエアエヴァー・ユー・アー		1992	ロック	CD	1992年にリリースされた8枚目のアルバム。全米18位、オーストラリア2位、全英11位、スウェーデンNO.1、スイス2位、オーストラリア2位各国でも高セールスを記録した。今までのバンドのサウンドと異なり、前作あたりからでてきた、実験的な部分(ノイズな雰囲気のあるダンス・ビート)も確立しつつも、音の厚みや迫力、そして聴きやすいメロディーから非常に良くできたアルバムだと思います。個々の楽曲は正直に書いてしまう出来不出来が激しく、特に後半はカップリング集のようなクオリティのまま終わってしまう印象は否めません。ただ試行錯誤が実を結んだシングル曲群は、いつ聴いても素晴らしいの一言。全身で飛び込めるスリルに満ちた"\"Heaven sent\"", INXSのラヴ・ソング中で最もエレガントな"Not enough time"、切なく優しい哀歌"\"Beautiful girls\"\"など素晴らしい曲も多く是非聴いて欲しいアルバムだ。 また、アルバムから5枚のシングルカットがされ、 2曲目「HEAVEN SENT」(オーストラリア14位、全英31位、スウェーデン35位) 4曲目「TASTE IT」(全英21位、ニュージーランド31位、オーストラリア37位) 5曲目「NOT ENOUGH TIME」(全米28位) 7曲目「BABY DON'T CRY」(全英20位、オーストラリア30位、ニュージーランド34位) 8曲目「BEAUTIFUL GIRL」(全英23位、オーストラリア34位、全米46位、ニュージーランド50位) 全米2位のヒットとなった。	1. Questions 2. Heaven Sent 3. Communication 4. Taste It 5. Not Enough Time 6. All Around	7. Baby Don't Cry 8. Beautiful Girl 9. Wishing Well 10. Back On Line 11. Strange Desire 12. Men And Women
	IRON MAIDEN	鋼鉄の処女		1980	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	30年作、記念すべきアイアン・メイデンのデビュー作となったアルバムです。NWOBHMシーンが爆発したのは、間違いなく本作をきっかけとしたと言っても過言ではないと思います。 その印象的なジャケットから、バンド名、そして飛び込んでもスピーディーなナンバーは全てが新しく聴こえたものでした。ほぼ同時期にジューダス・プリーストが「BRITISH STEEL」をリリースし、メタル・ゴッドの愛称を自ら生み出していますが、まさに英国ハードの過渡期を作ったのはこの両者だったのは誰もが納得するところだと思います。言ってみればこの2枚のアルバムは、それまでのヘヴィ・メタルという大雑把なイメージを包括的にまとめてくれたわけで、当然の事として以降のシーンも両輪で牽引したのだと思います。 直線的、鋭角なリフを主体に、歌メロはかなり聴きやすいとも思えるキャッチーさがジューダスの新機軸だったとしたなら、メイデンの新しさはツイン・リードとベースのユニゾンを含む攻撃的な疾走感、低音ヴォーカルでのシャウトと吐き捨てる様な唱法が挙げられると思います。当時のパンク・ファンが、メイデンをすんなり受け入れていた事を考えると、この違いはかなり大きなものであったのではないのでしょうか。確かに初代ヴォーカリストのポール・ディアノの情緒過多にならない、言わばクールとも言える声にはパンクishな魅力もありましたが、メイデンの奥深い音楽性はそれだけでは語り尽くせません。すでにプログレからの影響を露わにしている、複雑な曲、リズムの構成はそれまでの様式美ハード・ロックには見られなかったもので、クラシックやブルースを下敷きにしたプリティッシュ・ハードの歴史を見事塗り替えた感すらあります。スティヴ・ハリスのドンシャリ感満載のベースも独特で、ギター3本に聴こえてしまうバンド・サウンドの分厚さも特筆すべき点でしょう。加えてこの時点のこの作品をツェッペリンやサバス、バーブル、あるいはシン・リジィやUFOといったそれまでの太物バンドと似ても似つかない独創性を。	Side A 1. ブローラー – Prowler (Harris) [3:52] 2. リメンバー・トゥモロー – Remember Tomorrow (DiAnno/Harris) [5:25] 3. ランニング・フリー – Running Free (DiAnno/Harris) [3:14] 4. オペラの怪人 – Phantom Of The Opera (Harris) [7:05]]	Side B 1. トランシルヴァニア – Transylvania (Harris) [4:06] 2. ストレンジ・ワールド – Strange World (Harris) [5:40] 3. 娼婦シャーロット – Charlotte The Harlot (Murray) [4:10] 4. 鋼鉄の処女 – Iron Maiden (Harris) [3:31]
	IRON MAIDEN	キラーズ		1981	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	81年作。アイアン・メイデンのセカンドアルバム。ますますパワー・アップ、楽曲の構成力も一気に向上。初代ヴォーカリストのポール・ディアノの最後の作品となる。スピード、メロディ、共に素晴らしい。本作の持つ熱と緊張感こそが当時の英国メタルそのものであったとする事もできるかもしれませんが。全メタル・ファン必聴の1枚です。ヴォーカリストのポール・ディアノはディアノというグループを結成し、どちらかというとハードポップへと一時方向転換するが最終的にはヘヴィメタへ戻ってくる。	Side A 1. 3月15日 – The Ides Of March – 1:46 2. ラスチャイルド – Wrathchild – 2:54 3. モルグ街の殺人 – Murders In The Rue Morgue – 4:18 4. アナザー・ライフ – Another Life – 3:22 5. ジングス・カン – Genghis Khan – 6:04 Side A 1. Sanctuary 2. Phantom Of The Opera	Side B 1. 無実の逃亡者 – Innocent Exile – 3:53 2. キラーズ – Killers (Di'Anno, Harris) – 5:01 3. 悪魔の魔法 – Prodigal Son – 6:11 4. パーガトリ – Purgatory – 3:20 5. ドリフター – Drifter – 4:48 6. 幻影のトワイライト・ゾーン – Twilight Zone – 6:04 Side B 1. Drifter 2. Women In Uniform
	IRON MAIDEN	ライヴ！！+ワン		1980	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	●12インチシングル:「アイアン・メイデン・ライヴ!!+ワン」。本作のメンバーは、スティヴ・ハリス(B)、ポール・ディアノ(Vo)、デイヴ・マーレイ(G)、クライヴ・パー(Dr)、デニス・ストラットン(G)。 1980年7月4日のロンドンのマーキークラブのライブ3曲と、スカイフックスのカバー④を収録したミニLP。本作は当初日本でのみリリースされたレア・アイテム。 ①DRIFTER 本作でしか聞けずレア曲 ②シングル「Women in Uniform」B面曲 ③シングル「Sanctuary」B面曲。④スカイフックスの原曲をパンクテイストでカバー。	Side A 1. running free 2. remember tomorrow	Side B 1. killers 2. innocent exile
	IRON MAIDEN	ヘヴィ・メタル・アーミー(ヘビーメタル軍 - 乙女日本ライブ!)		1981	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	●12インチシングル:「ヘヴィ・メタル・アーミー メイデン・イン・ジャパン!!」。メンバーは、スティヴ・ハリス(B)、ポール・ディアノ(Vo)、デイヴ・マーレイ(G)、クライヴ・パー(Dr)、デニス・ストラットン(G)。 1981年5月23日、名古屋の高成ネンキンホールで録音された4曲の12インチミニアルバム。アナログはA面①、②、B面③、④で、アルバムタイトルはティープ・バーブルの「Made in Japan」のパロディ。この公演がポール・ディアの在籍時の最後の録音物だそうです。		

	IRON MAIDEN	魔力の刻印		1982	ハード ロック& ヘヴィメ タル	レコー ド	82年作。アイアン・メイデンのサード・アルバム。ヴォーカルがサムソンのブルース・ディッキンソンが参加し、現在のメイデンの基礎が完成した大傑作。前任ヴォーカリストのポール・ディアノのバンキッシュな魅力を今だに愛する人も少なくないと思いますが、本作より現在に繋がる。NWOBHMの荒々しく疾走するイメージは、あのディアノ独特の歌唱方法が象徴していた。ただブルースの表現力が大きく楽曲の幅を広げ、特にメロディアスでドラマティックな構成が目立つ様になる事になり、メイデンこそ正統派メタルというイメージを定着させた。アルバム・タイトル曲や、「Run To The Hill」では、そして彼等の永遠のアンセムとして輝く「ハロウド・ビー・ザイ・ネーム 審判の日」等は、このバンド特有の高揚感が初めて披露され、以降のライブでの定番曲となると共に、大合唱できるスタジアム型メタルがここから始まった気がします。同時期のNWOBHMバンド、そしてそれまでのブリティッシュ・ハードとは大きく違った個性を提示、そして彼等の王道スタイルが完成した。	Side A 1. 侵略者 - Invaders (Steve Harris) [3:24] 2. 吸血鬼伝説 - Children Of The Damned (Harris) [4:35] 3. ザ・プリズナー - Prisoner (Adrian Smith, Harris)[6:03] 4. アカシア・アベニュー22 - 22 Acacia Avenue (Harris, Smith) [6:37]	Side B 1. 魔力の刻印 - The Number Of The Beast (Harris) [4:51] 2. 誇り高き戦い - Run To The Hills (Harris) [3:53] 3. 暗黒の街 - Gangland (Smith, Clive Burr)[3:48] 4. 審判の日 - Hallowed Be Thy Name (Harris) [7:12]
	IRON MAIDEN	サムホエア・イン・タイム		1986年6月29日	ハード ロック& ヘヴィメ タル	レコー ド	前作より2年振りにリリースされた6thアルバム。ギター・シンセを取り入れつつも極上のメロディと最高のスピード感が同居するメタル・サウンドを展開、アイアン・メイデンの勢いを堂々と見せつけた傑作。全英3位、全美11位を記録。1986年作品。	Side A 1. サムホエア・イン・タイム [7:25] 2. ウェイステッド・イヤーズ [5:07] 3. 帰らざる航海 - Sea Of Madness [5:41] 4. ヘヴン・キャン・ウエイト [7:21]	Side B 1. 長距離ランナーの孤独 - The Loneliness Of The Long Distance Runner [6:31] 2. ストレンジャー・イン・ア・ストレンジ・ランド [5:44] 3. デジャヴ [4:56] 4. アレキサンダー・ザ・グレイト [8:35]
	IRON MAIDEN	ベスト・オブ・ザ・ビースト		1996	ハード ロック& ヘヴィメ タル	CD		1. 魔力の刻印 Number of the beast 2. キャン・アイ・ブレイ・ウィズ・マッドネス 3. ファイア・ザ・ダーク (live) 4. 誇り高き戦い Run to the hills 5. フリング・ユア・ドーター 6. ジ・イーブル・ザット・メン・ドウ 7. 拳闘王の孤独 Aces high 8. ビー・クイック・オア・ビー・デッド 9. 悪魔の唇は唇を離れぬ A面 1. Most Anything You Want 03:42 2. Flowers and Beads 03:06 3. My Mirage 04:53 4. Termination 02:51 5. Are You Happy 04:30	10. マン・オン・ジ・エッジ 11. ヴァイラス 12. ランニング・フリー (live) 13. ウェイステッド・イヤーズ 14. 透視能力 Clairvoyant 15. 明日なき戦い Trooper 16. 審判の日 Hallowed be thy name
	IRON BUTTERFLY	ガダ・ダ・ヴィダ		1968	ロック	レコー ド	Iron Butterflyが1968年にリリースした2ndアルバム。1960年代アドランディッツ・レーベルで唯一100万枚以上を売り上げ、現在全世界で累計3,000万枚?の売り上げを誇る大名盤。'60年代オルガン・ロック／サイケ・ロックの金字塔。彼らの演奏スタイルとしてはキーボード(オルガン)主体のサウンドでThe Doorsに影響を受けているかの様です。特に1曲目の楽曲『Most Anything You Want』はThe Doorsが1967年にリリースした楽曲『Light My Fire: ハートに火をつけて』にそっくりです。(特にオルガンのメロディーラインが)そして何と言ってもメインは17分を超える大作『In-A-Gadda-Da-Vida』ですね。永遠に続く耳馴染みのあるリフをメインにドラム・ソロを始め色々なスタイルの音色が組み込まれている様は素晴らしい一言につきます。延々と繰り出される中盤の間奏はさておき、曲の骨格は、以後のブルース・ロックや、ハード・ロックと大して変わっていない。ロックの基本形はこの頃、既に出来上がっていた事が分かる。特に前半はポツポツと...音軌と離れぬように...	1. Most Anything You Want 03:42 2. Flowers and Beads 03:06 3. My Mirage 04:53 4. Termination 02:51 5. Are You Happy 04:30	B面 1. In-A-Gadda-Da-Vida インナ・ガダ・ダ・ヴィダ 17:02
	It's a Beautiful Day	イツツ・ア・ビューティフル・デイ		1969年6月	ロック	レコー ド	69年リリース。ジョージ・ハンターがデザインし、ケント・ホリスターが描いたジャケットで有名なイツツ・ア・ビューティフル・デイのファーストアルバム。"Bombay Calling"をディーブ・バーブルがバクって"Child In Time"をつくったことでも知られる。60年代後半に輩出したサンフランシスコのロックバンドで、クラシック畑出身のヴァイオリニストのデヴィッド・ラフレイムと妻でキーボード担当のリンダ・ラフレイムとともに、ボーカリストのバティ・サントスをフィーチャーしたバンド。時には優しく、また時にはアヴァンギャルドに展開されるロックサウンドは、人期は異彩を放つものだった。かれらの代表作「ホワイト・バード」が収められたこのデビューアルバムは、シスコロックの名盤、輝きに満ちた頃のウエストコーストサウンド、サニー・カリフォルニアに吹く優しい風、ウッドストックから心を込めて伝わってくる味わい深いサウンド	Side A 1. ホワイト・バード 2. ホット・サマー・デイ 3. ウェイステッド・ユニオン・ブルース 4. ガール・ウィズ・ノー・アイズ	Side B 1. ボンベイ・コーリング 2. ブルガリア 3. タイム・イズ